岐阜県文化財保護センター調査報告書　第64集

戸入村平遺跡 II
小谷戸遺跡

第10号住居跡出土土器

2000

財団法人　岐阜県文化財保護センター

岐阜県文化財保護センター調査報告書　第64集

戸入村平遺跡 II
小谷戸遺跡

第11号住居跡にともなう出土土器

2000

財団法人　岐阜県文化財保護センター

戸入村平遺跡II　出土土器

序

美濃地方の北西部に位置する徳山は、縄文時代から室町・江戸時代に至るまで、数多くの歴史の足跡が残された地区です。その地に徳山ダムが建設されることになり、この村のほとんどが水没することになりました。このため、水資源開発公団の委託を受け、昭和61年度から岐阜県教育委員会が発掘調査に着手し、平成３年度からは財団法人岐阜県文化財保護センターが継続して発掘調査を行っています。この発掘調査は、はや十数年を数え、徳山の縄文から中世にかけて、多くのことが解明されてきました。縄文時代においては、北陸・東海のみならず、西日本と東日本の接点として、南北朝時代では南朝と北朝の、戦国時代では朝倉と織田の狭間にあって、重要な地域であったことが再確認されようとしています。

本報告書は、平成10年度に実施した戸入村平遺跡と小谷戸遺跡の発掘調査結果をまとめたものです。前者は昭和63年度～平成元年度にかけて調査した箇所の北側の部分で、今回の調査では、縄文時代中期の住居跡を10軒、後期の竪穴状遺構を１、埋甕・埋設土器を５基検出しました。その他、中期中葉～後期初頭の大きな土器片が大量に出土し、前回の調査結果とも合わせて、縄文時代中・後期の戸入地区の様相を知る上で貴重な資料を得ることができました。また、後者では、縄文時代早期の集石遺構が１基確認され、すぐ西にある同時期の小の原遺跡との関連が予想されます。

最後になりましたが、発掘調査及び出土品の整理・報告書の作成に際しまして、御指導・御協力を賜りました各位ならびに関係諸機関に厚くお礼申し上げますとともに、発掘調査、整理作業に携わって下さった多くの方々に深く感謝申し上げます。

平成12年12月

(財)岐阜県文化財保護センター

理事長　服　部　卓　郎

例　　言

1．本書は、岐阜県揖斐郡藤橋村大字戸入字村ノ内に所在する戸入村平遺跡（岐阜県遺跡番号21407－06372）と小谷戸遺跡（岐阜県遺跡番号21407－08720）の発掘調査報告書である。

2．本調査は、徳山ダム建設事業に伴うもので、水資源開発公団から岐阜県が委託を受け、岐阜県文化財保護センターが実施した。

3．発掘調査は、戸入村平遺跡・小谷戸遺跡ともに平成10年度に実施し、泉拓良奈良大学教授の指導のもと、坂東肇・阿部昌史が担当した。

4．整理作業は、平成10年度１月～３月は、坂東肇と青木健太郎、そして平成11年度は坂東肇が担当した。

5．本書の執筆は、遺構・土器については坂東肇、石器については青木健太郎、古代以降の遺物については小野木学が担当し、全体の編集は坂東肇が行った。

6．遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。

7．事前の地形測量は、株式会社イビソクに委託して行った。

8．赤色顔料の分析、炭化材の樹種同定は、株式会社パレオ・ラボに委託して行った。

9．発掘調査および報告書の作成にあたって、次の方々や諸機関から御助言・御指導をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。（敬称略・五十音順）
岡田憲一・木下哲夫・小杉康・小谷和彦・小林達雄・白川綾・千藤克彦・高橋健太郎・竹中一秋・冨井眞・中井均・野口哲也・山本孝一・藤橋村教育委員会・久瀬村教育委員会・揖斐川町教育委員会・揖斐川町歴史民俗資料館・揖斐県事務所・西濃教育事務所

10．本文中の方位は、国土座標第Ⅶ系の座標北を示している。

11．土および土器類の色調は、「新版標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修）による。

12．調査記録および出土品は、財団法人岐阜県文化財保護センターで保管している。

目　　次

序
例言
目次
　図版目次・挿図目次・表目次
第1章　調査の経緯
　第1節　調査に至る経緯……1
　第2節　発掘調査の経緯……2
第2章　遺跡の環境(縄文時代の戸入地区の様相)……6
第3章　基本層序……8
第4章　縄文時代の遺構と遺物
　第1節　概略……10
　第2節　Ⅲ層上面における検出遺構……12
　第3節　Ⅳ層上面における検出遺構……26
　第4節　土器類
　　1．縄文時代の土器の分類について……53
　　2．遺構から出土した土器……60
　　3．遺構外から出土した土器……103
　　4．土製品……127
　第5節　石器
　　1．石器の概要……135
　　2．遺構から出土した石器……135
　　3．器種ごとの分類……155
第5章　古代以降の出土遺物
　第1節　土器・陶磁器類……195
　第2節　銭貨……202
第6章　自然科学分析
　第1節　土器塗布赤色顔料の蛍光X線分析……211
　第2節　放射性炭素年代測定……213
　第3節　戸入村平遺跡Ⅱ出土炭化材の樹種同定……214
第7章　まとめと考察
　第1節　縄文時代の遺構について……217
　第2節　縄文時代の土器について……219
　第3節　石器群について……223
　第4節　中世出土遺物について……224
第8章　小谷戸遺跡
　第1節　基本層序……226
　第2節　遺構……226
　第3節　縄文土器……229
　第4節　石器……231
　第5節　小谷戸遺跡のまとめ……233
引用・参考文献……235
図版……237

図　版　目　次

図版０　戸入村平遺跡Ⅱ全景（北上空より）
図版１　戸入村平遺跡Ⅱ調査前風景・第９、10号住居跡
図版２　第11、12号住居跡
図版３　第13、14、15号住居跡
図版４　第16、17、18号住居跡
図版５　竪穴状遺構・土坑
図版６　埋設土器・小谷戸遺跡調査前風景
図版７　第10、11、12号住居跡出土土器
図版８　第11、12、14、15号住居跡出土土器
図版９　第17、18号住居跡、ＳＺ04出土土器
図版10　ＳＺ03、ＳＺ04、ＳＺ05出土土器、底部
図版11　第９号住居跡出土土器
図版12　第９、10号住居跡出土土器
図版13　第10、11号住居跡出土土器
図版14　第11号住居跡出土土器
図版15　第12号住居跡床面出土土器
図版16　第12号住居跡出土土器(2)
図版17　第12号住居跡出土土器(3)
図版18　第12・13号住居跡出土土器
図版19　ピット１・２、ＳＫ１出土土器
図版20　ＳＫ２出土土器
図版21　第14号住居跡出土土器(1)
図版22　第14号住居跡出土土器(2)
図版23　第14、15号住居跡出土土器
図版24　第15、16号住居跡出土土器
図版25　第16号住居跡出土土器
図版26　第18号住居跡炉内出土土器
図版27　第17、18号住居跡出土土器(1)
図版28　第17、18号住居跡出土土器(2)
図版29　第17、18号住居跡出土土器(3)
図版30　竪穴状遺構・ＳＫ200出土土器
図版31　ＳＫ207、３、50、51、156出土土器
図版32　その他の土坑・ピット出土土器
図版33　遺構外出土土器(1)早期・前期・Ｃ１群
図版34　遺構外出土土器(2)Ｃ１、Ｃ２群
図版35　遺構外出土土器(3)Ｃ２、Ｃ３群
図版36　遺構外出土土器(4)Ｃ３、Ｃ４、Ｃ５群
図版37　遺構外出土土器(5)Ｃ５、Ｃ６群
図版38　遺構外出土土器(6)Ｃ６、Ｃ７群
図版39　遺構外出土土器(7)Ｃ８、Ｃ９群
図版40　遺構外出土土器(8)Ｃ９、Ｃ10群
図版41　遺構外出土土器(9)Ｃ10、Ｃ11群
図版42　遺構外出土土器(10)Ｃ11群
図版43　遺構外出土土器(11)Ｃ11、Ｃ12群
図版44　遺構外出土土器(12)Ｃ13、Ｃ14群
図版45　遺構外出土土器(13)後期１
図版46　遺構外出土土器(14)後期２
図版47　遺構外出土土器(15)晩期１
図版48　遺構外出土土器(16)晩期２、土製品
図版49　第９号住居跡出土石器
図版50　第10、11号住居跡出土石器
図版51　第12、13号住居跡出土石器
図版52　第12号住居跡出土石器
図版53　第14号住居跡出土石器
図版54　第16号住居跡出土石器
図版55　第17、18号住居跡、ＳＫ１出土石器
図版56　ＳＫ２、ＳＫ207出土石器
図版57　その他の遺構出土石器(1)
図版58　その他の遺構出土石器(2)
図版59　遺構外出土石器(1)
図版60　遺構外出土石器(2)
図版61　遺構外出土石器(3)
図版62　遺構外出土石器(4)
図版63　遺構外出土石器(5)
図版64　小谷戸遺跡出土石器・土器
図版65　古代以降の出土土器・陶磁器類(1)
図版66　古代以降の出土土器・陶磁器類(2)
図版67　古代以降の出土土器・陶磁器類(3)
図版68　古代以降の出土土器・陶磁器類(4)
図版69　古代以降の出土土器・陶磁器類(5)
図版70　戸入村平遺跡Ⅱ出土炭化材樹種

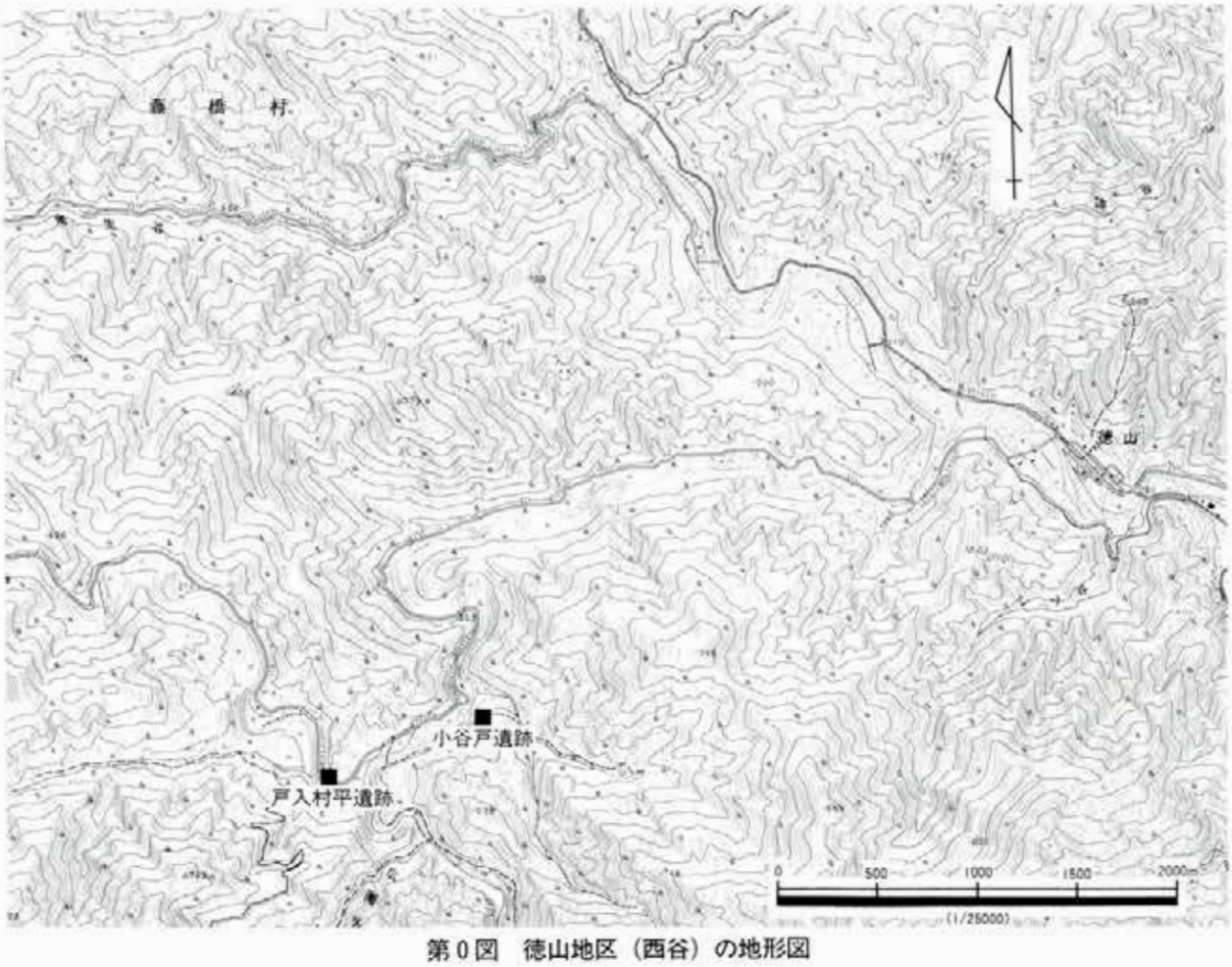
挿　図　目　次

第０図　徳山地区（西谷）の地形図
第１図　小谷戸遺跡周辺地形図 …… 2
第２図　戸入村平遺跡Ⅱ周辺地形図 …… 3
第３図　グリッド設定図 …… 5
第４図　戸入３遺跡周辺の地形図 …… 7
第５図　トレンチ位置図 …… 8
第６図　遺跡土層断面図 …… 9
第７図　Ⅲ層・Ⅳ層上面遺構配置図 …… 11
第８図　Ⅲ層上面遺構配置図 …… 13
第９図　第９号住居跡（ＳＢ９） …… 14
第10図　第９号住居跡石囲炉 …… 15
第11図　第10号住居跡石囲炉 …… 16
第12図　第10号住居跡（ＳＢ10） …… 17
第13図　第11号住居跡石囲炉 …… 18
第14図　第11号住居跡（ＳＢ11） …… 19
第15図　第12号住居跡埋甕 …… 20
第16図　第12号住居跡（ＳＢ12） …… 21
第17図　第12号住居跡床面の土器出土状況 …… 22
第18図　第12号住居跡覆土の土器集中区 …… 23
第19図　ピット１・２ …… 24
第20図　Ⅲ層上面土器集中区（ＳＫ１） …… 24
第21図　Ⅲ層上面土器集中区（ＳＫ２） …… 25
第22図　遺跡内等高線図 …… 27
第23図　Ⅳ層上面遺構配置図 …… 26
第24図　第13号住居跡石囲炉 …… 28
第25図　第13号住居跡（ＳＢ13） …… 29
第26図　第14号住居跡石組み遺構 …… 30
第27図　第14号住居跡（ＳＢ14） …… 31
第28図　第14号住居跡上層Ⅰ図 …… 32
第29図　第14号住居跡上層Ⅱ図 …… 33
第30図　第15号住居跡土器集中区 …… 34
第31図　第15号住居跡（ＳＢ15） …… 35
第32図　第16号住居跡石囲炉 …… 36
第33図　第16号住居跡（ＳＢ16） …… 37
第34図　ＳＢ16立石をともなう遺構（ＳＫ102） …… 38
第35図　第17・18号住居跡（ＳＢ17、ＳＢ18） …… 39

第36図　ＳＢ17地床炉・埋甕・ＳＢ18土器敷き石囲炉 ……41
第37図　ＳＢ17・ＳＢ18付近土器集中区Ａ(ＳＫ199)Ｂ(k25) ……42
第38図　竪穴状遺構周辺図 ……43
第39図　東部土坑群 ……44
第40図　立石をともなう土坑(ＳＫ50、ＳＫ156) ……45
第41図　立石をともなう土坑(ＳＫ51) ……46
第42図　埋設土器(ＳＺ04) ……47
第43図　埋設土器(ＳＺ03、ＳＺ05) ……48
第44図　第９号住居跡出土土器 ……61
第45図　第10号住居跡出土土器(1) ……62
第46図　第10号住居跡出土土器(2) ……63
第47図　第10号住居跡出土土器(3) ……64
第48図　第11号住居跡出土土器(1) ……66
第49図　第11号住居跡出土土器(2) ……67
第50図　第11号住居跡出土土器(3) ……68
第51図　第12号住居跡埋甕・床直上出土土器 ……70
第52図　第12号住居跡出土土器(2) ……71
第53図　第12号住居跡出土土器(3) ……73
第54図　第12号住居跡出土土器(4) ……74
第55図　第12号住居跡出土土器(5) ……75
第56図　ピット１・２出土土器 ……76
第57図　ＳＫ１、ＳＫ２出土土器 ……77
第58図　ＳＫ２出土土器 ……79
第59図　第13号住居跡出土土器 ……80
第60図　第14号住居跡出土土器(1) ……82
第61図　第14号住居跡出土土器(2) ……83
第62図　第14号住居跡出土土器(3) ……84
第63図　第15号住居跡出土土器(1) ……85
第64図　第15号住居跡出土土器(2) ……86
第65図　第16号住居跡出土土器 ……87
第66図　第17号住居跡炉付近貼り付け土器 ……89
第67図　第17、18号住居跡出土土器(1) ……90
第68図　第17、18号住居跡出土土器(2) ……91
第69図　土器集中区Ａ出土土器(1) ……93
第70図　土器集中区Ａ出土土器(2) ……94
第71図　土器集中区Ｂ出土土器 ……95
第72図　竪穴状遺構(ＳＸ1)・ＳＫ200・ＳＫ207・ＳＫ３土器 ……97
第73図　ＳＺ04・ＳＺ03・ＳＫ50出土土器 ……98
第74図　ＳＺ03・ＳＫ51・ＳＫ156・その他の土坑・ピット出土土器 …100
第75図　ＳＺ05・その他の土坑・ピット ……101
第76図　遺構外出土土器(1)早・前期 ……103
第77図　遺構外出土土器(2)Ｃ１群 ……105
第78図　遺構外出土土器(3)Ｃ２群 ……106
第79図　遺構外出土土器(4)Ｃ２群 ……107
第80図　遺構外出土土器(5)Ｃ３群 ……108
第81図　遺構外出土土器(6)Ｃ４．Ｃ５群 ……110
第82図　遺構外出土土器(7)Ｃ６群 ……111
第83図　遺構外出土土器(8)Ｃ６、Ｃ７群 ……112
第84図　遺構外出土土器(9)Ｃ８群 ……113
第85図　遺構外出土土器(10)Ｃ９群 ……115
第86図　遺構外出土土器(11)Ｃ10群 ……116
第87図　遺構外出土土器(12)Ｃ11群 ……118
第88図　遺構外出土土器(13)Ｃ11群 ……119
第89図　遺構外出土土器(14)Ｃ12．Ｃ13群 ……120
第90図　遺構外出土土器(15)Ｃ14群 ……121
第91図　遺構外出土土器(16)後期１ ……123
第92図　遺構外出土土器(17)後期２ ……124
第93図　遺構外出土土器(18)晩期 ……125
第94図　土製品 ……127
第95図　石器の出土点数による器種別組成 ……135
第96図　第９号住居跡(ＳＢ９)出土石器(1) ……137
第97図　第９号住居跡(ＳＢ９)出土石器(2) ……138
第98図　第10号住居跡(ＳＢ10)出土石器 ……139
第99図　第11号住居跡(ＳＢ11)出土石器 ……140
第100図　第12号住居跡(ＳＢ12)出土石器(1) ……141
第101図　第12号住居跡(ＳＢ12)出土石器(2) ……142
第102図　第12号住居跡(ＳＢ12)出土石器(3) ……143
第103図　第13号住居跡(ＳＢ13)出土石器 ……144
第104図　第14号住居跡(ＳＢ14)出土石器(1) ……145
第105図　第14号住居跡(ＳＢ14)出土石器(2) ……146
第106図　第16号住居跡(ＳＢ16)出土石器(1) ……147
第107図　第16号住居跡(ＳＢ16)出土石器(2) ……148
第108図　第17、18号住居跡(ＳＢ17、18)出土石器 ……149
第109図　ＳＫ１出土石器 ……150
第110図　ＳＫ２出土石器 ……150
第111図　ＳＫ207出土石器 ……151
第112図　その他の遺構内出土石器(1) ……152
第113図　その他の遺構内出土石器(2) ……153
第114図　その他の遺構内出土石器(3) ……154
第115図　石鏃の分類 ……155
第116図　打製石斧の折損の部位による分類 ……158
第117図　磨製石斧の折損の部位による分類 ……158
第118図　打欠石錘質量分布 ……160
第119図　切目石錘質量分布 ……160
第120図　凹石の分類 ……161
第121図　磨石の分類 ……163
第122図　遺構外出土石器(1) ……166
第123図　遺構外出土石器(2) ……167
第124図　遺構外出土石器(3) ……168
第125図　遺構外出土石器(4) ……169
第126図　遺構外出土石器(5) ……170
第127図　遺構外出土石器(6) ……171
第128図　遺構外出土石器(7) ……172
第129図　遺構外出土石器(8) ……173
第130図　遺構外出土石器(9) ……174
第131図　遺構外出土石器(10) ……175
第132図　遺構外出土石器(11) ……176
第133図　凹石・磨石・敲石・叩石の観察面の位置 ……193
第134図　古代以降の出土土器・陶磁器(1) ……196
第135図　古代以降の出土土器・陶磁器(2) ……197
第136図　古代以降の出土土器・陶磁器(3) ……198
第137図　古代以降の出土土器・陶磁器(4) ……199
第138図　古代以降の出土土器・陶磁器(5) ……200
第139図　古代以降の出土土器・陶磁器(6) ……201
第140図　出土銭貨 ……202
第141図　各土器外側表面に塗布された赤色顔料の蛍光Ｘ線スペクトル図 ……212
第142図　赤色顔料の同定を行った土器 ……213
第143図　グリッド別出土土器数(中期・後期・晩期) ……218
第144図　グリッド別全出土土器数・時期別出土割合 ……219
第145図　戸入村平遺跡遺構配置図(全) ……221
第146図　石材別質量比 ……223
第147図　小谷戸遺跡トレンチ等位置図 ……227
第148図　小谷戸遺跡土層断面図 ……228
第149図　小谷戸遺跡集石遺構 ……230
第150図　小谷戸遺跡出土土器 ……230
第151図　小谷戸遺跡出土石器(1) ……232
第152図　小谷戸遺跡出土石器(2) ……233

表　目　次

第１表　縄文時代の土坑（ＳＫ）一覧表 ……49、50
第２表　縄文時代のピット一覧表 ……51、52
第３表　出土土器一覧表 ……56～59
第４表　戸入村平遺跡Ⅱ土製円盤計測・観察表 ……128
第５表　縄文土器観察表(1)～(12) ……129～134
第６表　戸入村平遺跡Ⅱ出土石器一覧表 ……136
第７表　凹石の分類別出土点数 ……162
第８表　凹石の表裏面の凹みの組み合わせ ……162
第９表　石鏃計測・観察表(1)～(5) ……177～179
第10表　石錐計測・観察表(1)(2) ……179
第11表　石匙計測・観察表 ……180
第12表　掻器計測・観察表 ……180
第13表　削器計測・観察表(1)～(3) ……180～181
第14表　ピエス・エスキーユ計測・観察表(1)(2) ……181
第15表　ヘラ形石器計測表 ……181
第16表　打製石斧計測・観察表(1)～(3) ……181～182
第17表　磨製石斧計測・観察表 ……182
第18表　石核計測表 ……183
第19表　二次加工のある剥片計測表 ……183
第20表　使用痕のある剥片計測表 ……183
第21表　剥片類計測表 ……183
第22表　未製品計測表 ……183
第23表　打欠石錘計測・観察表(1)～(6) ……183～185
第24表　切目石錘計測・観察表(1)～(14) ……185～192
第25表　磨石・凹石・叩石・敲石計測・観察表(1)～(4) ……192～193
第26表　石皿計測・観察表 ……194
第27表　砥石計測表 ……194
第28表　石棒計測表 ……194
第29表　石刀計測表 ……194
第30表　鈎形石製品計測表 ……194
第31表　円盤状石製品計測表 ……194
第32表　石製品類計測表 ……194
第33表　異形石器計測表 ……194
第34表　粗製礫器計測表 ……194
第35表　土器・陶磁器観察表(1)～(8) ……203～210
第36表　銭貨観察表 ……210
第37表　放射性炭素年代測定結果 ……214
第38表　出土炭化材の樹種同定結果 ……215
第39表　時期別出土量の推移（中世） ……224
第40表　器種別組成（中世） ……224
第41表　用途別組成（中世） ……224
第42表　小谷戸遺跡出土縄文土器観察表 ……234
第43表　小谷戸遺跡出土石器計測表 ……234



第０図　徳山地区（西谷）の地形図

第１章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

昭和32年(1957)、電源開発株式会社は、発電を主目的に徳山ダム建設計画を発表した。その後、昭和48年（1973）３月、木曽川水系の水資源開発基本計画の変更により、この事業は、水資源開発公団が実施することになった。

徳山ダムは、流水の正常な機能の維持、水道水および工業用水の供給、ならびに発電を目的として建設する多目的ダムで、貯水容量は６億６千万㎥、堤高は161mである。ダム建設により、洪水満水位水没線は、海抜401mとなり、旧徳山村のほぼ全戸が水没（門入地区だけが水没からまぬがれる）し、旧徳山村内の埋蔵文化財の殆どがダム湖底に沈むことになった。

このため、昭和58年(1983)10月12日に、水資源開発公団徳山ダム建設所長より遺跡の分布調査の依頼が岐阜県教育委員会にあった。これを受けて岐阜県教育委員会は、昭和59年(1984)10月２日から11月17日にかけて、文化庁の昭和59年度国庫補助事業として分布調査を実施した。そして昭和60年（1985）３月には、この調査に基づき、『揖斐川上流域徳山ダム・杉原ダム水没地区埋蔵文化財分布調査報告書』を発刊した。さらに、同年５月９日、水資源開発公団徳山ダム建設所において、徳山ダム水没地区内埋蔵文化財発掘調査計画のための打ち合わせを行い、夏から秋にかけて、発掘調査計画策定のため岐阜県文化財保護審議会委員（当時信州大学教授）の故大参義一氏の指導のもとに、数回にわたる現地調査を実施した。この調査結果に基づき、昭和61年(1986)３月17日、徳山ダム水没地区埋蔵文化財発掘調査計画書を水資源開発公団に提出した。

昭和61年４月７日、水資源開発公団から岐阜県に対し、昭和61年度の発掘調査実施の依頼があり、岐阜県教育委員会は、「はいづめ遺跡」の本発掘調査を行った。

昭和62年(1987)３月27日、計画書の一部手直しを行い、水資源開発公団と岐阜県の間で「徳山ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定」を締結した。岐阜県教育委員会では、この協定書に基づき、昭和62年度から発掘調査を実施することになった。

前回調査が行われた「戸入村平遺跡」は、協定書に基づき、昭和63年度（1988）と平成元年度（1989）の発掘調査計画書により実施された。昭和63年度に800㎡、平成元年度に1505㎡の、合わせて2305㎡を発掘調査した。

平成３年(1991)４月１日、財団法人岐阜県文化財保護センターが発足し、水資源開発公団から岐阜県が受託した発掘調査は、財団法人岐阜県文化財保護センターが実施することになった。

平成10年度は、「戸入村平遺跡」(発掘当時は「戸入村ノ内遺跡」という名称であったが、調査の結果、遺構のつながりなどから、同じ遺跡であることが確認され、「戸入村平遺跡」の名称に変更した。)と「小谷戸遺跡」の発掘調査を実施した。調査面積は、「戸入村平遺跡」は1500㎡、「小谷戸遺跡」は2344㎡である。

第2節　発掘調査の経緯

「小谷戸遺跡」は、旧戸入集落から西谷を約600m下った右岸の高地に位置する。揖斐川支流西谷川と小谷の合流点に形成された舌状台地の北西部、標高380～400m付近にあり、同じ台地のさらに南東部の標高402m付近には上原（うえはら）遺跡がある。この台地は、近現代の改田により、石垣などにより幾つかの平坦地に区切られ、水田や畑地に利用されてきた。この石垣は、場所によっては3～5mに達するところもあり、削平や盛土を繰り返し、利用されてきたことがわかる。遺物の散布は、全体的に少量で、その多くは、上原遺跡からの流れ込みとも考えられる。

平成6年度の確認調査では、縄文土器約40点、石器・フレイク約30点などの遺物とともに、集石遺構を検出した。

平成10年度の調査範囲は、398m付近の水田跡地の第一地点、380～385m付近の畑跡地の第二地点、合わせて2344㎡である。調査方法は、トレンチ調査により遺物の分布範囲を確認し、遺構や遺物の多寡を調べた上で面的に広げる方法をとった。グリッドは、磁北に合わせて基線を設定し、4m単位とした。北西端を基点に、南方向にAからアルファベットの大文字を、東方向に1からアラビア数字を順次付し、グリッドの北西のコーナー杭にグリッド名を記した。

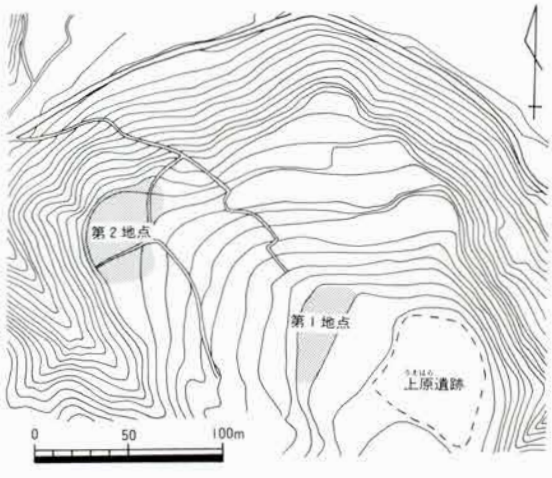
発掘調査は、当初の予定では、5月の上旬に開始する予定であったが、大雨による仮設の橋の流失等のため、実際に調査に入れたのは6月1日であった。第一地点、第二地点ともに重機で表土を剥ぎ、第一地点では、東西に2本、南北に1本、第二地点では、東西2本、南北3本のトレンチを入れた。両地点ともにトレンチの遺物を調べたところ、第一地点では、遺物はわずか数点、第二地点では、TP7の集石遺構付近に少量ながら遺物が集中し、その他の場所で遺物はみられなかった。従って、第一地点では、トレンチのみの調査とし、第二地点では、集石遺構を中心とする約10m四方を全面掘削とし、それ以外はトレンチ調査とした。

調査区は、山の中腹にあるため毎日、急斜面を70m程登らなくてはならず、雨天の後などは困難をきわめた。よって、調査は、6月上旬に集中して行い、中旬以降は天候をみながら戸入村平遺跡の調査と並行して行った。遺構は、第二地点の集石遺構のみで、調査は遺構とともに、その周辺部を広げる形で行い、6月30日に終了した。

「戸入村平遺跡」は、旧徳山村戸入集落の西端に位置する。廃村から1年を経た昭和63年～平成元年に、村道より南側2305㎡の調査を行った。

そして平成10年に、村道下も含めて北側1500㎡の調査を行った。

調査方法は、グリッドを設定し、全面発掘した。グリッドは磁北に合わせて基線を設定し、4m単位とした。1回目の調査に合わせて、北西端を基点にx、y、z、A、B…とアルファベットを、東西方



第1図　小谷戸遺跡周辺地形図

向には、西から１、２、３…とアラビア数字を順次付し、グリッドの北東のコーナー杭にグリッド名を記した。

調査範囲の村道の北側の多くは移転時のごみ穴となっており、表土付近には礫まじりの土砂がかけてあった。よって、トレンチを５本入れ、ごみ穴等に利用された範囲や表面の攪乱された層の厚さを確認し、攪乱の激しい部分の多くは重機で除去した。また、村道のアスファルト舗装の部分は、全面重機で除去した。その後の掘削は、全て人力で実施した。

遺物の取り上げは、全体の進行状況を考え、遺構外のものはグリッド単位の層序別で一括して取り上げた。遺構のものは、平面分布とレベルを記録して取り上げるもの、遺構内の層位別に取り上げるもの、遺構で一括して取り上げるものの３種の方法を使い分けた。

土層セクション図のほか、遺構の平面図・断面図・エレベーション図などは、必要に応じて実測し、写真の記録をとった。なお、土坑・ピットについて、その多くは平面図と観察記録の作成のみに留めた。発掘調査区全体の遺構プラン図作成及び写真の撮影は、模型ラジコンヘリコプターを使用しての空中写真測量によって実施した。

以下、週毎の発掘調査経過について記述する。

第１週（５.25～５.29）小谷戸遺跡の発掘準備。戸入村平遺跡の東部に現場事務所の設営及び調査機材の搬入。仮設の橋及び小谷戸の調査区までの道の設営。

第２週（６.１～６.５）小谷戸遺跡の第１地点、第２地点の表土掘削。４日に調査区画杭の設置（㈱イビソクに委託）５日に、第１地点に３本のトレンチを入れ、発掘作業員が、トレンチ内の遺物を確認する。遺物は、全部で数点。

第３週（６.８～６.12）第１地点トレンチの遺物確認、トレンチの土層実測。第２地点の表土掘削とともに、井桁状に５本のトレンチを入れ、トレンチ内の遺物確認。第２地点の中央部で集石を検出。この周辺10m四方を面的に広げ遺構検出作業を行うが、集石以外の遺構は検出されなかった。

第４週（６.15～６.19）この週より、小谷戸遺跡と戸入村平遺跡を２班体制で調査を行う。小谷戸遺跡は、第２地点のトレンチ土層の実測、集石の半割。戸入村平遺跡は、山側のII層掘削作業。南側の道路部分の表面のコンクリートを重機ではがす作業。

＊　（６.22～６.26）雨天のため作業休止

第５週（６.29～７.３）小谷戸遺跡、第２地点の集石の実測。30日小谷戸の遺構、遺跡全体の写真撮影をして調査終了。戸入村平遺跡は、II層掘削作業。１日Ａ５区より、炉跡検出。炉北の道路下でないIII層未掘削地域からプランを検出する。

第６週（７.６～７.10）６日Ｂ７区で、土器集中区を検出。８日ｘ３区で、土器集中区（S

第２図　戸入村平遺跡II周辺地形

K1）を検出。

第7週（7.13～7.17）Ⅲ層上部で掘削作業。15日道路面下は、重機でコンクリートをはずしたため、道路部分は北部より10cm程度低くなっていたため、まず北部も道路下面に合わせて掘削作業をする。

第8週（7.20～7.24）21日SB9の住居跡想定内で精査し、ピットの検出。22日B8区で土器集中区（SK⑧）を検出。

第9週（7.27～7.31）z4～6、A7～8の掘削作業。

第10週（8.3～8.7）6日SB9の実測。A7～9、C9～12の掘削作業。

＊　（8.10～8.14）作業休止

第11週（8.17～8.21）A7、B8区付近により黒い黒褐色土の広がりが見られ、住居跡の可能性が予想された。

第12週（8.24～8.28）B9～12の掘削作業。26日SK1を半割して実測。SB17付近、道路南の遺構検出作業。SZ01（SB17の埋甕）の検出。

第13週（8.31～9.4）1日A7、B8区付近で、SB10、11を検出。4日z5区で、SB12を検出。

第14週（9.7～9.11）7日SB10、11の実測。SB12は、4分割して床面まで下げる。
9日奈良大学泉拓良教授による調査指導。10日SB10、11の炉の実測の後、掘り下げる。

第15週（9.14～9.18）14日SB12の実測。17日Bトレンチ東を地山付近まで掘削。B9区付近の地山に近い面から、SB13を検出。

＊　（9.21～10.2）台風7号の暴風雨により、横山ダム東の山腹が崩落して通行止め。2週間、作業休止。

第16週（10.5～10.9）5日作業再開。塚奥山遺跡の調査が休止となったため、その作業員を加えて作業を行う。B～F、12～16区に入り掘削作業を行う。土器は、ほとんど検出されず。6日SB13の床面まで掘り下げ、精査。8日C7区付近で住居跡を検出。（SB14）C11区付近で住居跡を検出。（SB15）9日A4区付近で、住居跡を検出。（SB16）

第17週（10.12～10.16）12日SB12の実測が終了し、掘り下げる。SB13のピット等、検出。
14日揖斐川整理所にて、國學院大學小林達雄教授による調査指導。16日台風再度来襲。

＊　（10.19～10.23）台風の暴風雨により、ダム付近と下開田付近の道路が崩落して通行止め。作業休止（10.19～10.27）。調査員は、根尾回りで調査区に入り、実測作業。

第18週（10.28～10.30）28日作業再開。一部水没したため、復旧に1日かかる。29日西部の土坑群の遺構検出作業。

第19週（11.2～11.6）2日SB13、SB15の実測。4日SB14を精査し、ピット等の検出。焼けた石や焼土、炭化物が各所で検出される。

第20週（11.9～11.13）9日SB16を精査して、ピット等の検出。13日SB14、16の実測作業。

第21週（11.16～11.20）16日航空測量（㈱イビソクに委託）19日SB13、16、17付近道路西（SB18）の炉を半割。20日積雪が10cm程度あり、作業休止。

第22週（11.24～11.27）24日作業再開。遺構の実測作業。

第23週（11.30）30日作業終了（12月16日に残務終了、現場事務所撤去）

〈調査体制〉

調査部部長　山元敏治　　調査部次長　高橋幸仁

調査一課課長　柘植卓伸　　調査担当者　坂東肇・阿部昌史

発掘作業員名（敬称略・五十音順）

池田満子・石原公子・泉武光・泉利子・今井敏隆・今村昭吾・今村昭夫・岩井弘子・岩井正夫・岩田郁夫・梅本みつゑ・江口はる子・江口もと・小倉富恵・小倉ふみ子・勝野千佳子・加藤あきゑ・加藤きよ子・加藤淳・金指とめの・川口ふじゑ・倉地幸子・小玉春子・小寺清子・小寺ひさゑ・小寺正輝・小西直政・小西きよ子・小西政治郎・小西かの・佐島みさを・清水おぎの・清水久雄・杉島利秋・杉島寛之・杉山利子・清生スミ子・扇間重男・高橋あきゑ・高橋いちの・高橋勝美・高橋鈴子・高橋戸佐男・高橋つや・高橋春枝・高橋政雄・高橋ミツ子・高橋みね・高橋実・高橋文子・竹中ももゑ・竹中よしの・丹度芳子・土屋重義・中井しづゑ・中石たけ・中川つる・中川操・成瀬又勇・二村久美子・野田タツ子・野原明・橋本義治・早野よさを・前田晶・増田昭治・増元幸雄・増元文子・増元なつゑ・増元みち・松岡正夫・松田智恵子・真鍋由美・村山みつ子・森たかゑ・森本勉・山北満・山本きみの・渡辺あきゑ

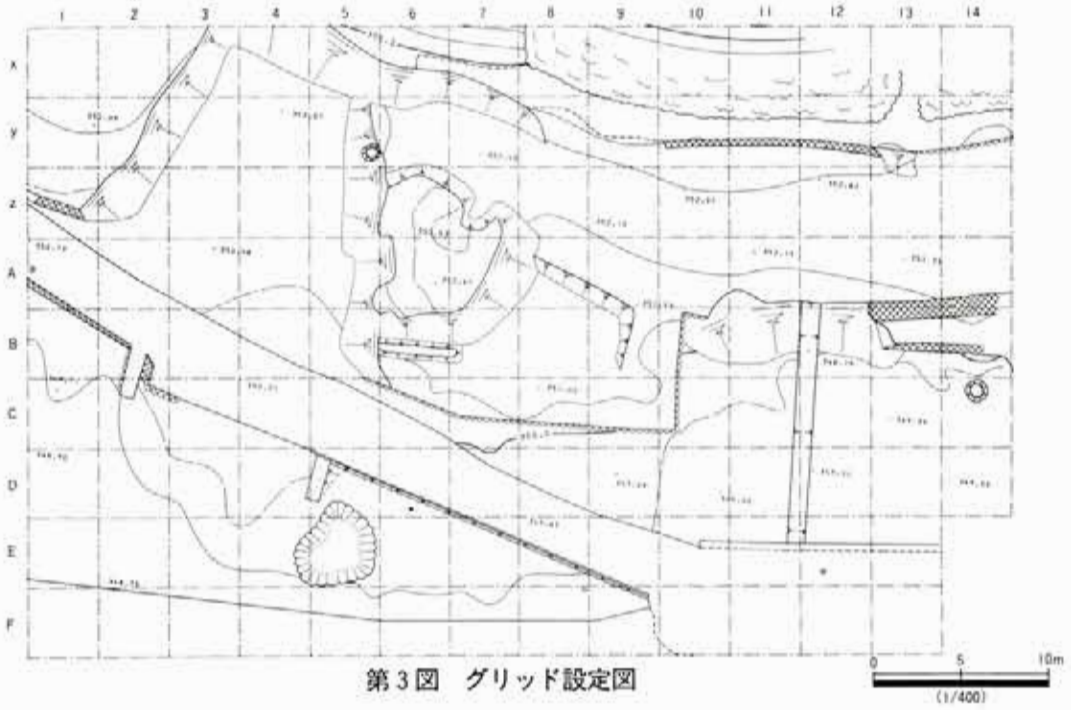
整理作業員名（敬称略・五十音順）

〈一次整理・H．10年度〉

粟野由美子・江口陽子・小西清美・小西尚美・小西真由美・小林孝美・関晶子・宗宮登美子・宗宮朋子・高橋郷美・竹中栄子・長柄励子・橋本法子・林美枝・林睦

〈二次整理・H．11年度〉

石原美帆・市橋美栄・北洞利幸・小松博子・五島幸司・高木優子・高嶌桂子・竹中栄子・広瀬みどり



第3図　グリッド設定図

第2章　遺跡の環境（縄文時代の戸入地区の様相）

戸入村平遺跡は、揖斐郡藤橋村大字戸入字村ノ内に所在し、揖斐川支流の西谷川の左岸段丘上の旧戸入集落の西部に位置する。昭和63年～平成元年にかけて発掘調査が行われた調査区の北部隣接地域である。よって、徳山地区全体の自然環境や歴史環境は徳山ダム水没地区埋蔵文化財発掘調査報告書第4集『戸入村平遺跡』(1994) にゆずることとし、本稿では、戸入地区の縄文3遺跡にかかわる縄文時代の様相についてみていく。

戸入地区には、西谷川をはさんで小の原遺跡、戸入村平遺跡、はいづめ遺跡という3つの代表的な遺跡がある。いずれも河岸段丘上にあり、小の原遺跡とはいづめ遺跡は西谷川右岸で、戸入村平遺跡は左岸にある。標高は、前者2遺跡が353～358m、後者が348m前後である。ここで注目すべきことは、これら3つの遺跡で、戸入の縄文時代が完結するということである。ではこの3遺跡を順にみていくことにする。

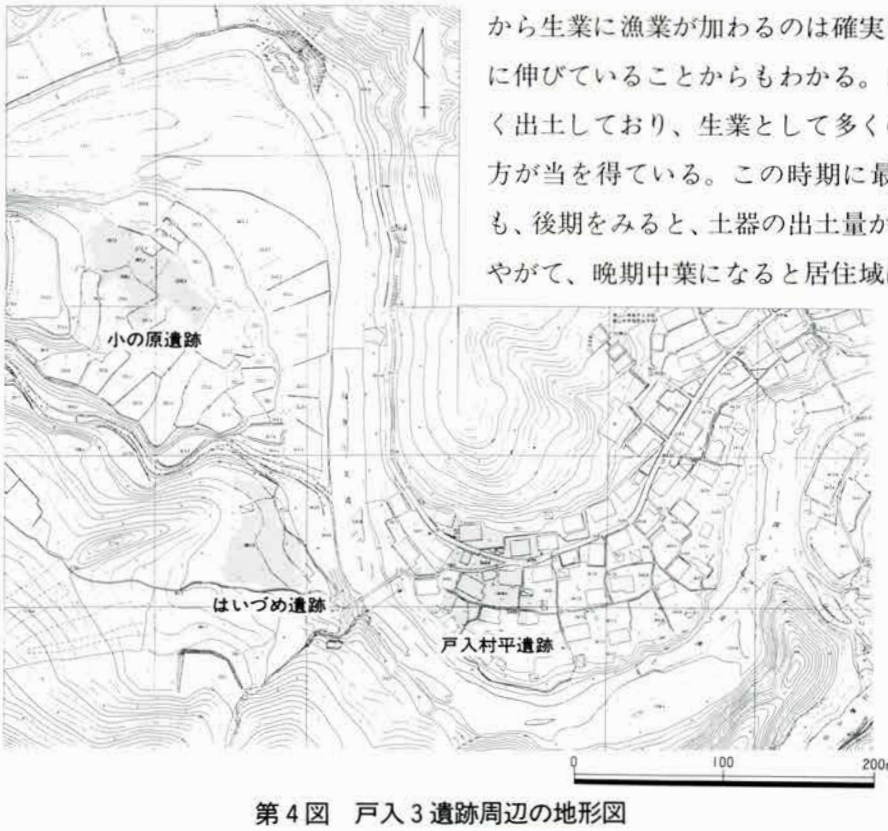
小の原遺跡は、縄文時代草創期から前期にかけての遺跡で、早期の集石炉、前期の住居跡等、多くの遺構が検出されている。集石炉の中には、炉のまわりにピット列があり、覆屋の存在を予想させるもの等、12基が検出されている。なお、戸入村平遺跡の東部対岸の小谷戸遺跡にも、早期の集石遺構が検出されており、同時期の狩猟キャンプ地である可能性があり、小の原遺跡との関連が考えられる。前期の住居跡は2軒であるが、前期を示す土器は多量に出土しており、この時期の中心的居住地になっていたことは間違いない。出土土器全体をみると、草創期から前期後半のものまであるが、特に早期中葉から前期後半にかけてのものが多く出土している。また、この遺跡の最も特徴的なことは、石器の出土量がとびぬけて多いことで、約38,860点（フレイクも含む）出土している。そのうち石鏃が1,415点で、全体（フレイクを除く）の約25%を占める。逆に石錘は少なく、24点しか出土していない。

戸入村平遺跡（ここでいう戸入村平遺跡は、前回調査と今回調査を含めたものである）は、中期中葉から晩期中葉にかけての遺跡で、中期後半に最盛期をむかえる。土器の出土総数は、196,067点で、戸入地区にとどまらず、徳山全体においても中心遺跡の1つである。中期後半においては、北陸系、東海系の土器のみならず、東日本や西日本の土器も数多くみられ、東西交流の接点となっていたと考えられる。住居跡は、18軒検出されている。それぞれ同時期と思われる住居は2～3軒ではあるが、これらの住居跡とその他のピット群を総合すると、南西方向に開く形で半環状に配置している。後期、あるいは晩期については、住居跡等が検出されていないが、土器棺は、後期、晩期ともに7基検出されている。特に晩期の土器棺は、遺跡中央部を北西から南東にかけて、ほぼベルト状に並ぶ状態で検出されている。石器は、石錘が全体の約25%を占め圧倒的に多いが、それに続いて打製石斧、石鏃が多く出土している。

はいづめ遺跡は、西谷川をはさんで戸入村平遺跡のちょうど西方向にあたる。標高でいえば、10m程度高い。縄文時代晩期中葉から弥生時代初頭にかけての遺跡である。住居跡は3軒検出されたが、いずれもプラン、時期など判然としない。晩期の中葉から後半にかけての土器棺と思われるものは、6基検出されており、多くは遺跡南部にかたよっている。石器の出土は、全体ではそれほど多くはないが、磨石・凹石の出土が663点で非常に多い。これは、小の原遺跡の466点、戸入村平遺跡の493点と比較しても驚くほど多い。それに比べて、石錘は14点で、非常に少ない。

こうして、戸入地区の縄文時代を概観してみると、草創期から前期後半までは小の原が中心となり、前期後半で一部はいづめ、中期中葉から晩期中葉までは戸入村平、晩期中葉から弥生時代初頭までは、はいづめというように、約１万年の間、この地に人々が住み続けていたことが予想される。同じ西谷で、近くにある早期の小谷戸遺跡、晩期のいんべ遺跡などや、遠くは西日本や東日本との交流を続けながら、拠点はずっとここにあったとみられる。ただ、この歴史の流れの中で、縄文時代中期初頭前後は、その時期を示す土器の出土がほとんどみられず、全くに空白の期間となっている。この空白期間を説明できるもので、一番可能性の高いのは災害である。つまり、大豪雨による山の斜面の大崩落で、小の原地区が全滅したということである。徳山地区は、現在でも多くの雨が降ると各地で山崩れが起きる。古老の話によると、昭和に入ってからも、はいづめ遺跡の背後の山が大崩落したそうである。もう１つの可能性は地震である。徳山の地を北西から南東方向に直線的に流れる揖斐川は、揖斐川断層と呼ばれる断層上を流れている。この断層地形の中にあって、縄文時代の１万年の間に、１度も大きな地震が起きなかったとは考えられず、ちょうどこの空白期に、壊滅的な打撃を受けた可能性がある。もっとも、徳山地区の遺跡で、噴砂など地震を示すものは検出されていないので、これは推定の域を出ない。その他、気候の変動等色々な理由が考えられるが、徳山において最も可能性のあるのはこの２つであり、災害と闘いながら生きていく縄文人の姿が想起される。

こうした何らかの理由で、前期末から中期初頭にかけての空白期があるが、縄文時代全体として戸入地区では連綿と生活していた。そして、小の原から戸入村平、戸入村平からはいづめへと居住地域を変えるごとに、生業も次第に変化していくことがわかる。小の原では、多くの石鏃に代表されるように、狩猟を中心とした生活が考えられる。空白期の後、居住地域は戸入村平に移る。これは、小の原が壊滅したからか、戸入村平の方が生業にとって都合がよかったからかはわからないが、この時期から生業に漁業が加わるのは確実である。石錘の数が飛躍的に伸びていることからもわかる。ただ、石鏃・打製石斧も多く出土しており、生業として多くのものが加わったと考える方が当を得ている。この時期に最盛期をむかえた戸入村平も、後期をみると、土器の出土量が減り、やや衰えを感じる。やがて、晩期中葉になると居住域は、はいづめに移る。この遺跡の石器をみると、磨石・凹石が極端に多く、石錘はほとんどみられない。生活域も限定され、少数の家族で木の実などの採集により、弥生時代初期まで細々と生活していたと考えられる。これ以後は、遺物・遺構などが急になくなり、中世まで歴史は途絶える。



第４図　戸入３遺跡周辺の地形図

第3章　基本層序

本遺跡は、揖斐川支流西谷の左岸段丘上の旧戸入集落内に立地する。前回調査の「戸入村平遺跡」の北側にあたり、東西約60m、南北約25mを測る。前回調査区の隣接部は村道、あるいは電柱、コンクリートの土手等、表層は破壊されていた。また、北部は旧集落内の家屋及び、それに付随する施設等に伴う削平・掘削、移転時のごみ穴による掘削が、遺物包含層まで、所によっては地山まで入っており、残存のよくない部分も随所に見られた。全体的には同じ様相を呈しており、基本的に上部からⅠ層（表土・耕作土等）、Ⅱ層（暗褐色土層）、Ⅲ層（黒褐色土層）、Ⅳ層（黄褐色土層、本遺跡での通称地山）に分けられる。

各セクションベルトの土層断面図から代表的な部分を図示した（第6図）ので、これにより本遺跡の土層堆積を述べる。（基本的に前回調査のⅠ層序と同様である。）

Ⅰ層；表土および耕作土等がこれにあたる。場所によっては、宅地・路地等に伴う整地土も含めた。厚さ10～20cm程度である。

（Ⅰ層は、道路のコンクリート・ごみ穴等の攪乱とともに重機で除去した。）

Ⅱ層；表土層の下に堆積している暗褐色土層で、基本的にしまりの強弱と遺物包含の度合からⅡａ層とⅡｂ層に分けた。各層とも30～50cm程度で山側になるにつれて厚くなる。

Ⅱａ層；しまりの悪い暗褐色土層で、径5cm以下の亜角礫を含む。遺物の包含は少なく、ほとんどが移転時のごみ穴等により破壊されていた。

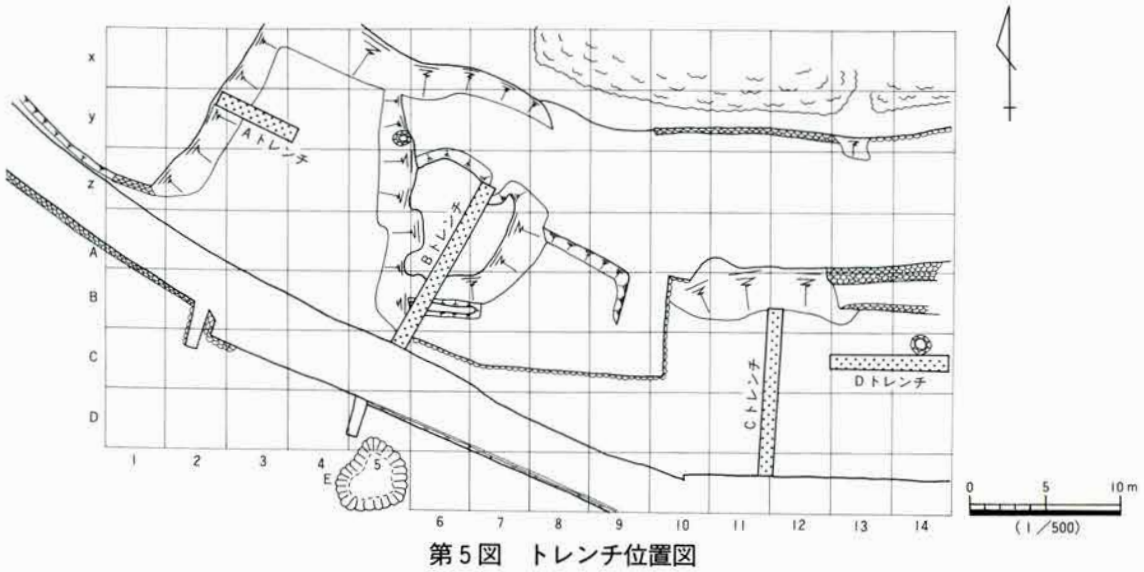
Ⅱｂ層；しまりのある暗褐色土で、厚さ30～50cm程度である。縄文時代中期後半～後期の遺物を多く包含しているが、中近世のものも少量出土する。

Ⅲ層；Ⅱ層の下に堆積している黒褐色土層で、Ⅲａ層とⅢｂ層に分かれる。厚さ20～40cm程度で、縄文時代中期の遺物包含層である。

Ⅲａ層；しまりのある黒褐色土である。

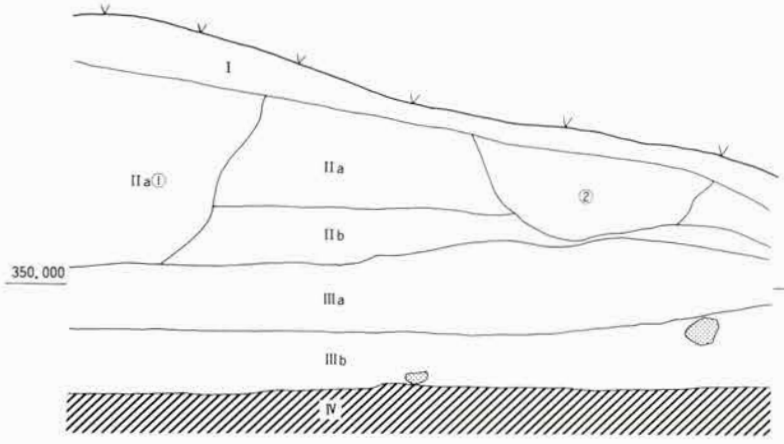
Ⅲｂ層；しまりのある黒褐色土で、中に黄褐色土のブロックが随所に入る。

Ⅳ層；いわゆる地山とよんでいる土層である。黄褐色砂質土で、しまり・粘性ともある。東部に、多く円礫を含む層が認められた。



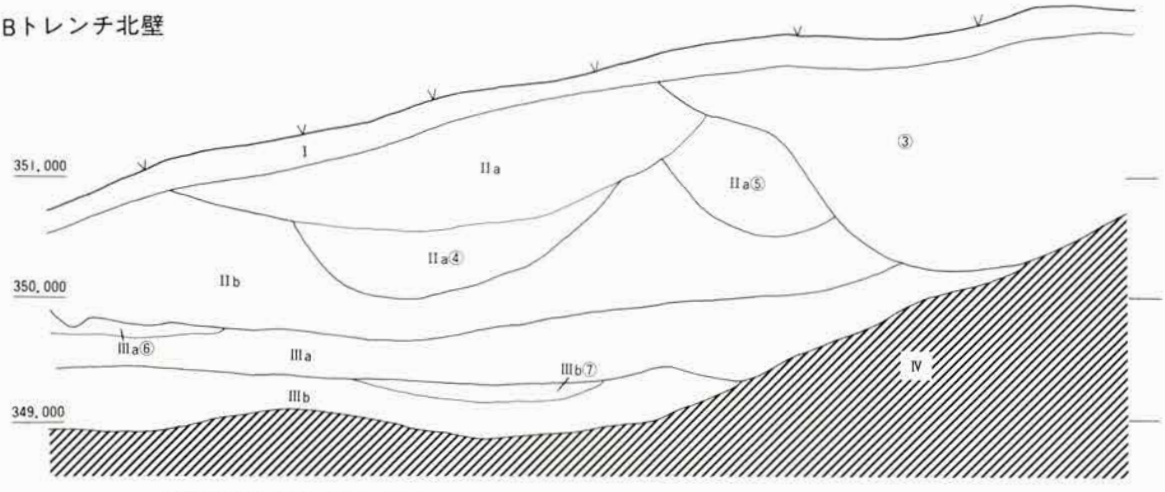
第5図　トレンチ位置図

Aトレンチ北壁



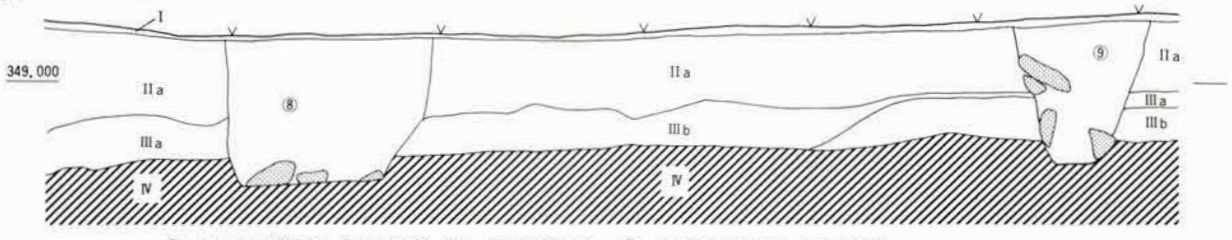
①φ5～10cmの礫を多く含む　②ゴミ穴

Bトレンチ北壁



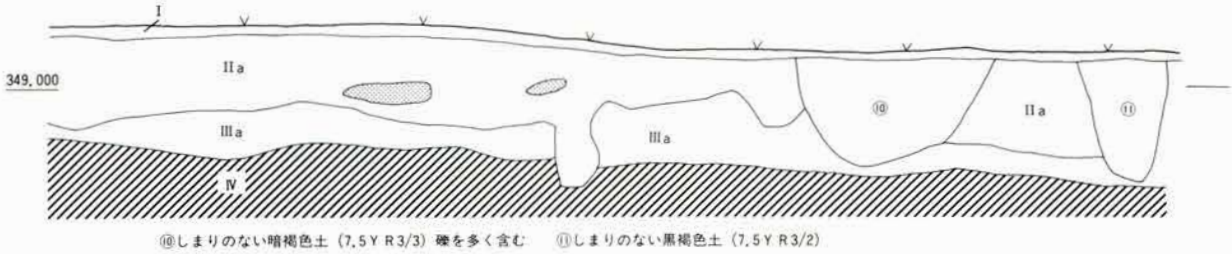
③II層・III層の混合、角礫も多く混じる　⑥粘性があり、土器、小石が混じる
④小石が多く混じる　⑦粘性がある (7.5Y R2/2)
⑤角礫が多く混じる

Cトレンチ西壁

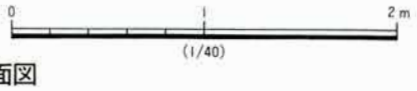


⑧しまりのない暗褐色土 (7.5Y R3/3) 焼土・炭化物が混じる　⑨しまりのない暗褐色土 (7.5Y R3/4)

Dトレンチ北壁



⑩しまりのない暗褐色土 (7.5Y R3/3) 礫を多く含む　⑪しまりのない黒褐色土 (7.5Y R3/2)



第6図　遺跡土層断面図

第4章　縄文時代の遺構と遺物

第1節　概　略

「戸入村平遺跡」は、縄文時代中期～晩期と中近世の複合遺跡である。昭和63年度～平成元年度に1回目の発掘で、遺跡南側の調査がおこなわれ、縄文時代の遺構と遺物について以下のことが明らかになった。

「中期後半の住居跡8軒、土器棺墓13基(後期4基、晩期7基、不明2基)、配石土坑1基(時期不明)、その他の土坑・ピット1,431である。

住居跡の配置は、第2号住居跡が調査区の南に位置する以外、北区に集中している。ただ、土坑・ピットの配置を見ると、調査区中央部の西半分はやや疎になり、そこを取り囲むように馬蹄形に濃密に分布しているようにとらえられなくもない。住居跡もその濃密な土坑・ピット分布域に重なっている。住居跡として検出できなかったものがいくつかある可能性があり、それらも含めて集落の復元を検討する必要がある。土器棺墓もこの分布域に沿って構築されており、時代の差はあるが居住域と墓域の関係を考えていく検討材料になる。後晩期の住居跡が検出できなかったため、今後の課題としたい。縄文時代の出土遺物は、総点数95,906点の約98%にあたる93,587点である。内訳は、土器類が82,203点、石器類が11,384点である。土器で見ると、その9割以上が中期後半のものである。」(第4集武藤貞昭編『戸入村平遺跡』(1994)より引用)

この結果を受けて、今回の調査は、この報告書にある「住居跡が集中している北区」のさらに北側の道路下と山の斜面にかけての地域をおこなった。調査範囲のほとんどは、旧村道や現代の集落跡であり、その上、廃村に伴う移転の時、この地域の多くがごみ穴として使われ、廃材などが焼かれた。そのため、山側の中央部から東部にかけての地域は、IIb層～III層上面にかけて、場所によっては地山面まで掘り込まれており、その多くは破壊されていた。幸い、西部においてはIII層上面あたりから、一部に良好に残った遺構があり、住居跡等が部分的に検出できた。また、III層下部からIV層（地山）にかけての層は、井戸跡や水道管跡、トイレ跡以外は全体的に残りは良好であり、住居跡・竪穴状遺構・埋設土器・土坑・ピット等、多くの遺構が検出できた。

今回の調査で検出した遺構は、次の通りである。

〈III層上面における検出遺構〉

縄文時代中期～後期の住居跡4軒、土器集中土坑8、ピット2。

住居跡の全体が明確にわかったものはなかったが、遺物量は多くあった。ＳＢ9以外、すべて住居跡の上部には、土器の集中する層が認められた。

〈IV層上面における検出遺構〉

縄文時代中期の住居跡6軒、竪穴状遺構1、埋甕・埋設土器5基、土坑・ピット527である。

前回の調査区との境目付近に多くの住居跡が集中した。中期中葉から後葉にわたる住居跡であるが、いずれも硬化面や炉跡の明確にわかるものであった。また、居住区と土坑群が区域分けされて検出できたことも特徴的であった。たとえば、住居跡の配置は、南部中央から西部に集中しており、東部に

第7図　Ⅲ層・Ⅳ層上面遺構配置図

おいては住居跡はなく、土坑・ピット等とともに遺物も極端に少なかった。住居集中区の西側と東側では、深さ1.5m程度の大きな土坑が検出された。また、調査区の北西部には、立石をともなう土坑が集中して数基みられた。

今回と前回の調査を合わせて遺跡全体を見ると、中期中葉の遺構や遺物は遺跡北中部に集中している。また、前回馬蹄形に分布していた遺構や遺物の環は、今回の調査区で連続して繋がっていて、その構造をしていたと思われる時期は、中期中葉後半～中期末にかけてと思われる。後期は、北西部から南部にかけて、晩期は、南部を中心に点在する。このように、縄文時代中期～晩期にかけての戸入集落は時期によって住む場所を変えていたらしいことが明らかになった。

縄文時代の出土遺物は、総点数114,670点の99%にあたる113,864点である。そのうち、土器が106,915点、石器が6,949点である。

第2節　Ⅲ層上面における検出遺構

今回の調査区のほとんどは、現代の住居や道路の下であり、また移転時に穴を掘り、ゴミ穴等に使われていたため、上層部の攪乱は甚だしかった。よってⅡ層の多くは重機により取り除き、残りのよい調査区西部の3～9、z～B付近においてのみ、Ⅱb層より掘削を始めた。この地区においても、道路下では攪乱が多く、残りは悪かったが、山側z～Aにおいては、残りのよい遺物が多く、遺構の一部も検出できた。この山側z～Aにおいては、各所で直径20～30cmの角礫がみられ、その角礫の間に残りのよい土器片があるという状態で、当時の山の崩落がうかがわれた。

このⅢ層上部では、ＳＢ9～12の4軒の住居跡が検出された。Ⅲ層における土色は、一様に黒褐色土で、遺構の検出には困難をきわめ、住居跡を中心としたピット群以外、明確に検出できなかった。ＳＢ10～12においては、住居跡の上部で集中した土器片の出土がみられ、住居跡検出の1つの指標になった。

その他、この面においては、x2区とＢ9区を中心とする地域で、土器集中区がみられた。(SK1、2)前者は、後期の土器が多く、その掘り方は地山にまで及んでいた。後者は中期の土器が中心であり、ＳＢ13の上部にあたる。

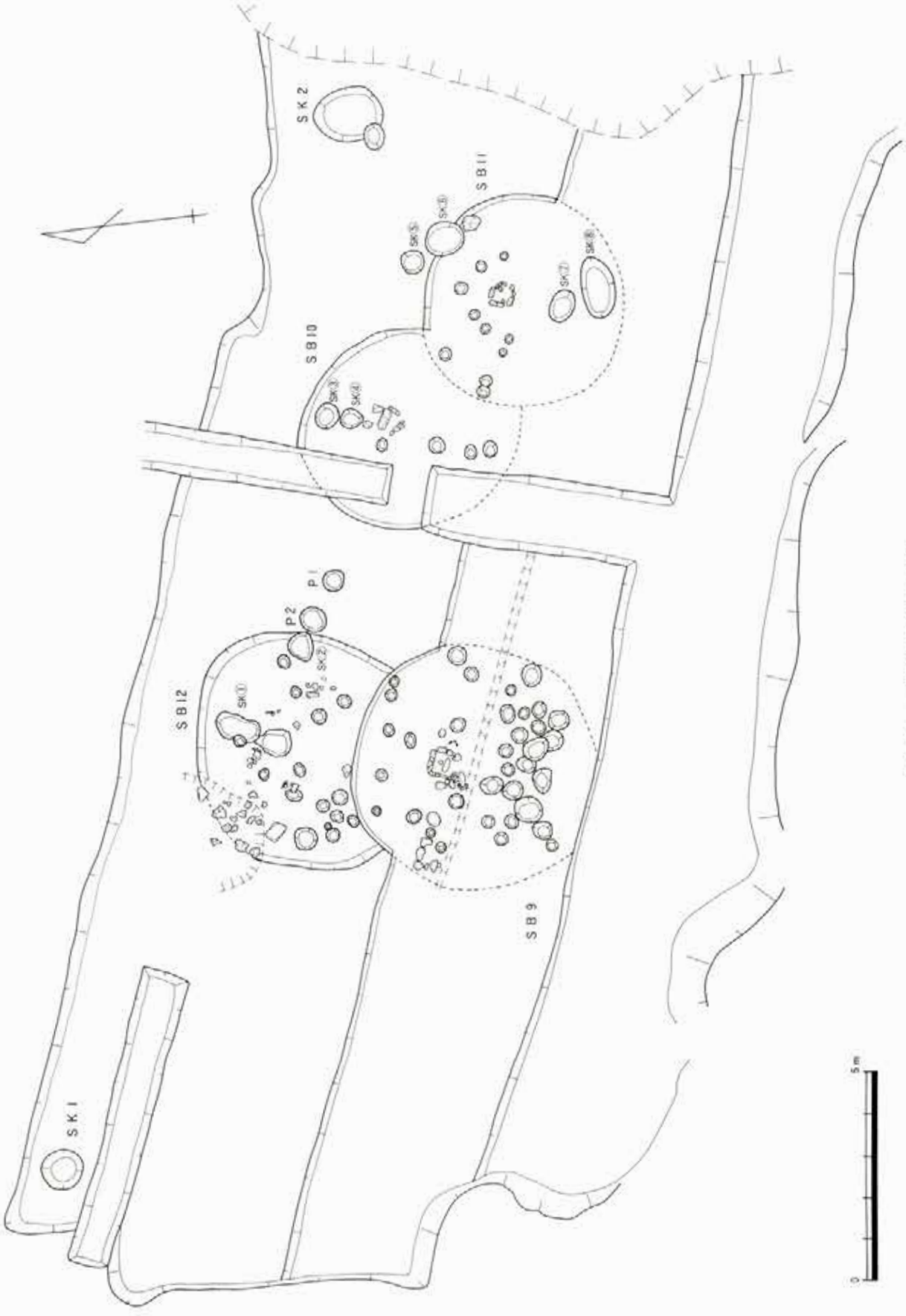
1．第9号住居跡　（ＳＢ9／第9図、図版1）

4～5－A～Bグリッドに位置する。2/3は道路下約50cmのところにあり、中央部には、床面を削る形で簡易水道の配水管が埋設されており、床面と思われる箇所の多くは後世に削られていると考えられる。道路を重機で掘削し、その後、手掘りで数cm進むと道路北端で炉跡が発見された。この段階で、道路以外は、まだ表土を剥いだのみで、レベルとしては道路面より20cm程度高かったので、この住居跡のプランは、炉跡より北側部分を中心として検出できたが、全体的には不明確な部分が多い。北側部分の住居の立ち上がりは、約15cm認められた。この検出部分から全体を推定すると、平面形は直径約5.6mの円形になる。床面と思われる炉石東部には、硬化面が認められたが小石混じりの箇所が多く、褐色土混じりのところも多くあるなど、道路整備時の整地による硬化の可能性も考えられる。

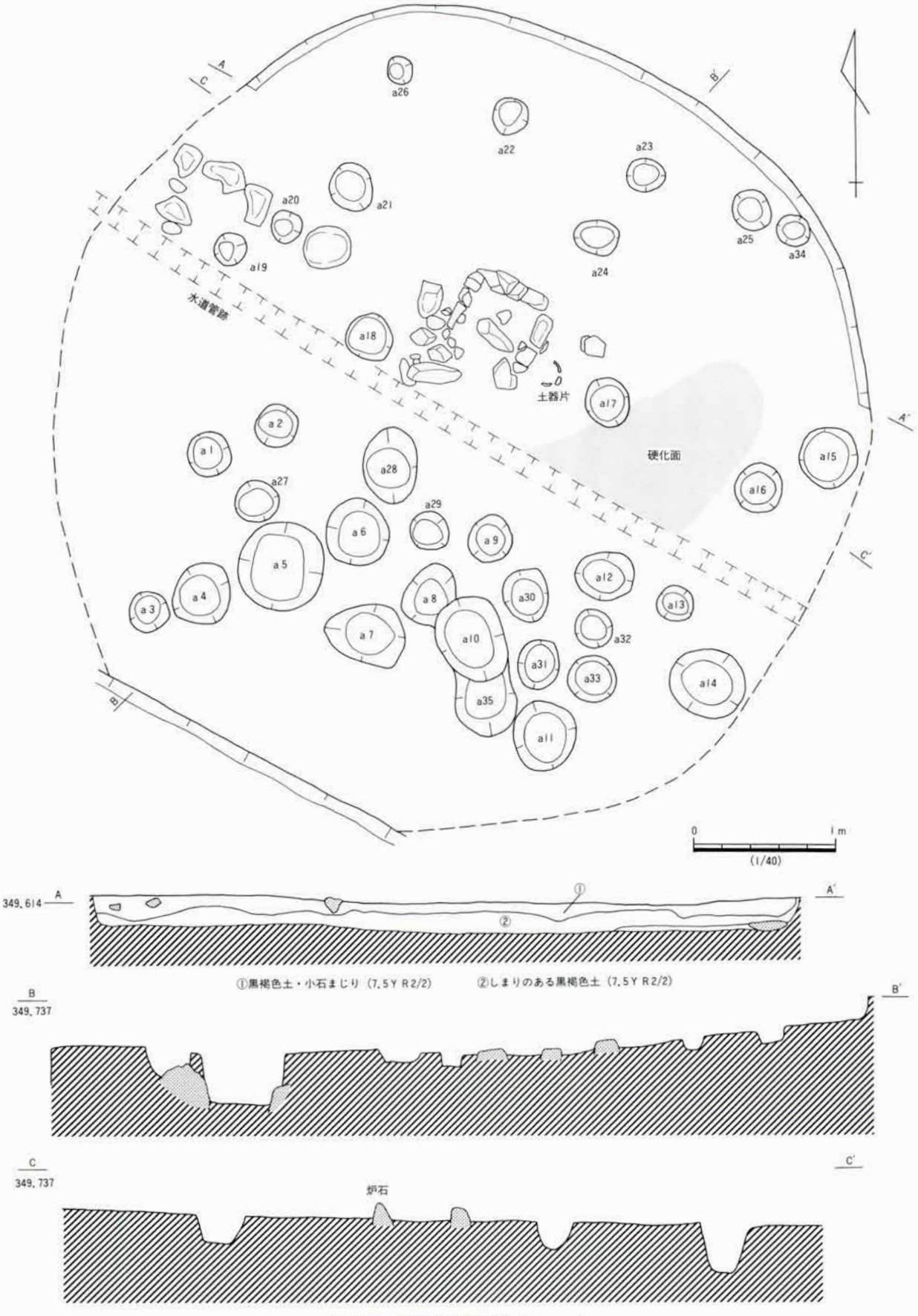
ピットは、34カ所確認されたが、簡易水道の配水管より南では、極端に数が多くなっており、その多くは、現代のものであると考えられる。主柱穴として予想されるのは、a1、a21、a31であるが、あとは明らかにできなかった。

西部には、扁平な円形の川原石がひとつ、不定形のものが4つ、ほぼ上面が同じレベルで並べられていた。これらの石は、ほぼL字状に配列された可能性はある。この5つの川原石に被熱の痕、加工痕等はなかった。これがＳＢ9にともなうものかどうかは明らかではないが、ＳＢ9の西部にはＳＫ50、ＳＫ51、ＳＫ102等、立石を伴う土坑が多く存在していることから、むしろこれらとの関係が予想される。

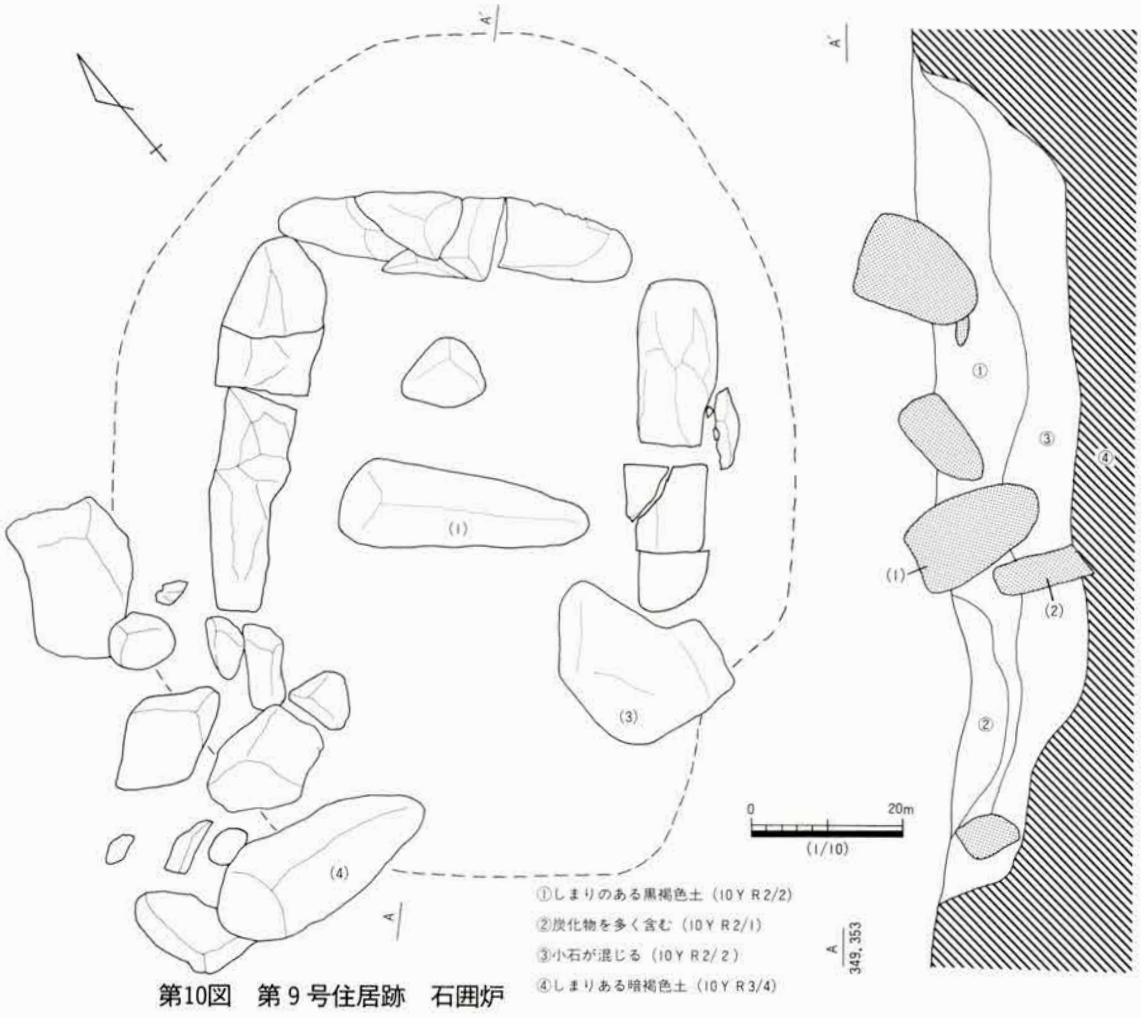
炉跡は、川原石を方形に組んだ石囲い炉で、東西約70cmで、南部が崩れている。中央部には、南北を仕切る細長い石があり、複式炉の可能性がある。徳山地区で検出された複式炉は、山手宮前遺跡で1例報告されているが、それとは少し異なる。細長い川原石を組み、南北に長い形で方形に作られて



第８図　Ⅲ層上面遺構配置図

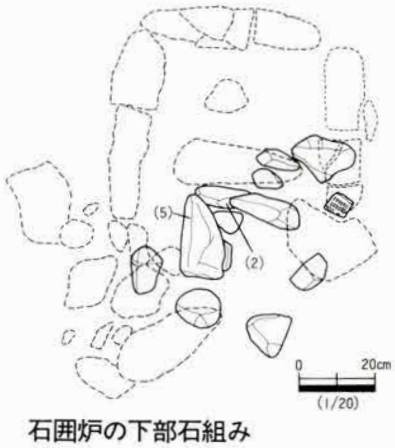


第9図　第9号住居跡（ＳＢ９）



第10図　第９号住居跡　石囲炉

いる。南部の石は散乱しているが、南北は、推定約90cmと考えられる。中央で南北を仕切る石(1)は、端まできちんと区切られていないが、他の石に比べ丈があり、深く埋め込まれている。また(1)の下部では平たい石(2)で支える形になっている。その支える石(2)と90°で「くの字」状に接する石(5)があり、炉の南部の区画の下部構造をなすものと考えられなくはない。炉の南部のつくりについては明確ではないが、細長い石(4)が、南部にあったのではなかろうか。また近くにある平たい石(3)は、調理に利用された可能性がある。全体的にどの石も、よく焼けて、もろくなっていた。炉の中からは、炭化物を含んだ土が多く検出されたが、焼土は検出されなかった。住居の覆土は、円礫や小石が多く混入した暗褐色土で、水道管敷設時の攪乱が各所にみられた。特に水道管の南部では、攪乱が激しく土器の出土量は多かったが、他の住居跡にみられるようなまとまった個体の出土はなかった。床面にあたると思われる箇所では、黒褐色土と暗褐色土が混じり合い、小石も多かった。床面付近、ピット内等から出土した土器のほとんどは小片で、摩耗していた。住居跡の時期を判断するのは非常に難しいが、炉内、炉横などから検出された土器から考えると、中期末から後期初頭と考えられる。



石囲炉の下部石組み

2．第10号住居跡　（ＳＢ10／第11～12図、図版１）

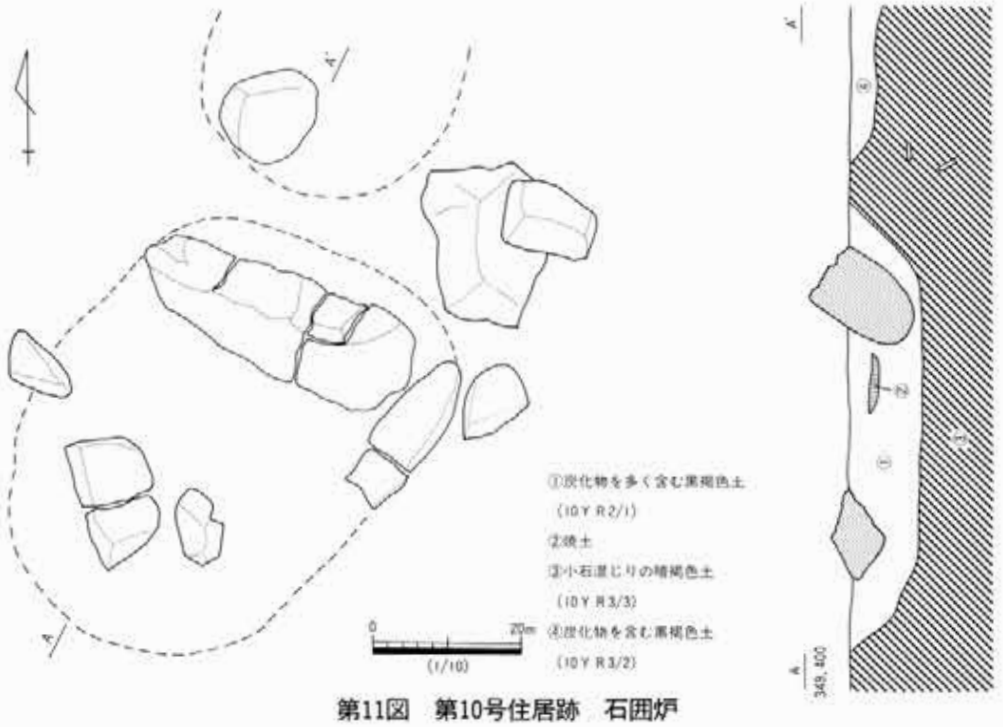
６～７－Ａ～Ｂグリッドに位置する。全体的に、山から崩れたと思われる直径20～50cmの角礫が表面を覆うとともに、全面が黒褐色土のため、平面でのプランの検出は困難であった。また、南部1/4は、旧村道やＢトレンチによって、すでに床面以下に掘削されていた。しかし、Ｂトレンチ東壁やサブトレンチの断面から、長軸5.2m、短軸4.5mのほぼ円形のプランであることが推定できた。床面全体には、多くの角礫が入り込んでいることなどから、明確な硬化面は検出できず、ピットについても、当住居跡のものかどうか確定はできなかった。また、明確には判別できなかったものの、南西部はＳＢ11に切られていた。

住居の覆土では大きな個体の土器片が集中して出土した。また住居内北部では、床面と予想されるレベルで炭化物を多く含む深さ７cm程度の土坑（ＳＫ③、ＳＫ④）があった。ほぼ床面より掘り込んだと思われるＳＫ③ではＣ８群の土器が、その南のＳＫ④ではＣ10群の土器片が裏向きで貼り付けられたような状態で集中して出土した。いずれも完形に近いものであったが、1038（第45図）・1050（第46図）ともに下部がなかった。また炉より北部床面には、各所に炭化物が認められた。

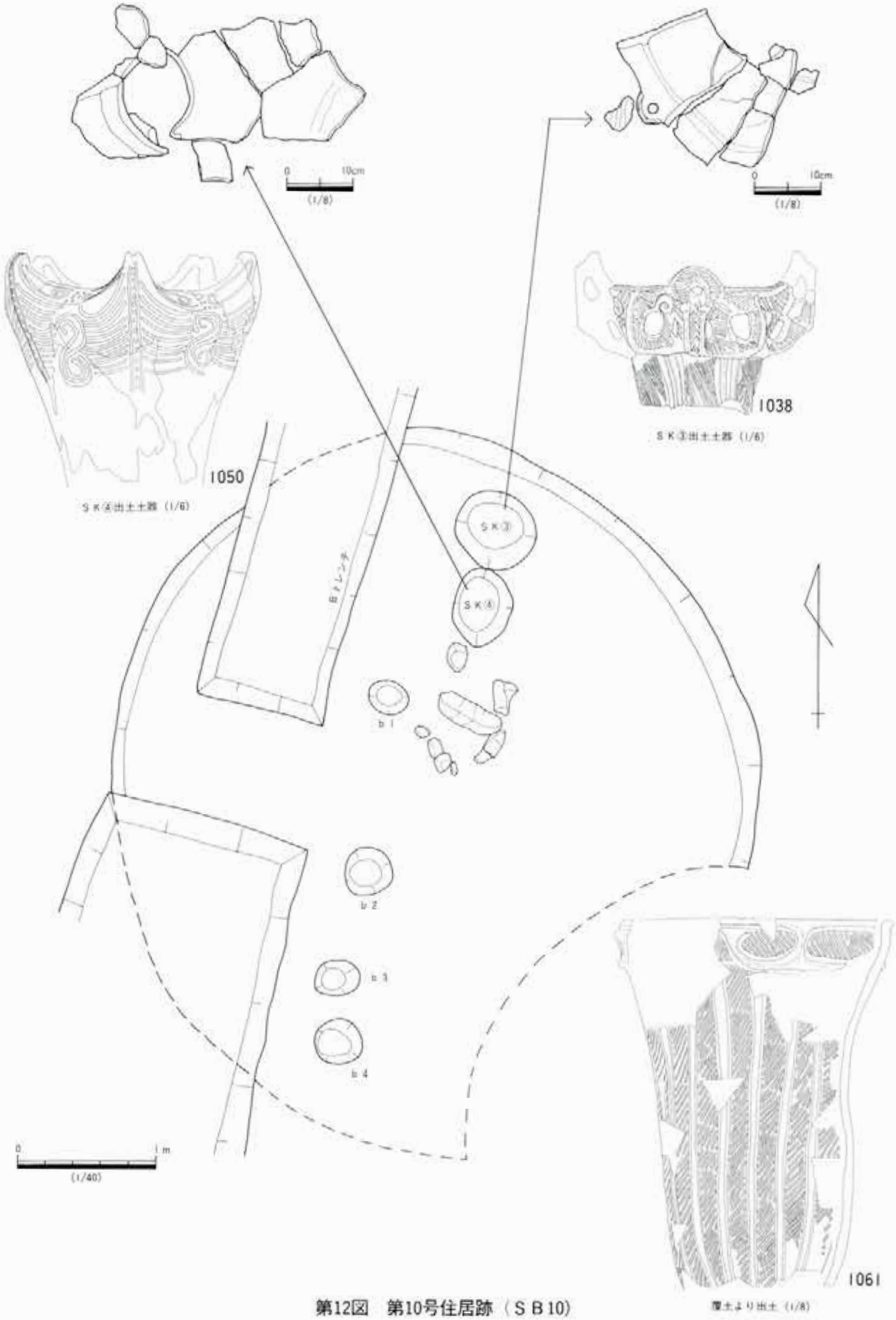
ピットは、４基検出されたが、いずれもＳＢ10にともなうものとは確定しがたく、主柱穴と思われるものはなかった。

炉跡は、川原石を組んだ石囲い炉と考えられるが、石の多くが散逸しており、その明確な形は明らかではない。残った石は、長さ40cm幅12cmで、上部がよく焼けて赤褐色に変色していた。その他の炉石だったと思われる石は、上部がとばされた形で、分離して小片になっていたが、いずれも被熱の跡がみられた。炉付近からは多くの炭化物と焼土、そして少しの土器片が検出された。

この住居跡は、床直上と思われる場所でも、角礫が多く入り込んでいることなどから後の破壊が予想され、その時期を確定するのはむずかしい。ただ、炉内からは、口縁部に橋状把手を有するＣ８群の土器が出土しており、それを基準として考えると、中期後葉となる。



第11図　第10号住居跡　石囲炉



第12図　第10号住居跡（ＳＢ10）

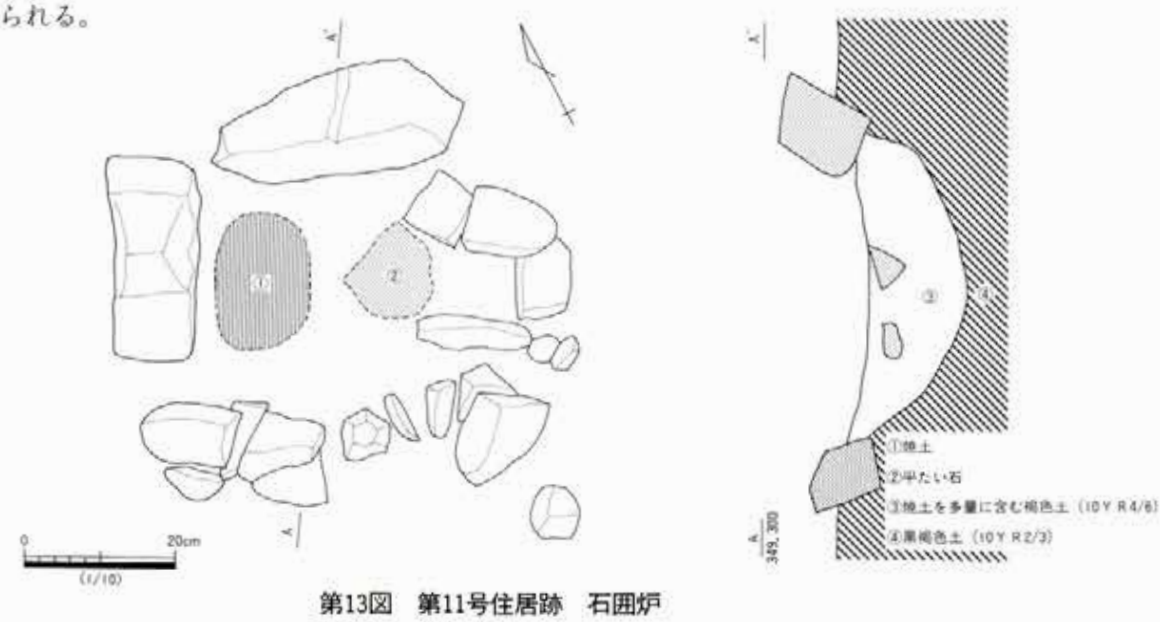
３．第11号住居跡　（ＳＢ11／第13、14図、図版２）

７－８－Ｂ～Ｃグリッドに位置する。南西部の半分は、道路により削られており、また北西部は、直径20～50cmの大きい角礫により破壊されていたので、検出できたのは1/3程度の区域であった。ここも、ＳＢ10同様で、角礫が多い上に土色が見分けにくかったが、道路との境のサブトレンチ、その他２本のサブトレンチの土層断面の確認と炉石が発見されたことにより住居跡と確定した。また、本遺跡の場合、住居跡が廃絶された後、住居があった窪みが土器捨て場になった例が多くみられるが、ここもその例にもれず、上層部で多くの土器を検出した。住居跡の検出できた半円の区域から全体を推定すると、直径約５mの円形のプランである。なお、ＳＢ10とＳＢ11が切り合う部分は、大きい角礫で壊されており、明確には検出できなかったもののＳＢ11が切っていると判断できた。

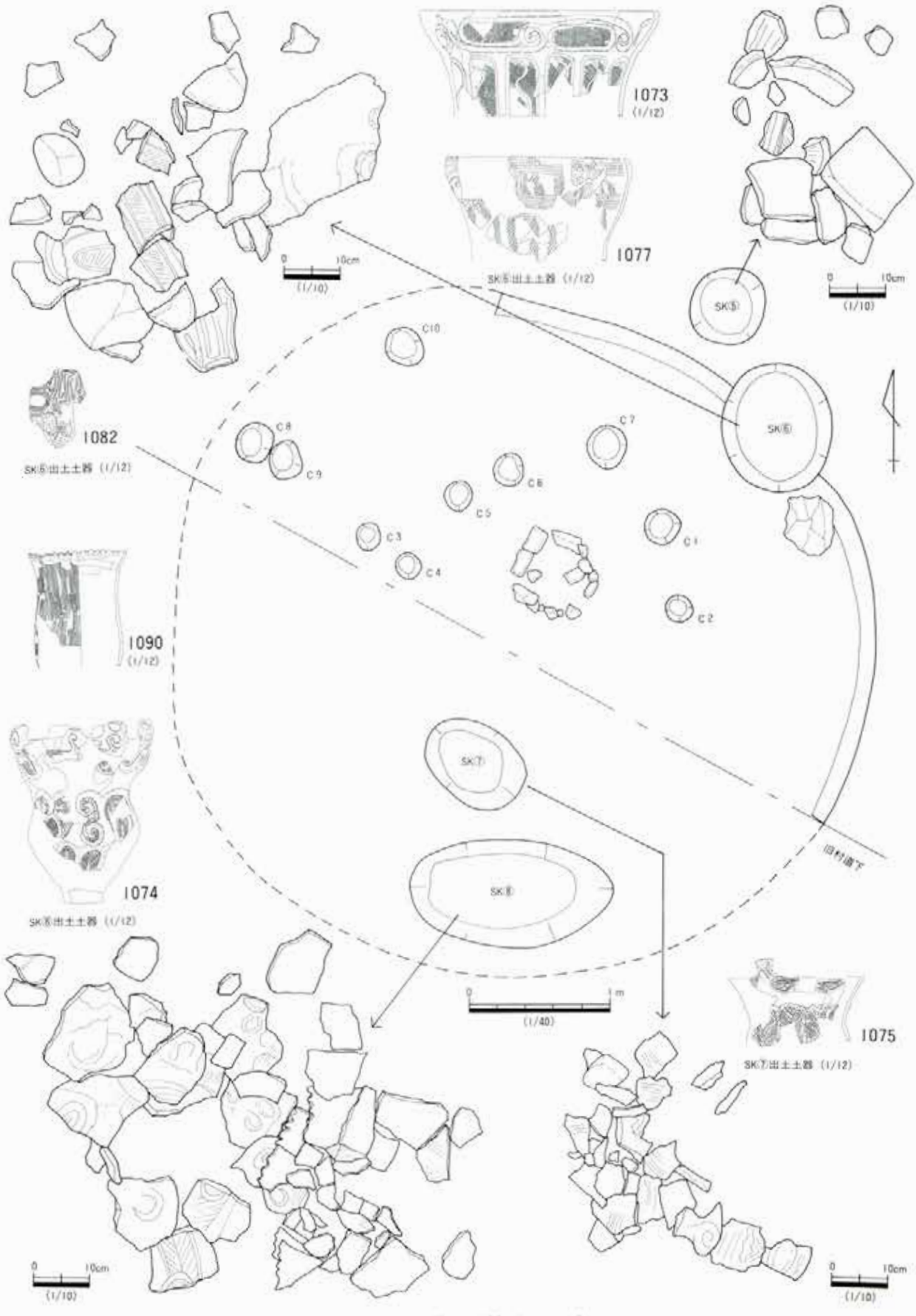
炉跡は、60cm×55cmの方形の石囲い炉である。上面はもろくなっており、なくなっている部分もあるが、形は明確に残っていた。炉石は、よく焼けており、炉の内部には多くの炭化物があり、焼土の層が20cm四方、深さ５cm程度あった。

ピットは、10基検出され、ｃ１、ｃ２、ｃ４～ｃ７は、炉を中心として直径約２mの半円を描く。ただ、それらと柱穴との関係は明らかにはできなかった。また、明らかに硬化している面は検出できなかった。この住居の南部には、土器が集中して出土した２つの土坑（ＳＫ⑦、ＳＫ⑧）があり、Ｃ10群に分類できる口縁部が徳利形に突出した土器が出土した。ＳＢ11の床面のレベルから推定するとＳＫ⑦は、覆土中にあり、ＳＫ⑧は、床面付近から掘り込む形で検出された。ＳＫ⑧では、1074と1090が、ほぼ口唇部を向け合う形で出土した。（なお、第14図においては、場所を示すために、覆土中で完結しているＳＫ⑦の位置も図中に入れてある。）また、住居北東部を切る形でＳＫ⑥が、すぐ北部にＳＫ⑤があり、大きい個体の土器片が集中して出土した。

この住居跡の時期を明確に示すものは、炉内より出土した土器２点がある。１点は、貼り付け隆帯に刻目のあるもので、Ｃ１群に該当すると思われるが小片であるため確定はできない。もう１点は口縁部に竹篦状のもので切れ口の鋭い沈線による文様の割り付けを施すＣ７群～Ｃ８群と同時期の土器であると考えられる。これらのことから考えると、ＳＢ11の時期はＳＢ10とほぼ同時期のものであろうと考えられる。



第13図　第11号住居跡　石囲炉



第14図　第11号住居跡（ＳＢ11）

４．第12号住居跡　（ＳＢ12／第15～18図、図版２）

４～５－ｚ～Ａグリッドに位置する。南側1/5は、ＳＢ９に切られ、北西側１m四方は、山からの崩落と思われる直径約20～30cmの大型の角礫によって破壊されていた。また、全体的に多くの角礫が四散し、床面付近には川原石が各所にみられた。

住居のプランは直径約５mの円形に近いものである。住居の壁の立ち上がりは、約15cmで、床の硬化面は、炉の南東部にやや硬質な部分はみられたものの、明確に硬化した部分であるとは断定できなかった。

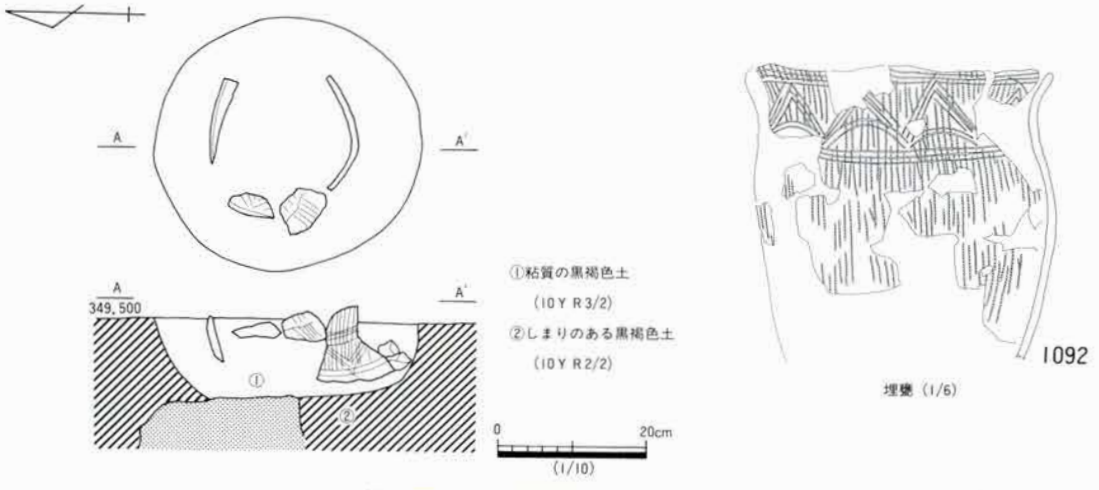
炉跡は、中央部やや北よりにある地床炉である。南北70cm、東西60cm、深さ約10cmの楕円をなし、その範囲内には多くの炭化物とともに、焼土が厚く堆積し、内部からは、全面に炭化物が多く付着したＣ６群の土器片数点が出土した。炉周辺の床面には、多くの土器が、ブロック毎に集中して出土した。（第17図）それらの土器のほとんどは、浅鉢の他はＣ６群のＢ類に該当し、撚糸文を地文とし、半截竹管による平行沈線を施したものであった。炉のすぐ西で出土した浅鉢は、約半分が完形であり、内側底部と外側口縁部には赤色顔料が付着していた。

主柱穴は、ｄ４，ｄ13は考えられるが、他は明確にできなかった。西部のｄ15の土坑は、直径約40cm、深さ５cmと浅かったが、全面にわたって多くの炭化物がみられた。しかし、焼土や遺物は内部からは検出されなかった。

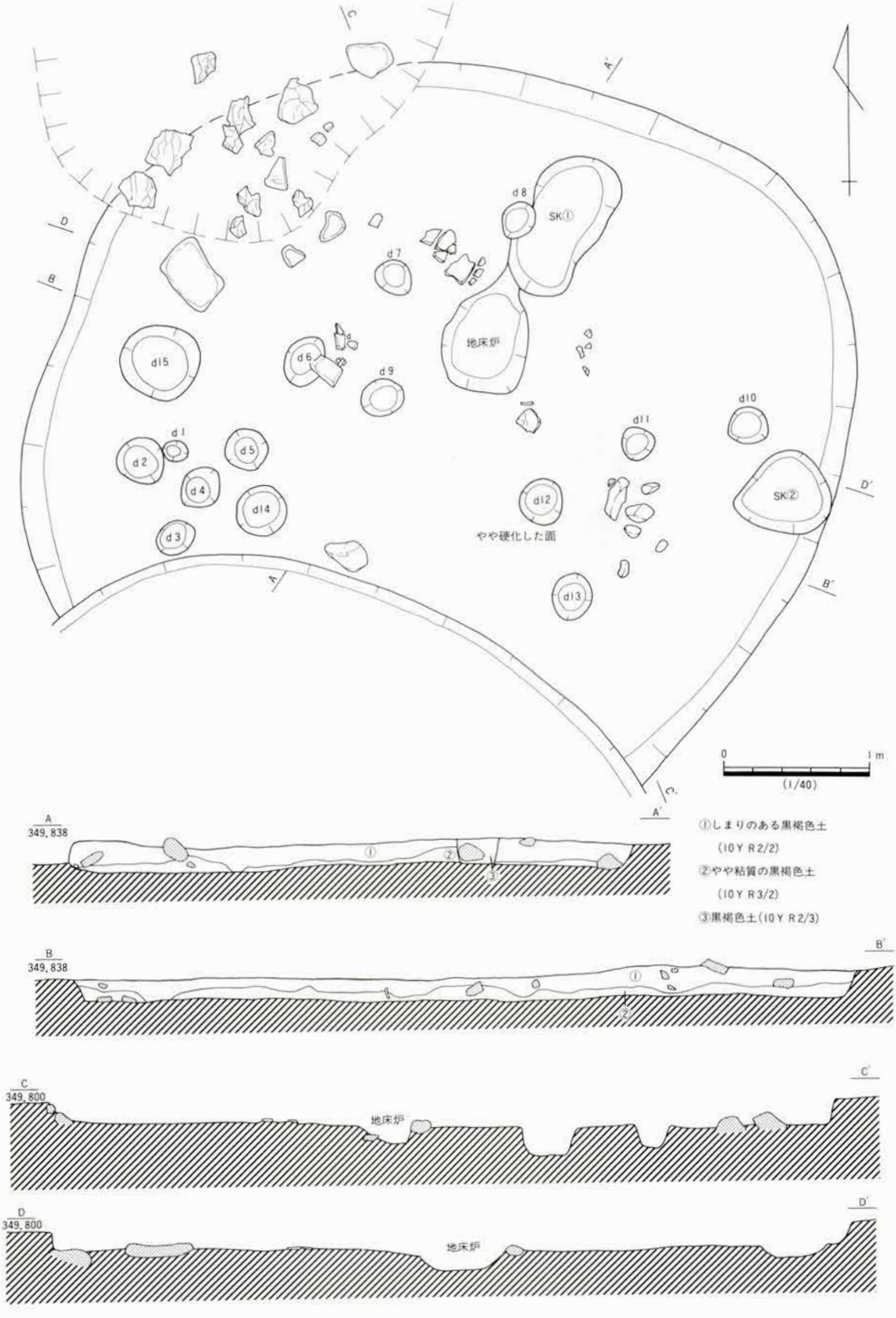
北部と東部にＣ９群やＣ10群の土器が集中して出土する土坑（ＳＫ①、ＳＫ②）がみられたが、これらは住居跡廃絶後、上部から掘り込まれたものであり、後の時期のものであると考えられる。両者ともに、土坑内には土器とともに大量の角礫を含み、土坑底部はＳＢ12の床面を３～４cm程度掘り込んでいた。

埋甕が、南西部ｄ14で検出された。底部がない状態で、逆位で埋設されていた。ピットの底部には、直径50cm程度の大きな岩があり、丁度その上に口縁頂部が乗る形で埋められていた。底部1/3程度は、破損していた。土器そのものは、床面から出土した土器と同じ種類であり、同時期のものであると考えられる。

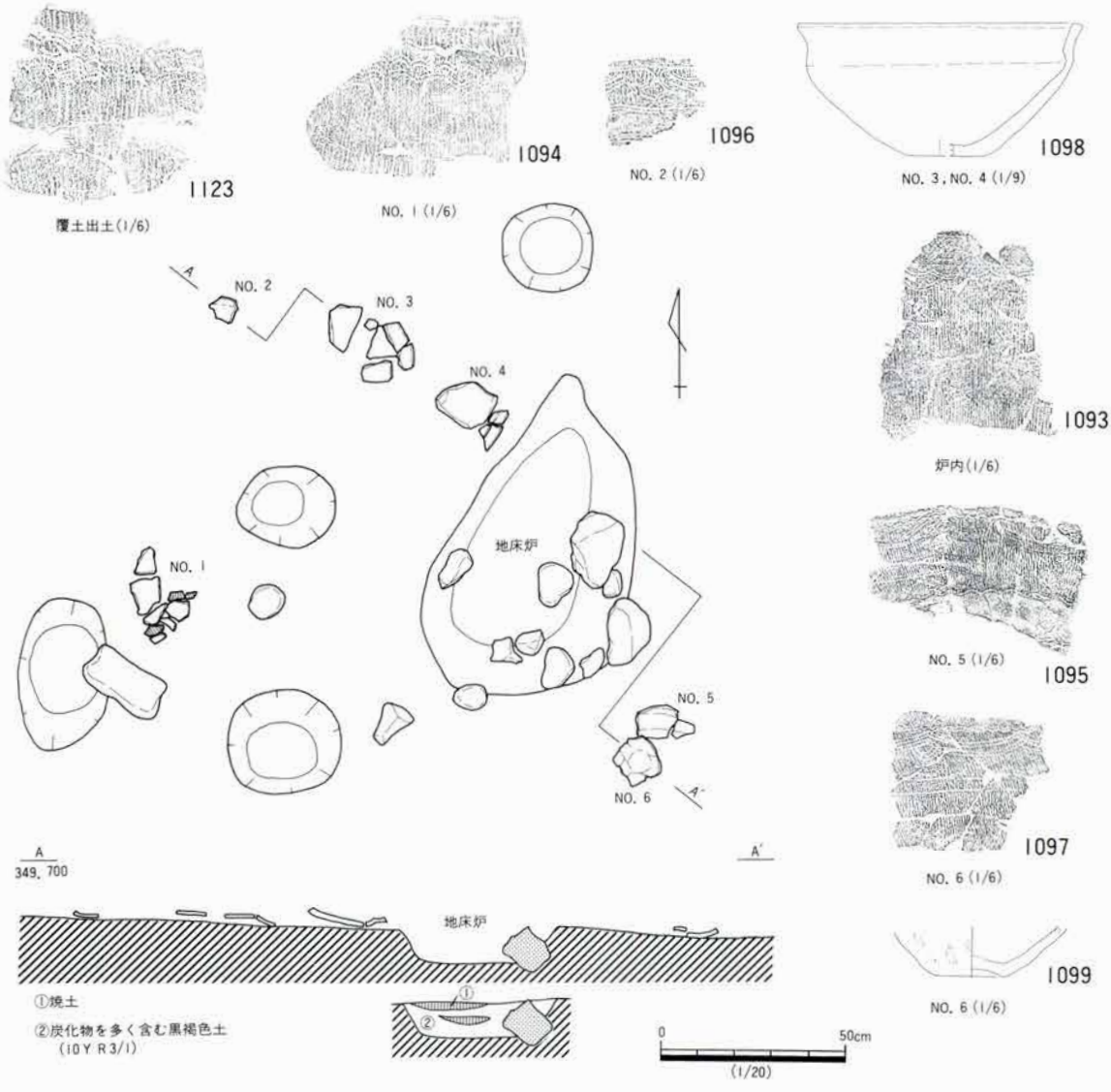
この住居の時期は、埋甕、炉内に埋まった土器、床面の土器を基準として考えると、そのいずれもがＣ６群（里木Ⅱ）のものであることから、中期後半のものであるといえる。



第15図　第12号住居跡　埋甕



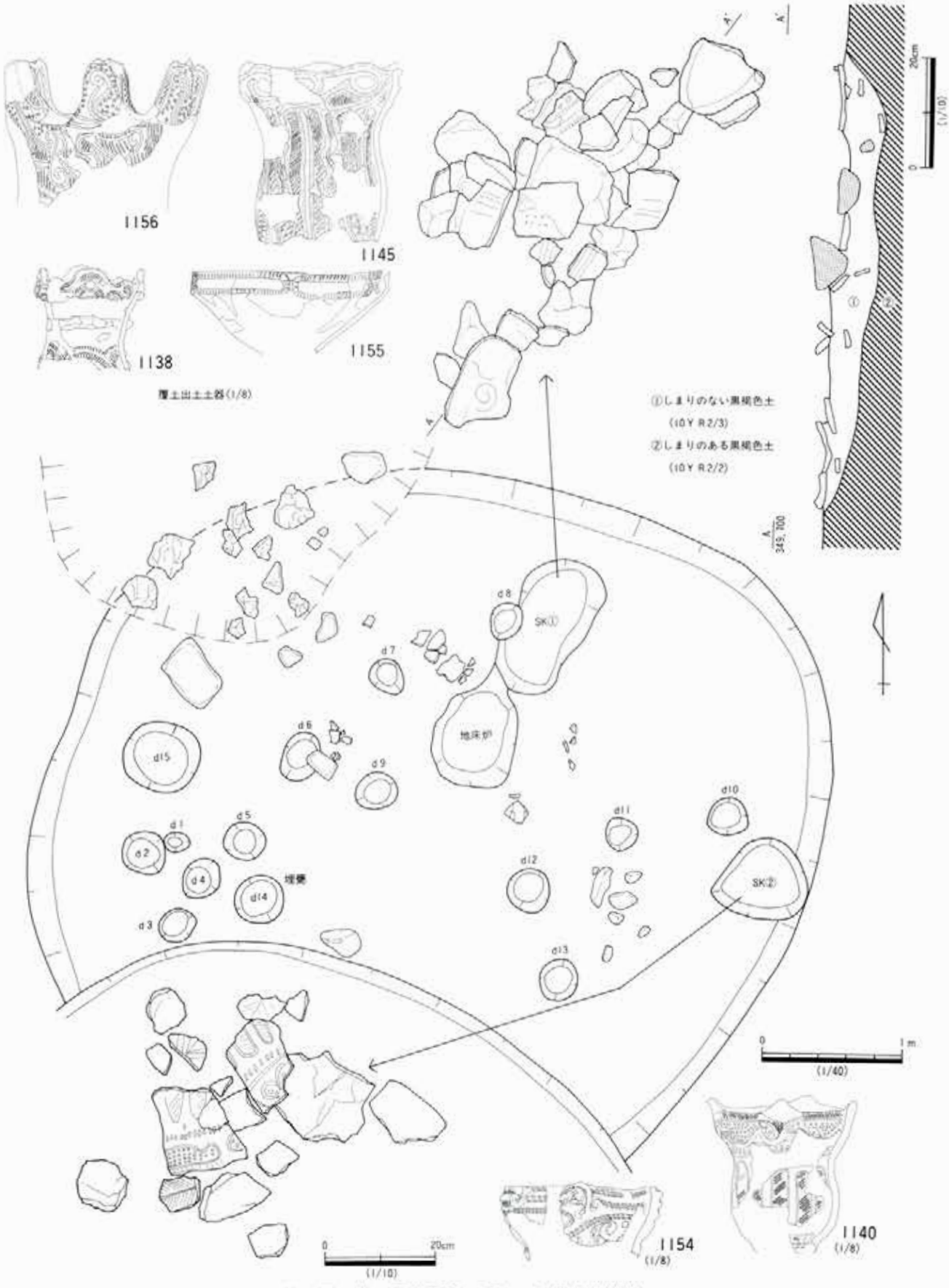
第16図　第12号住居跡（ＳＢ12）



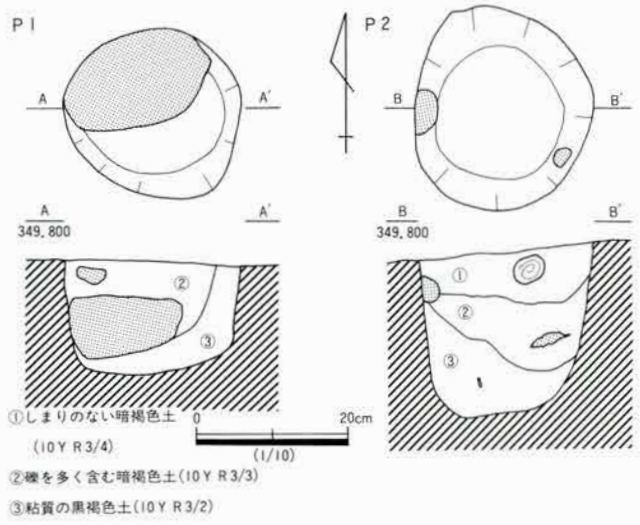
第17図　第12号住居跡　床面の土器出土状況

この住居における土器の出土は3,086点で、検出された10軒の住居跡のうち出土量としては最大であった。また、石器についても出土数163点で、石鏃、石錘、磨・凹石、石皿等、他の住居跡と比べ群を抜いて大量に出土した。土器でみると、埋甕、炉内出土の土器、床面の土器を合わせると217点、ピットからは138点、覆土からは2,731点（うちＳＫ①からは133点、ＳＫ②からは102点）出土している。埋設土器、炉内出土の土器、床面出土の土器は、数は少ないものの、そのほとんどはＣ６群Ｂ類の里木Ⅱ式に類似した土器であった。覆土から出土した土器は、ＳＫ①、ＳＫ②も含めてＣ９群の土器が多くを占めた。また、覆土出土のＣ５群の土器とＳＢ16の覆土から出土した土器が接合できた（1107）。

この住居において土器の堆積には２時期あったと考えられる。その１は、居住時あるいは廃絶直後で、その住居での使用土器が床面に残されたまま埋没したと考えられる。その原因は、断定できないものの、山の崩落が契機になった可能性はある。その２は、住居廃絶後の窪地に土器が廃棄されたものである。ＳＫ①、ＳＫ②については同時期に掘り込んで廃棄されたと考えられる。



第18図　第12号住居跡　覆土の土器出土状況



第19図　ピット1・2

5．Ⅲ層上面検出のピット（第19図）

Ⅲ層上面付近には、多くの大型の角礫の混入や現代の住居における攪乱により、遺構の多くは、検出が困難であったが、P1、P2については、プランが明瞭に見えた。

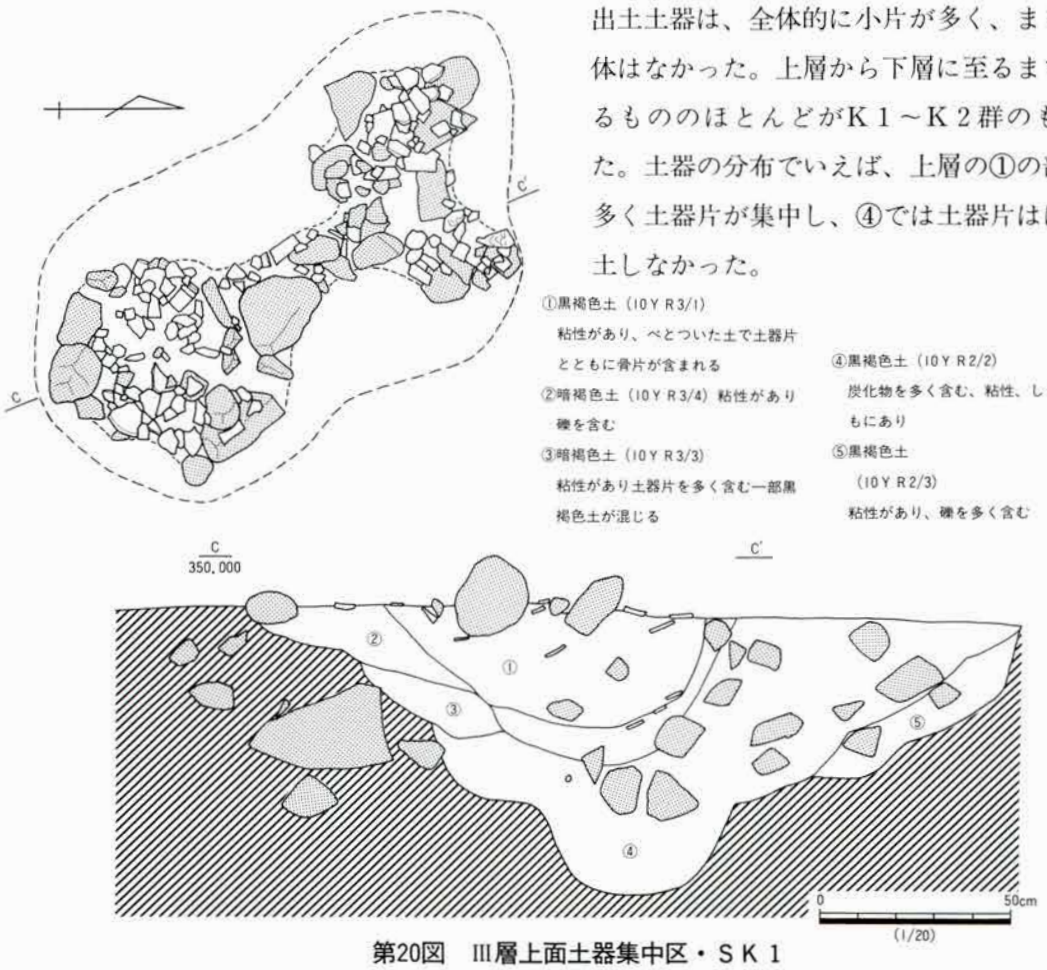
P1、P2ともにSB12に隣接した場所にある。内部より検出の土器は、C9群～C11群のものが中心であった。

P1の内部には、ピットを覆う程の亜角礫が見られ、墓坑の可能性がある。

6．Ⅲ層上面検出の土器集中区

(1)　SK1（第20図）

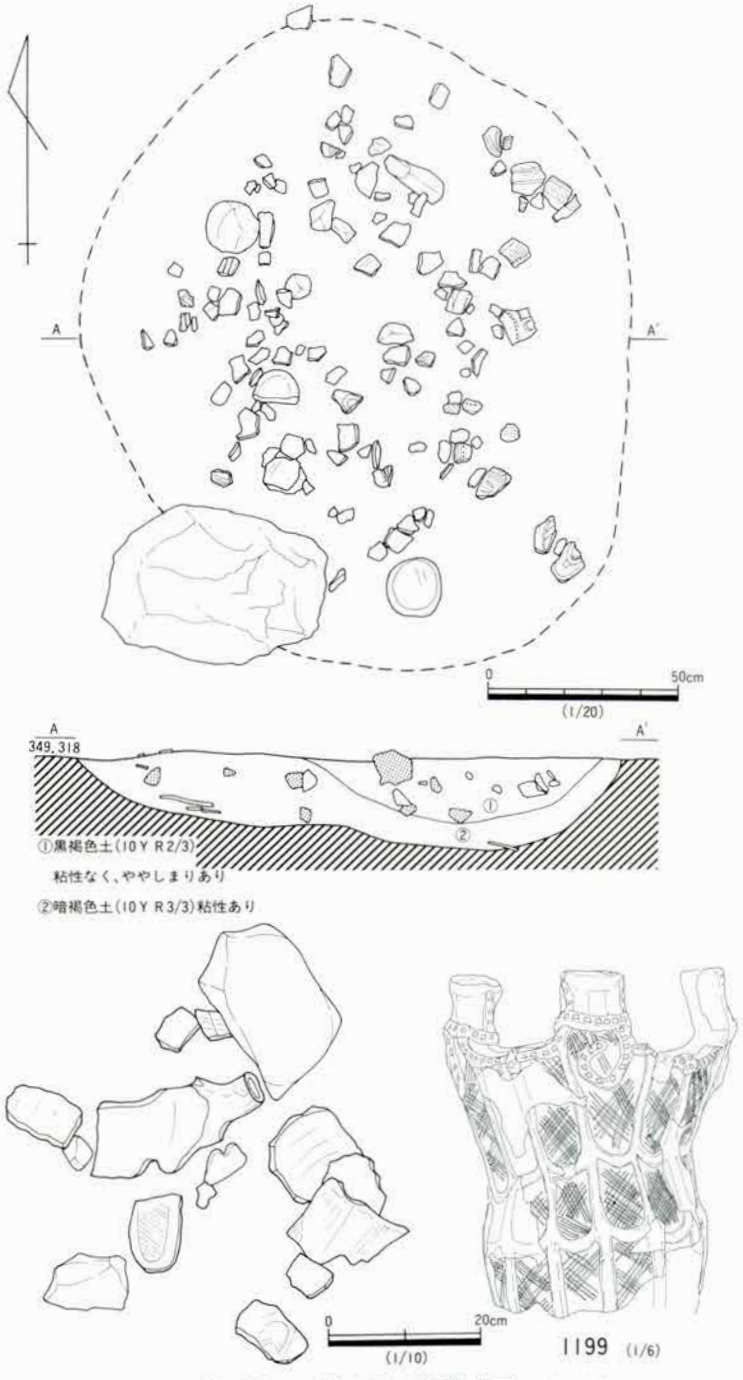
X～Y－3グリッドに位置し、この遺跡の北西隅にあたる。角礫とともに多くの土器が混在する。上部の土は黒褐色であるが、ベタベタした粘性の強い土で、炭化物や骨片と思われる白い粒状のものが混じっていた。この掘り込みは深く、Ⅲ層上部から1mにも及び、Ⅳ層を約30cm掘り込んでいる。出土土器は、全体的に小片が多く、まとまった個体はなかった。上層から下層に至るまで、出土するもののほとんどがK1～K2群のものであった。土器の分布でいえば、上層の①の部分に最も多く土器片が集中し、④では土器片はほとんど出土しなかった。



第20図　Ⅲ層上面土器集中区・SK1

(2)　ＳＫ２（第21図）

Ａ～Ｂ－９～10グリッドのＳＢ13上部に位置する。1.6m～1.8mの広範囲に広がっており、土器個体そのものは、小さいものが大量にあった。土坑の内部は、２層に分かれ、上部東寄りの①には、粘性のある黒褐色土が堆積し、多くの土器が出土した。その下層部の②には、粘性がなく、礫混じりの黒褐色土であり、土器片の出土は少なく、小片が中心であった。南西部には大きな角礫があり、その下部からはC10群の土器の大きな個体が出土した。この大きな個体が出土した付近では、土坑のプランは検出できず、半ば埋もれた土器の上に、長径約50cmの角礫が覆いかぶさる状態であった。土器の上に直接角礫が落下して割れた状態とは考えにくいが、この土器を意識的に埋めて、その上に角礫を置いたとも考えられない。ただ、この土器と同一の個体がＳＫ２の内部より、多く見つかっている（特に②から多くの出土があった）ことなどから、この個体は、ＳＫ２と同じ時期のものであり、半ば埋没した状態で角礫が落下したものであろうと考えられる。



第21図　Ⅲ層上面土器集中区・ＳＫ２

土器は、全体的に小片が多く、Ｃ１～C11群と多岐にわたって出土しており、しいて言えばＣ９～C10群のものが多かった。完形に近いものは、南西部より出土した1199のみであり、その他では胴部で長径20cm程度のものが１点あるものの、ほとんどは、10cm以内のものであった。

なお、この土坑の下は、ＳＢ13の炉の東付近にあたる。この土坑は、掘りきると、その下には角礫がなく、ほとんど土器の検出されないしまりのいい黒褐色土層（7.5Y R3/1）があった。その下層のⅣ層上面でＳＢ13が検出されたわけであるが、その覆土は、部分的に小石が混じるもののほとんど土器片が混入せず、他の住居跡の検出とは状況を異にした。

第3節　Ⅳ層上面における検出遺構

Ⅲ層の下層部は、基本的には黒褐色土層であるが、各所に黄褐色土のブロックを含む部分や黒褐色土と黄褐色土が混合して灰色がかった黒褐色土になっている部分が多い。井戸やトイレ跡などで掘り込まれている部分もあったが、全体的には土層が安定しており、遺構の残りはよかった。ただ、Ⅲ層の下層部の検出中に2度にわたる大型台風による甚大な被害を受けており、遺構の一部が破壊されたり、検出途中で埋まったりなどのことがあった。

Ⅳ層上面における検出遺構は、全体的に中央部から西部に偏っており、東部においては遺構・遺物ともに少なかった。これは前回の調査にもいえることで、前回においては、遺跡範囲を明らかにするため、調査区より東に向かってトレンチを延長して調査した結果、グリッド13あたりから東は、極端に遺構・遺物などが減少することが明らかになっている。

今回の調査区において、Ⅳ層上面で等高線をひくと、下図のように北西から南東へと少しずつ土地が低くなっていることがわかる。また台風の直後、調査区へ行くと、下図の※印付近の山の斜面から水が吹き出し、急流となって矢印方向へ流れていた。現代のものと思われる井戸も、ちょうどその流れに沿うように、2カ所作られており、この矢印を水の流れ道とすると、これより東はより低く、湿地帯となっていた可能性があり、住居域には適さなかったとも考えられる。

遺構全体を眺めてみると、道路南部に沿って5軒、山側に1軒の住居跡が検出された。立石をともなう土坑は、ＳＢ16より西部に集中しており、後期の土器が多く出土した。また、深い土坑は、ＳＢ17より東部に多く見られた。遺物はⅢ層上面検出の住居跡付近からは、大きな個体も含めて大量に出土したが、Ⅳ層上面あたりでは、多くは出土しなかった。ただ、ＳＢ18付近だけは例外で、Ｃ9～Ｃ11群の土器が大量に出土した。

なお旧村道下部は、表土よりⅢ層上部にかけて、村道建設に伴い、その多くが削られていた。よって、Ⅳ層上面での検出遺構のうち、村道下部の遺構については、Ⅲ層上部より掘り込まれたものも、ないとはいえない。

第22図　遺跡内等高線図

第23図　Ⅳ層上面　遺構配置図

1．第13号住居跡　（ＳＢ13／第24、25図、図版３）

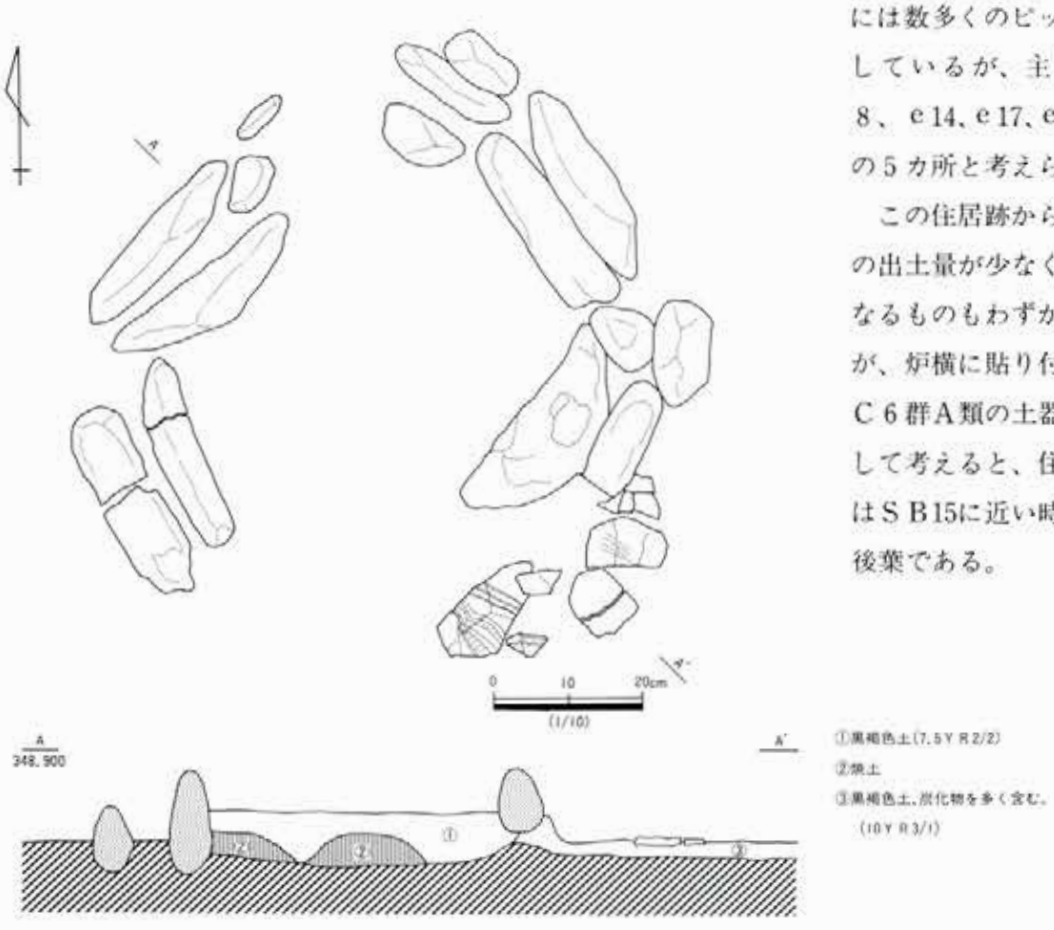
Ａ～Ｃ－８～10グリッドに位置する。床面より30～40cm上部には、Ｂ９グリッド杭を中心として、直径約２mの土器集中区があった。（ＳＫ２）住居の壁の立ち上がりは約20cmで、西側は明確にあったが、東側は検出できなかった。平面プランは、東西・南北ともに約５mの円形で、周囲には、深さ10cm前後の周溝がめぐる。この周溝は、入り口と思われる南東部と北部で、１m程度切れている。また、この周溝の内側には、南東側と北東側に80～150cm、深さ５～10cmの浅い周溝跡がみられ、住居拡張前のものと思われる。主軸方位は、炉跡、主柱穴などから考えるにＮ－30°－Ｗになる。

炉跡は、中央部やや北西よりに位置し、炉内には、２～３cm程度堆積した焼土がみられる。炉は、一部破損しているものの残りはよく、70×90cmの方形の石囲炉である。炉石は、細長い川原石を二重に並べた状態で、よく焼け部分的には割れていた。炉のすぐ南東10cmの床直上には、表向きに貼り付けたようにＣ６群の土器の集中がみられた。これに類似した貼り付けは、ＳＢ15（Ｃ６群）ＳＢ17（Ｃ１群）でもみられたが、ＳＢ13の場合、両者より貼り付けられた土器片は少なかった。

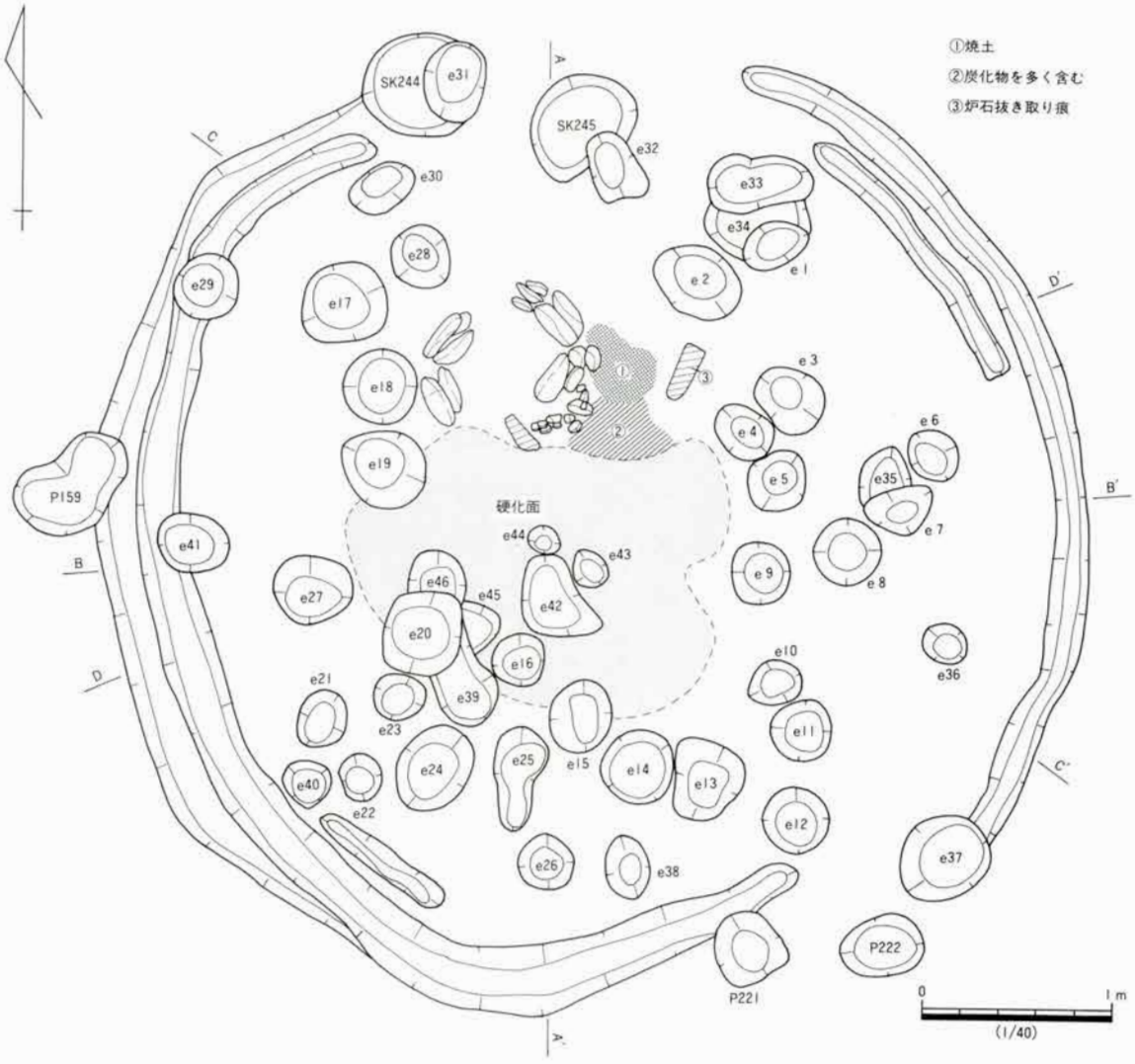
床面中央部には、小石混じりの黄褐色粘土の硬化面が東西２m、南北1.5mにわたって広がっていた。炉の東側には、40×40cm程度の範囲で、厚さ１～２cmの焼土層や炭化物を多く含んだ層がみられた。また近くには炉石抜き取り痕と思われるものが２カ所みられた。これらは、この住居跡の建てられる前の痕跡であろうと考えられる。

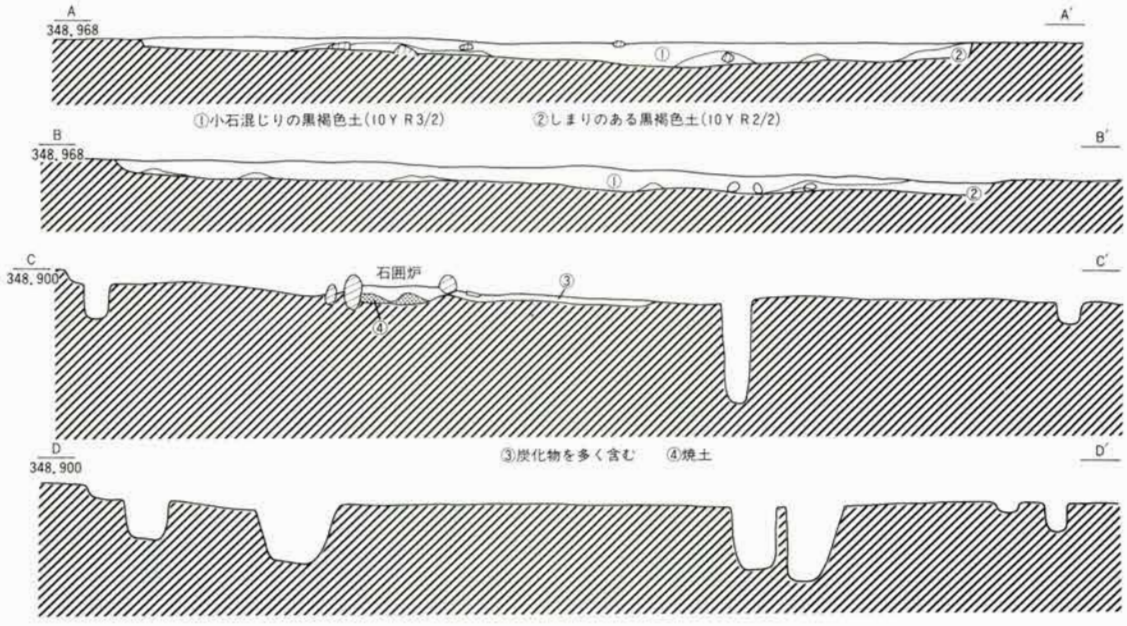
この住居の入口は、周溝の切れ目や炉の状態などから、南東側であると考えられる。また、住居内には数多くのピットが重複しているが、主柱穴はｅ８、ｅ14、ｅ17、ｅ27、ｅ34の５カ所と考えられる。

この住居跡からは、遺物の出土量が少なく、指標となるものもわずかであったが、炉横に貼り付けられたＣ６群Ａ類の土器をもとにして考えると、住居の時期はＳＢ15に近い時期の中期後葉である。



第24図　第13号住居跡・石囲炉





第25図　第13号住居跡（ＳＢ13）

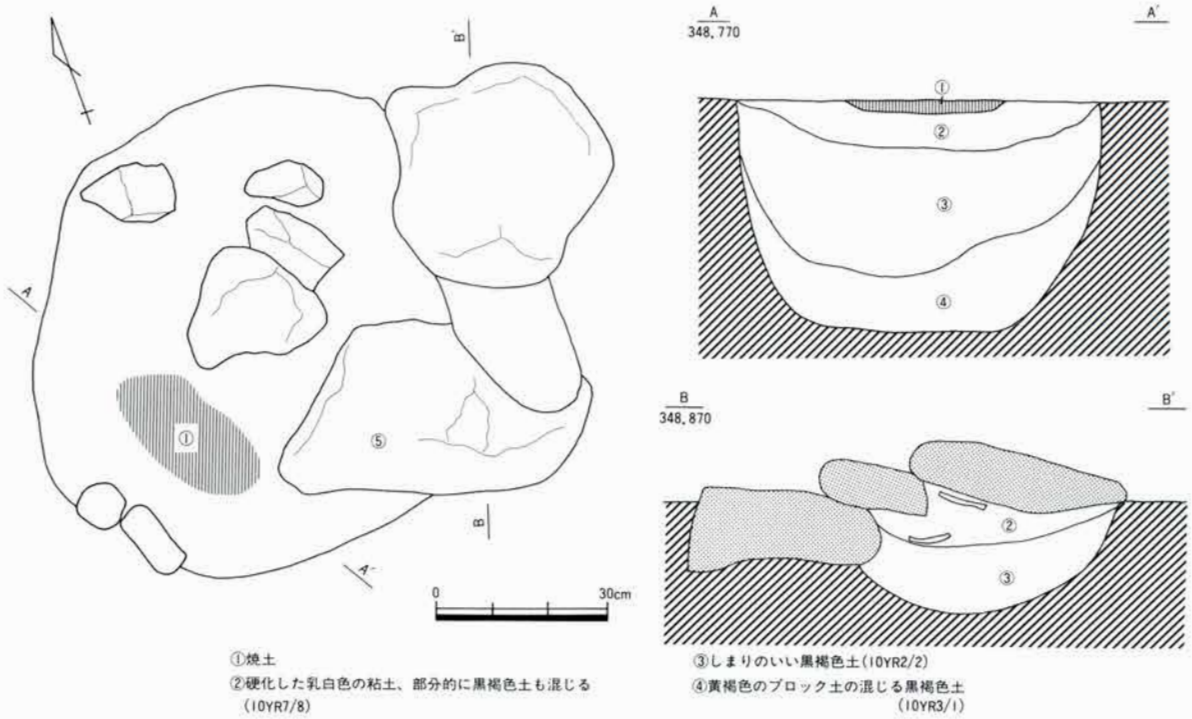
2．第14号住居跡　（ＳＢ14／第26～29図、図版３）

Ｂ～Ｄ－６～７グリッドに位置する。プランの東は、一列に並んだ川原石によって区画されている。西は、その多くが土坑で切られており、南の一部は道路下で地山を少し削り取られた状態でしか残っていなかった。よって、道路下の部分については、プランは不明でピットが検出できるのみであった。全体のプランは、3.2m×約４～５mの隅丸方形であると推定される。

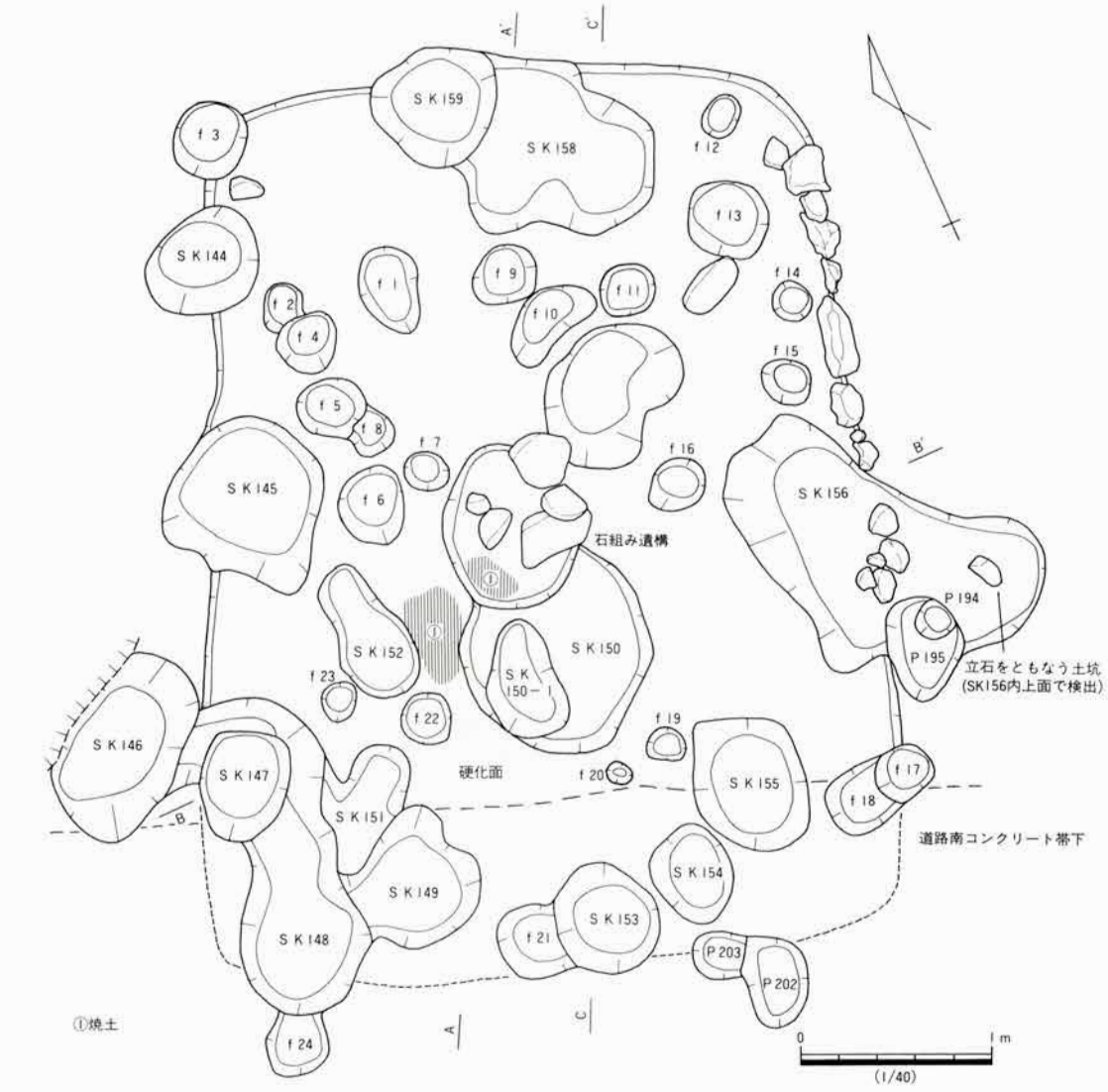
この住居跡は、検出面より各所に多くの焼土、焼石、炭化物がみられた。炉跡は、中央部で焼土がかたまって検出された箇所とも考えられるが、深さ50cmの土坑の上に同時に石組みもあるという状態で、その範囲は明確ではなく、破壊された後に、石組みが作られた可能性が高い。焼土は、25×13cm、厚さ５cmと、かなりの厚みをもった塊として検出された。まわりには、炭化物を多く含む層があった。なお、石組みの、それぞれの石には焼けた痕があり、中央の⑤の裏側には、磨られた痕が明瞭に残っていた。台石等に利用されたものが、この石組みに転用されたものと思われる。

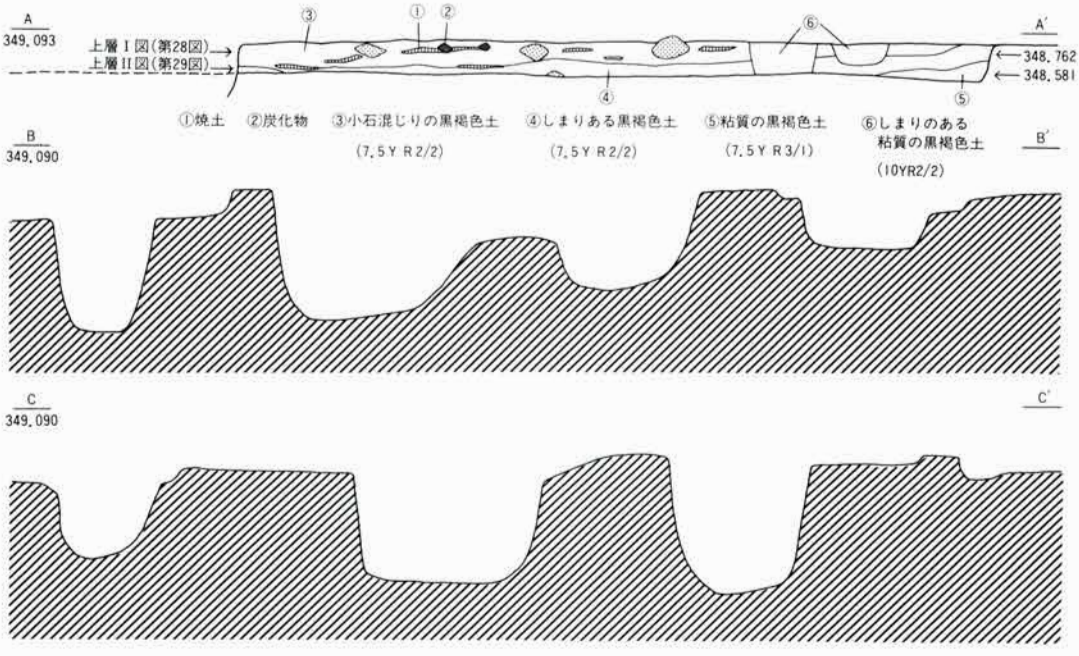
主柱穴は、ｆ１、ｆ６、ｆ11、ｆ16、ｆ19、ｆ22の６カ所と考えられる。硬化面は、炉の南の土坑南部に広がっているが、乳白色の粘土の貼り床で、その厚みは２～５cmとかなり厚い。中央の炉付近やＳＫ150の上部も黄褐色土のやや硬い面があった。床面は、各所に土坑がみられるが、これらのほとんどは、住居の作られる前のものと思われる。

炉の南東部には、土器集中区があり、角礫片とともに数多くの土器片が出土した。（大きい個体として1246，1257，1258がある）その多くはＣ９群のものであった。また、住居跡の約１m南にも、土器集中区があり、Ｃ９群の大きい土器片が２個体出土している。レベルとしては、ＳＢ14の床面と同じかやや低い程度になるが、旧村道南部の削られている部分のため、上部の状況が不明で、住居跡との関連はつかめなかった。

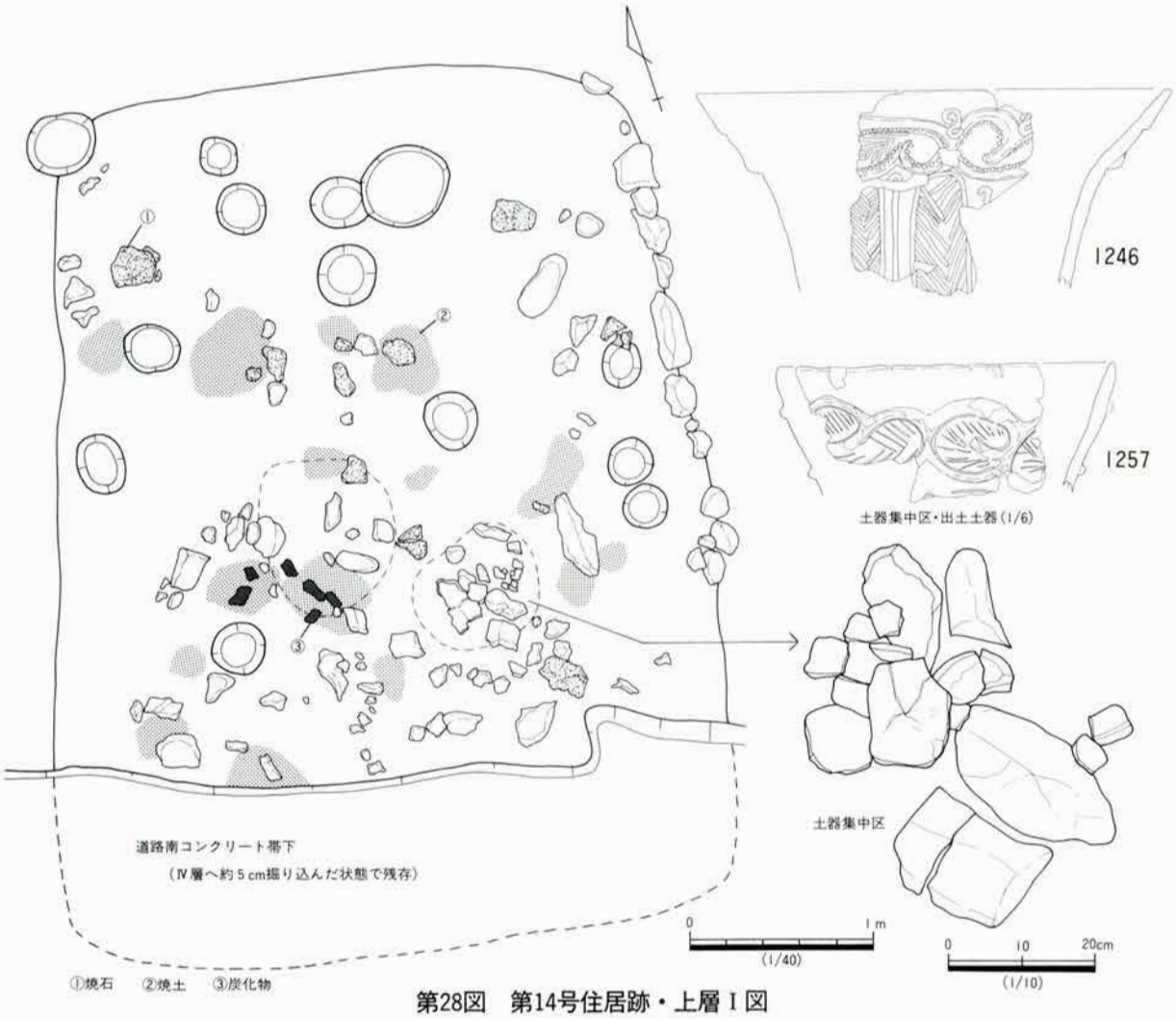


第26図　第14号住居跡・石組み遺構





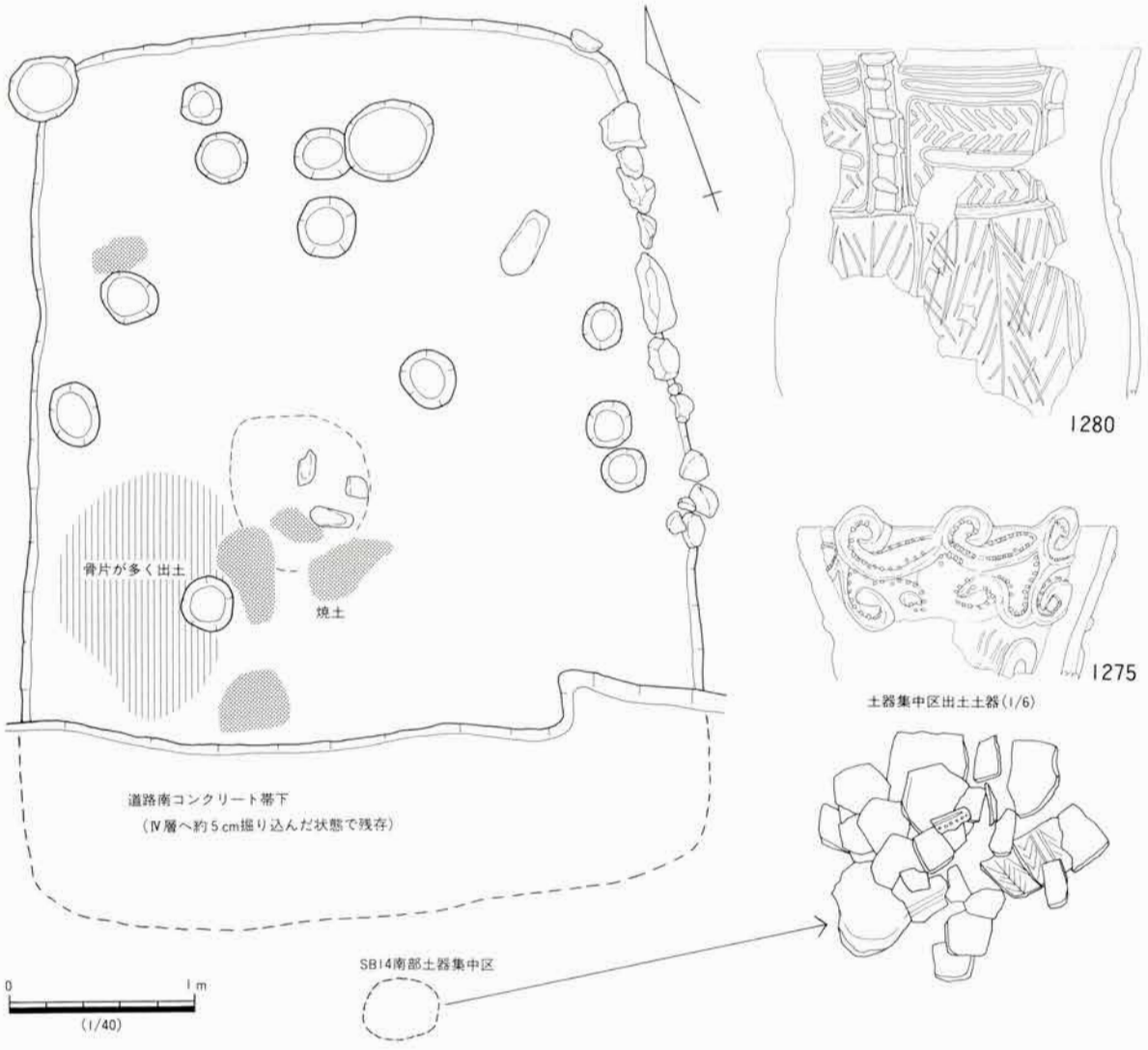
第27図　第14号住居跡（ＳＢ14）



第28図　第14号住居跡・上層Ⅰ図

この住居跡は、土坑やピットによって出土土器の時期が多岐にわたり、また、石組み遺構そのものが、住居にともなうものかどうかも決めがたく、時期を明確に特定する遺物はない。ただ、この住居の北部は、ＳＢ11の下層にあたることや覆土にはＣ９群の土器が多く、吹上パターンであると考えると、この住居はそれよりも古い時期のものであるということがわかる。また、戸入村平遺跡において、隅丸方形の住居跡は３軒すべてが中期中葉のものであることやその硬化面は、ＳＢ17の硬化面と類似していることなどから考えると中期中葉から後葉にかけてのものである可能性はある。

本住居跡は、調査中におびただしい焼土、焼石、それに炭化材が出土した。住居のプラン検出当時より約10cm下のものをⅠ図、それより約18cm下をⅡ図（前頁土層断面参照）として図示したが、Ⅰ図においては、中央部よりに炭化材があり、全体にわたって焼土、焼石が分布する。ただ、土器集中区は角礫とともに多くの土器が出土したが、この付近で焼土、焼石はみられなかった。焼土は厚いもので、1.5cm程度あり、赤く焼けた石の殆どはもろくなってヒビが入っていた。炭化材は、太さ約６cm、長さ15cm程度のものが２本、短めのものが４本、細かく割れたものは無数に散在した。その他、焼けてはいないものの、角礫や川原石が南部を中心に集中して存在した。Ⅱ図においては、焼土が南西部にかたより、それとともに骨片が多く出土した。焼土は、各所で厚さ１～２cmの塊となっていた。骨片は、多くは小片で分散していたが、一部にはまとまって１～２cmの個体で出土した。この骨片は、



第29図　第14号住居跡・上層Ⅱ図

分析によると、内面に海綿体が認められ、かつ外面に稜と溝が認められることなどから、鹿の角であることがわかった（＊１）。また、この鹿の角は、焼けていることもわかり、これらの焼土とも関連している可能性がある。Ⅱ図の面より、３～５㎝下が第14号住居跡の床面となるが、ここでは、石組み遺構付近以外では焼土が検出されず、硬化面、ピットの他、多くの土坑が検出された。これらのことから、この住居跡からは多くの焼土が検出されたものの、当時の住居が火災になったとか、廃棄した住居をその場で焼却したとかの場合は考えにくく、第14号住居跡と上部の焼土とは、直接的な関連は薄いと考えられる。ただ、第14号住居跡が廃絶し、しばらく放置された後、その窪地において、燃焼をともなう何らかの行為が行われた可能性はある。それが、単なる焼却行為なのか、それとも祭祀的行為、あるいは後に立てられた住居の焼却なのかは明らかにできる材料が乏しい。ただ、ここでの炭化材は、樹種はカエデで、放射性炭素年代測定で分析したところ（６章参照）、14Ｃ年代値が、ＡＤ840年を示した。この結果からも燃焼行為が後に行われたことがわかるが、800年前後の遺物は１点も出土しておらず、不明な点は多い。

（＊１）獣骨の同定は、国立歴史民俗博物館の西本豊弘氏による。

3，第15号住居跡　（ＳＢ15／第30、31図、図版３）

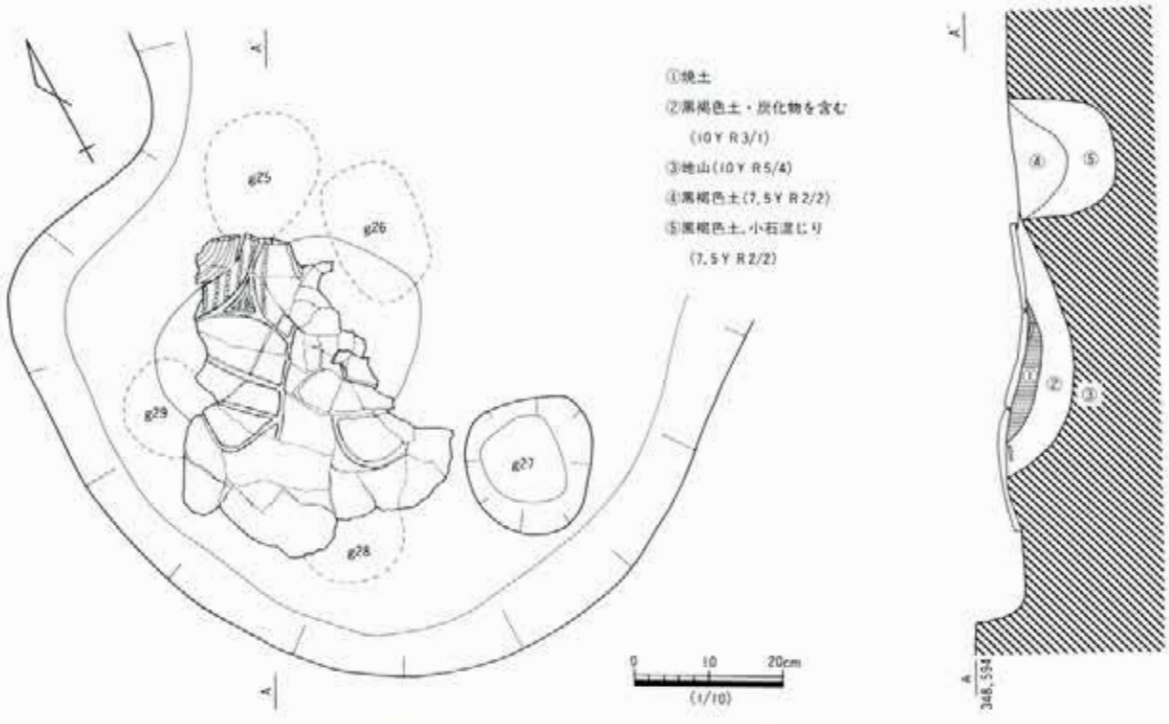
10～11－Ｄグリッドに位置する。この付近は、Ⅳ層になると円礫が多く混じるが、遺構などは黄褐色土の中に黒褐色土の部分が現れるので、検出は比較的容易であった。しかし、この住居跡においては、そのプランが検出できず、炉跡と思われる焼土、炉石抜き取り痕、床の硬化面、周溝跡の一部等の検出により住居跡と確定した。

炉跡は、中央部やや東よりの箇所にあり、焼土が厚さ１cm程度で30cm四方に広がっており、そのまわりには、炉石の抜き取り痕がみられた。また、炉を中心として、乳白色の粘土が、東西２m、南北1.3m、厚さ１～３cmで貼り付けられていた。この硬化面は、ｇ10、ｇ11を境として、北半分と南半分の土質を異にして、北部は小石が多く、南部はやや粘質の粘土が貼り付けてあった。炉跡の東部には、周溝の跡と思われる長さ１m、深さ10cmの浅い溝がみられた。ピットは、数多くみられ、特に炉の北西部では、土坑とも重なり合い、数多くのピットが検出された。主柱穴はｇ１、ｇ７、ｇ13、ｇ14、ｇ32、ｇ50の６箇所は確認できたが、その他は明確にはできなかった。

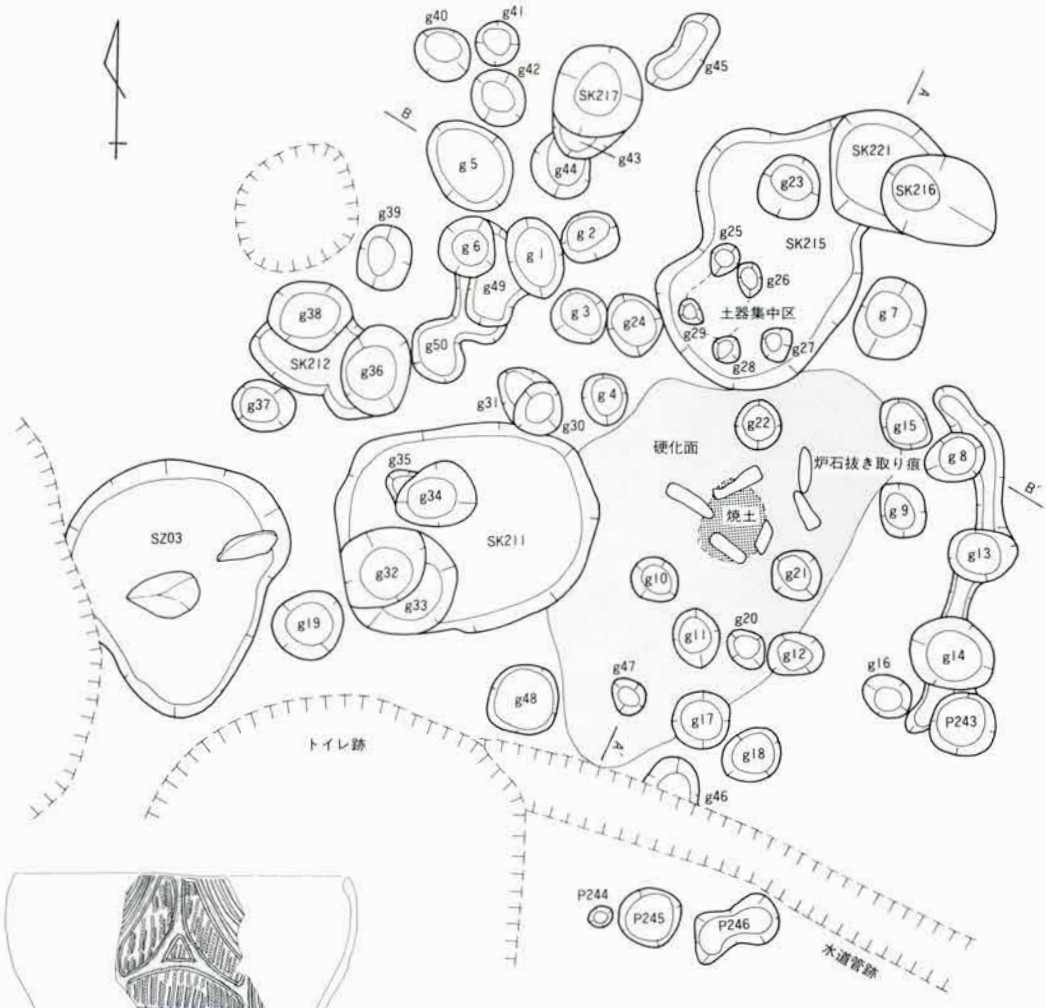
炉跡の北１mの箇所には、50cm四方で深さ３cm程度の浅い掘り込みがあり、南よりには縄巻縄文を地文とし、半截竹管による平行沈線文を施したＣ６群の土器(1281)が、表向きに貼り付けてあった。また、その土器の下部や西には、わずかながら焼土がみられた。なお、この貼り付け土器の下層にもピットが４基検出できた。

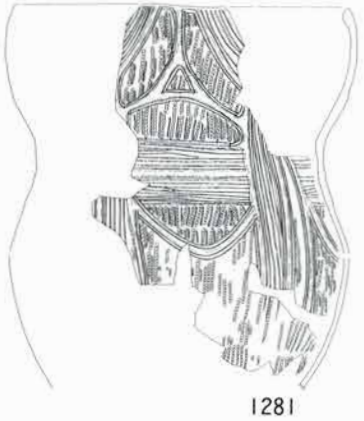
この住居は、覆土からＣ１群、Ｃ２群やＣ６群の土器が多く検出されたが、床付近やピット内からは貼り付けてあった土器以外は、少量出土したのみであった。この住居跡の時期は、炉北部に貼り付けてあったＣ６群の土器を基準とすれば、中期後半のものと考えられる。

なお、焼土、炉石抜き取り痕、周溝跡や土器の貼り付けなど、すべて同一の住居跡のものとは考え難く、何度か建て替えられたものと思われる。



第30図　第15号住居跡・土器集中区

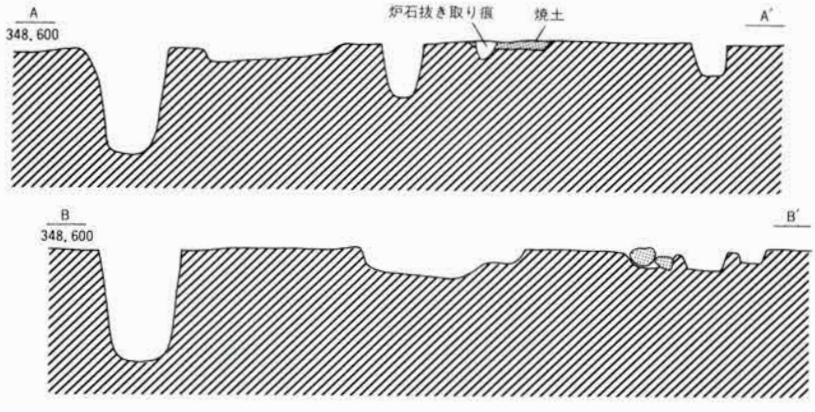




1281

1282

土器集中区・出土土器(1/8)



第31図　第15号住居跡（ＳＢ15）

4．第16号住居跡　（ＳＢ16／第32～34図、図版４）

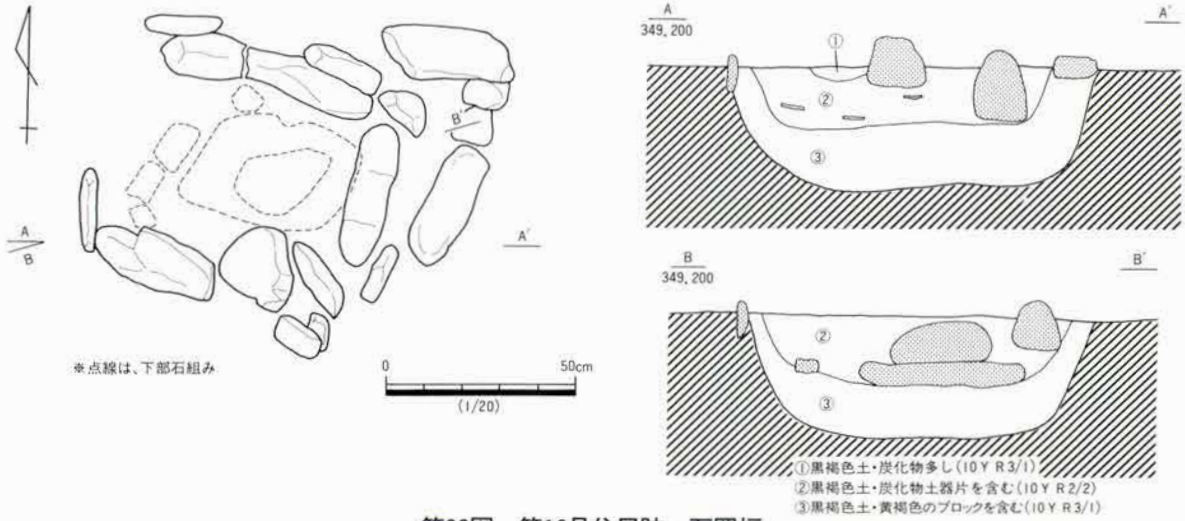
３～５－Ａ～Ｂグリッドに位置し、ＳＢ９の下層にあたる。土層は安定しておらず、後の掘り込みと思われる土坑も多い。西部に一列に並んだ石がみられるが、この住居跡のプランから考えると、住居の境界のものとは考えにくい。石の大きさや並び方などからみると、ＳＢ14の一列に並んだ石に似ているが、この住居跡においては、石列に続くプランは検出されなかった。西部は竪穴状遺構（ＳＸ１）に切られ、南部は道路横のコンクリート帯にあたり、Ⅳ層上部が削られているため壁の立ち上がりは検出できなかった。全体的な残りはよくないものの、直径約5.6mの円形のプランが推定できる。壁面が検出できた北部から東部にかけての立ち上がりは、約15cmである。

炉跡は、中央部やや北よりにあり、80×70cmの方形の石囲い炉である。石はよく焼けていたが、焼土は検出されなかった。炉内の中央下層には、長軸20cm厚さ10cmの石と、約40×30cmの平らな川原石が重ねて置かれていた。これらの川原石には、焼けた痕はなかった。また、炉の断面から推定するに、この場所には、炉が作られるより前に土坑があり、それが半分程度埋まった状態か、あるいは、半分程度埋めて炉を作ったものと考えられる。

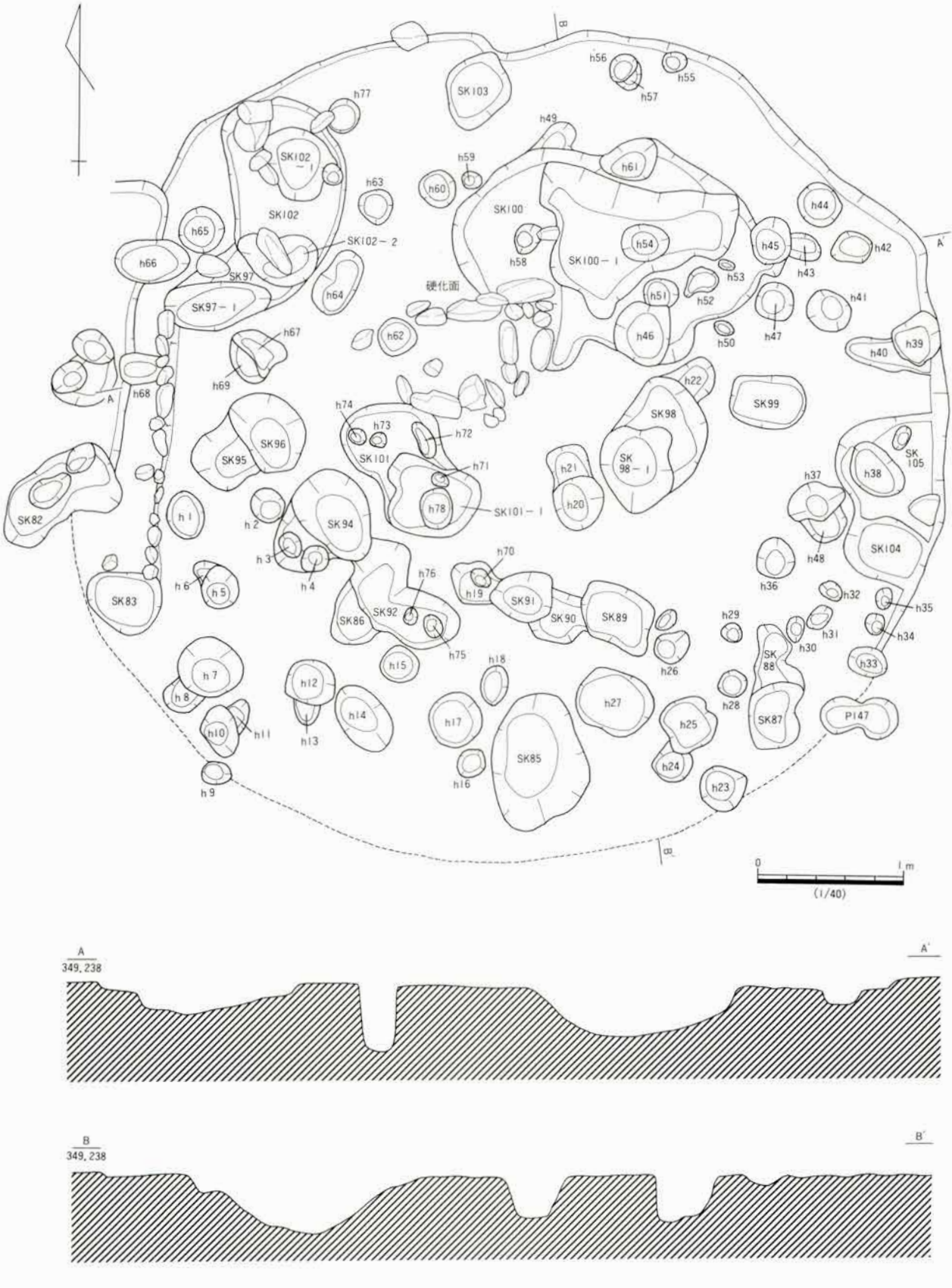
炉の北部には、貼り床と思われる黄褐色（10ＹＲ8/5）の貼り付け粘土の層が、100×80cmの範囲に広がり、厚さは30cmにも及んだ。貼り床と言うより、厚い粘土の層という状態であり、その粘土層中からも土器が出土した（1305）。

推定プランの内部には、多くのピット・土坑が重複しているが、主柱穴はｈ１、ｈ14、ｈ25、ｈ47、，ｈ48とＳＫ102の下層部のピットｈ78（第34図）の６カ所と思われる。その他、北部の立石を伴う土坑や炉跡北東部の土坑は、後に掘り込まれたものと思われ、ここからはＫ１群の土器が出土した。

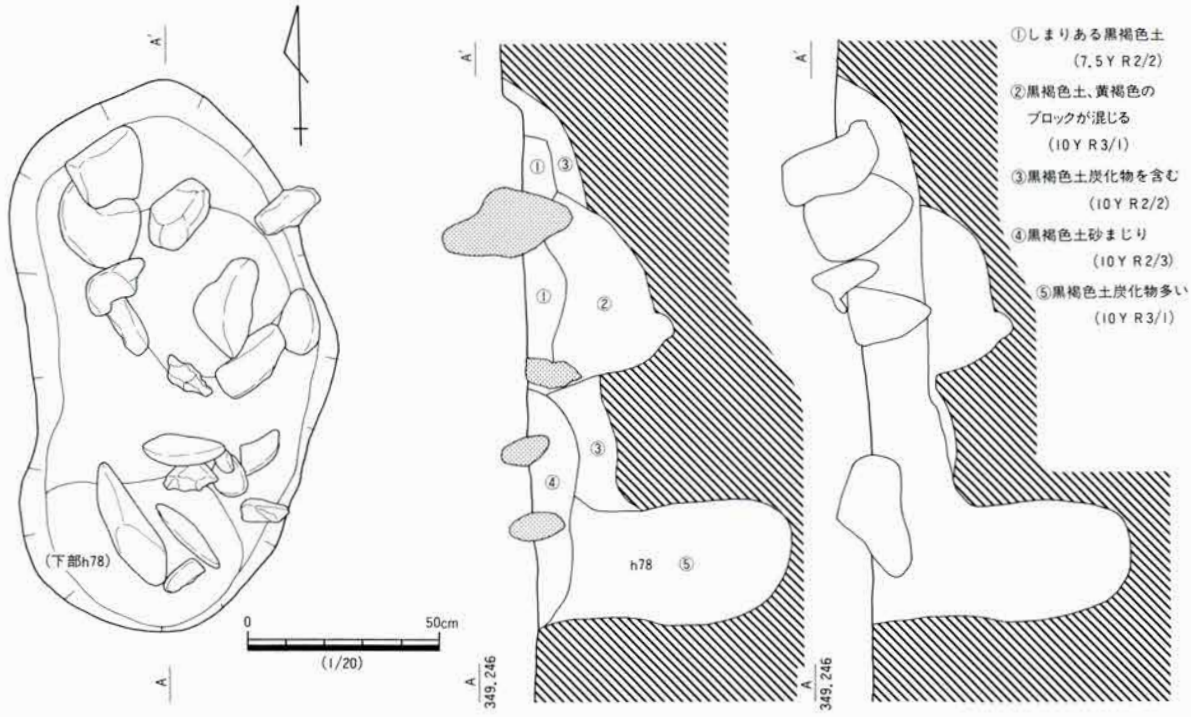
この住居の時期を考えるに、覆土には中期の土器が多いものの、土坑やピットには、Ｋ１群の土器も少なからず混入しており、判断するのが難しい。明確な箇所から出土したものは、炉北の貼り床と思われる粘土の下層から検出されたＣ７群と同時期とおもわれる土器（1305）、同じ貼り床の上層から出土したＣ６群の土器（1306、1307）、炉内から出土したＣ２群（1302）、Ｃ９群（1303）の土器である。何度も建て替えられた可能性は高く、これらすべてが同時期に存在したとは考えられないが、総合的にみれば中期後半であろう。



第32図　第16号住居跡・石囲炉



第33図　第16号住居跡（ＳＢ16）



第34図　第16号住居跡・立石をともなう遺構（ＳＫ102）

5．第17号住居跡と第18号住居跡（ＳＢ17、ＳＢ18）－ＳＢ７北部の住居跡－

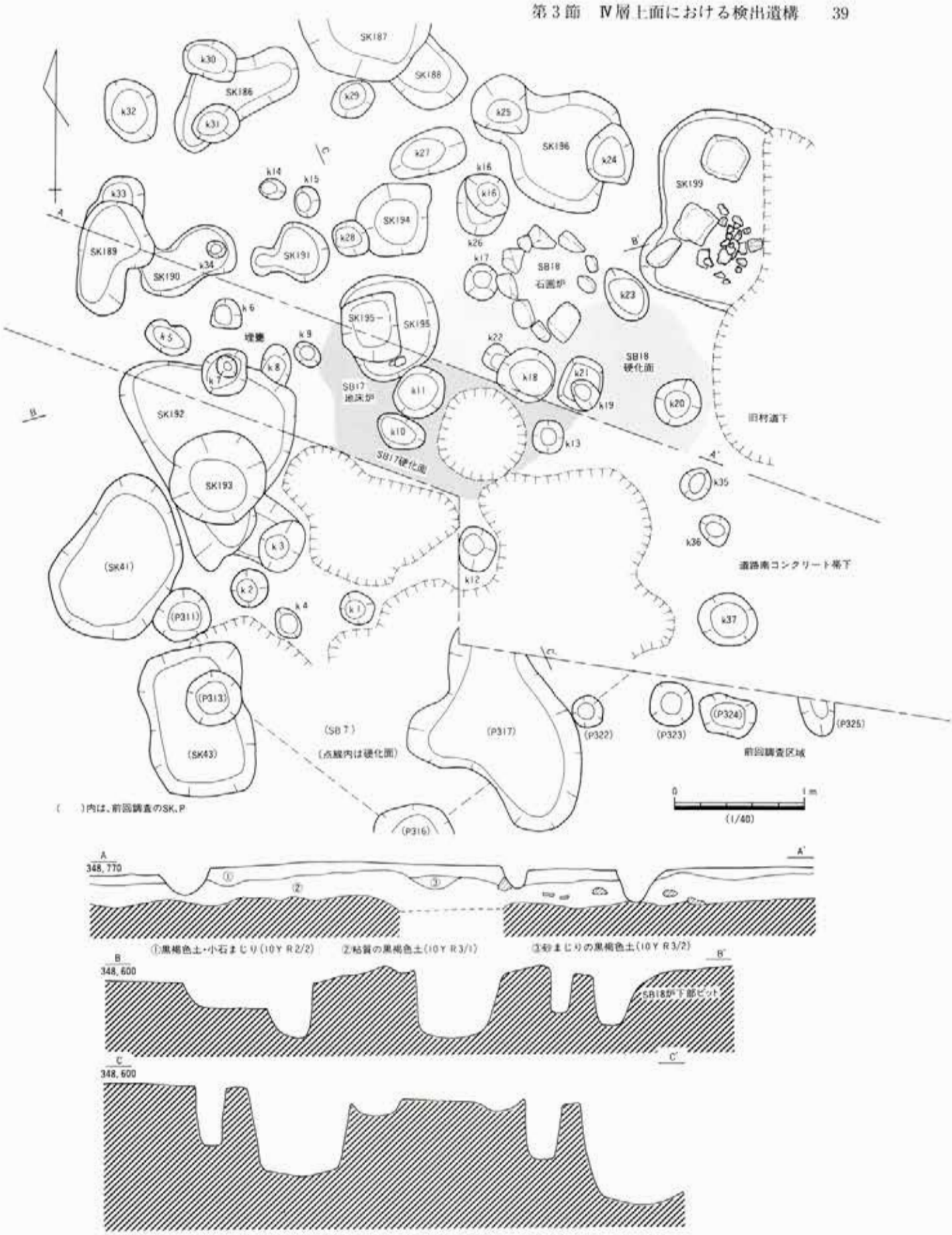
ＳＢ７は、前回の調査で南半分が検出されたままになっていたものである。前回の調査では、床の硬化面などから隅丸方形の住居跡で、時期は覆土から出土した土器により中期中葉後半のものであると報告された。そこで、今回は、その延長部分の調査を行ったわけだが、前回と今回の調査区の間の部分が、道路横ということもあり、電柱やコンクリートブロック等で大きく破壊されており、接続部分は、はっきり確認できなかった。しかし、幸いにも残っていた部分から、重なる２軒の住居跡が検出された。（なお、前回と今回の調査区は連続しており、その関連性は大きく、同一遺構である可能性は高いが、明確な接点はないので、以後、前回調査のものをＳＢ７、今回調査の住居跡をＳＢ17、ＳＢ18とする。）

(1)　第17号住居跡　（ＳＢ17／第35～37図、図版４）

前回調査のＳＢ７とほぼ同じ高さか、やや高い床面の９～10－Ｄ～Ｅグリッドに位置する。ここは、旧村道南のコンクリート帯で、Ⅲ層までは完全に削り取られ、地山面でのみ検出できた。ＳＢ７と同一である可能性は高いが、実証できる材料が乏しく断定はできない。

この部分からは、地床炉、硬化面、埋甕が検出された。地床炉は、北半分が土坑で削られており、南半分のみ検出された。直径約60cmの地床炉と思われ、表面にはＣ１群の土器が表向きで二重に貼り付けてあった。この土器の下部あるいは横には、厚さ２～３cmの焼土層がみられた。なお、この地床炉の、下層には深さ１mあまりの大きな土坑が先行してあり、それが埋まった後、この炉は作られたと考えられる。

床硬化面は、乳白色で２～３cmの厚みをもっている。炉を中心としてあり、南部へと広がっている。レベル的に考えて、これがＳＢ７の床硬化面につながる可能性は大きいが、南部は、電柱等の大きな攪乱で削り取られており、同じであると断定はできなかった。



第35図　第17号・第18号住居跡（ＳＢ17、ＳＢ18）

炉の西部で、埋甕が正位で検出された。土器に比べ掘り方が大きく、少し東に傾いた状態で埋められていた（1337）。土器は小ぶりで、内部には炭化物が多く付着していた。また、内部の土からは骨片と思われる白い粒状のものが検出された。

主柱穴は、攪乱が多く、明らかにできないが、k２、k12、k17は、その可能性がある。

この住居跡の時期は、炉に二重に貼り付けてあったＣ１群の土器（1336、Ｂ類、縄文を地文とし、幅の狭い貼り付け隆帯の両側に半截竹管による平行沈線を施す）をもとにすれば、中期中葉のものと考えられる。

(2)　第18号住居跡　（ＳＢ18／第35～37図、図版４）

Ｄ９グリッドの道路下層部に位置する。付近には、土坑や攪乱が多く、プランは判然としないが、第17号住居跡の北部で、レベル的には約10cm高い箇所で石囲炉が確認できた。

炉は、川原石を直径約70cmの円形に組んだ石囲炉である。炉内東半分は、土器が裏向きで敷き詰めてあった。これらの土器片は、すべて同一個体であったが、口縁部や底部は一片もなく、すべて胴部のものであった。焼土は、発見されなかったが、炉石は焼けており、炉内からは炭化物が多く検出された。また、この炉下には、ピットがあり、Ｃ１群の土器が検出されたが、ＳＢ17にともなうものであろうと考えられる。

床硬化面は、ＳＢ17に比べ、東へ約80cmずれた炉の南部で検出された。乳白色の粘土で、厚さ２～３cm貼り付けてあった。主柱穴は、判然としない。

この住居跡の時期は、炉に敷いてある土器がＣ９～Ｃ11群の胴部であると考えられ、これから判断すると中期後葉である。

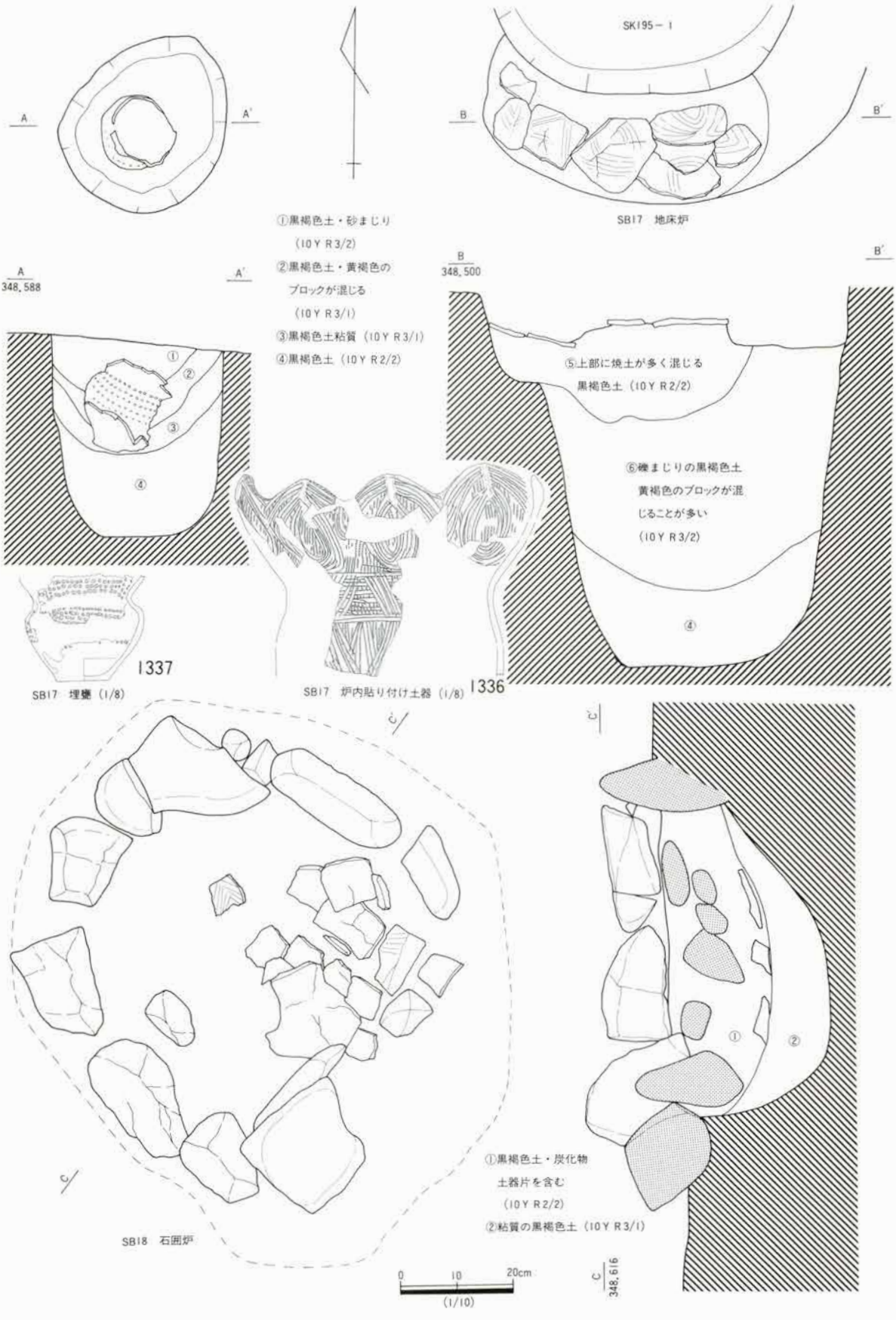
なお、この住居跡の付近には、土器集中区があるなど、大量に土器が出土したが、ＳＢ18と関連するものかどうかは明確ではない。

(3)　第18号住居跡付近　土器集中区Ａ（ＳＫ199／第37図、図版４）

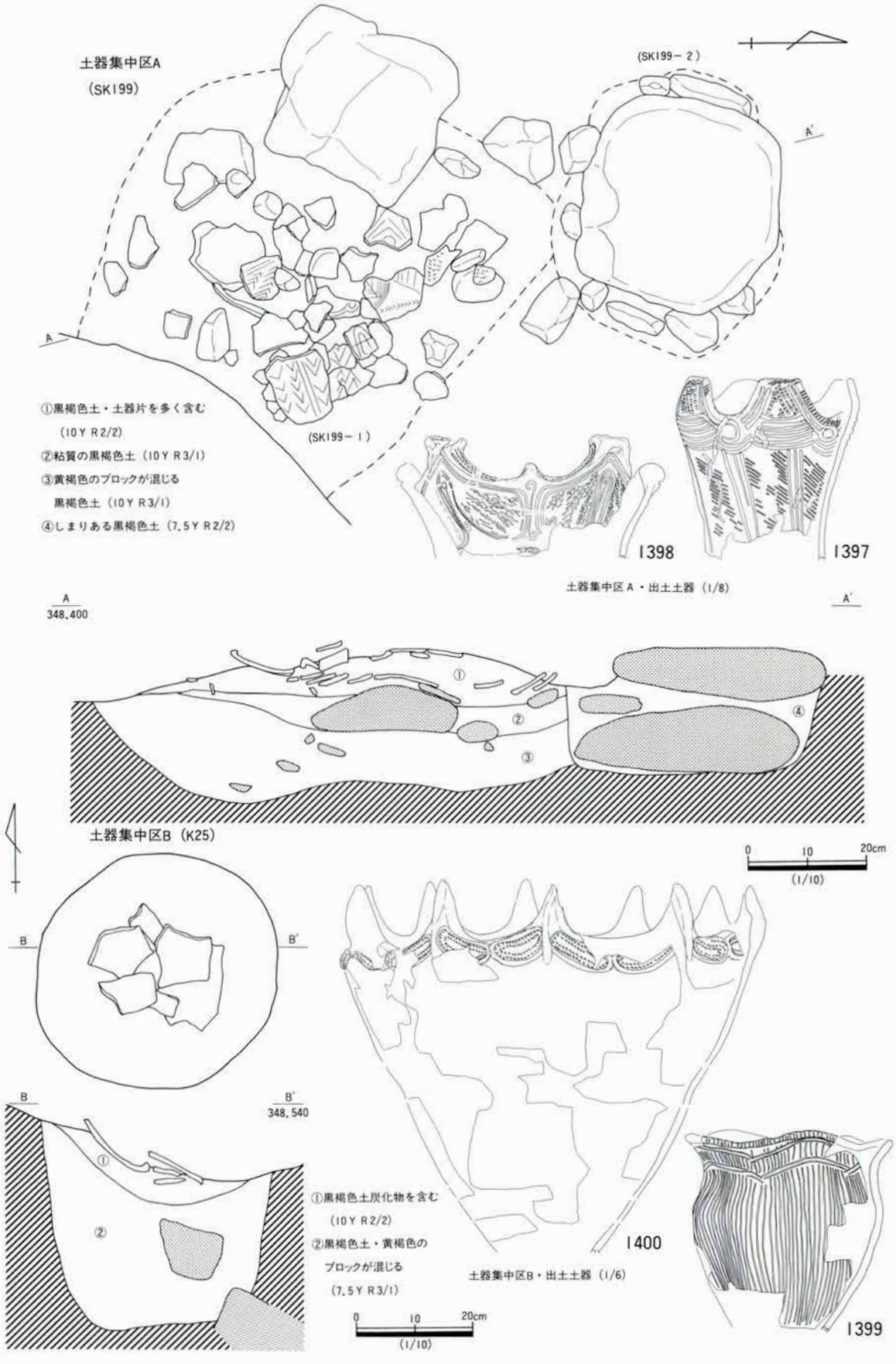
ＳＢ18の東にあり炉よりレベルとしては低い所に位置している。南に平たい川原石とともに、約40cm四方に広がった土器集中区があった。これらの土器が集中していたのは、この土坑の上部付近であり、下部では、ほとんど土器がみられなかった。その北には、同じような平たい石を二段に積み重ねたものがあったが、この両方の遺構の関連性は明らかではない。ここからは、Ｃ10～Ｃ11群の土器が出土している。

(4)　第18号住居跡付近　土器集中区Ｂ（ｋ25／第37図、図版４）

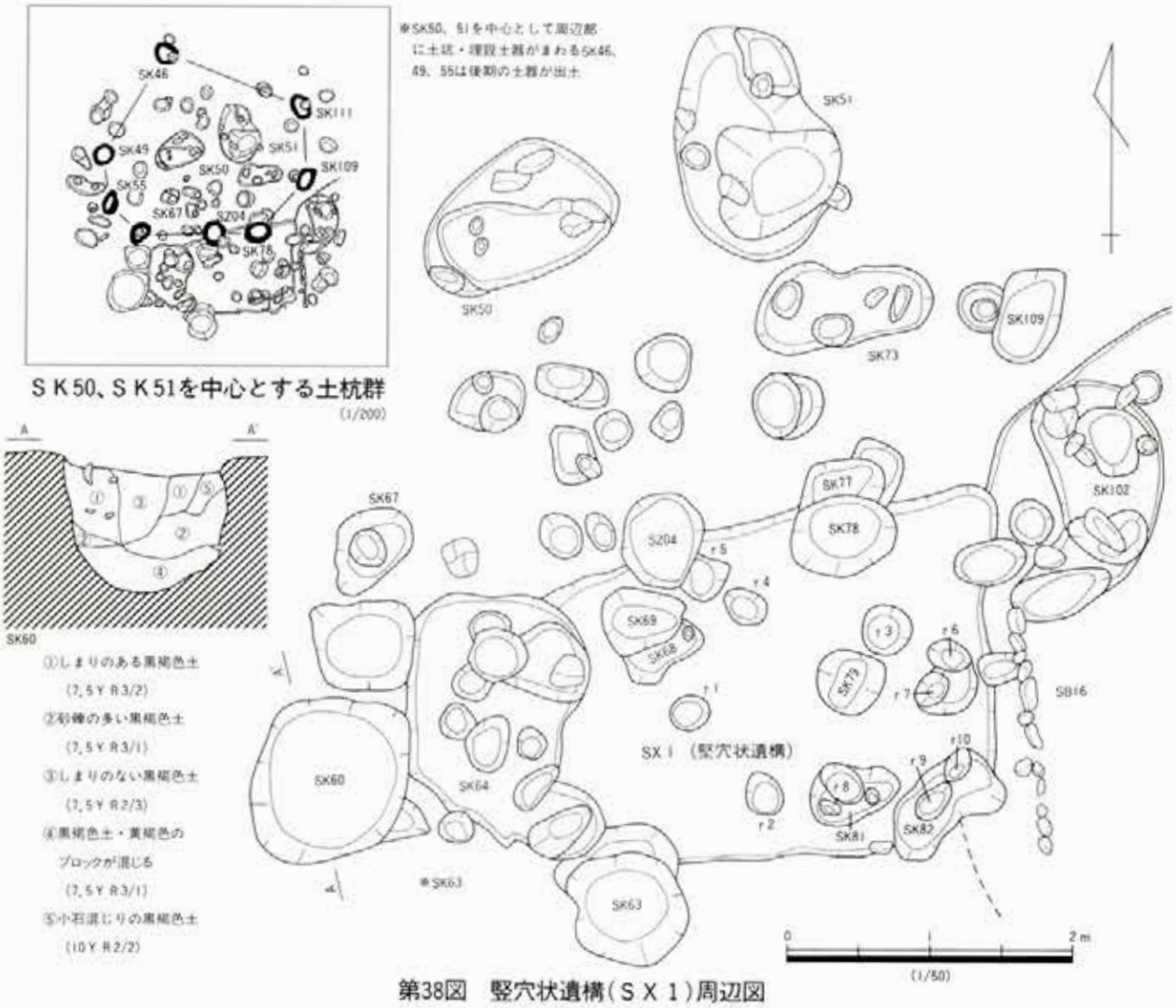
ＳＢ18北部に位置し、土坑表層に土器の大きな個体が露出していた。断面を見ると、もともと深い土坑があったところが、半分程埋まり、その窪地に土器が入れられたと考えられる。ここからは、重なって大きい２個体（1399、1400）が出土した。1399は、上部半分が横位で、ほぼ完全な形で出土しており、投げ捨てられたというより埋められた可能性がある。また、同じ層の底部からＣ６群の土器（1401）が出土している。ＳＢ17やＳＢ18の想定されるプランの内部にはなるものの、その関連性は明確ではない。



第36図　第17号住居跡・地床炉・埋甕、第18号住居跡石囲炉



第37図　第17号、第18号住居跡付近　土器集中区A (SK199) B (SK25)



ＳＫ50、ＳＫ51を中心とする土杭群
(1/200)

第38図　竪穴状遺構（ＳＸ１）周辺図

６．竪穴状遺構（ＳＸ１／第38図、図版５）

３～４－Ａ～Ｂグリッドに位置する。東西３m、南北2.5mの隅丸方形の竪穴である。壁の立ち上がりは約20cmで、明確にわかる。東部では、ＳＢ16を切っているが、西部では土坑に切られている。ピットのｒ１～ｒ４が、柱穴と考えられなくもないが、建物が建っていたかどうかは判然としない。内部では、住居跡にあるような硬化面、焼土等は検出されなかった。この遺構外隣接の南西部には、深くて下部になるにつれてやや広がるフラスコ状の土坑であった（ＳＫ63）この土坑の中位壁面には、焼けた跡がみられた。この土坑が、ＳＸ１に関連するものかどうかは明確ではないが、ＳＸ１と同様にＫ１群の土器の出土割合が多かった。

この遺構の時期であるが、底面と思われる場所からの土器の出土がなく、埋土からの出土土器で考えざるをえないが、ＳＢ16を切っていることと、Ｋ１群の土器が、判別できる土器の2/3を占めていることなどから、後期前葉のものと考えられる。

７．東部土坑群

(1)　ＳＫ200（フラスコ状の土坑／第39図、図版５）

Ｅ10の道路南コンクリート帯下に位置する。140×80cmで、入口より底部の方がやや広いフラスコ

状の土坑である。底面は二段になるが、ほぼ平面をなした。内部からは、C2、C6、C11群の土器が少量出土し、他は何も出土しなかった。

(2)　SK207　（石錘が多く出土した土坑／第39図、図版5）

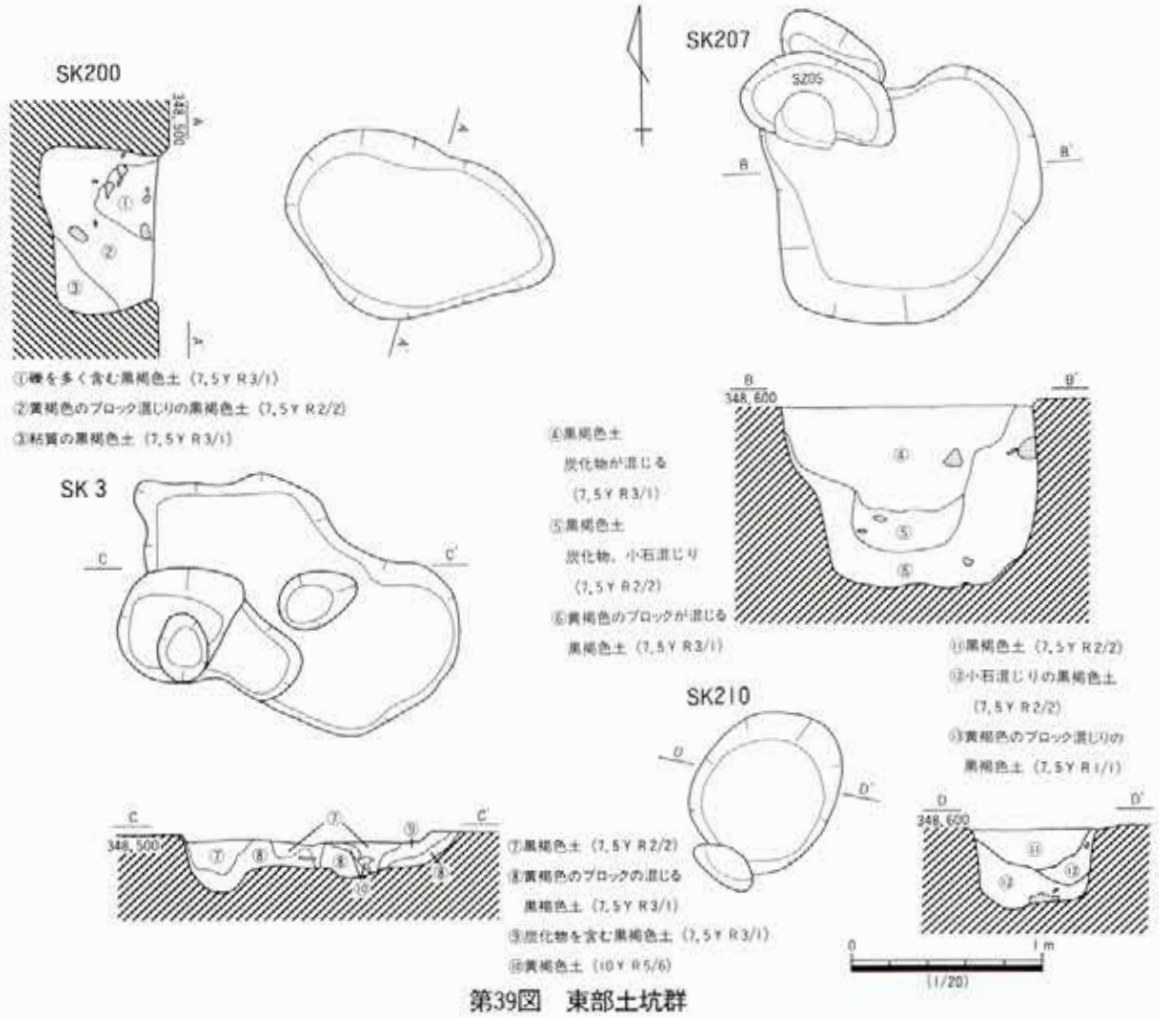
E11の旧道路下面に位置する直径約1.2m、深さ1mの大土坑で、当初はフラスコ状で、後に再利用される中で形状が多少変化した可能性がある。④の黒褐色土層底面付近から、切目石錘21、打欠石錘5というように、石錘が大量に出土している。それら石錘のうち、切目では7個、打欠では2個について帯状痕が認められた。この土坑の内部からは、C6群の土器が出土した。

(3)　SK3（第39図、図版5）

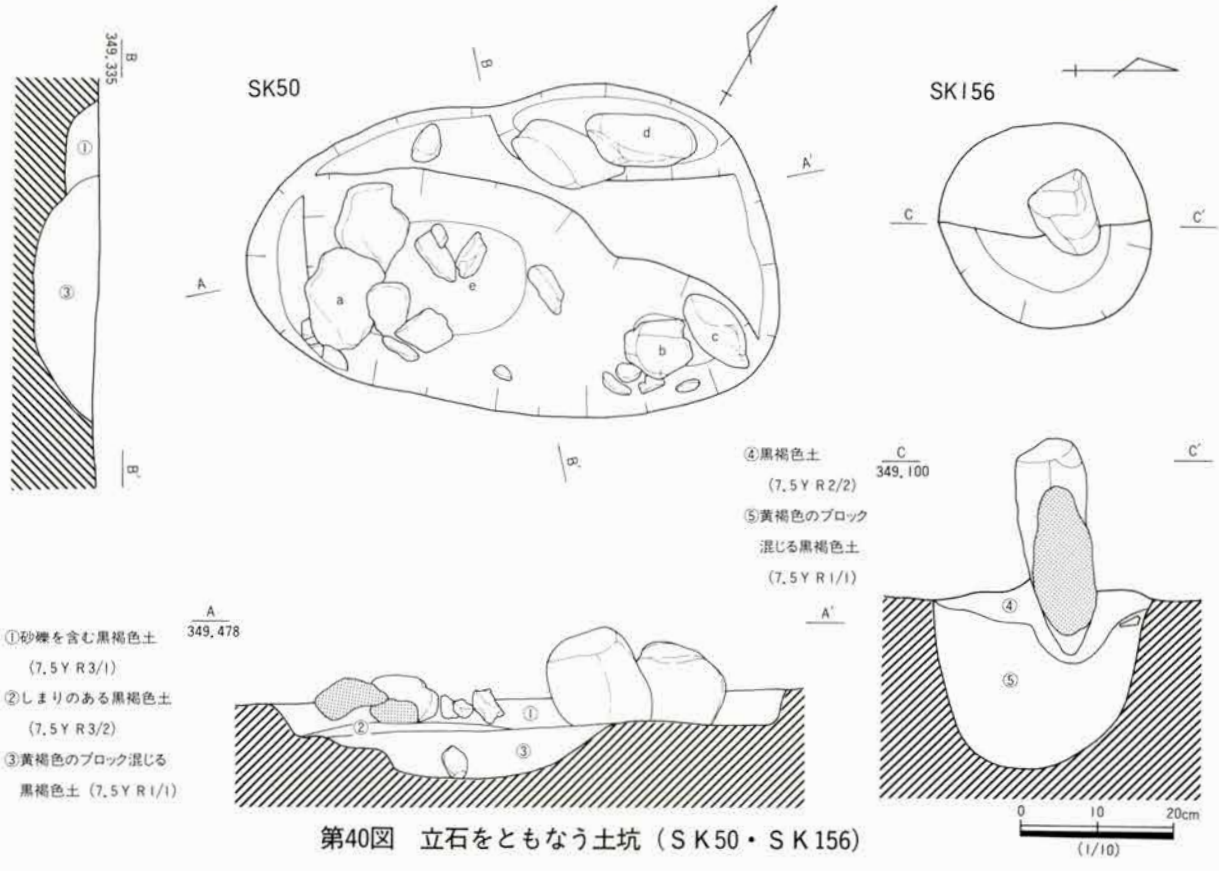
F12の旧道路下面に位置する。1.6m×0.8m、深さ40cmの土坑で、ピットや他の土坑が重なっている。C1群～C6群の土器が多く出土した。

(4)　SK210（第39図、図版5）

F12の旧道路下面に位置する。80×70cm、深さ40cmの土坑で、南上部に平たい川原石がある。土器は、ほとんど出土しなかった。



第39図　東部土坑群



第40図　立石をともなう土坑（ＳＫ50・ＳＫ156）

８．立石をともなう土坑

(1)　ＳＫ50（第40図、図版５）

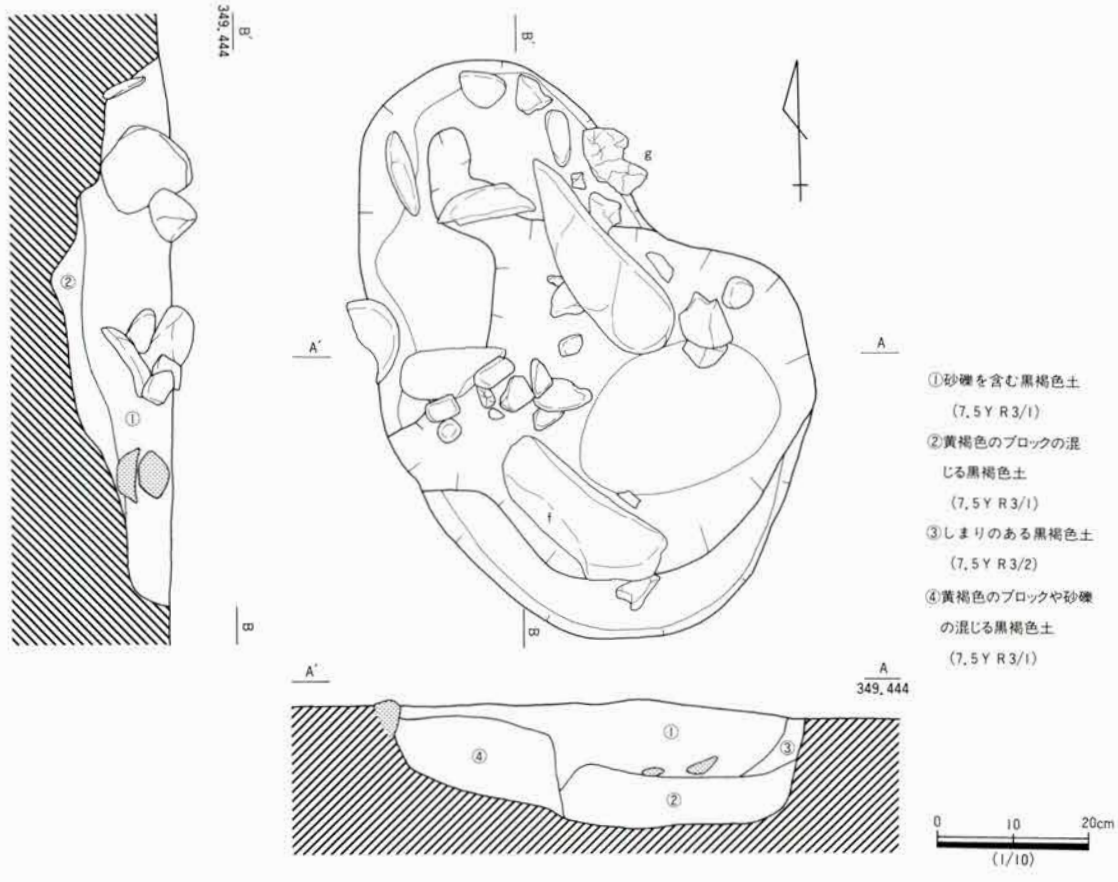
ｚ４グリッドに位置する。1.4×0.8mの立石をともなう土坑で、骨片がわずかに出土した。立石は、ｂとｄである。内部にも土坑があるが、立石ｂと内部土坑との切り合いは不明瞭であり、土坑掘削と同時に設置したのか、それとも埋葬後に立石を設置したのかは確定できない。ただ、断面からは、土坑掘削して直後に埋葬し、上部に川原石を積んでいる状況がうかがえ、前者の可能性が考えられる。ａの川原石には加工痕があり、ｃの石は、焼けた痕があった。ｅは、川原石ではなく、角礫であった。この土坑は、墓坑の可能性が強く、時期は、出土したＫ１群の土器から、後期前葉と考えられる。

(2)　ＳＫ51（第40図、図版５）

ｚ４グリッドに位置し、長軸はSK50にほぼ直交する。1.6m×１mの立石をともなう土坑で、１基だけある立石は、中央南の土坑の掘り方に接して検出した。ｆの立石以外の石は、全て覆土とともに埋められた状況である。ｇを除くすべてが川原石である。この土坑の時期は、出土土器からみると、Ｃ２群～Ｋ１群の土器とさまざまであるが、後期の可能性が高い。なおＳＫ50・51を中心として、周辺には半径約2.5mで８基の土坑が存在し、相互に関連している可能性がある。

(3)　ＳＫ156－１（第40図、図版５）

Ｃ８グリッドで、ＳＢ14の東部に位置する。直径約50cmの土坑で、ＳＫ156の範囲内の上面にあり、ＳＫ156の埋没過程で作られたと考えられる。長さ約60cmの細長い川原石が立ててある状態で検出し、土坑内にそれ以外の川原石はなかった。出土土器は、⑤層に多く、Ｃ１～Ｃ６群であった。



第41図　立石をともなう土坑（ＳＫ51）

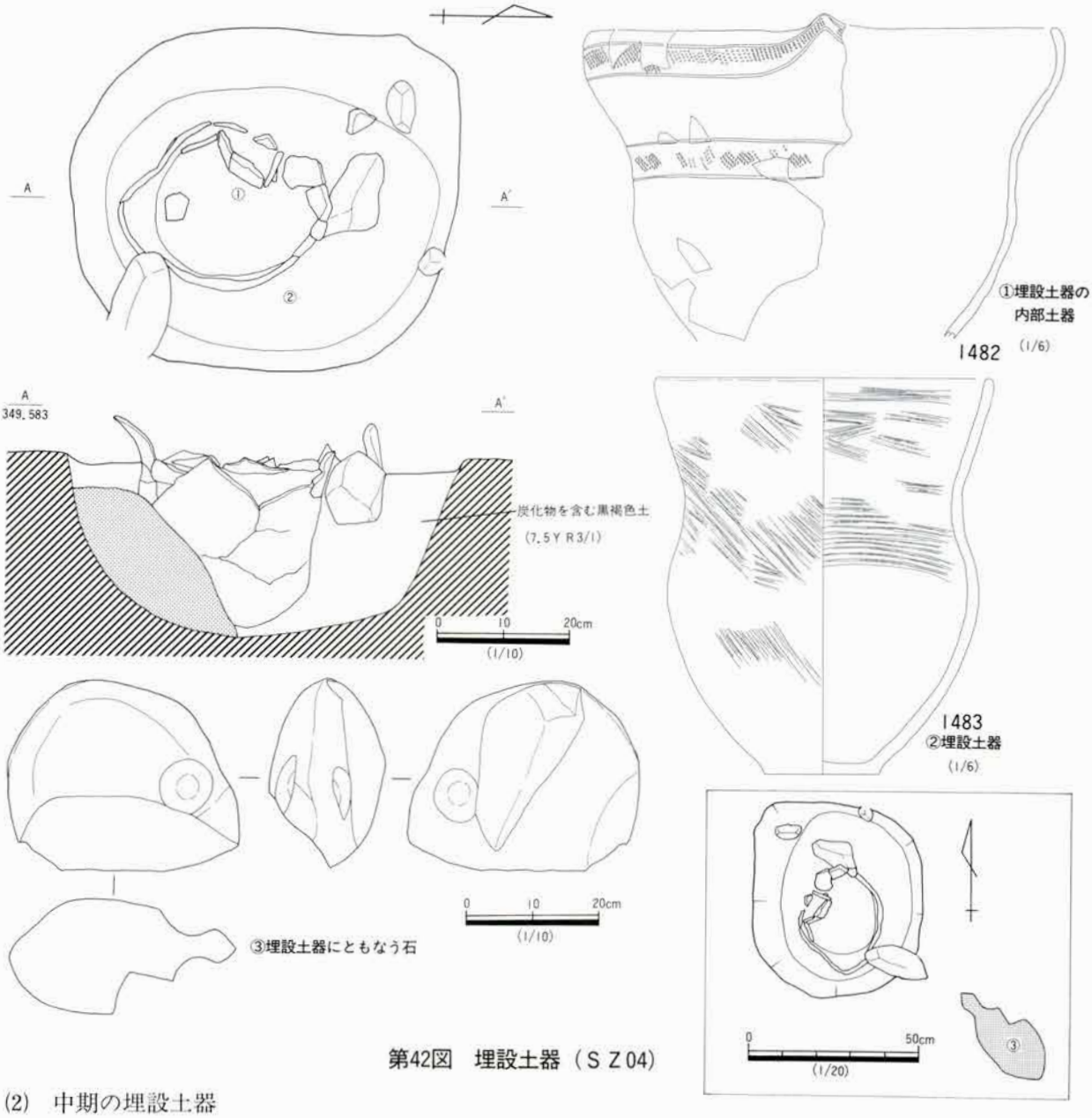
９．埋設土器

(1)　後期の埋設土器

①ＳＺ04（第42図、図版６）

ＳＫ50、ＳＫ51南部、Ａ４グリッドに位置し、正位で埋設されていた②。上部は、少し欠損していたが、胴部、底部の残りはよかった。内部には、重なるように、白っぽい別の土器片で個体半分程度の大きなものが立位で埋まっていた①。いずれの土器もＫ１群のものと考えられる。口縁部の径は、内部の土器の方が大きく、割られたものが同時に埋められたか、わずかに時期をずらし上下で埋められ、上部のものが割れて下部に落ち込んだなどのことが考えられるが、明確にはわからなかった。ただ、内部の白い土器の口縁上部の土器片（３個体）が、埋設土器内部からではなく、Ａ４グリッドの周辺部、あるいはＳＸ１内部の土坑ＳＫ79から出土していることなどから、ＳＸ１との関連も考えられる。また、埋設土器内部の土からは、骨片と思われる白いちいさな粒が検出された。

なお東部には、石の両面を直径７㎝で半球形にくり抜いた恐竜の頭蓋骨にも似た石が立てられていた。位置関係は、図にある通りであるが、とがった方が、埋設土器の方へ向けられていた③。この表裏２面にある半円球のくり抜きであるが、人為的にくり抜いた痕が明瞭にはみられないため、川の流れの作用や雨だれなどの水の作用という自然条件によってそうなった可能性はある。しかし、このような特徴的な石を持ってきて、埋設土器に向けて立位で設置したのは、まぎれもなく当時の人の行為であろうと考えられる。



第42図　埋設土器（ＳＺ04）

(2)　中期の埋設土器

今回の調査では、埋甕・埋設土器が５基検出された。２例は、中期の住居跡に伴うもので、あとの３例は、住居跡に伴わないものである。ただ、後者のうち、１例は後期のもので、あとの２例は中期のものである。この２例は、ＳＢ15とＳＢ17、18の付近にあるものであり、それらの住居跡との関連も考えられる。ただ、この付近は現代の掘り込みによる攪乱が激しく、そのつながりは判然としなかったためここでは単独のものとして報告する。

①ＳＺ03（第43図、図版６）

D11グリッドのＳＢ17、18の東部、ＳＢ15南西部に位置する。上部南方に川原石があり、その下層に正位で北に傾いた状態で検出された。上部の残りは非常によく、ほとんど完全な形で復原できたが、土器下半分はなかった。下は、掘り方の底部に着いた状態であり、付近に土器のその他の破片がなかったことなどから、底部がない状態で埋められた可能性が強い。土器の胎土は、徳山の土器としては他に例がみられないほど赤く硬質であった。口縁部には、炭化物が多く付着していた。胴部の厚みや

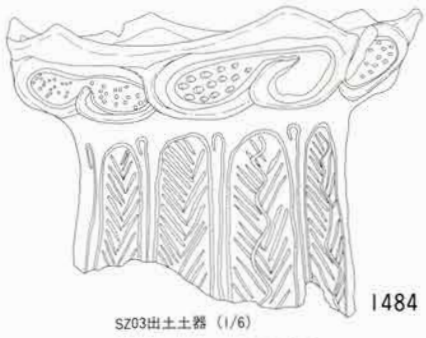
葉脈状の文様等は、ＳＢ18の炉内に敷いてあったものに類似していた。

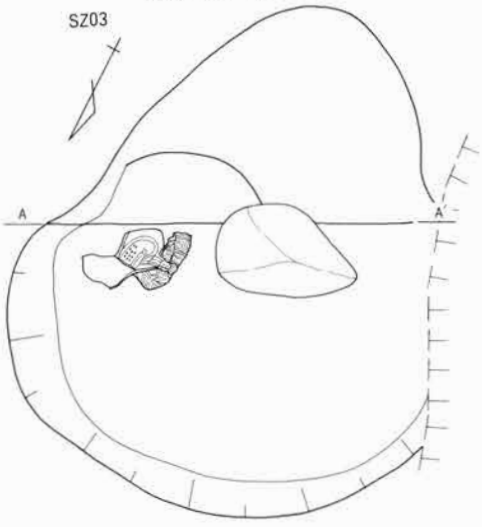
また、この土坑の底部付近②層（第43図）からは、Ｃ６群の縄巻縄文を地文とし、半截竹管で施文する土器(1485)が出土している。

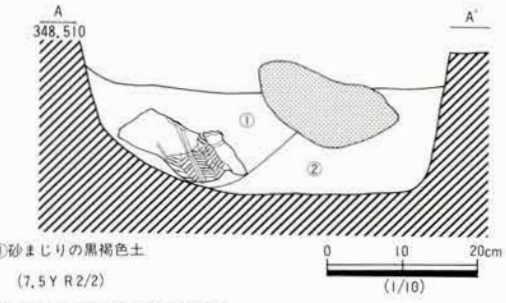
②ＳＺ05（第43図、図版６）

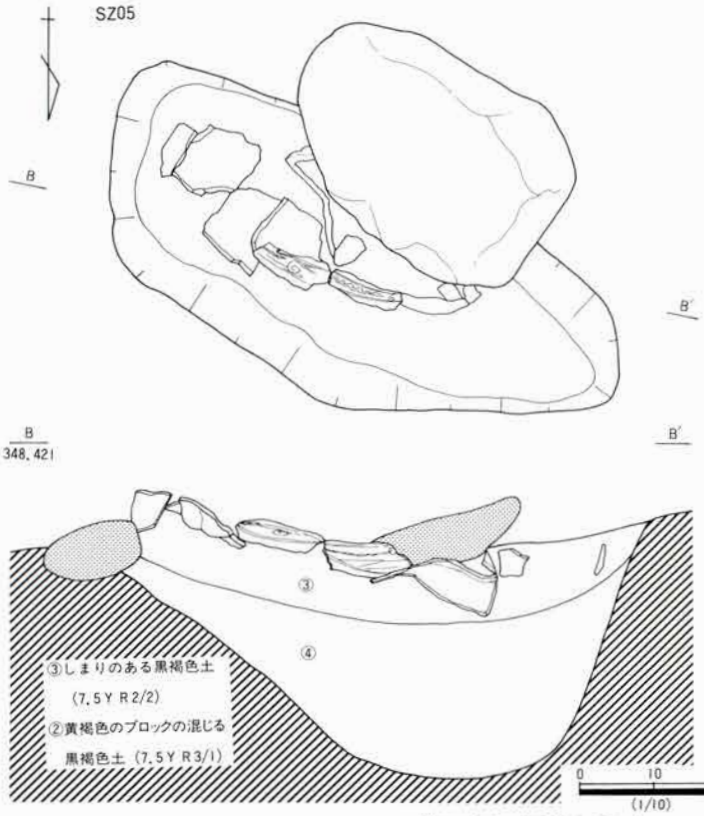
Ｅ11グリッドのＳＫ207の北部にあり、上部でこの土坑を切る形で検出された。平たく細長い川原石の下で検出された。土器は、口縁部の残りがよく、胴部より下の土器片は出土しなかった。全体的に、土器は細かく破砕されており、埋設状態は判然としないが、正位で底部のない状態が想定される。断面図における③が、この土器を埋めた時のもので、④はＳＫ207につながるものである。土器は、Ｃ７群のものである。

なお、この土坑の底部からはＣ６群の縄巻縄文を地文とし、半截竹管で施文する土器小片(1486)が出土している。また、上層からは、中期末のものと思われる土器の大きい個体（1686）が出土しており、この区域は、何らかの役割をもったエリアであった可能性がある。









第43図　埋設土器（SZ03・SZ05）

第1表　縄文時代の土坑（SK）一覧表　*土坑の深さは、50cm以上のものにつき備考欄（ ）内に記載

NO.	場所	平面形	大きさ	出土土器	石器	備考
SK01	x3	円形	96 x 92	K(37)	25	土器集中区(109)
SK02	B9	楕円形	180 x 160	C11(25),C6,C9(22)	37	土器集中区
SK03	E11	不整形	184 x 100	C6(7),C11(5)	9	<SK208,209
SK04	y2	楕円形	54 x 40			
SK05	y3	楕円形	58 x 42	C6(1)	3	>SK06
SK06	y3	隅丸方形	54 x (40)			<SK05
SK07	y3	不整形	64 x 60			
SK08	y2	不整形	54 x 26			
SK09	y2	不整形	46 x 40			
SK10	y2	楕円形	48 x (26)			<SK11
SK11	y2	楕円形	48 x 24			>SK10
SK12	y2	楕円形	36 x 22			<SK11
SK13	z2	不整形	50 x (24)			<SK14
SK14	z2	不整形	54 x (24)			調査区西端
SK15	z2	不整形	(70) x 48			<P24
SK16	z2	円形	62 x 62		2	>SK17
SK17	z2	円形	44 x (40)			<SK16
SK18	y3	円形	44 x (36)			
SK19	z2	隅丸方形	62 x (40)		1	<SK20
SK20	z2	楕円形	80 x 44		2	>SK19, <P23
SK21	z2	不整形	160 x 120	K(13),C6(4)	23	内部に多くのSK,P
SK22	z2	不整形	(40) x 32			<P25
SK23	z2	不整形	50 x 40			<P28
SK24	z2	楕円形	56 x 36			>P26, >P27
SK25	z2	楕円形	(40) x (24)			<P29,30, <SK26
SK26	z2	楕円形	39 x 35			<SK27
SK27	z2	円形	42 x 38	C11(1)		>SK26, >P36
SK28	z2	楕円形	60 x 26	K(2)		
SK29	z2	不整形	50 x 30		2	<P37
SK30	A3	不整形	220 x 100	K(1)	3	南は道路下で切れる
SK31	A2	円形	46 x 38			>SK30
SK32	z2	楕円形	54 x 36	C1(1)	3	>P48
SK33	z3	不整形	50 x 40			<P47,48
SK34	z2	円形	36 x 36		2	
SK35	z3	不整形	44 x 40	C6(1)	1	<SK36
SK36	z3	不整形	80 x 60	K(2)	2	>SK35, <P49
SK37	z3	不整形	120 x 43	C7(1)	1	<P50,51,52
SK38	z3	円形	44 x 45			
SK39	y4	不整形	64 x 38			
SK40	z3	楕円形	100 x 78	K(2),C11(1)		
SK41	y3	不整形	60 x 48	C7(1)	8	<SK42
SK42	y3	円形	76 x 60			>SK41,43
SK43	y4	楕円形	110 x 64		1	<SK42
SK44	y4	楕円形	124 x 72			
SK45	z5	不整形	140 x 40			
SK46	z4	楕円形	70 x 58	K(4),C1(1),C11(1)	2	<P70
SK47	z3	不整形	80 x 40			<P61,62
SK48	z3	円形	48 x 40		2	
SK49	z3	円形	64 x 52	C9(4),K(3)	4	
SK50	z4	楕円形	142 x 88	K(9)	18	立石をともなう土坑
SK51	z4	楕円形	160 x 116	K(4),C6(4),C2(2)	7	立石をともなう土坑
SK52	z3	円形	48 x 40	C6(6),C2(4),C1(2)	2	
SK53	z3	不整形	(60) x 30		4	
SK54	z3	不整形	112 x 44			
SK55	z3	楕円形	68 x 44	K(2)	1	
SK56	z3	円形	46 x 42			
SK57	z3	不整形	60 x 24	C6(1)	3	
SK58	A3	楕円形	68 x 48		3	
SK59	A3	楕円形	56 x 30		2	
SK60	A3	円形	112 x 110	C11(5),C9(4)	5	,(76)
SK61	A3	円形	42 x 40			
SK62	A3	円形	103 x 102			
SK63	A3	円形	92 x 80	K(1)	1	フラスコ状(90)
SK64	A3	不整形	204 x 130	K(3)	3	内部に多くのP
SK65	A3	不整形	(60) x 48			<P88
SK66	A3	円形	70 x 64	K(9),C8(1),C9(1)	9	
SK67	A3	不整形	71 x 48		2	

NO.	場所	平面形	大きさ	出土土器	石器	備考
SK68	A3	不整形	56 x (40)			<SK69
SK69	A3	不整形	60 x 48	C11(1)	2	>SK68
SK70	A4	不整形	48 x 40		2	<P84
SK71	A3	不整形	54 x 44	C6(1)	2	<P78,79
SK72	A4	円形	42 x 40			
SK73	A4	不整形	126 x 50	C10(1)		内部にP98,99
SK74	A4	円形	44 x 32		5	>P75
SK75	A4	円形	44 x (40)			<P74
SK76	A4	不整形	48 x (40)			<P77
SK77	A4	不整形	52 x (45)			<P78, >P76
SK78	A4	楕円形	72 x 56			<P77
SK79	A4	円形	46 x 44	C6(1)		
SK80	A4	不整形	48 x 36	C6(2),K(1)	4	
SK81	A4	不整形	64 x 20			
SK82	B4	不整形	90 x 45	C11(1)		
SK83	B4	円形	52 x 40			
SK84	B4	円形	110 x 110			
SK85	B4	不整形	84 x 62			
SK86	B4	不整形	40 x (38)			
SK87	B5	不整形	44 x 30			>SK88
SK88	B5	不整形	(60) x 30			<SK87
SK89	B5	不整形	48 x 38	C11(1)		>SK90
SK90	B5	不整形	(40) x 34	C11(1)		<SK89,91
SK91	B5	楕円形	40 x 32	C11(1)		>SK90
SK92	B4	不整形	80 x 40	C11(2),C9(1)		
SK93	B4	不整形	106 x 50			
SK94	B4	楕円形	60 x 46	C11(2),C10(1)		
SK95	B4	不整形	(50) x 38	C9(1)		<SK96
SK96	B4	楕円形	56 x 40			>SK95
SK97	B5	円形	60 x 48	C6(1)		>SK98
SK98	B5	不整形	76 x 64			<SK97
SK99	B5	隅丸方形	52 x 36			
SK100	A5	不整形	216 x 140	C2(2),C1(1)		
SK101	A5	不整形	130 x 96	C6(2)		
SK102	A4	不整形	170 x 90	K1(1),C11(1)		SB16立石遺構
SK103	A5	楕円形	40 x 38			
SK104	B5	不整形	60 x 40	C9(3),C11(1)		>SK105
SK105	B5	不整形	90 x 78			<SK104
SK106	B5	不整形	60 x 22			
SK107	A5	不整形	98 x 30			
SK108	A5	不整形	62 x 38			
SK109	A4	楕円形	70 x 44			
SK110	A5	円形	40 x 38			
SK111	z5	不整形	80 x 58			<P105
SK112	A5	円形	60 x 48			
SK113	A6	不整形	185 x 120		2	<SK114,115
SK114	A6	不整形	66 x 50			>SK113,115
SK115	A6	不整形	(60) x 44			>SK113
SK116	A6	不整形	68 x 24			
SK117	B6	不整形	70 x 36			
SK118	B6	楕円形	62 x 38			
SK119	B6	楕円形	72 x 50			
SK120	B6	不整形	56 x 34			
SK121	B6	不整形	(100) x 52			<SK122
SK122	B6	円形	76 x 64	C6(1),C11(1)	1	>SK121
SK123	B6	楕円形	101 x 78		2	底部に平たい川石
SK124	B6	不整形	68 x 58			
SK125	B5	不整形	48 x 24			
SK126	B6	不整形	88 x (60)			<SK127
SK127	B6	楕円形	88 x 56			>SK126 (65)
SK128	B5	不整形	56 x 24	C8(1),C2(1),K(1)		
SK129	B5	円形	56 x 55			>SK130,131
SK130	B5	不整形	40 x (35)	C1(1),C2(1)	6	<SK129
SK131	B5	不整形	78 x (44)			<SK129
SK132	C5	円形	62 x 58			
SK133	C5	円形	64 x 50		1	
SK134	C6	円形	82 x 68	C1(2),C6(1)	1	

NO.	場所	平面形	大きさ	出土土器	石器	備考
SK135	B6	円形	64 x 56			
SK136	A7	不整形	68 x 30	C9(2),C6(1)	2	
SK137	A7	楕円形	96 x 64	C11(1)		
SK138	B7	不整形	214 x 70			
SK139	A7	不整形	56 x 32			
SK140	B8	楕円形	152 x 106			
SK141	B8	円形	56 x 52			
SK142	B7	円形	86 x 74			>SK143 (70)
SK143	B7	不整形	(146) x 103	C9(2)		<SK142
SK144	B7	円形	66 x 54	C9(3),C2,C6,C11(1)		
SK145	C7	不整形	96 x 85			(53)
SK146	C7	楕円形	100 x (60)			(70)
SK147	C7	円形	58 x 48	C5(2),C6(1)		<SK148
SK148	C7	不整形	175 x 55			>SK147
SK149	C7	不整形	70 x 68			<SK148
SK150	C7	不整形	100 x 97	C6(3),C9(1)		<SB14石組み遺構
SK151	C7	不整形	61 x 32			<SK148
SK152	C7	不整形	74 x 32			
SK153	C7	円形	60 x 56			
SK154	C7	円形	54 x 44	C2,C9,C11(2)		
SK155	C7	円形	84 x 64			
SK156	C7	不整形	196 x 98	C6(4)		上部に立石(82)
SK157	C7	不整形	84 x 58			
SK158	B7	不整形	(110) x 92			
SK159	B7	円形	66 x 64			(54)
SK160	B7	円形	(50) x 44			<SK161
SK161	B7	円形	72 x 60	C6(3)		>SK160
SK162	B8	円形	60 x 58			
SK163	B8	円形	66 x (60)			<SK164
SK164	B8	不整形	80 x 68			>SK163 (51)
SK165	C8	円形	72 x 60	C6,C11(3)		<SK164
SK166	B8	円形	74 x 62	C6(3),C11(1)	2	>SK167 (82)
SK167	B8	円形	(80) x 78	C1,C2,C7(2)	3	<SK166
SK168	C8	不整形	46 x 30	C2,C9,C11(2)		>SK169
SK169	C8	不整形	(50) x 46			<SK168
SK170	C8	楕円形	110 x 80	K(1)	1	
SK171	D8	不整形	40 x 38			<P199,SK172
SK172	D8	不整形	112 x 60	C9(1)	1	>SK171
SK173	D7	不整形	84 x 52			
SK174	D7	不整形	48 x 36			
SK175	D7	不整形	(70) x 44			<SK176
SK176	D7	円形	68 x 60			>SK175
SK177	D7	楕円形	80 x 50			
SK178	C7	不整形	84 x 42			>SK179
SK179	C7	不整形	43 x 32			<SK178
SK180	C9	円形	68 x 66			
SK181	C9	円形	88 x 78	C6(1)		
SK182	C9	不整形	(180) x 125	C1(2)		内部にもSK
SK183	C8	円形	120 x 116		1	>SK184 (50)
SK184	D8	不整形	100 x (80)			<SK183,185
SK185	C9	不整形	76 x 48			>SK184
SK186	D9	不整形	104 x 48	K1(2),C1,C3,C9(1)		
SK187	D9	円形	108 x 104	C1(3),C2,C6(1)		>SK188 (51)
SK188	D9	不整形	(60) x 48	C2,C7,C9,C11(1)		<SK187
SK189	D8	不整形	88 x 56			
SK190	D9	不整形	64 x 48	C1,C8(1)		
SK191	D9	不整形	64 x 32			
SK192	D9	不整形	160 x 135			内部にSK193
SK193	D9	円形	70 x 72			(64)
SK194	D9	円形	58 x 58			
SK195	D9	隅丸方形	80 x 78			炉を伴う(52)
SK196	D9	円形	130 x 98	C2(2),C7(1)		

NO.	場所	平面形	大きさ	出土土器	石器	備考
SK197	C9	楕円形	90 x 64			
SK198	D9	円形	70 x 68	C1(4)		
SK199	D10	不整形	140 x (120)			<攪乱
SK200	E10	楕円形	144 x 92	C2(2),C6(1)		フラスコ状(65)
SK201	E10	円形	62 x 54	C1,C2(2)	1	
SK202	E10	円形	48 x 48			
SK203	E10	円形	62 x 48			
SK204	E11	楕円形	60 x 38			
SK205	E11	円形	54 x 48			
SK206	E11	不整形	62 x (30)		1	<SZ05
SK207	E11	不整形	140 x 136	C6(8),C1(3)	30	(100)
SK208	E11	不整形	60 x 56	C1(8),C6(7),C2(5)	3	>SK03
SK209	E11	不整形	(60) x 40			<SK208
SK210	E12	円形	90 x 72			
SK211	D10	隅丸方形	140 x 105			SB15内
SK212	D10	不整形	(80) x 52			<SB15内P
SK213	D10	不整形	(60) x 30			<SB15内P
SK214	D11	不整形	54 x (30)			
SK215	D11	不整形	150 x 96			<SK221
SK216	D11	円形	64 x 46			
SK217	C11	円形	48 x 48			
SK218	C10	円形	56 x 52			
SK219	C10	不整形	76 x 23			
SK220	C11	円形	70 x 58			
SK221	C11	円形	(70) x 60	C2(1)	1	<SK216, >SK215
SK222	C11	円形	60 x 58			
SK223	B10	不整形	136 x 78	C11(2)	3	>SK224
SK224	B10	不整形	(100) x 95			<SK223
SK225	B11	楕円形	88 x 70			
SK226	B11	楕円形	86 x 56			
SK227	B12	円形	86 x 78			
SK228	B12	不整形	96 x 80		1	
SK229	B12	不整形	96 x 62	C11(5)	3	
SK230	B12	円形	76 x 64			
SK231	B12	楕円形	64 x 48			
SK232	B13	円形	80 x 78			
SK233	B13	楕円形	64 x 46			
SK234	C13	不整形	84 x 50			
SK235	D13	楕円形	114 x 96			
SK236	D13	不整形	88 x 72			>SK237
SK237	D13	隅丸方形	110 x (100)			<SK236
SK238	D14	不整形	(90) x 48			<P271
SK239	D14	不整形	92 x 56			<P272
SK240	E13	楕円形	80 x 52			
SK241	E14	不整形	94 x 62			
SK242	E15	円形	118 x 110			(101)
SK243	D15	楕円形	220 x 120			

＊長さの単位は、cm ・出土土器のカッコ内は、出土土器片の数
備考欄に記載の切り合いは、次の通り
＞切る、＜切られる

第2表　縄文時代のピット一覧表

NO.	場所	平面形	大きさ	出土土器	石器	備考
P 01	A6	円形	65 x 65	C2(1),C9(1)	1	
P 02	A6	円形	50 x 50	C8(47),C6(4)	3	
P 03	y2	不整形	24 x 15			
P 04	y2	不整形	28 x 12			調査区西端
P 05	y2	不整形	24 x 16			>P07
P 06	y2	不整形	22 x 17			>P07
P 07	y2	不整形	28 x 25			<P05,06
P 08	y3	円形	44 x 32			
P 09	y2	円形	30 x 22			
P 10	y2	円形	12 x 15			P09内
P 11	y2	円形	28 x 26			
P 12	y2	円形	26 x 22			
P 13	y3	円形	26 x 26			
P 14	y3	楕円形	36 x 20			
P 15	y3	楕円形	42 x 28			
P 16	y3	円形	32 x 26			
P 17	z3	円形	30 x 28			
P 18	z3	円形	36 x 34			
P 19	z3	円形	20 x 20			
P 20	z3	円形	32 x 26			
P 21	z2	円形	29 x 28			
P 22	z2	円形	20 x 18		1	
P 23	z2	楕円形	46 x 24			
P 24	z2	円形	35 x 34	C2(1)	3	>SK15
P 25	z2	円形	34 x 34	C6(1),C11(1)		>SK22
P 26	z2	不整形	16 x 12			<SK24
P 27	z2	不整形	18 x 14			<SK24
P 28	z2	円形	22 x 20			
P 29	z2	楕円形	28 x 22		2	
P 30	z2	不整形	20 x 12			
P 31	z2	円形	18 x 18		3	
P 32	z2	不整形	32 x 28			
P 33	z2	円形	16 x 16		2	
P 34	z2	楕円形	36 x 28			
P 35	z2	円形	30 x 24			
P 36	z2	不整形	(30) x 26			<SK27
P 37	A2	円形	18 x 18		2	
P 38	A2	円形	36 x 26			
P 39	A2	円形	14 x 14		2	
P 40	A3	円形	32 x 30			
P 41	A3	楕円形	28 x 24			
P 42	A3	円形	16 x 16			
P 43	A3	不整形	40 x 28			
P 44	A3	楕円形	30 x 24			
P 45	z3	楕円形	34 x 24			
P 46	z3	楕円形	44 x 32	K(1)		
P 47	z3	楕円形	34 x 20			>SK33
P 48	z3	円形	24 x 24			<SK32, >SK33
P 49	z3	円形	34 x 32	C11(3),K(2)	2	SK36内
P 50	z3	円形	20 x 20	C7(1)	1	SK37内
P 51	z3	楕円形	26 x 20			SK37内
P 52	z3	円形	24 x 24			SK37内
P 53	z3	円形	24 x 24			
P 54	z3	円形	22 x 22		1	
P 55	z3	円形	23 x 23			
P 56	z3	円形	34 x 34			
P 57	z3	円形	14 x 14			
P 58	z3	円形	24 x 24			
P 59	z3	不整形	30 x 24			
P 60	z3	円形	22 x 20			
P 61	z3	不整形	40 x 34			>SK47
P 62	z3	楕円形	44 x 36	C7(1)		>SK47
P 63	y4	円形	24 x 24			
P 64	y4	不整形	38 x 28			
P 65	y5	楕円形	44 x 36			
P 66	y5	楕円形	38 x 30			
P 67	z4	楕円形	30 x 20			
P 68	z4	円形	20 x 20			
P 69	z4	円形	32 x 24			
P 70	z4	円形	28 x 28	K(4),C1,C11(1)	2	>SK46
P 71	z4	円形	32 x 32			
P 72	z4	円形	42 x 38	C9,C11(1)		
P 73	z4	不整形	26 x (20)			<P74
P 74	z4	楕円形	46 x 42			>P73

NO.	場所	平面形	大きさ	出土土器	石器	備考
P 75	z4	不整形	(30) x 24			<P76
P 76	z4	不整形	46 x 34			>P75
P 77	A4	不整形	20 x 18			
P 78	A3	円形	16 x 16			>SK71
P 79	A3	円形	26 x 24			>SK71
P 80	A4	楕円形	42 x 24	C6(1)	2	>P81
P 81	A4	不整形	30 x 26			<P80
P 82	A4	不整形	28 x 22			
P 83	A4	円形	24 x 24			
P 84	A4	円形	20 x 14		2	
P 85	A4	円形	28 x 18	C11(1)	2	
P 86	A3	円形	34 x 28			
P 87	A3	円形	28 x (24)			<P88
P 88	A3	円形	44 x 42	C1(1)	3	>P87,89
P 89	A3	円形	24 x 24			
P 90	A3	円形	26 x 24			
P 91	A3	不整形	40 x 34			
P 92	A3	円形	22 x 22			
P 93	A3	不整形	38 x 20	K(1)	2	
P 94	A3	不整形	(40) x 30	C6,C9(1)	3	<SK60
P 95	A3	円形	26 x 26	C2(1)	10	
P 96	A3	不整形	48 x 28			
P 97	B4	円形	24 x 24			
P 98	A4	楕円形	24 x 22	C10(1)		SK73内
P 99	A4	楕円形	26 x 22	C9(2)		SK73内
P 100	A4	円形	30 x 30	C8(1)		
P 101	A4	円形	16 x 16			P100内
P 102	A4	円形	38 x 38			
P 103	z4	楕円形	34 x 28		1	>P104
P 104	z4	楕円形	(40) x 36			<P103
P 105	z5	円形	30 x 28	C1,C6(1)		SK111内
P 106	z5	円形	26 x 24	C10(1)		
P 107	z5	楕円形	42 x 36			
P 108	A5	楕円形	28 x 16		1	
P 109	A5	不整形	28 x 18			
P 110	A5	不整形	26 x 18			
P 111	A5	不整形	28 x 24	C6(2)		>P112
P 112	A5	不整形	(30) x 20			<P111
P 113	A5	円形	22 x 22			
P 114	A5	円形	18 x 16			
P 115	A5	円形	38 x 36			
P 116	A5	円形	28 x 28			
P 117	A5	円形	28 x 28			
P 118	z5	円形	34 x 34			
P 119	A6	円形	24 x 24			
P 120	A6	楕円形	36 x 26			
P 121	z6	円形	22 x 20			
P 122	z6	楕円形	40 x 36			
P 123	z6	円形	28 x 28			
P 124	z6	円形	30 x 30			
P 125	A6	円形	16 x 16			
P 126	A6	円形	32 x 32			
P 127	A5	円形	28 x 26			
P 128	A5	円形	32 x 30			
P 129	A6	円形	24 x 24			SK113内
P 130	A6	円形	20 x 20			SK113内
P 131	A6	楕円形	44 x 36			
P 132	B6	円形	40 x 38			
P 133	B6	円形	38 x 38			
P 134	B6	不整形	22 x 12			>SK117
P 135	B6	不整形	28 x 16			
P 136	B5	隅丸方形	40 x 28			
P 137	B6	円形	26 x 26			
P 138	B6	円形	28 x 28			
P 139	B6	円形	34 x 34		1	
P 140	B6	不整形	(40) x 38	C9(5),C6(4)	13	<SK123
P 141	B6	円形	30 x 30		2	
P 142	B6	不整形	(40) x 34			<P143
P 143	B6	円形	42 x 40			>P142
P 144	B6	円形	38 x 38	C8(4),K(1)		
P 145	B5	不整形	16 x 12			
P 146	B5	円形	12 x 12			
P 147	B5	不整形	54 x 20	K(1)	8	
P 148	B5	楕円形	32 x 22			

NO.	場所	平面形	大きさ	出土土器	石器	備考
P 149	B5	円形	42 x 42		1	
P 150	C5	楕円形	44 x 28		1	>P151
P 151	C5	円形	12 x 12			<P150
P 152	C5	円形	28 x 28			
P 153	B6	円形	32 x 32			
P 154	A7	不整形	45 x 42			>P155
P 155	A7	不整形	(40) x 24			<P154
P 156	B7	円形	42 x 38	C7(1)		
P 157	A8	円形	32 x 32			
P 158	A8	円形	38 x 38			
P 159	B9	不整形	66 x 40			>SB13
P 160	B9	円形	56 x 50	K(1)		
P 161	B9	不整形	40 x 34			
P 162	B9	円形	38 x 38			
P 163	B9	楕円形	34 x 26			
P 164	B8	円形	28 x 26			
P 165	B8	円形	34 x 32			
P 166	B8	円形	30 x 30	C1(1)		
P 167	B8	楕円形	50 x 32			
P 168	A8	楕円形	30 x 22			
P 169	B8	隅丸方形	54 x 36			
P 170	B8	楕円形	52 x 44	C9(1)		
P 171	B8	楕円形	40 x 34			
P 172	B8	円形	36 x 36			
P 173	A8	円形	28 x 26			
P 174	B8	円形	38 x 38			
P 175	B7	円形	44 x 42			
P 176	B7	円形	28 x 28			
P 177	B7	円形	26 x 26	K(1)		
P 178	B7	円形	28 x 28			
P 179	B7	円形	26 x 26			
P 180	B7	円形	42 x 40			
P 181	B7	円形	20 x 20			>SK143
P 182	B7	円形	12 x 12			
P 183	B7	楕円形	30 x 24			
P 184	B7	楕円形	20 x 16		2	
P 185	B8	円形	40 x 40			
P 186	B8	円形	24 x 24			
P 187	B8	楕円形	52 x 34	C11(1)		
P 188	B8	円形	22 x 22			
P 189	C8	不整形	36 x 24	C6(3),C11(1)	2	
P 190	C8	楕円形	52 x 44			
P 191	C9	円形	36 x 30			
P 192	C8	円形	34 x 34			
P 193	C8	楕円形	40 x 28	K(1)		
P 194	C7	円形	20 x 20	C1(1)		P195内
P 195	C7	不整形	56 x 40	C1(5),C2,C6(2)	1	
P 196	C7	楕円形	44 x 34			
P 197	C8	不整形	46 x 23			
P 198	D8	円形	30 x 30			
P 199	D8	楕円形	36 x 30	K(1)		>SK171
P 200	D8	円形	36 x 34			
P 201	D7	円形	34 x 34			
P 202	D7	楕円形	50 x 34			>P203
P 203	C7	不整形	(30) x 26			<P202
P 204	C7	円形	20 x 20			
P 205	D7	円形	40 x 38			
P 206	D7	円形	20 x 20			
P 207	D7	円形	22 x 20			
P 208	D7	円形	28 x 28			
P 209	D8	円形	42 x 42			
P 210	D8	円形	38 x 36			
P 211	D8	楕円形	52 x 40			
P 212	D9	楕円形	44 x 30			>SK186
P 213	D9	楕円形	36 x 30			>SK186
P 214	E10	楕円形	40 x 36			
P 215	E10	円形	46 x 46			
P 216	E10	円形	24 x 24			
P 217	D10	円形	22 x 22			
P 218	D10	円形	30 x 30			
P 219	C9	円形	42 x 42			
P 220	B10	不整形	34 x 17			
P 221	B10	不整形	36 x 36			>SB13
P 222	B10	不整形	44 x 32			
P 223	B10	円形	42 x 42			

NO.	場所	平面形	大きさ	出土土器	石器	備考
P 224	C10	円形	44 x 44			
P 225	A10	円形	32 x 32			
P 226	B11	円形	30 x 30			
P 227	B11	円形	32 x 32			
P 228	B11	円形	24 x 24			
P 229	B12	不整形	(30) x 28			<SK227
P 230	B11	不整形	24 x 20			
P 231	B11	円形	38 x 38			
P 232	B11	楕円形	48 x 36			
P 233	B12	楕円形	48 x 42			
P 234	B12	楕円形	(50) x 44			<SK228
P 235	B12	楕円形	(50) x 40			<SK229
P 236	B12	円形	34 x 34			
P 237	B12	円形	48 x 48			
P 238	B12	円形	14 x 14			<P239
P 239	B12	円形	30 x 30			>P238
P 240	D11	円形	44 x 44			
P 241	D11	円形	28 x 28			
P 242	D11	円形	32 x 32			
P 243	D11	円形	32 x 32			
P 244	D11	円形	10 x 10			
P 245	D11	円形	30 x 30			
P 246	D11	不整形	44 x 24			
P 247	E10	円形	(40) x 30			<撹乱
P 248	E10	円形	(40) x 34			<撹乱
P 249	E10	円形	(40) x 40			<撹乱
P 250	E11	円形	32 x 32			
P 251	E11	円形	36 x 36			
P 252	E11	円形	26 x 26			
P 253	E11	円形	24 x 24			
P 254	E11	円形	16 x 16			
P 255	E11	円形	14 x 14			
P 256	E11	円形	40 x 38			
P 257	E12	楕円形	(40) x 30			<撹乱
P 258	E12	楕円形	32 x 20			
P 259	E11	楕円形	44 x 28			SK03内
P 260	E12	楕円形	44 x 18			
P 261	C13	円形	40 x 40			
P 262	C13	楕円形	64 x 54			
P 263	C13	円形	40 x 40			
P 264	C13	円形	52 x 52			
P 265	D13	円形	40 x 38			
P 266	D13	楕円形	44 x 36			
P 267	D13	楕円形	60 x 48			
P 268	D13	楕円形	40 x 28			
P 269	D13	楕円形	38 x 28			
P 270	D14	円形	28 x 26			
P 271	D14	円形	48 x 48			>SK238
P 272	D14	円形	28 x 28			>SK239
P 273	D14	楕円形	44 x 36			
P 274	D13	円形	42 x 40			
P 275	D13	円形	44 x 44			
P 276	E13	楕円形	56 x 38			
P 277	E13	円形	36 x 36			
P 278	E14	不整形	68 x 44			
P 279	E14	円形	28 x 28			
P 280	D15	円形	34 x 34			
P 281	D14	円形	35 x 35			
P 282	C14	円形	63 x 63			
P 283	C14	円形	50 x 50			
P 284	B14	円形	52 x 50			
P 285	C15	楕円形	46 x 38			
P 286	B14	円形	36 x 36			

第4節　土　器　類

1．縄文時代の土器の分類について

戸入村平遺跡II出土の縄文土器は、早期・前期・晩期の小片を若干含むほかは中期中葉から後期のものである。当地の地域的特性から、多数の型式を含み、複雑な様相を呈している。今回の調査面積は、前回の3/5程度であるが、その遺物量は前回にも勝るものであり、時期的には少し遡るものが多い。本稿では、遺構内の土器を中心として報告する。遺構内出土土器については、炉付近・ピット・床直上など、資料としての価値の高いものを優先し、覆土中より出土したものについては、大きな個体、前回の報告にはない特徴的なものに重点を置いた。遺構外出土土器については、今回の出土土器とともに前回の未報告分も合わせて報告する。（それら前回未報告分の土器については、挿図・図版内で、番号とともにTMの記号を併記した。）

なお、分類について、基本的には前回のものに合わせた。しかし、徳山地区は、関西系・北陸系・東海系・信州系・関東系の土器がいずれも見られるなど、各地区との接点となっていると思われるため、それぞれの土器を既存の様式に当てはめることは避け、土器の特徴により分類することを優先した。そのため、前回の分類とは若干のズレがある。

〈早期の土器〉

S１群土器　押型文のみられる土器。

S２群土器　その他の土器。

〈前期の土器〉

Z１群土器　前期の土器を一括した。

〈中期の土器〉

C１群土器　多くは縄文を地文とし、貼り付け隆帯に爪形文や刺突文・刻目、あるいは半截竹管による沈線を施す土器。

A類　縄文を地文とし、貼り付け隆帯に爪形文や刺突文・刻目によって文様を施す土器。

B類　縄文を地文とし、幅の狭い貼り付け隆帯の両側に半截竹管による平行沈線を施す土器。

C類　縄文を地文とし、半截竹管による平行沈線を施す土器。

D類　地文が無文のもの。

C２群土器　貼り付け隆帯による施文を基調とするキャリパー形口縁をもつ器形の土器。赤色の顔料が施されていることが多い。

A類　隆帯に沿って隆帯間に櫛描沈線を施すもの。

B類　貼り付け隆帯のみで櫛描沈線が見られないもの。

C類　貼り付け隆帯と太く短い沈線、あるいは刺突を併用したもの。

D類　太く短い沈線を多用するもの。

C３群土器　中期中葉の東海系の土器。

A類　貼り付け隆帯に沿って「く」の字状の押し引き（連続刺突文）を施す波状口縁の土器。

B類　口縁部に連弧状の文様を描き、隆帯で三角区画をつくるもの。

C類　口縁部が「く」の字状に折れ曲がり、半截竹管状工具による半隆起線、あるいは棒状工具で施文したもの。三角陰刻のみられるものもある。

C4群土器　中期中葉の信州系の土器。

A類　器壁が厚く、口縁部には太めの隆帯があり、一様に刻み目が施されているもの。

B類　器壁が厚く、口縁部に渦巻文、あるいは眼鏡状の把手のみられるもの。

C類　A、B類にあてはまらないもの。

C5群土器　中期中葉の北陸系の土器。

A類　連続爪形文やへら刻みを施した貼付隆帯と半截竹管状工具による無刻半隆起線で、渦巻文などを施したもの。

B類　A類にあてはまらないもの。

C6群土器　縄巻縄文や撚糸文を地文とし、半截竹管による平行沈線を施すもの。

A類　縄巻縄文を地文とし、半截竹管による平行沈線文を施すもの。

B類　撚糸文を地文とし、半截竹管による平行沈線文を施すキャリパー形口縁をもつもの。

C類　撚糸文を地文とし、交互刺突による波状文を施すもの。

D類　地文が条線文のもの。

C7群土器　極端なキャリパー形口縁をもつ器形を呈し、口縁部には渦巻き文や楕円区画文を配し、頸部には棒状工具による連弧文を施す土器。

A類　張り出した口縁部が内彎するもの。

B類　内彎した口縁部がさらに外反気味に立ち上がるもの。

C類　A、B類にあてはまらないもの。

C8群土器　口縁部の文様帯が前面に立体化し、口縁部上下2段の厚い貼り付け隆帯をベースにした橋状把手や装飾的な把手を発達させた土器。

A類　口縁部文様帯の上に厚い貼り付け隆帯があり、内側に蓋受け状の段をもつもの。

B類　口縁部文様帯の上に、やや外反気味に直立する口縁をもつもの。

C類　A、B類にあてはまらないその他のもの。

C9群土器　口縁部に隆帯による区画文を配し、区画内に縄文・刺突文・沈線文を充填する土器。

A類　口縁部に隆帯による楕円区画文を配し、区画内に縄文を充填するもの。

B類　口縁部に隆帯による楕円区画文を配し、区画内に刺突や沈線を充填するもの。

C類　口縁部に隆帯による楕円区画文を配し、区画内に葉脈状の沈線を充填するもの。

D類　A、B、C類にあてはまらないその他のもの。

C10群土器　口縁部の先端が波状で、突起状の山形をもつ土器。

A類　上面、側面をもたず、平面的な突起を持つもの。

B類　箱形、あるいは徳利状の立体的な突起を持つもの。

C類　A、B類にあてはまらないその他のもの。

C11群土器　口縁部に沈線による文様の割り付けを施す土器。

A類　口縁部に沈線による楕円区画文を配するもの。

B類　渦巻文や同心円文が口縁部の主体となり、波頂部に位置することが多いもの。

C類　沈線で円形区画文や蕨手文・渦巻文などを施文し、間に刺突や沈線を充填するもの。

C12群土器　無文系深鉢土器を一括した。

A類　無文土器。

B類　縄文土器。

C類　櫛描沈線土器。

C13群土器　型式および小時期不明の土器を一括した。

A類　縄文を主体とする深鉢類。

B類　貼り付け隆帯を主体とする文様を構成する深鉢類。

C類　沈線や刺突を主体とする文様を構成する深鉢類。

D類　浅鉢類。

E類　壺形土器類。

F類　その他、不明の土器。

C14群土器　脚台部および底部を一括した。

A類　胴部、把手部。

B類　台付鉢の脚台部。

C類　底部。

〈後期の土器〉

K1群土器　後期初頭の土器群。その大半は中津式に類似するもので、一部に後続する福田K2式・四ッ池式段階に並行ものも含む。

A類　沈線文区画内に縄文を施文する中津式系、またはこれに類似する一群。

B類　A類以外の特徴をもつもの。

K2群土器　後期前葉から中葉にかけての土器群。北白川上層式・一乗寺K式・元住吉山式・堀ノ内式・加曽利B式に類似するものを一括した。

A類　沈線区画内に縄文を持つもの。

B類　沈線および刺突等で文様構成の主体的な要素とするものを一括する。

K3群土器　凹線文・沈線を主体とする後期後葉の土器群。

A類　凹線文を施し、宮滝式に類似するもの。

B類　沈線による短線連結文などを施す八日市新保式の特徴を示すもの。

K4群土器　注口土器を一括して本群とした。

K5群土器　その他のものを一括した。

〈晩期の土器〉

B1群土器　晩期初頭の土器群で、北陸系の御経塚式・中屋式に類似するものをA類、東海系の寺津式に類似するものをB類、大洞式に類似するものをC類とした。

B2群土器　晩期中葉の土器群で、滋賀里Ⅲb式に類似するもの。

B3群土器　貝殻による条痕を残す土器を一括した。

B4群土器　櫛状工具による条線を残す土器を一括した。

B5群土器　その他のものを一括した。

第3表　出土土器一覧表

遺構名	S	Z	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	胴部 縄文	胴部 その他	C14 底部	K	細片 一括	合計
SB09			12	1			1	22	5		16	1	2		10	11	8	1650	1739
SB10				1				5	30	16	22			3	10	4	6	728	825
SB11			10	10	2		3	12	4	1	20		26	24	25	12	5	598	752
SB12			3	10	3			70	3	10	28	3	5	262	23	34	1	2631	3086
SB13			19	4				20						20	1	4		126	194
SB14			5	8	2		3	33	5	3	34	2	20	99	77	40	10	1249	1590
SB15			66	7				44						16				57	190
SB16	1		8	12	2		1	21	3	3	29	2	53	93	94	33	30	1447	1832
SB17			58	13				2						17				31	121
SB18			12	18	2		2	19	4	6	43	3	28	125	132	48	2	789	1233
SX01			3		1			1					3	24	3	8	21	353	417
P 01				1							1			4	1	1		70	78
P 02								4		47	1			8	2	2	1	102	167
P 04																		12	12
P 12																		2	2
P 18																		7	7
P 20																		3	3
P 22															1			16	17
P 24				1														7	8
P 25								1					1		1	1		3	7
P 28																		7	7
P 29														2				26	28
P 31														2				4	6
P 33															2			11	13
P 34																		3	3
P 37														2				26	28
P 39														1				7	8
P 40																		5	5
P 44																		2	2
P 45														1		1		12	14
P 46																	1	2	3
P 49													3	1			2	20	26
P 50									1					1				18	20
P 53																		1	1
P 54																		1	1
P 56																		3	3
P 58																		3	3
P 61																		2	2
P 62									1						1			10	12
P 69																		1	1
P 70			1										1	1	2	2	4	74	85
P 72											1		1	2				2	6
P 73																		6	6
P 80								1						1				16	18
P 84																		11	11
P 85													1		1			7	9
P 86																		5	5
P 88			1															32	33
P 90																		6	6
P 91														1	1				2
P 92																		2	2
P 93																	1	3	4
P 94								1			1			3				55	60
P 95				1										1				20	22
P 98												1		1	1			10	13
P 99											2			4		2		9	17
P 100										1				1				2	4
P 102																		2	2
P 103															1			7	8
P 105			1					1						3				9	14
P 106												1			1			3	5
P 108																		3	3
P 111								2						7				11	20
P 113														3				5	8
P 117															1			4	5
P 139														2		1		10	13
P 140								4			5		1	6	5			50	71
P 141																		3	3
P 143																		4	4
P 144										4							1	5	10
P 147														1		1	1	16	19
P 149																		2	2
P 150																		4	4
P 156									1									1	2
P 160														1			1	1	3
P 162															1			1	2

遺構名	S	Z	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	胴部 縄文	胴部 その他	C14 底部	K	細片 一括	合計
P 166			1											2				1	4
P 167														2				4	6
P 168																		1	1
P 169																		3	3
P 170											1			2	1			2	6
P 171															1			6	7
P 176																1		2	3
P 177																	1		1
P 184																		5	5
P 185																		2	2
P 186																		2	2
P 187													1						1
P 188																		1	1
P 189								3					1	4				17	25
P 193														1			1	1	3
P 194			1												2			6	9
P 195			5	2				2						5				13	27
P 197														1					1
P 198																		5	5
P 199																	1	5	6
P 249														2				2	4
SK1													1	6	1	15	37	862	922
SK2			7	6				22	5	1	22	3	25	94	35	15	3	1267	1505
SK3					1			7			4	4	5	38	3	10		396	468
SK5								1										26	27
SK11																		2	2
SK16																		16	16
SK19															1			16	17
SK20														1			1	13	15
SK21								4			1		3	8	1	4	13	335	369
SK27													1		1	1		5	8
SK28														1			2	17	20
SK29														2				26	28
SK30													1			1	1	73	76
SK32			1													1		28	30
SK34														1	1			13	15
SK35								1										6	7
SK36													3	1			2	20	26
SK37									1					1				18	20
SK38																		10	10
SK40													1	1	2	2	2	31	39
SK41									1							3		33	37
SK46			1										1	1	2	2	4	74	85
SK48														3				9	12
SK49											4	1	1	2			3	71	82
SK50														14		3	9	88	114
SK51				2				4					1	6		5	4	120	142
SK52			2	4				6	1			1		16		2		67	99
SK54																		23	23
SK55													1	2	3	6	2	42	56
SK56																		4	4
SK57								1							1			39	41
SK58														1				32	33
SK59																		1	1
SK60											4	1	5	7	4			195	216
SK61																		5	5
SK62																		3	3
SK63																	1	2	3
SK64															2	1	3	65	71
SK66										1	1			2	1	8	9	112	134
SK67														1				28	29
SK69													1		1	4		25	31
SK70																		11	11
SK71								1						1				16	18
SK73												1		1	1			10	13
SK74														1				25	26
SK78															1	1		11	13
SK79								1						2	1			24	28
SK80								2								2	1	27	32
SK81														1				8	9
SK82													1					2	3
SK113																1		37	38
SK121																		15	15
SK122								1					1	6	4			18	30
SK123																		1	1
SK128				1						1						1	1	35	39
SK129																		6	6

遺構名	S	Z	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	胴部 縄文	胴部 その他	C14 底部	K	細片 一括	合計
SK130			2	1										8		2		47	60
SK132																	1		1
SK133														3				2	5
SK134			2					1										1	4
SK135																		2	2
SK136								1			2							37	40
SK137													1	2				6	9
SK166								3					1	4				17	25
SK167			2	2				1	2		1			4				45	57
SK170														1	1		1	3	6
SK171																		4	4
SK172											1			2	1	1			5
SK181								1						3				12	16
SK182			2															4	6
SK183														1				23	24
SK200				2				1					2	8		6		133	152
SK201			1	1										2		4		28	36
SK206														5				106	111
SK207			3	1	1			8						19				88	120
SK208			8	5				7						8	1	2		96	127
SK210														1					1
SK221				1										3				9	13
SK223												1	2					22	25
SK228															16	2		63	81
SK229													5	7		2		35	49
SK231														3		1		3	7
SK237														2				3	5

III a 層出土土器

場所	S	Z	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	胴部 縄文	胴部 その他	C14 底部	K	細片 一括	合計
x3														3		1	10	355	369
y3											1		2	25	1	8	7	966	1010
y4																		57	57
z3								1					1	8	4	8	9	490	521
z4								3	1		7	1	5	35	3	15	46	1375	1491
z5			1	2				11	1	5	9	3	16	49	42	29	12	2383	2563
z6			2					2	1	31	45	5	26	83	38	28	10	1517	1788
z7													1					55	56
A5			3	1				2	1	2	6		7	20	18	8	7	724	799
A6				4				12		1	9	4	16	47	25	23	1	1588	1730
A7				3				1	2	7	14	6	23	55	30	26	3	1547	1717
A8			6	1				4		2	17	8	28	45	26	28	29	2034	2228
A9			2	1				3			22	1	7	27	6	1	2	199	271
A10			1					1		2	4			9	4	2		283	307
B6			2								1		2	5		4	2	240	256
B7			8					14		2	4	1	3	29	12	2	2	504	581
B8			1	6				2	1	2	6	5	15	30	13	6		653	740
B9								2		1	14	1	1	26	23	17	3	1188	1277
B10			2					6				1	3	21	2	8		399	442
B11			1					1					1	5	4	4	1	267	284
B12								2					1	1				50	54
C7			3	3	1			12		2	3		5	13	1	4		359	406
C10			1	1				4		5	1		1	11	2	6		149	181
C11			2	7				16						33				209	267
D8			2	4				1			1			9	2	3	1	236	259
D9								7			4		3	3	5	5		171	198
D10			3	1				4		1			3	11	5	3		112	143
D11			35	20				10						31		1		69	166
D13								1						2				11	14
E11			2	3	1			4	3	1		2	1	31	7	3	2	433	493
E12								4					2	11		2	7	333	359
E13				3				1			1			5	1			95	106

III b 層出土土器

x2				3				2	3	1		1	3	5	8	6	3	306	341
y2									1		2		1			6	8	538	556
y3				3	1			9	5	1	3	7	19	50	13	22	33	1555	1721
y4			4	4				15	2	1	1	1	1	51	2	20	15	895	1012
z2								1	1	1	12	2	7	13	8	18	25	1448	1536
z3			2				1	7		1	8	3	15	45	16	21	52	3280	3451
z4			19	31			1	52	4	5	11	4	21	167	27	19	79	3247	3687
z5			1	10	2			23	7	11	11	4	6	64	48	31		1766	1984
z6			2	1				10		3	4	11	10	85	4	10	2	1283	1425
A3			1					7						20	7	11	31	881	958
A4			3	3				12	2	1	9	1	4	64	5	23	45	2587	2759
A5			4	10				7			7		2	49	8	3	7	763	860
A6			1	8	5			22		5	16	8	25	170	25	30	4	2440	2759

場所	S	Z	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	胴部 縄文	胴部 その他	C14 底部	K	細片 一括	合計
A7				4	3			13	1	13	36	12	65	124	70	27	6	3101	3475
A8			1	3	2			6	1	3	7	12	24	50	30	8	20	1366	1533
A9			5	7			1	9	1	1	12	3	36	85	16	14		896	1086
A10			5	7				12		4	4		2	46	4			413	497
A11				2														13	15
B5			5	9	1			7		4	12	7	6	35	22	38	14	2006	2166
B6			6	9	4			12		3	1	2	3	34	5	20	4	708	811
B7			7	10	2			19	1		2	2		54	6	6	2	848	959
B8			7	6	1			39	1	3	6		8	107	4	13	1	1041	1237
B9			6	15	2			41	1	10	20	10	12	92	26	22		2017	2274
B10			19	51	4			41	3	2	6		4	121	20	6		1383	1660
B11			3	2				3			1		1	11	1	2		397	421
B12															3	1		77	81
C5										1				3		1	1	84	90
C7			4	4				11		4	16		6	37	16	7	2	983	1090
C8			4	6				9		1	2	1		35		6	2	437	503
C9			10	13				14						80		8		324	449
C10		2	13	16				22	3	2				76		2		305	441
C11			29	35				68						150		5		130	417
C13			2					1										27	30
C14	1																		1
C15	1																		1
C16	1																		1
D7			1	3				3			55		7	2		2	2	404	479
D8			6	6				5	1		1		2	8	2	2	2	535	570
D9			7	14	1			30	1	2	5		4	94	4	6	1	620	789
D10		1	17	26				35		14	31	18	38	98	105	43		1881	2307
D11			83	89	1			92						147	1	5		429	847
D12			3	10	2			2						9		1		225	252
D13			26					10						70				145	251
D14				1											2	1		79	83
D15																		23	23
E10			2	3				6						5			4	77	97
E11			13	8				26	3	1	1		6	77	4	11		93	243
E12			4	1				2		1	1	1		10	1	3		273	297
E13			1	3				10			2		1	34	1	3		338	393
E14				11				7			1	1	2	29		3		515	569
E15													1	3	2	1	4	156	167
合計	4	3	640	622	47	0	13	1195	119	257	719	174	725	4261	1276	1046	721	78166	89990

II層出土土器

	C1-C6	C7-C11	後期	晩期	底部	細片一括	総数
x3		20	25	1	9	784	839
x4	3				1	80	84
y3		19	49	5	23	1073	1169
y4		1	4			82	87
z3		6	1		4	41	52
z4	5	8	2		1	33	49
z5	1	42	25		12	449	529
z6	3	91	5		12	666	777
z7	1	43			3	206	253
z8	5	14	2		1	182	204
z9	2	6			2	74	84
A3	3	29	22		5	302	361
A4		6	3			63	72
A5	2	27	8			59	96
A6	4	72	29		8	290	403
A7	13	196	9		17	683	918
A8	28	188	95	2	11	872	1196
A9	23	220	17		5	960	1225
A10	20	151	19		10	804	1004
A11	17	56			4	525	602
A12	1	2				34	37
B4	2	2	1			42	47
B5						37	37
B6	7	21	5		3	83	119
B7	16	48	14	2	11	241	332
B8	30	124	6		4	322	486
B9	11	71	11		7	411	511
B10	19	51	1		7	381	459
B11	1	34	3		4	391	433
B12	3	16			3	313	335
B13						2	2

	C1-C6	C7-C11	後期	晩期	底部	細片一括	総数
B14						4	4
B15						1	1
B16	2					6	8
C7	9	30	1		2	84	126
C8	22	26	15	1	7	103	174
C9	71	19			1	127	218
C10	46	24	3		1	117	191
C11	55	92	8	2	11	396	564
C12	4	7				36	47
C13	11	39	1		1	79	131
C14	7	8			1	117	133
C15						12	12
C16		1			3	85	89
D10	11	38	11	1	5	394	460
D11	103	3	3		1	154	264
D12	13	4			1	48	66
D13		1			1	46	48
D14					2	53	55
D15	1					47	48
D16						38	38
E10	1		3			12	16
E11	14	9	10		3	149	185
E12						23	23
E13	3	5	2		1	82	93
E14	1	1	2		1	86	91
E15		2			1	36	39
E16						11	11
合計	594	1873	415	14	210	12831	15937

☆胴部は、縄文とその他(葉脈状の文様や条線など)に分けた。

2．遺構から出土した土器

遺構から出土した土器は、19,203点である。住居跡においては、炉内出土、床面直上、埋甕を先に、ピット内、覆土出土土器をその後で一括して報告する。（なお、それぞれの遺物には、出土箇所を記載するが、記載しないものは覆土出土とする。）なお、本遺跡の住居跡への土器廃棄は、その多くが吹上パターンと考えられ、住居跡の覆土が土器集中区となっている場合が多かった。

(1) 第9号住居跡出土の土器（ＳＢ9）（第44図、1001～1035、図版11、12）

第9号住居跡からは、1,739点の土器片が出土した。この箇所は、旧村道直下でもあり、攪乱がひどく、まとまった土器片はほとんどみられず、摩耗の激しいものが多かった。これらのうち、35点を図示した。

床面直上より出土した土器（1001～1002）は、炉石の両横の、ほぼ床面と思われる箇所から出土した。1001は、Ｃ11群Ｂ類で、波状口縁の波頂部に沈線で渦巻文が施されている。また、口縁上部には、斜行の平行沈線がみられる。1002は、Ｃ１群Ｃ類の胴部で、地文は縄文により施し、浅い半截竹管で竹管幅の縄文を消すような状態で平行線が施されている。

Ｃ１群（1003～1011） 1003は、a14出土であるが、1002と同様で、口縁上部から内側にかけて縄文が施されている。1005、1008はＡ類で、縄文を地文とし、貼り付け隆帯に刻みが施されており、1005は、口縁上部から裏面にかけて縄文がみられる。1009～1011は、Ｃ類。地文は縄文で、半截竹管による平行沈線が施されている。1010は、上部から裏側にかけても縄文がみられる。1004は、上部が尖った三角状の隆帯が貼り付けられ、隆帯の上部にだけ刻み目がある。1006は、a23出土の口縁部で、上下に刻みのある隆帯があり、その間に波状の隆帯が施されている。1007は、波状口縁をもち、口縁上部に沿って撚糸が施されている。波頂部から下部、あるいは口縁に沿って左右に２本の隆帯が貼り付けられ、その間に等間隔に刻みが入れられている。

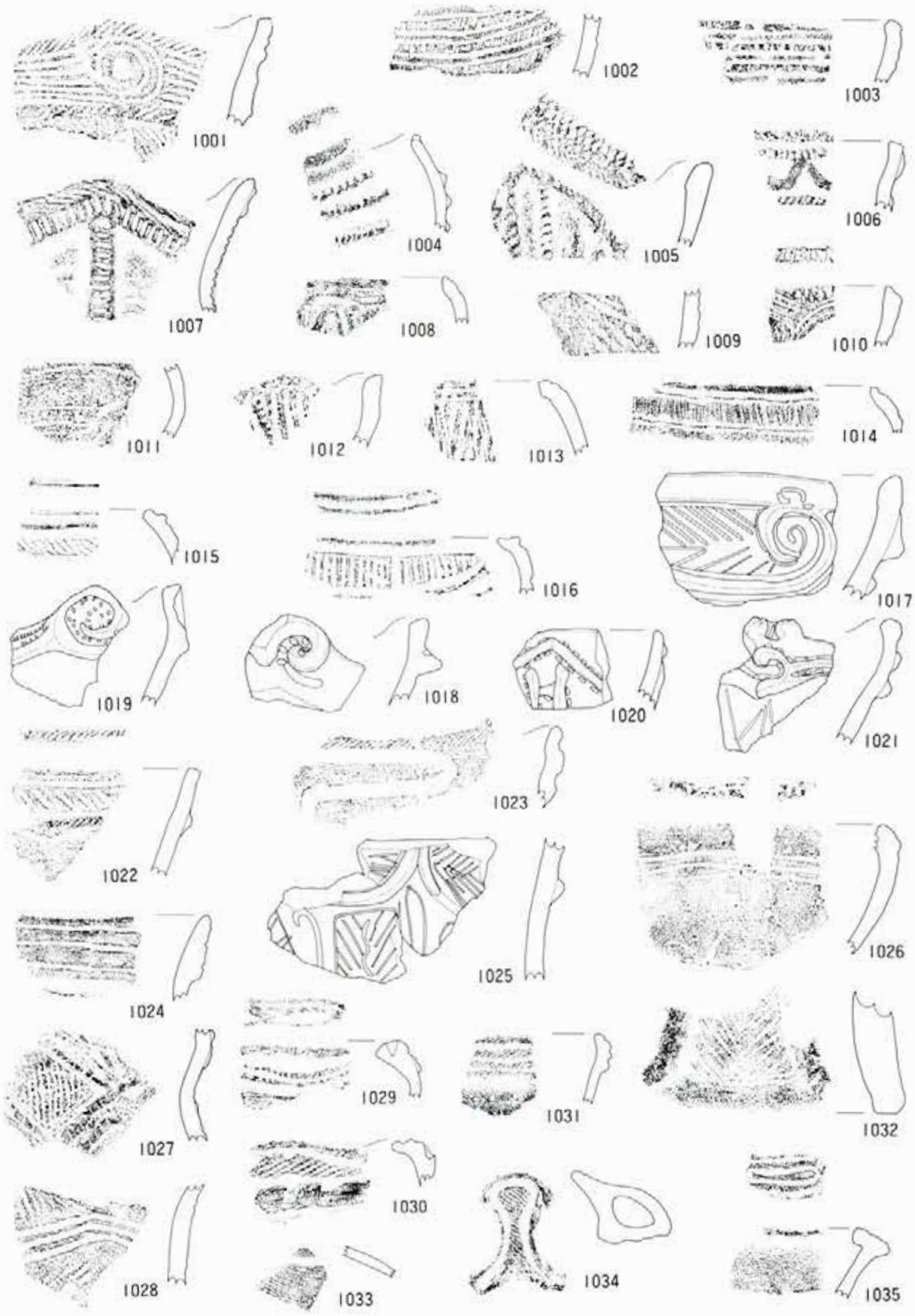
Ｃ６群（1012～1015） 1012、1013は、地文に縄巻縄文をもち、1012は、波状の口縁に沿って刺突がみられる。1014、1015は、地文が撚糸で、半截竹管による平行沈線で文様をつけている。口縁部はキャリパー形をなす。

Ｃ７群（1016） 口縁部が、キャリパー形を呈していると考えられ、半截竹管状工具で区画し、その内部に沈線を施している。

Ｃ９群（1017～1021） 1017は、a10の出土で、突起物をもつ渦巻状の隆帯と、その横に浅い葉脈状の文様をセットでもつ。1018、1019は、波状口縁で、隆帯と刺突で構成された渦巻文を波頂部にもつ。1020、1021は、ともにa30の出土で同一個体である。口縁部に小さいながらも突出部がみられ、Ｃ10群との関連も考えられる。文様は、隆帯とその両サイドの刺突により構成される。

Ｃ11群（1022～1023） ともに口縁上部に縄文をもつ。文様は、沈線により施されている。1023は、a29の出土である。

Ｃ13群（1024、1026、1029、1030） 型式不明の土器である。1024は、口縁部がやや厚く、３本の沈線が施される。1026は、a27出土で、口縁部がやや内側に曲がり、上部に刻み、胴部に３本の沈線が施される。1029は、キャリパー形口縁をもち、刻みの入った隆帯とともに、篦状工具による深い圧痕がみられる。1030は、キャリパー形口縁で、上部が縄文で下部が無文、その間に深めの刺突が施される。



第44図　第9号住居跡出土土器

C14群（1025、1027、1028、1032） 1032以外は、胴部片である。1025は、a16の出土で、隆帯と沈線による葉脈状の文様がみられる。1027は、a24出土で、刻みの入った隆帯で四角形の区画をつくり、その内部に縄文が施される。1028の地文は縄文で、3本の沈線が入る。1032は、a11出土の厚い脚部で、葉脈状の文様がみられる。

後期（1031、1033～1035） 1031は、a11の出土で、口縁部がやや厚くなり、3本の沈線の間に縄文が入る。1035は、口縁上部がT字状に発達し、上部に沈線が施されている。この両者ともにK1群B類である。1033、1034は、注口土器の一部と考えられる。1033は、本体上部で浅く細い沈線が弧状に施されている。1034は、把手部分であると考えられる。

(2) 第10号住居跡出土の土器（SB10）（第45～47図、1036～1061、図版7、12、13）

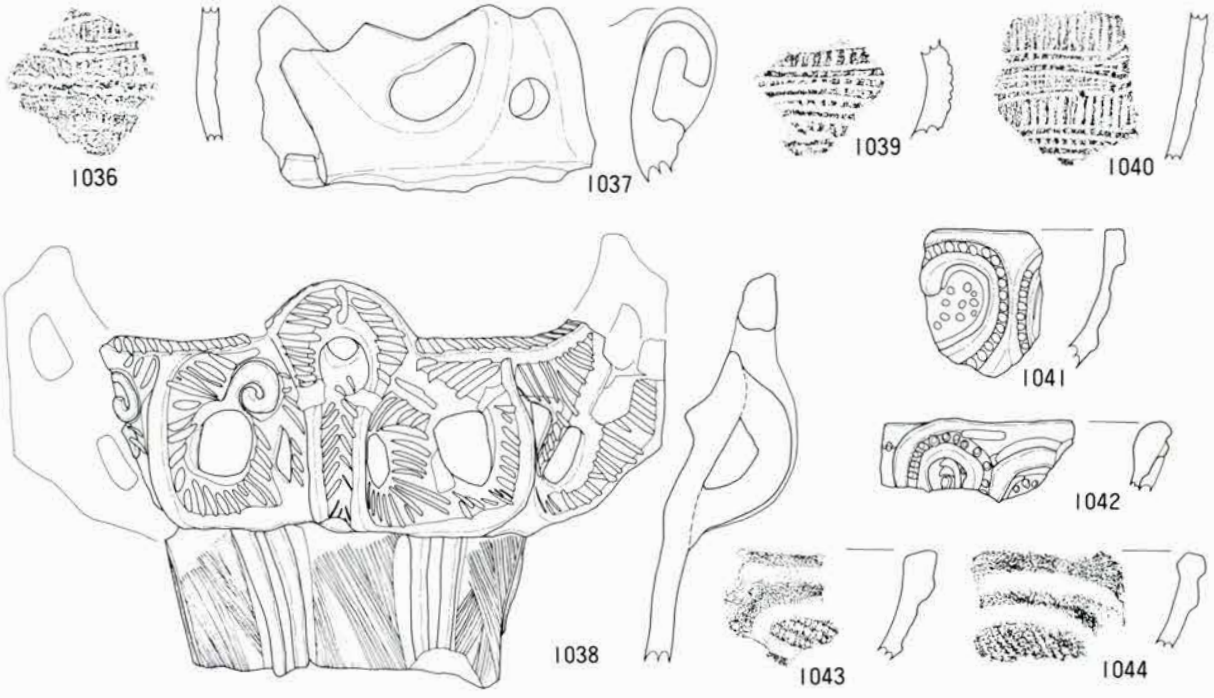
第10号住居跡からは、825点の土器が出土した。この住居跡の場合、ピットが明確に検出できず、ほとんどの土器は、覆土より出土のものである。このうち26点を図示した。

炉石下より出土した土器（1036） C6群で、撚糸を地文としており、半截竹管により平行線や波線を施している。

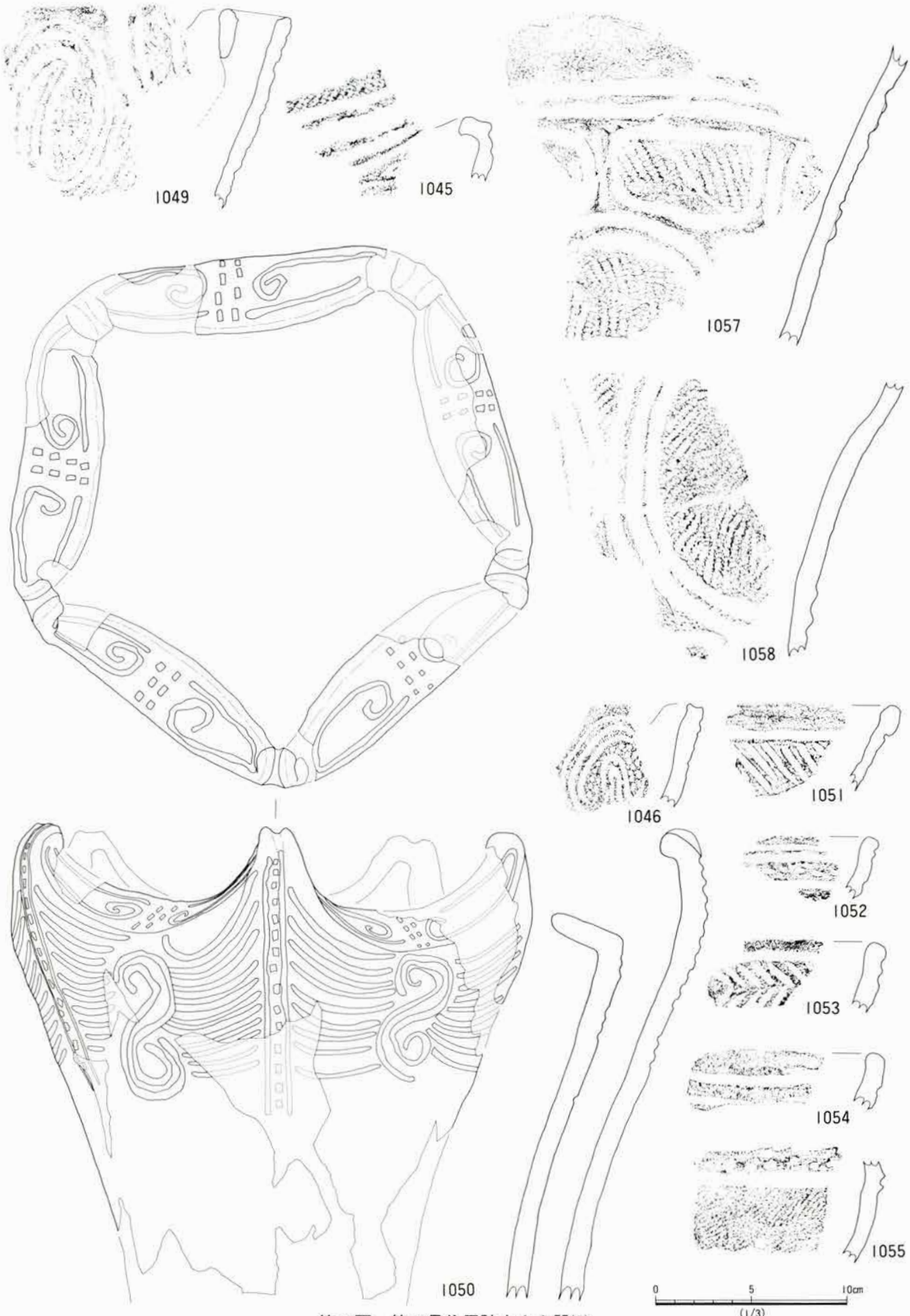
炉内・床直上より出土した土器（1037、1038） 1037は、炉内より出土した。C8群で、波状口縁の波頂部が立体的把手状になっている。胎土は、赤茶色っぽく、文様はない。1038は、炉北部の床直上と思われる浅い土坑（SK③）から裏向きに貼り付けられたような状態で出土した。C8群の土器で、口縁部に多くの把手をもち、内部には蓋受け状の段をもっている。

C6群（1039、1040） ともに撚糸の地文に半截竹管で平行沈線を施している。1039は、b2より出土。

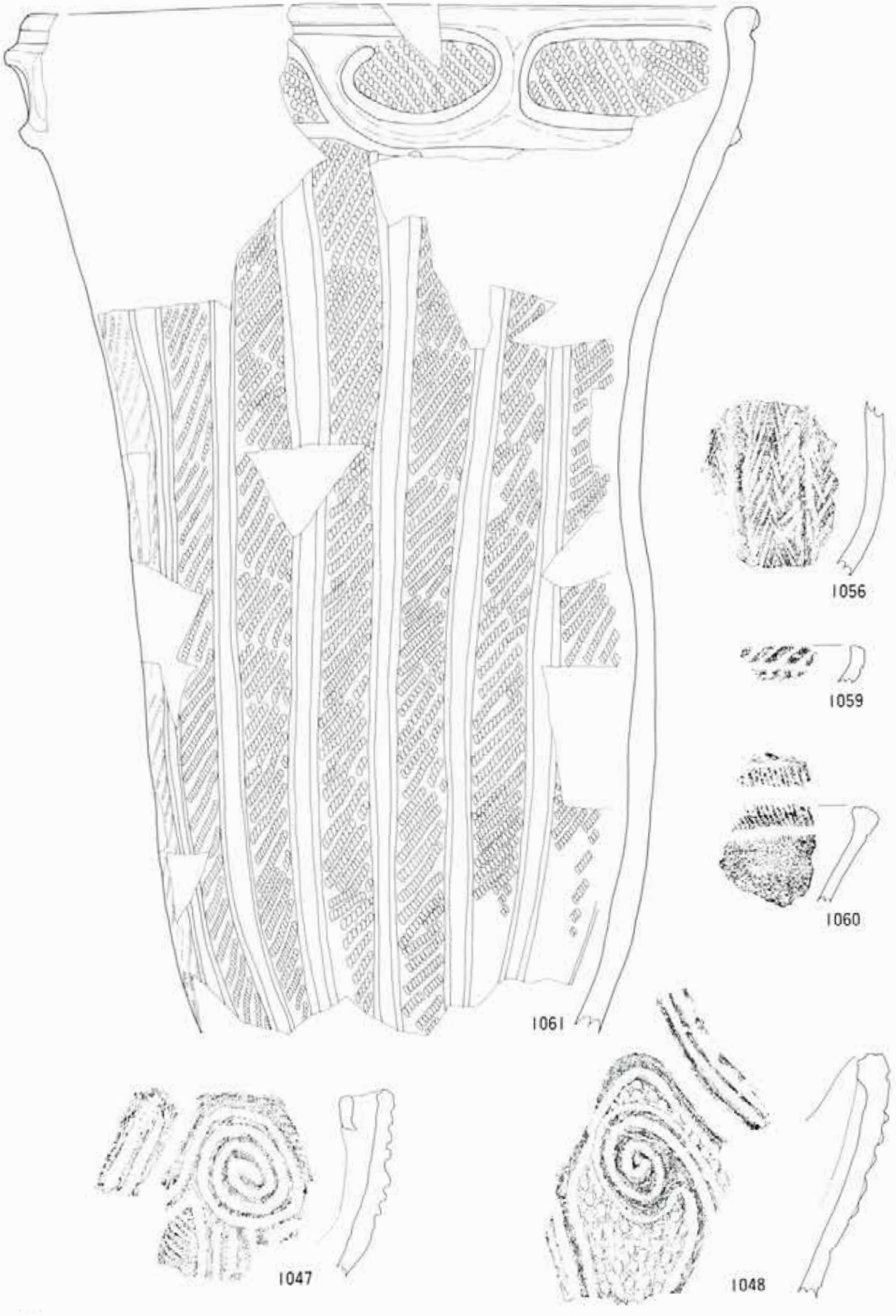
C9群（1041～1044、1061） 1043は、隆帯区画内に縄文のみられるA類で、1041、1042は、隆帯区画内に刺突のみられるB類である。1041は、摩耗が激しいが、1042と同一個体だと考えられる。1061は、



第45図　第10号住居跡出土土器(1)



第46図　第10号住居跡出土土器(2)



第47図　第10号住居跡出土土器(3)

覆土中より散らばって出土したもので、器壁は厚く、硬質である。口縁部は隆帯で区画されており、区画内に縄文(LR)が施されている。口径40cm、高さ55cmで、底部は欠落している。割れ口は、ほとんど輪積み接合部で、出土土器片は、長方形のカンパン状で数多く出土した。

C10群（1045～1050） 1045は、波頂部の下方にあたるが、他はすべて波頂部を示す。1046は、裏側の欠落が多く、その形状は難しいが、山形の突出した口縁をもち、沈線と刺突で施文してある。1047、1049は、火口状の突出部をもち、文様は渦巻文、あるいは蕨手文が施文されC11群にも近い。1048は、山形状の波頂部をもち、渦巻文と刺突により施文している。1047～1050は、いずれも口縁部で内部へ折れ曲がっている。1050は、床直上に近い浅い土坑（ＳＫ④）で、集中して出土した。山形状の波頂部であるが、前回調査分にもなく、また当遺跡付近でもこの器形はみない。茶褐色の胎土で口縁部では内部へ大きく折れ曲がり、その上部にも沈線で渦巻文を施す。波頂部は５単位で、口径は29cm、底部は欠落している。

C11群（1051～1054） いずれも小片である。1052は沈線と刺突、1053は葉脈状文、1054は沈線により施文されている。

C13群（1059、1060） 1059は、口縁上部に斜行の沈線があり、その下に竹管で横に円形刺突を施している。1060は、口縁に近い部分と考えられる。直角に屈曲した部分には、櫛描きがされ、その両側には沈線が施される。その他の部分は無文である。

C14群（1055～1058） 胴部片で、1055は隆帯上に刺突、その下には縄文が施されている。1056は、縦の隆帯の間に葉脈状の文様が施される。1057、1058は同一個体で、いずれも太い沈線区画の内部に縄文が施されている。

(3) 第11号住居跡出土の土器（ＳＢ11）（第48～50図、1062～1091、図版７、８、13、14）

第11号住居跡からは、752点の土器片が出土した。住居跡そのものは各所が破壊されているが、土器は、覆土で、土器集中区状態で出土した。それらの多くは、大きな個体で出土している。

炉石下より出土した土器（1063） Ｃ１群A類で、口縁部はキャリパー状をなし、細い貼り付け隆帯の上に刻みが入れられている。隆帯間には、沈線の残る部分がある。

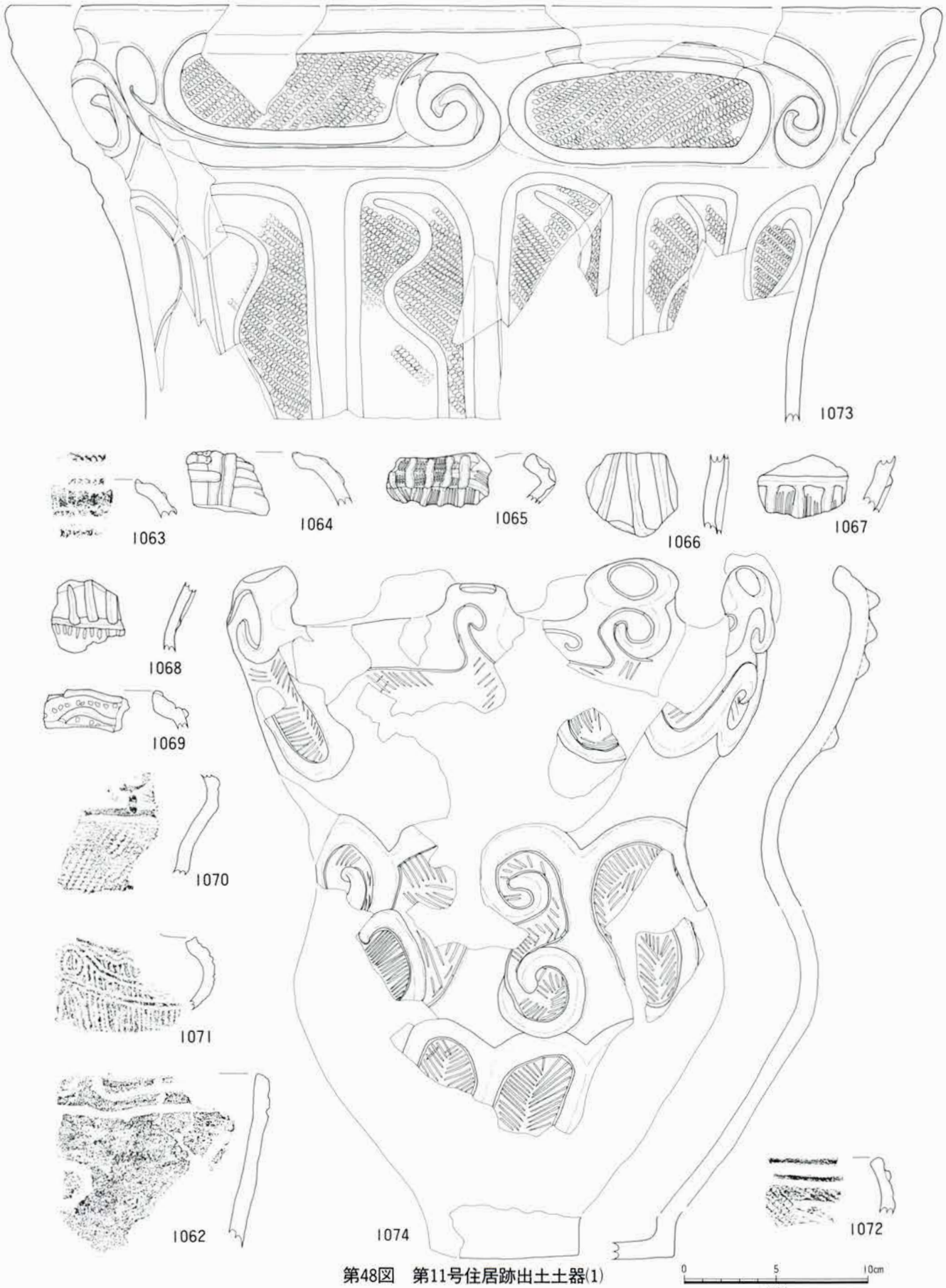
炉内より出土した土器（1062） Ｃ７～Ｃ８群と同時期のものであると考えられる。胎土は白っぽく（10ＹＲ7/3)、地文は無文で、口縁部には細く深い沈線により文様がつけられている。内面には炭化物が多く付着している。

Ｃ２群（1064～1069） いずれも基調は貼り付け隆帯によっており、1065、1067はＡ類で隆帯間に櫛描沈線がみられる。1064、1066はＢ類で、隆帯のみで施文しており、1068、1069はＣ類で、隆帯とともに刺突を併用している。

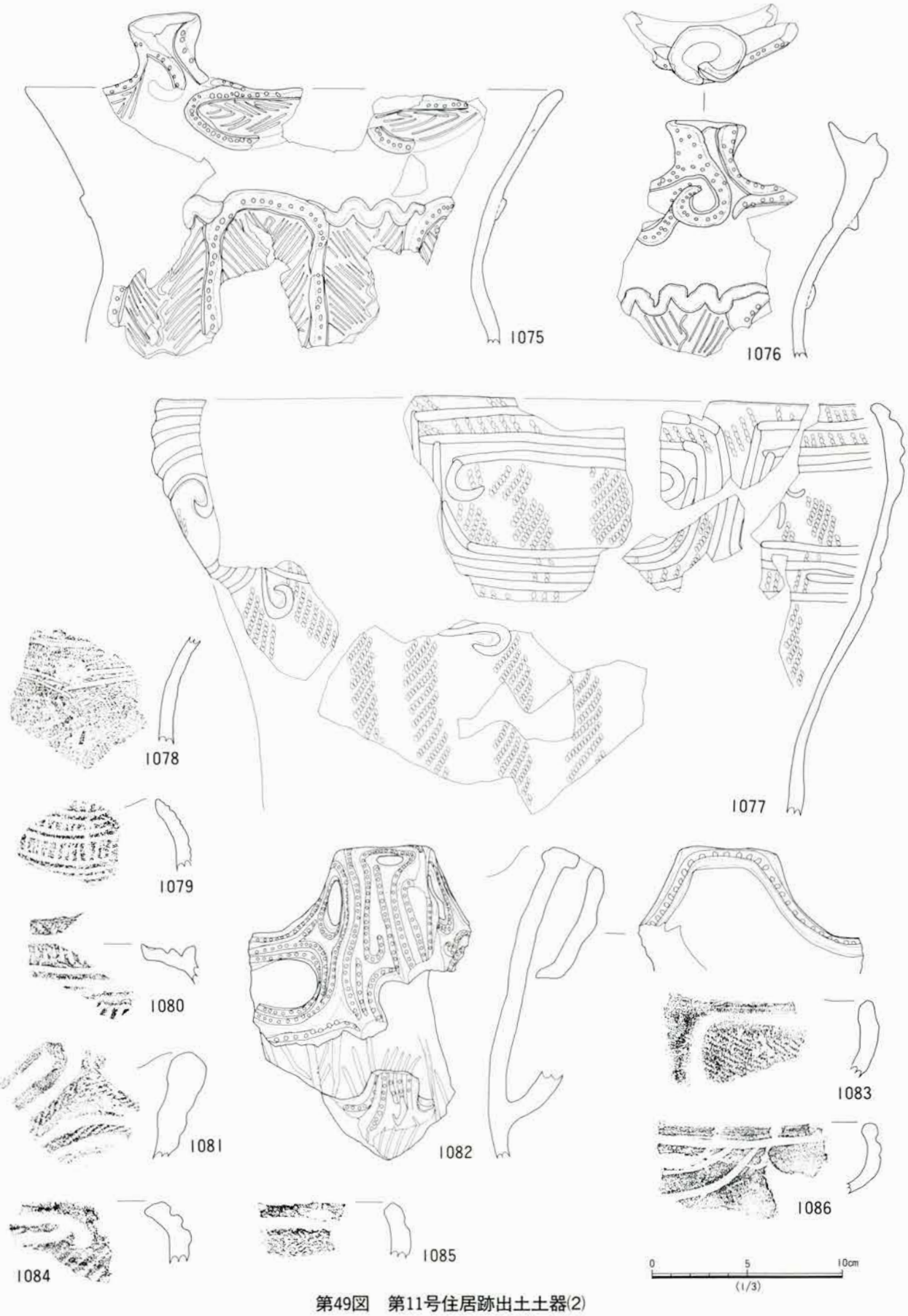
Ｃ６群（1072～1078、1079） 地文が撚糸文で、キャリパー形口縁をもち、いずれも半截竹管により施文している。1078は、頸部に無文帯をもち、胴部は細かい撚糸を地文としている。

Ｃ７群(1070、1071、1080) 1070、1071は、同一個体。地文が縄文で、口縁部はキャリパー形をなし、細い貼り付け隆帯が施される。1080は、くの字状に折れ曲がる口縁をもち、棒状工具により施文されている。

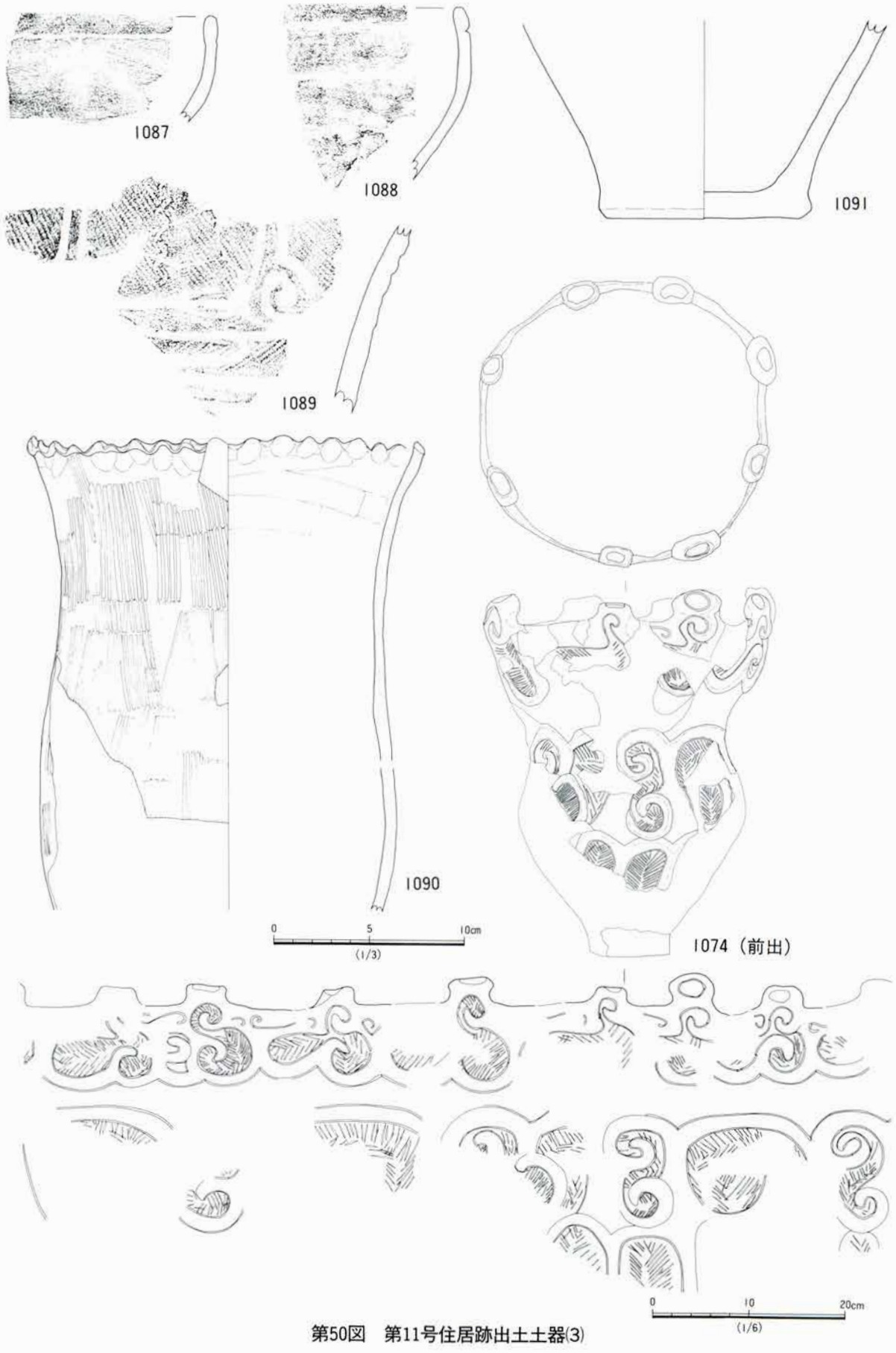
Ｃ９群（1073、1082～1085） いずれもＡ類で、1073、1082以外は、小片である。1083、1085は、口縁



第48図　第11号住居跡出土土器(1)



第49図　第11号住居跡出土土器(2)



第50図　第11号住居跡出土土器(3)

部の隆帯区画の内部に縄文がみられ、1084は、隆帯区画のみの部分である。1082はＳＫ⑥の土器集中区からの出土で、口縁が突出しＣ10群につながるような箱状把手をもつ。縦横に楕円孔が貫通し、刺突列で文様を構成している。1073もＳＫ⑥の出土で、口径が約50cmで、口縁部だけ約1/2残存しており、下部はない。ＳＢ10出土の1061に比べ、大きさではまさるが器壁はやや薄い。渦巻文を含む楕円区画をもち、区画内には縄文(RL)が施されている。

Ｃ10群（1074～1076、1081） Ｂ類で、いずれも徳利状の突出部をもつものである。1081は、徳利状ではないが、ＳＢ18の土器集中区Ａ出土の1398と同様で、徳利状突出部の間に位置する山形突出部であると考えられる。1074は、ＳＢ11南部の土器集中区（ＳＫ⑧）より出土した。徳利状突出部が８単位で、ほぼ大小大小と続く。口縁上部は蕨手状に近いが、下部は連結渦巻文と区画内の綾杉文によって構成されている。口径は約30cm、高さは約37cmである。1075は、1074の出土したＳＫ⑧のやや北部で、プラン検出時のレベルで、これより約５cm高いＳＫ⑦より出土した。口縁部には、突出した徳利状の口縁がみられ、上部に刺突列をなした貼り付け隆帯により、波線、渦巻文、楕円区画をつくる。口縁部には横で、胴部では縦でつくるが、いずれも細かい沈線で綾杉状文様を施文している。

Ｃ11群（1077） 胎土が他の土器に比べ非常に黒い(10ＹＲ5/1)。地文に縄文(LR)をもち、口縁部には、沈線により区画がなされているが、規則的ではない。出土は、ＳＫ⑥から1/3程度出土し、残りは周辺部より分散して出土した。口径は、約40cmである。

Ｃ12群（1090） 無文系浅鉢土器で、口縁上部が細かい波線状で、胴部は篦状工具で調整がされている。1074と同じＳＫ⑧で、口縁を向き合わせ重なるように出土した。

Ｃ13群（1086～1088） Ｄ類の浅鉢で、1086、1087は、口縁上部に幅約１㎜の帯をつけ、胴部は無文で薄い。ＳＢ12出土の浅鉢1155に類似すると考えられる。1088は、口縁上部がやや厚く、沈線により文様を付けている。

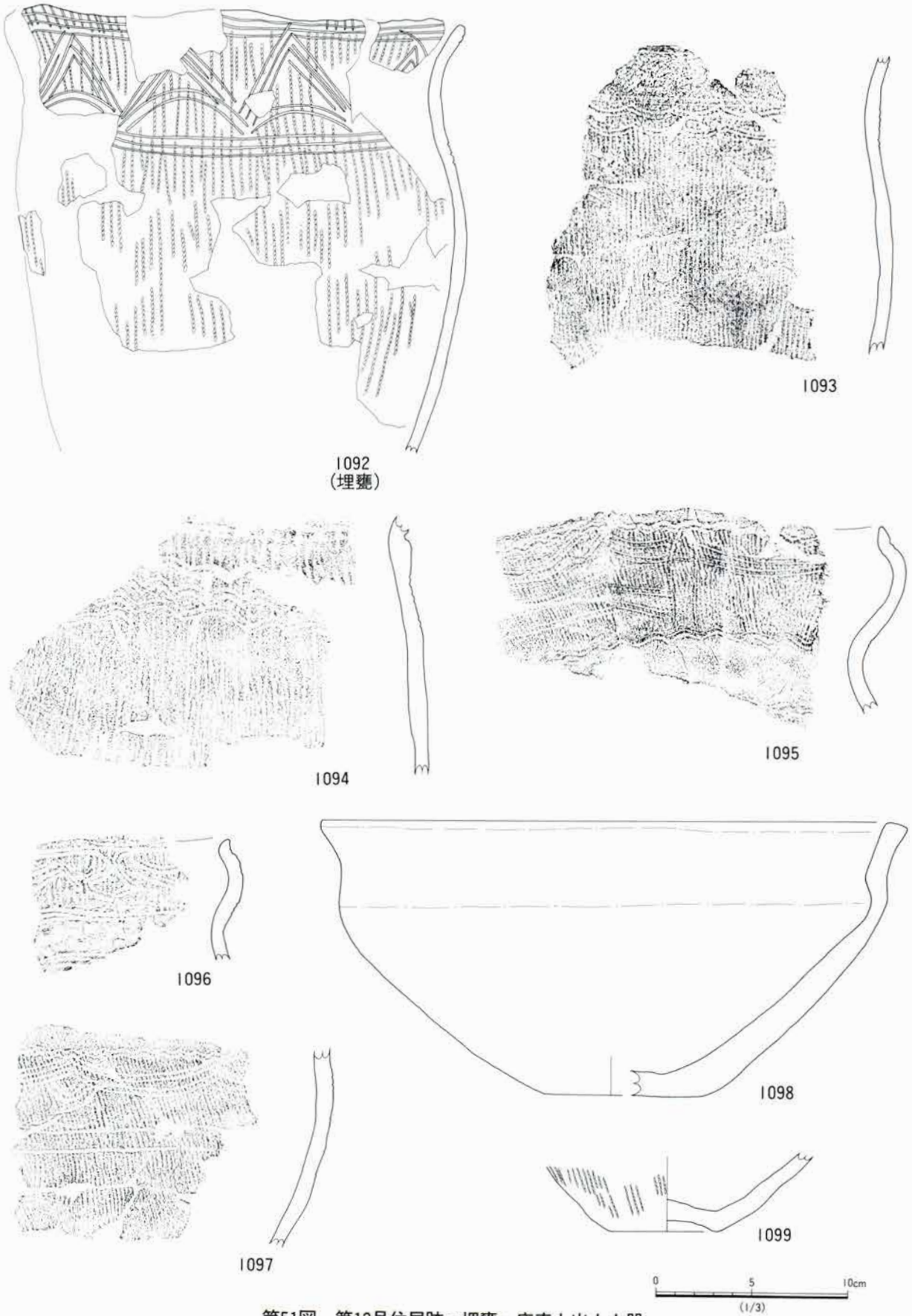
Ｃ14群（1089、1091） 1089は胴部で、沈線による楕円区画、渦巻文などで文様を構成し、区画内に結節縄文がみられる。1091は、底部で側面、底面に文様等はみられない。

(4) 第12号住居跡出土の土器（ＳＢ12）（第51～55図、1092～1170、図版７、８、15～18）

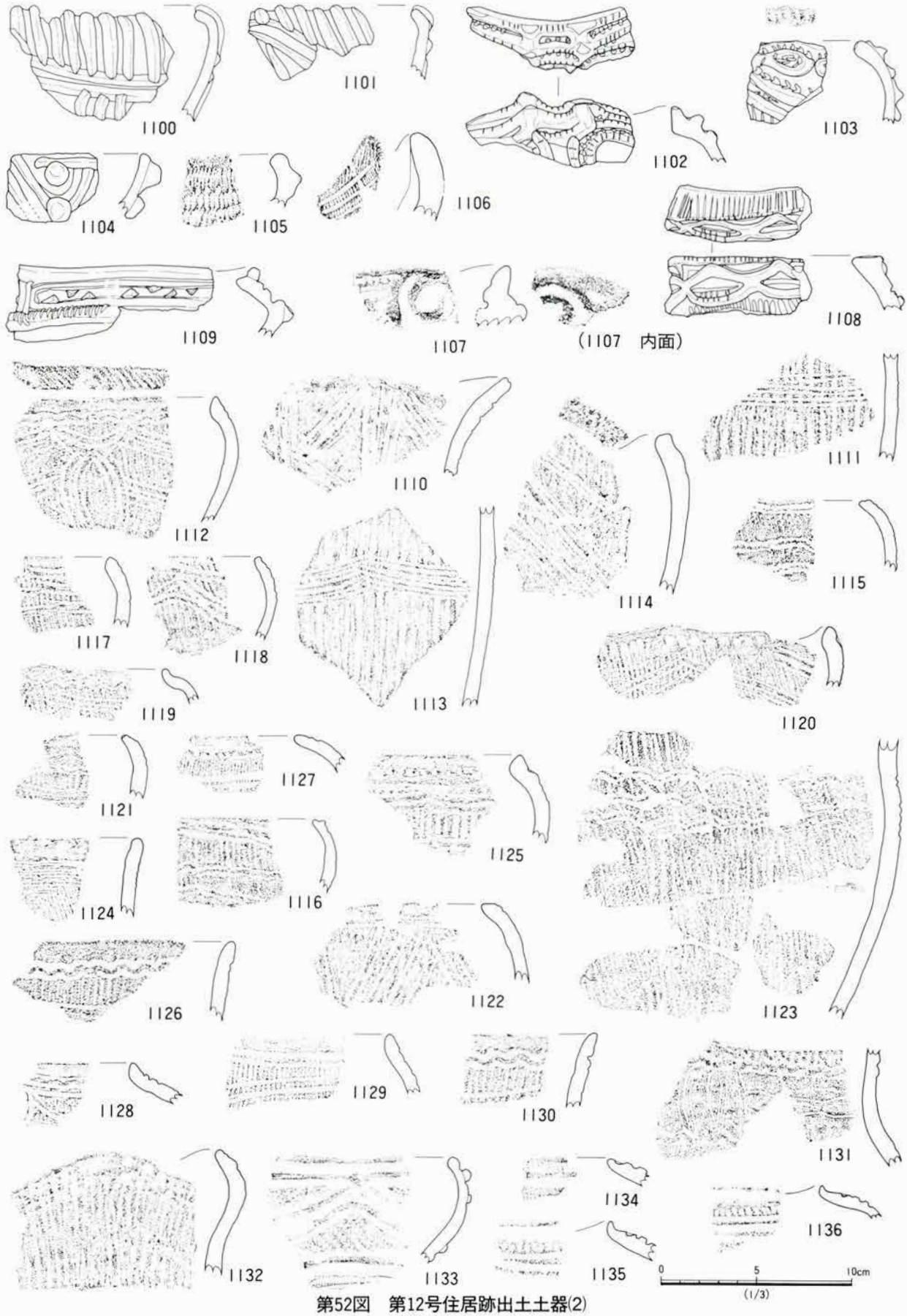
第12号住居跡からは、3,086点の土器が出土した。この住居跡からは、埋甕・炉内出土の土器、床直上の土器、それに覆土からは数多くの土器が出土した。床直上からはＣ６群の土器が出土し、覆土、あるいは覆土への掘り込み土坑（ＳＫ①，②）からは、Ｃ９～Ｃ10群の土器が集中して出土した。完形に近い形に復原できたものは、覆土からの出土が多かった。

埋甕（1092） ｄ14から逆位で出土した。底部はなく、出土時では、頸部から口縁部にかけてのみ確認された。埋設されたピットの底部には、大きな角礫があり、その上に口縁頂部を接し、逆位で埋められていた。Ｃ６群の土器で、地文は撚糸、口縁部には半截竹管で上下の平行沈線、その間に三角状の文様や弧状文が施されている。口唇部は、わずかに外反し６単位の波頂部をもつゆるやかな波状口縁である。また口縁頂部から内側にかけて、刻みが入れられている。

炉内出土の土器（1093） Ｃ６群Ｂ類の胴部片である。地文は撚糸で半截竹管の平行沈線により文様を施している。頸部には、無文帯があり、その下には平行線とともに連弧状の平行沈線が２列に施文されている。表裏ともに炭化物の付着が著しい。



第51図　第12号住居跡・埋甕・床直上出土土器



第52図　第12号住居跡出土土器(2)

床面直上出土の土器（1094～1099） 1094～1097は、C6群B類である。1094、1097は胴部片で、ともに撚糸を地文とし、1094は、波状の平行沈線とともに篦状工具による押し引き、1097は平行沈線で波線とともに連弧状の文様を施している。1098は浅鉢で、約半分が完全な形で残存している。無文で器壁は厚く硬質である。内面の底部あるいは外面口縁部に赤色顔料の付着が認められる。1099は底部で、側面は地文に撚糸が施されている。底面には、内にむかって凹みがみられる。（出土位置については、第17図参照）

C2群（1100～1104） 1100、1101は、同一個体で口縁部は内彎しており、貼り付け隆帯のみで施文されている。1102は、貼り付け隆帯が縦横に施され、その交点で突起状に尖っている。また隆帯間には、刺突が施されている。1103は、隆帯を貼り付け、その間に爪状の刺突を施す。口縁部は、内彎し内側に刻みがみられ、赤色顔料の付着も認められる。1104は、隆帯により施文し、縦に2個の団子状の貼り付け突起がみられる。

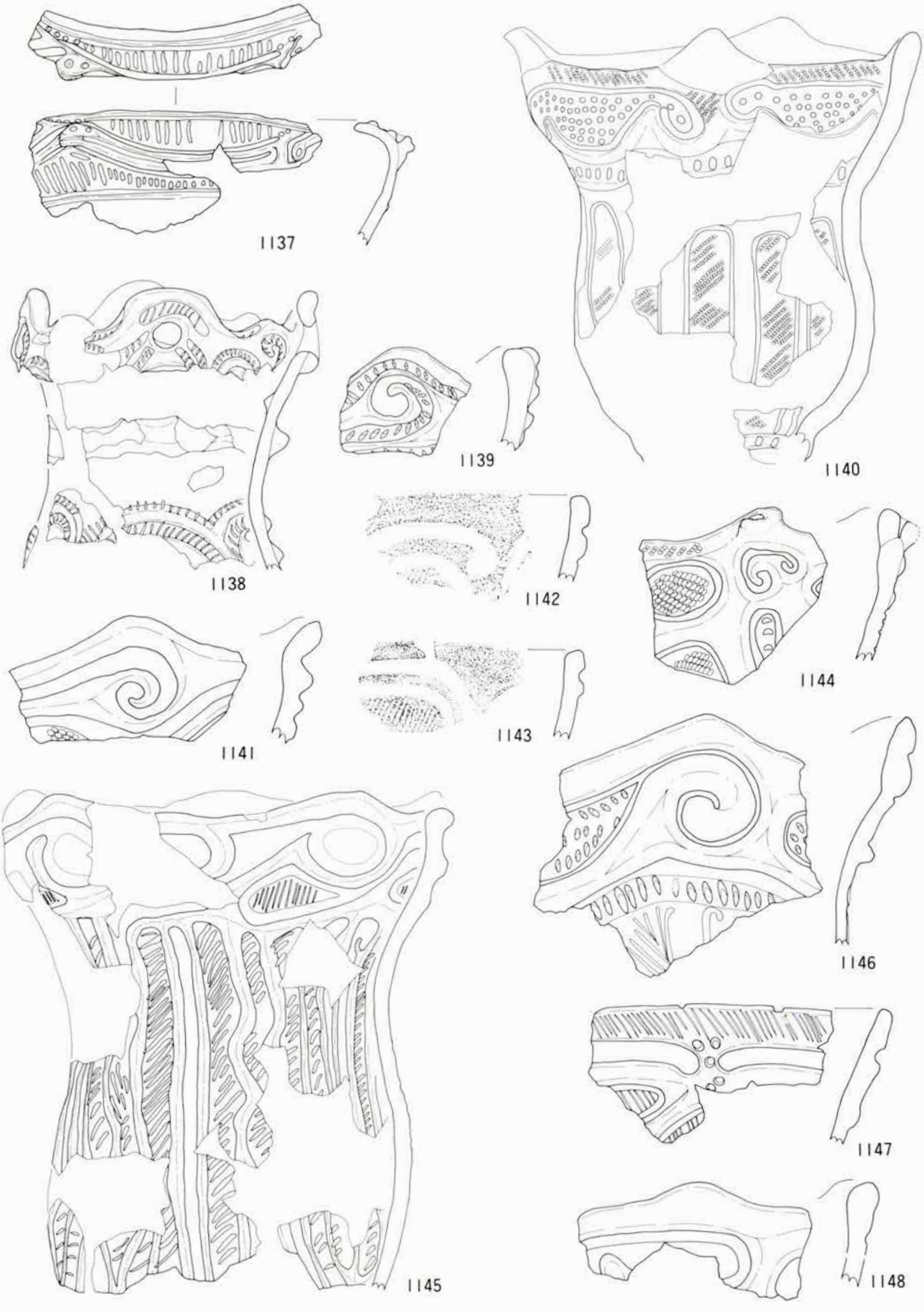
C3群（1105、1106、1108、1109） 1105は、器壁が厚く、口縁部にくの字状の連続刺突文が施されている。1105は、波頂部で、細かい沈線が施されている。胎土は、茶褐色で金雲母が多くみられる。1108、1109は、いずれも口縁部がくの字状に折れ曲がっており、1108は、半截竹管状工具による半隆起線に刻みが入れられ、区画内に三角形の陰刻がみられる。1109は、口唇部が厚くなり刻み目が入り、眼鏡状の貼り付け隆帯が施されている。なお1108は、2個体を接合したものをここでは表示しているが、右半分はSB16の覆土中より出土している。

C5群（1107） 器壁が厚く茶褐色で、徳山産とは考えられない土器である。口縁部に渦巻文、篦状工具による押し引きがみられ、内面には円形状の隆帯貼り付けの一部が残存している。

C6群（1110～1133） 1110は、篦状工具による沈線により施文し、口縁部は外反し、口唇部には縄巻縄文がみられる。1111～1113はA類で、地文は縄巻縄文で、半截竹管による平行沈線が施してある。1111は、口縁部でやや内彎しており、口唇部裏側にも縄巻縄文を施している。1114～1124はB類。地文は撚糸で、平行沈線により施文がなされている。1115と1116、1118と1121は、同一個体である。1114、1117、1121は、口唇部裏側に撚糸文がみられる。1119は、口唇部が立ち上がっており、半截竹管による平行沈線が施されている。1120は波状口縁で、口縁上部に篦状工具による刺突がみられる。1122は、床直上出土の1095と同一個体と思われる。1125～1131は、C類である。1126、1130、1131は、撚糸を地文とし、波線上下には半円形の刺突状のものがみられる。1127、1128は、交互刺突による波状文を施している。1125、1129は、刺突、波状線とも浅く、文様は明瞭でない。1132は、地文が撚糸で、口縁は内彎し波状をなす。また、口縁に沿って篦状工具による連続刺突が施されている。1133は、キャリパー形口縁で、撚糸文を地文とし細い粘土紐により隆帯をつけている。

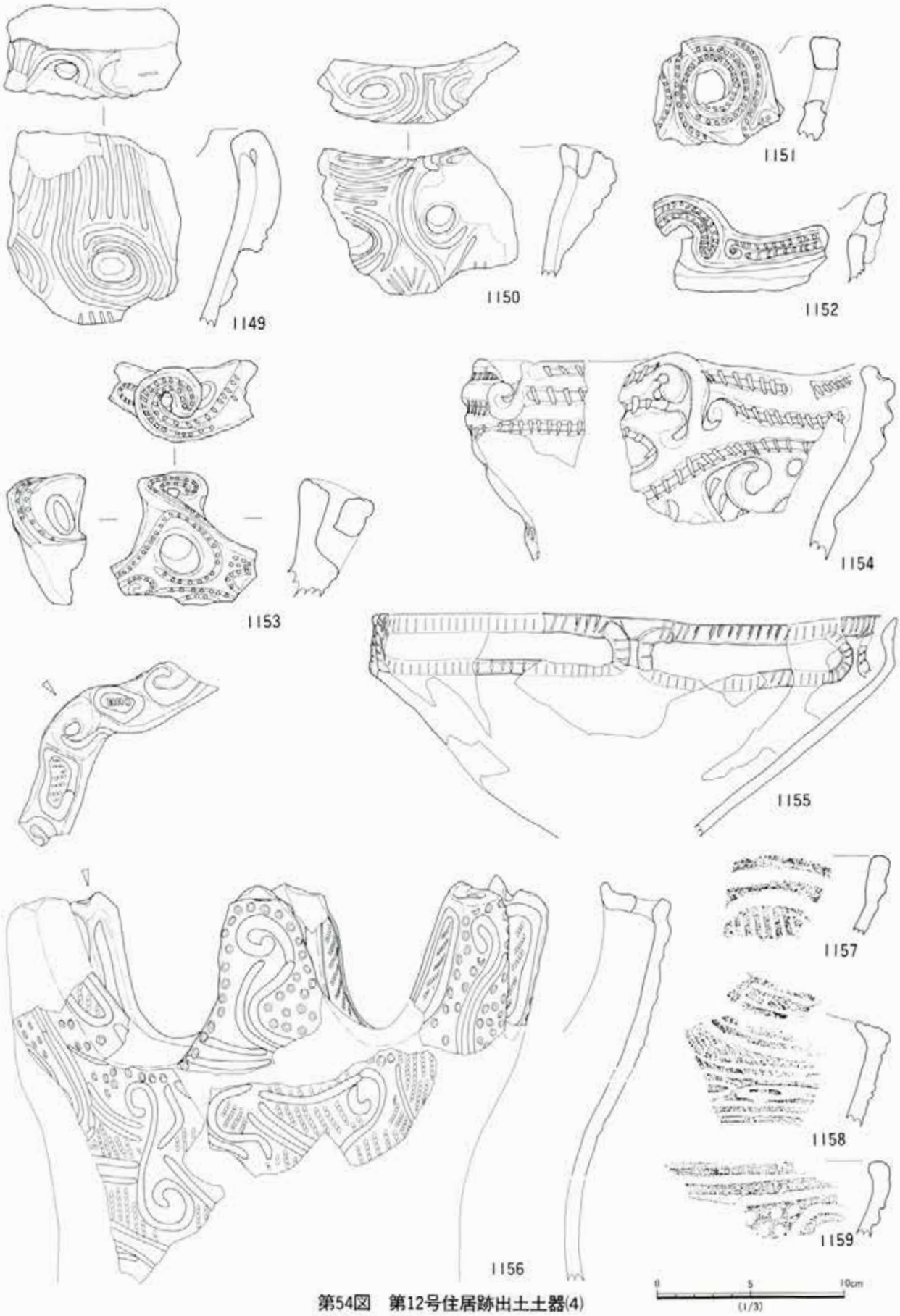
C7群（1134～1137） 1134～1136は、口唇部に刺突列、その下に平行沈線が施されている。1137は、極端なキャリパー形口縁をなし、口縁部には棒状工具で沈線による横三日月状区画を作り、その内部は短い縦の平行沈線を施している。また横への突出部もあり、周辺部には円形刺突もみられる。頸部はあまり残っていないが、無文であろうと考えられる。

C8群A類（1138） 覆土への掘り込みのSK①より出土した。口縁部の橋状把手は欠落している。残存している上部は、波状をなし、波頂部には穿孔があり、まわりには幅の広い沈線とその内部の刻みにより文様を構成する。頸部は無文であり、胴部には渦巻状の隆帯と、その間には刻みが施されてい

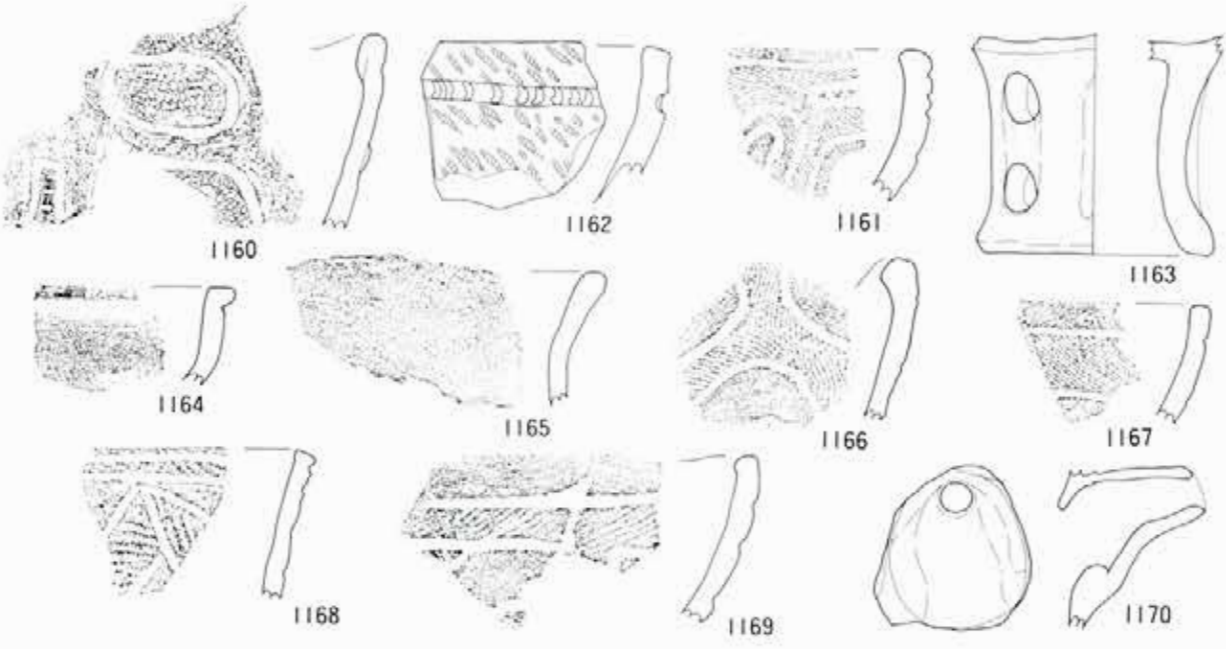


第53図　第12号住居跡出土土器(3)

0　5　10cm
(1/3)



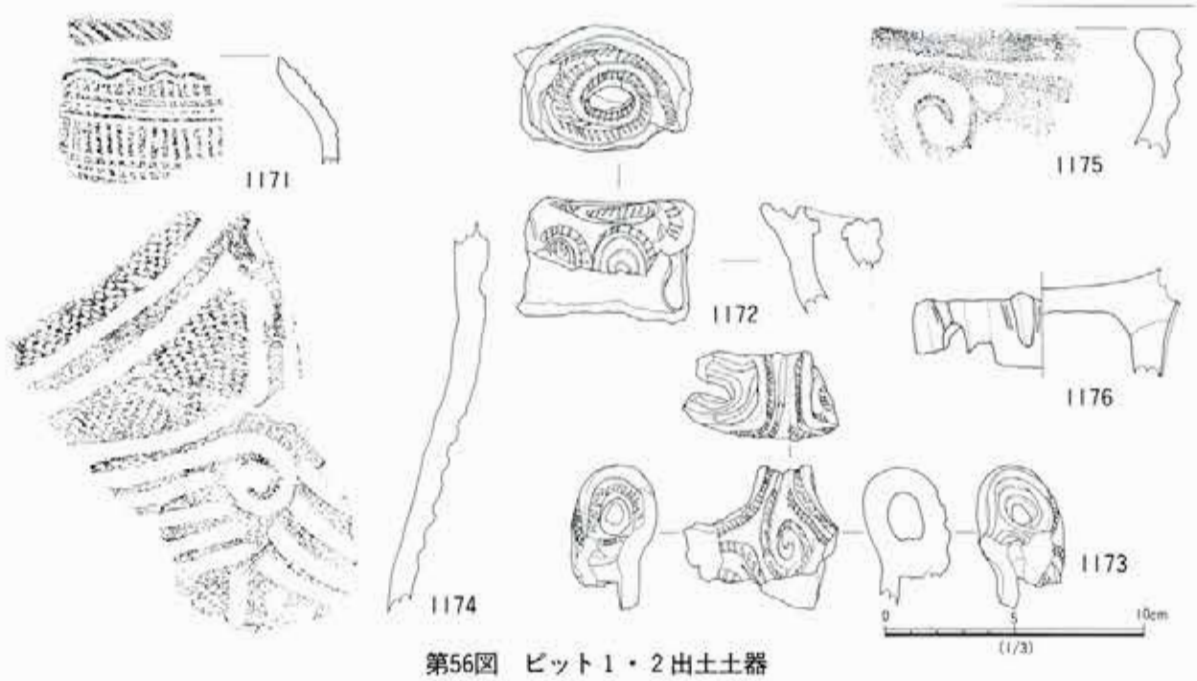
第54図　第12号住居跡出土土器(4)



第55図　第12号住居跡出土土器(5)

る。内側には蓋受け状の段が作られている。残存部分は胴上部までであるが、この下は半球形を呈し脚台がつく可能性がある。ＳＢ10の1038と同類の報告ではあるが、傾向をやや異にするものである。

Ｃ９群（1139～1152、1154） 1142～1144は、Ａ類。口縁部に隆帯による渦巻文、あるいは楕円区画文を配し、その区画内に縄文を施すものである。1044は、波状口縁をなし、波頂部に渦巻状の突出部がみられ、Ｃ10群Ｂ類に近いものがある。1140、1145～1147は、Ｂ類。1140は、覆土への掘り込みのＳＫ②から出土している。４単位の波状口縁をなし、口唇部、胴部楕円区画内に縄文が施されている。口縁部は隆帯で楕円区画がなされ、その内部には多くの円形刺突が充填されている。頸部、あるいは底部の周囲には、縦長の楕円状の刺突が横一列に施されている。1145は、ＳＫ①より出土した。胎土は白っぽく（10ＹＲ6/2)、波頂部は５単位で、肥厚した口縁部をもつ。隆帯で楕円区画部を作るが、内部には文様はない。頸部から胴部にかけて、縦の隆帯と区画内に斜行する沈線が施される。1146もＳＫ①よりの出土で、外反した厚い口縁部をもつ。波頂部には幅の広い隆帯で渦巻文をつくり、横に隆帯による楕円区画をもつ。区画内には、円形刺突が充填されており、頸部には縦長の刺突が施されている。胴部には、かすかながら斜行する沈線がみられる。1147は、口唇部に炭化物が厚く付着している。楕状工具により斜めに施文され、その下のわずかに残る隆帯区画内には、篦状工具による沈線が施されている。1139、1148～1154は、Ｄ類である。1139は、波頂部にあたるが、隆帯で渦巻文を施し、その隆帯間の溝に沿って、先の尖った棒状工具で刺突が入れられている。1148は、波状の口縁で隆帯区画をもつが、区画内は欠損している。1049、1050は、同一個体と思われる。上部で折り返し、二重に貼り付けた厚い口縁部をもつ。上部、側部の穿孔部を中心として沈線で文様をつけている。1151、1152は、ともに半円形の波頂部をもち、中央の穿孔を中心として、渦巻状の沈線とその溝に沿って施される円形の刺突により文様が構成される。1154は、ＳＫ②の出土で、幅広の厚い隆帯で渦巻文を作っている。隆帯間の溝に沿って、先の角張った棒状工具で刺突を施している。胎土は、1145同様で白っぽい。(10ＹＲ7/2)



第56図　ピット1・2出土土器

C10群（1153、1156、1158、1160） 1153の文様は、1151、1152につながるものであるが、突出した徳利状の口縁をもつということで、C10群とした。渦を巻くような状態で突出しており、上部、側部の穿孔部を取り巻くように、沈線、その内部に刺突がおびただしく施されている。1156は、その多くがSK①の出土であるが、一部はB6グリッドからも出土した。箱状に突出した口縁をもつが、その頂部では穿孔部を中心として渦巻状になっている。沈線で渦巻文をつくり、突出部には竹管による円形刺突、胴部あるいは突出部の折れ曲がる部分には、わずかに縄文が残る。1158、1160は、突出部と突出部との間の部分で、沈線を中心として施文されている。

C11群（1157、1159、1161） いずれもB類で、区画の全体はわからないが、内部に沈線・刺突がみられる。

C12群（1165） 口縁部でやや外反している無文系深鉢土器である。

C13群(1155、1162、1164) 1155、1164は浅鉢である。1155はSK②より出土した。胎土が浅黄色(7.5YR8/3)で、器壁は薄い。口唇部に隆帯の貼り付けがみられ、上部に刻みが入れられている。底部付近には、炭化物が付着していた。1162は、地文に縄文がわずかに残り、上部には沈線内に爪形の刺突が施される。

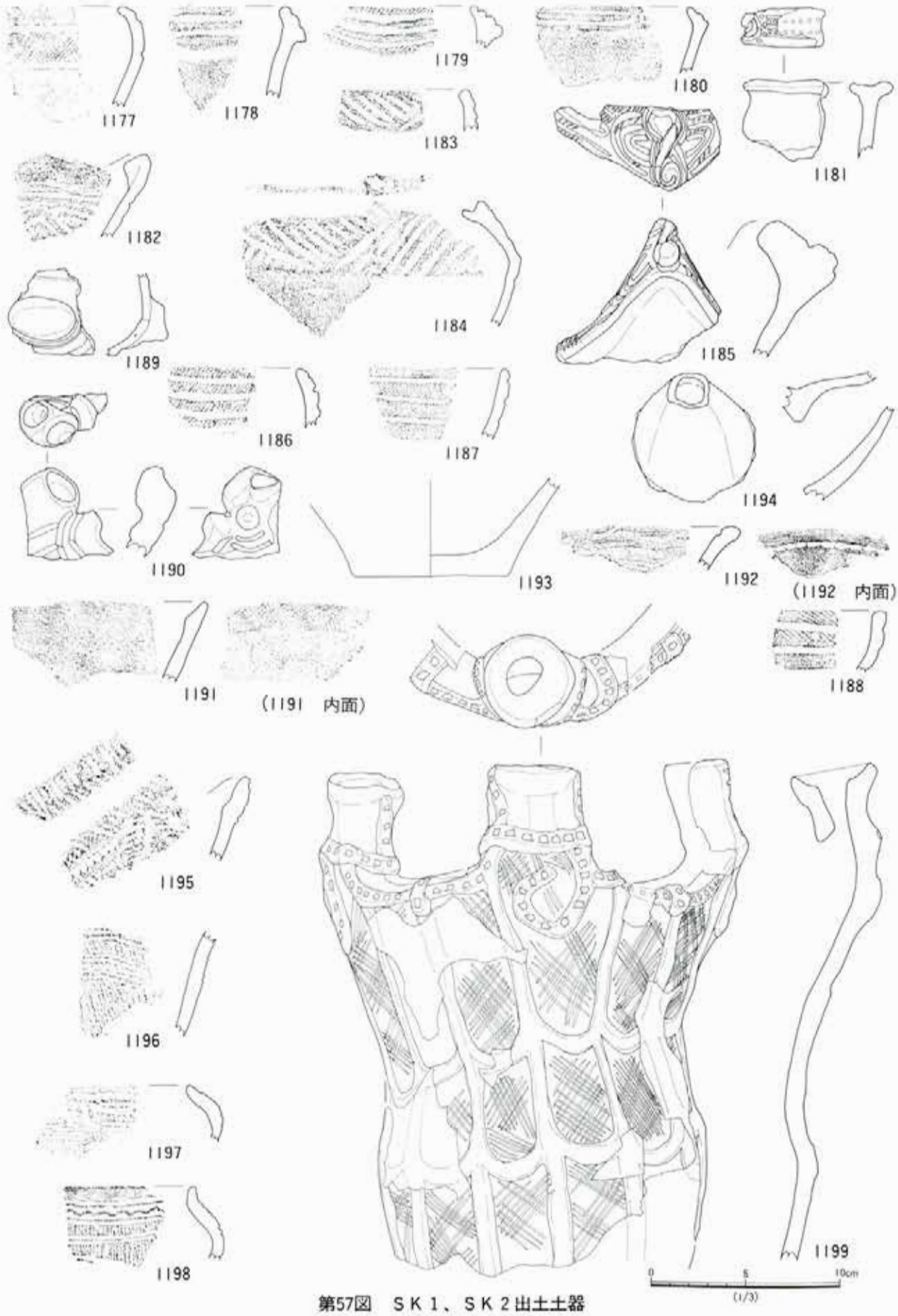
C14群（1163） 台付鉢の脚台部で、2カ所の穿孔部をもつ。

後期（1166～1170） いずれも沈線区画によって縄文の施されている箇所と、そうでない箇所がある土器である。1170は、注口土器の注口の部分である。

⑸　Ⅲ層上面のピットより出土した土器（第56図、1171～1176、図版19）

①ピット1（1175、1176） 1175は、C9群で、口縁部に隆帯で渦巻文が施してある。同一個体ではないが、SB12出土の1154と胎土、施文方法等似たところが多い。1176は底部で、下部は欠落しているものの、脚の部分が残存している。上部より縦の隆帯があった痕跡が残る。

②ピット2（1171～1174） 1171はC6群B類。地文は撚糸文で、半截竹管による平行沈線、波状線が



第57図　ＳＫ１、ＳＫ２出土土器

みられる。また口唇部裏にも、撚糸は施されている。1172～1174は、C10群B類である。1172、1173は、同一個体で、波頂部が円柱状に突出しており、渦巻文とともに溝部分には篦状工具による細かい刻みが入れられている。1173は、突出部の間にあるもので、把手状で横に通る穿孔をもつ。1174は、遺構外出土の1669（A6グリッド出土）と同一個体で、1174の上部には火口状の突出部がつくものと考えられる。口縁部の沈線の区画内には縄文が施されている。

(6) Ⅲ層上面の土器集中区（SK1、SK2）(第57、58図、1177～1211、図版19、20)

①SK1（1177～1194） ここから出土した土器は小片が多く、ほとんどが後期のものであった。

K1群（1177～1181） 1177は、口縁部が内彎し、口縁に平行する2本の沈線の間に縄文が施されている。1178～1181は、口縁がくの字状に屈曲して肥厚し、その上部には平行沈線が施されている。1179は縄文、1181は刺突列がある。

K2群（1182～1188） 1183、1184は同一個体で、口縁部には沈線が施され、その細長い区画内に縄文が充填されている。また、この2個体については、沈線の内部に赤色顔料が多く残っていた。1186～1188も同様であるが、前者よりやや沈線間が広い。1188には赤色顔料がみられる。1185は、三角状に突出した口縁をもち、その頂部には球状の玉が2個あり、それをSの字状の隆帯でつなぐ。口縁の屈曲部分には、1183～1188と同様で、沈線区画内に縄文が施される。1182は、波状口縁で波頂部はやや厚くなり尖っている。表面には細長い刺突と沈線の文様がわずかにみえる。

K4群（1194） 注口土器の注口部であるが、先端部が折れている。器形は、接合部分にむけて急に拡大しており、接合部で径6cmである。

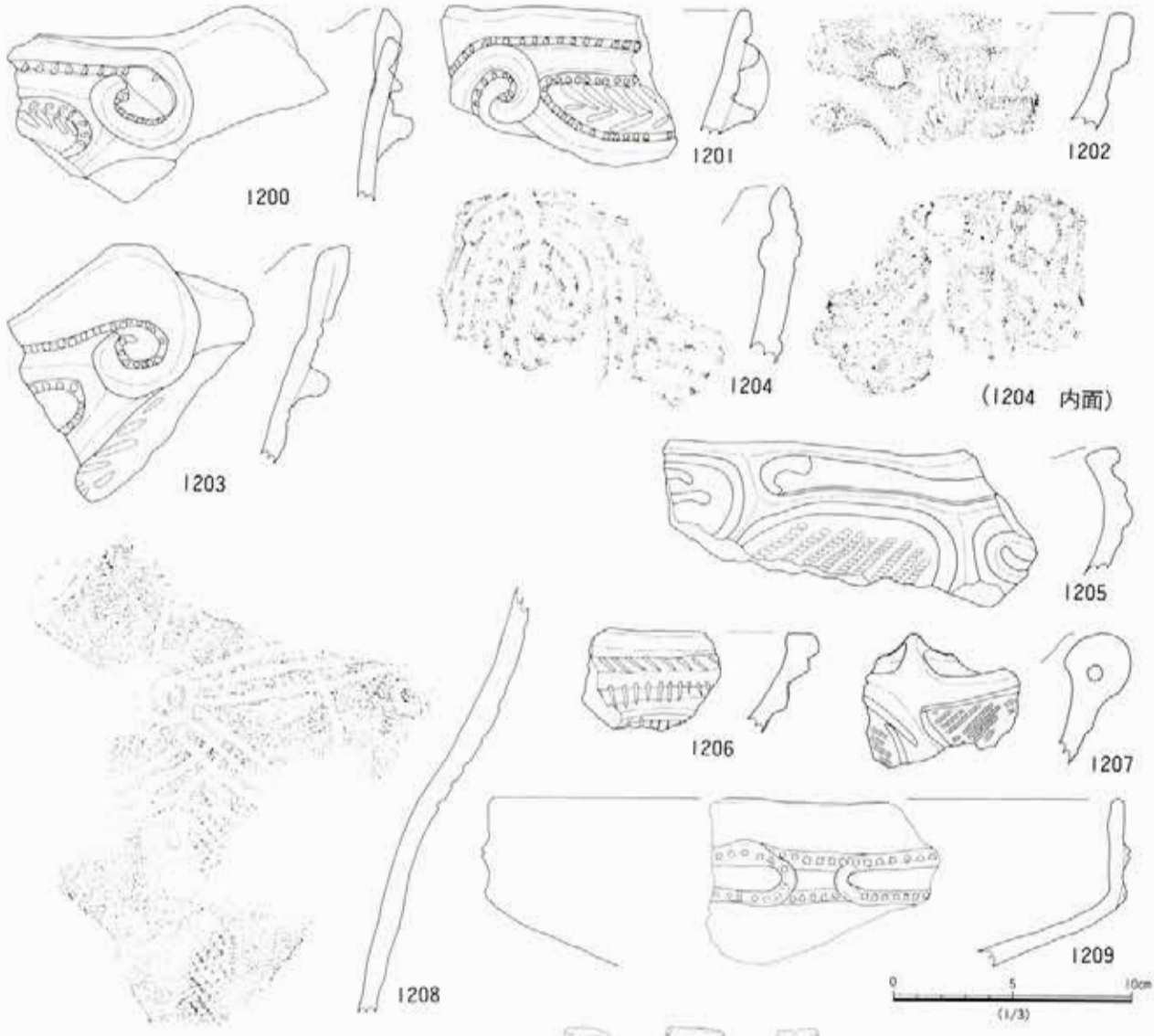
K5群(1189～1193) 1189は、横へ突出した把手部と考えられるが、器形はよくわからない。1190は、口縁の突出部と考えられる。表面には沈線、裏面には沈線と小指頭大の圧痕がみられる。1191は、表面は無文であるが、口唇部裏側上部より1cm程度の箇所で帯状に撚糸が施されている。1192は、皿状のものと考えられる。外面は無文で、内面の口縁に沿って先の丸い棒状工具による連続刺突文が施されている。1193は、底部である。表面は無文で、内面底部は曲線状に底に下がっている。

②SK2（1195～1211） ここから出土した土器は、中期後半のものが中心であった。

C1～C6群（1195～1198） 1195はC1群で、遺構外のB11、E11グリッド出土の1505、1506と同一個体であると考えられる。縄文を地文とし、貼り付け隆帯に連続押し引きの刻み目を施している。口唇部裏側には、深浅浅の縄目文様がみられる。1196～1198は、C6群。地文は撚糸文で、半截竹管による平行沈線を施すものである。1198は、口唇部が外反し交互刺突による波状文もみられる。

C9群(1200～1203、1205、1206) いずれも口縁部に隆帯による渦巻文、あるいは楕円区画文を配し、1205は区画内に縄文、それ以外は区画内に刺突や沈線を充填している。

C10群（1199、1204、1207） 1199は、SK2南西部の大きな角礫片の下より出土したもので、口径は22cmで、口縁部には,4単位の徳利状突出部をもつ。突出部と突出部の間は、内側に大きく折れ曲がり、隆帯は突出部頸部を巻き、一部は下方に伸びて渦を巻く。その隆帯上には方形の刺突列が施されている。胴部は、幕状に隆帯が下に垂れ、その区画内には、櫛状工具で細かく格子状に線が施されている。胎土は白っぽく（10YR7/3)、外面、内面ともに炭化物が多く付着している。器形は胴部がわずかにくびれ、底部は残存していない。1204は、四角な突出部で、1207は、突出部と突出部の中間部である。



第58図　ＳＫ２出土土器

第59図　第13号住居跡出土土器

1207は、隆帯区画内に縄文が施されている。

C13～C14群（1208～1211） 1209は、浅鉢で、側部には隆帯が施され、隆帯上に刺突列がある。底部には厚く炭化物が付着している。1210は胴部で、隆帯間に沈線で葉脈状の文様が施されている。1211は底部で、底面には網代痕がみられる。

(7)　第13号住居跡出土の土器（SB13）（第59図、1212～1228、図版18）

第13号住居跡からは、194点というわずかな土器しか出土しなかった。そのほとんどは、C1、C2、C6群に含まれる。ここでは17点を図示した。

炉横に貼り付けられていた土器（1212～1214） この3個体とも、同一個体である。C6群A群で、縄巻縄文を地文とし、半截竹管により平行沈線を施している。表面の各所には厚く炭化物の付着が認められる。1213には、頸部付近に半截竹管による波状文がみられる。SB15やSB17の床面貼り付けとは異なり、小個体が多かった。

C1群（1215、1217～1220、1223） 1215（e23）は、波頂部で貼り付け隆帯上に刻み、半截竹管状工具による爪形連続刺突、隆帯に沿った刺突列が施されている。口縁裏側には、縄文が施されている。なお、土器片左下には、補修孔と思われる焼成後の穿孔がある。1217は、地文が縄文で、三日月形に隆帯が施されている。1218（e18）は、縄文の地文の上に半截竹管により平行沈線が施してある。1219（e9）は、キャリパー形口縁をもち、口縁に沿う形で隆帯が貼り付けられている。1220（e5）は、地文が縄文で、口縁上部は折り曲げられ肥厚している。1223は、半截竹管状工具による平行沈線がみられる。

C2群（1221、1222、1224、1225） 1221、1222は、同一個体である。隆帯と刺突により施文されており、赤色顔料の付着が認められる。1224と1225は、キャリパー形口縁をもち、前者は横の2本の隆帯と、縦の細長い刺突列により文様をなす。後者は、横の隆帯とその上下の円形の刺突により文様をなす。

C6群（1216、1226～1228） 1226（e28）、1228は、縄巻縄文を地文にもち、半截竹管の平行沈線によ

り施文をしている。1216の口縁は、波状をなし上部には刻みが入っている。表面の炭化物の付着は著しい。1227（e23）は、地文が撚糸で半截竹管による平行沈線が施されている。1228は底部で、底面が内側へやや窪んでいる。側面には撚糸が施されている。

⑻　第14号住居跡出土の土器（SB14）（第60～62図、1229～1280、図版8、21～23）

第14号住居跡からは、1,590点の土器が出土し、その多くはC9群～C11群のものであった。ただ後の掘り込み等、攪乱が多くみられ、土器片も小さいものが多かった。住居跡南部の土器集中区出土の土器も含めて52点を図示した。

石組み遺構付近の土坑より出土した土器（1229～1231） 1229は、C9群の土器で、波頂部に隆帯による円形区画をして、その区画内に短い沈線で施文している。1230は胴部で、沈線の楕円区画の内部に葉脈状文が施されている。1231は、C2群で口縁部がくの字状に屈曲し、頂部上には刺突列、胴部には縦の隆帯が施されている。

C1群（1232） SK158より出土した。地文は縄文で、貼り付け隆帯に刻みが入れられている。

C2群（1233、1234） 1233はA類で、小片ではあるが縦の隆帯の間に櫛描沈線が施されている。1234は、D類で、キャリパー形口縁をなし、太く短い沈線で施文している。

C3群（1235） A類で、口縁部がやや屈曲し、口縁線に沿ってくの字状の細かい連続刺突が施されている。

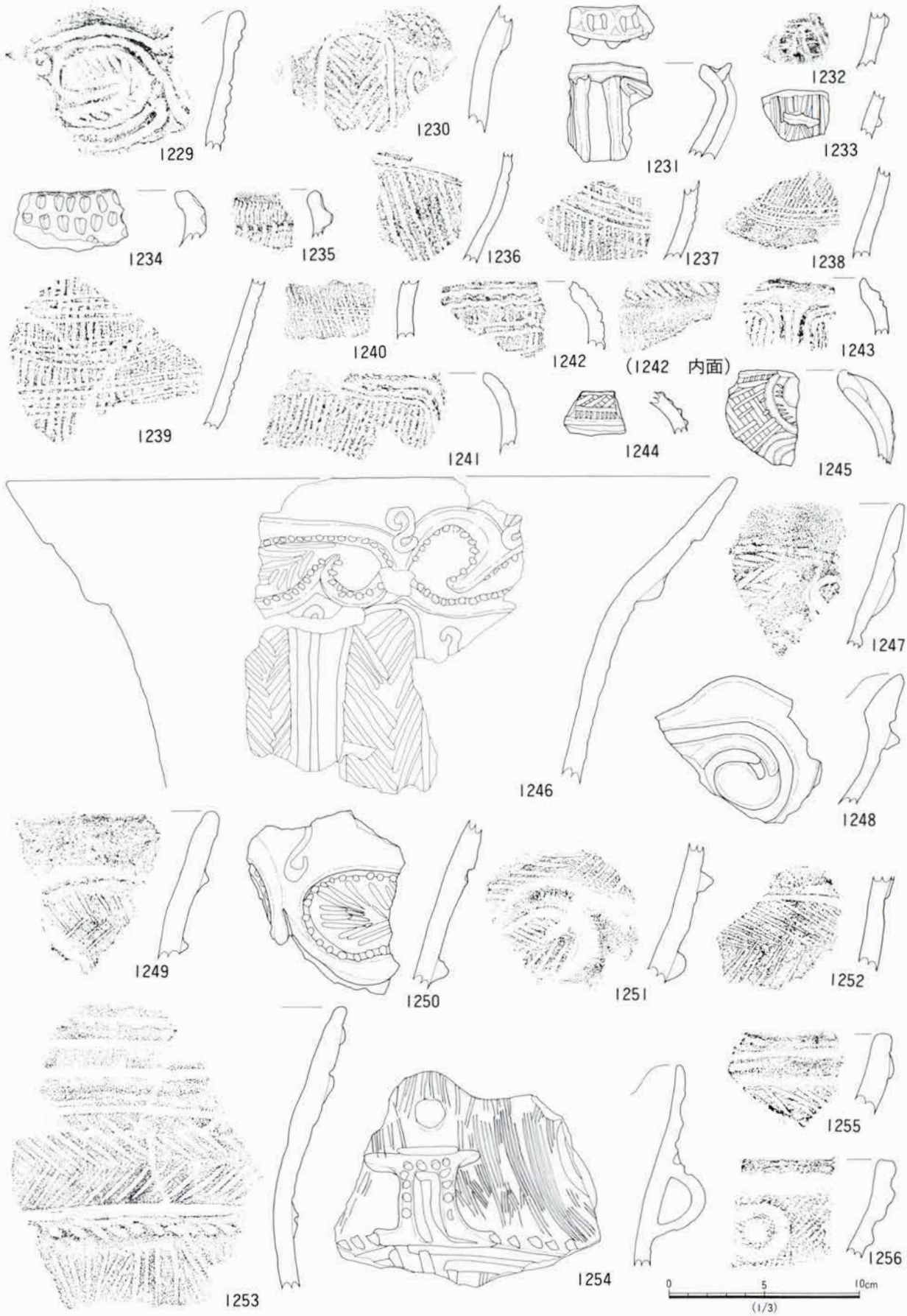
C6群（1236～1243） A類は、1236、1237（SK158）、1240（SK150）で、ともに縄巻縄文を地文とし半截竹管による平行沈線で施文している。1241（SK158）、1243（f9）はB類で、撚糸文を地文とし半截竹管によって平行沈線を施している。1242（SK158）はC類で、撚糸文を地文とし、交互刺突による波状文を施す。口縁裏側にも撚糸文がみられる。1238はD類で、地文が条線である。

C7群（1244～1245） キャリパー形に内彎する上部側の土器片である。ともにソーメン状粘土紐により格子状に貼り付けがなされている。1245（上部土器集中区・SK⑨出土）は、上部に極端に肥厚した部分がみられる。

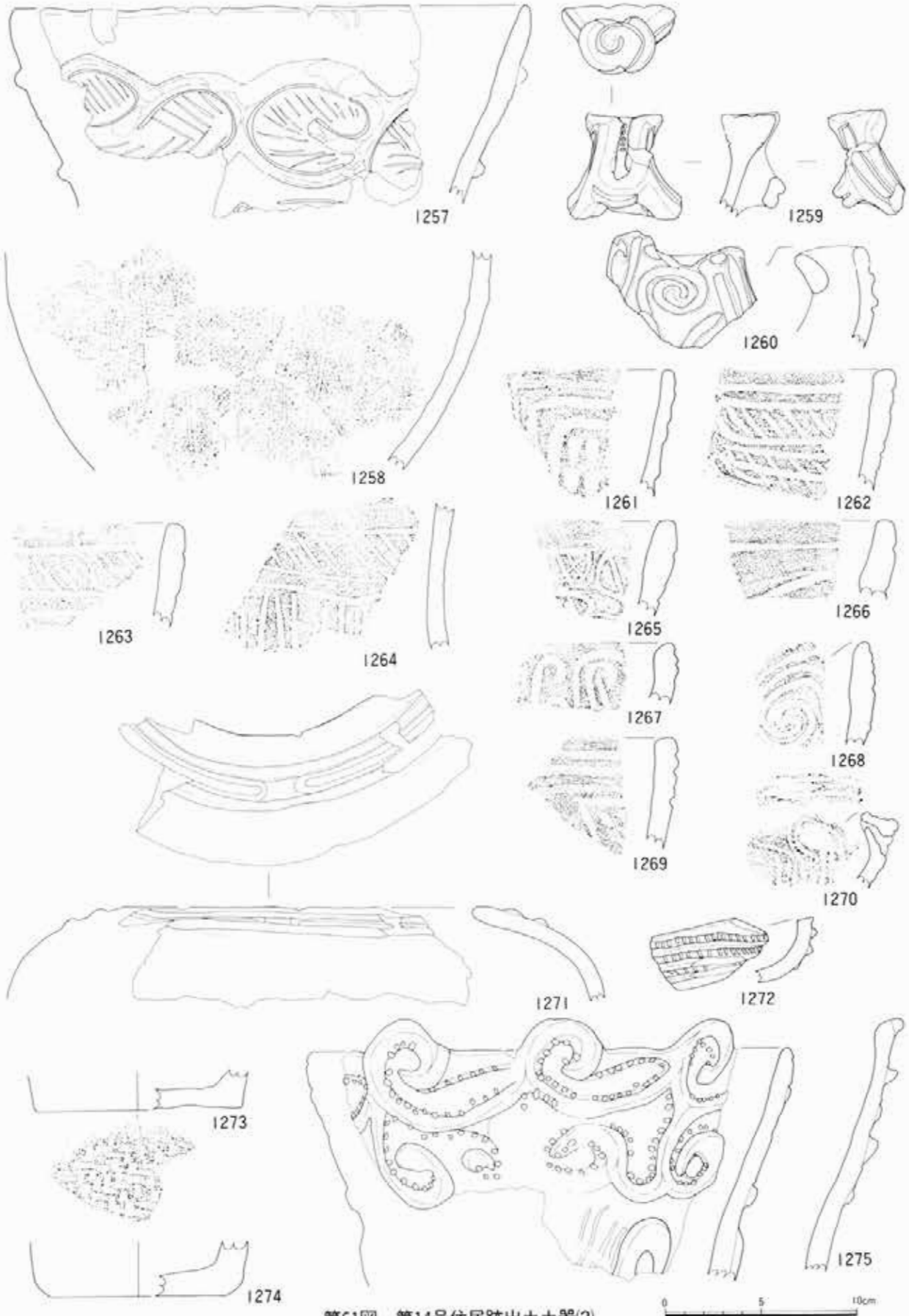
C9群（1246～1253、1255、1257、1258） 1246は、SK⑨出土。口縁部が大きく外反しており、口縁部には隆帯による楕円区画文をつくっている。その区画内には、横の葉脈状文様があり、隆帯内周に沿って刺突が施されている。胴部は、沈線による楕円区画をつくり、縦に葉脈状文を施している。1248（SK144）は、波頂部に隆帯の渦巻文が施されている。1247（SK145）、1250～1252、1255（f10）はC類で、いずれも隆帯の区画内に葉脈状の沈線を充填する。1249、1257、1258（SK⑨）は同一個体で、口縁部は隆帯による楕円区画内に葉脈状の沈線を充填し、胴部には浅い垂下沈線の間に葉脈状の文様を施している。1246、1257ともに、表面に多くの炭化物が付着している。

C10群（1259、1260） 1259は徳利状の口縁をもち、上部には渦巻文がみられる。突出部の表面下部には、把手状のものがあり、縦に穿孔が通り、内部には刺突が施されている。1260は、火口状の突出部の上部で、沈線による渦巻文が施されている。

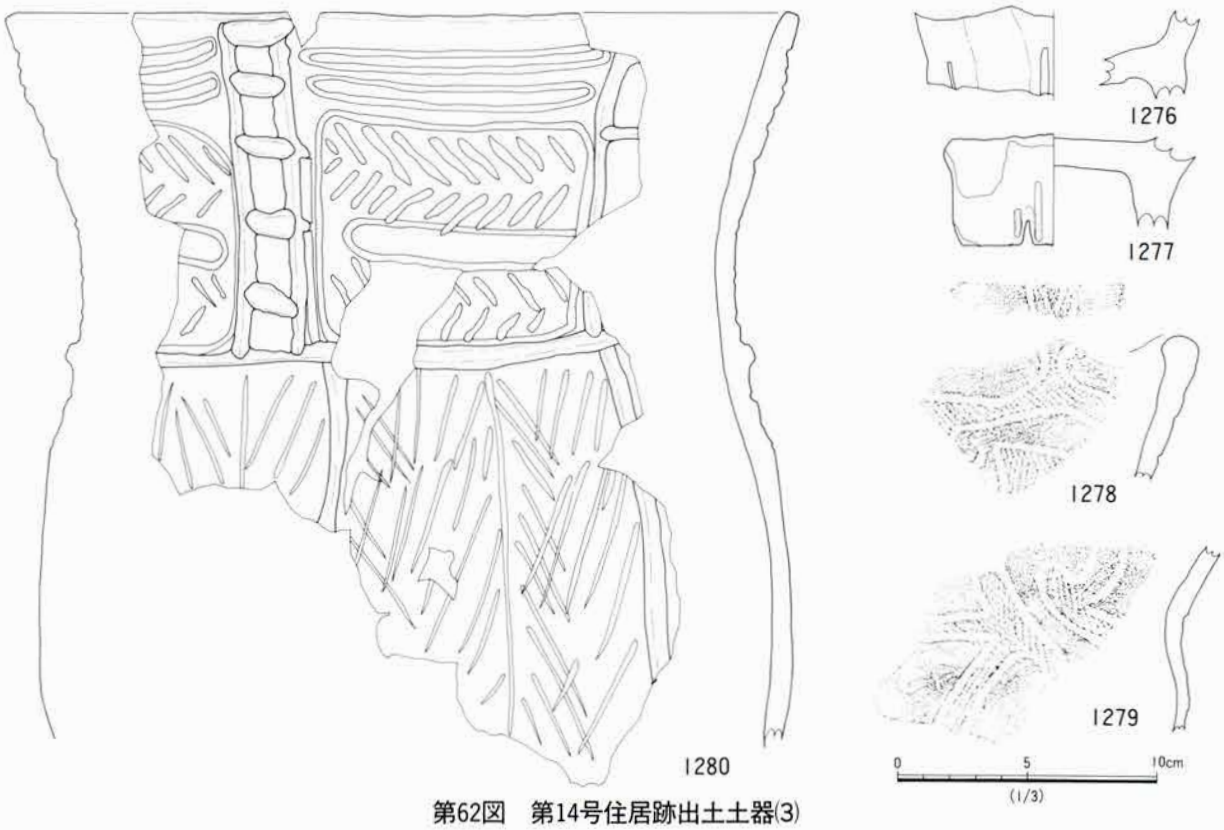
C11群（1256、1261～1269） 1256、1261～1267はA類で、口縁部に沈線による楕円区画文を配するものである。1256（SK147）は、地文が縄文で、1261は、区画内に刺突が施される。1262～1265は、区画内に斜行する短い平行沈線が施されている。1268はB類で、波頂部に沈線の渦巻文がみられ、1269



第60図　第14号住居跡出土土器(1)



第61図　第14号住居跡出土土器(2)



第62図　第14号住居跡出土土器(3)

はC類で、沈線内部に篦状工具による刺突が施される。

C13群（1254、1270～1272） 1254（f10）は、C9～C11群のものであろうと考えられるが、他と異質な面が多いのでC13群に含めた。波状の口縁をもち、波頂部には指頭の圧痕がみられる。円形刺突を施した把手があり、その周辺部には5本単位の櫛状工具による条痕が施されている。その下には沈線により施文されているが、胎土は黄褐色（10YR5/4）で、非常に硬質である。1270は、波頂部に穿孔がみられ、沈線により施文されている。1271は、浅鉢の内部へせり出した口縁部である。口縁に沿って二重の隆帯がなされている。胎土は白っぽく（10YR8/2）硬質である。1272は、小さな椀状のものである。2本の隆帯の内に爪形の連続刺突が施されている。

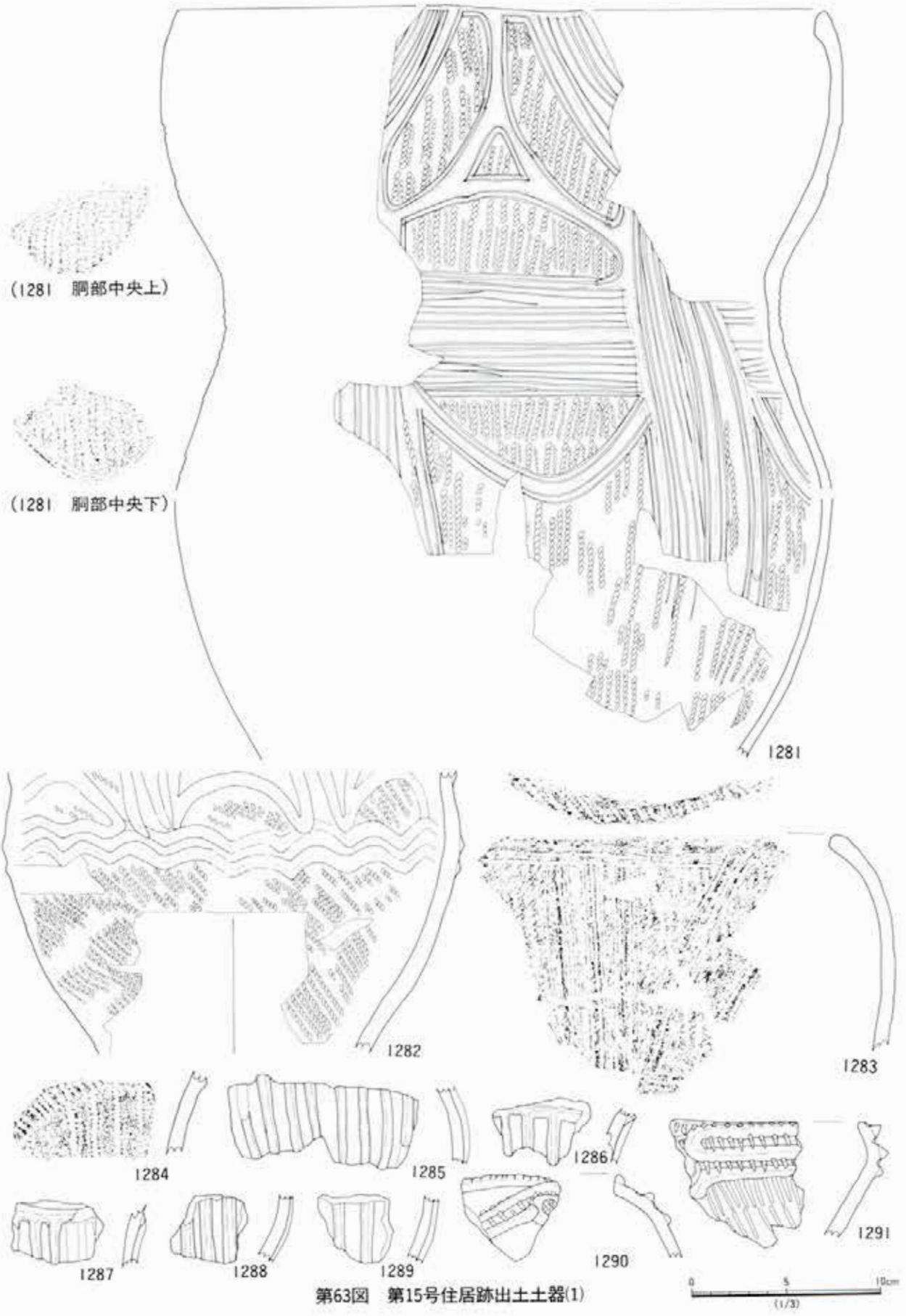
C14群（1273、1274、1276、1277） いずれも底部で、1273の底面には網代痕が認められ、1276、1277は、脚のある底部である。

K1群（1278、1279） 同一個体である。波状口縁をなし、沈線区画内に縄文を施している。

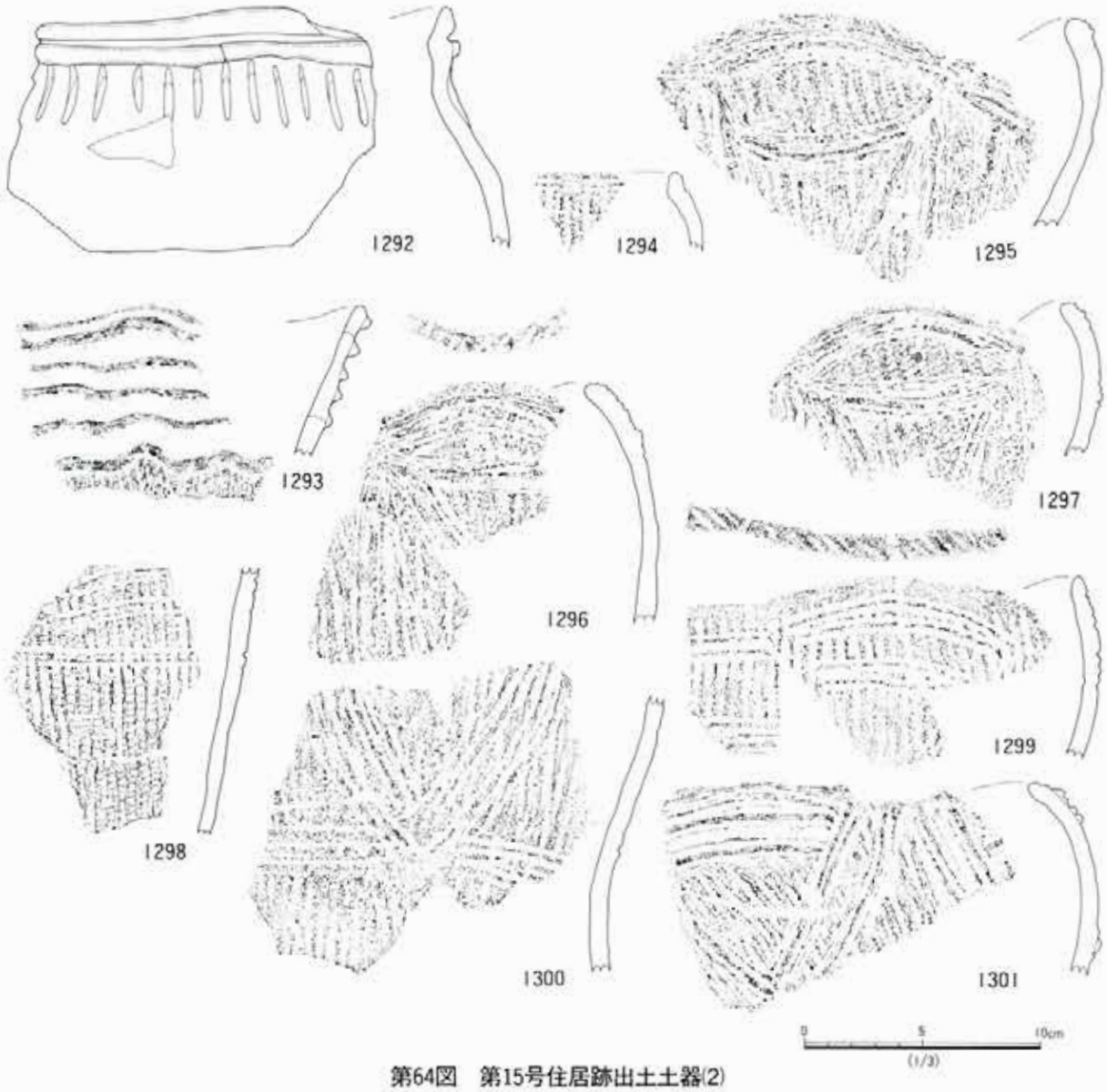
SK205出土の土器（SB14南部の土器集中区）(1275、1280) 1275はC9群B類で、胎土は黄橙色(7.5YR7/8）をしており、隆帯による渦巻文により施文をしている。また、隆帯内側に沿って円形刺突がなされている。口径は23㎜である。1280はC9群C類で、平口縁をなし、口縁部には隆帯で梯子状文様とともに楕円区画を施している。その楕円の区画内には、横の葉脈状文様がみられる。胴部は、縦の沈線とともに斜行する沈線も施されている。胎土は白っぽく（10YR8/4)、器壁は薄めである。

(9)　第15号住居跡出土の土器（SB15)（第63、64図、1281～1301、図版8、23、24）

第15号住居跡からは、190点の土器片が出土した。その多くは、1281（45点)、1282（71点）の土器片に含まれ、その他の出土はわずかであった。ここでは、21点を図示する。



第63図　第15号住居跡出土土器(1)



第64図　第15号住居跡出土土器(2)

床面貼り付けの土器（1281、1282）検出時では、1281が、ほぼ表を上面として貼り付けられていて、その下部から1282が多くの小片で出土した。1281は、地文は縄巻縄文で、貼り付け隆帯により文様を構成し、その隆帯の両側に半截竹管による平行沈線を施す。頸部は横位で帯状に平行沈線が走る。平口縁で、口唇部裏側にも縄巻縄文の施文がわずかに残る。1282は、胎土は黄橙色で（7.5YR8/6）硬質である。頸部から上がない状態で、小さな破片（71点）で出土した。地文は縄文(RL)で、胴上部には貼り付け隆帯で横二列の波状文様帯がある。硬質にもかかわらず小片で、しかも割れ口が摩耗していない点などから、作為的に割られて埋められた可能性もある。

C1群（1283、1284）いずれも縄文を地文としており、1283は貼り付け隆帯の両側に半截竹管による平行沈線を施している。口縁部は内湾しており、口唇部裏側には縄文が施してある。1284は、隆帯に太い半截竹管による連続押し引きがみられ、炭化物の付着は多い。

C2群(1285～1293)1285～1289、1293はB類で、貼り付け隆帯を主文様とするものである。1293は、波状口縁で、他と違い横に波状の隆帯を多用している。地文には、わずかに縄文が残る。1290～1292

第65図　第16号住居跡出土土器

はC類で、1290は、貼り付け隆帯の両側に刺突がみられる。口縁上部には、隆帯に刻みが入れられている。1291は、横の隆帯の間に、縦の短い沈線を多用して文様を構成している。1292は、口縁上部に横に隆帯があり、その下に縦の短い沈線が施してある。地文は無文である。

C6群（1294～1301） この土器群では、すべてA類で、地文が縄巻縄文のものばかりであった。1294は小片で、地文と口唇部裏側に縄巻縄文が施文してあり、口縁に沿って平行沈線がみられた。1295～1297の同一個体、1299と1300の同一個体、1301は、いずれも類似した器形である。口縁が内彎し、地文、口唇部裏側に縄巻縄文が施され、貼り付け隆帯の両側に半截竹管で平行沈線を施す。

⑽　第16号住居跡出土の土器（SB16）（第65図、1302～1335、図版24、25）

第16号住居跡からは、1,832点の土器片が出土した。この地点は、SB9の下層部にあたる。出土土器片はC1～C11群までさまざまであった。ここでは、34点を図示する。

炉石下より出土した土器（1302～1304） 1302はC2群で、隆帯を基調とし隆帯間に櫛描沈線を施している。1303はC9群で、把手があり、それに続く隆帯には斜めに刻みが入れられている。1304は、底部である。側面、底面に文様は見られない。

炉石北の硬化面中より出土した土器（1305～1307） 1305は、胎土が徳山のものとは考えられず、器壁は厚く硬質である。表面、裏面の一部には、赤色顔料の付着が認められる。波状口縁をなし、突出した波頂部には、渦巻文を基調とし隆帯で文様をつけている。C7～C8群と同時期のものと考えられる。1306、1307は、C6群A類。地文は、縄巻縄文で、半截竹管により平行沈線が施されている。

C1群（1310） 胴部片で、地文に縄文が施され、隆帯で文様を構成する。

C2群（1308、1309） いずれもA類。1308（SK100）は、縦の隆帯の間に櫛描沈線がみられる。1309は、内彎した口縁部である。

C3群（1312） SK90出土で、口縁部小片で、横の隆帯に櫛状工具で半円形に連続押圧したものである。

C6群（1314） SK100出土。地文は撚糸文で、半截竹管により平行沈線、波線を施している。キャリパー形口縁部をもち、口唇部裏側にも撚糸文が施されている。

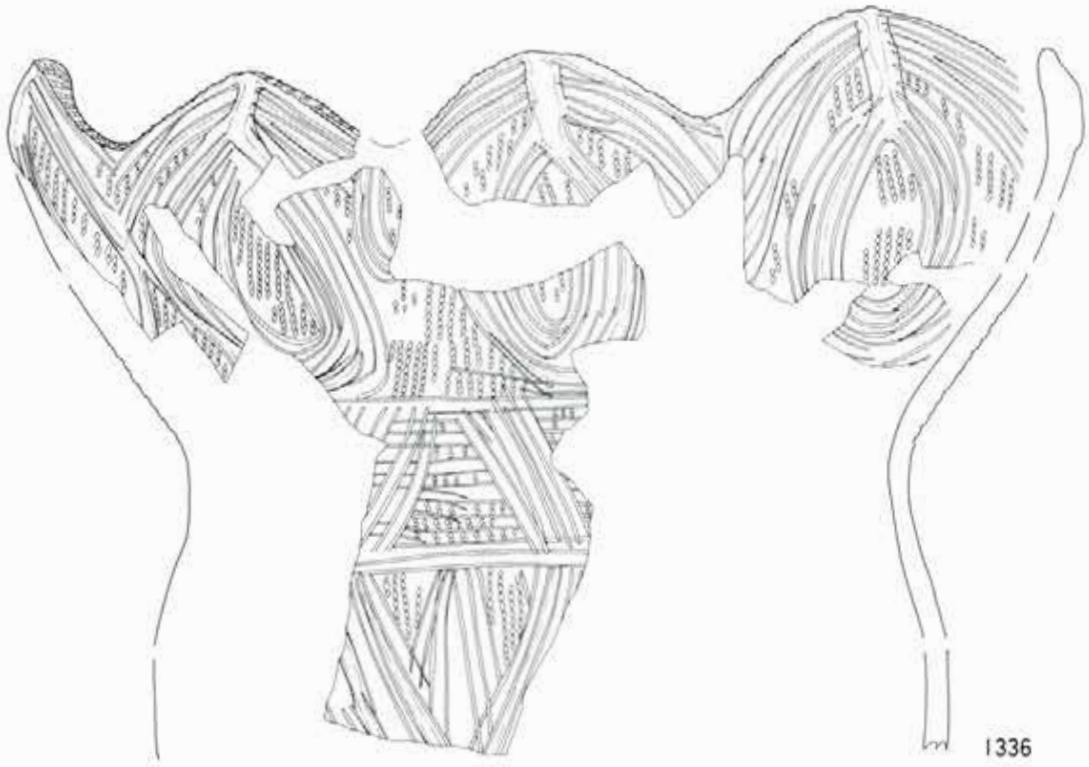
C7群（1313） キャリパー形口縁をなすもので、貼り付け隆帯により文様を構成し、隆帯区画内には縦の圧痕が施されている。

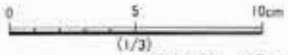
C9群（1315～1320） 1315は、口縁部に隆帯により楕円区画をつくり、その内部に沈線により文様を充填する。1316（SK90）は、三角状に尖った隆帯とそれから出る沈線により文様を構成する。内部には、かなり厚い炭化物が付着している。1317は隆帯と沈線により、1318は隆帯の渦巻文により文様を構成する。1319は、胴部片で隆帯によるC字状の文様である。1320も胴部片。隆帯とその上に太めの先の丸い工具によって刺突を施している。

C10群（1321、1322） 波状口縁の突出部と突出部の間と考えられる。刺突により文様をなす。

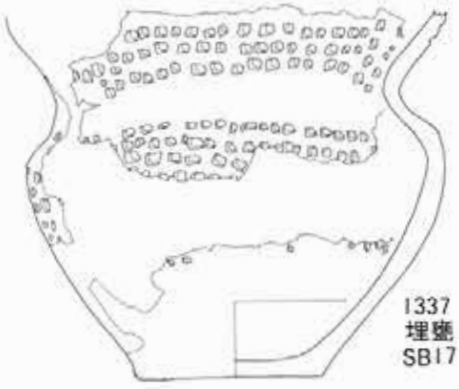
C13群（1311、1325、1326） 型式不明の土器である。1311（SK90）は、1305と同一個体。口縁上部のくの字状の屈曲部で、横の隆帯の間に篦状工具による刺突が入る。1325は、器壁は厚く、横の沈線を施す。1326は、地文は縄文で、広めの沈線を施す。

C14群（1323、1324、1327～1331） 1323、1327～1329、1331は、沈線のみで施文している。1327（SK90）は、ハの字状文様、1324、1328（SK94）、1329は、区画内に葉脈状文様が施される。1330（h48）





第66図　第17号住居跡・炉付近貼り付け土器



は、縦に隆帯があり、その間に葉脈状文様が施される。

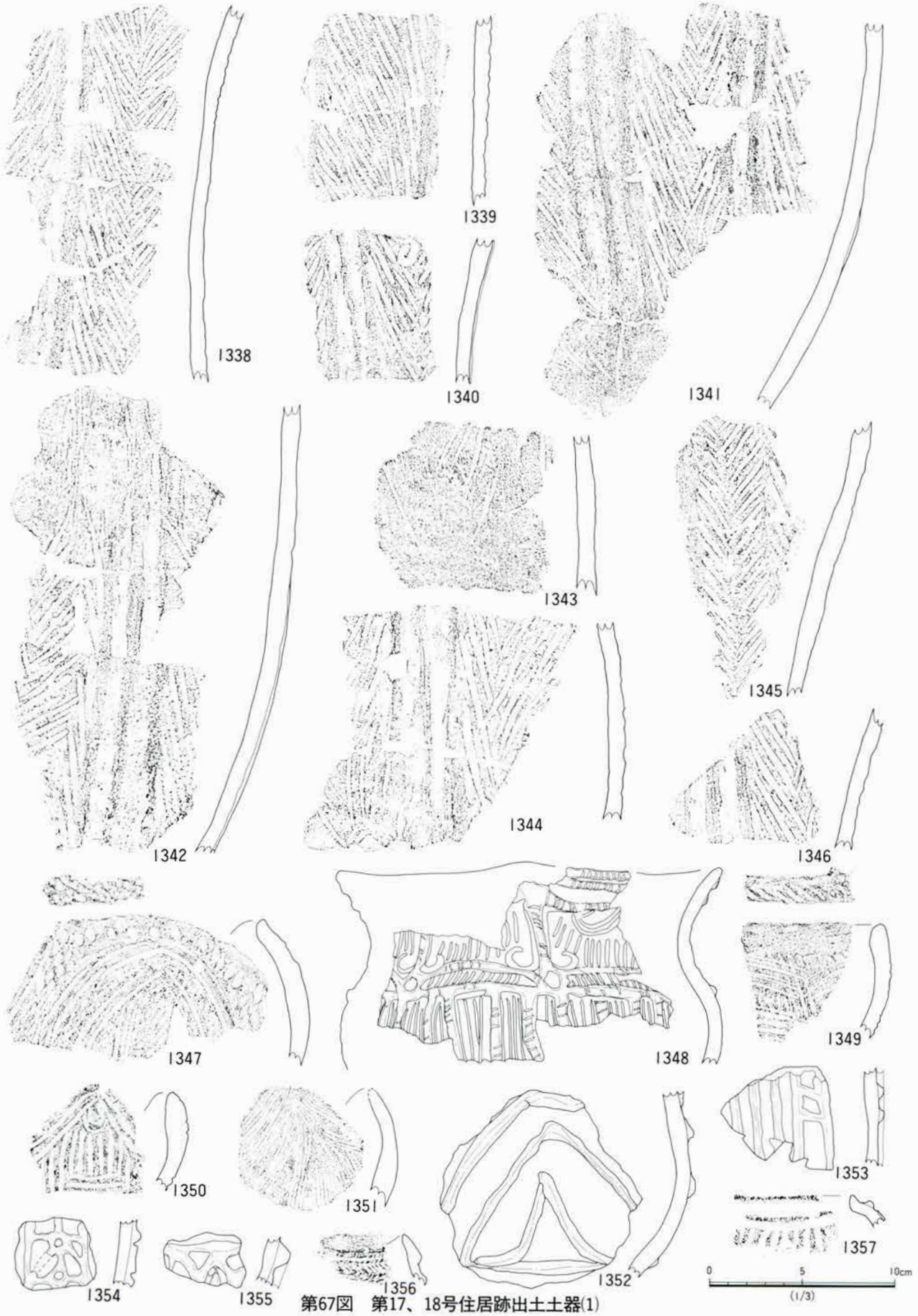
後期の土器（1332～1335）1332（h 7）は、浅鉢で、浅い沈線区画内に縄文が充填される。竹状工具による円形刺突が沈線の屈曲部にほどこされる。1333は、口縁上部が少し開き、上部に沈線と円形刺突が施される。表面は2本の沈線、それに竹篦状工具による調整痕がみられる。1334（ＳＫ89）は、無文で口縁部がやや外反し細くなっている。1335（ＳＫ101）は、表裏ともに炭化物の付着が著しい。ＳＺ04の1484に類似し、表裏ともに巻き貝による調整痕が認められる。

⑾　第17、18号住居跡出土の土器（ＳＢ17、ＳＢ18）（第66～70図、1336～1396、図版9、26～29）

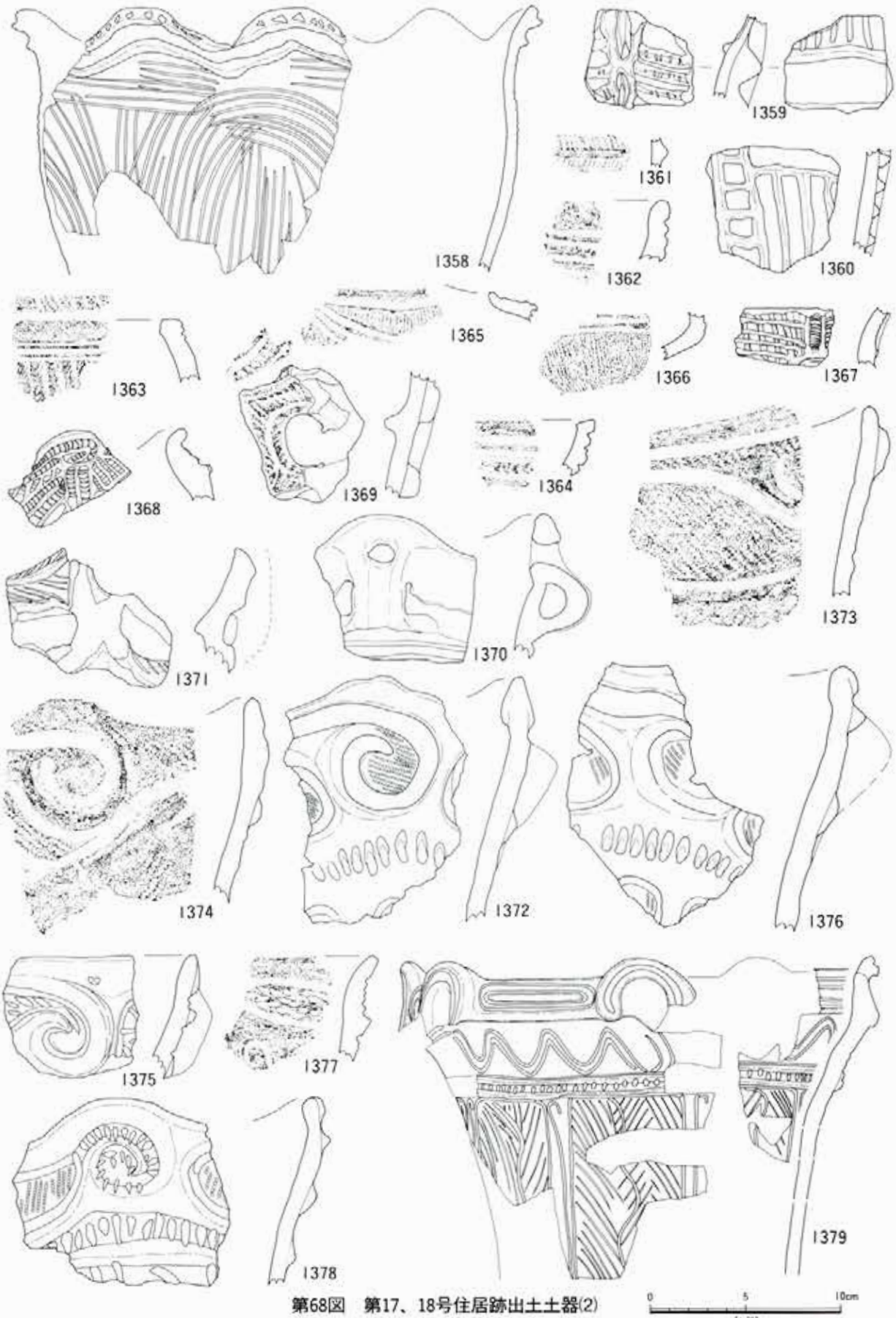
旧村道南部の、上部が削られⅣ層のみ残存する箇所（遺物の多くはＳＢ17のものと考えられる。）からは、121点、旧村道下のⅢ層も残る箇所（その多くはＳＢ17とＳＢ18が重複）からは、1,233点出土した。このうち、64点を図示する。

ＳＢ17・地床炉付近の貼り付け土器（1336）地床炉付近に二重に重なる形で貼り付けられていた。Ｃ1群Ｂ類の土器で、口縁はやや内彎し、チューリップ状に外に張り出す。縄文を地文として、貼り付け隆帯の両横に半截竹管による平行沈線を施す土器である。器壁は厚く、胎土は浅黄色（10ＹＲ8/3）で、内面に炭化物が付着している。口縁部はやや肥厚し、口唇部裏側にも縄文が施されている。

ＳＢ17・埋甕（1337）ＳＢ17の地床炉の南西部の床面のレベルで検出された。口縁上部は削られているが、このままの状態で、口径17.5cm、高さ18.5cmである。かなり脆くなっていたものの、器形をと



第67図　第17、18号住居跡出土土器(1)



第68図　第17、18号住居跡出土土器(2)

どめて出土した。表面は頸部を除き、口縁部、胴上部には、全面にわたって先の平らな竹篦状の工具で四角形の刺突が横位で施されている。内部は、厚く炭化物が付着していた。本遺跡中のみならず、徳山地内でも、これに類似した横位の刺突列の土器は出土していない。県内では、中村遺跡（中津川市）で、これに器形の似た全体に縦位の刺突列を施した土器が出土している。1337は、出土状況からみると、C1群の1336と同時期のものであろうと考えられる。

SB18炉内貼り付け土器（1338～1346） すべて同一個体と考えられる。胴部のみで、口縁部の出土はなかった。縦に隆帯が3本通り、その間に沈線で葉脈状文様を施している。胎土は、橙色に近く（7.5YR7/8）、SZ03出土の1485に類似している。本遺跡内で、これと同じ胎土で、似た葉脈状の文様を胴部に持つものは、このSB18の炉内出土のものと、SZ03の1484の2点だけであり、出土地点も近くであり、この両者が互いに関連している可能性はある。

SB18炉下のピットから出土した土器（1352） 胴部で内彎している。地文は無文で、貼り付け隆帯のみで施文している。C2群B類の土器である。

C1群（1347～1351） 1347（k29）、1349（k16）は、B群。地文は縄文で、半截竹管による平行沈線で文様を構成する。口唇部内側にも縄文が施され、1347は、口縁に沿って楕円の刺突列がある。1348は、胎土が赤っぽく（5YR5/8）、内部の炭化物の付着が厚い。口縁上部は外反しており、刻みのある隆帯とその区画内を埋める沈線により、文様は構成されている。1350、1351は、波頂部で、前者は沈線、後者は細い櫛描線により施文している。

C2群（1353～1355、1357～1359、1360） 1353～1355、1359（k29）、1360（k2）は、B類。いずれも貼り付け隆帯を基調として施文している。1353と1360は、同一個体である。1359は異質で、刻みのある隆帯、8の字の隆帯によって文様をつくる。内側には沈線列と蓋受けがみられる。1357はC類で、横の隆帯と縦の短い沈線により施文されている。1358は、波状口縁で口縁に沿って横2本の波状の隆帯があり、その下はすべて沈線により施文されている。

C3群（1356、1361） A類　1356（k23）は、口縁部でくの字状連続刺突が認められる。1361は、口縁に近い箇所の小片で、篦状工具による連続刺突が施される。

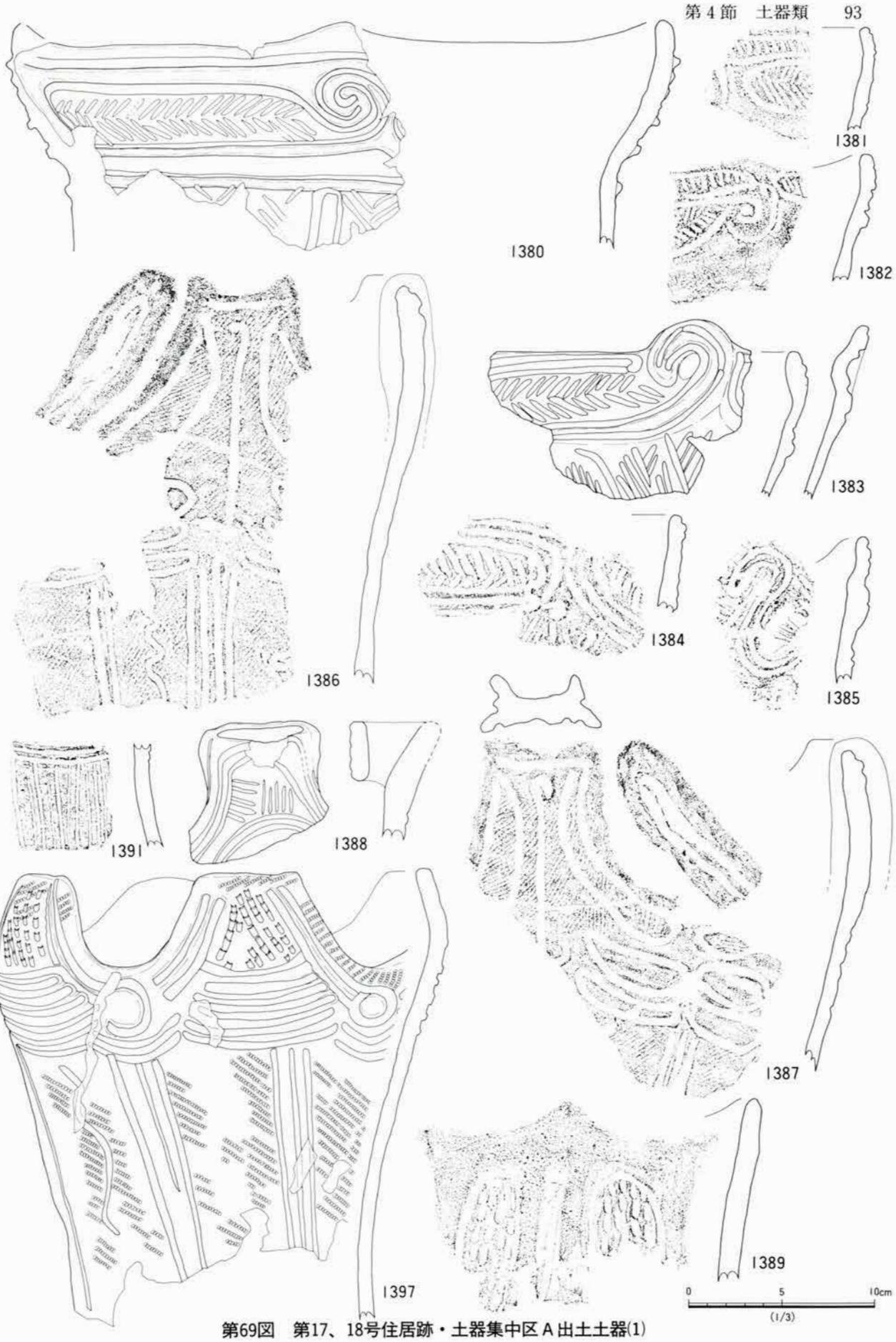
C5群（1362、1364） ともに口縁部に太い半截竹管による無刻半隆起線が施され、1364中央部には、連続爪形文がみられる。

C6群（1363） A類　キャリパー形口縁をもち、地文と口唇部裏側に縄巻縄文が施される。口縁上部には半截竹管による平行沈線が施されている。

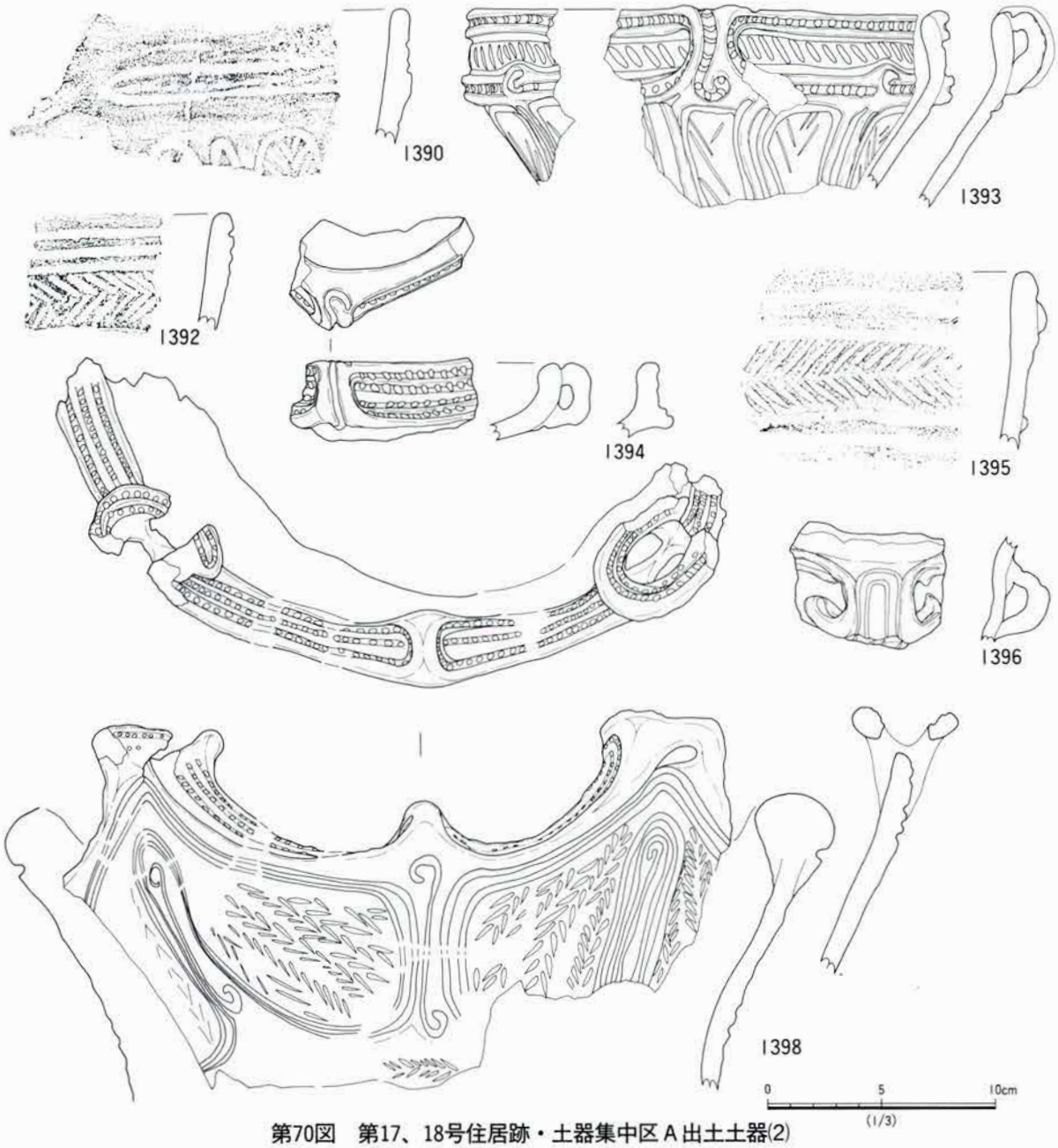
C7群（1365～1368） 1365（k16）と1366、1367と1368は、同一個体である。1365、1366は、地文は撚糸文で、半截竹管による平行沈線で文様をつくっているが、極端なキャリパー形口縁が明確なため、C7群に入れた。1367、1368は、波頂部に渦巻文をもち、その沈線内部に連続押し引きがされる。また、ソーメン状粘土紐により、格子状の貼り付けがなされている。

C8群（1369、1370、1371） 1369は、刻みの入れられた太い隆帯で文様をつくるが、半分は剝離している。内部には蓋受け状突起がある。1370は、波頂部に穿孔があり、その下に把手がある。

C9群（1372～1383、1393） 1373はA類で、口縁部の楕円区画内に縄文が施されている。1372、1374～1379はB類で、波頂部に厚い隆帯で渦巻文を配し、その周辺に細長い楕円刺突が施されている。1372と1376は、同一個体である。1379は、口縁部に2つ並びの円形突出部をもち、そこからつながる把手



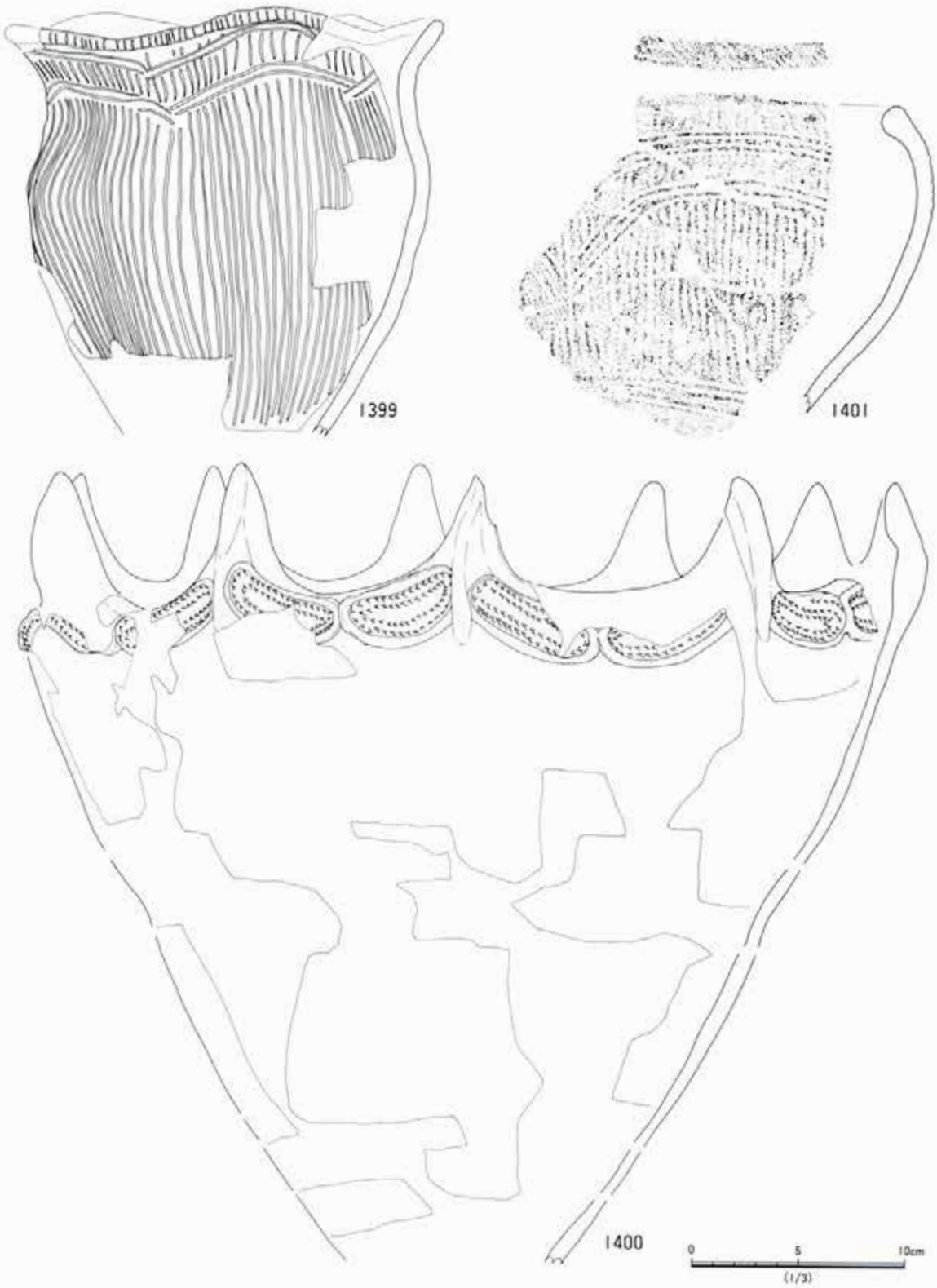
第69図　第17、18号住居跡・土器集中区A出土土器(1)



第70図　第17、18号住居跡・土器集中区A出土土器(2)

は欠落している。胴部は、沈線により葉脈状文様を施している。1380～1383、1393、1395はC類、口縁部に隆帯で渦巻文とともに楕円区画をつくり、その内部に沈線により葉脈状文様を施す。1381と1382は、同一個体である。1383は、頸部に円形刺突列をもった隆帯をもち、それが把手へとつながっている。

C10群（1386～1390） 1386と1387は同一個体で、口縁部に四角形に突出した部分をもつ。突出部は縁に沿って扁平に広がり、肥厚している。地文は縄文で、沈線により文様を施している。器壁は厚く、土器表面は黒味を帯びている（7.5YR3/1）。1388は、中央部が貫通した徳利状突出部をもつもので、沈線により施文がなされている。1389、1390は、同一個体である。1389の個体全体が、平たく大きな突出部であると考えられる。隆帯により楕円の区画がなされており、区画内には、刺突や沈線が充填されている。



第71図　第17、第18号住居跡付近土器集中区B出土土器

C11群(1384、1385、1392、1395) 1385は、沈線によりS字文、1392、1395は、沈線で区画をつくり、その内部に葉脈状文が施されている。

C14群（1391、1394、1396） 1391（k1）は、胴部片で、半截竹管状工具による2本単位の平行沈線

により施文されている。1394(ＳＢ18炉内)は、浅鉢の把手で、内部には炭化物が多く付着している。表面は棒状工具による刺突列によって施文している。1396は、把手部で、器形は不明である。

⑿ 第17、18号住居跡付近土器集中区出土の土器（ＳＫ199，ｋ25）

①土器集中区Ａ（ＳＫ199／1397、1398） 1397は、Ｃ10群の土器で、口縁部４カ所が大きく突出している。口径は22.5cm、底部は欠落している。地文は縄文(RL)で、竹篦状工具により施文がなされている。突出部では、縦の沈線とともに、中央部には押し引きがみられる。口唇部表面にも縄文が施されている。1398は、Ｃ10群で、突出部が渦巻状に立ち上がっている。突出部と突出部の間には、山形の小突出部があり、それらをつなぐ箇所には、沈線とともにその内部に刺突が施されている。表面には、逆Ｓ字文とともに、沈線区画内に綾杉状の短い刺突がある。

②土器集中区Ｂ（ｋ25／1399～1401） 1399、1401は、Ｃ６群。1399は、口縁部がゆるやかに波状を呈し、頂部に刻みが入れられている。SB12の1092に類似した形状である。口縁部から胴部にかけて、すべて条線によって施文されている。口径は、約21cm、底部は欠落している。1401は、口縁が内彎しており、その頂部で肥厚している。地文は撚糸文で、半截竹管により平行沈線が施される。また、口唇部内側にも撚糸文が施されている。1400は、C.3群Ａ類の土器で、口縁部に三角状の突出部を10カ所もつ。その波頂部下には、口縁に沿って楕円形の隆帯を貼り付け、その内部にくの字状の押し引きによる連続刺突文を施している。全体的に器壁は薄く、表面には多くの炭化物が付着している。器形は逆三角形に近く、胴部には途中わずかにくびれた部分がある。口径は約41cm、高さ約40cmで、底面は欠落している。

⒀ 竪穴状遺構出土の土器（ＳＸ１）(第72図、1402～1417、図版30)

竪穴状遺構からは、417点の土器が出土した。時期のわかる土器の約半数は、後期のものであった。ここでは、16点を図示する。

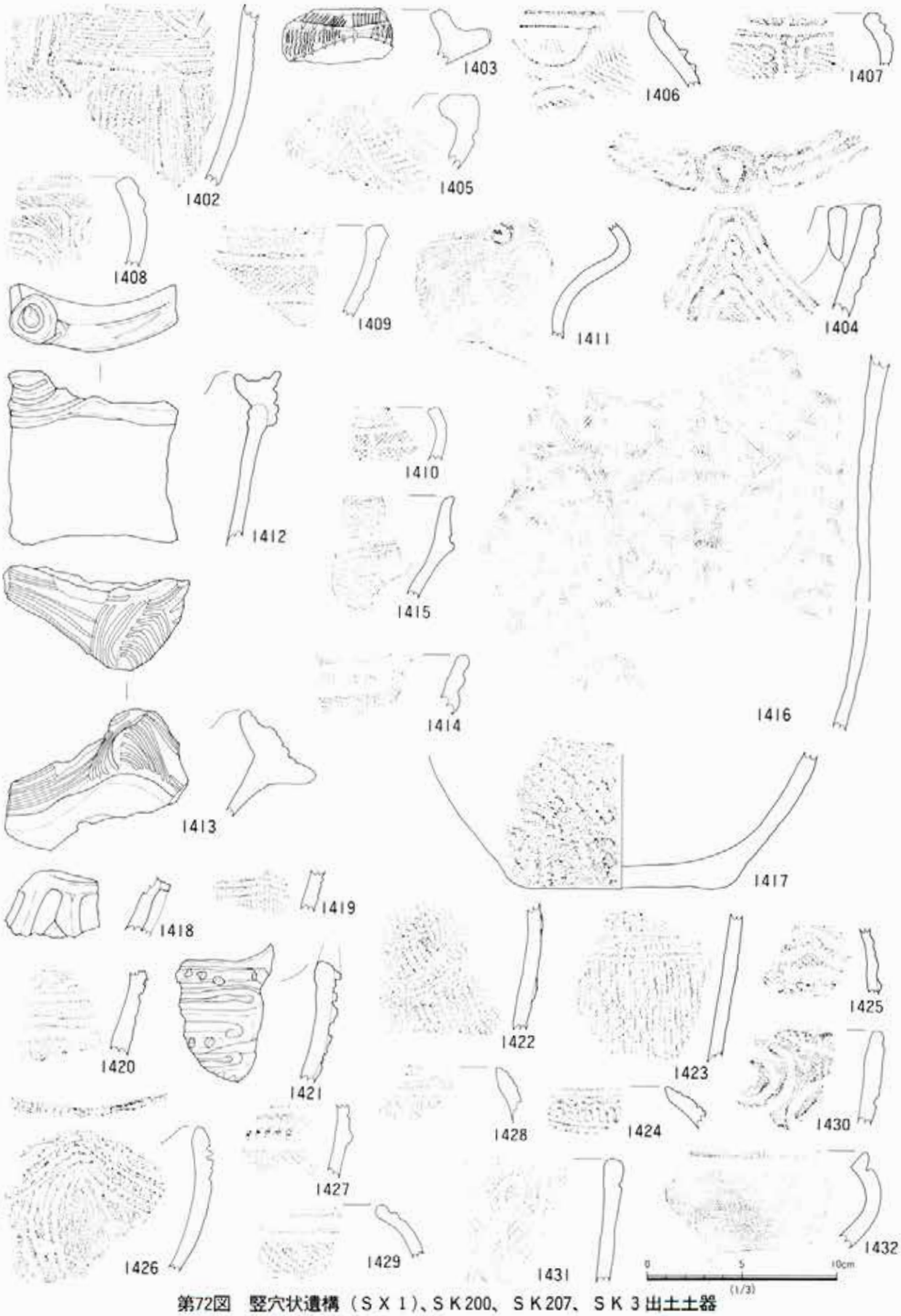
Ｃ１～Ｃ10群（1402～1404、1406、1411） 1402は、地文が縄文で、半截竹管の平行沈線により施文される(Ｃ１，Ｃ)。1403は、側面への突出部があり、口縁に沿ってくの字状の連続刺突文を施す(Ｃ３，Ｄ)。1406は、キャリパー形口縁をもち、地文が撚糸で紐状の貼り付け隆帯をもつ(Ｃ７、Ａ)。1411は、極端なキャリパー形口縁をもつ。摩耗しているが、渦巻文、撚糸文が部分的に残る(Ｃ７、Ａ)。1404は、山形状に突出した波頂部をもち、沈線により施文される(Ｃ10、Ａ)。

Ｋ１群（1405） 波頂部は、山形で肥厚している。沈線区画内に縄文を施している。

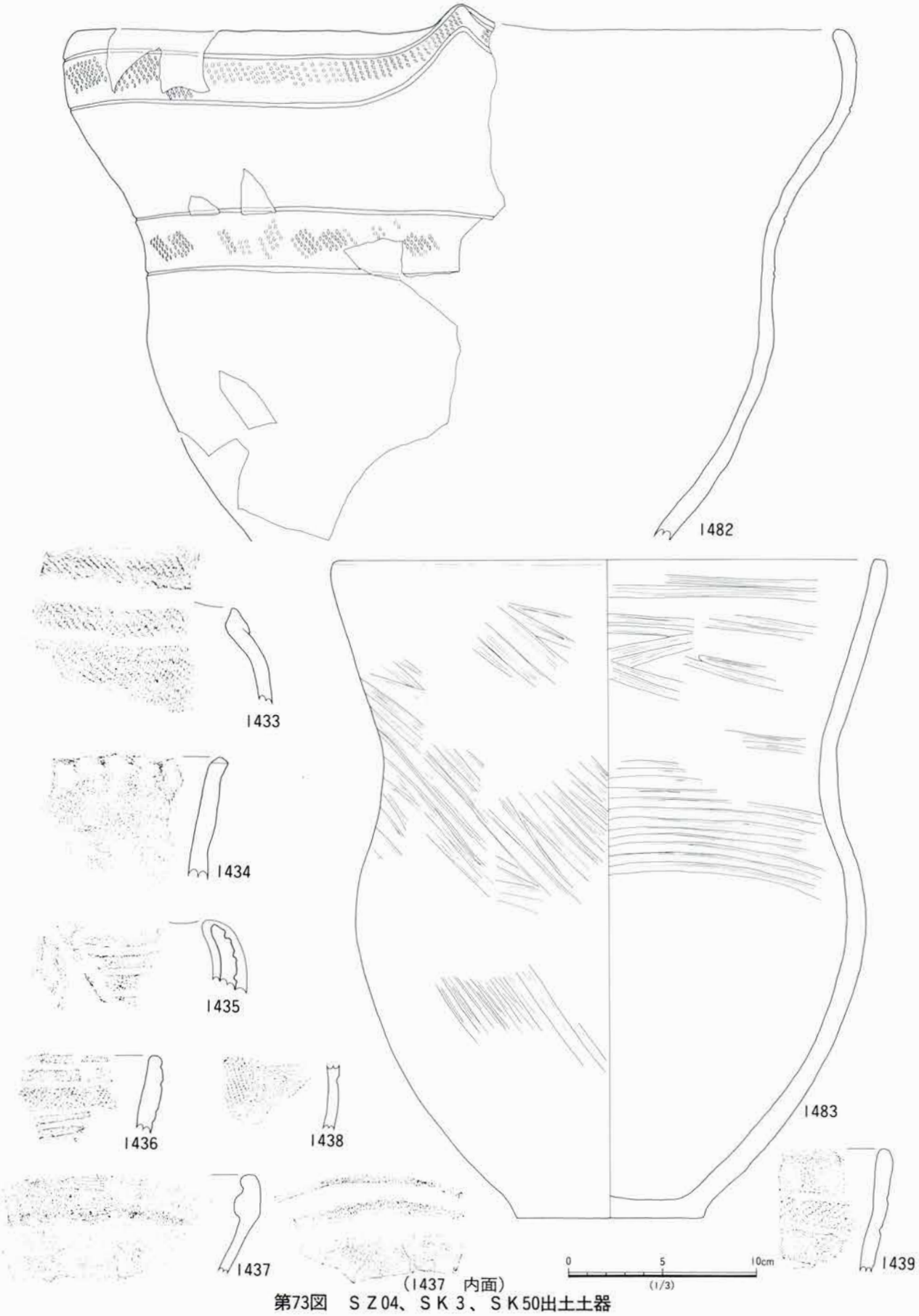
Ｋ２群(1407～1410、1413、1415) 1407、1409、1410は、Ａ類で、沈線区画内に縄文をもつ。1407は、赤色顔料の付着がおびただしい。1408は、沈線区画内に櫛描き条痕が充塡されている。1413はＢ類で、立体的に肥厚した三角状の波頂部をもち、２方向から沈線が施されている。1415は、くの字状にゆるく折れ曲がり、全体的に多くの炭化物の付着がみられる。頸部には横に沈線が施される。

Ｋ５群（1412） 1412は、口縁部が肥厚し、部分的に円柱状の突出部がある。胴部は無文である。

その他（1414、1416、1417） 1414は、口縁部に幅の広い沈線で楕円をつくる。1416は、胴部片で、２本の平行沈線で大きい菱形状文様をつくる。部分的には４本になる箇所もみられる。1417は底部で、側面には荒い縄文痕が残る。



第72図　竪穴状遺構（ＳＸ１）、ＳＫ200、ＳＫ207、ＳＫ３出土土器



第73図　ＳＺ04、ＳＫ３、ＳＫ50出土土器

⑭ **東部土坑群出土の土器（ＳＫ200、ＳＫ207、ＳＫ３）**（第72、73図、1418～1436、図版30、31）

ＳＫ200（1418～1421） 1418は、隆帯を基調として施文がなされている（Ｃ２、Ｂ）。1419は、地文は撚糸文で半截竹管により平行沈線を施す（Ｃ６、Ｂ）。1421は、貼り付け隆帯を基調とし、そのまわりに円形刺突を施す（Ｃ９、Ｂ）。1420は胴部片で、沈線と刺突を施す（Ｃ14、Ａ）。

ＳＫ207（1422～1426） 1422、1426は、地文が縄文で、1422は貼り付け隆帯に連続爪形文を施し（Ｃ１、Ａ）、1426は、半截竹管により平行沈線を施す（Ｃ１、Ｃ）。1425は、口縁部付近の小片で、くの字状連続刺突文がみられる（Ｃ３）。1423、1424は、地文が撚糸で、1423は半截竹管により平行沈線が施され（Ｃ６、Ｂ）、1424は波状文が施される（Ｃ６、Ｃ）。

ＳＫ３（1427～1436） 1427、1428は、地文は縄文で、1427は隆帯に連続爪形文が施され（Ｃ１、Ａ）、1428は、半截竹管により平行沈線を施す（Ｃ１、Ｃ）。1429は、ＳＢ11の1070、1071と同一個体と考えられる。キャリパー形口縁をもち、縄文の地文に粘土紐の貼り付け隆帯が施される（Ｃ７、Ａ）。1430は、口縁部に隆帯で渦巻状文様をつくる（Ｃ９、Ｄ）。1431は、口縁部でＳ字状沈線と葉脈状文が施される（Ｃ11、Ｃ）。1433は、口縁部が折りかえされ肥厚しており、表面には全体に縄文が施される（Ｃ12、Ｂ）。1434は、口縁上部が波線状になっており、その他は無文である（Ｃ12，Ａ）。1432は、口縁上部がくの字状に折れ曲がった浅鉢である。胎土は、浅黄色（7.5ＹＲ8/4）で硬質である。1435は、三角状に尖った波頂部をもち、口縁上部扁平部に縄文が施される（Ｋ２、Ａ）。1436は、沈線区画内に縄文が充填されている（Ｋ２、Ａ）。

⑮ **立石をともなう土坑出土の土器（ＳＫ50，ＳＫ51，ＳＫ156）**（第73，74図、1437～1487、図版31）

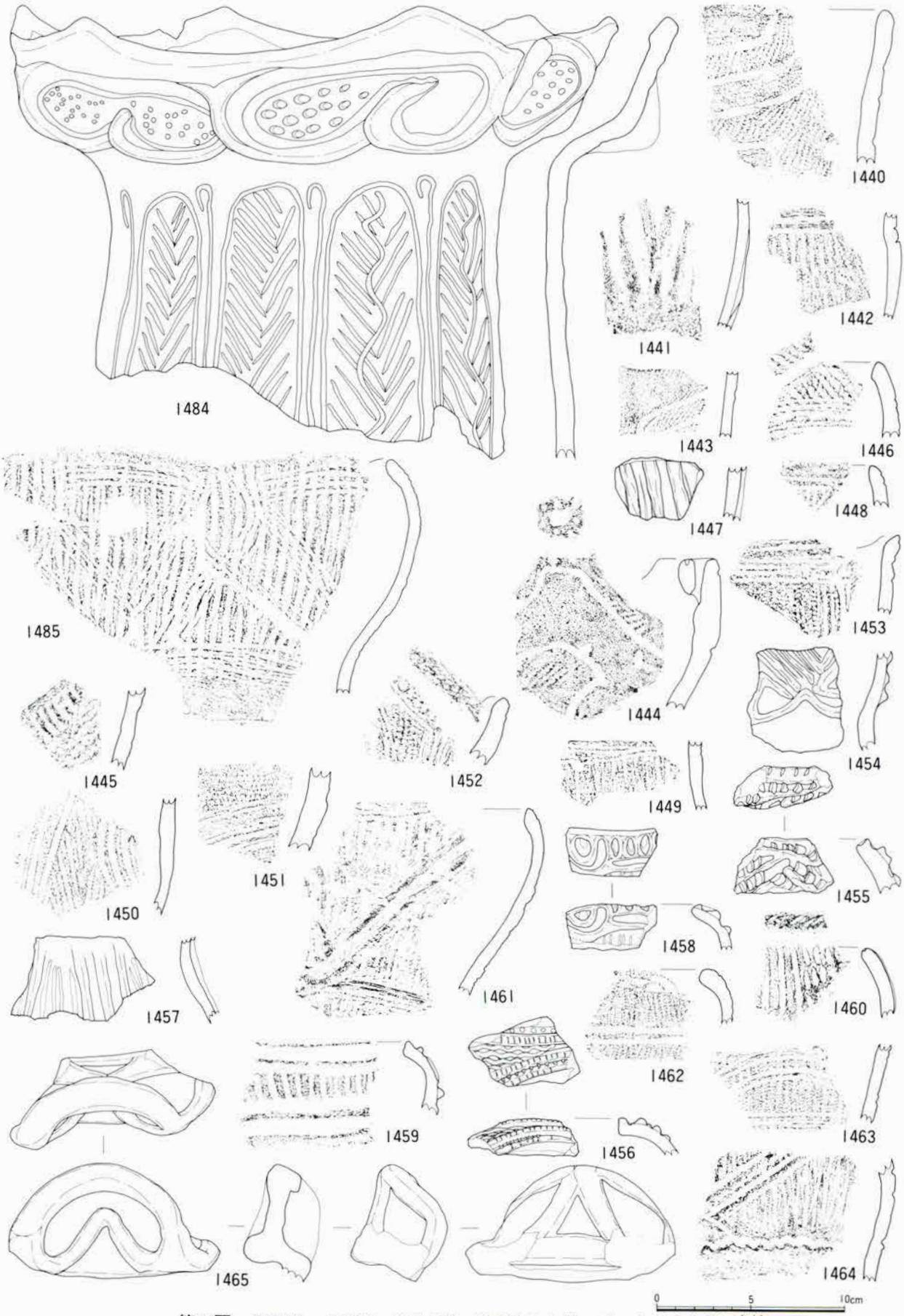
ＳＫ50（1437～1439） 1438は、小片で沈線内に竹管による刺突が入れられ、その区画内に縄文が充填される（Ｋ２、Ｂ）。1439は、沈線区画内に縄文が充填される（Ｋ２、Ａ）。1437は、浅鉢で外面は無文で、内面は口縁に沿って蓋受け状の段がつく。

ＳＫ51（1440～1444） 1441は、隆帯を基調としており、胴部には縄文が施される（Ｃ２、Ｂ）。1442は、胴部片で、地文は縄巻縄文で、半截竹管により平行沈線を施す（Ｃ６、Ａ）。1444は山形の突出した波頂部をもつ。頂部には刺突列がまわり、沈線区画内に縄文が充填される（Ｋ１、Ａ）。1440、1443は、沈線区画内に縄文をもつものである（Ｋ２、Ａ）。

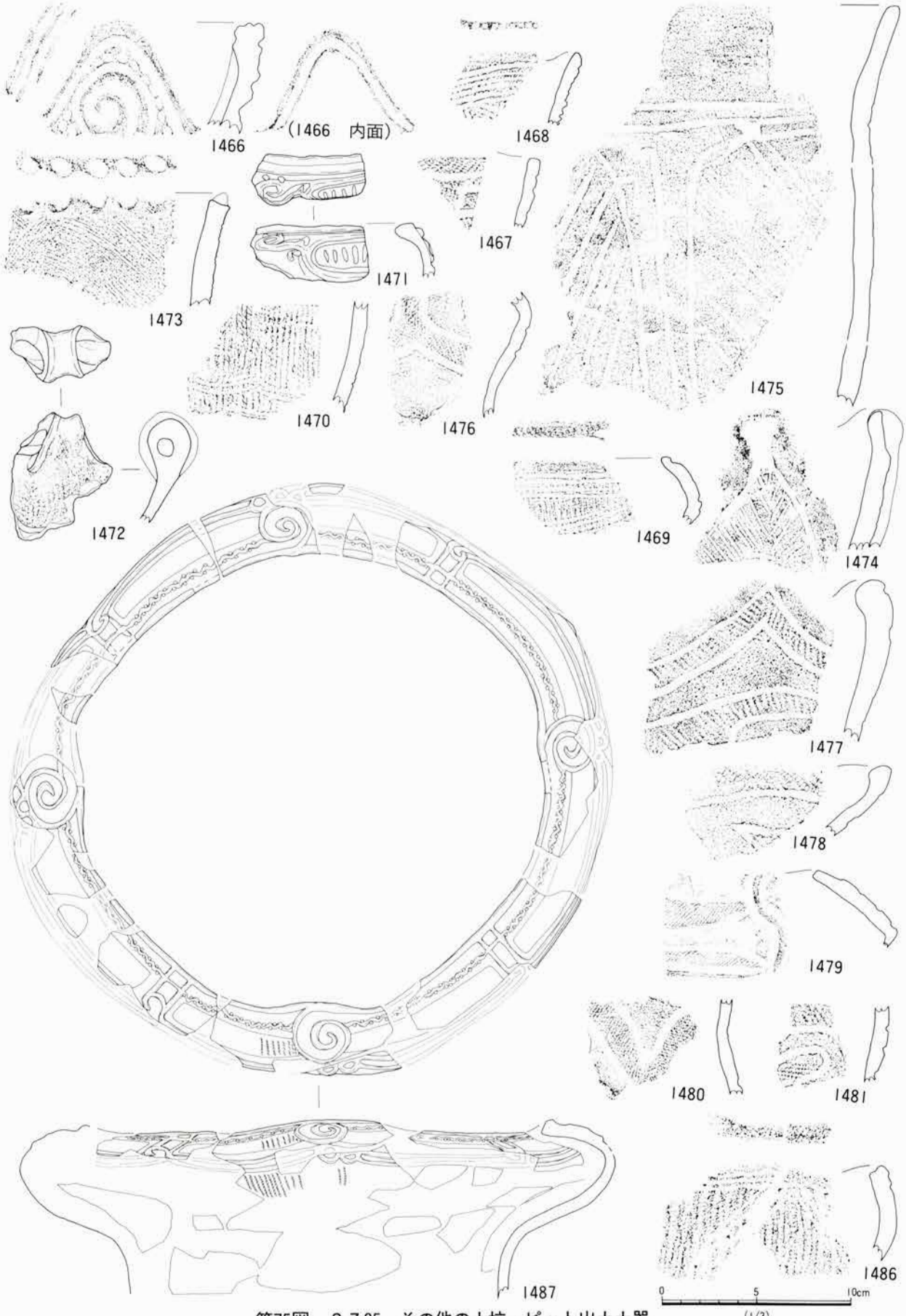
ＳＫ156（1445～1450） 1445は、地文は縄文で、隆帯に爪形の刻みが入る（Ｃ１、Ａ）。1446は、地文は縄文で半截竹管により平行沈線を施す（Ｃ１、Ｃ）。1447は、縦の貼り付け隆帯を基調として施文する（Ｃ２、Ｂ）。1448、1449は、地文は撚糸文で半截竹管により平行沈線を施す（Ｃ６、Ｂ）。1450は、胴部片で沈線による葉脈状文様が施される（Ｃ14、Ａ）。

⑯ **埋設土器（ＳＺ04、ＳＺ03、ＳＺ05）**（第73～75図、1482～1487、図版10）

ＳＺ04（1482、1483） 1482は、1483の内部に割れて縦に立った状態で検出されたものである。口縁部には突起が二箇所みられ、口縁上部、頸部に文様帯がある。２本の沈線に囲まれた内部には擬縄文が施される。この原体は勝更白山神社周辺遺跡（岐阜県郡上郡八幡町）出土土器にみられた擬縄文のオオバコの原体に類似する。口縁部、頸部以外は、文様がなく、外面・内面ともに炭化物の付着がみられる。胎土は白っぽく（10ＹＲ8/3）、口径は約37㎝、底部と胴部から口縁部にかけて半分が欠落してい



第74図　ＳＺ03、ＳＫ51、ＳＫ156、その他の土坑・ピット出土土器



第75図　ＳＺ05、その他の土坑・ピット出土土器

る。1483は、埋設土器で、正位で埋められていた。頸部はくびれており、口縁部はやや外に開く。外面、内面ともに巻き貝を使っての調整がみられ、外面は斜位で、内面は横位でなされていた。胎土は、1482と対照的で黒っぽく(10YR2/2)、内面の一部には炭化物が付着している。口径は約32cm、高さ約35cmである。

SZ03（1484、1485） 1484は、口縁が6単位の波状をなし、大きく外に開いている。口縁部には厚い隆帯で楕円区画がなされ、その区画内には位置により大小2種類の刺突が施され文様を構成している。胴部は沈線による楕円区画の内部に葉脈状の文様が施され、区画によっては、中央部に縦位の波線がみられる。胎土は、赤っぽく(5YR6/8)、口径は約33cmで、胴部より下半分は欠落している。類似した土器が、福井県の右近次郎遺跡(大野市)、上平吹遺跡(南条郡南条町)からも出土しているが、口縁の形や開き、頸部の文様等、相違する点もある。1485は、地文は縄巻縄文で、半截竹管により平行沈線を施す。口縁は、ゆるやかなキャリパー状をなし、口唇部裏側にも縄巻縄文を施す。頸部の残りはよくないが、無文帯がある(C6、A)。

SZ05（1486、1487） 1486は、口縁部が内彎し、口唇部内側や地文が縄巻縄文である。器壁はやや厚く、半截竹管により平行沈線を施す(C6、A)。1487は、極端なキャリパー形口縁をなし、口縁部は4単位のゆるやかな波状をなす。口縁部突起部にあわせて細い粘土紐による渦巻文があり、その間には交互刺突がなされる波状文が施されている。表面は摩耗していて明瞭ではないものの、地文には、かすかに撚糸文が残る。口径は約32cmで、器壁は非常に薄く、頸部、あるいは胴部には炭化物の付着が多くみられた。

(17) その他の土坑・ピットの出土土器（第74、75、図1451～1481、図版32）

C1群（1451～1453） 1451、1452はB類で、貼り付け隆帯の両側に半截竹管による平行沈線を施す。1453は、地文は縄文で半截竹管により平行沈線を施す。

C2群（1454～1460） 1457はA類で、隆帯間に櫛描沈線を施す。1454、1455、1458は、B類。隆帯を基調として文様を構成している。1456、1459はC類で、貼り付け隆帯と太く短い沈線や刺突を併用したものである。1456は、隆帯間にソーメン状粘土紐による格子状の貼り付けが施される。1460は、D類で、太く短い沈線を多用したものである。

C6群（1461～1464、1469、1470） 1461～1463はA類。地文は縄巻縄文で、半截竹管により平行沈線を施すものである。1461は、隆帯の両側に平行沈線を施す。1464、1469、1470は、B類。地文は撚糸文で、半截竹管により平行沈線を施す。1464は、波状の沈線があり無文帯をもつ。

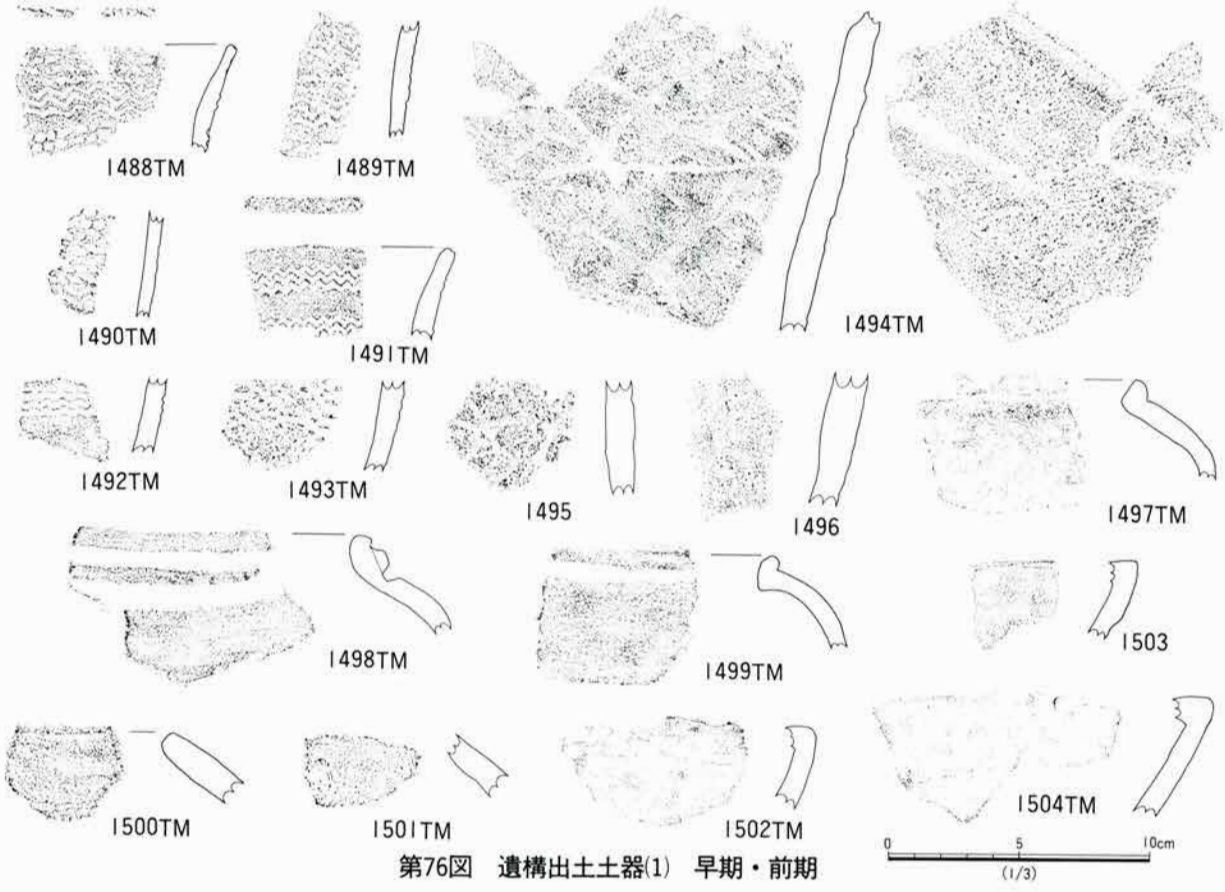
C7群（1471） 極端なキャリパー形口縁をもち、隆帯によるせり出た渦巻文、楕円区画がなされ、内部は沈線により文様を構成する。SB12の1135は、同一個体と考えられる。

C10群(1466、1474) 1466は、山形に突出した波頂部をもち、沈線による渦巻文、刺突列が施される。1474は、徳利形に近い波頂部をもち、隆帯が下へつながり、その区画内に葉脈状の沈線を施す。

C12群（1473） 口縁上部が小さな波状となり、外面には7本単位の櫛状工具により引いた痕が残る。

K1群(1467、1476、1477、1480) いずれも沈線区画内に縄文を施す土器で、1467は、波頂部である。1476は頸部の屈曲部と考えられる。

K2群（1479、1481） 沈線区画内に縄文をもつものであるが、波状の口縁をもち、波頂部から下へ隆



第76図　遺構出土土器(1)　早期・前期

帯を施す。頸部でくの字状に大きく屈曲し、表裏ともに磨きがかけられている。

その他(1465、1468、1472、1475、1478) 1465は、器壁が厚く、硬質である。眼鏡状に隆帯がまわる。土器のどの部分か不明であるが、割れ口等をみると、土器の口縁上部につく突出部の変形したものと考えられる。1472は、把手状の穿孔部をもち、外面は縄文が施されている。浅鉢の把手部分とも考えられるが、把手部分と器壁部分が20°あまりねじれており、器形そのものが想像しにくい。1468は小片で、口縁頂部に連続した圧痕があり、外面は櫛描き線様のものを地文とし、その上に7本の平行沈線を施す。1475は、平口縁で胴部には沈線区画内に斜行する沈線が施される。1478は、沈線区画内に縄文が認められ、口径は12㎜前後の浅鉢であろうと考えられる。炭化物の付着が著しい。

3．遺構外から出土した土器

遺構外から出土した土器については、前回報告書『戸入村平遺跡』(1994) の未報告分も合わせて報告する。（なお、前回調査時の出土遺物については、挿図番号の後にTMと記載する。）遺構外出土土器の総数は、前回調査分が58,849点、今回調査分が92,404点、合計151,253点である。

(1)　縄文時代早期の土器

縄文時代早期の土器は、前回調査で23点、今回調査で4点というように、ほとんど出土をみなかった。出土したもののほとんどは、外面に回転押型文（楕円・山形）の施されたものである。

S1群土器　押型文のみられる土器。（第76図、1488～1493、図版33）

A類（1488～1490）器壁は薄目で、山形の押型文を施している。1488、1490は、口縁部がわずかに

外反している。また、いずれも山形文とともに、ネガティブな楕円文が施されている。

B類（1491～1493）1491、1492は、外面に山形の押型文を施し、1493は、ポジティブな楕円文が施されている。内面は、炭化物が付着し全体的に変色している。

S2群土器　その他のもの（第76図、1494～1496、図版33）

1494は、器壁が厚く、表面には格子状の浅い沈線がみられる。また裏面には、幅の広い斜行沈線があり、各所に繊維痕がみられる。高山寺式土器に類似したものである。1495、1496は、表面が摩耗しており、かすかに浅い沈線が認められる。両者ともに、繊維痕が認められるが、特に1496については、厚み、胎土等1494に類似している。

(2)　縄文時代前期の土器

縄文時代前期の土器は、前回調査で12点、今回調査で3点というように出土点数は少なかった。出土したもののほとんどは、諸磯式土器の搬入品と考えられる。

Z1群土器　前期の土器を一括した。（第76図、1497～1504、図版33）

無文で、胴部が鋭角的に屈曲している土器で、多くは赤味の強い土を使用し、器面を丁寧に調整し、中には赤色顔料を施すものがある。1497～1499は、口縁部が立ち上がるもので、1498は二重の貼り付けがみられる。1500、1501は、立ち上がりがみられず、1501は土器表面の削れた部分に赤色顔料が残る。1502～1504は、鋭角的な屈曲部から底部にかけての部分で、いずれも無文であるが、器面は丁寧に調整してある。

(3)　縄文時代中期の土器

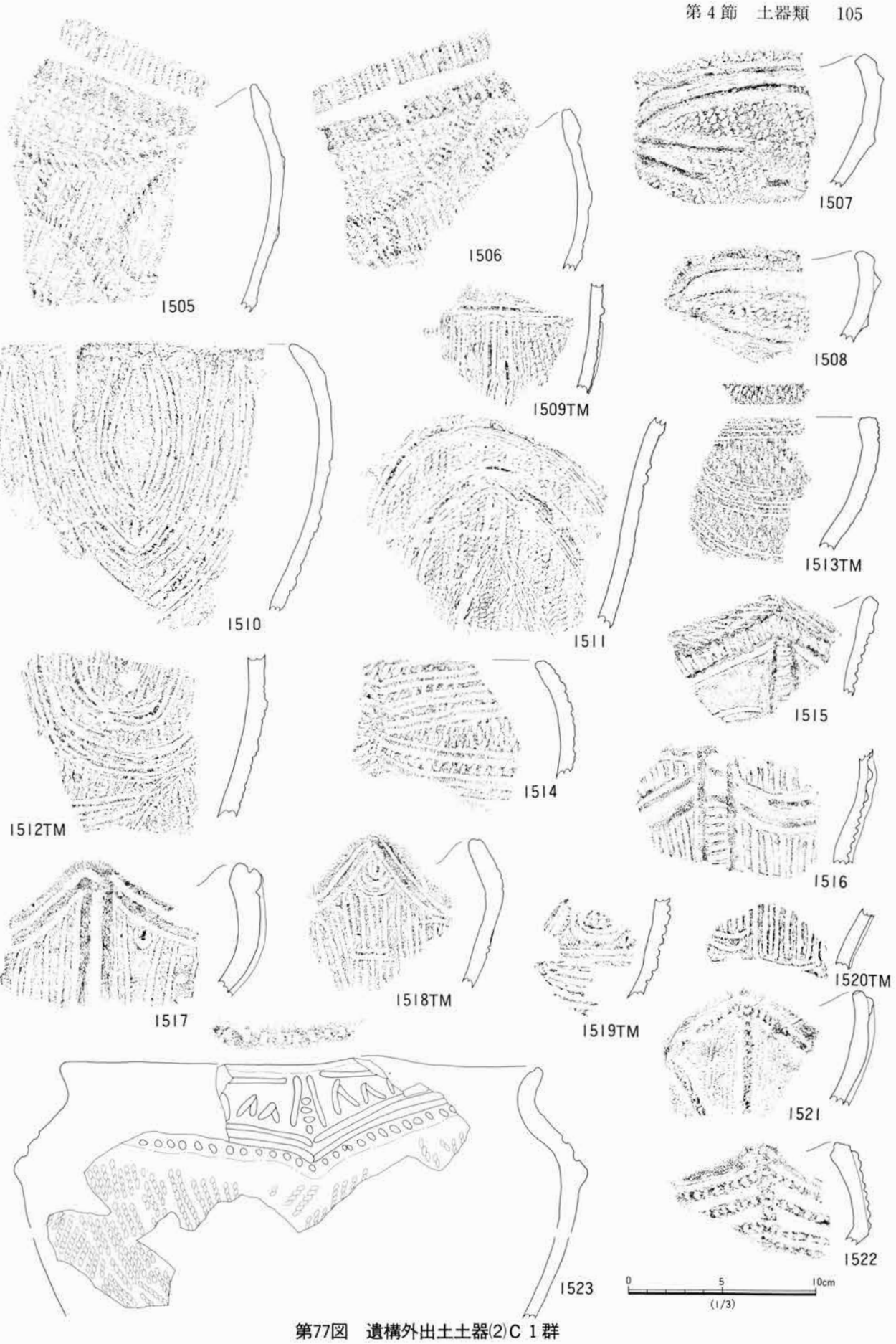
今回の調査で最も大量に出土した。その多くは、破片が大きく、摩耗もわずかであった。

C1群土器　（第77図、1505～1523、図版34）

A類（1505～1508）縄文を地文とし、貼り付け隆帯に爪形文や刺突、刻み目によって文様を成す土器である。1505と1506は、同一個体で、ともに太い隆帯に半截竹管による押し引きが施されており、地文は摩耗のため明確ではないが、縄文がみられる。口縁部内部にも、深浅浅という単位で、縦位に縄文が走っている。表面の縄文も、部分的には深浅浅の縄文が明瞭で、同様のものが使われた可能性がある。1507、1508は、地文と口縁部に、右下がりの縄文が見られ、その上に隆帯が施されている。口縁部は、内彎し、1507の内面には、繊維痕とも思われる空洞化した箇所が見られた。

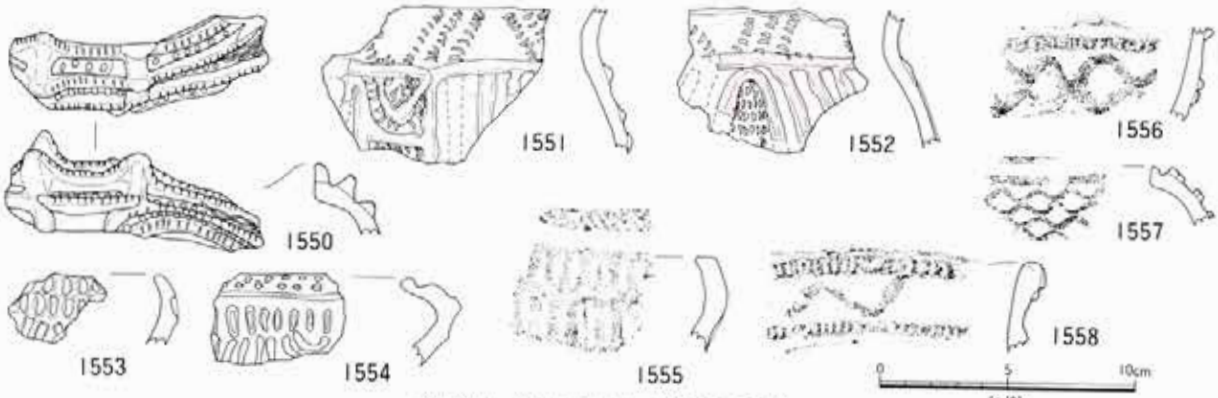
B類（1509～1512）縄文を地文とし、貼り付け隆帯の両側に半截竹管による平行沈線を施す土器。1510、1512は、縄文が不明確であるが、1509、1511は、地文の縄文が明瞭に見える。1510は平口縁で、口縁内部に縄文が施されていたと思われる痕跡がある。また、1511は、中央下部では横一線で割れており、輪積み箇所で割れたものと考えられるが、上部においては、隆帯に沿って曲線できれいに割れており、作為的なものを感じる。

C類（1513、1514）縄文を地文とし、半截竹管による平行沈線を施すもの。1513は、口縁の頂部や地文に、目の細かい縄文が施されている。その地文の上に、半截竹管による平行沈線の文様がつけられている。口縁線に平行に3本、その下部には弧状に2対つけられているが、途中交差している。1514も地文が縄文で、その上に半截竹管で平行沈線が施されているが、沈線と沈線の間に本来ならあるべ



第77図　遺構外出土土器(2)C 1群

第78図　遺構外出土土器(3)C 2群



第79図　遺構外出土土器(4)C２群

き縄文が竹管によって消されてしまっていた。これは、工具となった竹管が太い竹から作られたため、弧がゆるやかで平行沈線を施した時、同時に沈線と沈線の間の部分の縄文も消してしまったものと考えられる。

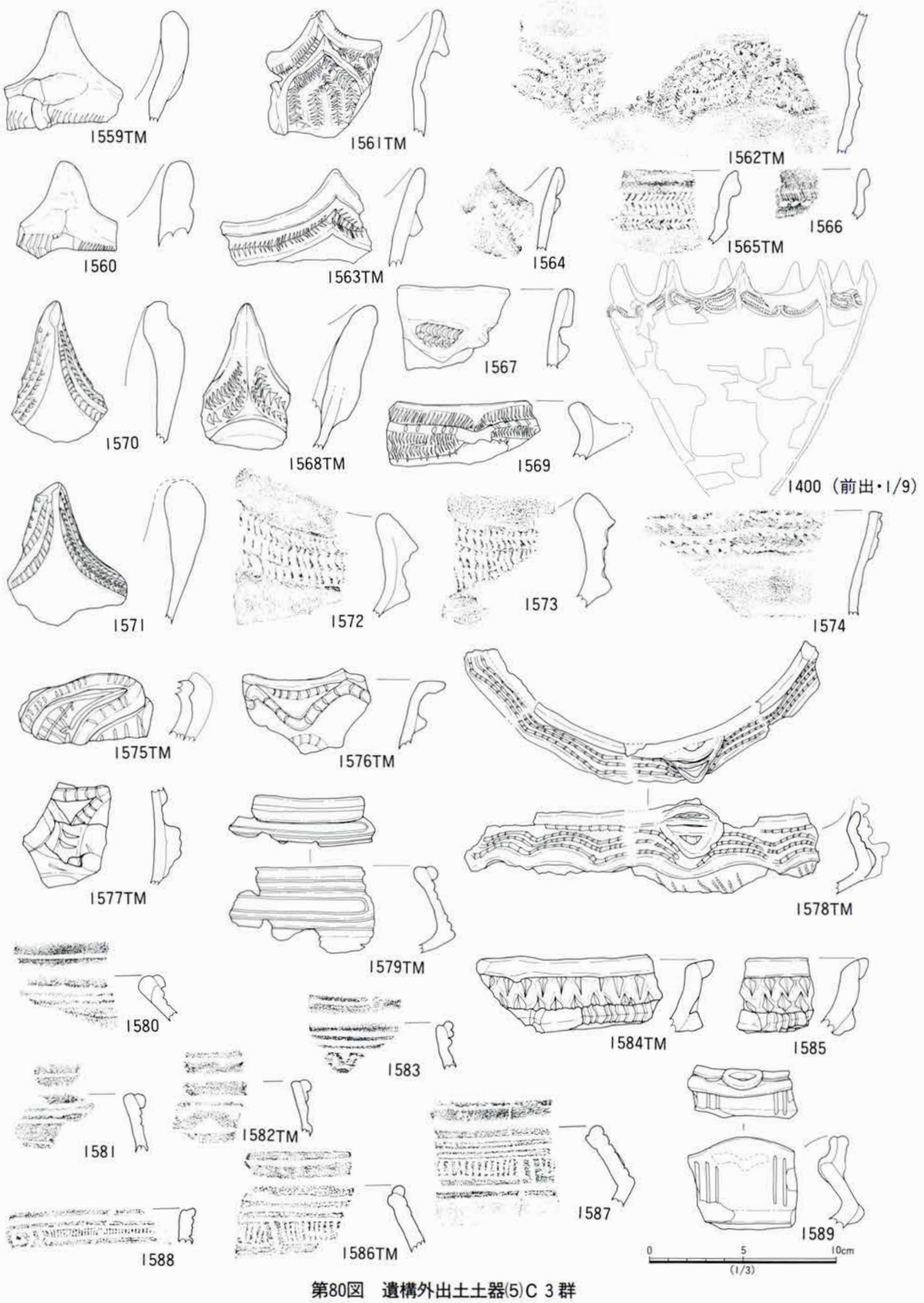
D類(1515～1523)地文が無文のその他のもの。いずれも口縁部が波状をなしており、1515、1517、1518、1521、1522は、波頂部と思われる三角形の残存部分である。1515と1516は、同一個体であるが、２本の細い隆帯の間に等間隔で刻みが入れられている。胴部には、縦に平行の沈線が施され、口縁部の表側には、わずかに深浅に縄文が施されている。1518、1520は、同一個体で、いずれも棒状の工具で沈線を入れ、1518の波頂部の裏側には、わずかに縄文がみられる。1519もこれと同類ではあるが、沈線に半截竹管を用いている。1517、1521、1522は、いずれも内彎した波頂部で、口縁に沿って隆帯が施されている。1517は、隆帯で主文様を作り、縦の沈線と刺突が入る。1521は、隆帯が細く刻まれ、隆帯以外の箇所は、半截竹管で浅い沈線が施されている。1522は、1521に比べ、隆帯上の刻み幅が広く、口縁線に平行に等間隔で何本も走っている。1523は、口縁部には、太めの棒状工具で、ハの字状の文様、平行沈線、刺突、そして口縁裏側上部にも、一列に刺突が施されている。胴部には、右下がりの縄文がみられる。同じC１群の土器の中では、胎土の色が薄く黄褐色で硬い。

C２群土器（第78、79図、1524～1558、図版34、35）

貼り付け隆帯による施文を基調とするキャリパー形口縁を持つ器形の土器。徳山地区では、本遺跡や上原（あげはら）遺跡で多量に出土しており、船元Ⅲ式の影響を受けた、徳山在地の独特の土器群であると考えられる。また、この土器群の多くには、赤色顔料が施されているという点も特異である。（この赤色顔料につき、主だった５点につき分析したところ、ベンガラであった。）

A類（1524～1527）隆帯に平行に、隆帯間に櫛描沈線を施すもの。1524は、縦の隆帯の間に３本単位の棒状工具で沈線が引かれている。1526は、口縁上部が欠損しているものの、口縁に近い部位であると考えられる。縦横に隆帯が走っており、上部の横の隆帯には不規則に刻みが入れられている。縦の隆帯の間には、鮮明ではないが、細い櫛描沈線が認められる。1525は胴部片で、縦の隆帯が主として施されている部分で、隆帯間には、櫛描沈線とともに赤色顔料が随所に認められる。1527は、口縁部で、内部へ彎曲している。縦横に隆帯が施され、縦の隆帯の間には、かすかに櫛描沈線の痕が残る。

B類（1528～1544）貼り付け隆帯のみで、櫛描沈線がみられないもの。この土器群では、1531が上半分完形に近い状態で出土した。この土器は、遺構・遺物の出土の少なかった東部のD13グリッドのⅣ層上面に近い箇所で出土した。ＳＢ15の東方10m程度の箇所で、土坑のプランは検出されなかった。



第80図　遺構外出土土器(5)C 3群

部分的に、鉄分を含む黄褐色の粘質のものが付着しており、部位によっては、割れた部分にその粘質のものが入り、変形したまま硬化していた。口縁部は、5カ所で山形の小さな突起がある他、ゆるやかな波状をなしていると思われる。施文は、上部には横の5本の隆帯に刻みを入れ、下部になると縦の貼り付け隆帯となる。口縁部の山形の突起から下へは、ねじり棒状の隆帯となり、太い部位には刺突が入る。赤色顔料の付着はみられなかった。1528、1529、1541は胴部片で、いずれも縦に貼り付け隆帯が走っており、1528は鮮やかな赤色顔料が塗られ、その上に一様に炭化物が付着している。1532～1540は、いずれも口縁部で、ワッフル状に隆帯が貼り付けられている。1532、1533、1537～1539については、口縁上部から裏側にかけて縄文が施されている。また、1533、1535を除くすべてのものに、明瞭に赤色顔料が残存していた。1538、1539については、口縁上部になるにつれその量は増し、顔料がかたまって付着していた。1542～1544は、網目状に隆帯をはりめぐらしたものである。いずれも赤色顔料が施されており、極端なキャリパー状の口縁をなしている。1544は、口縁が波状となり、三角形の把手状に口縁が張り出している。

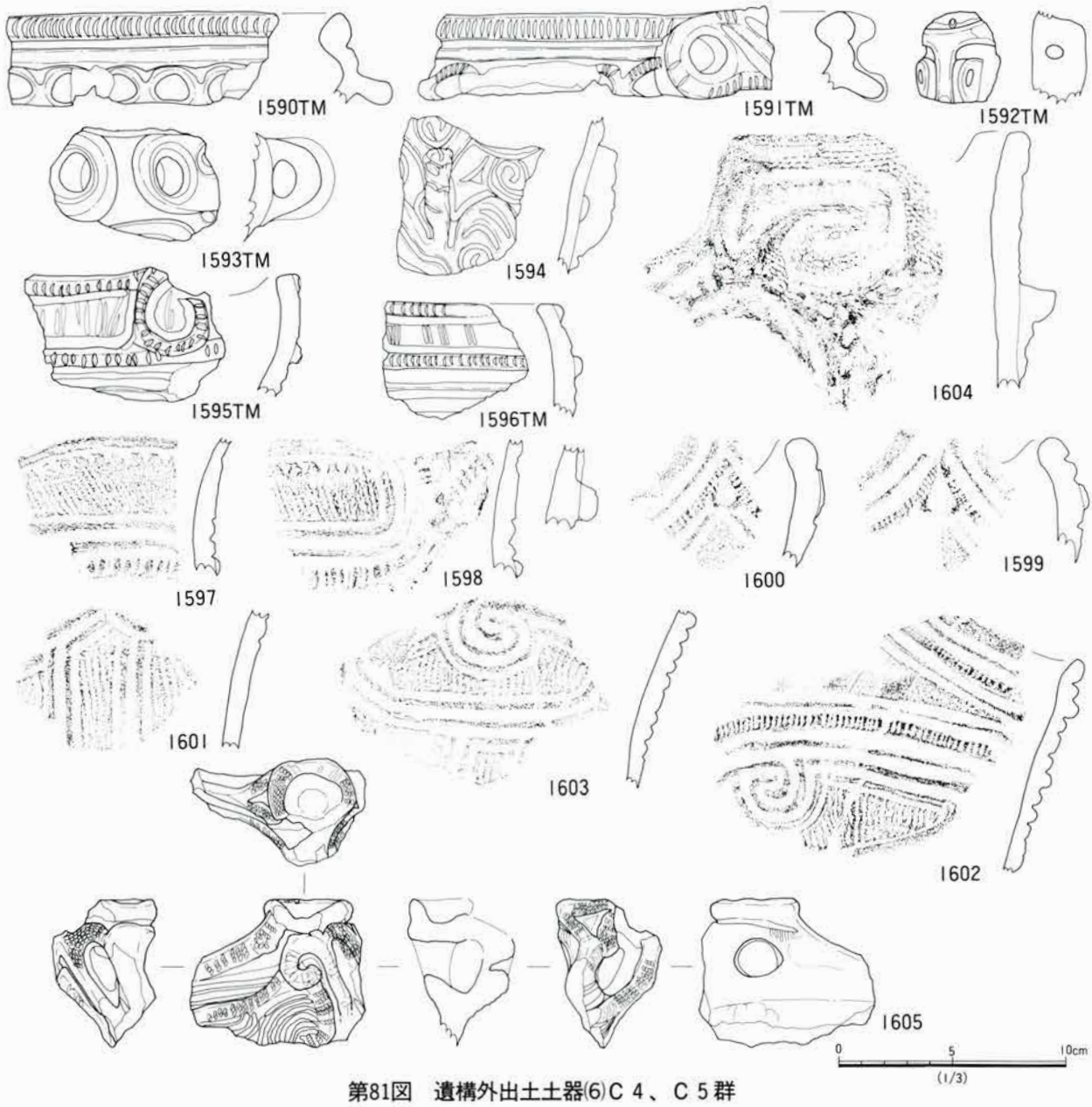
C類（1545～1552）貼り付け隆帯と太く短い沈線、あるいは刺突を併用したもの。1545～1548は、横に隆帯を貼り、その間に刺突、あるいは縦の太く短い沈線を施している。1550は、横の隆帯が発達し、三角状に尖った部位がみられ、隆帯の一部に刻み、あるいは隆帯間に円形の刺突が施されている。1549、1551、1552は、器壁は薄目で、いずれも赤色顔料を施し、隆帯の文様とともに爪形の刺突がなされている。

D類（1553～1555）太く短い沈線を多用するもの。1553～1555は、いずれも縦の太く短い沈線のみで文様をつけている。1554は、口縁部が極端なキャリパー形をなしている。

E類（1556～1558）いずれも口縁部に波線状に隆帯が貼り付けられている。特に1557は、ソーメン状の粘土紐の貼り付けがあり、口縁は内彎している。

C3群土器（第80図、1559～1589、図版35、36）中期中葉の東海系の土器。

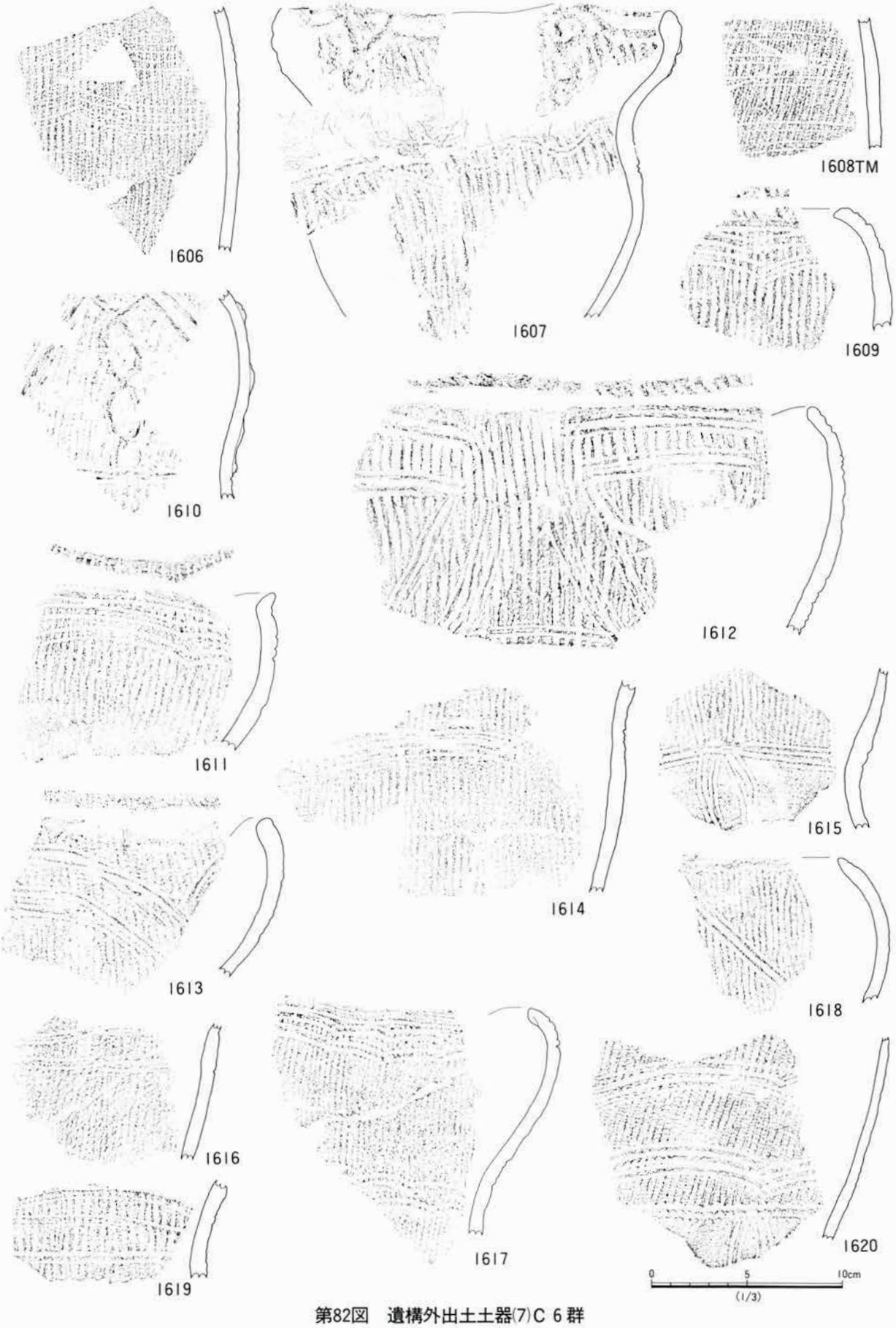
A類（1559～1574）貼り付け隆帯に沿って「く」の字状の押し引き（連続刺突文）を施す波状口縁の土器。同類にあたるものが、第18号住居跡付近の土器集中区Bより大きな個体が出土している。1559、1560は、波頂部に厚めの三角形の文様のない突起があり、その底辺にあたる部分には、横にくの字状の連続刺突文がみられる。1559では、下部に貼り付け隆帯の痕もわずかに残る。1561、1563は、波頂部も含め器壁は薄く、波状口縁の波頂部までくの字状押し引きがなされ、1564は隆帯区画の中に半分だけ押し引きがなされている。また1565、1566は、口縁は平らであるが、横に細かいくの字状連続刺突がなされ、1566は2列の連続刺突の間に菱形の刺突が入っている。1562は胴部で、胎土や出土状況などからみると1561と同一個体の可能性がある。くの字状連続刺突も1561と同様に細かく、眼鏡状の隆帯区画の内周に右上方から左へと施されている。1567は口縁部の器壁は厚く、その下の薄目の部分の隆帯で囲まれた内部に、左から右への連続刺突が2列にわたって施される。1570～1573は、全体的に器壁が厚く、1568、1570、1571は、波状口縁の波頂部である。1570、1571は、同一個体の可能性が高いが、いずれも頂点に近い部分まで連続刺突文がなされ、左右違う工具で施文がなされている。1568は、頂部にいくにつれて厚くなり、連続刺突文も途中までである。1569は、山形の突起が横に突出しており、前面や上面には、連続刺突文が施されている。1572、1573は、非常に厚く貼り付けた部分に鋭角のくの字状の連続刺突が3列に施されている。



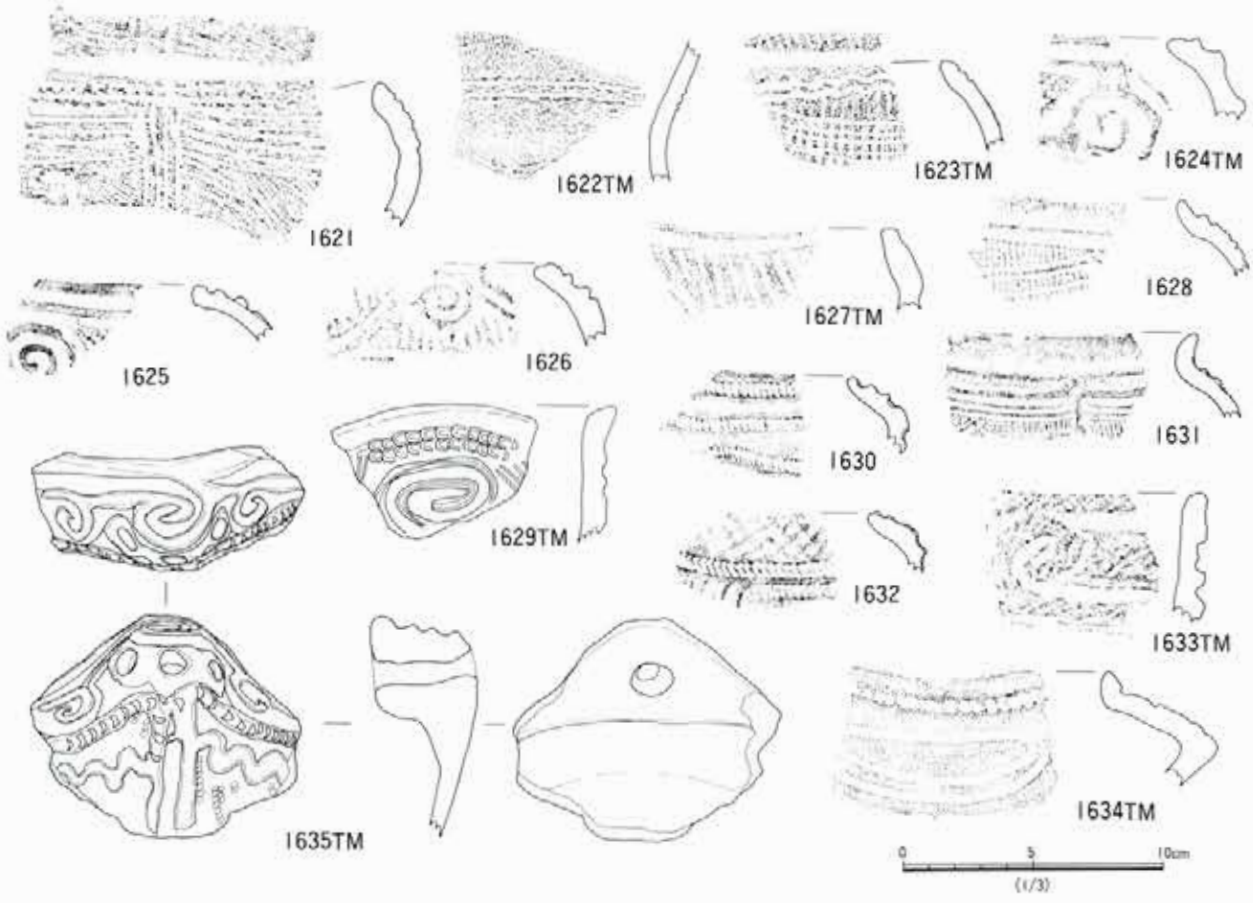
第81図　遺構外出土土器(6)C 4 、C 5 群

B類（1575～1578）1576～1578ともに、口縁部に隆帯で三角区画をつくっている。1576、1577は、その隆帯に刻み目がみられ、1577は、隆帯が下部のねじり棒状のものに繋がっている。1578は、口縁部がくの字状に鋭く屈曲しており、屈曲する上部には、細い隆帯を横に波状に貼り付けてある。また、下部にはかすかに縄文が残る。1575は、胴部片で、表面の摩耗は激しいが、胎土は前者同様で、隆帯上にはかすかに刻み目が残る。

C類（1579～1589）口縁部が、くの字状に折れ曲がり、半截竹管状工具による半隆起線、あるいは棒状工具で施文したものである。1579～1581は、いずれも横に平行した半隆起線を主文様としている。1582～1585は、三角形の陰刻が施されている。1584、1585は、同種類の土器であるが、三角形の陰刻、ウミユリの化石にも似た隆帯に爪形の押し引きをした形状が見られる。1586、1587は、平行の半隆起線の間に縦の細かい沈線が施されている。1588は、渦巻状の文様とともに、半截竹管による横位の平行線が施される。1589は、口縁部がくの字状に折れ曲がり、縦に2本単位の沈線が施される。



第82図　遺構外出土土器(7)C 6群



第83図　遺構外出土土器(8)C 6、C 7群

C 4群土器（第81図、1590～1594、図版36）中期中葉の信州系の土器を一括した。

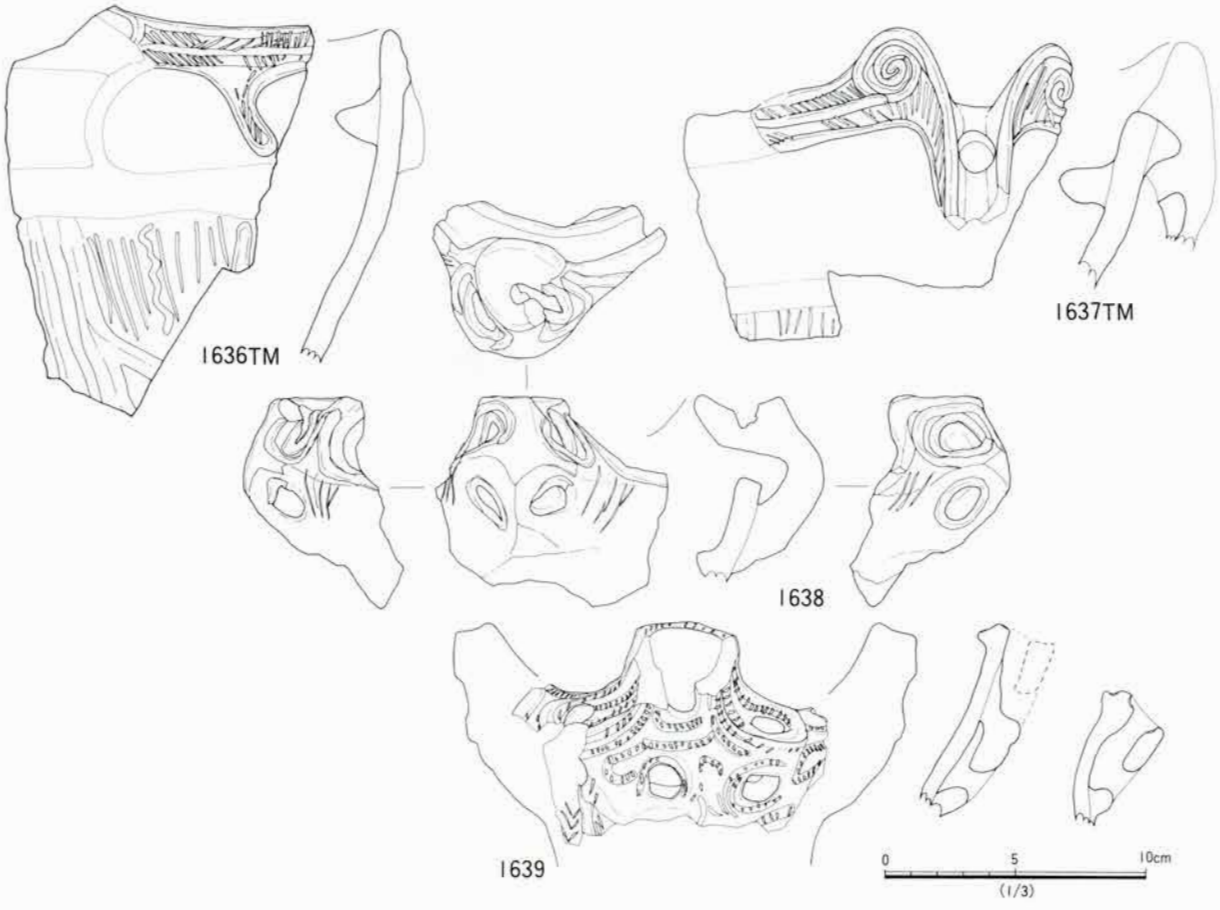
A類(1590、1591)器壁が厚く、口縁部には太めの隆帯があり、一様に刻み目が施されているもの。1590、1591は、胎土が徳山のものとは異なり、砂粒が少なく均質で、赤っぽい土を使っており、徳山のものに比べて硬質である。上部の隆帯には、細かく刻み目が入れてあり、その下の隆帯は非常に厚く、屈曲が激しい。厚い隆帯上に鉛筆程度の太さの丸い棒状のもので、等間隔に押さえつけたような様相を示す。

B類（1592、1593）器壁が厚く、口縁部に渦巻文、あるいは眼鏡状把手のみられるもの。1593は、胎土は白く、非常に厚く硬質である。1592は、赤っぽく硬質の土で、前者とともに徳山の胎土ではない。また、眼鏡状ではあるが、穴は貫通していない。

C類（1594）1594は、器壁は、他に比べそれほど厚くはなく、胎土は赤味を帯びた褐色である。個体中央部のねじり棒状のものが特徴的で、そのまわりに唐草文に類似した文様が棒状工具による沈線で表現されている。

C 5群土器（第82図、1595～1605、図版36）中期中葉の北陸系の土器を一括した。前回調査では、第4号住居跡から古府式に類似した完形に近い土器が出土している他、多くの出土はなかった。

A類（1595～1603）連続爪形文や篦刻みを施した貼り付け隆帯と半截竹管状工具による無刻半隆起線で、渦巻文などで施したものである。1595、1596は同一個体で、口縁部が少し内彎しており、横の半隆起線には刻みが入れられている。1597、1598は、同一個体で半隆起線の上部に連続した刻みが入



第84図　遺構外出土土器(9)C 8群

れられている。1599～1603の5個体は、同一個体である。口縁部は、波状でやや外反しており、無刻半隆起線が縦横に走り、各所で渦巻文となる。また上部に近い所では、半隆起線に刻みの入るものもみられる。また半隆起線で区画された内部には、貝殻腹縁圧痕がみられる。

B類（1604、1605）A類にあてはまらないもの。1604は、四角に突出した口縁部をもつ。地文は縄文で太く厚い隆帯で渦巻状の文様をなし、隆帯上には篦状工具により連続する方形刺突を施している。1605は、立体的で突出した口縁をもち、櫛状工具により表面を調整している。

C 6群土器（第83図、1606～1623、図版37、38）縄巻縄文や撚り糸文を地文とし、半截竹管による平行沈線を施すもの。今回の調査では多くの出土があり、出土総数の10%にもあたる。

A類（1606～1610）縄巻縄文を地文とし、半截竹管による平行沈線を施すもので、1606、1610が、そうである。いずれも縄巻縄文がほぼ縦に走り、そこに半截竹管により連弧状に平行沈線が描かれている。1609は、口縁部であるが、内彎し、口縁の上部には刻みが入れられている。1607は、個体の残りがよく、ほぼ器形がわかるが、口縁部は波状で、1610にもみられる8の字、あるいは渦巻状の貼り付けが施されている。頸部には無文帯があり、胴上部には、連弧状の平行沈線がみられる。

B類（1611～1620）撚り糸文を地文とし、半截竹管による平行沈線、あるいは沈線文を施すキャリパー形口縁をもつ器形のもの。いずれも撚り糸を地文として、その上に半截竹管で平行沈線を施している。1612、1613は、口縁上部裏に縄文、1611は刻み、1617、1618は無文で、いずれも波状の口縁をなし、ゆるいキャリパー形の内彎がみられた。1611は、頸部にあたる部分には撚り糸がなく無文であ

る。

C類（1621～1623）撚り糸文を地文とし、交互刺突による波状文を施すもの。1623は、口縁上部に2本の波状文がみられるが、交互刺突はみられない。口縁裏には、表面と同じ撚り糸が施されている。1621も、口縁上部に1本の波状文があり、刺突は上部にだけみられる。口縁裏には、撚り糸がみられる。1622は、胴部で、無文帯の中央部に2本の波状文があり、上部端にはわずかに細かい条線がみられる。

C7群土器（第84図、1624～1635、図版38）極端なキャリパー形口縁をもつ器形を呈し、口縁部には渦巻文や楕円区画文を配し、頸部には棒状工具による連弧文を施す土器。この土器群は、前回調査では、第4号住居跡を代表例として、数多くの出土をみたが、今回の調査では第5号埋設土器（SZ05）の他、まとまった出土はなかった。

A類（1624～1630、1632、1635）張り出した口縁部が内彎するもの。1624～1626は、いずれも貼り付け隆帯による渦巻文がみられる。1627は、口縁上部で、横に半截竹管状のものの背の部分で押し引きがなされ、その下は縦に深めの条線が施されている。1628は、極端なキャリパー形口縁をなすが、地文が撚り糸で、半截竹管の平行沈線もみられる。これはC6群とC7群の要素をともに持つものであるが、ここではC7群で報告する。1629は、口縁部が少し外反し、半截竹管状のもので、上部には押し引き、その下には渦巻文を描く。1630は、箆状工具で細かい刺突を横につけ、1632はソーメン状の粘土紐で格子状に貼り付けている。1635は、口縁上部がひじょうに厚く、表面には粘土紐で波線、あるいは渦巻文を施文している。

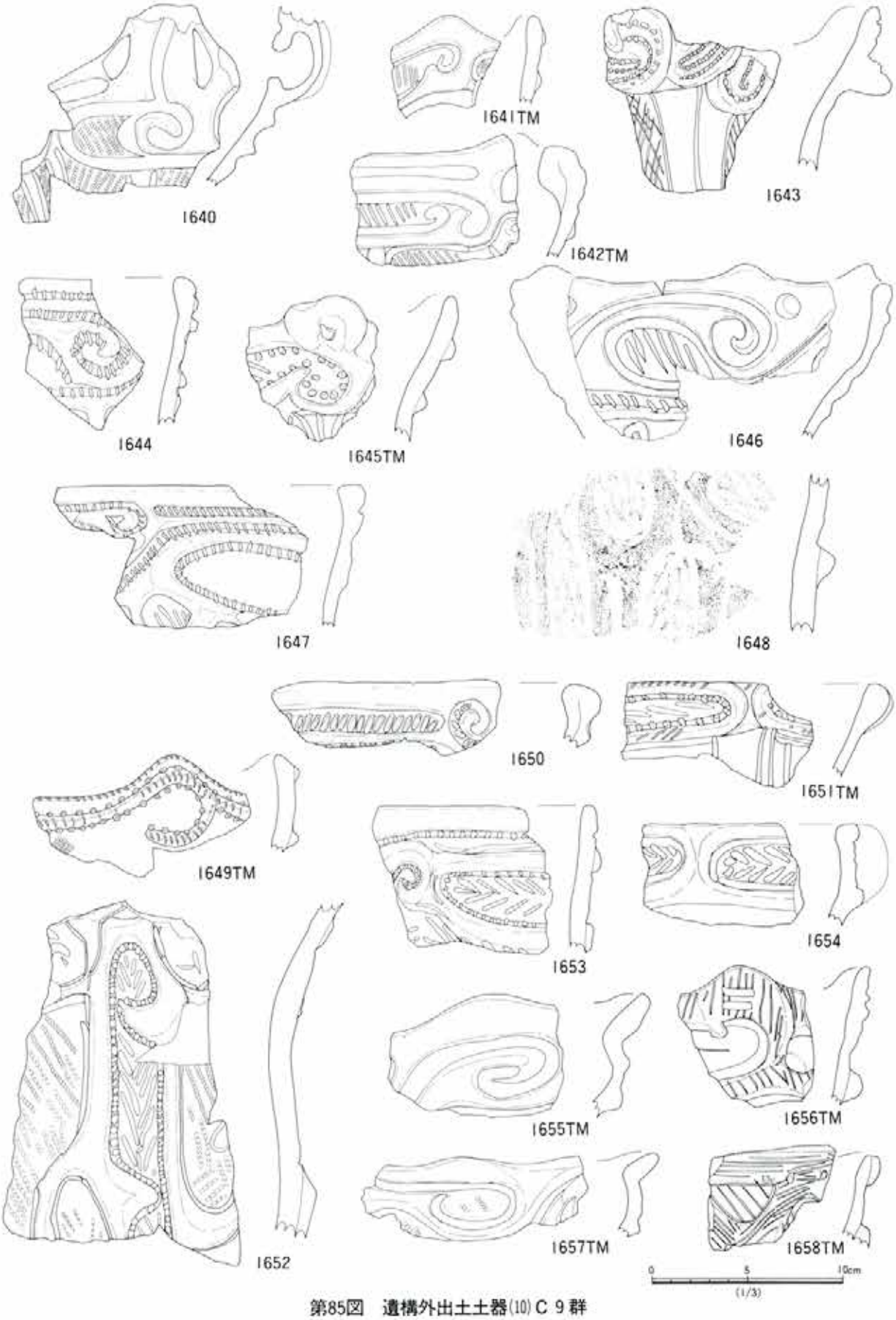
B類（1631、1633、1634）内彎した口縁部が、さらに外反気味に立ち上がるもの。1631は、キャリパー形口縁部の上部が、わずかに外反して立ち上がっている。上部に2列の刺突列をなし、その下に半截竹管による平行沈線と撚り糸がみられる。1634は、くの字状口縁で上部がわずかに外反している。文様は、上部に刺突で、屈曲部は沈線で施文している。1633は、立ち上がり部分で、貼り付け隆帯による渦巻文がなされ、太い隆帯上には、右上がりの撚り糸文がみられた。

C8群土器（第85図、1636～1639、図版39）口縁部の文様帯が前面に立体化し、口縁部上下2段の厚い貼り付け隆帯をベースにした橋状把手や装飾的な把手を発達させた土器。この土器群も、C7群同様前回の調査で、第4号住居跡を中心として、完形に近い土器が何点か出土したが、今回の調査では第10号住居跡以外その数は少なかった。

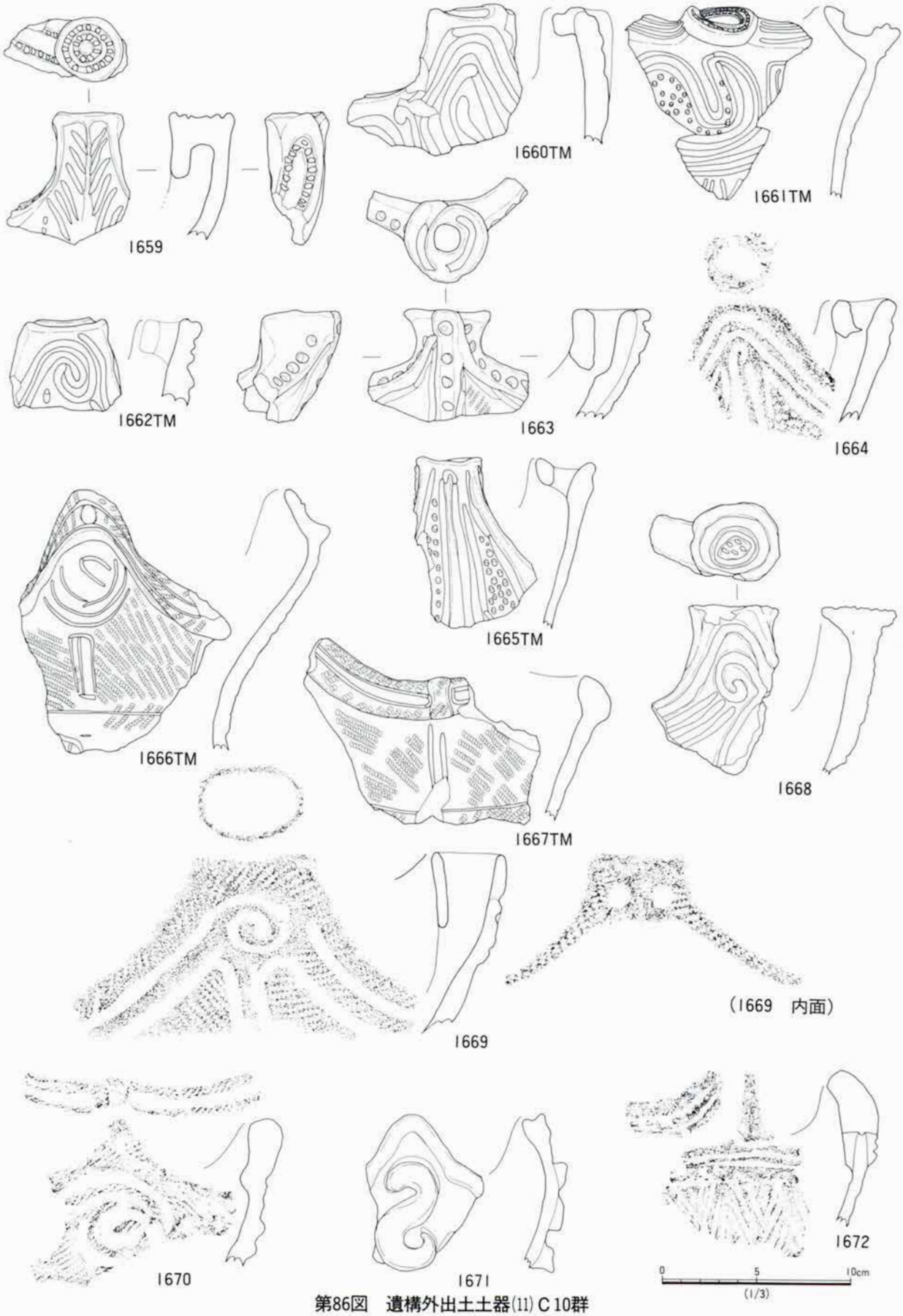
A類（1636～1638）口縁部文様帯の上の厚い貼り付け隆帯が口端にあたり、内側に蓋受け状の段をもつもの。1636、1637は、同一個体と考えられるが、口縁部に把手をもち、口端には隆帯がみられる。全体的に、表面の貼り付けがはがれたり摩耗したりなどの箇所が多い。内部には、厚く幅1.5㎜の蓋受け状のものがある。1638は、貼り付け隆帯が上部にせり上がっており、4カ所の穴が互いに貫通し、内部にも通じている。蓋受け状のものが明確にみられ、その上下には炭化物の付着が著しい。

B類（1639）口縁部文様帯の上に、やや外反気味に直立する口縁をもつもの。1639は、波状口縁で、山状に盛り上がる突起をもち、C10群にもつながる一面をもつ。また、立体的な貼り付けをもち、内部に空洞部分がみられ、刺突により施文されている。

C9群土器（第86図、1640～1658、図版39、40）口縁部に隆帯による区画文を配し、区画内に縄文・刺突文・沈線文を充填する土器。今回の調査では、C6群に次いで出土が多く、全体の約7％を占め



第85図　遺構外出土土器(10) C 9 群



第86図　遺構外出土土器(11) C 10群

た。また、この土器群はC6群に比べ、出土個体の大きいことでも特徴的であった。

A類(1640、1641)口縁部に隆帯による楕円区画文を配し、区画内に縄文を充填するもの。1640は、口縁部に把手状の突出部がみられるが、その先端部は欠落している。渦巻状の隆帯とともに太い沈線で区画をつくり、その内部に右下がりの縄文を施している。1641は、波状口縁の波頂部のみであるが、隆帯による渦巻文がみられ、区画内の縄文はかすかに残る。

B類（1642～1654）口縁部に隆帯による楕円区画文を配し、区画内に刺突や沈線を充填するもの。1643は、口縁部に皿状の突出部があり、渦巻状に立ち上がる。その内部には、棒状工具の先による刺突が渦巻に沿って施されている。胴部には、櫛状の工具による細い線が、斜行あるいは格子状に施されている。1642、1646は、いずれも波状の口縁をもち、渦巻とともに楕円区画をする隆帯をもち、その内部に、右下がりの斜行沈線がみられる。1644、1645、1649～1651は、隆帯の区画内で、隆帯に沿って細い竹管による円形あるいは、篦によるレンズ形の刺突をもつ。特に1649は、口縁に沿って刺突がなされており、地文には、かすかに縄文が残る。1648は胴部で、厚い隆帯に囲まれた区画内では、先の尖った工具により斜め上方より刺したと考えられる刺突が充填されている。

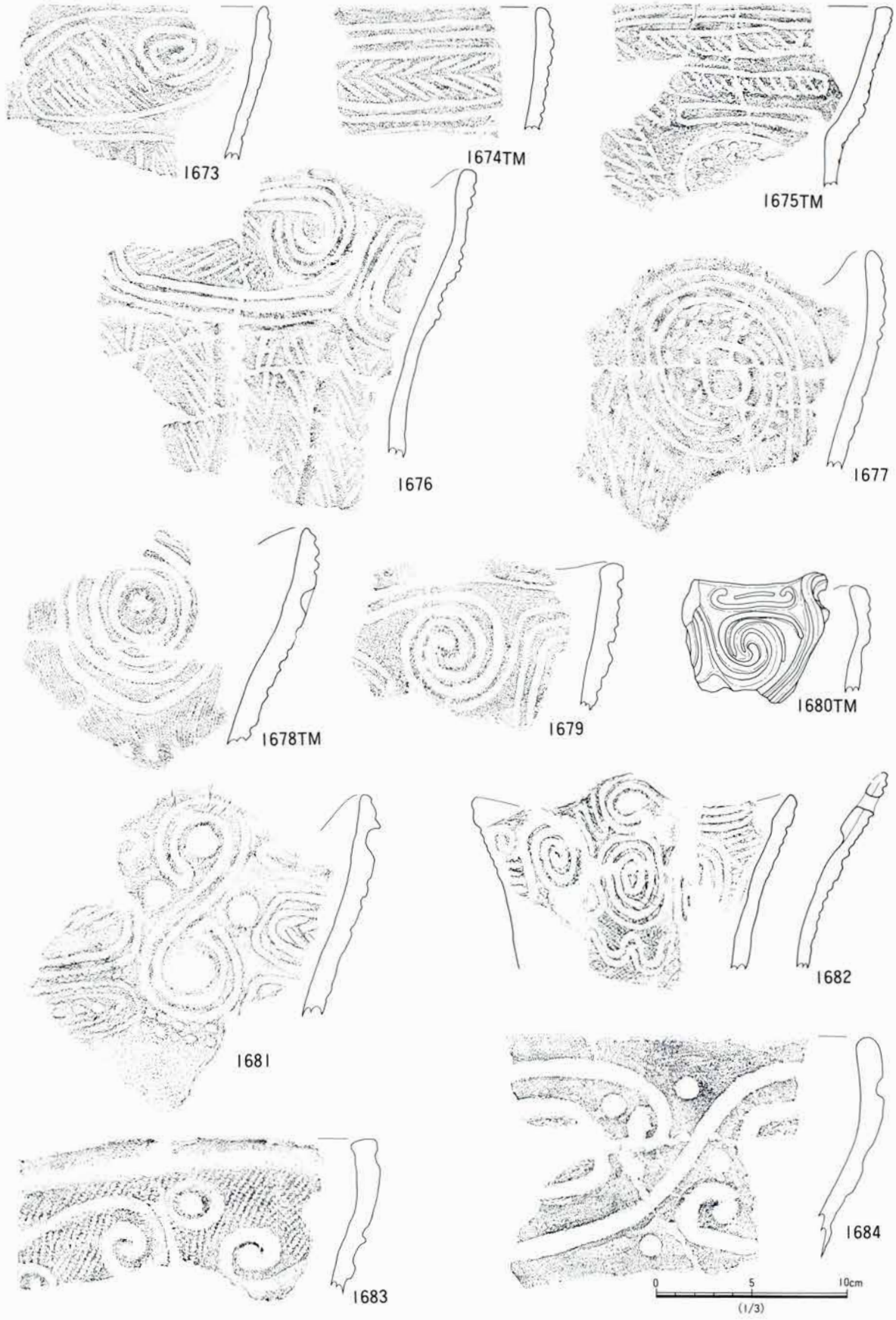
C類(1652～1654)口縁部に隆帯による楕円区画文を配し、区画内に葉脈状の沈線を充填するもの。1653、1654は、口縁部に隆帯の楕円区画文内に横の葉脈状の文様が施されている。1653は、それとともに渦巻文もみられ、隆帯の内側に沿って刺突も施されている。1652は、胴部で、縦長の厚い隆帯区画がなされており、この胴部片の中央部においては、隆帯内側に沿って刺突、内部には葉脈状の文様がみられる。また、左右の区画内には縄文もみられる。

D類（1655～1658）A、B、C類に当てはまらないその他のもの。1655、1657は、波状口縁の波頂部で、厚い隆帯の渦巻文様がみられる。1656、1658は、厚い隆帯の上部に櫛状工具による刻み目が多く入れられている。内部は、1658には沈線がみられ、1656ではみられなかった。

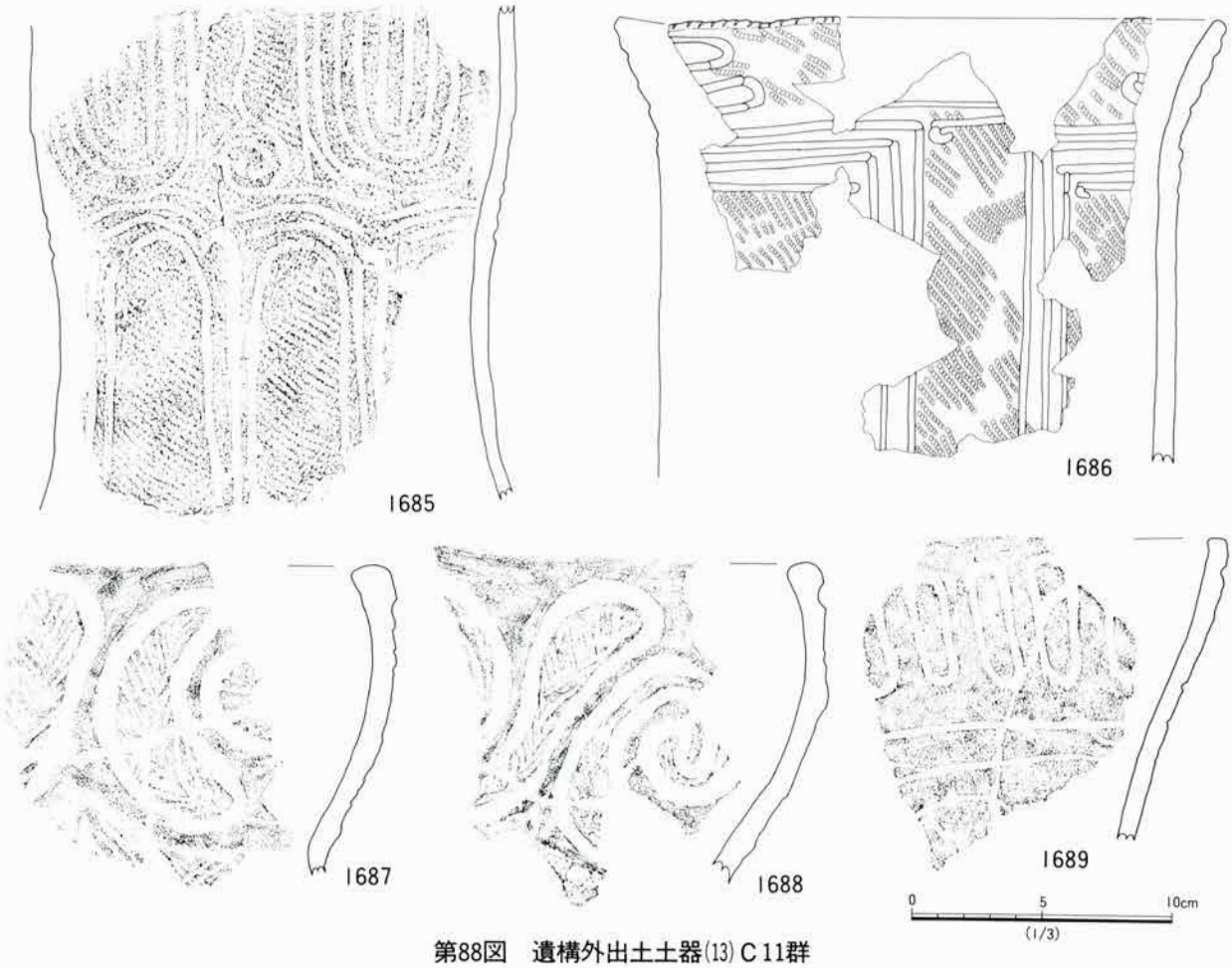
C10群土器（第87図、1659～1672、図版40、41）口縁部の先端が波状で、突起状の山形をもつ土器。今回の調査においては、この土器群の完形に近いものが遺構から数個体出土した。ただ、それらの土器も、さまざまな要素が含まれ、分類も難しいが、徳山独自で発達した面も多くある。

A類（1660～1662、1666、1667）上面、側面をもたず、平面的な突起を持つもの。1660、1662は、箱形の突出部をもち、表面には沈線で渦巻の文様を施す。また、1662は、半分欠損しているが、上部に貫通した穴があったと考えられる。1666、1667は、同一個体で、口縁部は波状で、全体が内側に折れ曲がっており、波頂部は山状に大きく盛り上がっている。波頂部表面には、沈線で文様を配して、胴部には縄文痕がみられる。1661は、穿孔部が貫通しておらず、突出部も小さめである。表面の文様は沈線による変形楕円区画内に刺突の集合体をもち、突出部の穿孔の周囲に刺突列を配している

B類(1659，1663～1665、1668、1669)箱形、あるいは徳利状の立体的な突起を持つもの。1659、1668は、箱形に近い円筒形をなす。1659は、表面に葉脈状の文様を施し、上部は同心円状に刺突列をもつ。1668は、表面に渦巻状の文様を施し、上部の同心円状文様の中心部に刺突の集合体をもつ。この2個体以外はすべて頂部に穿孔部をもっている。1664、1665は、いずれも表面の文様は、縦の沈線とその両横に配された刺突の集合体により文様が構成されている。1663は、突出部がラッパ状に開いており、表面には厚い隆帯とともに、細い竹管と思われるものによる円形の刺突で文様を構成している。1669は、突出部が噴火口状に発達し、地文には、口縁内部も含めて縄文が施されている。波頂部表面には



第87図　遺構外出土土器(12) C 11群



第88図　遺構外出土土器(13) C11群

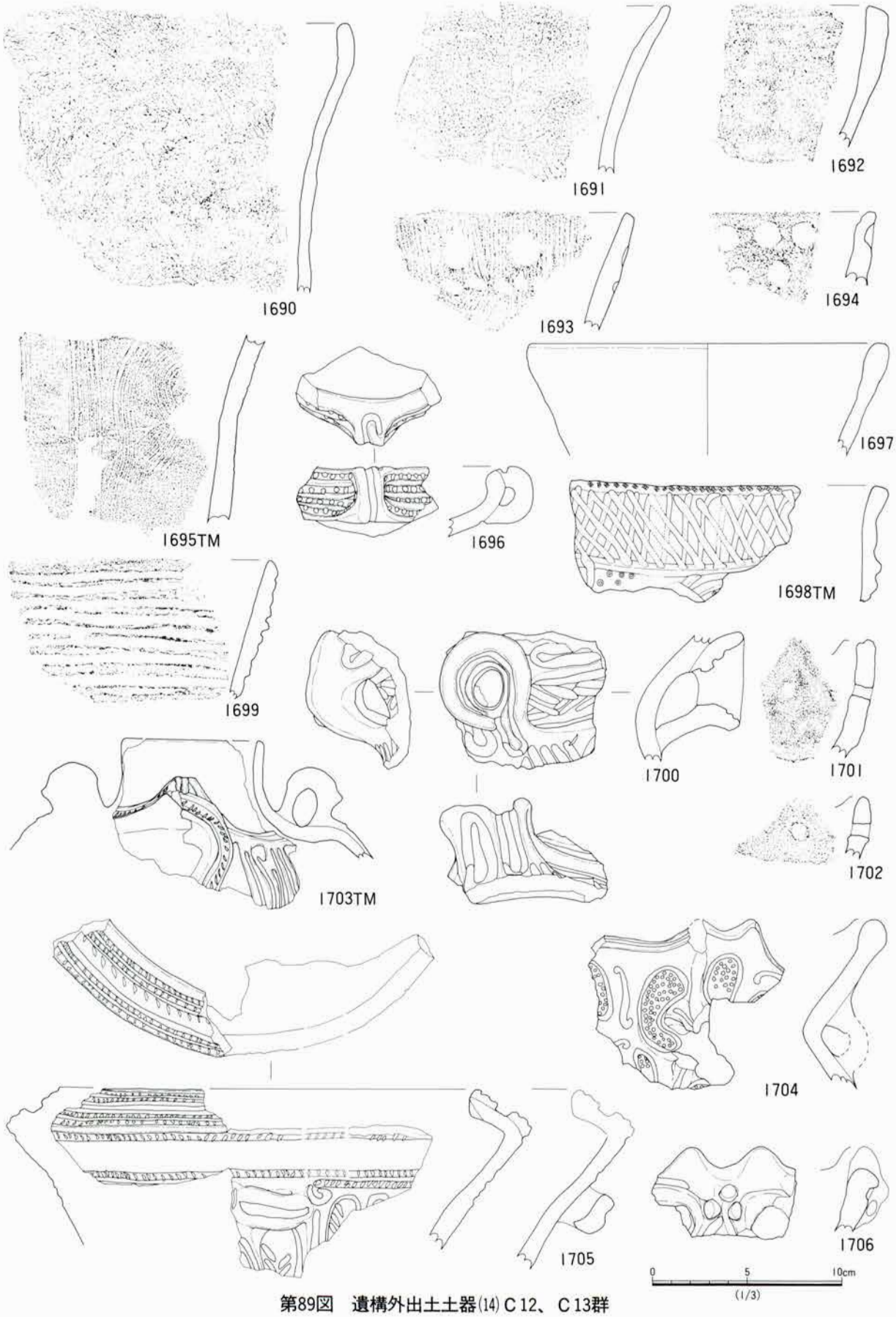
渦巻文様があり、そこから下部へ放射状に太めの沈線が伸びる。また、裏側の上部には横並びに指頭痕が2カ所みられる。

C類（1670～1672）1671は、三角形の突出部をもち、表面には貼り付けで、逆Sの字がみられる。1670、1672は、いずれも突出部が尖った三角形をしている。1670は、地文が縄文で、沈線により文様を作っていて、1672は、直線的な沈線のみで施文している。

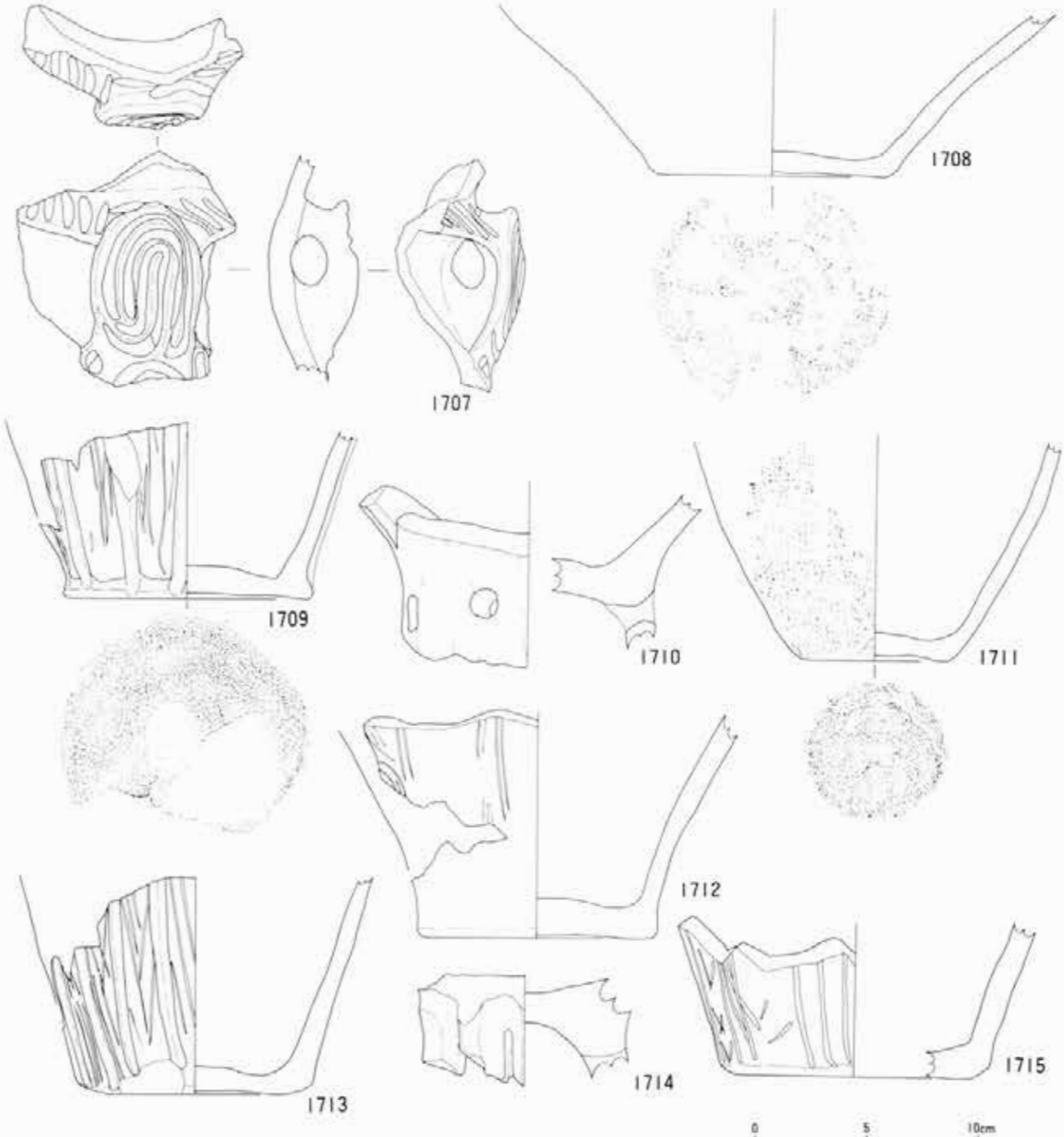
C11群土器（第88、89、図1673～1689、図版42、43）口縁部を中心に沈線による文様の割り付けをする土器。

A類（1673～1676）口縁部に沈線による楕円区画文を配するもの。1673は、沈線により渦巻と楕円区画をつけ、区画内にも細い沈線で文様をつけている。1674は、沈線の楕円区画の中に横の葉脈状の文様が入る。1675は、横の楕円区画の内部に沈線、円形の刺突が入る。1676は、渦巻とともに横の楕円区画があり、その内部に横の葉脈状の文様が施されている。胴部には、薄い隆帯区画内に縦の葉脈状文がみられる。

B類（1677～1682）渦巻文、あるいは同心円文が口縁部の主体となり、波状口縁の波頂部に位置することが多いもの。1677、1678ともに、波頂部に沈線による渦巻文があり、1677は、沈線の間に刺突が、1678は渦巻文の外に楕描き状の細い沈線が施文されている。1679、1680は、この土器片のみで波頂部がどうかはわからないが、口縁部に沈線による渦巻文がみられる。1681は波頂部に逆Sの字状の渦巻文が施文され、渦巻の中心に、あるいは両横に指頭痕がみられる。1682は、口径約16㎜である。



第89図　遺構外出土土器(14) C12、C13群



第90図　遺構外出土土器(15) C14群

胎土は、徳山のものではなく、黒味を帯び、硬質である。地文は縄文で、波頂部には、沈線によりつけられた渦巻文がみられ、この土器の主文様となっている。波頂部には、尖った形のもの、半円形のものの両方あるが、後者の渦巻文の中央部には穿孔がある。全面に炭化物が付着していた。

C類（1683～1689）1683は、地文は縄文で、太い沈線で渦巻文を施し、間に指頭大の刺突がみられる。1684は、地は無文で、太い沈線が縦横に走り、一部で渦巻文となる。また、各所に指頭大の刺突がみられる。1687、1688は、同一個体で、蕨手状に沈線区画がされ、その内部に細い沈線で葉脈状の文様を施している。この同一個体の土製円盤が、同一箇所から出土している。1685は、胴部で、地文が縄文で、そこに沈線で縦の楕円区画や渦巻文を施している。なお、この土器は内面の炭化物の付着

具合から考えると天地が逆の可能性もあり、今後検討の必要がある。1686は、バケツ状の器形をしており、3本の沈線によりくの字に折れ曲がる文様を作っている。沈線間の広い所には、縄文が施されている。SZ05の上部より出土したが、明確に同じ土坑からの出土とは認められず、遺構外で報告する。1689は、口縁部に沈線による縦長の楕円列が施される。

C12群土器（第90図、1690～1692、1695、1697、図版43）無文系深鉢土器を一括した。

A類（1690～1692、1697）無文系の深鉢土器。1690～1692、1697は、いずれも器壁は厚めで、表面は無文である。1690は、口縁部がやや内彎している。1697は、外面に炭化物が多く付着している。

C類（1695）櫛描沈線を施した土器。胴部片で、6本単位の櫛状工具で、文様が施されている。

C13群土器（第90図、1693、1694、1696、1698、1699、1701～1706、図版44）型式および小時期不明の土器を一括した。

C類（1693、1694、1699）沈線や刺突を主体とする文様を構成する深鉢類。1693、1694ともに口縁部に指頭痕が文様としてつけられているが、1693は、地文に櫛描文が縦に施されている。1699は、棒状工具で横に平行に深めの沈線が施されている。

D類（1696）浅鉢類。1696は、把手部分で沈線の内部に刺突が施されている。

E類（1703、1704）壺形土器類。1703は、口縁部に多少ゆがみがみられ、楕円形であった可能性もある。頸部に隆帯を施し、その延長が把手になっている。隆帯の上部には、細かい刻みが入れられている。胎土は、茶褐色の粘質で在地のものとは思われない。部分的に赤色顔料がみられる。1704は、波状の口縁で、断面は90度に折れ曲がり、その屈曲部を使って把手がつけられている。表面は、把手のまわりに沈線でパレット状に区画し、その内部に細かい刺突で施文している。

F類（1701、1702、1705、1706）その他不明の土器。1701、1702は、波状口縁の波頂部で、焼成前の穿孔のみられるもの。1705は、口縁部がくの字状に屈曲し、口縁に沿って細かい刺突で文様をつけている。また、口縁部には上下に貫通する形の孔部をもつ把手がある。1706は、C4群の土器にも似ているが、孔部が貫通していない。また、口縁上部は、山形状の突起が連続する。

C14群土器（第89，90図、1700、1707～1715、図版44）

A類（1700、1707）胴部、把手部、1700、1707は把手部で、1700は断面の屈曲が大きく、壺形の土器の可能性もある。1707は、把手部に沈線で文様を施している。

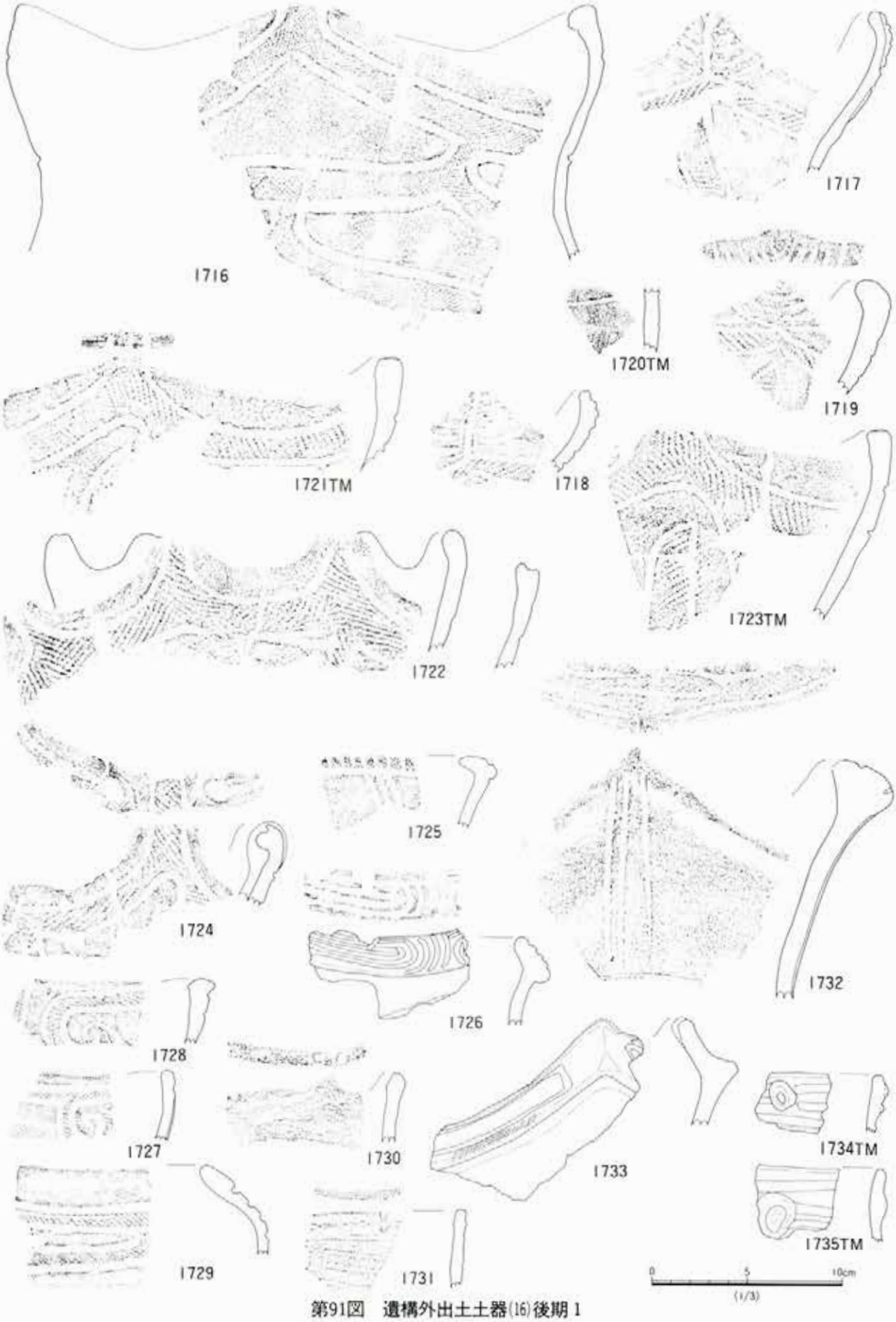
B類（1710）台付鉢の脚台部。1710は、途中で欠損しているが、2カ所穿孔がみられる。

C類（1708、1709、1711～1715）1714は、底部の下にわずかに脚が残るが、不揃いである。胴部には、1704、1713は縦の隆帯が、1715には沈線、1711は縄文がみられる。いずれも底部には明確な痕跡がみられなかった。

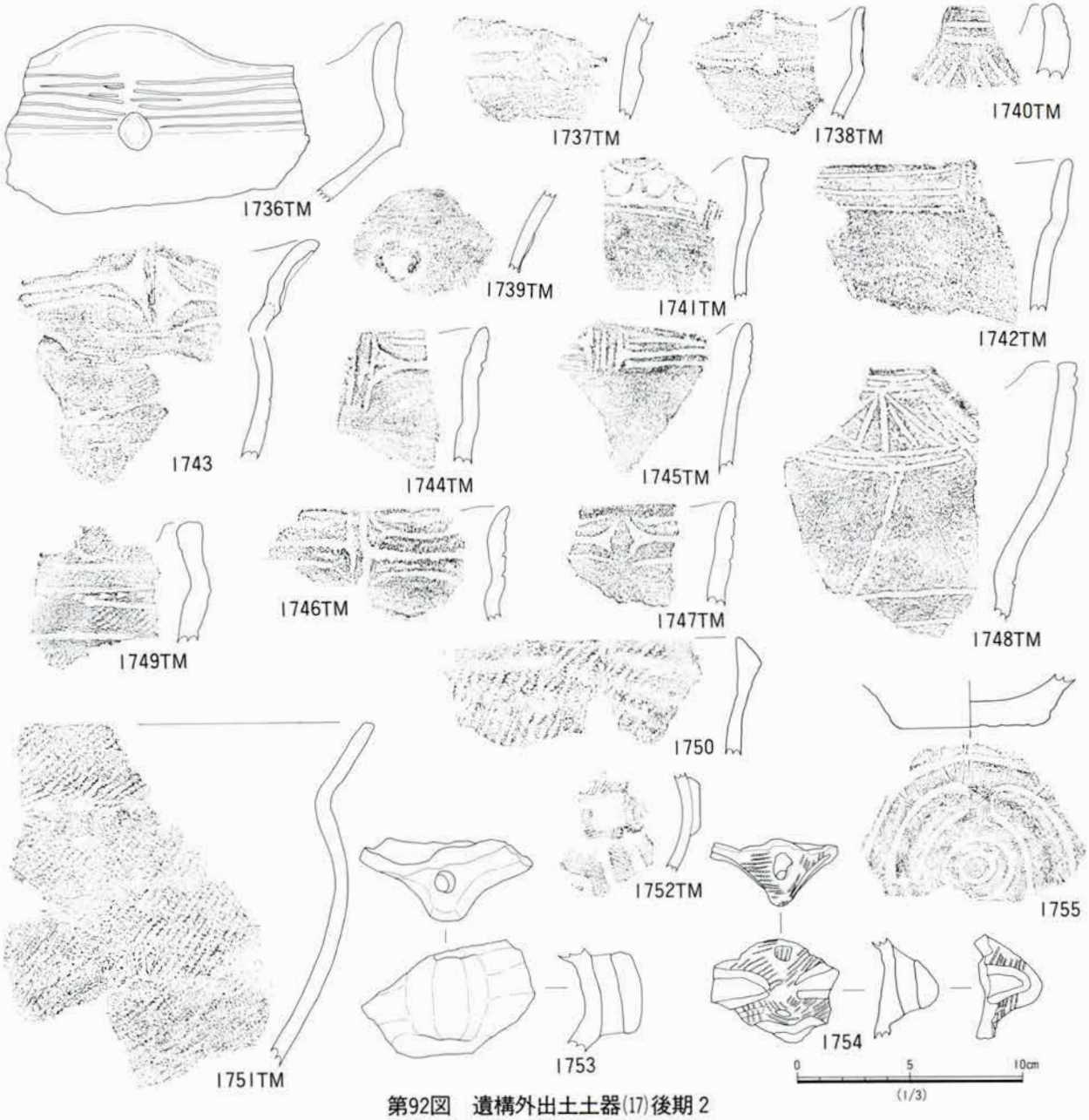
(4) 縄文時代後期の土器

後期の土器は、今回の調査では遺跡の西部から多く出土したが、全体でみると少数であった。ここでは、前回調査分も含めて報告する。

K1群土器（第92図、1716～1726、図版45）後期初頭の土器群。その大半は中津式に類似するもので、一部に後続する福田K2式・四ッ池式段階に平行する資料も含んでいる。これに中期から系譜を引くような土器も含めた。



第91図　遺構外出土土器(16)後期1



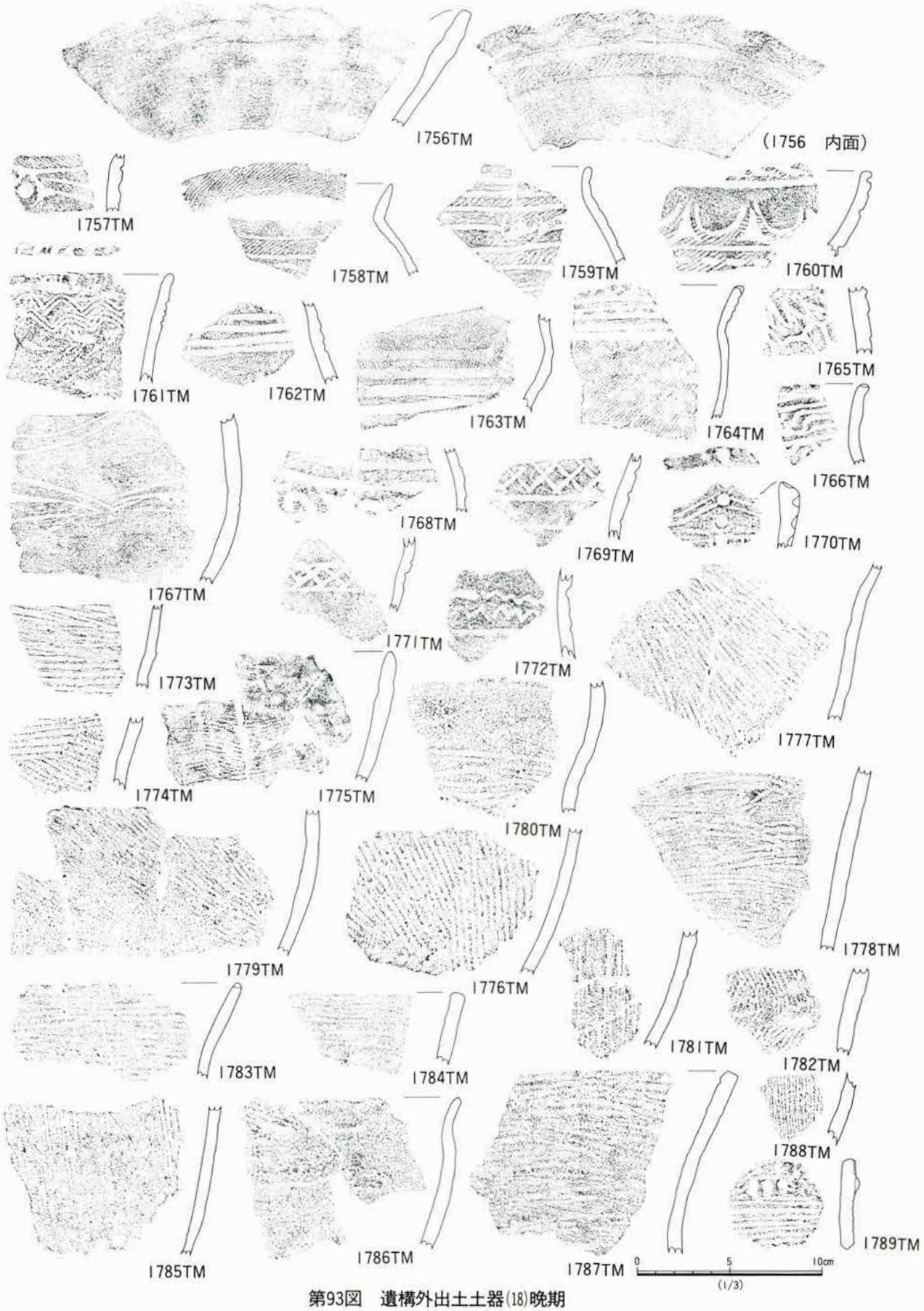
第92図　遺構外出土土器(17)後期2

A類（1716～1724）沈線区画文内に縄文を施文する中津式系、またはこれに類似する一群。1716、1721～1724がこれにあたり、波状口縁の波頂部から口縁に沿って流れる沈線区画があり、縄文が施されている箇所と、無文である箇所がはっきりしている。1717～1719は、波頂部が尖っており、その部分は沈線のみで施文している。

B類（1720、1725、1726）1720は、沈線内部に円形の刺突列が施される。1725は、口縁部がほぼ90度で折れ曲がり、折れ曲がった上部には、横へ1本の沈線がみられ、その下には、横の沈線とともに、斜めに3本1組となった沈線文様が施されている。1726は、口縁部がくの字状に折れ曲がり、口唇部が肥厚し、拡大している。上部には、沈線で横に楕円、縦に3本線の文様が施されている。

K2群土器（第92図、1727～1733、図版45、46）後期前葉から中葉にかけての土器群。北白川上層式・一乗寺K式・元住吉山式・堀ノ内式・加曽利B式に類似するものを一括した。

A類（1727～1729、1731）沈線区画内に縄文をもつもの。1727～1729は、幅の狭い沈線区画で分け



第93図　遺構外出土土器(18)晩期

られ、縄文が施してある箇所、そうでない箇所がはっきり分かれる。1727、1728は、沈線により渦巻文を施している。いずれも硬質で、1728、1729は、口唇部が肥厚している。1731は、口唇部に鎖状の隆帯がみられ、口縁上部には細かい縄文が施されている。

B類(1730、1732、1733)沈線および刺突等を文様構成の主体的な要素とするものを一括する。1732は、波状口縁の波頂部で、口唇部が肥厚し中に折れ曲がっている。上面、側面には、沈線が施されている。1730は、波状口縁で小さな突起がみられ、その両横に刺突とも思える小孔があいている。1733は、三角状の波頂部の一部と思われ、口唇部がくの字に折れ曲がっている。折れ曲がった上部には、浅い2本の沈線が施されている。

K3群土器（第92、93図、1734～1748、図版46）凹線文、沈線を主体とする後期後葉の土器群。1743以外は前回調査分である。

A類（1734～1739）凹線文を施し、貝殻圧痕がみられる井口式に類似するもの。1736は、口縁部は波状で外反し、くの字状に折れ曲がる。貝殻圧痕とともに、横に6本の沈線が施される。

B類（1740～1748）沈線による短線連結文などを施す八日市新保式の特徴を示すもの。1740、1741は波頂部で山形文がみられる。1742～1748は、いずれも三叉文の特徴を示すものである。なお、1743、1744、1748は、この分類に入れたものの、晩期の御経塚式に近いものであると考えられる。

K5群土器（第93図、1749～1754、図版46）その他の土器を一括した。1749は、口縁部に台形状の突起物があり、縄文が施してある。また、細い沈線が横に走り、その間に縄文、あるいは突起列がみられる。1752は胴部で、正方形の貼り付け部があり、そこに縄文が施されている。1750、1751は、ともに全体に縄文が施され、1750は口唇部が肥厚し、くの字状に折れ曲がっている。1755は底部であるが、同心円状の沈線が施され、縄文が中央部区画に入り、1つおきの区画に縄文が充塡されている。1753、1754は、双耳壺の上下に穿孔が通る把手の部分と考えられる。1754は、表面に縄文が施されている。

(5) 縄文時代晩期の土器

今回の調査では、明確に晩期といえる土器の出土をみなかったので、ここで報告するものは、すべて前回調査分である。

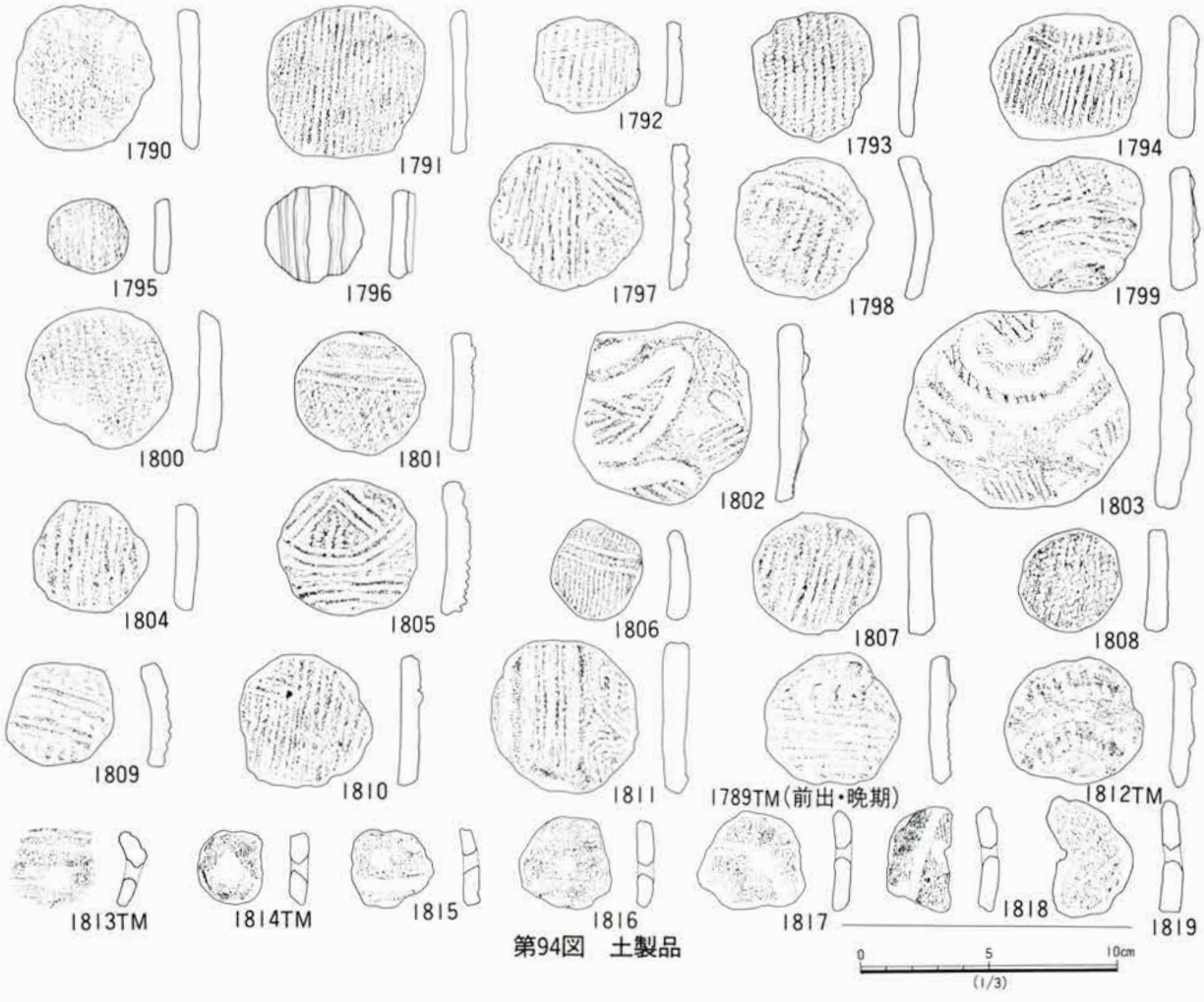
B1群土器（第94図、1756～1766、1768、図版47）

A類（1756～1760）北陸系の御経塚式・中屋式に類似するもの。1756は、口縁が波線状で無文の浅鉢である。内部に帯状の縄文帯がある。1758は、口縁部がくの字状に外反しており、口唇部及び沈線区画内に縄文が施されている。1757、1759、1760は、K3群の流れをくむもので、沈線と組み合わせた三叉文を作っている。また、沈線区画内に縄文が施されている。

B類（1761～1763）東海系の寺津式に類似するもの。1761は、口縁上部に刻みが入れられ、半截竹管状工具で山形文が施されている。1762、1763は、横の浅い凹線を施したものである。

C類（1764～1766、1768）大洞式に類似したもの。1764～1766、1768は、沈線による蕨状文様を配し、一部区画内に縄文を施す。1764は、かすかに赤色顔料がみられる。

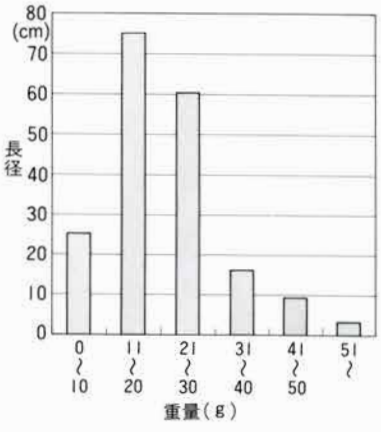
B2群土器（第94図、1767、1769～1772、図版47）晩期中葉の土器群で、滋賀里ⅢB式に類似するもの。1767は胴部で、連弧状の文様が残る。1769、1771、1772は、口縁部付近と思われるが、横に並んだダイヤ状沈線文様がみられる。1770は、波頂部で中央部縦に刺突列がみられる。



第94図　土製品

B 3群土器（1773～1780、1783、1784）胴部に貝殻による条痕を残すものを一括した。1773、1776、1777は、外面に貝殻による条痕が明瞭に認められ、1777は、内面にも貝殻等で調整した痕が微かに残る。1775は、内面に貝殻等で調整するとともに、指頭で押圧した痕跡も残している。

B 4群土器（1781、1782、1785）胴部に櫛状工具による条線を残すものを一括した。1785は、外面に炭化物の付着が甚だしく、櫛状工具により少し深めで幅広に調整した箇所と、浅めに細かく調整した箇所がみられる。



土製円盤質量分布

B 5群土器（1786～1789）1786、1787は、貝殻、工具等で条痕あるいは条線がつけられていたと思われるが、後になってなで消したと思われる痕跡がある。1789は、まわりを打ち欠いて土製円盤状になっている。突帯がつき、その上に刻みが入れられ、下には沈線列がみられる。

4．土製品（第94図、1790～1819、図版48）

今回調査では、多くの土製円盤が出土した。前回調査分も含め次項に、計測・観察表を載せた。

第4表　土製円盤　計測・観察表

NO	場所	層位	長径	重量	調整	報告書番号・備考
1	SB11	Ⅲ	55.3	30.2	打ち欠き	<1790>
2	SB12	Ⅲ	63.2	29.7	〃	<1791>
3	〃	炉内	41.5	12.9	〃	<1792>C6群
4	SB13	Ⅲ	58	37.9	〃	<1794>C6群
5	〃	Ⅲ	50.5	21.4	〃	<1793>
6	〃	Ⅲ	32.2	7.1	研磨	<1795>
7	SB14	Ⅲ	38.9	13.3	打ち欠き	<1796>
8	〃	Ⅲ	57.6	25.4	〃	<1797>
9	〃	Ⅲ	54.6	25.5	〃	<1798>C1群
10	〃	Ⅲ	49.2	12.1	〃	
11	SB16	Ⅲ	50.8	25.5	〃	
12	Pit73	Ⅲ	57.2	35.3	〃	<1799>C1群
13	Pit156	Ⅲ	40.1	12.8	〃	
14	Pit134	Ⅲ	53.5	25.6	摩耗	
15	x2	Ⅲ	56.8	29	打ち欠き	
16	〃	Ⅲ	41.7	10.1	〃	1／5 欠
17	y3	Ⅲ	47.5	15.8	〃	1／3欠
18	〃	Ⅲ	43.8	16.2	〃	
19	〃	Ⅲ	44.6	14.5	〃	
20	〃	Ⅲ	40.1	11.4	〃	
21	〃	Ⅲ	42.3	16.9	〃	
22	〃	Ⅲ	40.9	10.6	〃	1／3欠
23	〃	Ⅲ	33.6	9.2	〃	
24	〃	Ⅲ	30.2	8.2	〃	C6群
25	y4	Ⅲ	50.5	24.4	〃	
26	〃	Ⅲ	35.5	11.5	〃	
27	〃	Ⅲ	51.3	23.1	〃	1／3欠
28	〃	Ⅲ	40.7	12.3	研磨	1／3欠
29	〃	Ⅲ	54.4	11	摩耗	2／3欠
30	z2	Ⅲ	54.4	34.9	打ち欠き	<1800>1／7欠
31	z4	Ⅲ	43	19.9	〃	<1804>
32	〃	Ⅲ	43.6	14	〃	
33	〃	Ⅲ	49.2	21.5	〃	1／3欠
34	〃	Ⅲ	56.2	32.4	〃	1／5欠
35	〃	Ⅲ	31	6.7	〃	
36	〃	Ⅲ	50.8	15.7	〃	
37	z5	Ⅲ	47.2	16.6	〃	
38	〃	Ⅲ	40.7	14.2	研磨	C1群
39	〃	Ⅲ	50.7	27.1	打ち欠き	<1801>C1群
40	z6	Ⅱb	48.9	18.9	摩耗	
41	〃	Ⅲ	63.6	30.1	研磨	
42	A3	Ⅲ	47.8	25.2	打ち欠き	
43	〃	Ⅲ	35	5.7	研磨	
44	A4	Ⅲ	52.9	27.6	打ち欠き	
45	A5	Ⅲ	49	14.7	摩耗	1／2欠
46	A6	Ⅲ	74.3	48.7	打ち欠き	
47	〃	Ⅲ	34.4	13.8	〃	
48	A7	Ⅱb	46	21	〃	
49	〃	Ⅲ	58.9	28.3	〃	
50	〃	Ⅲ	45.6	19.5	〃	
51	〃	Ⅲ	55.1	27.3	〃	1／5欠
52	A8	Ⅱb	37.5	8.6	〃	
53	〃	Ⅱb	50.3	23.3	〃	
54	〃	Ⅲ	38.2	12.7	〃	
55	〃	Ⅲ	46.7	20.5	〃	
56	〃	Ⅲ	28.5	4.6	〃	
57	〃	Ⅲ	51.7	29.8	〃	C1群
58	〃	Ⅲ	34.2	10.3	〃	
59	〃	Ⅲ	43.6	19.7	〃	
60	A9	Ⅱb	45.8	26.2	〃	
61	〃	Ⅱb	62.6	36.6	〃	C9群
62	〃	Ⅲ	66.1	62.9	〃	<1802>C9群
63	〃	Ⅲ	32.7	10.2	〃	C2群
64	〃	Ⅲ	86.5	88.9	〃	<1803>C9群
65	〃	Ⅲ	58	30.8	〃	
66	〃	Ⅲ	67.1	34.5	〃	
67	A10	Ⅱb	44.1	14.6	摩耗	
68	Aトレ	トレ	32.3	7.4	打ち欠き	K1群
69	B5	Ⅲ	41.9	12.2	〃	1／3欠
70	B6	Ⅱb	58.7	29.9	〃	
71	〃	Ⅲ	43.2	13.9	〃	
72	〃	Ⅲ	35	9	〃	
73	〃	Ⅲ	53.2	34.5	〃	<1805>C1群
74	〃	Ⅲ	32.8	11.3	〃	
75	B7	Ⅲ	61.9	37.3	研磨	
76	〃	Ⅲ	51.7	27.6	打ち欠き	
77	〃	Ⅲ	39.7	13.1	研磨	
78	〃	Ⅲ	72	45.8	打ち欠き	
79	〃	Ⅲ	59.3	28.7	〃	
80	B8	Ⅱb	40.7	16.2	〃	<1808>
81	〃	Ⅲ	51.5	24	研磨	C6群
82	〃	Ⅲ	53.6	21.9	打ち欠き	
83	〃	Ⅲ	49.3	23.5	〃	
84	〃	Ⅲ	70.3	49.1	〃	
85	〃	Ⅲ	64.3	33.3	研磨	
86	B9	Ⅱb	48.7	16.7	〃	C2群
87	〃	Ⅲ	37.1	10.3	打ち欠き	C6群
88	〃	Ⅲ	41.9	15.6	〃	
89	〃	Ⅲ	48.3	25.5	研磨	C6群
90	〃	Ⅲ	35.2	11.9	打ち欠き	
91	〃	Ⅲ	58.3	30.7	〃	
92	〃	Ⅲ	31.9	11	〃	
93	B10	Ⅲ	42.7	17.2	〃	C6群
94	〃	Ⅲ	41	12.6	〃	
95	〃	Ⅲ	54.8	27.1	摩耗	1／3欠
96	〃	Ⅲ	33.5	7.9	打ち欠き	1／3欠
97	〃	Ⅲ	45.4	21.7	研磨	
98	〃	Ⅲ	31.6	7	打ち欠き	
99	〃	Ⅲ	37.4	11.1	摩耗	
100	B11	Ⅱb	42.6	10.8	打ち欠き	1／2欠
101	〃	Ⅲ	34.7	8.1	摩耗	
102	C7	Ⅲ	29.5	9.7	打ち欠き	
103	C9	Ⅱb	42	17.3	研磨	<1809>C1群
104	〃	Ⅱb	46.4	19.3	〃	C1群
105	〃	Ⅲ	52.6	25.9	打ち欠き	<1810>C6群
106	C11	Ⅲ	53.8	28.9	研磨	
107	〃	Ⅲ	57	26.6	打ち欠き	
108	〃	Ⅲ	40.2	17.2	研磨	
109	D8	Ⅱb	36.5	11.5	打ち欠き	C2群
110	〃	Ⅲ	41.8	10.9	〃	
111	D9	Ⅲ	43	17.6	〃	1／7欠
112	D10	Ⅲ	59.5	40.9	〃	C1群
113	〃	Ⅲ	36.1	12.2	〃	<1806>C6群
114	〃	Ⅲ	39.3	15.1	研磨	C1群
115	D11	Ⅲ	52.9	50.9	打ち欠き	C1群
116	〃	Ⅲ	52	41.4	〃	
117	〃	Ⅲ	49	18.8	〃	
118	〃	Ⅲ	49.1	26	〃	<1807>
119	〃	Ⅲ	40.3	13.3	研磨	
120	〃	Ⅲ	48.1	19.6	〃	
121	〃	Ⅲ	48	31.8	〃	
122	〃	Ⅲ	60.1	37.5	打ち欠き	<1811>
123	〃	Ⅲ	52.8	29.8	研磨	
124	〃	Ⅲ	48.8	21.3	打ち欠き	
125	〃	Ⅲ	49	21.2	〃	1／7欠
126	〃	Ⅲ	42.3	18.3	研磨	
127	D14	Ⅲ	44.1	15.6	打ち欠き	1／7欠
128	〃	Ⅲ	39.2	11.2	〃	
129	D15	Ⅱb	61.7	29.7	〃	
130	Dトレ	トレ	56.1	27.7	摩耗	
131	E10	Ⅲ	46.1	15.8	打ち欠き	1／5 欠
132	E11	Ⅲ	32.4	10.6	〃	
133	〃	Ⅲ	49.2	19.1	摩耗	
134	〃	Ⅲ	44.9	15.7	打ち欠き	1／5 欠
135	〃	Ⅲ	50.4	17.5	〃	2／3 欠
136	E12	Ⅲ	36.2	7.9	〃	1／2 欠
137	E13	Ⅲ	48.5	31.5	研磨	C9群
138	E14	Ⅲ	36.2	9.2	〃	
139	〃	Ⅲ	47.6	13.8	打ち欠き	1／3 欠
140	〃	Ⅲ	40.9	9.9	〃	1／5 欠
141	E15	Ⅲ	50.1	15.8	〃	1／5 欠
142	〃	Ⅲ	46.6	9.3	摩耗	1／2 欠
143TM	SB04	Ⅲ	52.1	25	打ち欠き	前回報告書1650
144TM	〃	Ⅲ	41	12	研磨	前回報告書1651
145TM	〃	Ⅲ	46.6	11.7	打ち欠き	前回報告書1652
146TM	P329	Ⅲ	53.5	16.2	摩耗	前回報告書2290
147TM	SK93	Ⅲ	50.6	35.1	研磨	前回報告書2291
148TM	P865	Ⅲ	63.1	24.5	打ち欠き	前回報告書2292
149TM	SK183	Ⅲ	53.5	30.3	〃	前回報告書2293
150TM	SK76	Ⅲ	55.5	25.6	〃	前回報告書2294
151TM	SK116	Ⅲ	51.3	27.9	摩耗	前回報告書2295
152TM	SK32	Ⅲ	54.4	28.3	打ち欠き	前回報告書2296
153TM	P615	Ⅲ	42.1	17.2	〃	前回報告書2297
154TM	P1069	Ⅲ	47.3	14.5	〃	前回報告書2298
155TM	P157	Ⅲ	94.3	68.8	研磨	前回報告書2299
156TM	C4	トレ	57.8	18	摩耗	C6群
157TM	〃	トレ	54.1	21.9	打ち欠き	C6群
158TM	E7	トレ	43.6	15.2	〃	
159TM	〃	トレ	37	12.3	研磨	
160TM	〃	Ⅲ	39.4	11.5	打ち欠き	1／8欠
161TM	〃	トレ	68.9	41.1	研磨	C1群
162TM	〃	トレ	57.6	34.3	〃	
163TM	〃	トレ	56	23.6	摩耗	
164TM	〃	トレ	55.4	27.3	〃	
165TM	E8	Ⅲ	48.4	24.6	打ち欠き	
166TM	〃	Ⅲ	67.9	44.7	研磨	
167TM	〃	Ⅲ	48	22.7	〃	C6群
168TM	E9	Ⅲ	63.6	25.3	打ち欠き	1／3欠
169TM	E10	トレ	35.1	11.4	〃	1／3欠
170TM	〃	トレ	43	16.4	〃	
171TM	F8	トレ	68.8	50.6	研磨	C1群
172TM	〃	トレ	47.6	18.2	〃	
173TM	F9	トレ	53.8	24.5	打ち欠き	<1798TM>晩期
174TM	〃	トレ	41.7	15.4	摩耗	
175TM	F10	Ⅲ	47.9	27.2	研磨	
176TM	G12	Ⅲ	51.4	20.8	〃	1／4欠
177TM	H10	Ⅲ	34.3	11	打ち欠き	
178TM	H12	Ⅱ	43	14.2	〃	
179TM	I10	Ⅲ	51.2	26.6	〃	<1812TM>C1群
180TM	J 8	Ⅱ	46.1	17	研磨	
181TM	K12	Ⅲ	53.2	15.5	摩耗	
182TM	L2	トレ	53.2	24.4	〃	1／5欠
183TM	L5	Ⅱ	67.1	38.3	打ち欠き	
184TM	L8	アゼ	53.3	24.3	〃	C1群
185TM	M5	Ⅲ	51.9	27.3	〃	
186TM	〃	Ⅲ	45.6	17.4	研磨	
187TM	N4	トレ	45	21.3	〃	1／6欠
188TM	N5	Ⅱ	71.5	42	〃	

No.	位置	層位	器種	器面調整・地文・顔料		胎土	色調		焼成	挿図	図版
				内面	外面		内面	外面			
1001	SB9	炉東床面	深鉢	ナデ	縄文RL	細かい砂粒多い	7.5YR8/8	7.5YR8/	良好	44	11
1002	〃	炉西床面	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	7.5YR6/4	7.5YR5/4	良好	〃	〃
1003	〃	a14	〃	ナデ	縄文	粗砂多い	7.5YR6/4	7.5YR6/5	普通	〃	〃
1004	〃	a25	〃	ナデ	縄文RL	粗砂少なく、密	7.5YR4/1	7.5YR5/1	良好	〃	〃
1005	〃	覆土	〃	ナデ	縄文	粗砂多い	10YR2/1	10YR2/1	普通	〃	〃
1006	〃	a23	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・長石含む	7.5YR6/4	7.5YR6/5	普通	〃	〃
1007	〃	覆土	〃	ナデ	ナデ・赤色	粗砂少なく、密	7.5YR5/3	7.5YR5/3	良好	〃	〃
1008	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	粗砂少ない	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	〃
1009	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	粗砂少なく、密	10YR6/2	7.5YR7/3	良好	〃	〃
1010	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	粗砂少ない	7.5YR6/4	7.5YR6/4	良好	〃	〃
1011	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	粗砂ひじょうに多い	7.5YR5/2	7.5YR5/2	普通	〃	〃
1012	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	粗砂少なく、密	7.5YR6/3	5YR7/6	良好	〃	〃
1013	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	粗砂多い	10YR5/1	10YR2/9	普通	〃	〃
1014	〃	〃	〃	ナデ	縄文？	粗砂少なく、密	5YR5/4	2.5YR5/2	良好	〃	〃
1015	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	細かい砂粒多い	5YR6/7	5YR6/6	良好	〃	〃
1016	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂少なく、密	5YR7/6	5YR6/6	良好	〃	〃
1017	〃	a10	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	5YR5/8	5YR5/8	普通	〃	〃
1018	〃	覆土	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR4/6	7.5YR4/6	普通	〃	〃
1019	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR4/6	7.5YR4/6	普通	〃	〃
1020	〃	a30	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	5YR4/2	5YR7/6	普通	〃	〃
1021	〃	a30	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	5YR6/4	5YR6/4	普通	〃	〃
1022	〃	覆土	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR6/3	7.5YR6/3	普通	〃	〃
1023	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	10YR7/4	10YR7/3	普通	〃	〃
1024	〃	a11	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	〃
1025	〃	a16	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR7/2	10YR7/2	普通	〃	〃
1026	〃	a27	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR8/3	7.5YR7/3	普通	〃	〃
1027	〃	a24	〃	ナデ	縄文RL	細かい砂粒多い	10YR6/3	10YR5/3	良好	〃	〃
1028	〃	a29	〃	ナデ	縄文LR	細かい砂粒多い	7/5YR5/3	2.5YR6/6	良好	〃	12
1029	〃	覆土	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	7.5YR7/2	7.5YR7/2	良好	〃	11
1030	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	粗砂多い	7.5YR7/4	7.5YR8/3	普通	〃	12
1031	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	粗砂多い・雲母含む	7.5YR6/4	5YR7/6	普通	〃	〃
1032	〃	a11	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR8/4	7/5YR8/3	普通	〃	〃
1033	〃	覆土	〃	ナデ	ナデ・刷毛目	細かい砂粒多い	10YR7/1	10YR5/2	普通	〃	〃
1034	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	〃
1035	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR5/8	7.5YR5/8	普通	〃	〃
1036	SB10	炉下	〃	ナデ	縄文	粗砂多い	7.5YR6/3	7.5YR7/2	普通	45	12
1037	〃	炉内	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	5YR6/8	5YR6/8	普通	〃	〃
1038	〃	SK③	〃	ナデ	ナデ・刷毛目	粗砂多い	10YR7/2	10YR7/2	普通	〃	7
1039	〃	覆土	〃	ナデ	縄文RL	細かい砂粒多い	7.5YR6/4	7.5YR8/3	良好	〃	12
1040	〃	〃	〃	ナデ	縄文	粗砂多い	10YR8/2	7.5YR7/6	普通	〃	〃
1041	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR6/6	7.5YR8/6	普通	〃	〃
1042	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR7/6	10YR7/4	普通	〃	〃
1043	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	細かい砂粒多い	5YR7/6	7.5YR7/6	良好	〃	〃
1044	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	粗砂多い	10YR5/8	2.5YR5/6	普通	〃	〃
1045	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	粗砂多い	7.5YR8/6	10YR8/6	普通	46	〃
1046	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR5/2	7.5YR7/4	良好	〃	〃
1047	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	細かい砂粒多い	7.5YR6/4	7.5YR6/4	良好	47	〃
1048	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	2.5YR5/6	2.5YR6/6	普通	〃	〃
1049	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR6/4	10YR7/3	普通	46	〃
1050	〃	SK④	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	5YR3/3	5YR3/3	良好	〃	7
1051	〃	覆土	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR7/3	7.5YR7/3	普通	〃	13
1052	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR8/1	7.5YR8/6	普通	〃	〃
1053	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR8/2	7.5YR6/4	普通	〃	〃
1054	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	2.5YR5/4	2.5YR5/4	良好	〃	〃
1055	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1056	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR6/2	10YR6/2	普通	47	〃
1057	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	細かい砂粒多い	7.5YR7/6	7.5YR7/4	普通	46	〃
1058	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	細かい砂粒多い	7.5YR7/6	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1059	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	10YR5/3	10YR5/3	良好	47	〃
1060	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密・長石を含む	10YR5/1	10YR5/1	良好	〃	〃
1061	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	細かい砂粒多く密	10YR5/6	10YR5/6	良好	〃	7
1062	SB11	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR8/4	10YR8/4	良好	48	13
1063	〃	〃	〃	ナデ	縄文？	細かい砂粒多い	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	〃
1064	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR8/2	7.5YR8/2	普通	〃	〃
1065	〃	〃	〃	ナデ	ナデ・刷毛目	均質かつ密	7.5YR6/3	7.5YR6/3	良好	〃	〃
1066	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	10YR5/2	10YR7/3	良好	〃	〃
1067	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	10YR7/3	10YR7/3	良好	〃	〃
1068	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR7/3	10YR7/3	普通	〃	〃
1069	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR6/2	10YR6/2	普通	〃	〃
1070	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	細かい砂粒多い	7.5YR8/3	7.5YR6/3	普通	〃	〃

第5表　縄文土器観察表(1)遺構

No.	位置	層位	器種	器面調整・地文・顔料		胎土	色調		焼成	挿図	図版
				内面	外面		内面	外面			
1071	SB11	覆土	深鉢	ナデ	縄文？	粗砂多い	7.5YR7/2	7.5YR7/2	普通	48	13
1072	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	細かい砂粒多く密	10YR7/3	10YR7/3	良好	〃	〃
1073	〃	SK⑥	〃	ナデ	縄文RL	粗砂多い	10YR7/6	10YR7/6	普通	〃	7
1074	〃	SK⑧	〃	ナデ	ナデ	雲母・長石をふくむ	10YR6/3	10YR6/3	普通	48.50	8
1075	〃	SK⑦	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR6/3	10YR8/2	普通	49	14
1076	〃	SK⑦	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR6/3	10YR8/2	普通	〃	〃
1077	〃	SK⑥	〃	ナデ	縄文LR	大きい砂粒が混じる	5YR4/1	5YR4/1	普通	〃	7
1078	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR7/3	10YR5/2	普通	〃	13
1079	〃	〃	〃	ナデ	縄文？	細かい砂粒多い	7.5YR7/2	7.5YR7/2	良好	〃	〃
1080	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	2.5YR6/8	7.5YR7/6	良好	〃	〃
1081	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	均質かつ密	7.5YR5/8	7.5YR5/8	良好	〃	14
1082	〃	SK⑥	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	7.5YR8/4	7.5YR7/3	良好	〃	〃
1083	〃	覆土	〃	ナデ	縄文RL	細かい砂粒多い	10YR7/3	10YR6/2	良好	〃	〃
1084	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR6/3	7.5YR6/3	普通	〃	〃
1085	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	細かい砂粒多い	10YR7/4	10YR7/2	普通	〃	〃
1086	〃	〃	浅鉢	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR6/4	7.5YR6/4	普通	〃	〃
1087	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	5YR7/6	5YR7/6	良好	50	〃
1088	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	10YR7/4	10YR7/4	良好	〃	〃
1089	〃	〃	深鉢・胴部	ナデ	縄文RL	細かい砂粒多い	5YR5/4	7.5YR5/3	良好	〃	〃
1090	〃	SK⑧	〃	ナデ	ナデ・刷毛目	粗砂多い	10YR6/6	10YR6/6	普通	〃	7
1091	〃	〃	〃 底部	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	10
1092	SB12	埋甕	〃	ナデ	撚糸文	均質かつ密	7.5YR4/4	7.5YR4/4	普通	51	7
1093	〃	炉内	〃	ナデ	撚糸文	大きい砂粒が混じる	10YR3/2	10YR3/2	普通	〃	15
1094	〃	床面直上	〃	ナデ	撚糸文	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/4	7.5YR4/3	普通	〃	〃
1095	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	細かい砂粒多く密	7.5YR6/3	7.5YR6/3	良好	〃	〃
1096	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	細かい砂粒多い	7.5YR6/4	7.5YR6/4	普通	〃	〃
1097	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	細かい砂粒多い	7.5YR4/3	7.5YR4/3	良好	〃	〃
1098	〃	〃	浅鉢	ナデ・赤色	ナデ・赤色	大きい砂粒が混じる	7.5YR5/3	7.5YR5/3	普通	〃	8
1099	〃	〃	深鉢・底部	ナデ	撚糸文	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	15
1100	〃	覆土	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR4/2	7.5YR4/2	良好	52	16
1101	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR7/3	10YR7/3	良好	〃	〃
1102	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	10YR8/1	10YR8/1	良好	〃	〃
1103	〃	〃	〃	ナデ	ナデ・赤色	細かい砂粒多く密	7.5YR4/3	7.5YR4/3	良好	〃	〃
1104	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	7.5YR7/4	5YR6/6	良好	〃	〃
1105	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	〃
1106	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	10YR4/2	10YR4/2	普通	〃	〃
1107	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	5YR4/3	5YR4/3	普通	〃	〃
1108	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR8/3	7.5YR7/4	良好	〃	〃
1109	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR6/3	10YR6/3	良好	〃	〃
1110	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR4/3	7.5YR6/4	普通	〃	〃
1111	〃	〃	〃	ナデ	縄巻縄文	大きい砂粒が混じる	10YR6/2	10YR6/4	普通	〃	〃
1112	〃	〃	〃	ナデ	縄巻縄文	細かい砂粒多い	10YR7/4	10YR7/4	良好	〃	〃
1113	〃	〃	〃	ナデ	縄巻縄文	大きい砂粒が混じる	10YR6/2	10YR6/4	普通	〃	〃
1114	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	細かい砂粒多い	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	〃
1115	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	細かい砂粒多い	10YR5/2	10YR5/2	普通	〃	〃
1116	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	粗砂多い	10YR5/2	10YR5/2	普通	〃	〃
1117	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	大きい砂粒が混じる	7.5YR5/3	7.5YR5/3	普通	〃	〃
1118	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	細かい砂粒多い	10YR6/3	10YR6/3	良好	〃	〃
1119	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	細かい砂粒多い	10YR3/1	10YR5/4	良好	〃	〃
1120	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	細かい砂粒多い	10YR5/2	10YR5/2	良好	〃	〃
1121	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	細かい砂粒多い	10YR5/3	10YR5/3	良好	〃	〃
1122	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	大きい砂粒が混じる	5YR5/6	5YR5/6	普通	〃	〃
1123	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/4	7.5YR4/3	普通	〃	〃
1124	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	粗砂多い	10YR7/6	10YR5/3	普通	〃	〃
1125	〃	〃	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	10YR5/3	10YR5/3	普通	〃	〃
1126	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	細かい砂粒多い	10YR6/3	10YR6/3	良好	〃	〃
1127	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1128	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	大きい砂粒が混じる	10YR7/2	10YR7/2	普通	〃	〃
1129	〃	〃	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	10YR5/3	10YR5/3	普通	〃	〃
1130	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	大きい砂粒が混じる	10YR8/3	10YR8/3	普通	〃	〃
1131	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	大きい砂粒が混じる	10YR8/3	10YR8/3	普通	〃	〃
1132	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	細かい砂粒多い	7.5YR7/3	7.5YR7/3	普通	〃	17
1133	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	大きい砂粒が混じる	7.5YR8/4	7.5YR8/4	普通	〃	〃
1134	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/4	7.5YR7/4	良好	〃	〃
1135	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR5/4	7.5YR5/4	良好	〃	〃
1136	〃	〃	〃	ナデ	縄文？	細かい砂粒多い	7.5YR5/4	7.5YR5/4	良好	〃	〃
1137	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR8/6	7.5YR8/6	良好	53	〃
1138	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR8/4	7.5YR7/4	普通	〃	8
1139	〃	〃	〃	ナデ	縄文？	細かい砂粒多い	10YR7/2	10YR3/1	普通	〃	17
1140	〃	SK②	〃	ナデ	縄文LR	細かい砂粒多く密	7.5YR4/4	7.5YR4/4	普通	〃	8

縄文土器観察表(2)遺構

No.	位置	層位	器種	器面調整・地文・顔料		胎土	色調		焼成	挿図	図版
				内面	外面		内面	外面			
1141	SB12	覆土	深鉢	ナデ	縄文LR	大きい砂粒が混じる	5YR6/6	7.5YR3/3	普通	53	17
1142	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	細かい砂粒多い	10YR6/4	10YR5/2	普通	〃	〃
1143	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	細かい砂粒多い	10YR6/4	10YR5/2	普通	〃	〃
1144	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	〃
1145	〃	SK①	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	10YR6/2	10YR6/2	普通	〃	8
1146	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	17
1147	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR8/4	7.5YR8/4	普通	〃	〃
1148	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR4/3	7.5YR4/3	普通	〃	〃
1149	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR8/2	10YR8/2	普通	54	〃
1150	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR8/2	10YR8/2	普通	〃	〃
1151	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR6/2	10YR6/2	良好	〃	〃
1152	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR8/4	5YR8/4	良好	〃	〃
1153	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR7/2	10YR5/3	良好	〃	〃
1154	〃	SK②	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒を含む	10YR8/3	10YR8/3	普通	〃	18
1155	〃	〃	浅鉢	ナデ	ナデ	細かい砂粒を含む	7.5YR8/4	5YR8/4	普通	〃	8
1156	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	細かい砂粒多く密	10YR5/4	10YR5/4	普通	〃	〃
1157	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	5YR6/4	5YR6/4	普通	〃	17
1158	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	細かい砂粒多い	7.5YR6/4	7.5YR6/4	普通	〃	〃
1159	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR6/4	7.5YR5/3	普通	〃	18
1160	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	大きい砂粒が混じる	5YR6/6	5YR4/3	普通	55	17
1161	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR5/1	7.5YR5/4	普通	〃	18
1162	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	細かい砂粒多い	10YR6/1	10YR6/1	良好	〃	〃
1163	〃	〃	〃 底部	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	10
1164	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR5/2	10YR7/3	普通	〃	18
1165	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	〃
1166	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	均質かつ密	7.5YR5/4	7.5YR5/4	良好	〃	〃
1167	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	細かい砂粒多く密	10YR7/3	10YR7/3	良好	〃	〃
1168	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	細かい砂粒多い	2.5YR4/8	2.5YR4/4	普通	〃	〃
1169	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	粗砂多い	10YR8/2	10YR8/2	普通	〃	〃
1170	〃	〃	注口	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR7/4	10YR7/4	普通	〃	〃
1171	P2	〃	深鉢	ナデ	縄文	粗砂多い	10YR4/3	7.5YR6/2	普通	56	19
1172	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/3	7.5YR7/3	普通	〃	〃
1173	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/3	7.5YR7/3	普通	〃	〃
1174	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	粗砂多い	7.5YR5/2	7.5YR5/2	普通	〃	〃
1175	P1	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1176	〃	〃	〃 底部	ナデ	ナデ	粗砂多い	5YR5/6	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1177	SK1	〃	深鉢	ナデ	ナデ	細かい砂粒を含む	10YR5/2	10YR5/2	良好	57	〃
1178	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒を含む	10YR7/4	10YR7/4	良好	〃	〃
1179	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	均質かつ密	5YR7/6	5YR7/6	良好	〃	〃
1180	〃	〃	〃	ナデ	磨き	細かい砂粒多く密	5YR5/6	10YR5/2	良好	〃	〃
1181	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	5YR7/4	5YR7/4	普通	〃	〃
1182	〃	〃	〃	ナデ	縄文	粗砂多い	7.5YR8/4	10YR7/3	普通	〃	〃
1183	〃	〃	〃	ナデ	ナデ・赤色	均質かつ密	7.5YR7/4	7.5YR7/4	良好	〃	〃
1184	〃	〃	〃	ナデ	縄文・赤色	細かい砂粒を含む	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	〃
1185	〃	〃	〃	ナデ	縄文	粗砂多い・長石を含む	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	〃
1186	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	粗砂多い	10YR8/3	10YR8/3	普通	〃	〃
1187	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	細かい砂粒を含む	10YR7/3	10YR8/3	普通	〃	〃
1188	〃	〃	〃	ナデ	縄文・赤色	細かい砂粒を含む	7.5YR5/2	5YR4/2	普通	〃	〃
1189	〃	〃	？把手	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR4/2	10YR6/2	普通	〃	〃
1190	〃	〃	深鉢	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR6/2	10YR6/2	普通	〃	〃
1191	〃	〃	浅鉢	ナデ	ナデ	細かい砂粒を含む	10YR8/2	10YR8/2	良好	〃	〃
1192	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	10YR6/3	10YR6/3	良好	〃	〃
1193	〃	〃	深鉢・底部	ナデ	ナデ	粗砂多い	5YR5/6	7.5YR6/6	普通	〃	〃
1194	〃	〃	注口	ナデ	ナデ	細かい砂粒を含む	5YR6/6	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1195	SK2	〃	深鉢	ナデ	縄文RL	粗砂多い	5YR6/4	7.5YR6/3	普通	〃	20
1196	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	細かい砂粒を含む	7.5YR4/2	7.5YR4/2	普通	〃	〃
1197	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	均質かつ密	7.5YR4/2	7.5YR4/2	普通	〃	〃
1198	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	細かい砂粒多く密	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	〃
1199	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	10YR7/3	10YR7/3	普通	57,58	8
1200	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR8/1	10YR8/1	普通	58	20
1201	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR7/4	7.5YR8/2	普通	〃	〃
1202	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR5/2	10YR5/2	普通	〃	〃
1203	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR8/3	10YR8/2	普通	〃	〃
1204	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒を含む	5YR7/6	5YR7/6	普通	〃	〃
1205	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	細かい砂粒を含む	7.5YR7/4	7.5YR4/1	良好	〃	〃
1206	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR8/4	10YR8/2	普通	〃	〃
1207	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	粗砂多い	5YR7/8	5YR6/6	普通	〃	〃
1208	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	大きい砂粒が混じる	10YR6/2	7.5YR4/1	普通	〃	〃
1209	〃	〃	浅鉢	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR7/3	7.5YR7/3	普通	〃	〃
1210	〃	〃	深鉢・胴部	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR7/4	7.5YR6/4	普通	〃	〃

縄文土器観察表(3)遺構

No.	位置	層位	器種	器面調整・地文・顔料		胎土	色調		焼成	挿図	図版
				内面	外面		内面	外面			
1211	SK2	覆土	深鉢・底部	ナデ		網代痕	粗砂多い	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	58	20
1212	SB13	炉東	深鉢	ナデ		縄巻縄文	粗砂多い	10YR7/3	10YR7/3	普通	59	18
1213	〃	〃	〃	ナデ		縄巻縄文	粗砂多い	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	〃
1214	〃	〃	〃	ナデ		縄巻縄文	粗砂多い	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	〃
1215	〃	e23	〃	ナデ		縄文	粗砂多い	10YR5/2	10YR5/2	普通	〃	〃
1216	〃	e28	〃	ナデ		縄文	大きい砂粒が混じる	7.5YR4/6	7.5YR4/6	普通	〃	〃
1217	〃	〃	〃	ナデ		縄文	大きい砂粒が混じる	5YR6/6	5YR6/6	普通	〃	〃
1218	〃	e18	〃	ナデ		縄文	細かい砂粒多い	10YR7/4	10YR6/4	普通	〃	〃
1219	〃	e9	〃	ナデ		縄文	粗砂多い	10YR8/4	10YR8/4	普通	〃	〃
1220	〃	e5	〃	ナデ		縄文	細かい砂粒多い	10YR7/3	10YR7/3	良好	〃	〃
1221	〃	覆土	〃	ナデ		ナデ・赤色	細かい砂粒多い	10YR3/2	7.5YR5/6	普通	〃	〃
1222	〃	〃	〃	ナデ		ナデ・赤色	細かい砂粒多い	7.5YR5/4	7.5YR5/4	普通	〃	〃
1223	〃	〃	〃	ナデ		縄文	細かい砂粒多い	7.5YR4/3	7.5YR4/3	普通	〃	〃
1224	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	〃
1225	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR6/2	10YR6/2	普通	〃	〃
1226	〃	〃	〃	ナデ		縄文RL	細かい砂粒多い	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	〃
1227	〃	e23	〃	ナデ		縄文RL	細かい砂粒多い	7.5YR4/6	7.5YR5/4	普通	〃	〃
1228	〃	覆土	深鉢・底部	ナデ		縄文	大きい砂粒が混じる	7.5YR4/4	7.5YR4/4	普通	〃	〃
1229	SB14	炉内	深鉢	ナデ		ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR8/3	10YR8/3	普通	60	21
1230	〃	炉内	〃	ナデ		ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR8/4	7.5YR6/3	普通	〃	〃
1231	〃	覆土	〃	ナデ		ナデ	細かい砂粒多い	10YR7/4	7.5YR4/2	普通	〃	〃
1232	〃	SK158	〃	ナデ		縄文	細かい砂粒多い	7.5YR7/2	7.5YR5/2	普通	〃	〃
1233	〃	覆土	〃	ナデ		ナデ・胴毛目	細かい砂粒多い	10YR4/1	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1234	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	粗砂多い	5YR5/6	5YR5/6	普通	〃	〃
1235	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/6	7.5YR5/3	普通	〃	〃
1236	〃	〃	〃	ナデ		縄文RL	細かい砂粒多い	7.5YR5/3	7.5YR5/4	普通	〃	〃
1237	〃	〃	〃	ナデ		縄文	均質かつ密	10YR6/3	10YR6/3	良好	〃	〃
1238	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	粗砂多い	10YR5/2	10YR5/2	普通	〃	〃
1239	〃	f17	〃	ナデ		縄文	大きい砂粒が混じる	10YR6/4	10YR5/3	普通	〃	〃
1240	〃	SK150	〃	ナデ		縄文	細かい砂粒多い	7.5YR6/4	7.5YR5/3	普通	〃	〃
1241	〃	SK158	〃	ナデ		撚糸文	細かい砂粒多い	7.5YR6/6	10YR3/2	普通	〃	〃
1242	〃	SK158	〃	ナデ		縄文	均質かつ密	7.5YR6/6	7.5YR6/6	良好	〃	〃
1243	〃	f9	〃	ナデ		縄文	粗砂多い	7.5YR5/4	7.5YR4/2	普通	〃	〃
1244	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	均質かつ密	10YR6/4	7.5YR4/2	良好	〃	〃
1245	〃	土器集中区	〃	ナデ		ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/6	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1246	〃	土器集中区	〃	ナデ		ナデ	粗砂多い	10YR7/3	10YR4/1	普通	〃	〃
1247	〃	SK145	〃	ナデ		ナデ	細かい砂粒多く密	10YR7/2	7.5YR5/2	良好	〃	〃
1248	〃	SK144	〃	ナデ		ナデ	均質かつ密	5YR6/6	7.5YR6/4	良好	〃	〃
1249	〃	土器集中区	〃	ナデ		ナデ	細かい砂粒多い	10YR7/3	7.5YR4/4	普通	〃	〃
1250	〃	覆土	〃	ナデ		ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/6	7.5YR4/2	普通	〃	〃
1251	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR7/2	7.5YR3/1	普通	〃	〃
1252	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR8/3	7.5YR3/1	普通	〃	〃
1253	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	細かい砂粒多く密	10YR8/3	10YR8/3	普通	〃	22
1254	〃	f10	〃	ナデ		ナデ・胴毛目	粗砂多い・雲母含む	7.5YR8/3	10YR5/4	普通	〃	〃
1255	〃	f10	〃	ナデ		ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	21
1256	〃	SK147	〃	ナデ		縄文RL	粗砂多い	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	22
1257	〃	土器集中区	〃	ナデ		ナデ	細かい砂粒多く密	7.5YR7/4	7.5YR6/4	普通	61	〃
1258	〃	土器集中区	〃	ナデ		ナデ	細かい砂粒多く密	7.5YR7/4	7.5YR6/4	普通	〃	〃
1259	〃	覆土	〃	ナデ		ナデ	粗砂多い	5YR5/6	5YR5/6	普通	〃	21
1260	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR7/4	10YR7/4	普通	〃	〃
1261	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR8/6	10YR8/6	普通	〃	22
1262	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	粗砂多い	10YR6/4	10YR6/4	普通	〃	〃
1263	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	粗砂多い	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	〃
1264	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/6	7.5YR7/6	良好	〃	〃
1265	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR7/4	10YR7/4	普通	〃	〃
1266	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1267	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR7/1	10YR3/1	普通	〃	〃
1268	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR8/3	10YR8/3	普通	〃	〃
1269	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	細かい砂粒多い	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	〃
1270	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	細かい砂粒多い	2.5YR6/6	5YR7/6	普通	〃	〃
1271	〃	〃	浅鉢	ナデ		ナデ	細かい砂粒多い	10YR8/2	10YR8/2	普通	〃	23
1272	〃	〃	深鉢	ナデ		ナデ	粗砂多い・長石を含む	7.5YR4/2	5YR6/6	普通	〃	22
1273	〃	〃	深鉢・底部	ナデ		網代痕	粗砂多い	7.5YR4/6	7.5YR4/6	普通	〃	23
1274	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	粗砂多い	5YR6/6	5YR6/6	普通	〃	〃
1275	〃	土器集中区	深鉢	ナデ		ナデ	粗砂多い	5YR6/8	7.5YR7/8	普通	〃	9
1276	〃	〃	深鉢・底部	ナデ		ナデ	粗砂多い・雲母含む	7.5YR7/4	5YR6/6	普通	62	23
1277	〃	〃	〃	ナデ		ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	〃
1278	〃	〃	深鉢	ナデ		縄文	粗砂多い	7.5YR3/1	7.5YR3/1	普通	〃	〃
1279	〃	〃	〃	ナデ		縄文	粗砂多い	7.5YR3/1	7.5YR3/1	普通	〃	〃
1280	〃	土器集中区	〃	ナデ		ナデ	粗砂多い	10YR8/4	10YR8/4	普通	〃	8

縄文土器観察表(4)遺構

No.	位置	層位	器種	調整・地文・顔料 内面	調整・地文・顔料 外面	胎土	色調 内面	色調 外面	焼成	挿図	図版
1281	SB15	床面直上	深鉢	ナデ	縄巻縄文	細かい砂粒多い	10YR3/4	10YR3/4	普通	63	8
1282	〃	〃	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多く密	7.5YR6/6	7.5YR6/6	良好	〃	〃
1283	〃	覆土	〃	ナデ	縄文	粗砂多い	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	23
1284	〃	g2	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多く密	7.5YR5/3	7.5YR5/3	良好	〃	〃
1285	〃	g24	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	〃
1286	〃	g24	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR5/2	5YR5/4	普通	〃	〃
1287	〃	g24	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR5/2	5YR5/6	普通	〃	〃
1288	〃	g24	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	10YR4/2	7.5YR7/6	良好	〃	〃
1289	〃	g24	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	10YR4/1	10YR7/4	良好	〃	〃
1290	〃	覆土	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	10YR8/3	10YR8/3	良好	〃	〃
1291	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	10YR6/4	10YR7/4	良好	〃	〃
1292	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/4	7.5YR8/4	普通	64	〃
1293	〃	〃	〃	ナデ	縄文	粗砂多い・雲母含む	7.5YR4/4	7.5YR5/6	普通	〃	〃
1294	〃	g7	〃	ナデ	縄巻縄文	粗砂多い	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	24
1295	〃	〃	〃	ナデ	縄巻縄文	粗砂多い	7.5YR5/4	10YR4/2	普通	〃	〃
1296	〃	〃	〃	ナデ	縄巻縄文	大きい砂粒が混じる	10YR6/2	10YR8/2	普通	〃	〃
1297	〃	〃	〃	ナデ	縄巻縄文	粗砂多い	10YR4/1	10YR6/3	普通	〃	〃
1298	〃	〃	〃	ナデ	縄巻縄文	粗砂多い・雲母含む	10YR3/3	7.5YR5/3	普通	〃	〃
1299	〃	〃	〃	ナデ	縄巻縄文	粗砂多い	10YR5/4	7.5YR6/6	普通	〃	〃
1300	〃	〃	〃	ナデ	縄巻縄文	細かい砂粒多い	10YR3/3	10YR1/3	良好	〃	〃
1301	〃	〃	〃	ナデ	縄巻縄文	均質かつ密	10YR5/3	10YR4/2	良好	〃	〃
1302	SB15	炉下	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	5YR5/4	5YR5/4	普通	65	〃
1303	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	〃
1304	〃	〃	深鉢・底部	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	5YR7/6	5YR7/6	普通	〃	〃
1305	〃	硬化面中	深鉢	ナデ	ナデ・赤色	細かい砂粒・長石を含む	10YR4/2	10YR4/2	良好	〃	〃
1306	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	粗砂を含む	7.5YR5/2	7.5YR5/2	普通	〃	25
1307	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	細かい砂粒・長石を含む	5YR5/3	7.YR7/6	普通	〃	〃
1308	〃	SK100	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR6/6	7.5YR6/6	普通	〃	〃
1309	〃	SK101	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR6/3	7.5YR6/3	普通	〃	〃
1310	〃	覆土1	〃	ナデ	縄文	粗砂多い・雲母含む	5YR6/6	7.5YR5/4	普通	〃	〃
1311	〃	SK90	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	5YR5/8	7.5YR4/3	普通	〃	〃
1312	〃	SK90	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR6/4	7.5YR6/4	普通	〃	〃
1313	〃	覆土1	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR6/4	7.5YR5/4	普通	〃	〃
1314	〃	覆土2	〃	ナデ	撚糸文	粗砂を含む	7.5YR6/4	7.5YR5/4	普通	〃	〃
1315	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒・長石を含む	5YR4/6	5YR3/2	普通	〃	〃
1316	〃	SK90	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	5YR7/4	5YR1/1	普通	〃	〃
1317	〃	覆土1	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	5YR7/6	7.5YR5/4	普通	〃	〃
1318	〃	覆土2	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒・長石を含む	5YR7/6	5YR7/6	普通	〃	〃
1319	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR6/3	10YR8/3	普通	〃	〃
1320	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR7/3	7.5YR8/3	普通	〃	〃
1321	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	5YR5/6	5YR5/6	普通	〃	〃
1322	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	5YR6/6	5YR7/6	普通	〃	〃
1323	〃	覆土1	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	7.5YR3/2	7.5YR3/1	良好	〃	〃
1324	〃	覆土2	〃	ナデ	縄文LR	粗砂多い・雲母含む	7.5YR3/2	7.5YR8/4	普通	〃	〃
1325	〃	覆土1	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR6/3	5YR6/6	普通	〃	〃
1326	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	粗砂多い	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1327	〃	SK90	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒・長石を含む	7.5YR4/3	7.5YR2/1	普通	〃	〃
1328	〃	SK94	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒・長石を含む	7.5YR5/4	7.5YR8/3	普通	〃	〃
1329	〃	覆土2	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR3/2	10YR6/3	普通	〃	〃
1330	〃	h48	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR8/3	7.5YR8/3	普通	〃	〃
1331	〃	覆土1	〃	ナデ	ナデ	やや密	10YR3/2	10YR3/1	良好	〃	〃
1332	〃	h7	〃	ナデ	縄文	粗砂を含む	7.5YR4/2	7.5/2	普通	〃	〃
1333	〃	覆土2	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR4/2	7.5YR4/2	普通	〃	〃
1334	〃	SK89	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	7.5YR5/3	7.5YR5/3	良好	〃	〃
1335	〃	SK101	〃	ナデ	ナデ	やや密・長石を含む	7.5YR2/3	7.5YR4/3	普通	〃	〃
1336	SB17	炉付近	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多く密	10YR8/3	10YR8/3	普通	66	9
1337	〃	堆積	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR3/1	7.5YR6/6	普通	〃	〃
1338	SB18	炉内	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/8	7.5YR7/8	普通	67	26
1339	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/8	7.5YR7/8	普通	〃	〃
1340	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/8	7.5YR7/8	普通	〃	〃
1341	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/8	7.5YR7/8	普通	〃	〃
1342	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/8	7.5YR7/8	普通	〃	〃
1343	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/8	7.5YR7/8	普通	〃	〃
1344	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/8	7.5YR7/8	普通	〃	〃
1345	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/8	7.5YR7/8	普通	〃	〃
1346	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/8	7.5YR7/8	普通	〃	〃
1347	SB17,18	k29	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	10YR6/2	10YR6/2	普通	〃	27
1348	〃	覆土	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	5YR4/6	5YR5/8	普通	〃	〃
1349	〃	k16	〃	ナデ	縄文	粗砂を含む	10YR3/1	10YR3/1	普通	〃	〃
1350	〃	覆土	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	5YR6/6	5YR6/6	普通	〃	〃

縄文土器観察表(5)遺構

No.	位置	層位	器種	調整・地文・顔料 内面	調整・地文・顔料 外面	胎土	色調 内面	色調 外面	焼成	挿図	図版
1351	SB17,18	覆土	深鉢	ナデ	ナデ・横走沈	細かい砂粒多い	7.5YR7/3	7.5YR7/3	普通	67	27
1352	SB17	k31	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	26
1353	SB17,18	覆土	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR6/4	10YR7/2	普通	〃	27
1354	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR7/4	10YR7/4	普通	〃	〃
1355	〃	〃	〃	ナデ	ナデ・赤色	細かい砂粒多い	10YR7/4	10YR7/4	普通	〃	〃
1356	〃	k23	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR5/2	10YR6/2	普通	〃	〃
1357	〃	覆土	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR6/4	7.5YR6/4	普通	〃	〃
1358	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	7.5YR5/3	7.5YR5/3	普通	68	〃
1359	〃	k29	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	10YR7/4	10YR7/4	普通	〃	〃
1360	〃	k2	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR6/4	10YR7/2	普通	〃	〃
1361	〃	覆土	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR5/4	7.5YR5/4	普通	〃	〃
1362	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR5/6	7.5YR4/4	普通	〃	〃
1363	〃	〃	〃	ナデ	縄巻縄文	粗砂多い	10YR8/3	10YR8/3	普通	〃	〃
1364	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR7/6	7.5YR8/3	普通	〃	〃
1365	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	細かい砂粒多い	10YR5/3	10YR4/3	普通	〃	〃
1366	〃	k16	〃	ナデ	撚糸文	細かい砂粒多い	10YR4/3	10YR4/3	普通	〃	〃
1367	〃	覆土	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR4/3	10YR5/3	普通	〃	〃
1368	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	7.5YR5/4	7.5YR5/4	良好	〃	〃
1369	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	〃
1370	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	5YR6/6	5YR6/6	普通	〃	〃
1371	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	〃
1372	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	5YR5/6	5YR5/6	普通	〃	28
1373	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	細かい砂粒多い	2.5YR6/8	2.5YR6/6	普通	〃	27
1374	〃	〃	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	2.5YR6/6	2.5YR6/6	普通	〃	〃
1375	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	〃
1376	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	5YR5/8	5YR5/8	普通	〃	〃
1377	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	5YR6/6	5YR6/8	普通	〃	〃
1378	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/3	7.5YR7/3	普通	〃	〃
1379	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	10
1380	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	69	29
1381	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	28
1382	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	10YR4/3	7.5YR5/4	良好	〃	〃
1383	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	〃
1384	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	29
1385	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	28
1386	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	均質かつ密	10YR6/2	10YR6/2	良好	〃	29
1387	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	細かい砂粒多く密	10YR6/2	7.5YR3/1	普通	〃	〃
1388	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR7/4	10YR7/4	普通	〃	〃
1389	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR7/4	10YR7/4	普通	〃	28
1390	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	5YR6/6	5YR6/6	普通	70	〃
1391	〃	k1	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR6/2	10YR6/2	普通	69	〃
1392	〃	覆土	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR3/1	10YR3/1	普通	70	〃
1393	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	29
1394	SB18	炉内	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	28
1395	SB17,18	覆土	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	〃
1396	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR8/3	10YR8/3	普通	〃	〃
1397	〃	SK199	〃	ナデ	縄文	大きい砂粒が混じる	10YR7/6	10YR7/6	普通	69	9
1398	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR7/4	10YR7/4	普通	70	〃
1399	〃	k25	〃	ナデ	条線	細かい砂粒多く密	10YR6/2	10YR6/2	普通	71	〃
1400	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	10YR4/6	10YR4/6	普通	〃	〃
1401	〃	〃	〃	ナデ	縄文	大きい砂粒が混じる	10YR7/4	10YR7/4	普通	〃	29
1402	SX1	覆土	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	10YR4/1	7.5YR5/4	普通	72	30
1403	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR6/4	7.5YR6/4	良好	〃	〃
1404	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR8/3	10YR4/2	普通	〃	〃
1405	〃	〃	〃	ナデ	縄文	粗砂多い	10YR8/2	7.5YR5/2	普通	〃	〃
1406	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	粗砂多い	10YR5/2	10YR8/4	普通	〃	〃
1407	〃	〃	〃	ナデ	縄文・赤色	粗砂多い	7.5YR6/4	7.5YR5/3	普通	〃	〃
1408	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	細かい砂粒多い	10YR7/2	10YR6/2	普通	〃	〃
1409	〃	〃	〃	ナデ	縄文	大きい砂粒が混じる	7.5YR6/4	7.5YR3/1	普通	〃	〃
1410	〃	〃	〃	ナデ	縄文	粗砂多い	10YR4/1	10YR5/2	普通	〃	〃
1411	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	細かい砂粒多い	10YR6/6	7.5YR6/6	普通	〃	〃
1412	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	〃
1413	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR7/6	10YR7/6	普通	〃	〃
1414	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	10YR8/4	10YR4/1	普通	〃	〃
1415	〃	〃	浅鉢	ナデ	磨き	細かい砂粒多い	10YR5/8	10YR3/4	普通	〃	〃
1416	〃	〃	深鉢	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR8/3	10YR8/3	普通	〃	〃
1417	〃	〃	深鉢・底部	ナデ	縄文	均質かつ密	10YR8/3	10YR8/3	良好	〃	〃
1418	SK200	〃	深鉢	ナデ	ナデ・赤色	細かい砂粒多く密	10YR4/3	10YR4/3	良好	〃	〃
1419	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	細かい砂粒多い	10YR7/6	10YR7/6	普通	〃	〃
1420	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	10YR7/4	10YR4/3	普通	〃	〃

縄文土器観察表(6)遺構

No.	位置	層位	器種	器面調整・地文・顔料		胎土	色調		焼成	挿図	図版
				内面	外面		内面	外面			
1421	SK200	覆土	深鉢	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR6/6	5YR4/6	普通	72	30
1422	SK207	〃	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	5YR5/6	5YR4/6	普通	〃	31
1423	〃	〃	〃	ナデ	撚糸文	粗砂多い・雲母含む	5YR2/2	2.5YR5/8	普通	〃	〃
1424	〃	〃	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	7.5YR4/3	7.5YR4/3	普通	〃	〃
1425	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	10YR3/4	10YR3/4	普通	〃	〃
1426	〃	〃	〃	ナデ	縄文	粗砂多い・雲母含む	10YR3/4	10YR3/4	普通	〃	〃
1427	SK3	〃	〃	ナデ	縄文RL	大きい砂粒が混じる	5YR5/4	5YR5/4	普通	〃	〃
1428	〃	〃	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	7.5YR3/2	7.5YR3/2	普通	〃	〃
1429	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	大きい砂粒が混じる	7.5YR8/3	7.5YR8/3	普通	〃	〃
1430	〃	〃	〃	ナデ	縄文	大きい砂粒が混じる	7.5YR8/4	7.5YR8/4	普通	〃	〃
1431	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR6/2	7.5YR6/2	普通	〃	〃
1432	〃	〃	浅鉢	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR8/6	7.5YR8/6	良好	〃	〃
1433	〃	〃	深鉢	ナデ	縄文RL	大きい砂粒が混じる	7.5YR5/4	7.5YR5/4	普通	73	〃
1434	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	5YR4/3	5YR4/3	普通	〃	〃
1435	〃	〃	〃	ナデ	縄文	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	〃
1436	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	粗砂を含む	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1437	SK50	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1438	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR6/2	10YR6/2	普通	〃	〃
1439	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1440	SK51	〃	〃	ナデ	縄文LR	大きい砂粒が混じる	5YR7/6	5YR7/6	普通	74	〃
1441	〃	〃	〃	ナデ	縄文・赤色	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	〃
1442	〃	〃	〃	ナデ	縄文RL	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	〃
1443	〃	〃	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	7.5YR4/2	7.5YR4/2	普通	〃	〃
1444	〃	〃	〃	ナデ	縄文LR	細かい砂粒多い	7.5YR7/3	7.5YR7/3	普通	〃	〃
1445	SK156	〃	〃	ナデ	縄文LR	粗砂を含む	7.5YR5/4	7.5YR5/4	普通	〃	〃
1446	〃	〃	〃	ナデ	縄文	粗砂を含む	7.5YR5/3	7.5YR5/3	普通	〃	〃
1447	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR8/3	7.5YR8/3	普通	〃	〃
1448	〃	〃	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	5YR5/6	5YR5/6	普通	〃	〃
1449	〃	〃	〃	ナデ	縄文	粗砂を含む	5YR3/2	5YR3/2	普通	〃	〃
1450	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1451	SK130	〃	〃	ナデ	縄文RL	大きい砂粒が混じる	10YR4/1	10YR4/1	普通	〃	32
1452	SK52	〃	〃	ナデ	縄文RL	細かい砂粒多い	10YR8/3	10YR8/3	普通	〃	〃
1453	P150	〃	〃	ナデ	縄文RL	細かい砂粒・長石を含む	2.5YR5/8	2.5YR5/8	普通	〃	〃
1454	SK130	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	10YR8/4	7.5YR5/2	普通	〃	〃
1455	SK52	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR7/3	10YR7/3	良好	〃	〃
1456	P105	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒・長石を含む	2.5YR8/1	10YR8/2	普通	〃	〃
1457	SK52	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR3/3	10YR7/4	良好	〃	〃
1458	SK37	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒・石英を含む	7.5YR5/3	7.5YR7/6	普通	〃	〃
1459	SK52	〃	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	7.5YR7/4	7.5YR7/4	良好	〃	〃
1460	SK52	〃	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	10YR6/2	10YR6/2	良好	〃	〃
1461	P189	〃	〃	ナデ	縄文RL	細かい砂粒多く密	10YR6/2	10YR6/2	良好	〃	〃
1462	SK57	〃	〃	ナデ	縄文	粗砂を含む	10YR5/2	10YR5/2	普通	〃	〃
1463	P150	〃	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	〃
1464	P59	〃	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	〃
1465	SK128	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	5YR7/6	5YR7/6	良好	〃	〃
1466	SK52	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	5YR4/2	5YR4/2	普通	75	〃
1467	P46	〃	〃	ナデ	縄文LR	粗砂多い・雲母含む	7.5YR4/1	7.5YR5/2	普通	〃	〃
1468	P195	〃	〃	ナデ	撚糸文	均質かつ密	7.5YR4/1	7.5YR4/1	普通	〃	〃
1469	P150	〃	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	10YR7/2	10YR5/2	普通	〃	〃
1470	P166	〃	〃	ナデ	縄文LR	細かい砂粒多い	10YR5/2	10YR5/2	普通	〃	〃
1471	SK42	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	5YR7/6	7.5YR8/6	普通	〃	〃
1472	〃	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	10YR4/1	10YR4/1	普通	〃	〃
1473	SK228	〃	〃	ナデ	条痕	粗砂多い・雲母含む	5YR5/6	5YR5/6	普通	〃	〃
1474	SK172	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR8/3	10YR6/2	普通	〃	〃
1475	SK228	〃	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR7/2	7.5YR5/6	普通	〃	〃
1476	SK66	〃	〃	ナデ	縄文	均質かつ密	10YR4/1	10YR4/1	普通	〃	〃
1477	SK21	〃	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	7.5YR8/4	7.5YR8/4	普通	〃	〃
1478	SK21	〃	浅鉢	ナデ	縄文	大きい砂粒が混じる	7.5YR3/1	7.5YR3/1	普通	〃	〃
1479	SK21	〃	深鉢	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	7.5YR5/2	7.5YR5/2	良好	〃	〃
1480	SK46	〃	〃	ナデ	縄文	粗砂多い・雲母含む	10YR5/2	10YR5/2	普通	〃	〃
1481	P160	〃	〃	ナデ	縄文	粗砂を含む	7.5YR6/3	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1482	SZ04	1483内部	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	10YR8/3	10YR8/3	普通	73	10
1483	〃	埋設土器	〃	巻貝条痕	巻貝条痕	細かい砂粒多く密	10YR2/2	10YR2/2	普通	〃	9
1484	SZ03	埋設土器	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	5YR5/8	5YR5/8	良好	74	10
1485	〃	〃	〃	ナデ	縄巻縄文	細かい砂粒多い	7.5YR7/4	7.5YR8/5	良好	〃	29
1486	SZ05	SZ5②上	〃	ナデ	縄巻縄文	粗砂を含む	10YR8/3	10YR7/5	普通	75	〃
1487	〃	埋設土器	〃	ナデ	撚糸文	細かい砂粒多い	7.5YR5/8	7.5YR5/8	普通	〃	10
1488TM	M4	Ⅱ	〃	ナデ	押型文	細かい砂粒多い	2.5YR4/4	2.5YR4/6	普通	76	33
1489TM	M4	Ⅱ	〃	ナデ	押型文	粗砂を含む	5YR5/4	5YR5/4	普通	〃	〃
1490TM	M4	Ⅱ	〃	ナデ	押型文	粗砂を含む	7.5YR5/3	7.5YR5/3	普通	〃	〃

縄文土器観察表(7)遺構外

No.	位置	層位	器種	器面調整・地文・顔料		胎土	色調		焼成	挿図	図版
				内面	外面		内面	外面			
1491TM	H10	Ⅲ	深鉢	ナデ	押型文	粗砂多い・雲母含む	5YR3/2	5YR6/6	普通	76	33
1492TM	N6	Ⅱ	〃	ナデ	押型文	粗砂を含む	10YR6/4	10YR5/4	普通	〃	〃
1493TM	H6	Ⅲ	〃	ナデ	押型文	細かい砂粒多い	10YR3/3	10YR6/6	普通	〃	〃
1494TM	I 4	アゼ	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	5YR3/4	7.5YR3/4	普通	〃	〃
1495	C15	Ⅱb	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR5/4	7.5YR5/4	普通	〃	〃
1496	(SB16)	?	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	2.5YR5/4	2.5YR5/4	普通	〃	〃
1497TM	E10	Ⅲ	浅鉢	ナデ	磨き	細かい砂粒多い	10YR6/3	10YR6/3	良好	〃	〃
1498TM	G7	Ⅱ	〃	ナデ	磨き	均質かつ密	10YR4/1	10YR4/2	良好	〃	〃
1499TM	TM.SK43	覆土	〃	ナデ	磨き	やや密	5YR6/6	5YR5/4	良好	〃	〃
1500TM	H12	Ⅱ	〃	ナデ	磨き・赤色	細かい砂粒多い	5YR6/6	5YR5/4	良好	〃	〃
1501TM	TM.SK42	覆土	〃	ナデ	磨き	細かい砂粒多い	5YR4/3	5YR4/3	良好	〃	〃
1502TM	TM.SK42	〃	〃	ナデ	磨き	細かい砂粒多い	5YR4/3	5YR4/3	良好	〃	〃
1503	C10	Ⅱb	〃	ナデ	磨き	やや密	7.5YR4/3	7.5YR4/3	良好	〃	〃
1504TM	E7	Ⅱ	〃	ナデ	磨き	細かい砂粒多い	5YR4/3	5YR4/3	良好	〃	〃
1505	E11	Ⅲb	深鉢	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	10YR6/3	10YR6/3	普通	77	〃
1506	B11	Ⅲb	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	〃
1507	B8	Ⅲb	〃	ナデ	縄文RL	粗砂を含む	7.5YR6/6	10YR6/4	普通	〃	〃
1508	D10	Ⅱb	〃	ナデ	縄文RL	粗砂を含む	7.5YR6/6	10YR6/4	普通	〃	〃
1509TM	M12	アゼ	〃	ナデ	縄文RL	細かい砂粒・長石を含む	7.5YR3/2	7.5YR5/6	普通	〃	〃
1510	D13	Ⅲb	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	10YR4/3	10YR4/3	普通	〃	〃
1511	E11	Ⅲb	〃	ナデ	縄文	粗砂多い	2.5YR4/1	10YR7/3	普通	〃	〃
1512TM	E10	Ⅲ	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒・長石を含む	5YR3/3	5YR4/6	普通	〃	34
1513TM	K1	Ⅲ	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	7.5YR6/6	7.5YR5/4	普通	〃	33
1514	A3	Ⅲb	〃	ナデ	縄文	やや密	10YR6/3	10YR6/3	良好	〃	34
1515	B10	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	7.5YR5/2	7.5YR5/2	良好	〃	〃
1516	C10	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR5/2	7.5YR5/2	良好	〃	〃
1517	B9	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒・長石を含む	7.5YR3/2	7.5YR6/3	普通	〃	〃
1518TM	E10	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒・長石を含む	5YR7/6	10YR8/4	普通	〃	〃
1519TM	G13	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒・長石を含む	5YR7/6	10YR8/4	普通	〃	〃
1520TM	G13	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒・長石を含む	5YR7/6	10YR8/4	普通	〃	〃
1521	D9	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	5YR6/6	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1522	Z4	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR8/3	7.5YR8/3	普通	〃	〃
1523	B9	Ⅲb	〃	ナデ	縄文RL	粗砂を含む	7.5YR6/4	7.5YR6/4	良好	〃	〃
1524TM	E7	トレンチ	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	2.5YR2/2	2.5YR5/6	普通	78	〃
1525TM	E10	トレンチ	〃	ナデ	ナデ・赤色	チャート・長石を含む	7.5YR7/4	10YR7/3	普通	〃	〃
1526	D12	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	10YR6/4	10YR3/3	普通	〃	〃
1527	E11	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR8/6	7.5YR8/6	普通	〃	〃
1528	D11	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ・赤色	細かい砂粒多い	7.5YR8/6	7.5YR8/6	普通	〃	〃
1529TM	E10	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	7.5YR4/6	7.5YR4/6	良好	〃	〃
1530	D12	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR6/4	10YR4/4	普通	〃	〃
1531	D13	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	5YR6/6	5YR6/6	普通	〃	10
1532	D12	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ・赤色	やや密	10YR6/2	10YR6/2	普通	〃	34
1533TM	E10	トレンチ	〃	ナデ	ナデ	チャート・長石を含む	7.5YR6/4	7.5YR7/6	普通	〃	35
1534TM	F5	Ⅱ	〃	ナデ	ナデ	チャート・長石を含む	10YR3/1	10YR6/3	普通	〃	〃
1535	C11	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR8/2	10YR8/2	普通	〃	34
1536	B7	Ⅱb	〃	ナデ	ナデ・赤色	均質かつ密	10YR5/6	10YR5/6	良好	〃	〃
1537	D11	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ・赤色	細かい砂粒多い	5YR6/6	5YR6/6	普通	〃	〃
1538TM	E7	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ・赤色	チャート・長石を含む	7.5YR7/3	7.5YR7/3	普通	〃	35
1539	B6	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ・赤色	細かい砂粒多い	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	〃
1540	C11	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ・赤色	細かい砂粒多い	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	34
1541TM	E10	トレンチ	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR8/3	7.5YR7/3	普通	〃	35
1542	z9	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ・赤色	細かい砂粒多い	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	〃
1543	D10	Ⅱb	〃	ナデ	ナデ・赤色	大きい砂粒が混じる	10YR7/6	10YR7/6	普通	〃	〃
1544	A6	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ・赤色	大きい砂粒が混じる	5YR7/6	10YR7/3	普通	〃	〃
1545	D11	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	7.5YR6/6	5YR6/6	普通	〃	〃
1546	C11	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR7/4	10YR7/3	普通	〃	〃
1547	D9	Ⅱb	〃	ナデ	ナデ・赤色	均質かつ密	7.5YR6/6	2.5YR5/8	良好	〃	〃
1548	E12	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR7/3	7.5YR7/3	普通	〃	〃
1549	B10	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ・赤色	細かい砂粒多い	10YR3/3	10YR5/4	良好	〃	〃
1550	B5	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ・赤色	チャート・長石を含む	10YR8/2	10YR7/1	普通	79	〃
1551	z4	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ・赤色	細かい砂粒多い	7.5YR7/6	5YR6/8	普通	〃	〃
1552	z4	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ・赤色	細かい砂粒多い	7.5YR7/6	7.5YR7/6	良好	〃	〃
1553	B9	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	10YR6/2	10YR7/4	普通	〃	〃
1554	D10	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	10YR7/4	10YR7/4	良好	〃	〃
1555	C11	Ⅱb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	〃
1556	E13	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	10YR5/2	5YR7/6	普通	〃	〃
1557	C9	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ・赤色	細かい砂粒・長石を含む	10YR2/1	10YR2/1	普通	〃	〃
1558	E13	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR4/1	5YR7/6	普通	〃	〃
1559	B5	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR3/1	10YR3/1	普通	80	〃
1560	D12	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR5/4	7.5YR5/4	普通	〃	〃

縄文土器観察表(8)遺構・遺構外

1496は、発掘中断後SB16の表面で確認され、混入の可能性が高く、遺構外で報告する。

No.	位置	層位	器種	器面調整・地文・顔料		胎土	色調		焼成	挿図	図版
				内面	外面		内面	外面			
1561TM	E8	Ⅲ	深鉢	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR5/4	7.5YR5/4	普通	80	35
1562TM	E8	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	10YR6/4	10YR6/4	普通	〃	〃
1563TM	E7	トレンチ	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	10YR6/4	10YR6/4	普通	〃	〃
1564	A7	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR7/4	7.5YR5/4	普通	〃	〃
1565TM	K8	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR5/3	7.5YR5/3	普通	〃	〃
1566	E10	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR6/4	7.5YR6/6	普通	〃	〃
1567	D9	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	10YR6/2	10YR6/2	普通	〃	36
1568	G7	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒・長石を含む	7.5YR6/6	10YR5/4	普通	〃	35
1569	B10	Ⅱb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR6/4	7.5YR6/4	普通	〃	36
1570	D12	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR6/6	7.5YR6/6	普通	〃	35
1571	B9	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR6/6	7.5YR6/6	普通	〃	〃
1572	A6	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	10YR6/4	10YR6/4	良好	〃	36
1573	A8	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	10YR6/4	10YR6/4	良好	〃	〃
1574	B6	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR6/2	10YR6/2	普通	〃	〃
1575TM	G11	アゼ	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	7.5YR4/4	7.5YR4/4	良好	〃	〃
1576TM	I 13	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR4/6	7.5YR4/6	良好	〃	〃
1577TM	H7	Ⅱ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR4/6	7.5YR4/6	普通	〃	〃
1578TM	F7	アゼ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR6/4	10YR5/3	普通	〃	〃
1579TM	G11	アゼ	〃	ナデ	ナデ・赤色	粗砂を含む	7.5YR6/6	7.5YR6/6	普通	〃	〃
1580	D7	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	チャート・長石を含む	5YR7/8	5YR7/6	普通	〃	〃
1581	B8	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ・赤色	均質かつ密	7.5YR8/4	7.5YR8/4	良好	〃	〃
1582TM	L14	トレンチ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR5/6	7.5YR5/6	普通	〃	〃
1583	C7	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	10YR7/3	10YR7/3	良好	〃	〃
1584TM	E10	トレンチ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR4/4	7.5YR4/4	良好	〃	〃
1585	E11	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR4/4	7.5YR4/4	良好	〃	〃
1586TM	E7	トレンチ	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	7.5YR4/3	7.5YR4/3	良好	〃	〃
1587	B6	Ⅱb	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	10YR7/3	10YR7/3	良好	〃	〃
1588	C10	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	5YR7/6	5YR7/6	普通	〃	〃
1589	z5	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	〃
1590TM	H10	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	7.5YR5/4	7.5YR5/4	良好	81	〃
1591TM	SB7,G10	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	7.5YR5/4	7.5YR5/4	良好	〃	〃
1592TM	M5	Ⅱ	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR5/4	7.5YR5/4	普通	〃	〃
1593TM	N5	Ⅱ	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	7.5YR7/2	7.5YR7/2	良好	〃	〃
1594	A6	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	5YR6/6	5YR6/6	普通	〃	〃
1595TM	G10	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR5/4	7.5YR4/4	普通	〃	〃
1596TM	F10	Ⅱ	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR5/4	7.5YR4/4	普通	〃	〃
1597	E11	Ⅲb	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多く密	7.5YR5/3	7.5YR5/3	普通	〃	〃
1598	E11	Ⅲb	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多く密	7.5YR5/3	7.5YR5/3	普通	〃	〃
1599	E11	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR5/3	7.5YR5/3	普通	〃	37
1600	D11	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR5/3	7.5YR5/3	普通	〃	〃
1601	D11	Ⅲa	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	7.5YR4/2	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1602	D11	Ⅲa	〃	ナデ	貝殻圧痕	粗砂を含む	7.5YR6/4	7.5YR5/2	普通	〃	〃
1603	D11	Ⅲa	〃	ナデ	貝殻圧痕	細かい砂粒多い	7.5YR4/2	7.5YR5/4	普通	〃	〃
1604	A9	Ⅲa	〃	ナデ	縄文	均質かつ密	7.5YR7/6	7.5YR7/6	良好	〃	〃
1605	z3	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	10YR7/6	10YR7/6	普通	〃	〃
1606	C11	Ⅲb	〃	ナデ	縄巻縄文	細かい砂粒多い	10YR5/2	10YR5/2	普通	82	〃
1607	D10	Ⅲb	〃	ナデ	縄巻縄文	粗砂多い	10YR5/3	10YR4/1	普通	〃	10
1608TM	H10	アゼ	〃	ナデ	縄巻縄文	チャート・長石を含む	10YR5/4	10YR2/1	普通	〃	37
1609	D10	Ⅲb	〃	ナデ	縄巻縄文	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	〃
1610	C10	Ⅲb	〃	ナデ	縄巻縄文	細かい砂粒多く密	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	〃
1611	C14	Ⅲb	〃	ナデ	縄巻縄文	粗砂多い・雲母含む	7.5YR5/2	7.5YR4/2	普通	〃	〃
1612	C11	Ⅲb	〃	ナデ	撚糸文	粗砂多い	10YR5/3	10YR5/3	普通	〃	〃
1613	C9	Ⅲb	〃	ナデ	撚糸文	粗砂を含む	10YR6/4	10YR7/3	普通	〃	38
1614	D10	Ⅱb	〃	ナデ	撚糸文	粗砂多い	10YR6/1	10YR8/4	普通	〃	〃
1615	B7	Ⅲb	〃	ナデ	撚糸文	粗砂多い	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	37
1616	C11	Ⅲa	〃	ナデ	撚糸文	大きい砂粒が混じる	5YR6/6	7.5YR5/4	普通	〃	38
1617	C11	Ⅲb	〃	ナデ	撚糸文	粗砂多い	10YR8/4	10YR6/3	普通	〃	〃
1618	z5	Ⅲb	〃	ナデ	撚糸文	大きい砂粒が混じる	10YR8/5	2.5YR4/1	普通	〃	37
1619	C10	Ⅲb	〃	ナデ	撚糸文	粗砂多い	10YR4/1	10YR4/1	普通	〃	38
1620	E13	Ⅲb	〃	ナデ	撚糸文	大きい砂粒が混じる	10YR7/4	10YR7/4	普通	〃	〃
1621	E11	Ⅲa	〃	ナデ	撚糸文	細かい砂粒多い	10YR7/4	10YR8/4	普通	83	〃
1622TM	K1	Ⅲ	〃	ナデ	撚糸文	チャート・長石を含む	7.5YR5/4	7.5YR4/2	普通	〃	〃
1623TM	G13	Ⅱ	〃	ナデ	撚糸文	チャート・長石を含む	5YR5/4	5YR5/4	普通	〃	〃
1624TM	M5	Ⅱ	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	7.5YR3/2	7.5YR3/2	良好	〃	〃
1625	A7	Ⅲb	〃	ナデ	縄文	均質かつ密	10YR7/3	10YR5/1	良好	〃	〃
1626	A7	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	10YR8/3	10YR8/3	良好	〃	〃
1627TM	H10	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR5/8	7.5YR5/8	普通	〃	〃
1628	z5	Ⅲb	〃	ナデ	撚糸文	大きい砂粒が混じる	10YR5/2	10YR7/3	普通	〃	〃
1629TM	F9	トレンチ	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR3/2	7.5YR3/2	普通	〃	〃
1630	z5	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	7.5YR6/4	7.5YR7/4	普通	〃	〃

縄文土器観察表(9)遺構外

No.	位置	層位	器種	器面調整・地文・顔料		胎土	色調		焼成	挿図	図版
				内面	外面		内面	外面			
1631	z4	Ⅲb	深鉢	ナデ	撚糸文	細かい砂粒多い	7.5YR4/6	7.5YR6/8	普通	83	38
1632	z5	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	10YR5/3	10YR6/3	普通	〃	〃
1633TM	K1	Ⅱ	〃	ナデ	縄文LR	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1634TM	F9	トレンチ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR3/3	7.5YR3/3	良好	〃	〃
1635TM	J13	Ⅲ	〃	ナデ	縄文	大きい砂粒が混じる	7.5YR5/6	7.5YR5/6	普通	〃	〃
1636TM	K1	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	7.5YR6/8	7.5YR7/6	良好	84	39
1637TM	K1	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	7.5YR6/8	7.5YR7/6	良好	〃	〃
1638	B9	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	〃
1639	z6	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	5YR8/3	5YR8/3	普通	〃	〃
1640	Bトレ	Ⅱb	〃	ナデ	縄文RL	大きい砂粒が混じる	5YR6/6	5YR6/6	普通	85	〃
1641TM	N5	Ⅱ	〃	ナデ	縄文	均質かつ密	7.5YR5/4	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1642TM	K11	Ⅲ	〃	ナデ	縄文RL	粗砂多い	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1643	z5	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1644	z9	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR6/4	7.5YR6/4	普通	〃	〃
1645TM	M5	Ⅱ	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR5/4	7.5YR5/4	普通	〃	〃
1646	z6	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR7/6	7.5YR4/6	普通	〃	〃
1647	B9	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR6/4	7.5YR6/4	普通	〃	〃
1648	z6	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	40
1649	G9	アゼ	〃	ナデ	縄文LR	細かい砂粒多い	7.5YR4/3	7.5YR4/3	普通	〃	〃
1650	z6	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	5YR6/6	5YR7/6	普通	〃	39
1651TM	B2	Ⅱ	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	40
1652	A5	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	2.5YR8/2	10YR7/3	普通	〃	〃
1653	A9	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR8/4	10YR8/4	普通	〃	〃
1654	z5	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR4/1	10YR4/1	普通	〃	〃
1655TM	N6	Ⅱ	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1656TM	M5	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR5/4	7.5YR5/4	普通	〃	〃
1657TM	D2	トレンチ	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR5/4	7.5YR5/4	普通	〃	〃
1658TM	E11	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR4/3	7.5YR4/3	普通	〃	〃
1659	z5	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR3/2	7.5YR6/6	普通	86	〃
1660TM	D2	トレンチ	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR6/6	10YR6/4	普通	〃	〃
1661TM	F9	トレンチ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR6/4	10YR3/1	普通	〃	41
1662TM	K11	アゼ	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR5/6	10YR5/6	普通	〃	40
1663	A8	Ⅲa	〃	ナデ	縄文LR	粗砂多い	7.5YR6/6	5YR7/6	普通	〃	41
1664	z6	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	7.5YR7/6	7.5YR7/6	良好	〃	〃
1665TM	J12	アゼ	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR5/4	10YR6/3	普通	〃	〃
1666TM	D8	Ⅲ	〃	ナデ	縄文RL	粗砂多い	7.5YR5/8	7.5YR5/8	普通	〃	40
1667TM	D8	Ⅲ	〃	ナデ	縄文RL	粗砂多い	7.5YR5/8	7.5YR5/8	普通	〃	〃
1668	z6	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR6/2	10YR6/2	普通	〃	〃
1669	A6	Ⅲa	〃	ナデ	縄文LR	チャート・長石を含む	10YR7/3	10YR8/2	普通	〃	41
1670	B8	Ⅲa	〃	ナデ	縄文LR	細かい砂粒多く密	10YR5/3	10YR5/3	良好	〃	〃
1671	z5	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	10YR8/3	10YR8/3	良好	〃	〃
1672	D10	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR5/2	10YR5/2	良好	〃	〃
1673	D10	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	10YR7/2	10YR7/2	良好	87	〃
1674TM	B2	Ⅱ	〃	ナデ	ナデ	チャート・長石を含む	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	〃
1675TM	E7	Ⅱ	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR7/4	10YR5/3	普通	〃	42
1676	A7	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	10YR7/2	10YR7/2	普通	〃	〃
1677	z5	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	石英・長石を含む	7.5YR6/4	7.5YR6/4	普通	〃	〃
1678TM	L10	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	石英・長石を含む	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1679	A8	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	10YR7/3	10YR7/3	良好	〃	〃
1680TM	K1	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	41
1681	A8	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	10YR7/4	10YR7/4	普通	〃	42
1682	z6	Ⅲb	〃	ナデ	縄文	粗砂を含む	10YR7/2	7.5YR4/2	普通	〃	10
1683	A7	Ⅲb	〃	ナデ	縄文LR	大きい砂粒が混じる	5YR7/6	5YR7/6	普通	〃	42
1684	z6	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	5YR6/6	2.5YR6/8	普通	〃	〃
1685	B5	Ⅲb	〃	ナデ	縄文RL	大きい砂粒が混じる	10YR7/2	10YR7/2	普通	88	41
1686	E11	(SZ05上部)	〃	ナデ	縄文RL	粗砂を含む	10YR6/3	5YR5/4	普通	〃	10
1687	A9	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	7.5YR4/1	7.5YR4/1	良好	〃	43
1688	A7	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒・長石を含む	7.5YR6/6	7.5YR5/3	普通	〃	〃
1689	D10	Ⅱb	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	〃
1690	D10	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR7/3	10YR7/3	普通	89	〃
1691	A7	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	10YR6/2	10YR4/1	普通	〃	〃
1692	A7	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	〃
1693	C7	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR6/7	7.5YR6/6	普通	〃	〃
1694	C7	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	〃
1695TM	G10	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	チャート・長石を含む	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	〃
1696	A7	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	44
1697	z5	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	43
1698TM	E10	トレンチ	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	7.5YR4/1	7.5YR4/1	普通	〃	44
1699	z6	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	43
1700	B5	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	7.5YR4/3	7.5YR4/3	普通	〃	44

縄文土器観察表(10)遺構外

No.	位置	層位	器種	器面調整・地文・顔料		胎土	色調		焼成	挿図	図版
				内面	外面		内面	外面			
1701	B8	Ⅲb	深鉢	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	10YR7/4	10YR7/4	良好	89	44
1702	D13	Ⅱb	〃	ナデ	ナデ	均質かつ密	7.5YR6/4	10YR6/3	良好	〃	〃
1703TM	N5	Ⅱ	壺	ナデ	ナデ・赤色	細かい砂粒多く密	10YR5/3	10YR5/2	良好	〃	〃
1704	A8	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR7/4	10YR6/3	普通	〃	〃
1705	z6	Ⅲa	深鉢	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR8/6	7.5YR8/4	普通	〃	〃
1706	B9	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	チャート・長石を含む	5YR4/3	5YR6/6	普通	〃	〃
1707	z5	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR7/4	10YR6/4	普通	90	〃
1708	D10	Ⅲb	深鉢・底部	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR8/4	7.5YR8/4	普通	〃	10
1709	z5	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1710	A6	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	7.5YR8/6	7.5YR8/6	普通	〃	44
1711	z4	Ⅲb	〃	ナデ	撚糸文	細かい砂粒多い	10YR7/4	10YR7/4	普通	〃	10
1712	D10	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR8/4	7.5YR8/4	普通	〃	〃
1713	D10	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR8/6	7.5YR8/6	普通	〃	〃
1714	C11	Ⅱb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	5YR7/8	5YR7/8	普通	〃	44
1715	D10	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR6/6	7.5YR6/6	普通	〃	〃
1716	A8	Ⅲa	深鉢	ナデ	縄文LR	細かい砂粒多く密	10YR6/3	10YR6/3	普通	91	45
1717	z5	Ⅱb	〃	ナデ	縄文LR	粗砂を含む	10YR4/2	10YR4/2	普通	〃	〃
1718	A5	Ⅲb	〃	ナデ	縄文LR	粗砂を含む	7.5YR7/4	10YR7/2	普通	〃	〃
1719	z4	Ⅲb	〃	ナデ	縄文RL	細かい砂粒多い	10YR8/2	7.5YR8/6	普通	〃	〃
1720TM	E10	トレンチ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	5YR4/6	5YR4/6	普通	〃	〃
1721TM	L5	アゼ	〃	ナデ	縄文RL	大きい砂粒が混じる	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	〃
1722	z5	Ⅲa	〃	ナデ	縄文無節L?	粗砂を含む	7.5YR5/3	7.5YR5/4	普通	〃	〃
1723TM	L5	アゼ	〃	ナデ	縄文RL	大きい砂粒が混じる	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	〃
1724	z4	Ⅲb	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多く密	10YR6/2	10YR6/2	良好	〃	〃
1725	z4	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	7.5YR5/4	7.5YR4/2	良好	〃	〃
1726	B7	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR4/3	10YR5/4	普通	〃	〃
1727	z3	Ⅲb	〃	磨き	磨き・縄文LR	粗砂多い・雲母含む	10YR4/2	10YR5/2	普通	〃	〃
1728	A3	Ⅲb	〃	磨き	磨き・縄文RL	細かい砂粒多く密	10YR2/2	10YR5/2	普通	〃	〃
1729	z3	Ⅲb	〃	磨き	磨き・縄文RL	均質かつ密	10YR7/4	10YR7/4	普通	〃	〃
1730	z4	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR4/3	10YR5/3	普通	〃	〃
1731	E11	Ⅲb	〃	ナデ	縄文RL	均質かつ密	7.5YR6/4	7.5YR6/4	普通	〃	〃
1732	z4	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	10YR8/3	7.5YR5/3	普通	〃	〃
1733	z4	Ⅲb	〃	ナデ	縄文	粗砂多い	7.5YR5/4	5YR6/6	普通	〃	46
1734TM	D2	Ⅲ	〃	磨き	磨き	細かい砂粒多い	10YR5/2	10YR5/2	普通	〃	〃
1735TM	I 4	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	7.5YR7/3	7.5YR7/3	普通	〃	〃
1736TM	D2	アゼ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR5/4	10YR6/4	普通	92	〃
1737TM	J4	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR5/2	7.5YR5/2	普通	〃	〃
1738TM	I 1	アゼ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1739TM	D3	Ⅱ	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	5YR7/6	5YR7/6	普通	〃	〃
1740TM	F8	トレンチ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1741TM	J14	Ⅱ	〃	磨き	磨き	細かい砂粒多い	7.5YR6/4	7.5YR6/4	普通	〃	〃
1742TM	K10	Ⅲ	〃	磨き	磨き	粗砂多い	7.5YR7/4	7.5YR7/4	普通	〃	〃
1743	E10	Ⅱb	〃	磨き	磨き	チャート・長石を含む	7.5YR5/3	7.5YR7/2	普通	〃	〃
1744TM	I 11	Ⅱ	〃	磨き	磨き	細かい砂粒多い	10YR3/2	10YR3/2	普通	〃	〃
1745TM	J8	Ⅱ	〃	磨き	磨き	細かい砂粒多い	7.5YR4/2	7.5YR4/2	普通	〃	〃
1746TM	I 9	Ⅲ	〃	磨き	磨き・赤色	大きい砂粒が混じる	7.5YR8/4	7.5YR8/4	普通	〃	〃
1747TM	F8	トレンチ	〃	磨き	磨き	細かい砂粒多い	10YR3/2	5YR6/6	普通	〃	〃
1748TM	K10	Ⅲ	〃	磨き	磨き	粗砂を含む	7.5YR4/2	7.5YR4/2	普通	〃	〃
1749TM	E8	トレンチ	〃	磨き	磨き・縄文LR	細かい砂粒多い	7.5YR5/1	7.5YR5/1	普通	〃	〃
1750	Aトレ	Ⅲb	〃	ナデ	縄文LR	粗砂多い	10YR5/2	10YR4/2	普通	〃	〃
1751TM	M7	Ⅲ	〃	ナデ	縄文LR	細かい砂粒多い	7.5YR7/6	7.5YR7/6	普通	〃	〃
1752TM	E5	トレンチ	〃	磨き	磨き	粗砂を含む	7.5YR8/2	7.5YR8/2	普通	〃	〃
1753	A4	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR7/3	10YR7/3	普通	〃	〃
1754	z4	Ⅲb	〃	ナデ	縄文	粗砂多い	10YR6/4	10YR6/4	普通	〃	〃
1755	A9	Ⅲa	深鉢・底部	ナデ	縄文	均質かつ密	10YR8/4	10YR8/4	良好	〃	〃
1756TM	E7	トレンチ	深鉢	磨き	磨き	均質かつ密	10YR4/1	10YR6/2	良好	93	47
1757TM	E8	Ⅲ	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多い	10YR7/2	10YR7/2	普通	〃	〃
1758TM	F4	Ⅲ	〃	ナデ	縄文	粗砂を含む	7.5YR6/3	7.5YR5/2	普通	〃	〃
1759TM	F8	トレンチ	〃	磨き	磨き	細かい砂粒多く密	10YR3/1	10YR3/1	良好	〃	〃
1760TM	J8	Ⅱ	〃	磨き	磨き・縄文LR	細かい砂粒多く密	10YR5/2	10YR5/2	良好	〃	〃
1761TM	G10	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	10YR5/3	10YR4/2	普通	〃	〃
1762TM	M2	Ⅱ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR6/4	10YR6/4	普通	〃	〃
1763TM	E6	Ⅱ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR6/4	10YR5/2	普通	〃	〃
1764TM	I 10	Ⅲ	〃	磨き	磨き・縄文LR	粗砂多い	10YR2/1	10YR2/1	普通	〃	〃
1765TM	E6	Ⅱ	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR5/2	10YR7/2	普通	〃	〃
1766TM	M7	Ⅱ	〃	磨き	磨き	粗砂を含む	10YR6/4	10YR2/1	普通	〃	〃
1767TM	G7	Ⅱ	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	10YR7/2	10YR7/2	普通	〃	〃
1768TM	M7	Ⅱ	〃	磨き	磨き・縄文LR	粗砂を含む	10YR5/3	10YR2/2	普通	〃	〃
1769TM	M6	アゼ	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	10YR7/2	10YR6/1	普通	〃	〃
1770TM	J10	Ⅱ	〃	ナデ	縄文?	粗砂多い・雲母含む	10YR6/3	10YR3/1	普通	〃	〃

縄文土器観察表(11)遺構外

No.	位置	層位	器種	器面調整・地文・顔料		胎土	色調		焼成	挿図	図版
				内面	外面		内面	外面			
1771TM	M6	アゼ	深鉢	ナデ	ナデ	粗砂を含む	10YR7/2	10YR6/1	普通	93	47
1772TM	C4	トレンチ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR4/2	10YR4/2	普通	〃	〃
1773TM	G7	Ⅲ	〃	ナデ	条痕	細かい砂粒多い	10YR5/4	10YR5/3	普通	〃	〃
1774TM	K3	Ⅲ	〃	ナデ	条痕	細かい砂粒多い	10YR5/2	10YR5/2	普通	〃	〃
1775TM	M7	Ⅱ	〃	ナデ	条痕	粗砂を含む	10YR6/2	10YR6/3	普通	〃	〃
1776TM	K3	Ⅲ	〃	ナデ	条痕	細かい砂粒多い	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	〃
1777TM	M7	Ⅱ	〃	ナデ	条痕	細かい砂粒多い	10YR6/2	10YR7/2	普通	〃	〃
1778TM	K3	Ⅲ	〃	ナデ	条痕	細かい砂粒多い	10YR6/2	10YR6/2	普通	〃	〃
1779TM	L6	Ⅱ	〃	ナデ	条痕	粗砂を含む	10YR8/4	10YR8/4	普通	〃	〃
1780TM	F10	Ⅲ	〃	ナデ	条痕	細かい砂粒多い	10YR8/2	10YR7/4	普通	〃	〃
1781TM	G2	アゼ	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	10YR3/1	10YR7/4	普通	〃	48
1782TM	F8	トレンチ	〃	ナデ	条痕	粗砂を含む	10YR3/1	10YR5/3	普通	〃	〃
1783TM	F3	Ⅱ	〃	ナデ	条痕	粗砂を含む	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	〃
1784TM	E7	Ⅱ	〃	ナデ	条痕	細かい砂粒多い	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	47
1785TM	F9	トレンチ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多い	10YR6/4	10YR5/4	普通	〃	48
1786TM	G7	Ⅱ	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	10YR6/4	10YR6/4	普通	〃	〃
1787TM	K3	Ⅲ	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	〃
1788TM	H9	アゼ	〃	ナデ	ナデ	粗砂を含む	10YR3/2	10YR4/2	普通	〃	〃
1789TM	F9	トレンチ	〃	ナデ	条痕	大きい砂粒が混じる	10YR6/1	10YR6/1	普通	〃	〃
1790	SB11	SK⑥	〃	ナデ	縄文	大きい砂粒が混じる	10YR5/2	10YR5/2	普通	94	〃
1791	SB12	SK①	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多く密	10YR5/2	10YR7/4	良好	〃	〃
1792	SB12	炉内	〃	ナデ	縄文	粗砂を含む	7.5YR5/3	7.5YR5/4	普通	〃	〃
1793	SB13	覆土	〃	ナデ	縄文	粗砂多い	7.5YR6/6	5YR6/8	普通	〃	〃
1794	SB13	〃	〃	ナデ	縄文	粗砂を含む	10YR7/4	10YR6/3	普通	〃	〃
1795	SB13	周溝	〃	ナデ	縄文	粗砂を含む	7.5YR5/2	2.5YR5/6	普通	〃	〃
1796	SB14	SK147	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	7.5YR4/1	7.5YR5/3	良好	〃	〃
1797	SB14	覆土	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR8/2	10YR8/2	普通	〃	〃
1798	SB14	〃	〃	ナデ	縄文	粗砂を含む	5YR6/6	5YR7/6	普通	〃	〃
1799	P88	〃	〃	ナデ	縄文	粗砂を含む	10YR8/4	7.5YR7/3	普通	〃	〃
1800	z2	Ⅲb	〃	ナデ	縄文	大きい砂粒が混じる	10YR4/1	10YR4/1	普通	〃	〃
1801	z5	Ⅲa	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多く密	7.5YR5/3	7.5YR5/3	良好	〃	〃
1802	A9	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/4	7.5YR5/3	普通	〃	〃
1803	A9	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	大きい砂粒が混じる	7.5YR7/6	7.5YR5/3	普通	〃	〃
1804	z4	Ⅲb	〃	ナデ	縄文	粗砂を含む	7.5YR7/3	7.5YR7/6	普通	〃	〃
1805	B6	Ⅲb	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多く密	10YR4/1	10YR4/1	良好	〃	〃
1806	D10	Ⅲb	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多く密	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	〃
1807	D11	Ⅲb	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多く密	7.5YR7/3	7.5YR7/3	普通	〃	〃
1808	B8	Ⅱb	〃	ナデ	縄文	粗砂多い	5YR6/6	5YR6/6	普通	〃	〃
1809	C9	Ⅱb	〃	ナデ	縄文	大きい砂粒が混じる	2.5YR5/8	5YR5/3	普通	〃	〃
1810	C9	Ⅲb	〃	ナデ	縄文	細かい砂粒多く密	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	〃
1811	D11	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	10YR7/3	10YR3/2	普通	〃	〃
1812TM	I 10	Ⅲ	〃	ナデ	縄文	粗砂多い	10YR5/3	10YR3/2	普通	〃	〃
1813TM	K4	アゼ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	5YR6/6	5YR6/6	普通	〃	〃
1814TM	F9	トレンチ	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	7.5YR6/4	7.5YR6/4	普通	〃	〃
1815	z6	Ⅲa	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR6/3	10YR6/3	普通	〃	〃
1816	z4	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	10YR5/2	5YR5/6	普通	〃	〃
1817	B8	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い・雲母含む	10YR5/2	10YR6/3	普通	〃	〃
1818	A4	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	10YR8/1	10YR4/1	普通	〃	〃
1819	y3	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ	粗砂多い	10YR6/2	10YR6/2	普通	〃	〃
1832	z4	Ⅲb	〃	ナデ	ナデ・赤色	細かい砂粒多く密	10YR7/4	10YR7/4	良好	〃	〃
1833	z2	Ⅲb	〃	ナデ	縄文・赤色	細かい砂粒多く密	10YR5/2	10YR5/2	良好	〃	〃

縄文土器観察表(12)遺構外

〈土器観察表・凡例〉

1．No.は、本文・挿図及び写真図版中の番号に同じ。
2．土器の分類・文様等は、本文中に記述した。
3．「器面調整・地文・顔料」については、肉眼により観察され、推定できたものに限り表記した。
　縄文・撚糸文については、推定できたものに限り原体を、（佐原真 1981）にならい表記した。
4．「色調」には、内・外面ともに『新版 標準土色帖』(1967)に基づき表記した。
5．1820～1831は、小谷戸遺跡の土器片。1832, 1833は、赤色顔料の同定を行った土器片。
6．戸入村平遺跡の挿図の番号の後にＴＭとあるものは前回調査分の土器。

第5節　石　　器

1．石器類の概要

今回の調査において、6,949点の石器及び剥片・石核類が出土した。その種類と点数は第6表の通りである。

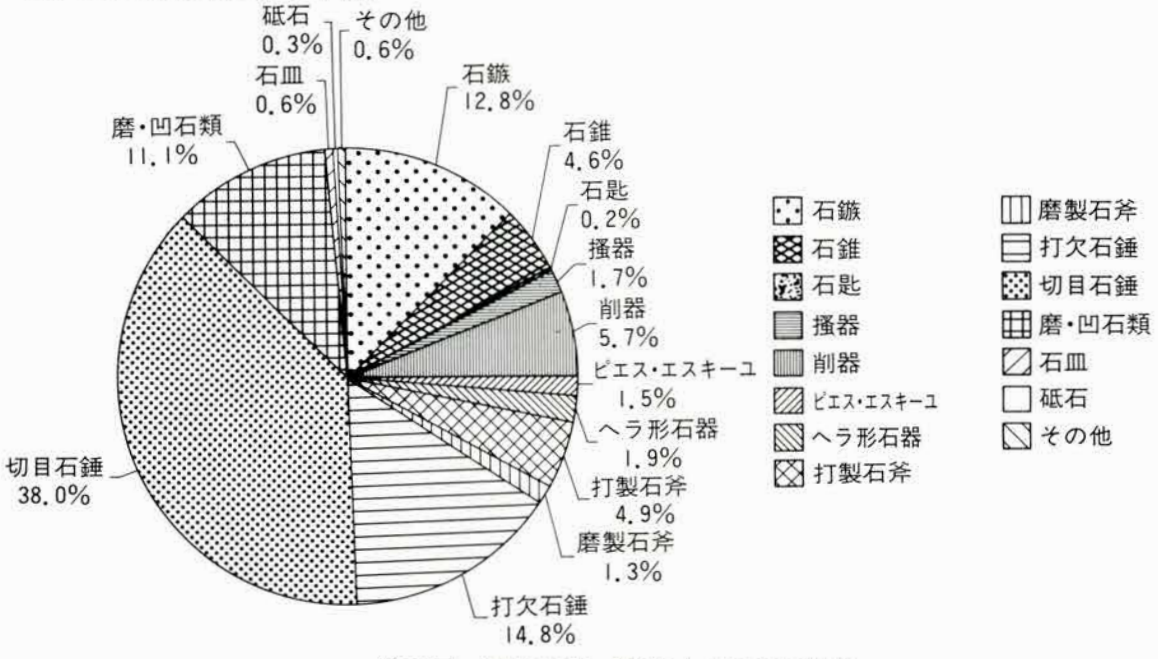
住居跡や土坑・ピットといった遺構内から出土した石器類が999点、遺構外出土の石器類が5,950点である。併出している土器型式からみると、そのほとんどが縄文時代中期から後期に属するものと考えられるが、包含層の明確な時期区分ができなかったため、遺構外出土の各石器の時期的な限定はできなかった。

石核、剥片、二次加工のある剥片、使用痕のある剥片、未製品を除いた2,136点について、器種別の出土点数による組成グラフを第95図に示した。これを見ると、今回の調査区域では切目石錘と打欠石錘の割合が傑出していることが特徴と言える。切目石錘が38%、打欠石錘が14.8%で両者をあわせると50%を超える比率になる。続いて石鏃並びに磨石・凹石類の割合が多くなっている。

以下、まず主な遺構から出土した石器について述べ、そして各器種ごとに分類を中心に説明する。

2．遺構から出土した石器

今回の調査で出土した石器のうち遺構内から出土した石器は999点であり、その内訳は第6表の通りである。住居跡関係では、第12号住居跡（ＳＢ12）、第14号住居跡（ＳＢ14）から多数の石器が出土している。またＳＫ207では、26点の石錘がまとまって出土している。ここでは、ＳＢ９、ＳＢ10、ＳＢ11、ＳＢ12、ＳＢ14、ＳＢ16、ＳＢ17・18、並びにＳＫ１、ＳＫ２、ＳＫ207から出土した石器について述べていく。なお、それ以外の遺構から出土した石器については、次の器種ごとの説明の中でまとめて触れることとする。

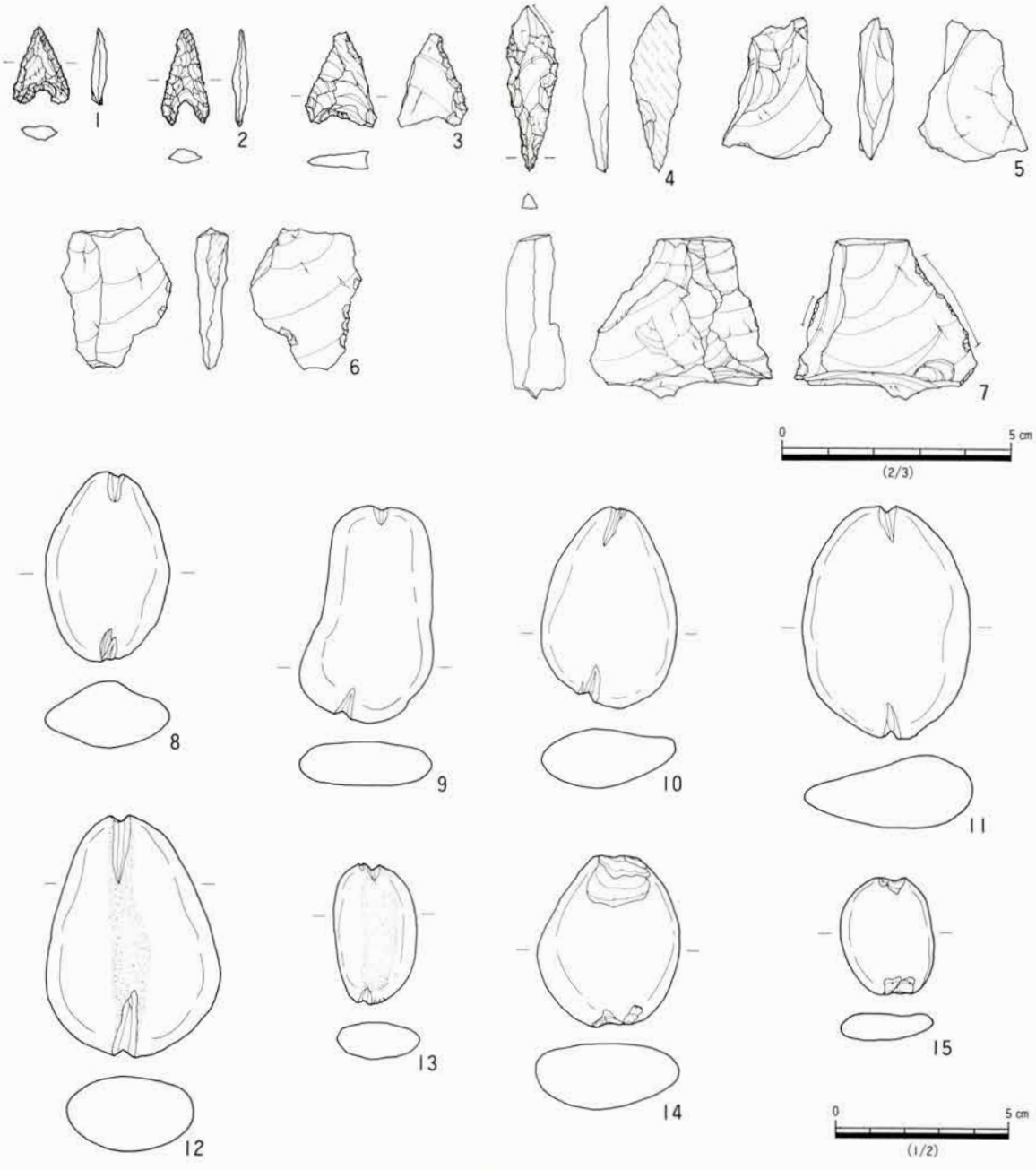


第95図　石器の出土点数による器種別組成

第6表　戸入村平遺跡II出土石器一覧表

器種 / 遺構	石鏃	石錐	石匙	掻器	削器	ﾋﾟｴｽ・ｴｽｷｰﾆｭ	ヘラ形石器	打製石斧	磨製石斧	石槍	RF	UF	剥片	未製品	打欠石錘	切目石錘	磨・凹石類	石皿	砥石	その他	合計
SB09	5	2					2	4			3	2	38		2	9	1				68
SB10	2	1			2	1					2	3	35		1	4	2				53
SB11	1	1			1						1	1	18		4	2	1				30
SB12	12	1			1		2	2	1	2	5	6	79	1	14	27	5	1			159
SB13	1		1	1	1								8		1	1					14
SB14	6	1		2	4	2			1	4	5	11	63		7	5	1		1		113
SB15													1								1
SB16	8	1	1		4				1	2	5	5	59		3	7	2			1	99
SB17・18	4	3			3		1		1		5		51		4	10	3				85
SK1		2				1		1			3	4	12		1	2	2				28
SK2	1	2		2		1				1		1	13		5	8	1				35
SK3		1										2	8		1						12
SK5	1												4								5
SK16	1															1					2
SK19					1																1
SK20													2								2
SK21	2							1				1	15			3					22
SK29													2								2
SK30	1			1									1								3
SK32					1								1			1					3
SK34					1								1			1					3
SK35													1								1
SK36													2								2
SK37					1																1
SK42	1										1		6								8
SK46					1								1								2
SK48													2								2
SK49											1		2			1					4
SK50	1			1					1			1	8		2	2					16
SK51											1	1	3			1					6
SK52													2								2
SK54									1												1
SK55													1								1
SK57												2			1						3
SK58													3								3
SK59													2								2
SK60					1						1		2			2					6
SK63													1								1
SK64		1			1								1								3
SK66												2	5			1					8
SK67													2								2
SK69	1												1								2
SK70											1		1								2
SK71													2								2
SK74													4			1					5
SK80													4								4
SK123															1						1
SK130											1		3		1						5
SK133															1						1
SK134								1													1
SK136	1											1									2
SK170															1						1
SK172																1					1
SK183													1								1
SK201																	1				1
SK206																1					1
SK207													3		6	20					29
SK221					1																1
SK223											1		2								3
SK228											1										1
SK229											1		2								3
P1								1													1
P2																2					2
P24												1	1			1					3
P31													2			1					3
P33												1									1
P39													1			1					2
P56																1					1
P85													1			1					2
P88													2			1					3
P93													1			1					2
P94												1	3			1					5
P95	1										1		8								10
P103												1									1
P108													1								1
P139													1								1
P140	1										1		9			1					12
P141							1				1										2
P147				1									4			1	2				8
P149													1								1
P150				1						1			2								4
P184										1			1								2
P189	1												1								2
P195													1								1
SX1	1	2						1				2	12		2	4					24
SZ03	2				1						1		1								5
SZ04													1								1
SZ05										1	2	1	7		1	4	1			1	18
計	55	18	2	9	25	5	6	11	6	12	44	50	539	1	59	131	22	1	1	2	999
遺構外出土数	218	80	3	28	97	27	34	94	21	67	109	85	3862	44	256	681	216	12	5	11	5950
総合計	273	98	5	37	122	32	40	105	27	79	153	135	4401	45	315	812	238	13	6	13	6949

※その他：石棒・石刀・石製品・鈎形石製品・異形石器・円盤状石製品・粗製礫器

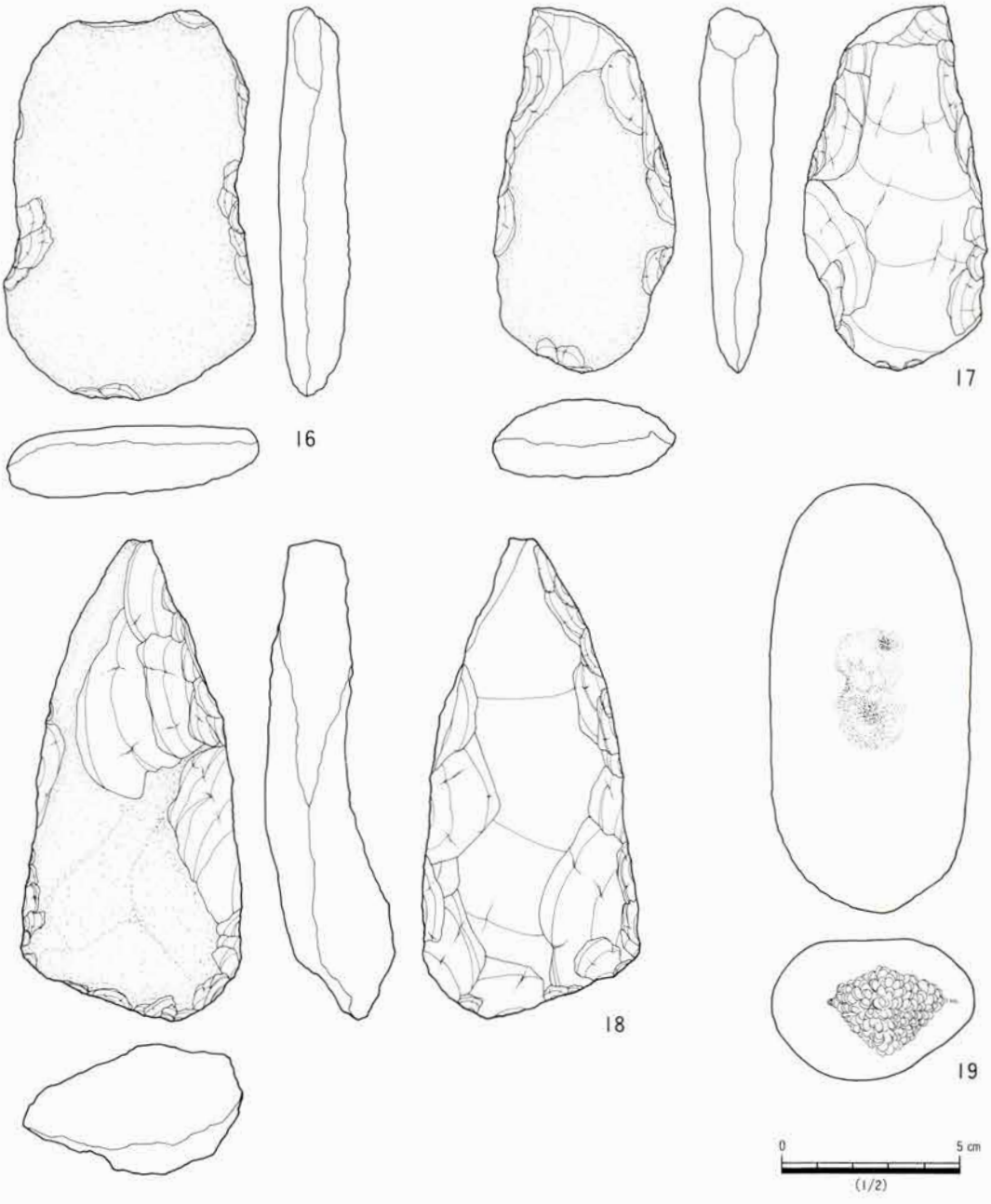


第96図　第9号住居跡(SB9)出土石器(1)

(1)　第9号住居跡（SB9）と出土した石器（第96、97図、1～19）

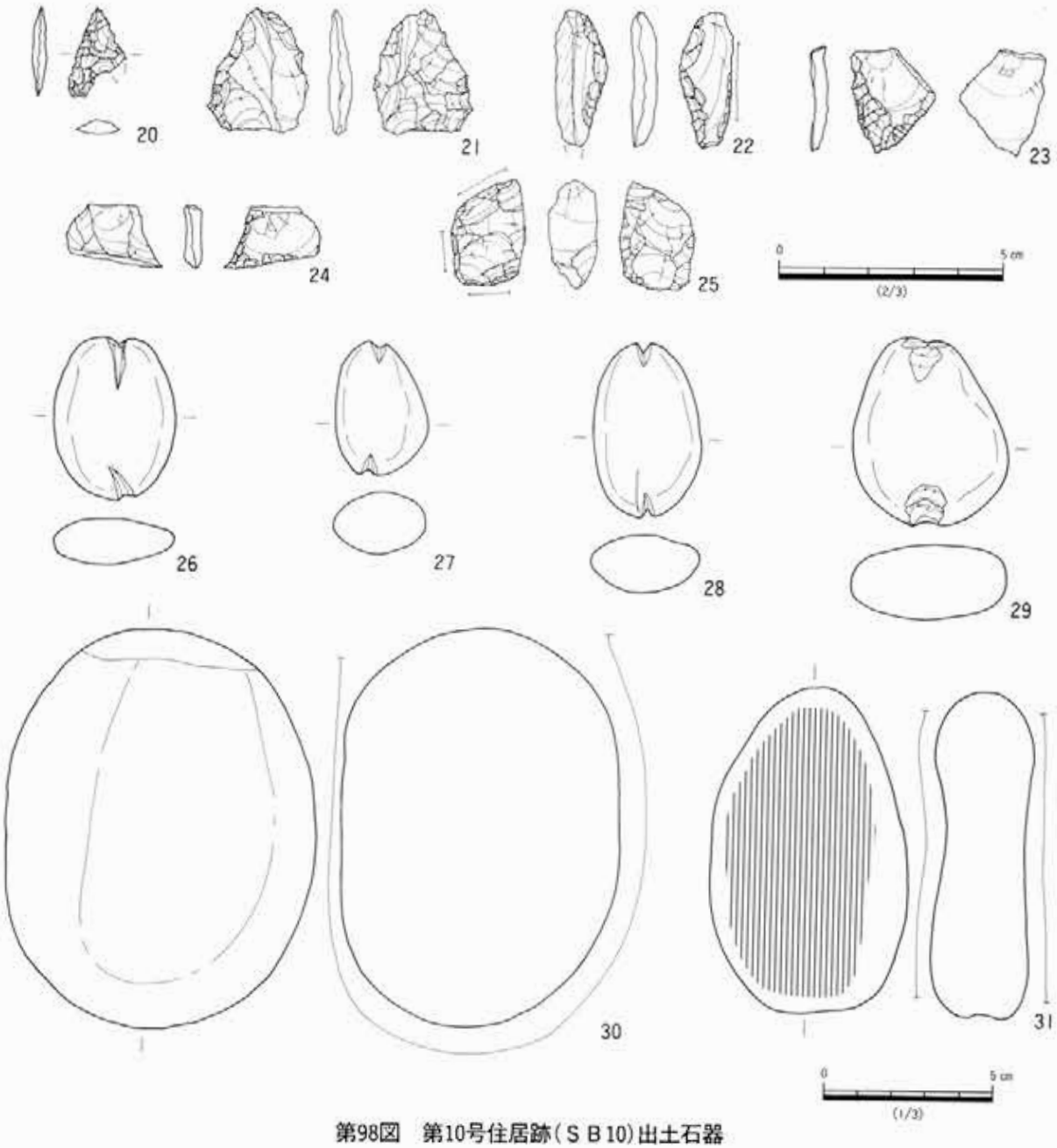
合わせて68点の石器が出土した。内訳は石鏃5点（1～3）、石錐2点（4）、ヘラ形石器2点（5）、打製石斧4点（16～18）、二次加工のある剥片3点（6）、使用痕のある剥片2点（7）、剥片類38点、打欠石錘2点（14、15）、切目石錘9点（8～13）、凹石・叩石1点（19）である。このうち19点を図示した。

図示した石器のうち、打製石斧（16～18）、二次加工のある剥片（6）、使用痕のある剥片（7）、切目石錘（8）は住居跡の床面付近より出土している。また石錐（4＝a11）、切目石錘（9、10、12＝a2、a5、a19）、打欠石錘（15＝a4）、凹石・叩石（19＝a6）は、それぞれ住居跡内のピットより出土している。その他のものは覆土からの出土である。



第97図　第9号住居跡(ＳＢ9)出土石器(2)

4の石錐の腹面側は節理面で二次調整はほとんどなされてなく、機能部は背面側から剝片全体を調整して作出されている。5のヘラ形石器の刃部とした縁辺部の調整は明瞭ではなく、鋭利な縁辺をそのまま使用したものかもしれない。12、13の切目石錘は両面に糸巻きの帯状痕跡が観察できる。16～18の打製石斧は、すべて片面に自然面を残している。16は両側縁がほぼ平行な短冊型で、多孔質な安山岩を素材としている。17、18は形状が基部に向かってやや収束するバチ型である。18の刃部は摩耗が著しい。19は棒状の礫を利用しており、表面の中央部に重なるように2つの凹みが観察されるとともに、長軸方向の一端に叩石として用いたと思われる痕跡が観察される。

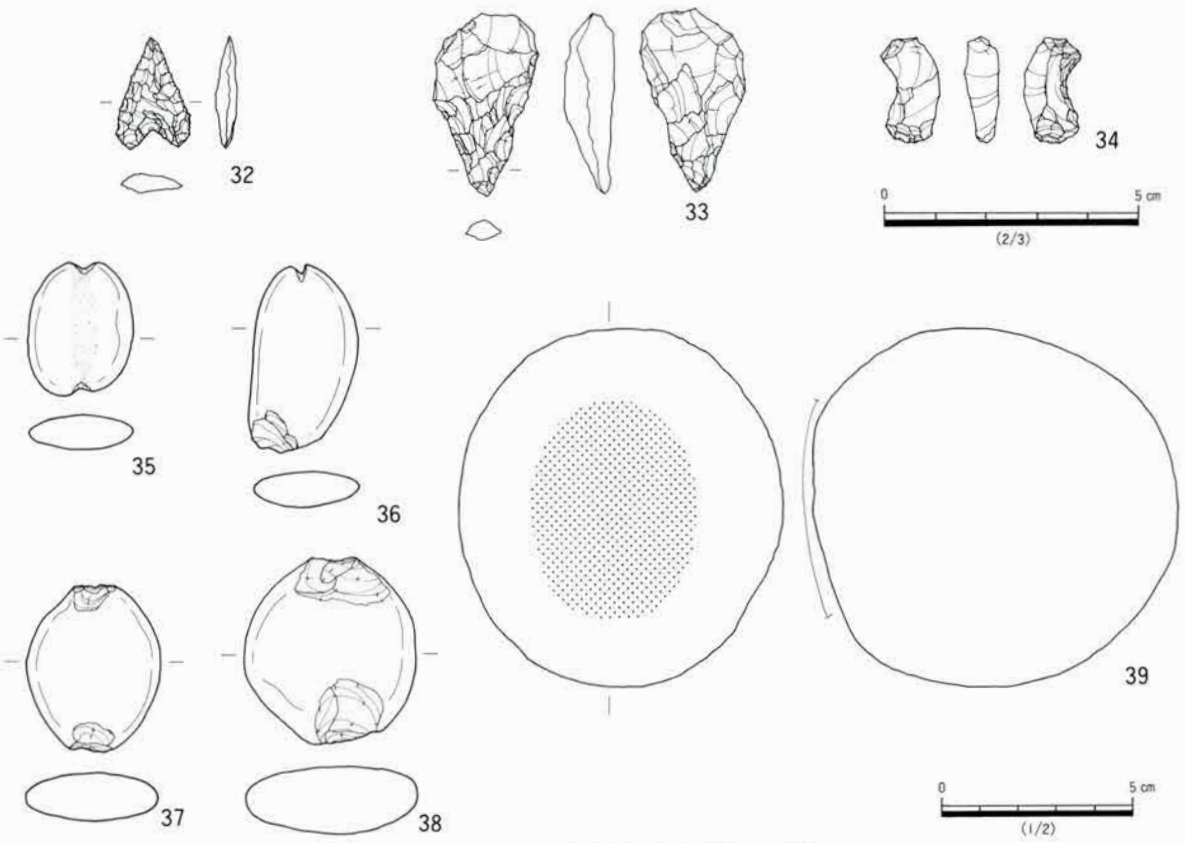


第98図　第10号住居跡（ＳＢ10）出土石器

(2)　第10号住居跡（ＳＢ10）から出土した石器（第98図、20～31）

合わせて53点の石器が出土した。内訳は石鏃２点（20、21）、石錐１点（22）、削器２点（23、24）、ピエス・エスキーユ１点（25）、二次加工のある剥片２点、使用痕のある剥片３点、剥片類35点、打欠石錘１点（29）、切目石錘４点（26～28）、磨石２点（30、31）である。このうち12点を図示した。図示した石器はすべて、住居跡の床面付近より出土している。

21は左側縁辺部の両面に連続した調整が大まかにみられるため、石鏃の未製品とした。23の削器は、縦長剥片を素材としており、主要剥離面と打点を残している。刃部は背面側からの片側調整によって作出されている。30、31はともに円礫を素材とした磨石である。30はほぼ全面が自然面をそのまま使用したツルツルした磨面となっている。31は表裏両面のほぼ全面が凹んだザラザラした磨面となっている。



第99図　第11号住居跡（ＳＢ11）出土石器

⑶　第11号住居跡（ＳＢ11）から出土した石器（第99図、32～39）

合わせて30点の石器が出土した。内訳は石鏃１点（32）、石錐１点（33）、削器１点、二次加工のある剥片１点（34）、使用痕のある剥片１点、剥片類18点、打欠石錘４点（37、38）、切目石錘２点（35、36）、磨石１点（39）である。このうち８点を図示した。

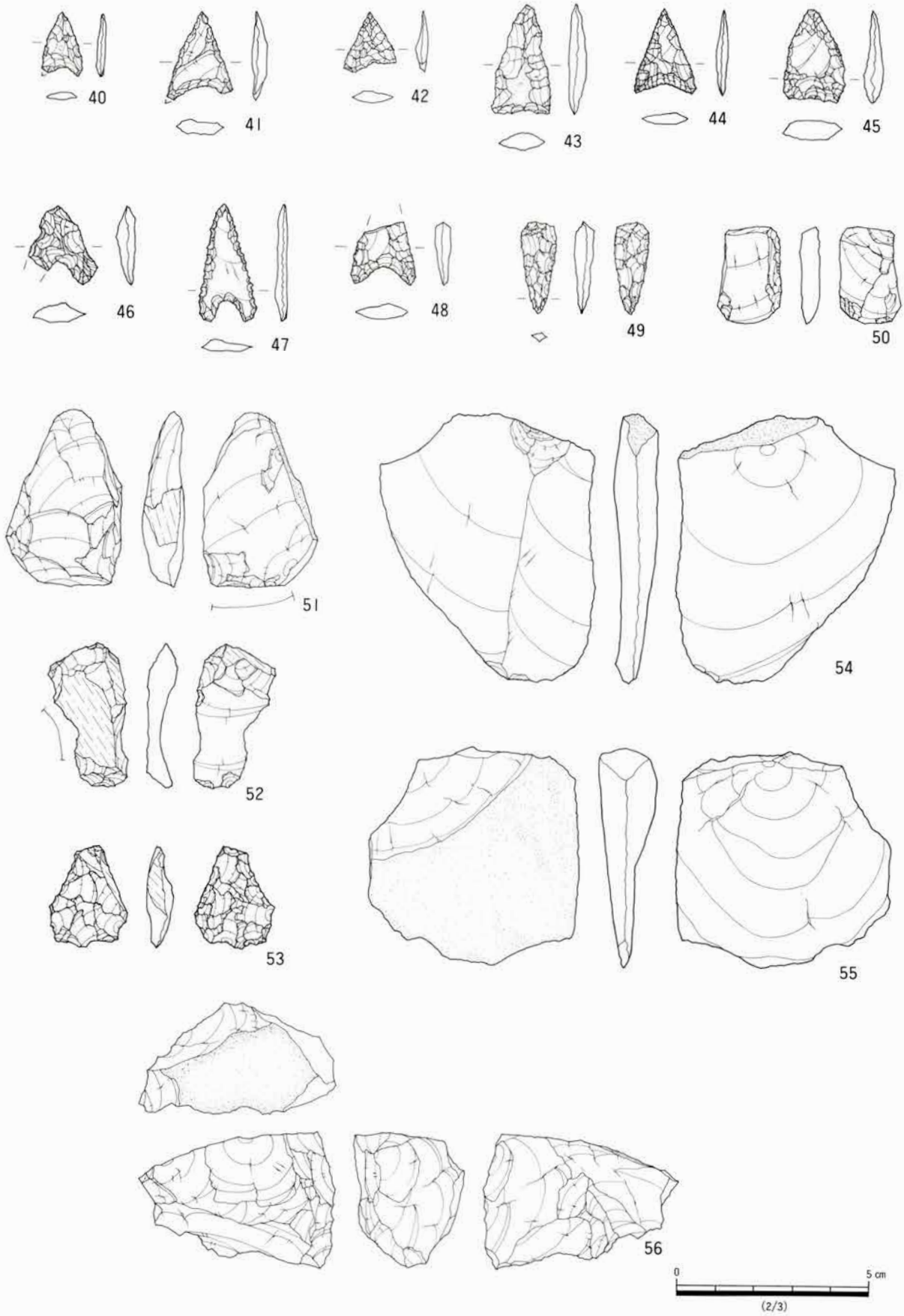
図示した石器のうち、石鏃（32）、二次加工のある剥片（34）、切目石錘（35）、打欠石錘（37）は住居跡の床面付近より出土している。その他のものは覆土からの出土である。

⑷　第12号住居跡（ＳＢ12）から出土した石器（第100、101、102図、40～87）

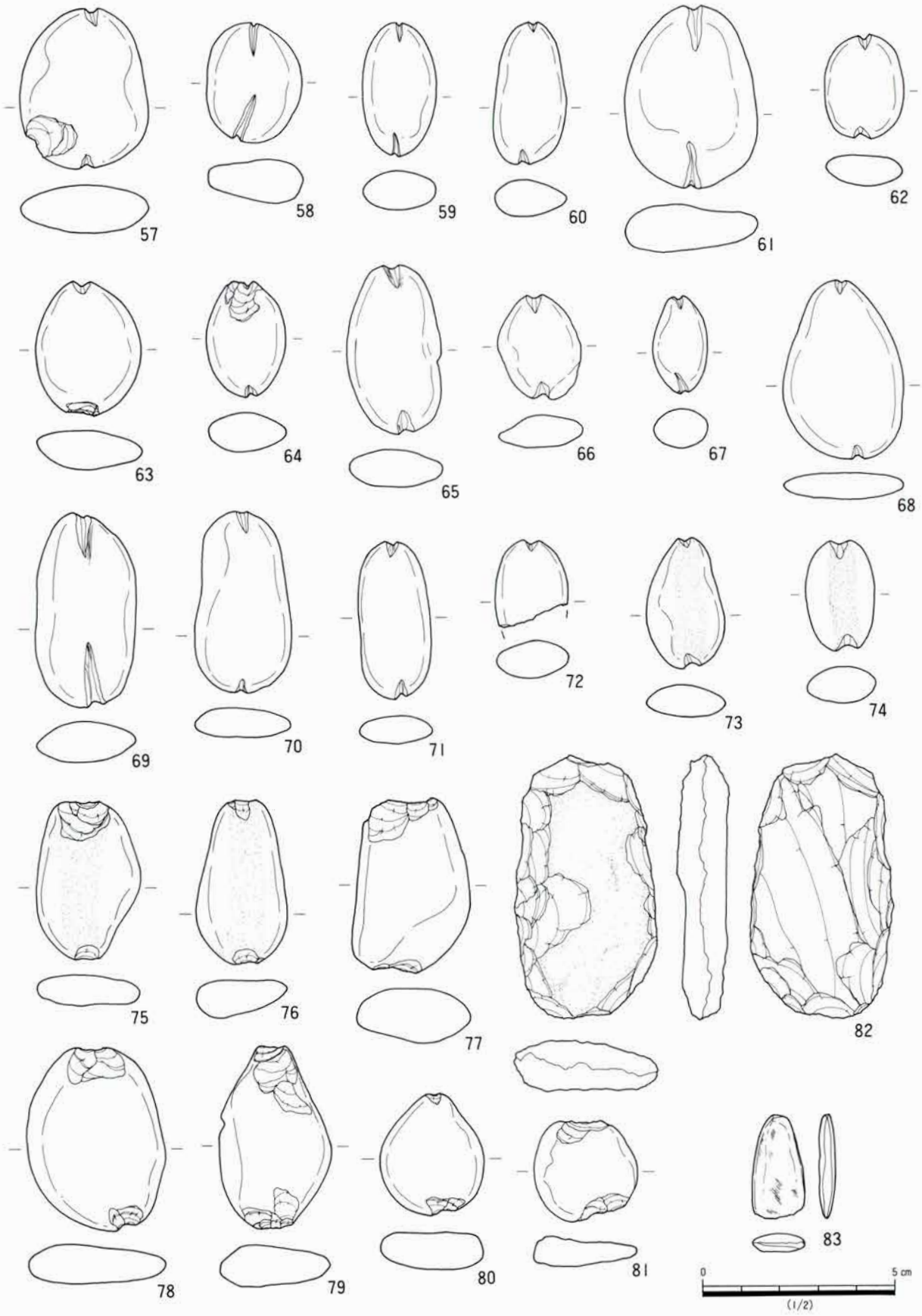
合わせて159点の石器が出土した。今回の調査で確認された住居跡の中で、最も多くの石器が出土している。内訳は石鏃12点（40～48）、石錐１点（49）、削器１点、ヘラ形石器２点（50、51）、打製石斧２点（82）、磨製石斧１点（83）、石核２点（56）、二次加工のある剥片５点、使用痕のある剥片６点（52）、剥片類79点（54、55）、未製品１点（53）、打欠石錘14点（75～81）、切目石錘27点（57～74）、磨石・凹石４点（84～86）、磨石１点、石皿１点（87）である。このうち48点を図示した。

図示した石器のうち、石鏃（45、46）、ヘラ形石器（50）、未製品（53）、剥片（55）、打欠石錘（76、78、81）、切目石錘（65、68～71）、磨石・凹石（85）は住居跡の床面直上より出土している。また、石鏃（44＝ｄ15）、打欠石錘（79＝ｄ５）はそれぞれ住居跡内のピットより出土している。その他のものは覆土からの出土である。

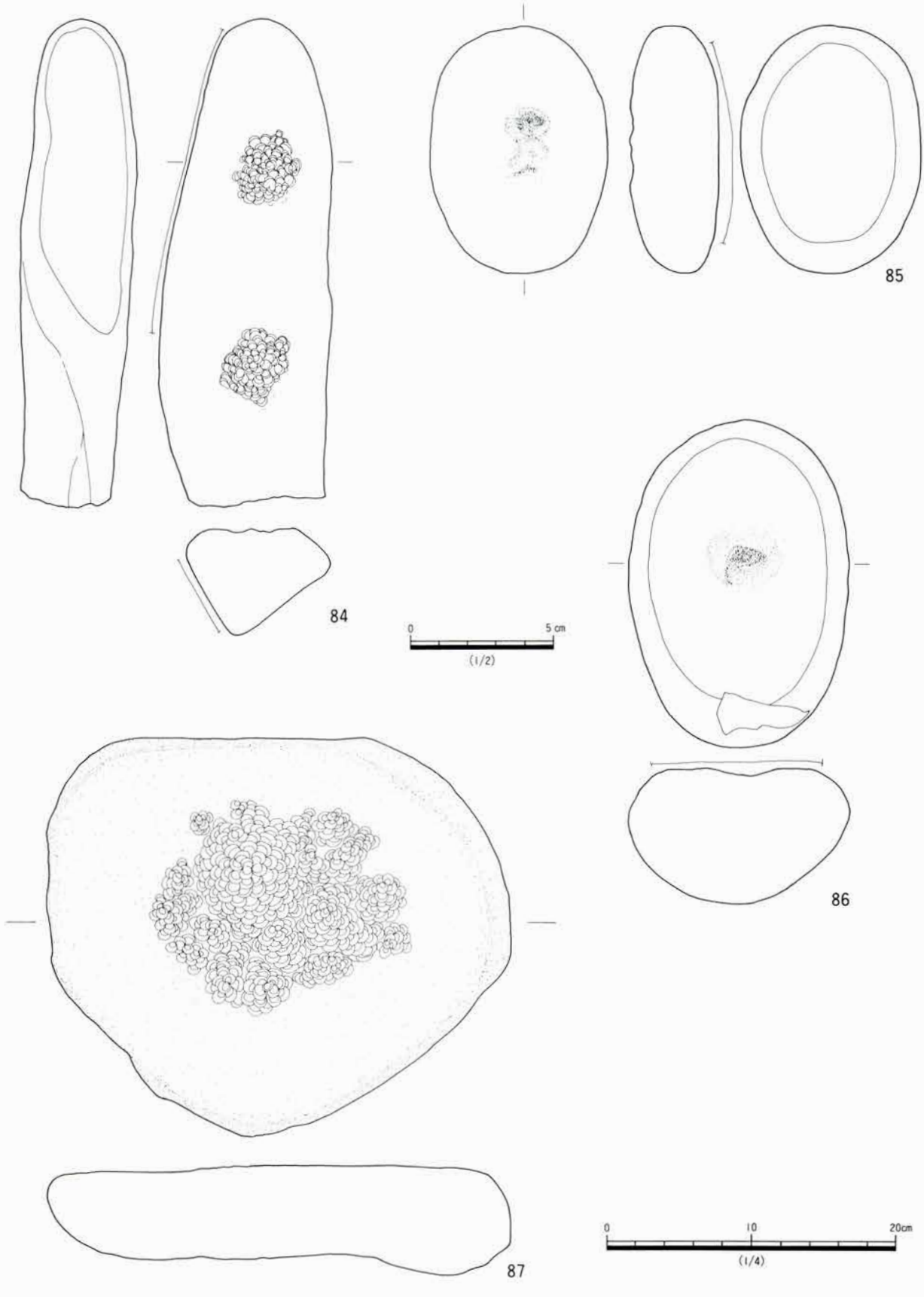
54は今回の調査で確認されたサヌカイトの剥片としては最大のもので、自然面を打面として剥離されており、主要剥離面及び打点を残す。また、55は砂岩の剥片であるが、包含層から出土している他



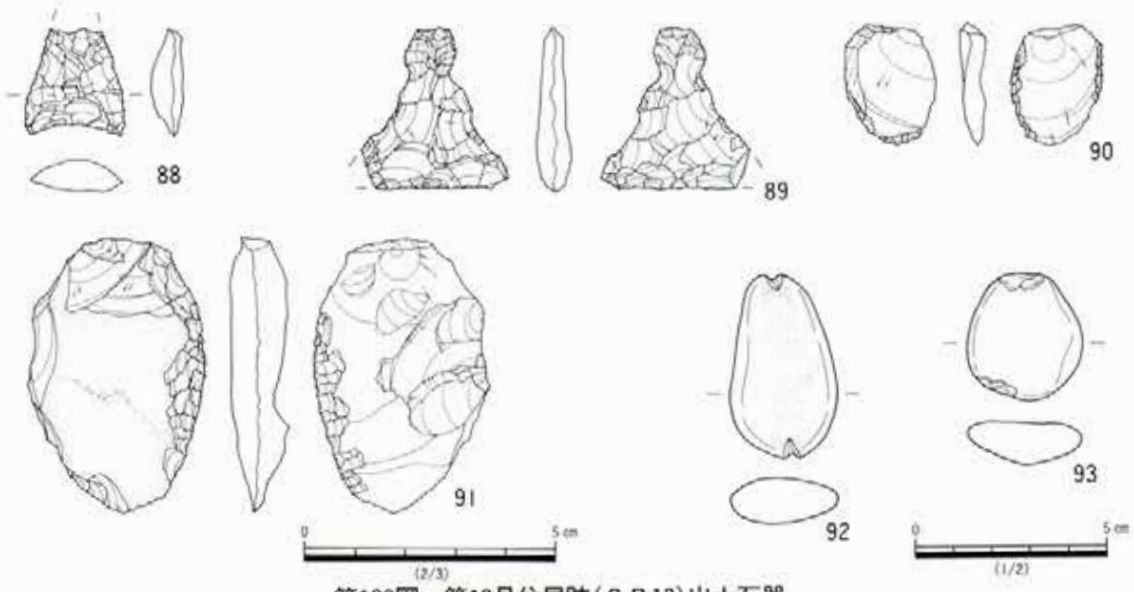
第100図　第12号住居跡（ＳＢ12）出土石器(1)



第101図　第12号住居跡（ＳＢ12）出土石器(2)



第102図　第12号住居跡(ＳＢ12)出土石器(3)



第103図　第13号住居跡（ＳＢ13）出土石器

の３点（286～288）とともに、背面がほぼ自然面のままであることから、おそらく円礫から自然面を打面として剥離されたものと思われる。主要剥離面の縁辺部に二次調整等はみられないが、何らかの石器の素材とすることを目的に剥離されたものなのか、興味深い。

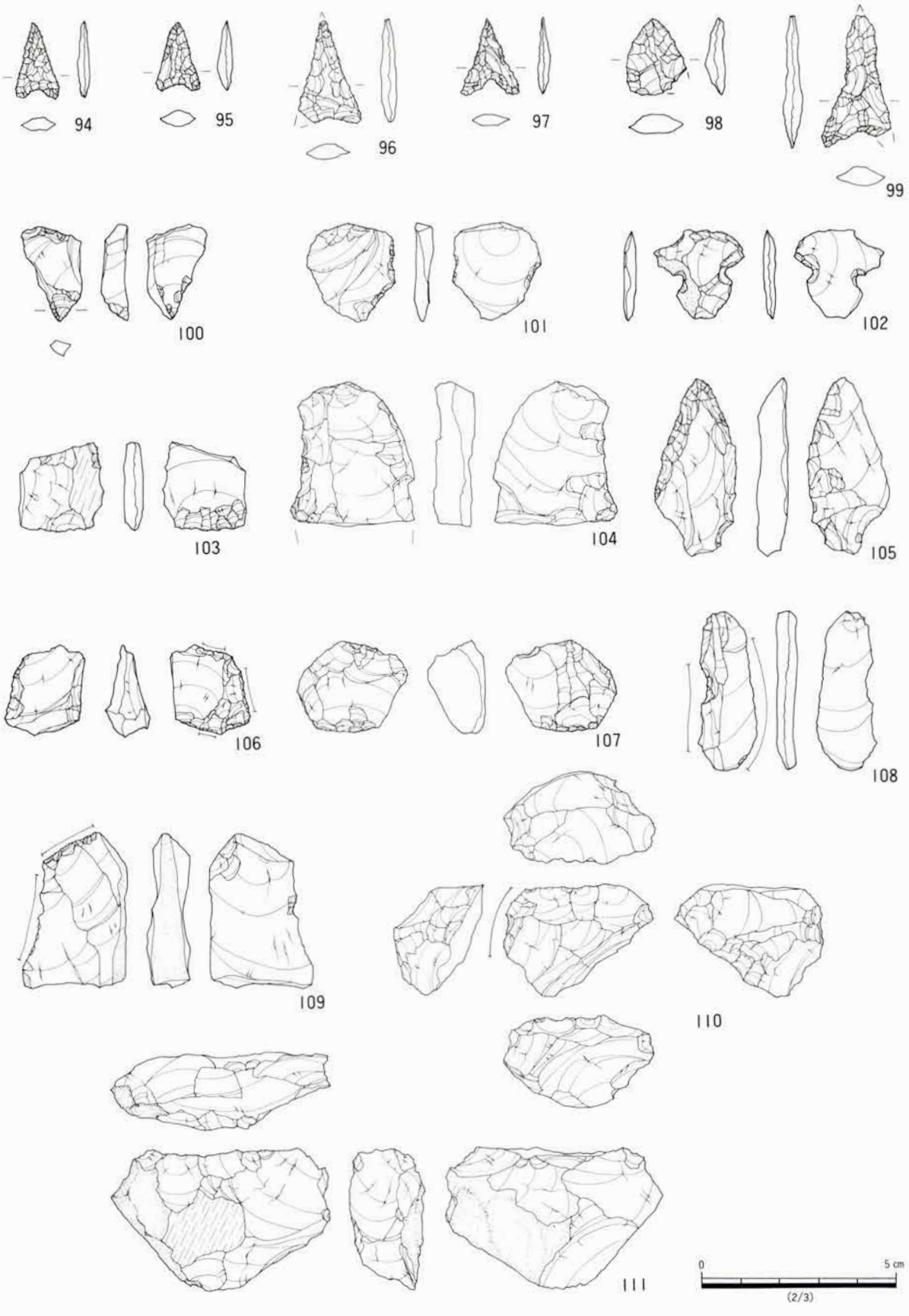
73の切目石錘に見られる糸巻きの帯状痕跡は片面だけであるが、74～76については両面に観察される。84は棒状の礫を用いた凹石で、平らな一面の両端に離れて２カ所の機能部が残されている。また別の一面は、自然面をそのまま使用したツルツルした磨面となっている。

(5)　第14号住居跡（ＳＢ14）から出土した石器（第104、105図　94～120）

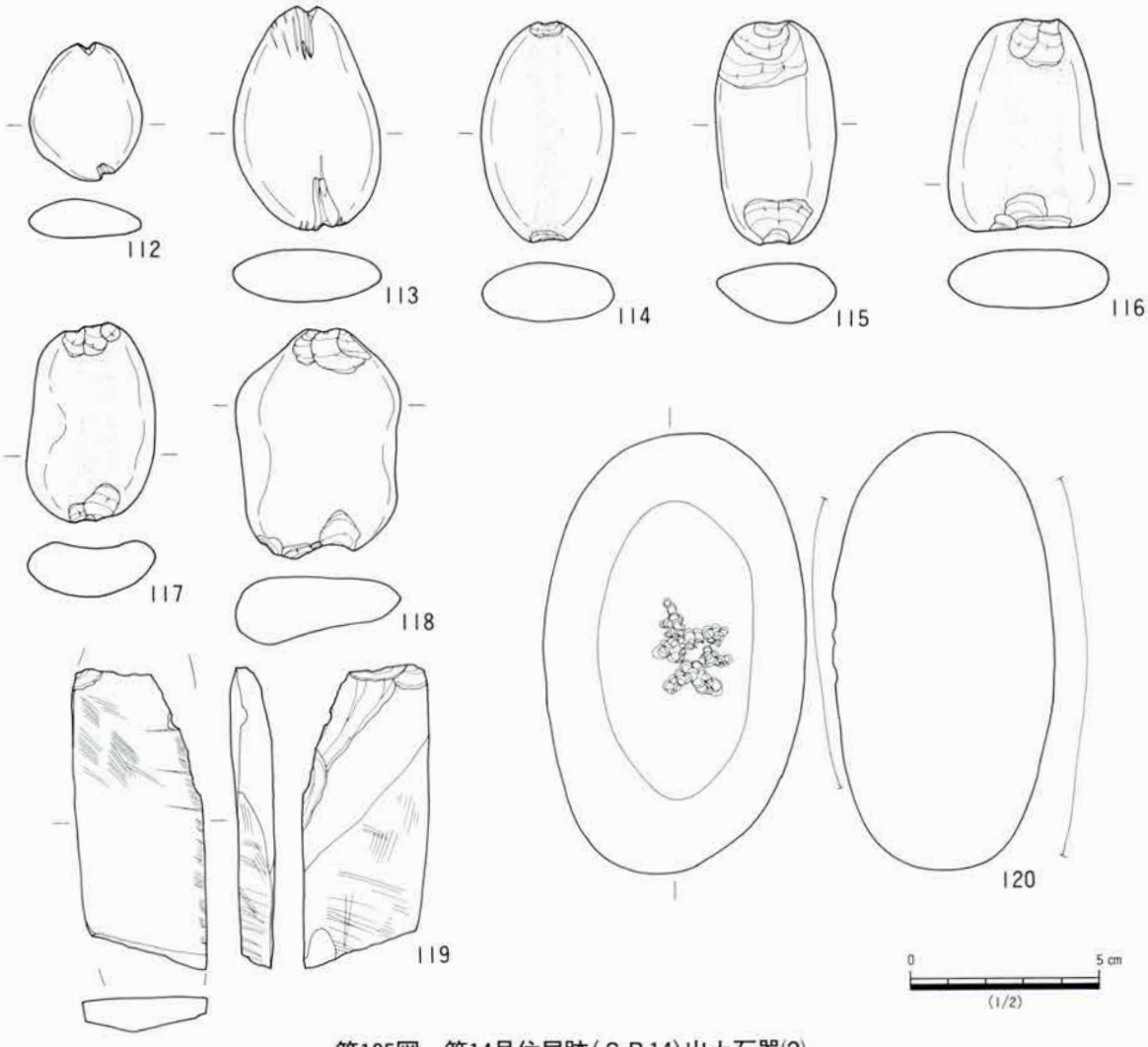
合わせて113点の石器が出土した。内訳は石鏃６点（94～99）、石錐１点（100）、掻器２点（104、105）、削器４点（101～103）、ピエス・エスキーユ２点（106、107）、磨製石斧１点、石核４点（110、111）、二次加工のある剥片５点、使用痕のある剥片11点（108、109）、剥片類63点、打欠石錘７点（114～118）、切目石錘５点（112、113）、磨石・凹石１点（120）、砥石１点（119）である。このうち27点を図示した。

図示した石器のうち、石鏃（98＝ＳＫ147）、掻器（104、105＝ＳＫ143・ＳＫ150）、削器（101＝ＳＫ143）、ピエス・エスキーユ（107＝ＳＫ157）、使用痕のある剥片（108、109＝ＳＫ158）、打欠石錘（114、115、117、118＝ｆ７、ｆ９、ＳＫ147）、切目石錘（113＝ＳＫ142）、磨石・凹石（120＝ＳＫ142）、砥石（119＝ＳＫ154）は、それぞれ住居跡内の土坑、ピットより出土している。その他のものは覆土からの出土である。

103の削器の刃部は、主要剥離面の打点側からバルブを潰すようなかたちで片面調整によって作出されている。108は縦長剥片の平行する両側縁に、連続する微細な剥離痕が観察される。114、116、117の打欠石錘は、糸巻きの帯状痕跡が両面に見られる。119の砥石は上下部分を折損しているが、表裏両面並びに両側面に擦痕が見られ、ほぼ全面が機能部として使用されていたと思われる。120は表面の中央部に凹みが観察されるとともに、表裏両面に磨面があり、二つの機能を併せ持つ。



第104図　第14号住居跡（ＳＢ14）出土石器(1)



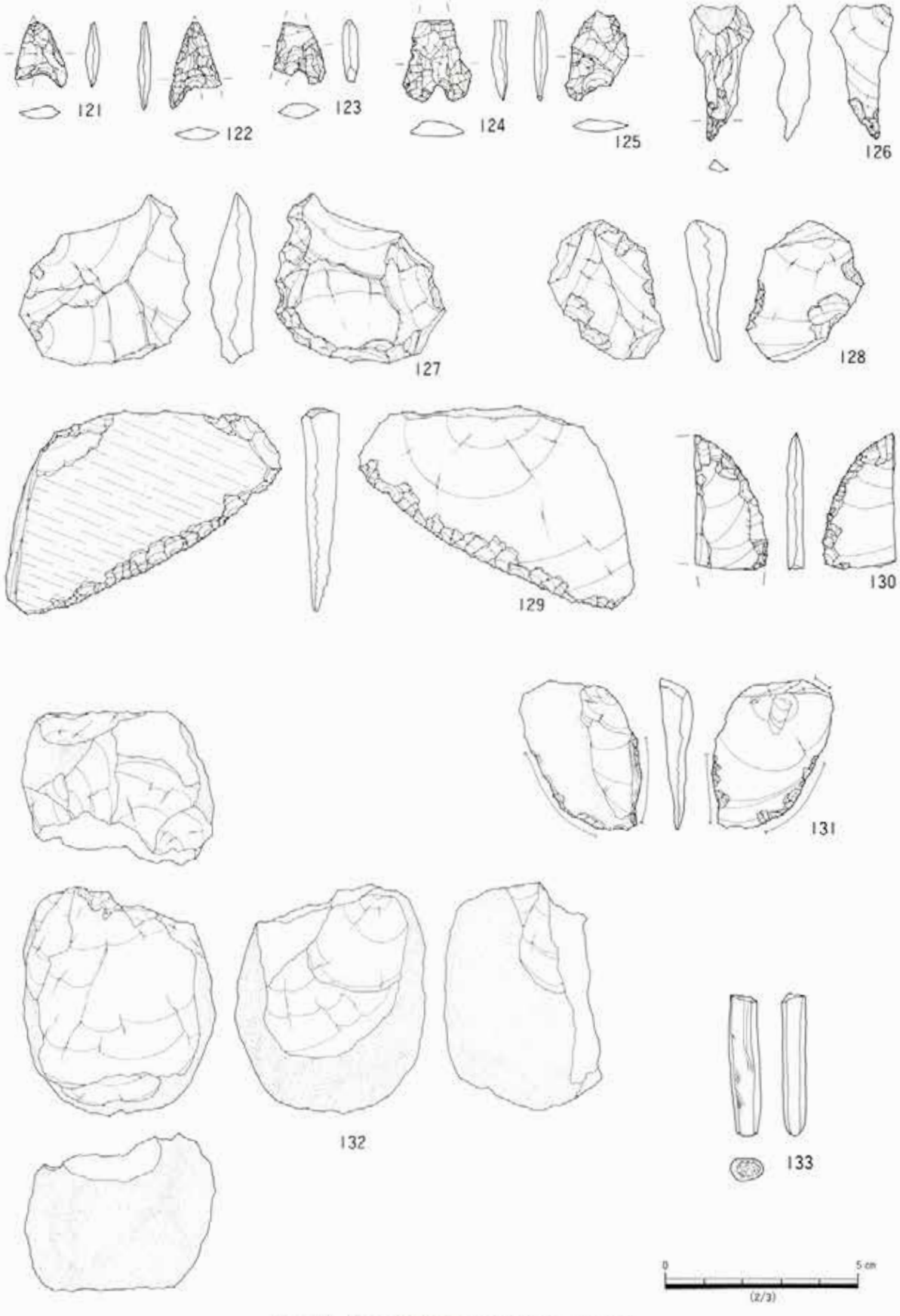
第105図　第14号住居跡（ＳＢ14）出土石器(2)

⑹　第16号住居跡（ＳＢ16）から出土した石器（第106、107図　121～141）

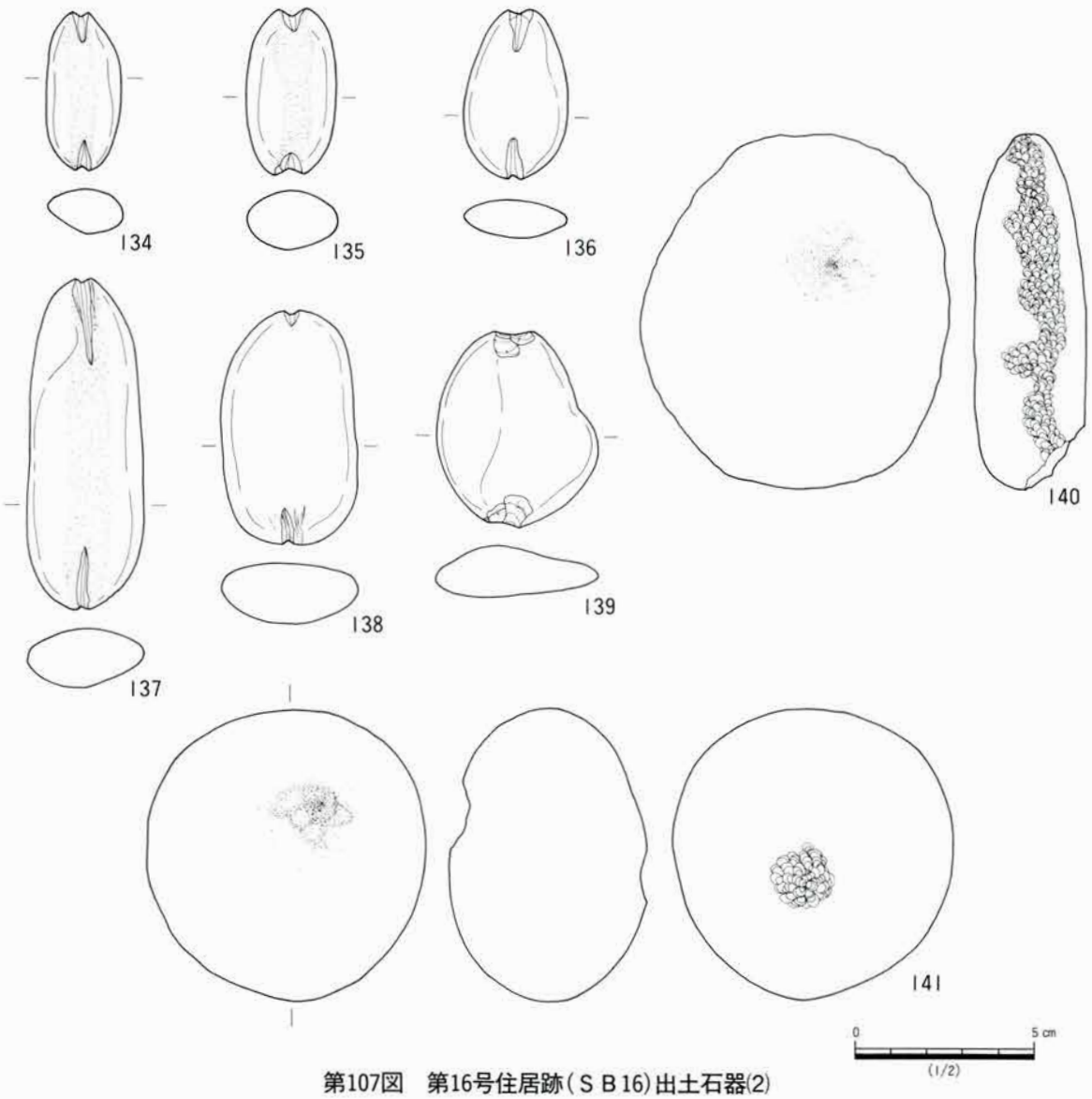
合わせて99点の石器が出土した。内訳は石鏃８点（121～125）、石錐１点（126）、石匙１点（127）、削器４点（128～130）、磨製石斧１点、石核２点（132）、二次加工のある剥片５点、使用痕のある剥片５点（131）、剥片類59点、打欠石錘３点（139）、切目石錘７点（134～138）、凹石・叩石１点（140）、凹石１点（141）、石製品１点（133）である。このうち21点を図示した。

図示した石器のうち、石製品（133）、石錐（126）、削器（129）の３点と、石鏃（122）、切目石錘（137、138）の３点については、それぞれ住居跡内の同一土坑（ＳＫ92）より出土している。また、石鏃（124）、石匙（127）の２点は、住居跡内の同一ピット（ｈ78）より出土している。その他のものは覆土からの出土である。

129の削器は、自然面を打面として剥離された横長剥片を素材としている。背面は節理面で、腹面は主要剥離面がそのまま残っており、末端部に表裏両面から調整が加えられて刃部が作出されている。133の用途は不明だが、表面に擦痕が観察されるとともに、残存する一端にわずかに潰れがみられる。134、135、137の切目石錘には、両面に糸巻きの帯状痕跡が観察される。140は表面のやや上部に擦り鉢状の凹みがあり、右側縁辺部には叩打痕が集中してみられる。



第106図　第16号住居跡（ＳＢ16）出土石器(1)



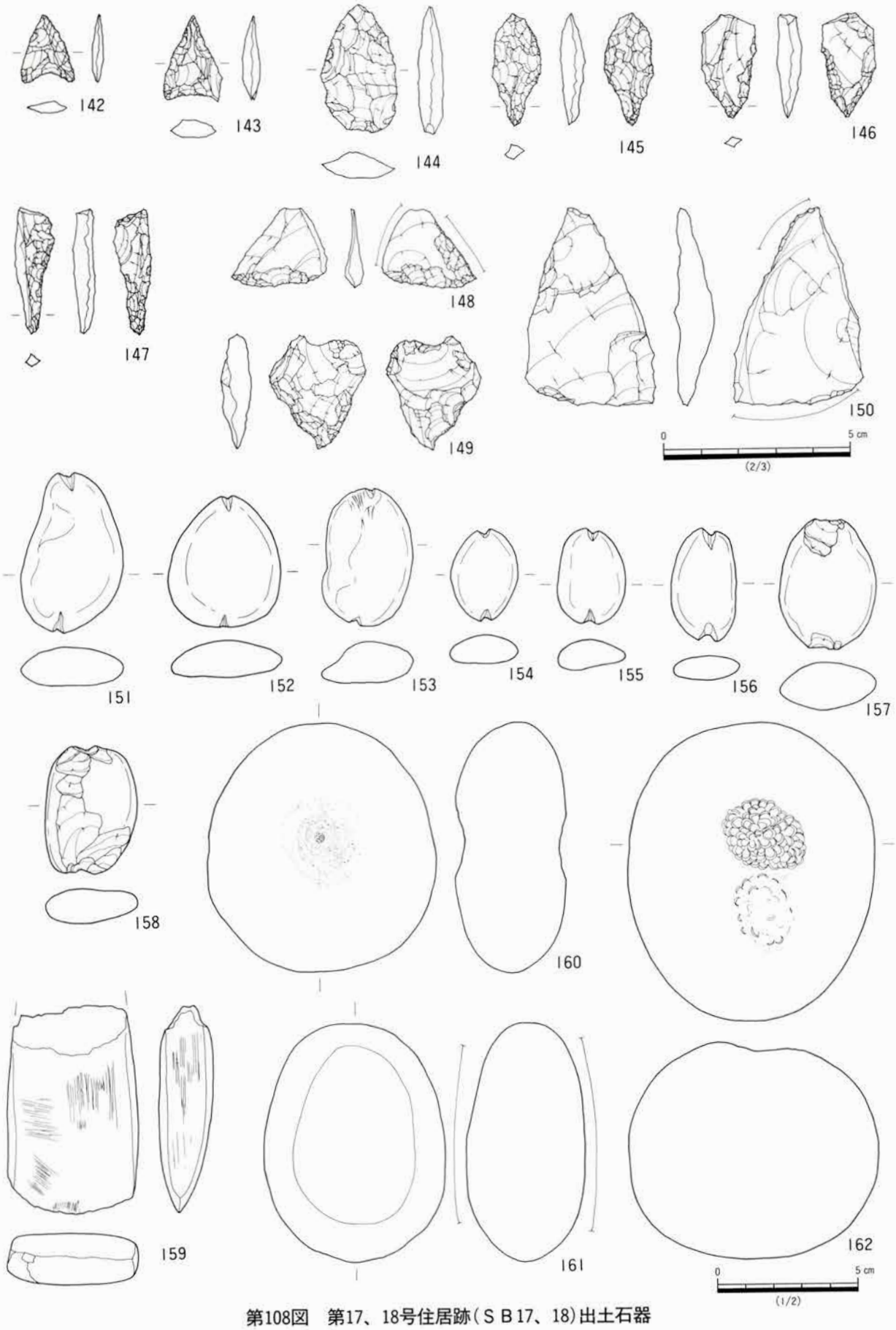
第107図　第16号住居跡（ＳＢ16）出土石器(2)

(7)　第17、18号住居跡（ＳＢ17、18）から出土した石器（第108図　142～162）

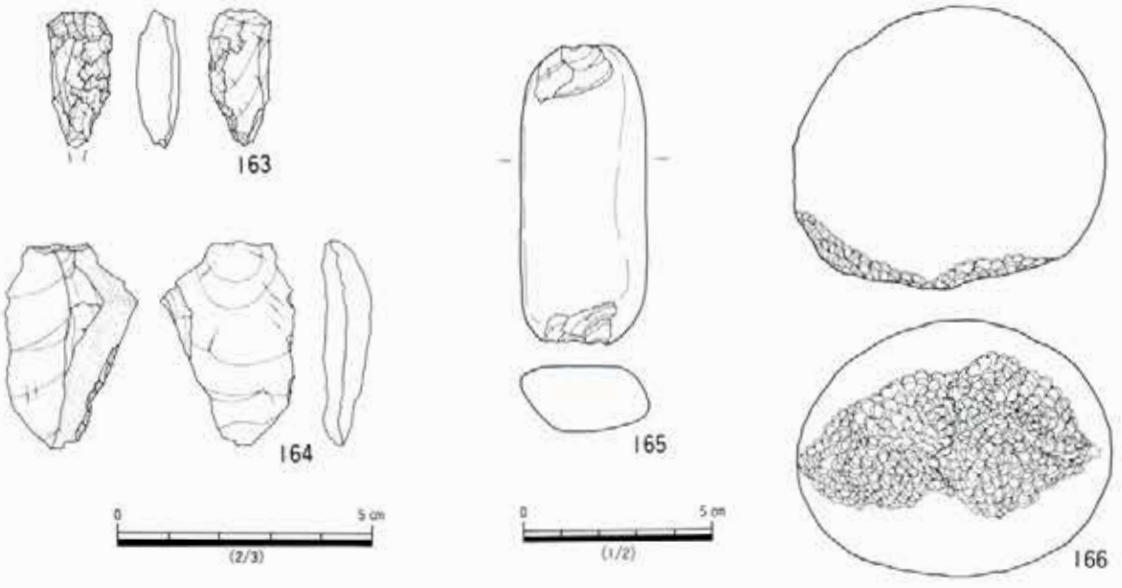
合わせて85点の石器が出土した。内訳は石鏃４点(142～144)、石錐３点(145～147)、削器３点(148、149)、ヘラ形石器１点（150)、磨製石斧１点（159)、二次加工のある剥片５点、剥片類51点、打欠石錘４点（157、158)、切目石錘10点（151～156)、磨石１点（161)、凹石２点（160、162）である。このうち21点を図示した。

図示した石器のうち、石錐（146)、削器（148)、切目石錘（153)、磨石（161)、凹石（162）は住居跡の床面直上から出土している。また、石鏃（143＝ｋ19)、打欠石錘（158＝ｋ24)、切目石錘（151＝ｋ29)、磨製石斧（159＝ＳＫ199）は、それぞれ住居跡付近のピット・土坑より出土している。その他のものは覆土からの出土である。

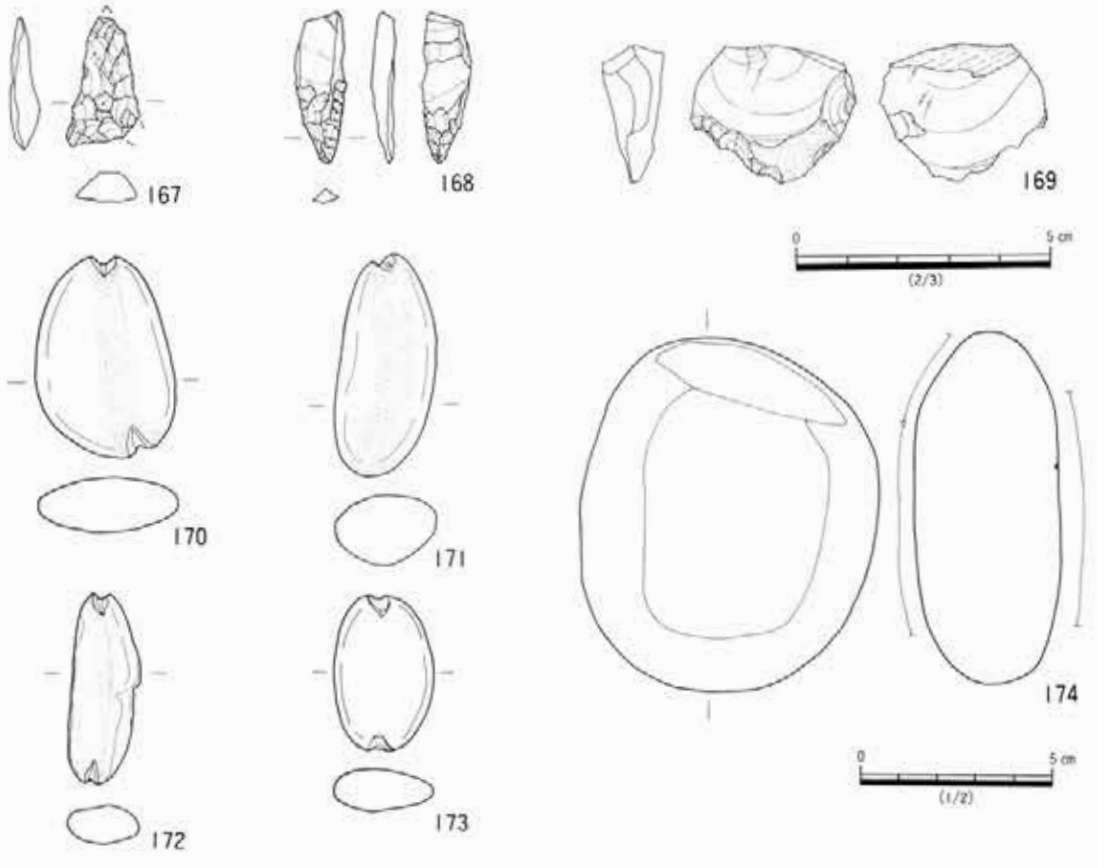
145、147の石錐の尖頭部には、使用によるものと思われる摩耗が観察される。148の削器は、103と同様に主要剥離面の打点側からバルブを潰すように二次調整が加えられているが、背面側にも調整があり両面調整によって刃部が作出されている。160は砂岩の円礫を利用した凹石で、表裏両面の中央に擦り鉢状の凹みができている。



第108図　第17、18号住居跡（ＳＢ17、18）出土石器



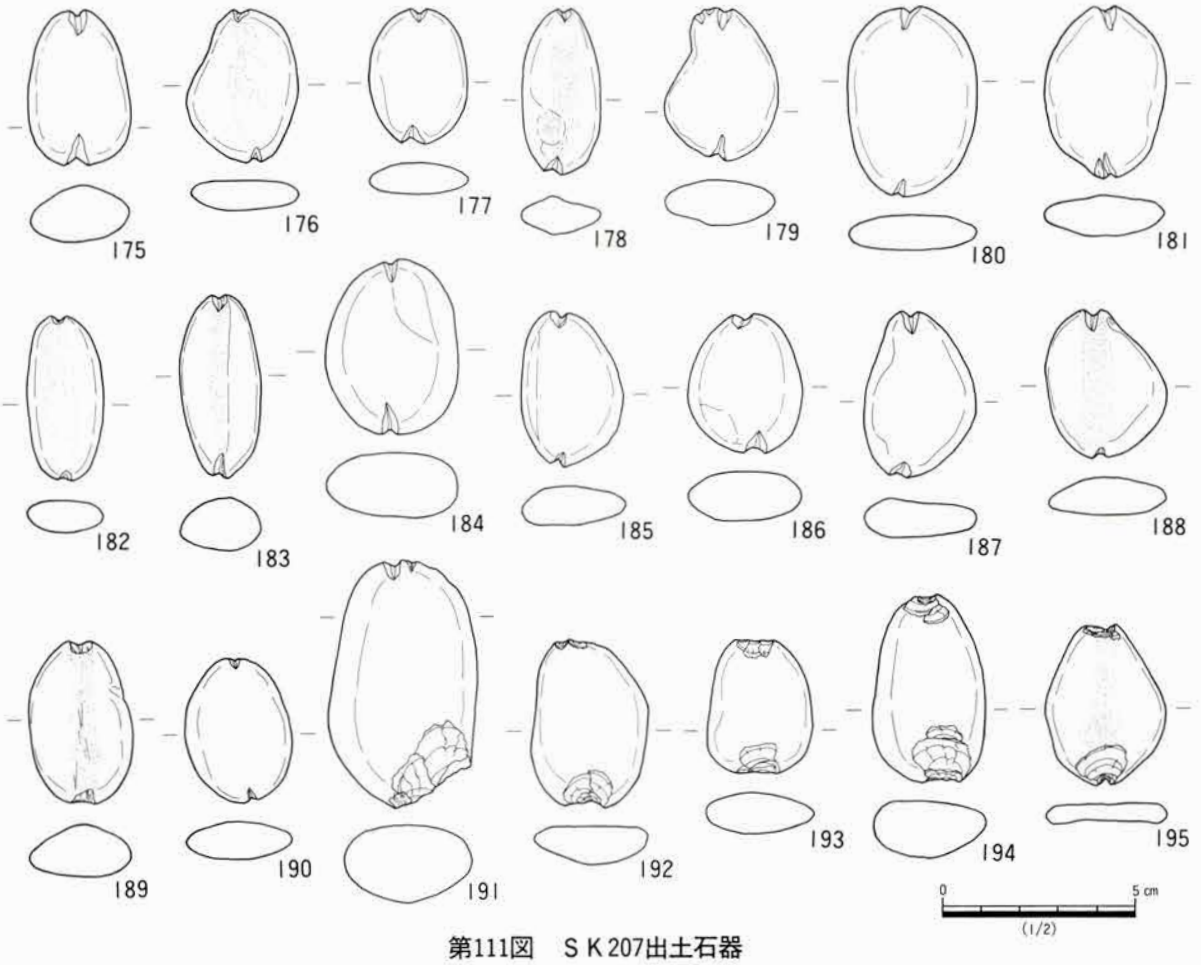
第109図　ＳＫ１出土石器



第110図　ＳＫ２出土石器

⑻　**ＳＫ１から出土した石器**（第109図、163～166）

合わせて28点の石器が出土した。内訳は石錐２点(163)、ピエス・エスキーユ１点、打製石斧１点、二次加工のある剥片３点、使用痕のある剥片４点（164)、剥片類12点、打欠石錘１点（165)、切目石錘



第111図　ＳＫ207出土石器

2点、凹石1点、敲石1点（166）である。このうち4点を図示した。

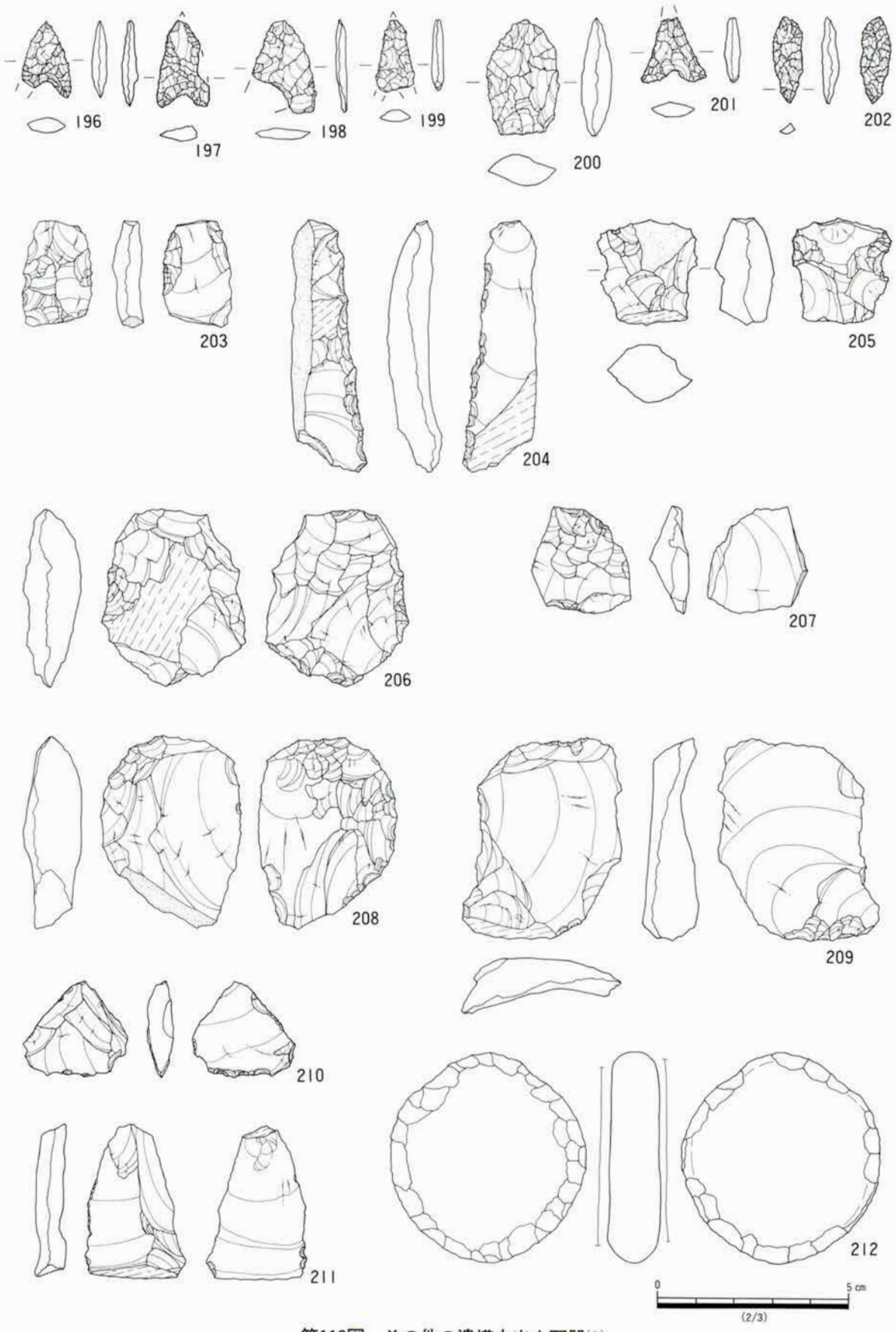
⑼　ＳＫ2から出土した石器（第110図、167～174）

合わせて35点の石器が出土した。内訳は石鏃1点（167）、石錐2点（168）、掻器2点（169）、ピエス・エスキーユ1点、石核1点、使用痕のある剥片1点、剥片類13点、打欠石錘5点（173）、切目石錘8点（170～172）、磨石1点（174）である。このうち8点を図示した。

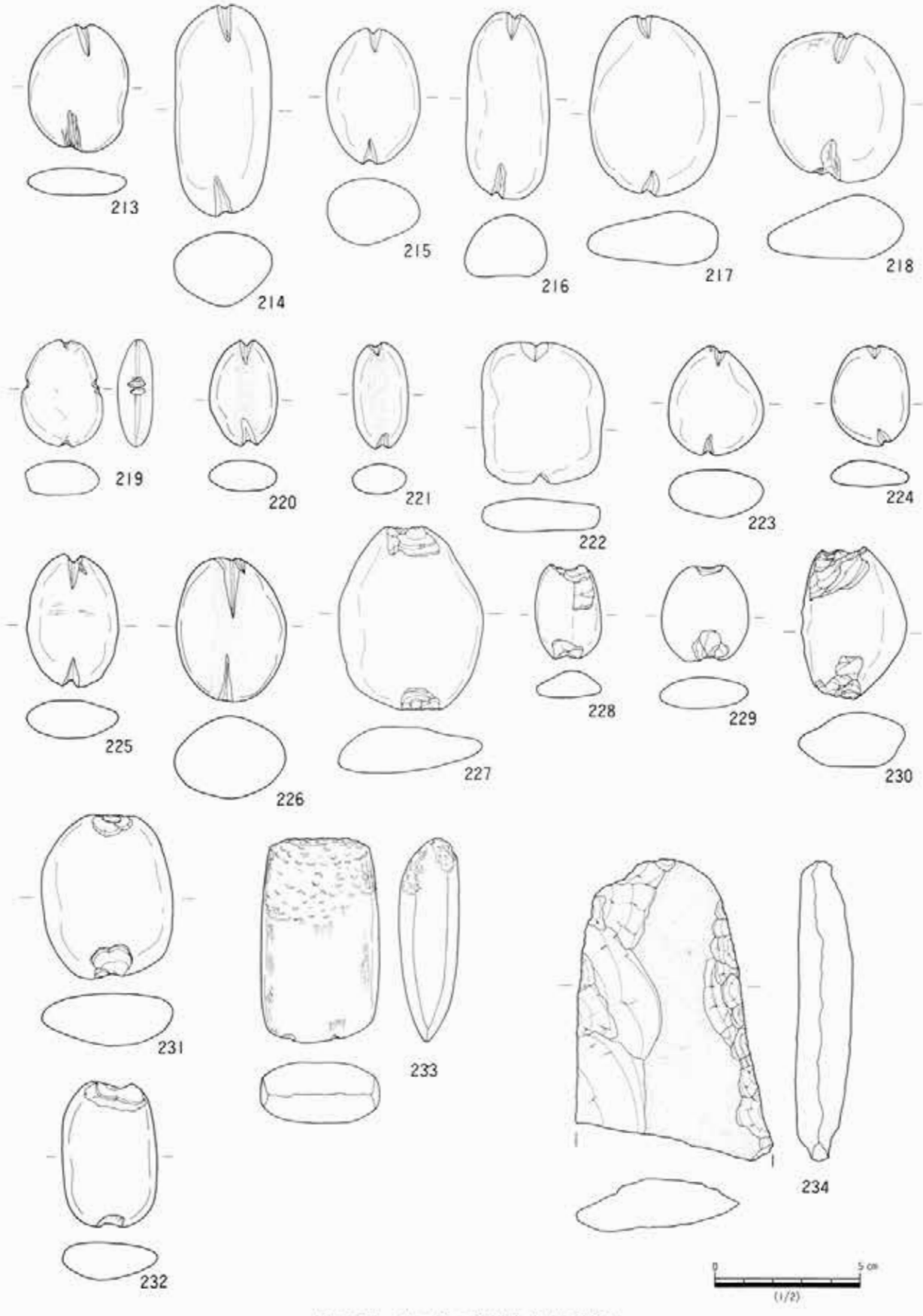
⑽　ＳＫ207から出土した石器（第111図、175～195）

合わせて29点の石器が出土した。内訳は剥片類3点、打欠石錘6点（192～195）、切目石錘20点（175～191）であり、合わせて26点の石錘の集積がみられた。このうち21点を図示した。石錘26点のうち完形のものは、打欠石錘が5点、切目石錘が16点の合わせて21点である。完形品21点の質量の平均は18.5ｇであり、10～20ｇのものが大半を占めている。中には191の切目石錘のように、一部を折損しているが60ｇを超える大きさのものもみられる。

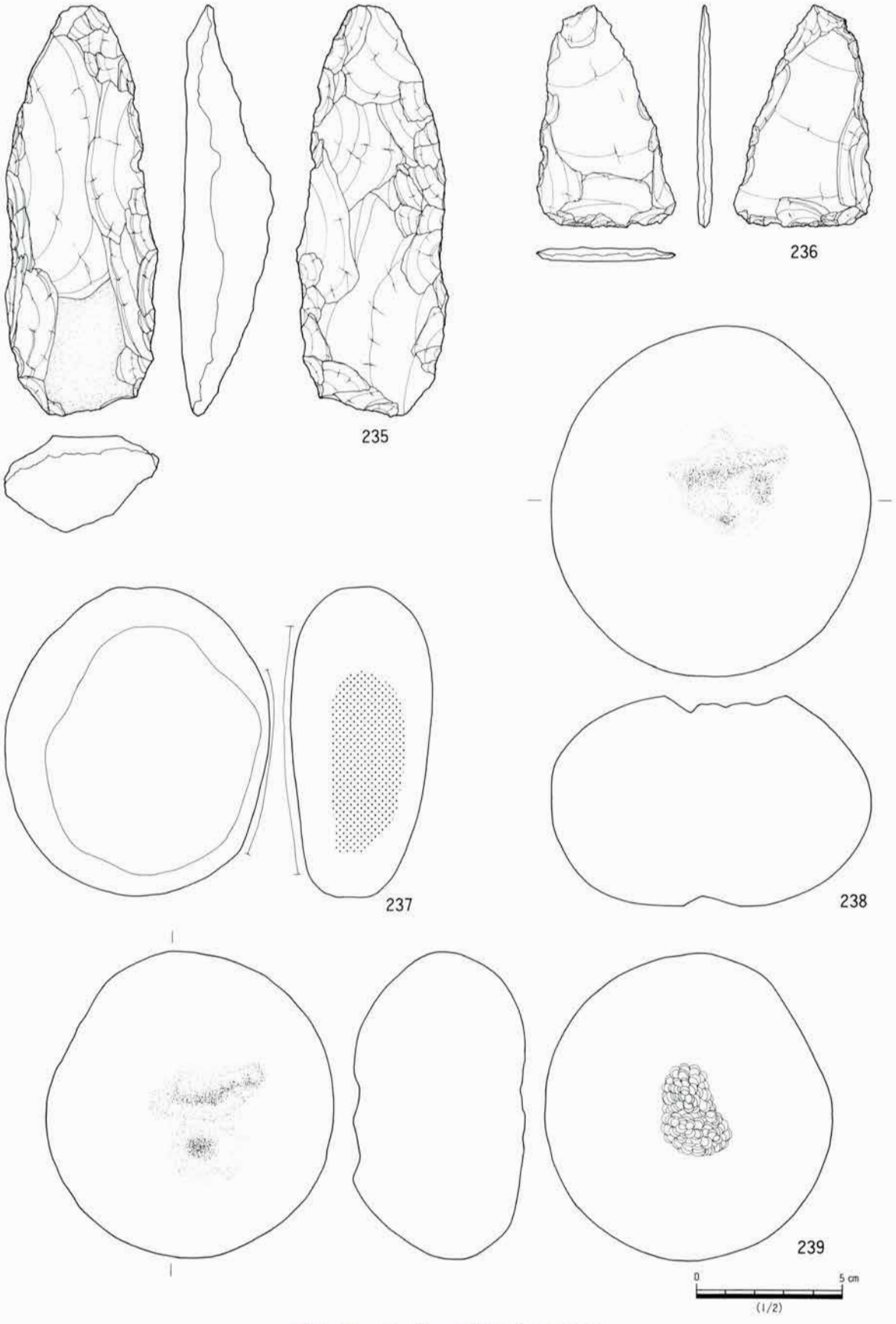
石錘に用いられている石材は、砂岩17点、泥岩2点、れき岩2点、ホルンフェルス3点、安山岩2点である。また、いわゆる「糸巻きの帯状痕跡」が両面に認められるものは、打欠石錘で2点、切目石錘で6点である。片面のみに認められるものは、打欠石錘で1点ある。



第112図　その他の遺構内出土石器(1)



第113図　その他の遺構内出土石器(2)



第114図　その他の遺構内出土石器(3)

3．器種ごとの分類

形態分類については、前回調査時の報告書（1994千藤）の項目並びに基準に基づくものとする。

(1) 石　鏃（1～3、20、21、32、40～48、88、94～99、121～125、142～144、167、196～201、240～264）

273点出土した。大きさや調整の度合いから、石鏃の未製品と考えられるものも含めた。石材別にみると、チャート248点、サヌカイト20点、下呂石4点、黒曜石1点である。このうち62点を図示した。

尖頭部と、矢柄との装着部である基部に着目してそれぞれ以下のように分類した（第115図）。そして、それぞれの石鏃を尖頭部と基部との組み合わせによって分類した。

尖頭部の分類

1類：鋭角な尖頭部を持つもの。

2類：1類と同じだが、全長が長い（全長が全幅の2倍以上）もの。

3類：鈍角な尖頭部を持つもの。

4類：先端が小さく尖り、側縁辺部の肩が張った形状を持つもの。

5類：先端が尖らず、丸いカーブを描くもの。

基部の分類

A類：基部の中央部がU字型にえぐりの入るもの。

B類：凹状のわずかなえぐりの入るもの。

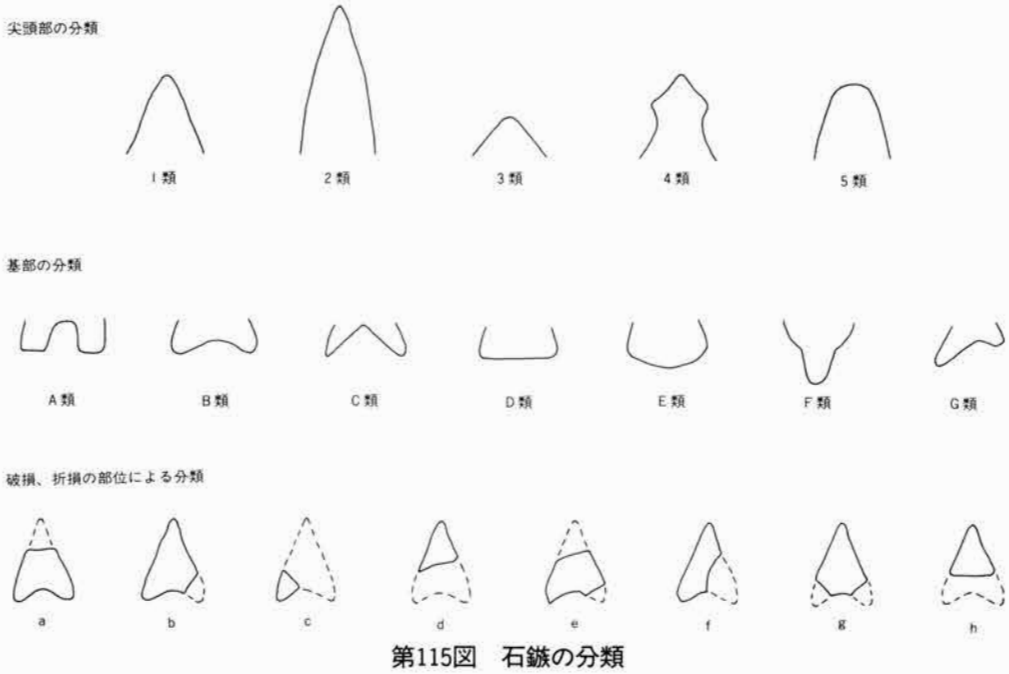
C類：深いえぐりの入るもの。

D類：いわゆる平基鏃で、基部が直線状になるもの。

E類：いわゆる円基鏃で、基部が丸みを帯びて突出するもの。

F類：いわゆる有茎鏃で、基部に茎を持つもの。

G類：いわゆる片足鏃で、基部に片方しか脚部がないもの。



第115図　石鏃の分類

折損等で形態が分からないものを除いた198点について、各類の点数は以下の通りである。

1A類（1、240、241）23点出土。

1B類（40～45、94～96、142、143、242、243）58点出土。

1C類（20、32、97、121、196、197、244、245）38点出土。

1D類（246）13点出土。1E類（247）6点出土。1G類（248）3点出土。

2A類（2、47、249）7点出土。2B類（250）3点出土。2C類（251）1点出土。

3A類（252）1点出土。3B類（253）14点出土。3C類（254）5点出土。

3D類（98、255）10点出土。3E類（256）2点出土。

4B類（99）1点出土。4C類（257）1点出土。

5A類（258）1点出土。5B類（259）3点出土。5C類（260）1点出土。

5D類（200、261）3点出土。5E類（144、262）4点出土。

破損、折損しているものについては、その部位によって分類した（第115図）。それぞれの点数は次の通りである。なお、21点を未製品とした（3、21、125、264）。

a　43点、b　70点、d　1点、e　17点、f　12点、g　9点、h　7点。

(2) 石　錐（4、22、33、49、100、126、145～147、163、168、202、265～269）

98点出土した。石材はチャート93点、下呂石2点、サヌカイト3点である。形態と尖頭部の数により、次の5つに分類した。このうち17点を図示した。145、147、168、266の尖頭部（機能部）は、使用によるものと思われる摩耗が観察される。

1類：剥片の一端を尖らせて尖頭部を作り出したもの。素材となった剥片の形を大きく変えることがなく多様な形態となり、他と比較して尖頭部が短い。（100、126、168、265）33点出土。

2類：剥片の全体を整形して尖頭部を作り出したもの。基部と尖頭部の区分は、はっきりしている。尖頭部が一端にあるもの（a類）と、両端にあるもの(b類）とがある。

2a：（4、22、33、49、145～147、163、266）49点出土。

2b：（267）8点出土。

3類：長い棒状の形態を呈し、基部と尖頭部の区分が不明瞭なもの。調整が全体に及び、形態に統一性がみられる。尖頭部が一端にあるもの（a類）と、両端にあるもの（b類）とがある。

3a：（202、268）3点出土。

3b：（269）5点出土。

(3) 石　匙（89、127、270、271）

5点出土した。石材はチャート3点、サヌカイト2点である。つまみ部分と刃部との位置関係により次の2つに分類した。このうち4点を図示した。

1類：いわゆる縦形で、つまみを上方においたとき、平行する側縁が刃部となるもの。（271）1点出土。271は、横長剥片を素材としており、背面には自然面が広く残り、腹面には主要剥離面並びに打点が観察される。剥離の末端につまみ部と刃部を両面調整によって作出しており、刃部は1カ所である。

2類：いわゆる横形で、つまみを上方においたとき、直交するその下端の縁辺部が刃部となるもの。（89、127、270）4点出土。270は、素材となった剥片の打点側に両面調整によって刃部を作出し、末端側につまみ部を作出している。

⑷ 掻　器（90、104、105、169、208、209、272、273）

急角度に調整された刃部を持つ石器を掻器とした。37点出土した。石材はすべてチャートである。刃部の位置により、次の2つに分類した。このうち8点を図示した。

1類：片面の1ヵ所に刃部をつけたもの。（90、104、105、169、209、272）30点出土。209は、縦長剥片を素材としており、打点側に片面調整によって刃部を作出したもの。

2類：表裏に、1ヵ所ずつ反対側の位置になるように刃部をつけたもの。（208、273）7点出土。

⑸ 削　器（23、24、91、101～103、128～130、148、149、203～206、274～276）

剥片の縁辺に連続的な調整によって刃部を作り出した石器を削器とした。122点出土した。石材はチャート117点、サヌカイト3点、安山岩1点、黒曜石1点である。刃部の作出方法により、次の2つに分類した。このうち18点を図示した。

1類：縦長(横長)剥片を素材とし、片面加工により刃部を作出したもの。(23、24、101、203、275)43点出土。

2類：縦長（横長）剥片を素材とし、両面加工により刃部を作出したもの。（91、102、103、128～130、148、149、204～206、274、276）79点出土。91、129、204、274は、腹面に主要剥離面と打点が観察される。

⑹ ピエス・エスキーユ（25、106、107、277～279）

向かい合った二辺ないしは四辺の縁辺部に、剥離痕やつぶれが認められる石器をピエス・エスキーユとした。32点出土した。石材はすべてチャートである。剥離痕の見られる部位と長さ・幅を比較して次の3つに分類した。このうち6点を図示した。

1類：縦長で縦に一対の剥離痕のみられるもの。（25、106、107、278）22点出土。

2類：1類以外で、一対の剥離痕のみられるもの。（279）5点出土。

3類：二対以上の複合的な剥離痕のみられるもの。（277）5点出土。

⑺ ヘラ形石器（5、50、51、150、207、280）

剥片の両側を折り取り、長軸方向の一端に刃部を持つ石器をヘラ形石器とした。40点出土した。石材はすべてチャートである。このうち6点を図示した。51は、節理面を打面として剥離された縦長剥片で、打点側を刃部としている。280は、主要剥離面の末端に微細な連続する剥離痕が観察される。

⑻ 打製石斧（16～18、82、234～236、313～315）

105点出土した。石材は安山岩76点、ホルンフェルス15点、砂岩13点、流紋岩1点である。形状から次の3つに分類した。このうち10点を図示した。

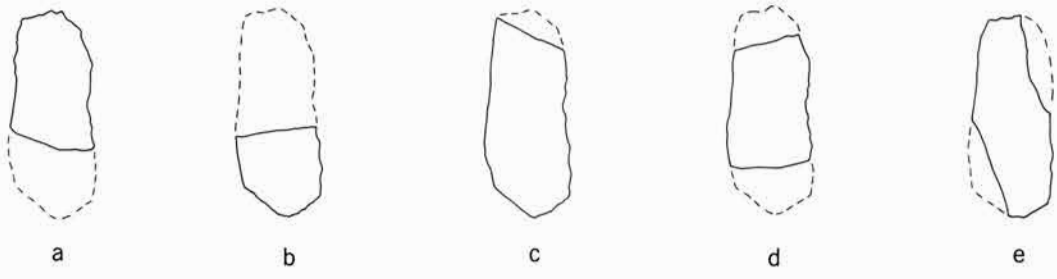
1類：胴部がほぼ平行な、いわゆる短冊型と呼ばれるもの。（16、82、313）35点出土。

2類：胴部がくびれる、いわゆる分銅型と呼ばれるもの。（314）5点出土。

3類：形状が基部に向かってやや収束する、いわゆるバチ型と呼ばれるもの。（17、18、235、236、315）41点出土。

折損した部位によって第116図のように分類した。それぞれの点数は、次の通りである。

a：14点、b：23点、c：1点、d：7点。



第116図　打製石斧の折損の部位による分類

(9) 磨製石斧（83、159、233、316～322）

27点出土した。この中には、磨製石斧の破片と思われるもの5点、未製品としたもの2点を含む。石材は片岩13点、安山岩8点、砂岩4点、蛇紋岩1点、ホルンフェルス1点である。形態と石斧の大きさから次の4つに分類した。このうち10点を図示した。

1類：全幅と全厚がほとんど変わらず、基部の断面が円形になるもの。

2類：1類以外のもののうち、全幅が14㎜～30㎜のもの。（83、316、317）4点出土。316の刃部には、摩耗した痕跡が観察される。317は全幅が9㎜と他と比較しても特に細身であるが、この類に含めた。

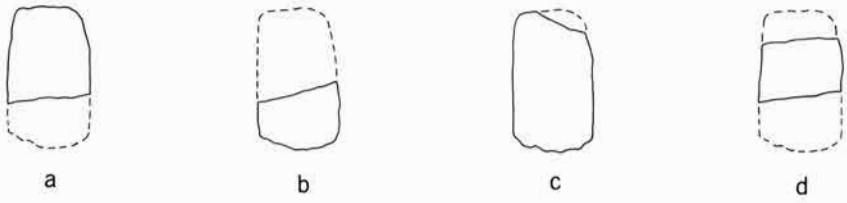
3類：1類以外のもののうち、全幅が40㎜～70㎜のもの。（159、233、318～322）16点出土。233、319、320の基部には、柄に装着した際の痕跡と思われる潰れが観察される。321は、今回出土した磨製石斧の中では、最大のものである。

4類：1類以外のもののうち、全幅が100㎜のもの。

このうち今回の調査では2類と3類のみしか出土していない。

折損した部位によって第117図のように分類した。それぞれの点数は、次の通りである。

a：5点、b：7点、d：2点、その他1点。



第117図　磨製石斧の折損の部位による分類

⑽ **石　核**（56、110、111、132、282～285）

79点出土した。石材はチャート74点、砂岩3点、サヌカイト2点である。このうち8点を図示した。56は打面が2つあり、まず自然面を打面として剥離作業を行い、のちに90°の打面転移を行い、作業面を打面として次の剥離作業を行っている。節理の多いチャートの分割礫を用いている。110は打面が4つ、作業面が3つあり、打面転移を繰り返して剥離作業を行っている。132はチャートの円礫を用いており、自然面をそのまま打面として4方向より剥離作業を行っている。282はチャートの剥片の表裏両面をそれぞれ作業面として、180°の打面転移をして剥離作業が行われている。283も打面転移を繰り返して剥離作業が行われた残核であり、打面が5つある。284はサヌカイトの分割礫を用いて、主要剥離面を打面として3方向から剥離作業を行っている。285は砂岩の扁平な円礫を用い、平らな自然面を打面として周囲に剥離作業を行っている。得られた剥片の背面には自然面が広く残るものと思われる。接合はしなかったものの、砂岩の剥片の中に見られる資料（55、286～288）との関連が深いものと考える。

⑾ **二次加工のある剥片**（6、34、210）

剥片の側縁に大小の剥離痕を連続して施したものを二次加工のある剥片とした。153点が出土した。石材はチャート150点、下呂石2点、安山岩1点である。このうち3点を図示した。

⑿ **使用痕のある剥片**（7、52、108、109、131、164、211）

剥片の側縁に微細な剥離痕が密接して、あるいは不規則に観察されるものを使用痕のある剥片とした。135点出土した。石材はチャート133点、下呂石1点、安山岩1点である。7点を図示した。

⒀ **剥片類**（54、55、286～288）

4,401点出土した。石材はチャート4,103点、安山岩83点、砂岩78点、サヌカイト61点、下呂石28点、ホルンフェルス18点、水晶12点、黒曜石11点、石英7点である。このうち5点を図示した。

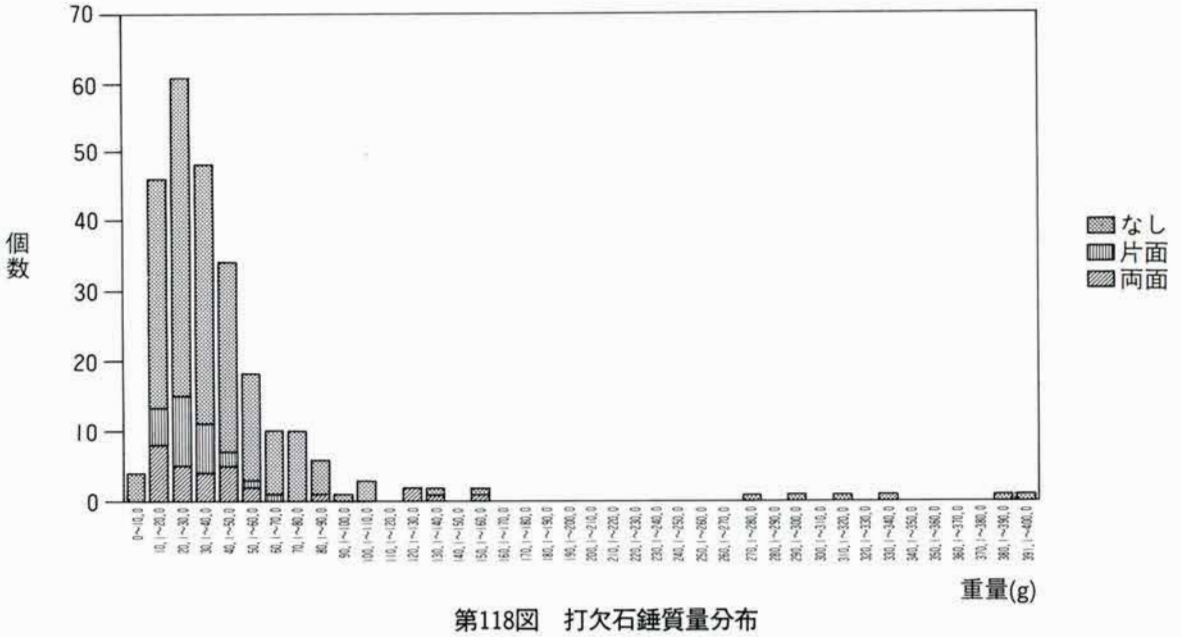
⒁ **未製品**（53、281）

45点出土した。石材はチャート42点、安山岩2点、水晶1点である。このうち2点を図示した。

⒂ **打欠石錘**（14、15、29、37、38、75～81、93、114～118、139、157、158、165、173、192～195、227～232、307～312）

315点出土した。石材は砂岩242点、安山岩15点、ホルンフェルス36点、閃緑岩5点、れき岩4点、凝灰岩1点、泥岩12点である。このうち39点を図示した。打ち欠き部分は、長軸方向の両端に2～4回の剥離によって作出されているものがほとんどである。折損のみられないもの253点について、質量分布を第118図に示した。10g～50gに集中がみられるが、中には200g以上のものも存在する。312は、質量が394.6gでサイズ的にも最大のものである。

いわゆる「糸巻きの帯状痕跡」がみられるものは66点であり、そのうち片面だけにみられるものが35点、両面にみられるものは31点である。200g以上のものには、帯状痕跡はみられない。



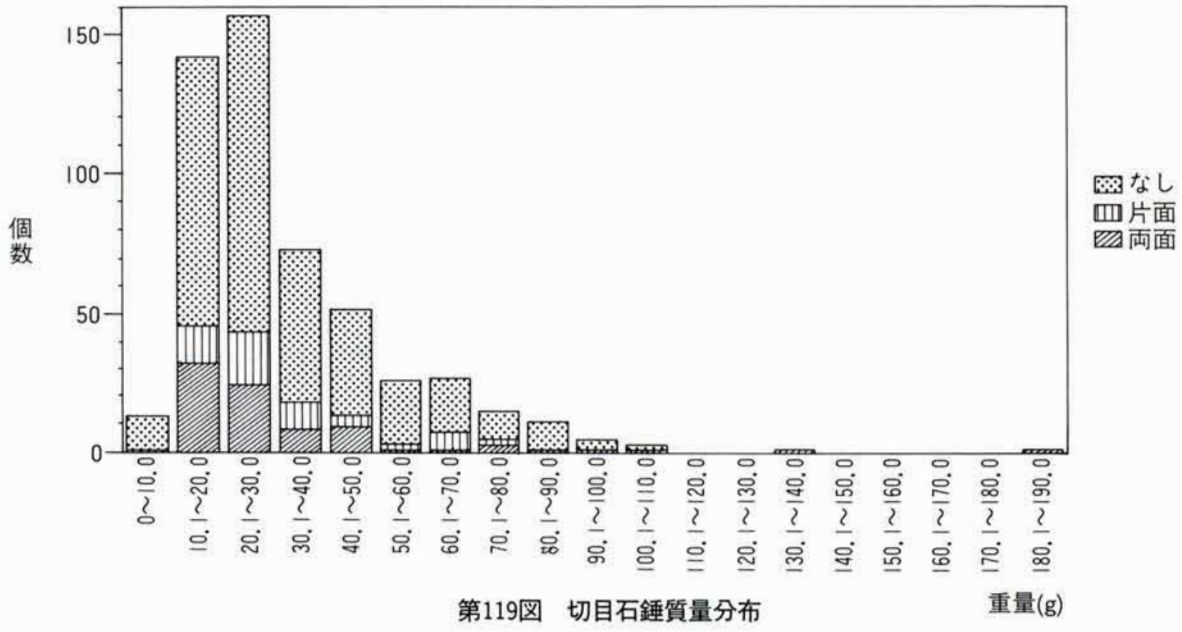
第118図　打欠石錘質量分布

(16) **切目石錘**（8～13、26～28、35、36、57～74、92、112、113、134～138、151～156、170～172、175～191、213～226、289～306）

812点出土した。石材は砂岩577点、ホルンフェルス111点、泥岩39点、れき岩36点、安山岩35点、凝灰岩6点、閃緑岩4点、ひん岩2点、片岩1点、流紋岩1点である。このうち95点を図示した。長軸方向に切目があるものがほとんどであるが、219は長軸方向の一対の切目だけでなく、短軸方向にも切目が施されている。右側面には大小2つの切目があり、4ヶ所にあわせて5つの切目が施されている。

折損のみられないもの526点について、質量分布を第119図に示した。10g～30gに集中が見られる。打欠石錘の分布と異なり、例外的に大きなものは存在しない。

糸巻きの帯状痕跡がみられるものは187点であり、そのうち片面だけにみられるものが88点、両面にみられるものは99点である。



第119図　切目石錘質量分布

289、296は、上下の切目が奥深くまで入っており、表裏両面とも上下の切目がほぼつながっている。291は、表面の一部にほぼ同じ方向に擦ったと思われる擦痕が観察される。また294、301、302は、磨面として使用されたと思われる部分が観察される。294は、右側面に擦痕がみられる。301の表面には、平らになったツルツルした部分がみられる。302の左側面は、平らに面取りされたようになっている。304は質量が5.4ｇと最少のものであるが、下側の切目は作出されておらず、上側の切目の作出もわずかである。305は上下両端を折損しているが、中央部に切目の一端が観察されたため、切目石錘とした。断面形は楕円形に近い。306は切目石錘としては最大のものであり、切目部分の周辺には糸かがりによるものと思われる摩耗痕が観察される。

⑰ 磨石・凹石・敲石・叩石（19、30、31、39、84～86、120、140、141、160～162、166、174、237～239、324～333）

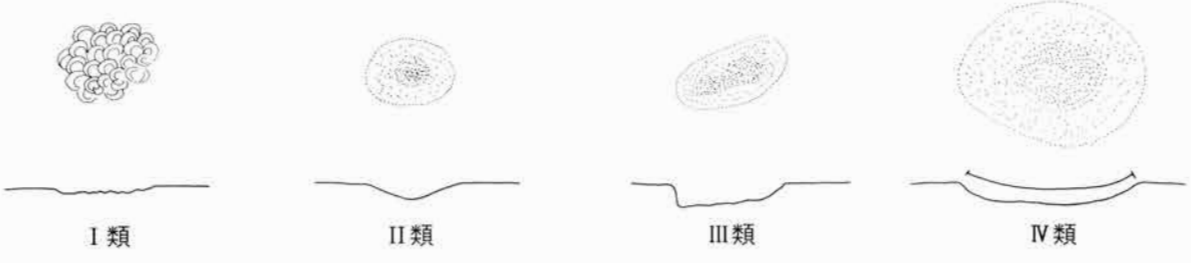
あわせて238点出土している。このうち28点を図示した。石材は砂岩160点、安山岩66点、閃緑岩７点、れき岩２点、凝灰岩２点、ひん岩１点である。これらの石器はいくつかの機能を併せ持つものが多いため、まずはそれぞれ単一の機能ごとに着目して分類した。その上で、個々の石器がどのような機能を有するのかをまとめた。

凹石の分類

川原石の片面あるいは両面に凹みを有するものを凹石とした。137点出土した。

凹みの形状と、凹みの位置を次のように分類した（第120図）。

凹みの形状による分類



凹みの位置による分類

第120図　凹石の分類

凹みの形状による分類　（実測図での凹みの表現は基本的にこの模式図に合わせた。）

Ⅰ類：細かい敲打痕が集中して凹みをつくっているもの。

Ⅱ類：擦り鉢状に凹みができているもの。敲打によるものでなく擦られたものと思われる。

Ⅲ類：右上がりの大きな凹みを有するもの。

Ⅳ類：径が４cm以上の大きな凹みを有し、凹みの表面に磨痕が見られるもの。

凹みの位置による分類

a類：中心に凹みが1つあるもの。

b類：中心からずれて凹みが1つあるもの。

c類：2つ以上の凹みが、中心付近で重なってあるもの。

d類：2つ以上の凹みが、中心付近で離れてあるもの。

e類：3つ以上の凹みが不規則にあるもの。

それぞれの分類の凹みを1面だけでも持っている個体数を第7表に示した。表裏で異なる凹みを持っているものは、別々に数えた。凹みの形状としては、Ⅰ類のものが最も多くなっている。

また両面に凹みのあるものは82点あるが、表裏の凹みの種類の組み合わせについて第8表にまとめた。Ⅰ類とⅠ類の組み合わせが最も多く、Ⅱ類とⅡ類、Ⅰ類とⅡ類の組み合わせのものがその半数ほど見られる。Ⅰ類とⅢ類の組み合わせのものも少数みられる。Ⅱ類とⅢ類の組み合わせのものは1点もない。この点については、戸入村平遺跡報告書において、使用方法が異なるという側面から検討が加えられている。

第7表　凹石の分類別出土点数

	a類	b類	c類	d類	e類
Ⅰ類	69	31	14	12	3
Ⅱ類	27	12	18	10	1
Ⅲ類	10	4	3	3	0
Ⅳ類	1	0	0	0	0

第8表　凹石の表裏面の凹みの組み合わせ

	Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	Ⅳ類
Ⅰ類	37	16	9	0
	Ⅱ類	19	0	0
		Ⅲ類	1	0
			Ⅳ類	0

磨石の分類

川原石の表面のどこかに明瞭な磨面のあるものを磨石とした。160点出土した。

磨石の種類と、磨面の位置によりそれぞれ次のように分類した（第121図）。

磨面の種類による分類　（実測図での凹みの表現は基本的にこの模式図に合わせた。）

1類：敲打によって一定の面を作出した後に使用され、ザラザラとした感触のある磨面。

2類：自然面を加工することなくそのまま使用し、ツルツルした磨面。

3類：面の作出は1類と同じであるが、面の中央部分が凹んでいるもの。

磨面の位置による分類

a類：川原石の片面もしくは両面のほぼ全面を使用しているもの。

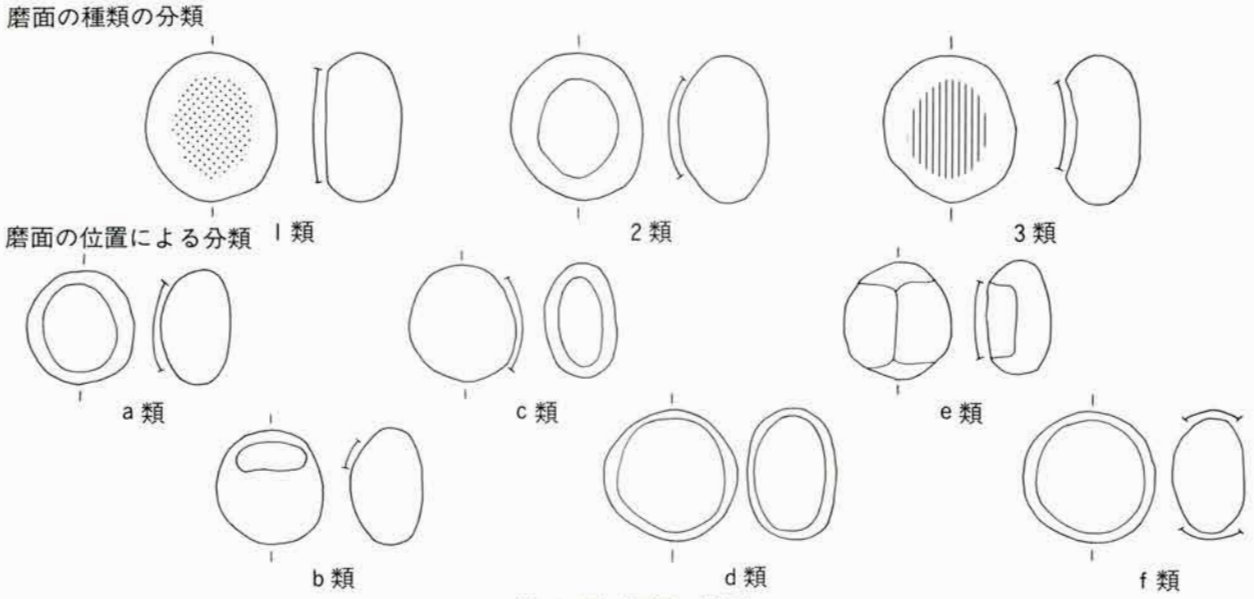
b類：川原石の片面もしくは両面の一部分を使用しているもの。

c類：石の長軸側側面を使用しているもの。

d類：石の全面を使用しているもの。

e類：一つの面に異なる磨面がいくつかつくられているもの。

f類：石の側面ほぼ全周を使用しているもの。



第121図　磨石の分類

磨石の機能を有する160点のうち、1類～3類のそれぞれの種類の磨面を有するものの点数は、1類の磨面を有するものが37点、2類の磨面を持つものが124点、3類の磨面を有するものが3点となっている。複数の種類の磨面を持つものについては、重複して数えてある。

叩　石

川原石の側面に、叩打痕を持つもので、叩打痕が一部に集中しているものを叩石とした。ハンマーのようなものを叩く使用が想定できよう。38点出土した。機能部としての叩打痕が1カ所にみられるものは28点、2カ所にみられるものは9点、3カ所にみられるものは1点である。

敲　石

川原石の側面に、敲打痕を持つもので、打痕が1ヵ所に集中せず、ある程度の広がりを持つものを敲石とした。ものをすりつぶすような使用が想定できよう。6点出土した。

以上4つの機能について、個々の石器がどのような組み合わせで併せ持っているのかをまとめてみると、以下の通りである。

・凹石としての機能のみを持つもの　54点。（141、160、162、238、239）

141は砂岩の円礫を利用しており、表裏両面に1カ所の凹み部がある。表面には中心からややずれた箇所にII類の凹みがあり、裏面にはほぼ中央部にⅠ類の凹みがある。162は表面の中心付近にやや離れて2カ所の凹みがみられる。上方の凹みはⅠ類で明瞭に観察されるが、下方の凹みはわずかな痕跡のみである。238は表裏両面のほぼ中心部にともにIII類の凹みがみられる。239の表面には中心部にIII類の凹みが2カ所重なるように見られるとともに、裏面には中心部に浅いⅠ類の凹みがみられる。

・磨石としての機能のみを有するもの　84点。（30、31、39、161、174、237、326、327、328）

161は砂岩の円礫の表裏両面のほぼ全面が、自然面をそのまま使用したツルツルした2類の磨面である。174も同様であるが、表面には磨面が2カ所みられる。237の表面には2類の磨面が広くみられ

るとともに、右側面にも1類の磨面がみられる。327は、表面のほぼ全面に3類の磨面が見られる。328は表面と下面に1類の磨面がみられるとともに、裏面はほぼ全面が3類の磨面となっている。

・叩石としての機能のみを有するもの　6点。

・敲石としての機能のみを有するもの　2点。（166、324）

166は砂岩の円礫の一端に、広く敲打痕が見られ、使い込まれた印象を受ける。324は細長い棒状の河原石の長軸方向の一側面の全体に敲打痕が認められる。断面形は、機能部を底辺とする二等辺三角形に近い形状である。

・磨石と凹石、2つの機能を併せ持つもの　57点。（84～86、120、331）

85の表面の中心部にはII類の凹みがほぼ重なるようにみられ、裏面はほぼ全面が2類の磨面となっている。86は表面のほぼ全面が2類の磨面であり、その磨面を切って中心部のやや上方にII類の凹みがみられる。331は円礫のほぼ全面が2類の磨面として使用されているとともに、表裏両面ともに中心付近にやや離れてII類の凹みがみられる。また左側面の中央部にも、凹みが観察される。

・磨石と叩石、2つの機能を併せ持つもの　11点。

・磨石と敲石、2つの機能を併せ持つもの　1点。

・凹石と叩石、2つの機能を併せ持つもの　12点。（19、140）

140は表面のやや上方にI類の凹みがみられるとともに、右側面に叩打痕が集中してみられる。

・凹石と敲石、2つの機能を併せ持つもの　2点。（327）

327は、砂岩の円礫の表裏両面ともに2カ所のI類の凹みが中心付近に離れてみられる。また左右両側縁辺部並びに下面に粗い敲打痕が広がっている。

・磨石と凹石と叩石、3つの機能を併せ持つもの　8点。（325、329、330、333）

325は細長い円礫の表面の中心部よりやや下方にI類の凹みがみられるとともに、左右両側面は自然面をそのまま使用した2類の磨面となっている。また長軸方向の一端にわずかに叩打痕がみられる。329は円礫の表面のやや上方にI類の凹みがみられるとともに、左側面には1類の磨面がみられる。また下部面の一部には叩打痕が観察される。330は表裏両面のほぼ中央部にI類の凹みがみられるが、表面の凹みは2類の磨面を切って作出されている。また下部面に叩打痕がみられる。333は表面並びに右側面に2類の磨面がみられる。裏面の中心部よりやや下方にはI類の凹みが、左側面にはIII類の凹みがみられる。また長軸方向の両端には叩打痕が観察される。

・磨石と凹石と敲石、3つの機能を併せ持つもの　1点。（332）

332は、砂岩の円礫の表裏両面のほぼ中心部にI類の凹みが浅くみられ、その周りは2類の磨面となっている。また右側面は一面に敲打痕が広がり、赤色顔料の付着がみられる。

(18) 石　皿（87、344～347）

13点出土した。石材は砂岩6点、安山岩5点、閃緑岩2点である。このうち5点を図示した。87は、第12号住居跡の埋土より出土している。平らな中央部に敲打の対象となったような機能部が観察される。344は最も大型のものであり、中央部に凹みを持つ。345は両面ともに中央部に機能部としての凹みがみられる。346も大型の石皿であり、凹みの一部には特にツルツルとした磨痕がある。347はほぼ中央部にて折損している。

(19) 砥　石（119、323）

6点出土した。石材はシルト2点、安山岩4点である。このうち2点を図示した。折損しているものがほとんどである。323は、表裏両面のほぼ全面に擦痕がみられる。

(20) 石　棒（334～337）

4点出土した。すべて折損している。334は、全体を丁寧に敲打して棒状に整えられており、頭部下のくびれ部には擦痕がみられる。335は、長軸方向に直交する溝が作出されている。また斜状の線刻が表面から側面にかけて施されている。334、335については、被熱の痕がみられる。337は、断面形が円形になるものであり、研磨によって仕上げられている。

(21) 石　刀（338）

1点出土した。338は、上下並びに表裏面を折損しているが、左右の側面に研磨が認められ稜が作出されていることから、石刀の折損したものとした。

(22) 鈎形石製品（342）

1点出土した。342は、全体に及ぶ縁辺部からの二次調整によって、丁寧に整形されている。表面は摩滅が激しく、トロトロした感じになっている。

(23) 円盤状石製品（212）

1点出土した。212は、砂岩の薄い板状の素材の側縁全縁を打ち欠いて整形している。表裏面はツルツルした磨面となっている。前回調査時に出土したものより、大きさは一回り小振りである。

(24) 石製品類（133、339～341）

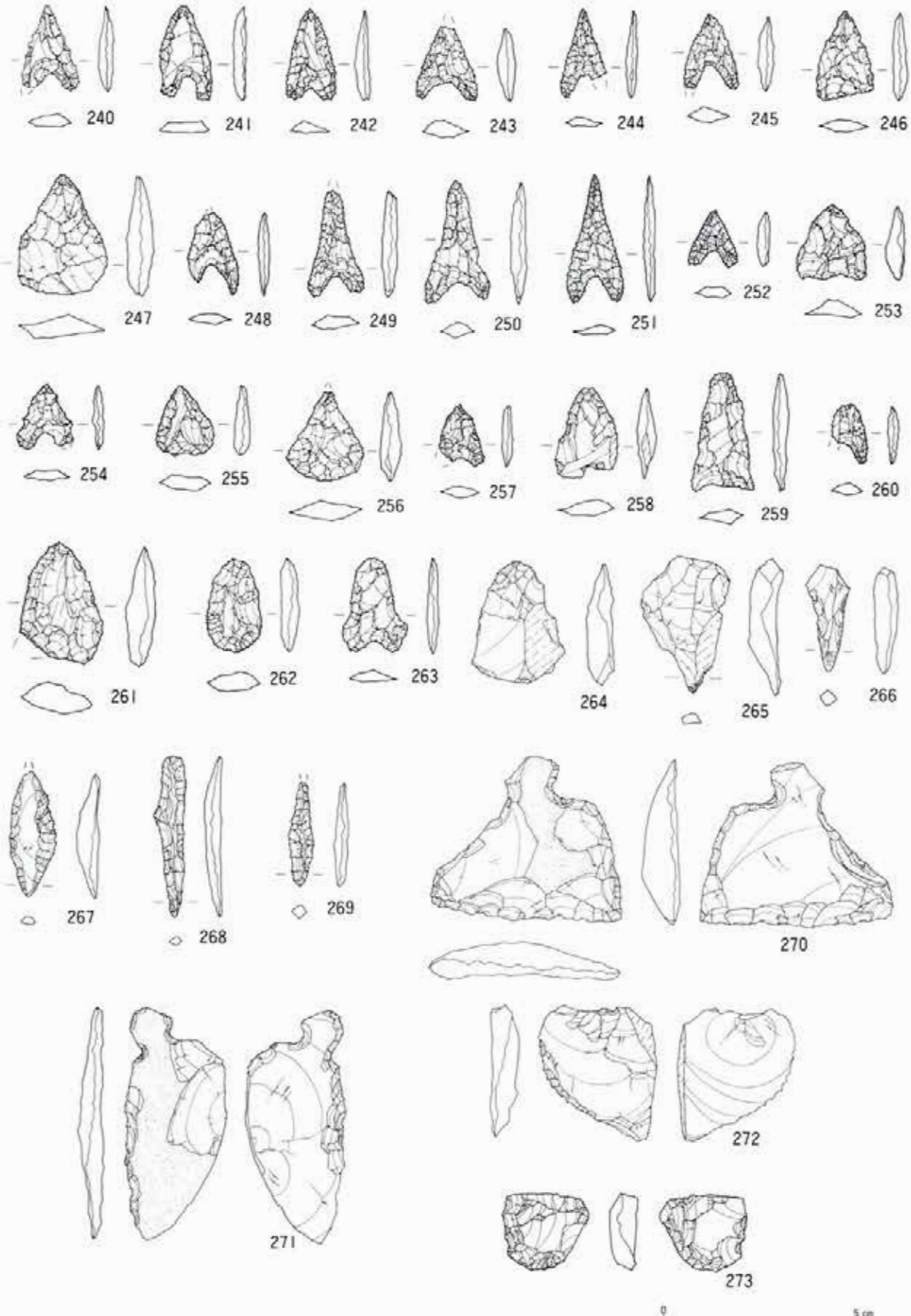
4点出土した。339～341は、垂飾りだと思われる。339は全面を丁寧に研磨して仕上げており、表面側からの一方向によって穿孔されている。340は表裏両面からの擦り切りによって穿孔されている。表面には擦痕がみられる。314は穿孔作業の途中に折損してしまったものの、接合資料である。表裏両面からそれぞれ穿孔作業が行われているが、その中心がずれてしまっている。全体は丁寧に研磨されていて、同じ方向の擦痕がみられる。一対の切目は、装飾的なものと思われるが、切目石錘の糸かがり部との関連や整形のための擦り切り工程の途中なのかなど、今後の検討を要する。

(25) 異形石器（343）

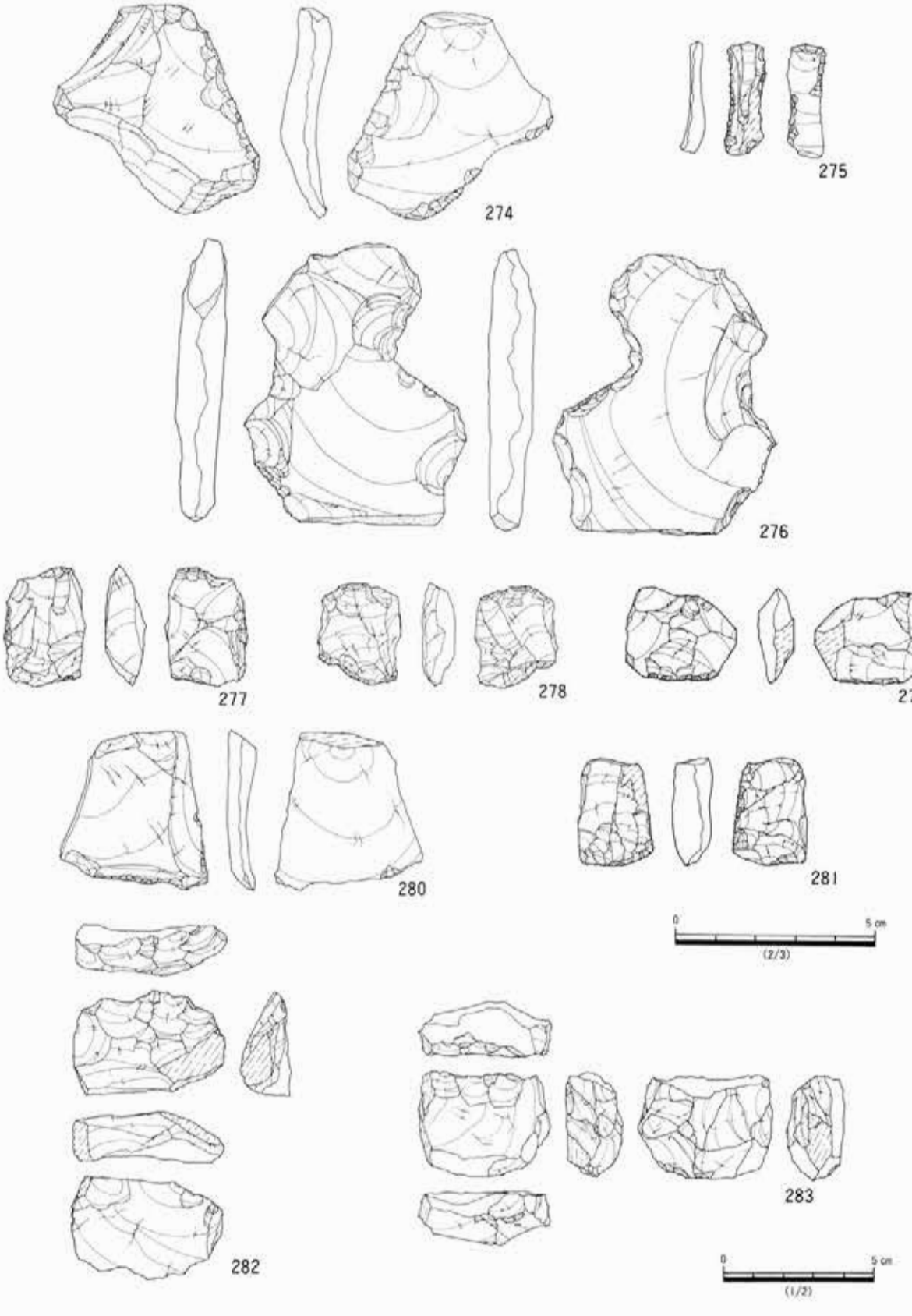
1点出土した。343は、いわゆるトロトロ石器と似た形態をしているが、石器表面のどこにも研磨された部分が認められないため、異形石器とした。緻密な二次調整が全面に施されている。

(26) 粗製礫器（348）

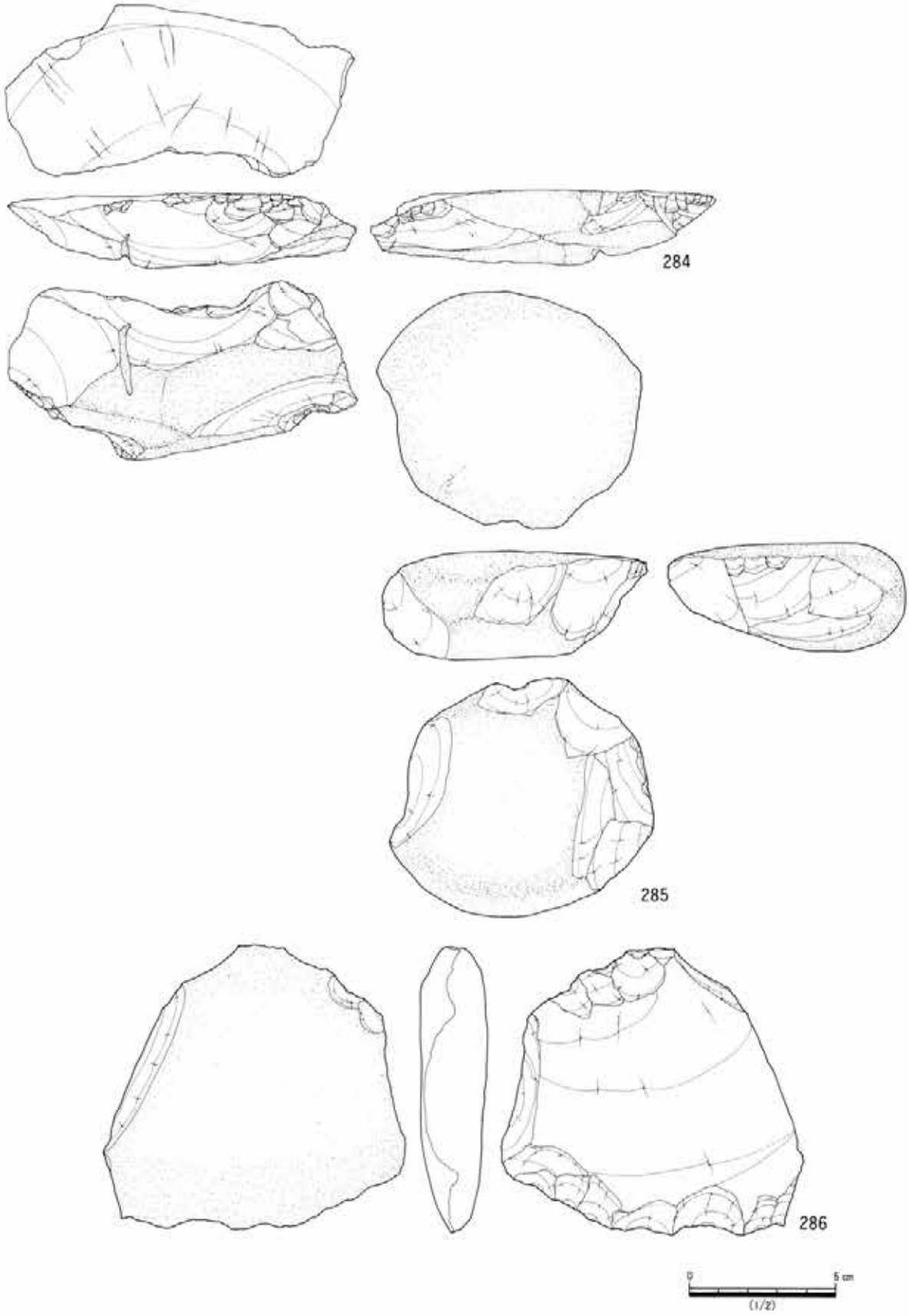
砂岩の扁平な楕円礫の側縁部に連続する調整を加えたものを粗製礫器とした。1点出土した。348は、片方の側縁部に両面調整が粗くなされている。刃部としたものか、今後の検討を要する。



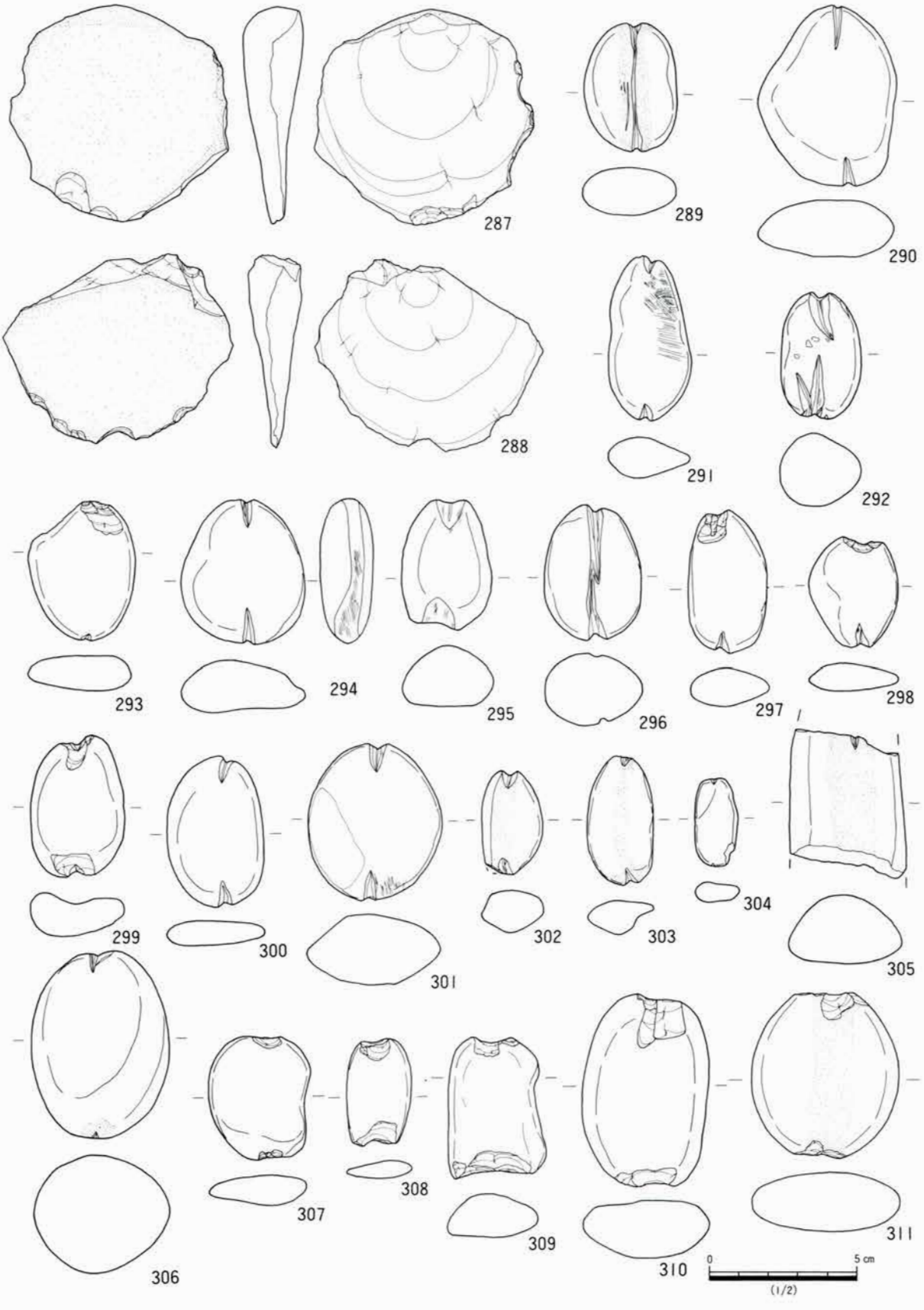
第122図　遺構外出土石器(1)



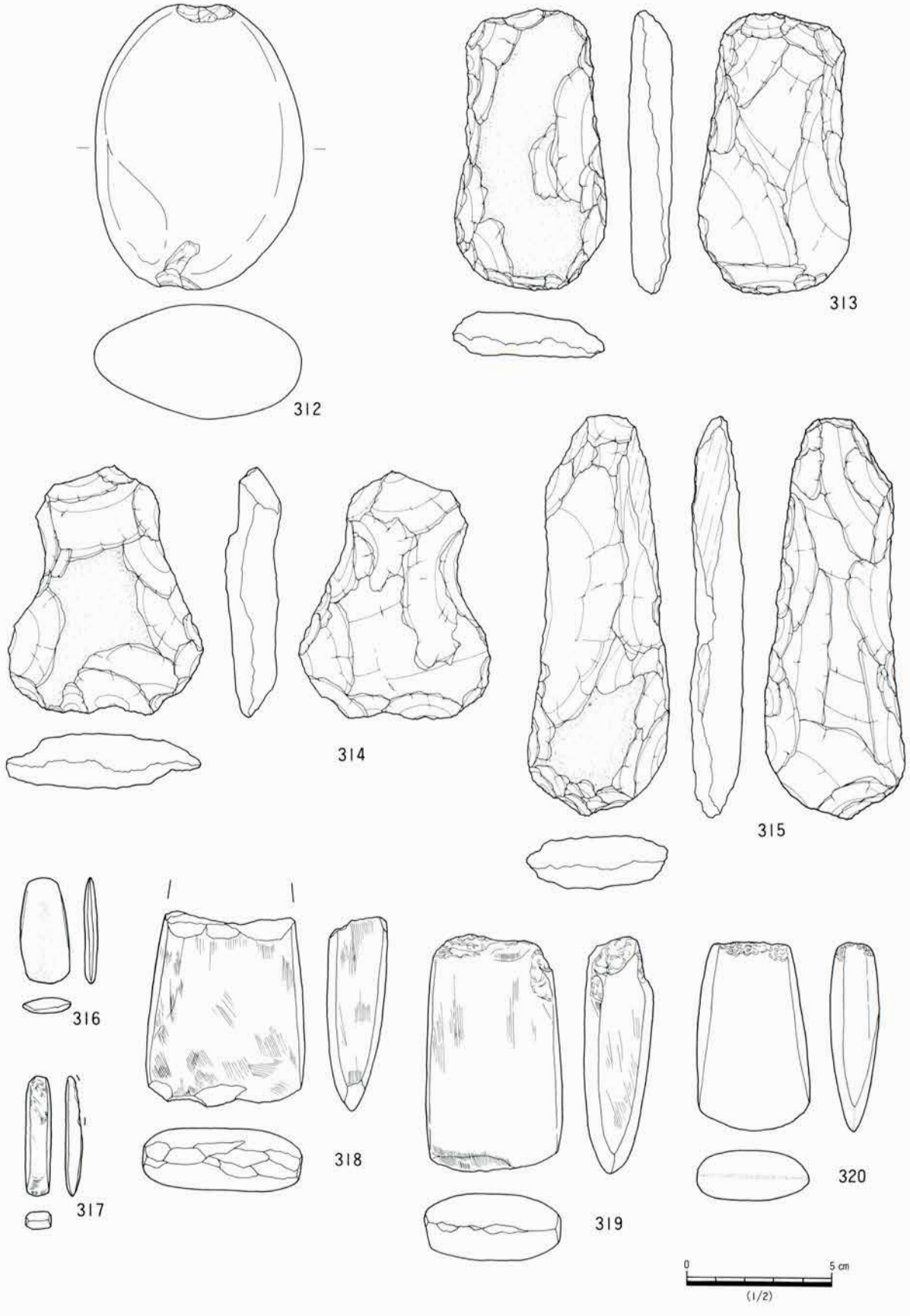
第123図　遺構外出土石器(2)



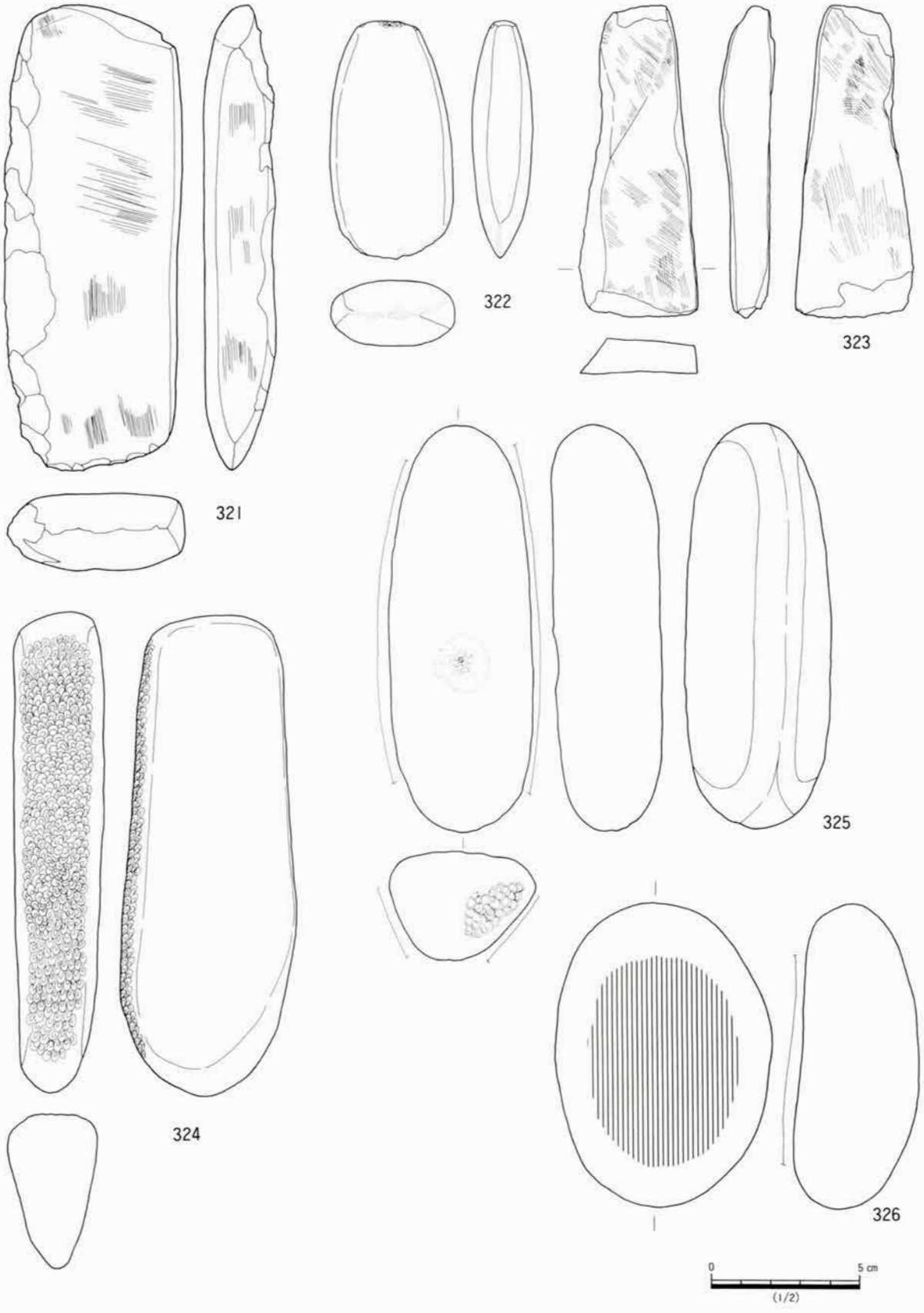
第124図　遺構外出土石器(3)



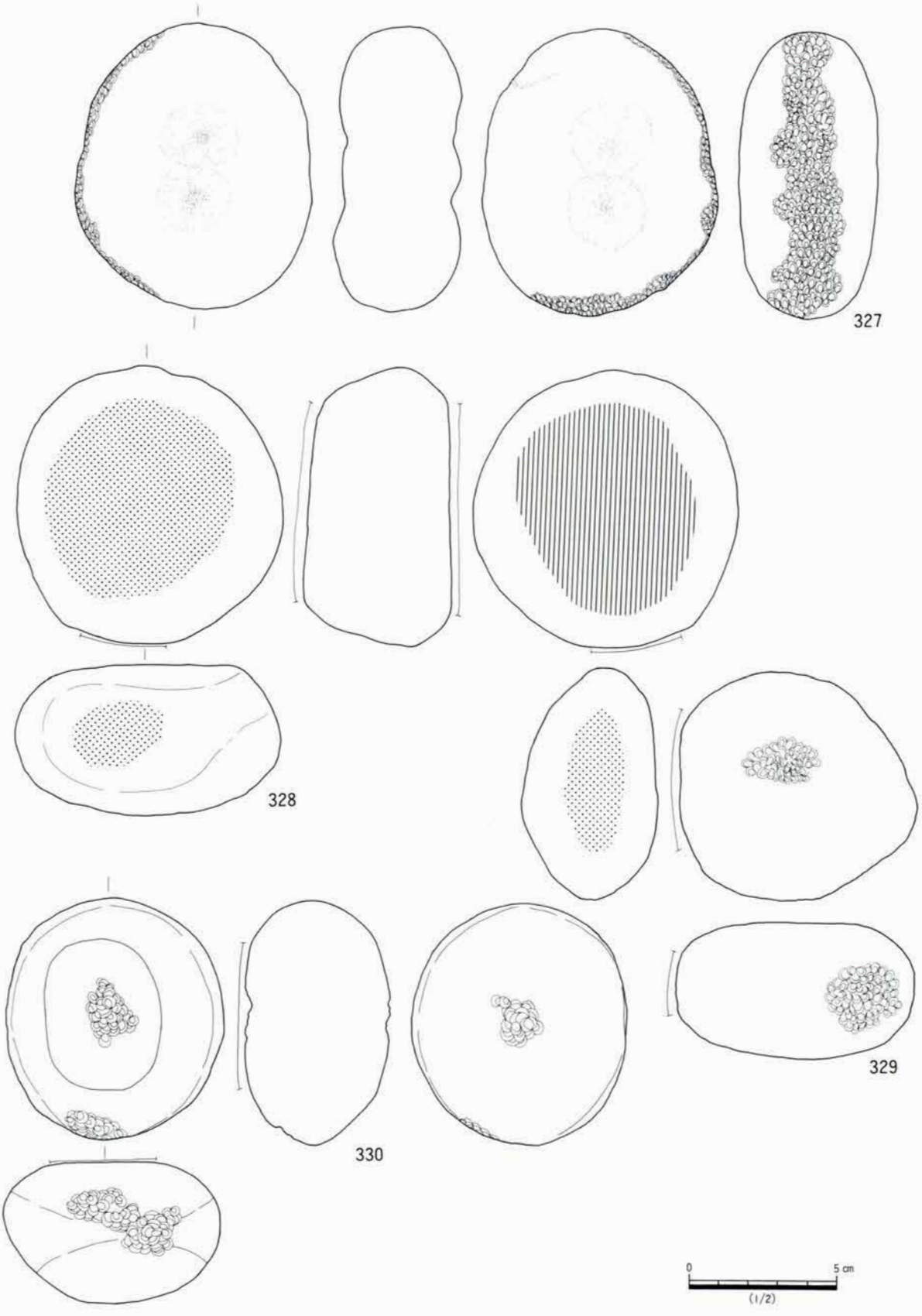
第125図　遺構外出土石器(4)



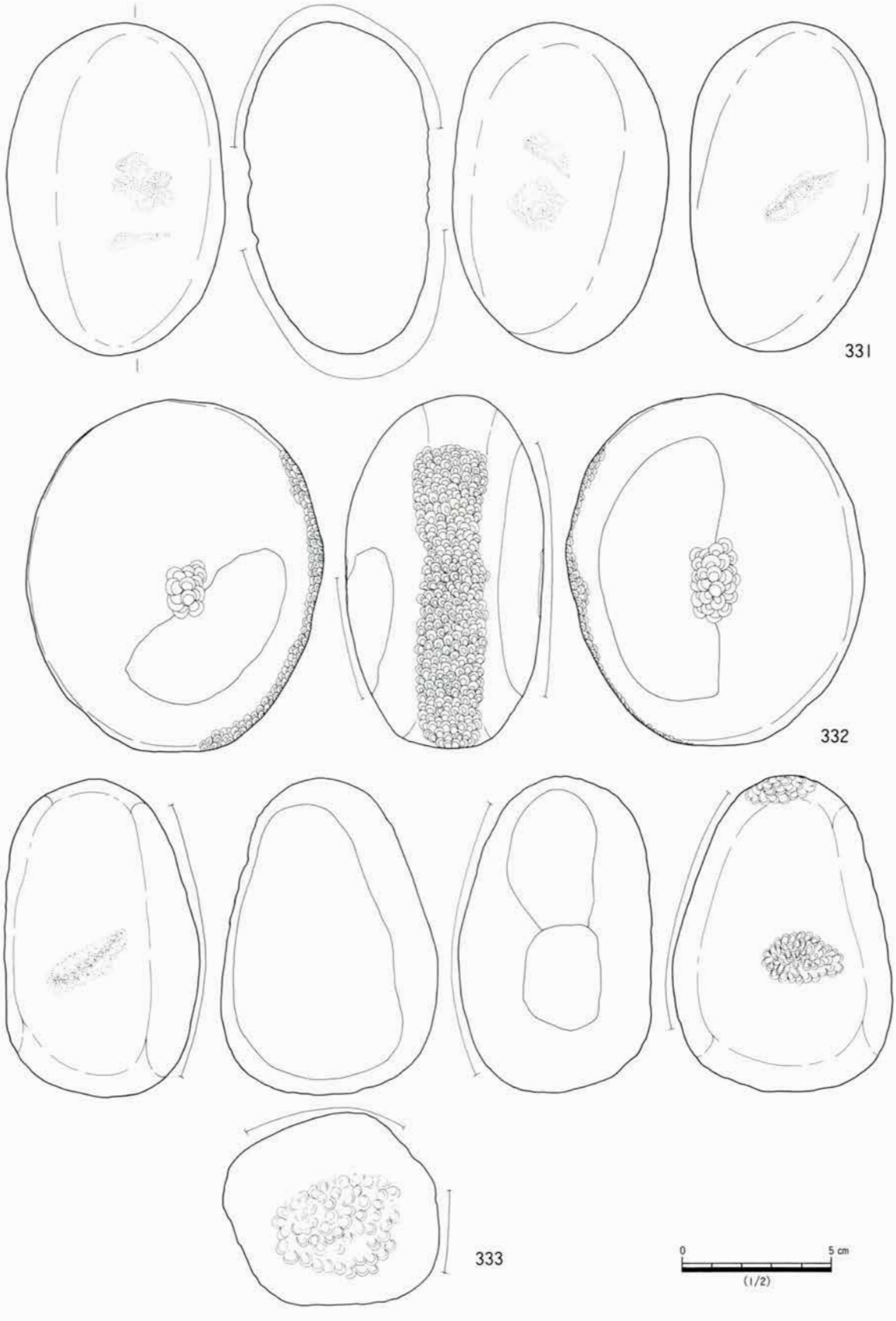
第126図　遺構外出土石器(5)



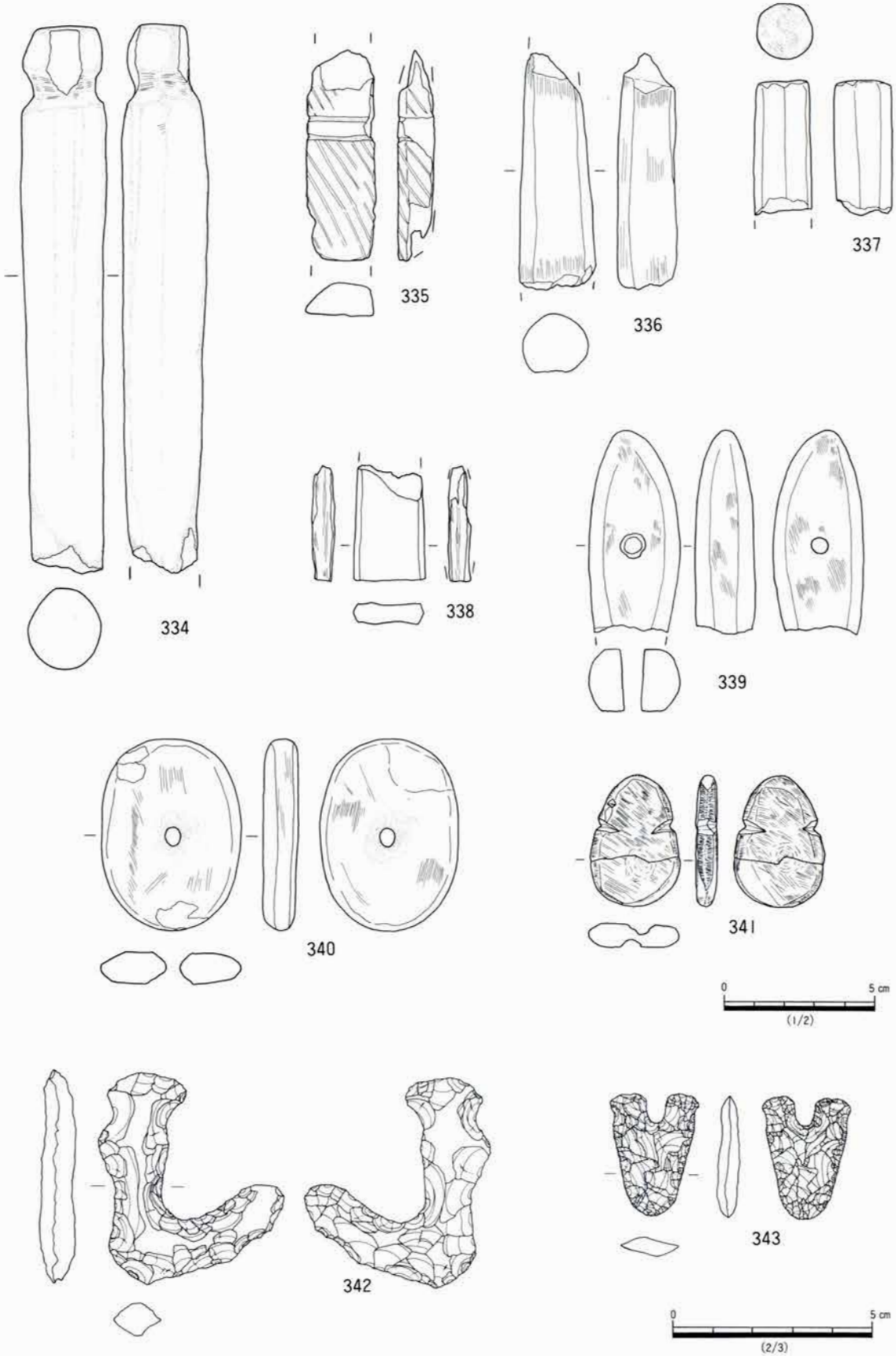
第127図　遺構外出土石器(6)



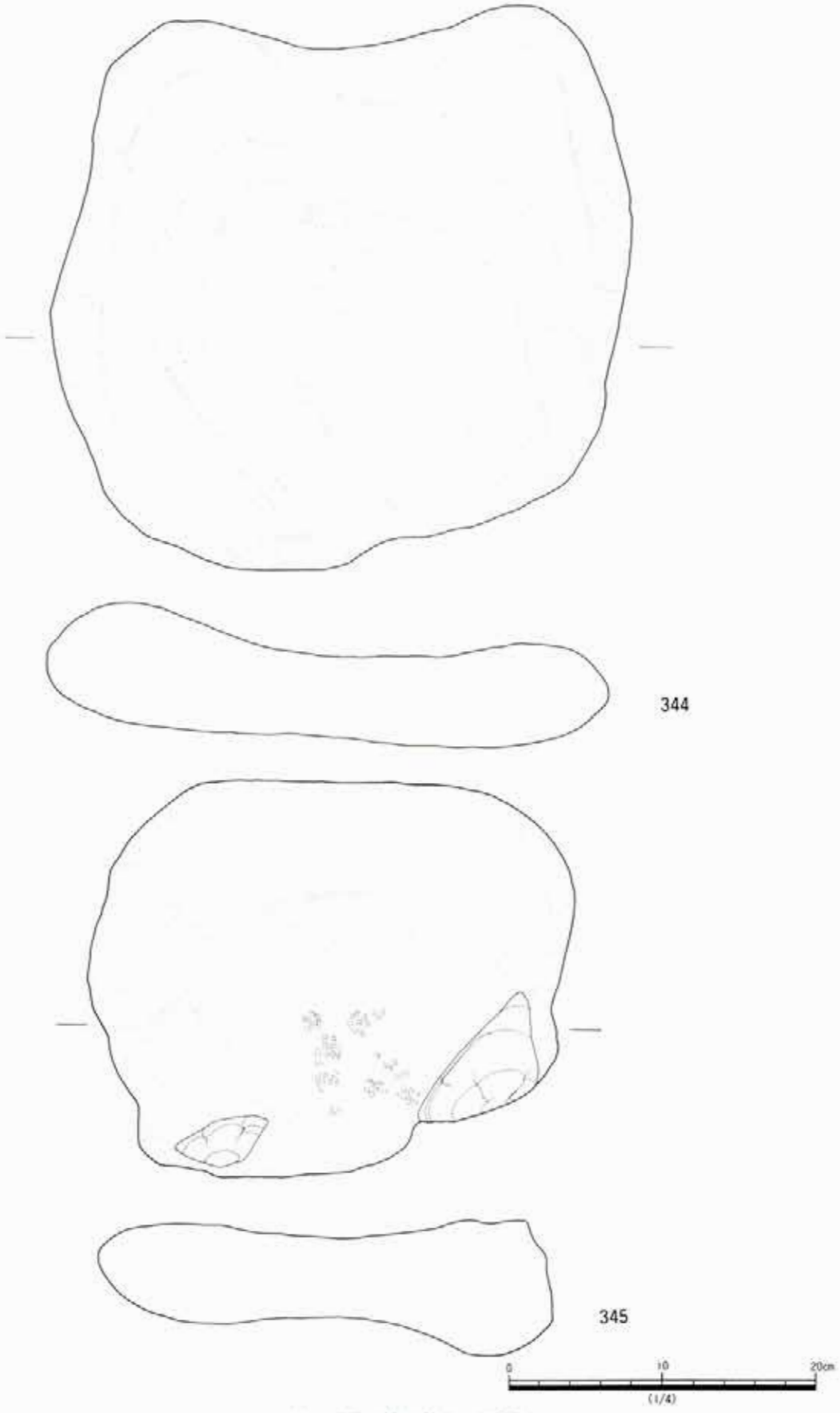
第128図　遺構外出土石器(7)



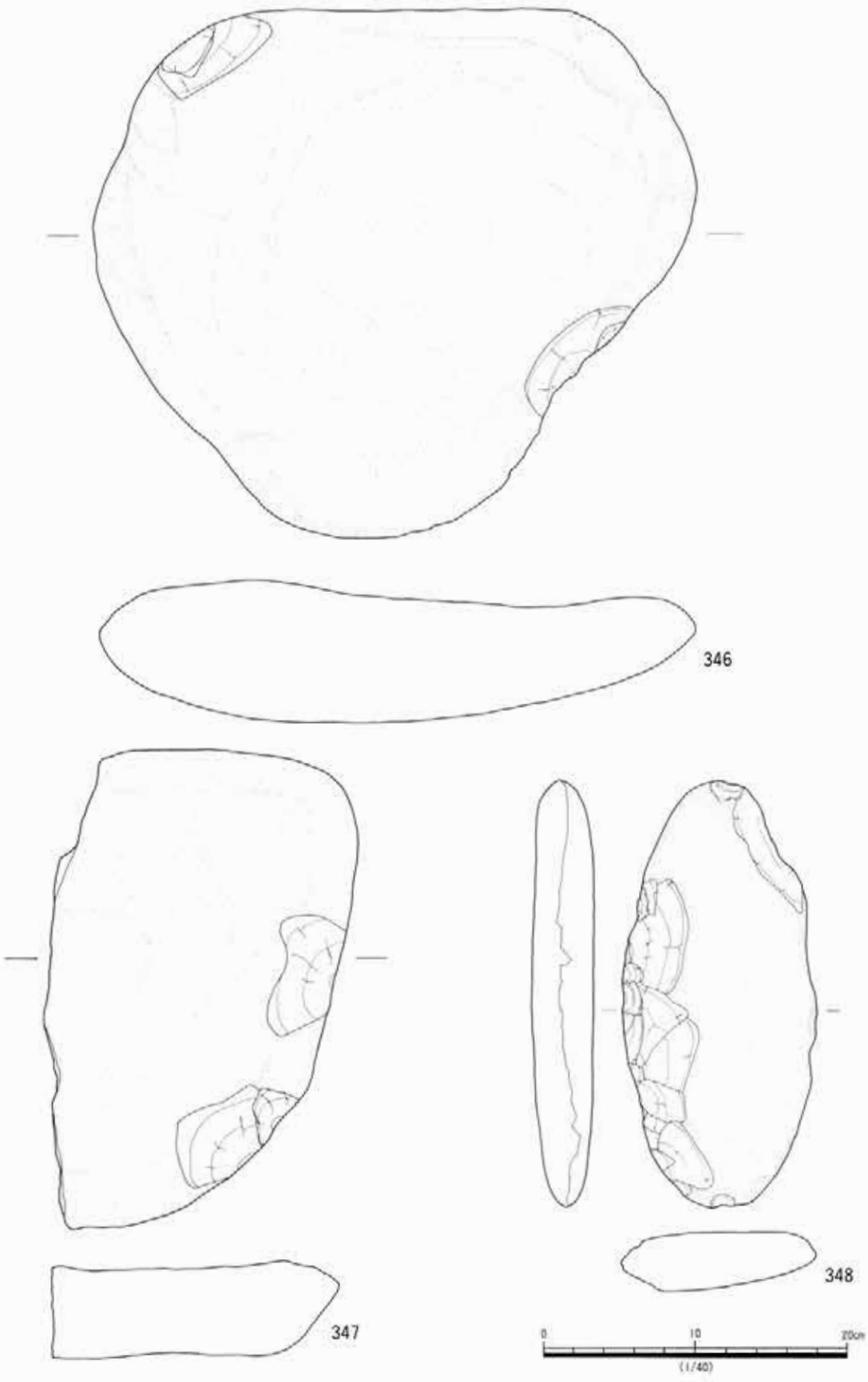
第129図　遺構外出土石器(8)



第130図　遺構外出土石器(9)



第131図　遺構外出土石器(10)



第132図　遺構外出土石器(11)

第9表　石鏃計測・観察表(1)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	形態	折損	備考	報告書番号
1	SB9	①	30	下呂石	17	12	3	0.5	1A			1
2	SB9	①	18	チャート	17	16	4	0.9	1B			
3	SB9	①	8	チャート	(17)	(15)	4	0.7	1C	b		
4	SB9	①	17	チャート	21	11	3	0.4	2A			2
5	SB9	②	37	チャート	21	15	4	1.1	未製品			3
6	SB10	床直	42	チャート	(20)	(13)	3	0.5	1C	b		20
7	SB10	床直	11	チャート	28	22	5	3	未製品			21
8	SB11	床直	6	チャート	22	15	4	0.8	1C		炉付近	32
9	SB12	床直	129	チャート	(20)	(18)	5	1.2	1	b		46
10	SB12	①	95	チャート	(17)	(12)	2	0.5	1A	b		
11	SB12	①	27	サヌカイト	(19)	(12)	2	0.5	1B	b		40
12	SB12	①	28	チャート	(26)	(17)	4	1.1	1B	b		41
13	SB12	①	80	チャート	16	15	3	0.4	1B			42
14	SB12	①	94	チャート	29	16	5	1.9	1B			43
15	SB12	d3	145	チャート	22	16	3	0.7	1B			44
16	SB12	床直	168	チャート	24	16	5	1.8	1B			45
17	SB12	①	48	チャート	18	15	5	0.8	1C			
18	SB12	①	171	チャート	31	15	3	1.2	2A			47
19	SB12	①	172	チャート	(29)	(14)	3	1	2A	b		
20	SB12	②	118	チャート	(16)	17	4	0.9	C	a		48
21	SB13	①	6	チャート	(21)	20	6	2.5	B	a		88
22	SB14	②	28	チャート	20	11	3	0.4	1B			94
23	SB14	②	54	チャート	18	11	4	0.6	1B			95
24	SB14	②	107	チャート	(27)	(16)	4	1.1	1B	b		96
25	SB14	②	106	チャート	20	15	3	0.4	1C			97
26	SB14	SK147	87	チャート	(20)	(15)	5	1.5	3D	b		98
27	SB14	②	109	チャート	(35)	(18)	5	1.9	4B	e		99
28	SB16	SK101	65	チャート	(23)	(13)	3	0.7	1	e		122
29	SB16	①	23	チャート	17	13	4	0.3	1A			
30	SB16	①	6	下呂石	(17)	(13)	3	0.6	1C	e		121
31	SB16	②	27	チャート	(16)	(13)	4	0.9	A	e		123
32	SB16	h12	79	チャート	(22)	18	4	1.6	A	a		124
33	SB16	SK94	94	チャート	(17)	20	3	1.1	B	a		
34	SB16	①	13	チャート	24	15	4	1.7	未製品			
35	SB16	②	30	チャート	(24)	16	3	1.2	未製品	b		125
36	SB17・18	②	52	チャート	18	14	3	0.7	1B			142
37	SB17・18	k19	81	チャート	23	16	5	1.4	1B			143
38	SB17・18	②	54	チャート	35	21	7	5.1	5E			144
39	SK2		28	チャート	(26)	(15)	6	1.6	B	e		167
40	SK5		70	チャート	(23)	14	4	1.3	1C	a		197
41	SK16		72	チャート	21	11	3	1.3	5E			
42	SK21		3	チャート	17	8	3	0.4	—	h		
43	SK21		11	チャート	(17)	17	4	0.9	A	a		201
44	SK30		3	チャート	18	16	3	1	D	a		
45	SK42		38	チャート	27	23	9	6.3	未製品			
46	SK50		19	チャート	(18)	11	5	1.4	B	a		
47	SK69		31	チャート	(25)	(12)	3	0.6	1C	b		
48	SK136		102	チャート	(18)	(11)	3	0.4	1C	b		
49	Pit95		58	チャート	31	20	8	4.9	5D			200
50	Pit140		89	チャート	(20)	(17)	4	0.8	1C	b		196
51	Pit189		113	チャート	(27)	(20)	5	2.5	3D	f		
52	SX1		20	黒曜石	(19)	(10)	3	0.6	2	a・d		199
53	SZ3		3	チャート	(24)	(17)	3	1	1	d		198
54	SZ3		4	チャート	(17)	(14)	4	0.6	3B	b		
55	z3	Ⅲ	191	サヌカイト	16	13	3	0.5	1A			
56	z4	Ⅲ	119	チャート	(18)	13	3	0.6	1A	a		
57	z4	Ⅲ	168	チャート	19	14	3	0.9	1A			
58	z4	Ⅲ	344	チャート	(17)	(10)	3	0.4	1A	b		
59	z5	Ⅲ	74	チャート	24	14	4	0.9	1A			
60	z5	Ⅲ	109	チャート	21	14	4	0.9	1A			
61	A3	Ⅲ	20	サヌカイト	(21)	(14)	4	0.9	1A	b		240
62	A4	Ⅲ	51	サヌカイト	18	12	4	0.5	1A			
63	A5	Ⅱ	95	チャート	18	11	3	0.3	1A			
64	A6	Ⅲ	80	チャート	24	13	3	1.2	1A			241
65	A6	Ⅲ	141	チャート	16	14	2	0.3	1A			

石鏃計測・観察表(2)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	形態	折損	備考	報告書番号
66	A8	Ⅲ	4	チャート	(19)	(13)	3	0.7	1A	b		
67	A8	Ⅲ	181	チャート	(18)	(11)	3	0.3	1A	b		
68	A9	Ⅲ	37	チャート	(16)	12	4	0.7	1A	a		
69	B6	Ⅱ	122	チャート	19	14	4	0.8	1A			
70	B8	Ⅲ	11	チャート	18	9	3	0.4	1A			
71	B8	Ⅲ	100	チャート	(17)	(13)	4	0.5	1A	b		
72	D10	Ⅱ	92	チャート	(14)	(13)	3	0.6	1A	b		
73	D8	Ⅲ	22	チャート	(18)	(12)	3	0.6	1A	b		
74	Aトレンチ		118	チャート	15	12	4	0.6	1A			
75	y3	Ⅲ	43	チャート	13	9	3	0.4	1B			
76	y4	Ⅲ	19	チャート	(25)	(16)	4	1.3	1B	b		
77	y4	Ⅲ	28	チャート	23	12	2	0.7	1B			242
78	z3	Ⅲ	44	チャート	20	13	4	1	1B			
79	z3	Ⅲ	105	チャート	(24)	17	4	1.4	1B	a		
80	z3	Ⅲ	164	サヌカイト	14	11	2	0.3	1B			
81	z3	Ⅲ	253	チャート	(25)	20	6	2.4	1B	a		
82	z4	Ⅲ	270	サヌカイト	(15)	(11)	3	0.4	1B	b		
83	z4	Ⅲ	345	チャート	(20)	(18)	5	1.3	1B	e		
84	z4	Ⅲ	346	チャート	22	13	3	0.9	1B			
85	z4	Ⅱ	384	チャート	(19)	(14)	4	1.1	1B	b		
86	z5	Ⅲ	25	チャート	14	10	2	0.3	1B			
87	z5	Ⅲ	96	チャート	18	11	3	24	1B			
88	z6	Ⅲ	74	チャート	(20)	(13)	3	0.6	1B	b		
89	z6	Ⅲ	75	チャート	(20)	(14)	5	1	1B	b		
90	A3	Ⅲ	32	チャート	(24)	(14)	4	1.1	1B	b		
91	A3	Ⅲ	66	チャート	23	13	4	1	1B			
92	A4	Ⅲ	17	チャート	10	10	2	0.1	1B			
93	A4	Ⅲ	33	チャート	(18)	(14)	3	0.8	1B	b		
94	A4	Ⅲ	108	チャート	15	14	3	0.5	1B			
95	A6	Ⅲ	44	サヌカイト	25	17	3	1	1B			
96	A6	Ⅲ	45	チャート	(20)	12	4	1	1B	a		
97	A7	Ⅲ	48	チャート	(15)	(12)	4	0.5	1B	a・g		
98	A7	Ⅲ	57	チャート	(22)	14	3	0.8	1B	a		
99	A7	Ⅲ	58	チャート	18	14	4	0.7	1B			
100	A8	Ⅱ	320	チャート	19	13	5	1.5	1B			
101	B10	Ⅲ	76	チャート	25	16	6	1.7	1B			
102	B10	Ⅲ	77	チャート	(18)	(13)	4	0.7	1B	b		
103	B11	Ⅲ	43	チャート	(14)	(13)	3	0.4	1B	b		
104	B12	Ⅱ	24	チャート	(18)	(13)	4	0.6	1B	b		
105	B5	Ⅲ	79	チャート	18	12	2	0.4	1B			
106	B9	Ⅲ	93	チャート	22	14	5	1.1	1B			
107	C7	Ⅲ	70	下呂石	(18)	16	5	0.9	1B	a		243
108	C8	Ⅱ	103	チャート	(18)	(13)	3	0.8	1B	e		
109	C9	Ⅲ	9	チャート	(25)	(18)	5	1.8	1B	b		
110	C9	Ⅱ	100	チャート	(18)	(13)	3	0.7	1B	b		
111	C10	Ⅲ	15	チャート	17	12	4	0.7	1B			
112	D8	Ⅲ	12	チャート	21	14	5	1	1B			
113	D10	Ⅲ	56	チャート	25	15	5	2	1B			
114	D11	Ⅲ	67	チャート	(18)	(12)	5	1	1B	b		
115	D11	Ⅱ	87	チャート	(22)	(14)	4	0.8	1B	g		
116	E11	Ⅲ	31	チャート	17	15	3	0.5	1B			
117	E14	Ⅲ	8	サヌカイト	(22)	17	5	1.2	1B	a		
118	E15	Ⅱ	29	チャート	14	13	4	0.5	1B			
119	Cトレンチ	Ⅰ	17	チャート	21	15	4	1.1	1B			
120	排土		2	チャート	21	11	4	0.9	1B			
121	x3	Ⅱ	14	チャート	18	14	3	0.6	1C			
122	z3	Ⅲ	48	チャート	12	9	2	0.1	1C			
123	z4	Ⅲ	266	チャート	20	15	3	0.6	1C			
124	z4	Ⅲ	267	チャート	(22)	(12)	3	0.5	1C	b		244
125	z4	Ⅲ	268	チャート	(19)	(12)	4	0.7	1C	b		
126	z5	Ⅲ	75	チャート	(22)	16	3	1	1C	a		
127	A3	Ⅲ	3	チャート	(13)	(10)	3	0.3	1C	b		
128	A5	Ⅲ	40	チャート	(23)	(14)	3	0.6	1C	b		
129	A6	Ⅲ	168	チャート	22	12	4	0.8	1C			
130	A7	Ⅲ	47	チャート	(22)	(15)	3	0.8	1C	b		

石鏃計測・観察表(3)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	形態	折損	備考	報告書番号
131	A8	Ⅲ	24	チャート	(22)	(13)	3	0.3	1C	b		
132	A8	Ⅲ	76	チャート	(21)	(13)	4	0.9	1C	e		
133	A8	Ⅲ	107	チャート	16	15	3	0.6	1C			
134	A8	Ⅱ	302	チャート	(20)	(12)	3	0.5	1C	b		
135	B5	Ⅲ	23	サヌカイト	(8)	(12)	3	0.5	1C	a･g		
136	B7	Ⅱ	125	サヌカイト	21	13	2	0.5	1C			
137	B8	Ⅱ	126	チャート	(18)	(11)	3	0.3	1C	b		
138	B9	Ⅲ	22	チャート	(20)	(14)	3	0.6	1C	b		
139	B11	Ⅲ	46	チャート	26	11	4	0.9	1C			
140	C7	Ⅱ	100	チャート	(17)	(12)	4	0.5	1C	e		
141	C9	Ⅲ	4	チャート	(12)	(13)	3	0.8	1C	b		
142	D7	Ⅲ	18	チャート	16	14	3	0.5	1C			
143	D7	Ⅲ	19	チャート	(22)	(14)	4	0.4	1C	b		
144	D8	Ⅲ	29	チャート	(20)	(11)	3	0.4	1C	b		
145	D12	Ⅲ	17	チャート	(13)	(12)	2	0.3	1C	b		
146	E13	Ⅲ	8	チャート	(16)	(8)	1	0.2	1C	b		
147	Bトレンチ	Ⅱ	30	チャート	19	13	4	0.7	1C			245
148	Bトレンチ	Ⅱ	57	チャート	(21)	(10)	3	0.4	1C	b		
149	y3	Ⅲ	44	チャート	(17)	(10)	4	0.6	1D	b		
150	y3	Ⅲ	108	チャート	22	15	4	1.2	1D			246
151	y3	Ⅱ	129	チャート	(24)	18	5	2	1D	a		
152	z2	Ⅲ	34	チャート	24	15	4	1.7	1D			
153	A6	Ⅲ	14	チャート	(26)	(13)	4	0.7	1D	f		
154	A7	Ⅲ	39	チャート	17	13	4	0.9	1D			
155	B5	Ⅲ	13	チャート	22	13	2	1.3	1D			
156	B8	Ⅲ	12	チャート	(20)	(15)	3	0.7	1D	b		
157	D10	Ⅲ	9	チャート	(14)	(11)	3	0.4	1D	f		
158	D10	－	143	サヌカイト	26	16	5	1.7	1D			
159	E15	Ⅱ	28	チャート	28	19	8	4	1D			
160	Bトレンチ	Ⅱ	37	チャート	(17)	15	5	1.1	1D	a		
161	Bトレンチ	Ⅱ	58	チャート	15	11	2	0.5	1D			
162	x4	Ⅱ	5	チャート	(32)	17	8	4	1E	a		
163	A4	Ⅱ	224	チャート	19	14	4	37.4	1E			
164	A6	Ⅱ	232	チャート	(25)	(14)	4	1.2	1E	e		
165	B5	Ⅲ	1	チャート	22	15	4	1.1	1E			
166	B6	Ⅲ	158	サヌカイト	31	23	7	4.4	1E			247
167	C12	Ⅱ	2	チャート	21	13	4	1	1E			
168	A7	Ⅲ	169	チャート	15	10	3	0.3	1G			
169	A8	Ⅲ	264	チャート	(21)	13	3	0.6	1G	a		248
170	D16	Ⅱ	1	チャート	22	9	4	1.3	1G			
171	z3	Ⅲ	22	チャート	(27)	14	4	1.3	2A	a		249
172	A4	Ⅲ	107	チャート	(24)	(11)	2	0.5	2A	b		
173	A8	Ⅲ	208	チャート	(31)	(14)	4	1.5	2A	b		
174	B6	Ⅲ	21	チャート	(29)	(14)	3	0.9	2A	g		
175	A8	Ⅲ	212	チャート	(29)	(14)	4	1.2	2B	b		
176	B10	Ⅲ	82	チャート	31	17	4	1.5	2B			250
177	C10	Ⅱ	51	チャート	(31)	14	5	1.6	2B	a		
178	E11	Ⅱ	106	チャート	32	14	3	0.9	2C			251
179	z4	Ⅲ	269	チャート	14	12	3	0.5	3A			252
180	x4	Ⅱ	4	チャート	(15)	(14)	2	0.4	3B	b		
181	y2	Ⅲ	28	チャート	(18)	18	6	1.6	3B	a		
182	z4	Ⅲ	118	チャート	20	16	6	1.7	3B			
183	z4	Ⅲ	120	チャート	19	18	5	1.3	3B			253
184	z6	Ⅲ	115	チャート	17	15	4	0.7	3B			
185	A3	Ⅲ	31	サヌカイト	(16)	(14)	3	0.7	3B	b		
186	A6	Ⅲ	81	チャート	(16)	(14)	3	0.6	3B	b		
187	A7	Ⅱ	238	サヌカイト	23	18	7	2.2	3B			
188	B8	Ⅱ	125	チャート	18	16	5	1.2	3B			
189	B10	Ⅱ	140	サヌカイト	16	14	3	0.6	3B			
190	B11	Ⅲ	42	チャート	(18)	20	4	1.4	3B	a		
191	E11	Ⅲ	32	チャート	(10)	(9)	3	0.3	3B	f		
192	E14	Ⅱ	59	チャート	(16)	(12)	3	0.5	3B	b		
193	z3	Ⅲ	163	下呂石	(16)	(14)	3	0.6	3C	b		254
194	A8	Ⅲ	108	チャート	(11)	(10)	3	0.2	3C	b		
195	A9	Ⅲ	36	チャート	(13)	(13)	3	0.4	3C	b		

石鏃計測・観察表(4)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	形態	折損	備考	報告書番号
196	B8	Ⅱ	115	チャート	12	12	2	0.1	3C			
197	C7	Ⅱ	101	チャート	13	11	2	0.1	3C			
198	y4	Ⅲ	46	チャート	18	14	4	1.1	3D			
199	z2	Ⅲ	35	チャート	18	15	4	1.2	3D			255
200	z4	Ⅲ	218	チャート	28	20	4	2.2	3D			
201	B7	Ⅲ	31	チャート	22	20	4	2.3	3D			
202	B8	Ⅱ	157	チャート	18	12	4	0.8	3D			
203	C10	Ⅲ	13	チャート	17	(11)	4	0.7	3D			
204	D11	Ⅲ	17	チャート	(18)	(14)	(4)	1.1	3D	b･f		
205	D14	Ⅱ	24	チャート	(22)	(15)	(4)	1.2	3D	f		
206	B11	Ⅲ	10	チャート	(21)	(18)	4	1.6	3E	b		
207	B6	Ⅲ	22	チャート	(23)	20	6	2.1	3E	a		256
208	A6	Ⅲ	101	チャート	(15)	12	5	0.3	4C	b		257
209	C7	Ⅱ	102	サヌカイト	23	17	4	1.6	5A			258
210	y3	Ⅲ	103	サヌカイト	30	16	3	1.6	5B			259
211	A8	Ⅲ	172	チャート	(10)	(9)	4	0.4	5B	f		
212	B9	Ⅲ	80	チャート	21	13	4	0.5	5B			
213	z4	Ⅲ	186	チャート	(15)	(9)	3	0.5	5C	b		260
214	z4	Ⅲ	240	チャート	(31)	(21)	7	4.7	5D	b		261
215	A4	Ⅲ	149	チャート	20	14	5	1.8	5D			
216	z3	Ⅲ	88	チャート	24	14	4	1.8	5E			262
217	C8	Ⅱ	92	チャート	24	18	6	2.2	5E			
218	z3	Ⅲ	222	チャート	(28)	(19)	4	1.7	1	f		
219	z6	Ⅲ	53	チャート	(15)	(13)	(3)	0.5	1	d		
220	A8	Ⅲ	70	チャート	(25)	(15)	4	0.8	1	f		
221	A8	Ⅱ	307	チャート	(15)	(11)	2	0.2	1	f		
222	B10	Ⅲ	114	チャート	(26)	(14)	(4)	1.4	1	h		
223	B9	Ⅲ	197	サヌカイト	(19)	(12)	3	0.6	1	g		
224	D9	Ⅲ	20	チャート	(23)	(12)	3	0.7	1	g		
225	E14	Ⅱ	58	チャート	(20)	(14)	3	0.8	1	a･g		
226	z3	Ⅲ	75	チャート	(22)	(10)	4	0.8	2	b		
227	A6	Ⅲ	115	チャート	(29)	(14)	(4)	1.3	2	h		
228	A10	Ⅱ	24	チャート	(26)	(11)	4	1	2	b		
229	D15	Ⅱ	10	チャート	(29)	(14)	4	1.8	2	e		
230	B6	Ⅲ	25	チャート	(17)	(16)	4	0.9	3	g		
231	C9	Ⅱ	79	チャート	(18)	(14)	(4)	1.1	5	h		
232	B8	Ⅱ	148	サヌカイト	24	17	3	1.1	5			263
233	A4	Ⅲ	16	チャート	(15)	16	4	0.8	A			
234	A4	Ⅱ	207	チャート	(18)	18	4	1.3	A	a		
235	D9	Ⅱ	35	チャート	(14)	14	4	0.8	A	a		
236	D10	Ⅲ	31	チャート	(18)	17	3	1	A	a		
237	A10	Ⅲ	16	サヌカイト	(17)	15	4	0.7	B	a		
238	B12	Ⅱ	11	チャート	(16)	16	4	0.9	B	a		
239	C14	Ⅱ	5	チャート	(12)	13	4	0.6	B	a		
240	D7	Ⅲ	30	チャート	(23)	(15)	5	1.4	B	e		
241	z3	Ⅲ	5	チャート	(23)	(18)	4	1.1	C	b		
242	z4	Ⅱ	385	チャート	(13)	15	3	0.5	C	a		
243	A7	Ⅱ	243	チャート	(15)	(12)	4	0.5	C	a･g		
244	A8	Ⅲ	77	チャート	(14)	(13)	3	0.2	C	e		
245	B4	Ⅲ	26	チャート	(19)	(12)	3	0.5	C	e		
246	B5	Ⅲ	2	チャート	(11)	13	2	0.2	C	a		
247	C9	Ⅱ	32	チャート	(12)	(17)	4	0.7	C	e		
248	z4	Ⅲ	338	チャート	(21)	25	5	2.2	D	a		
249	D11	Ⅲ	23	チャート	(19)	18	4	1.5	D	a		
250	z4	Ⅲ	221	チャート	(21)	17	5	2.2	E	a		
251	y3	Ⅲ	24	チャート	(20)	(6)	(4)	0.4	－	f		
252	A5	Ⅲ	83	チャート	(21)	(12)	(3)	1.1	－	a･b･f		
253	A6	Ⅱ	254	チャート	(13)	(7)	(4)	0.6	－	h		
254	A8	Ⅲ	109	チャート	(12)	(11)	(2)	0.2	－	h		
255	A8	Ⅲ	161	チャート	(15)	(14)	3	0.7	－	e		
256	D14	Ⅱ	23	チャート	(18)	(9)	(3)	0.5	－	h		
257	E16	Ⅱ	3	チャート	(17)	(14)	5	1	－	e		
258	z3	Ⅲ	149	チャート	28	18	7	3.7	未製品			
259	z3	Ⅲ	260	チャート	19	17	5	1.6	未製品			
260	z4	Ⅲ	40	チャート	35	26	5	7.8	未製品			

石鏃計測・観察表(5)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	形態	折損	備考	報告書番号
261	z4	Ⅲ	243	チャート	27	23	7	5.7	未製品			
262	z5	Ⅲ	134	チャート	(36)	(26)	(9)	8.3	未製品			
263	A10	Ⅱ	39	チャート	28	19	5	3.1	未製品			
264	A3	Ⅲ	49	チャート	23	19	5	2.3	未製品			
265	A3	Ⅲ	59	チャート	21	8	3	0.4	未製品			
266	A5	Ⅲ	69	チャート	26	22	8	4.5	未製品			
267	A7	Ⅱ	222	チャート	28	12	7	1.8	未製品			
268	A7	Ⅱ	241	チャート	26	20	9	4.8	未製品			
269	A8	Ⅲ	85	チャート	20	18	4	1.5	未製品			
270	A9	Ⅲ	27	チャート	23	20	8	2.8	未製品			
271	A9	Ⅲ	99	チャート	32	24	5	4.3	未製品			264
272	C11	Ⅱ	70	チャート	17	18	5	1.3	未製品			
273	C11	Ⅱ	71	チャート	21	18	6	2.1	未製品			

第10表　石錐計測・観察表(1)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量	形態	尖頭部(mm) 長さ	幅	厚さ	断面形	折損	報告書番号
1	SB9	a11	3	チャート	37	11	6	2.4	2a	5	4	3	三角		4
2	SB9	①	7	チャート	32	13	5	1.6	2a	3	4	2	菱形		
3	SB10	床直	4	チャート	(31)	12	6	2.4	2a	—	—	—	—	あり	22
4	SB11	①	24	チャート	35	21	10	7	2a	5	7	4	菱形		33
5	SB12	①	49	下呂石	24	9	5	1.1	2a	4	4	3	菱形		49
6	SB14	②	42	チャート	25	16	7	2.3	1	3	5	4	三角		100
7	SB16	SK101	60	チャート	35	16	10	2.9	1	6	5	3	三角		126
8	SB17·18	②	51	チャート	19	15	4	1.1	1	1	2	1	菱形		
9	SB17·18	①	17	チャート	30	13	7	2.5	2a	7	5	4	菱形		145
10	SB17·18	床直	33	チャート	28	15	7	2.5	2a	4	5	3	菱形		146
11	SB17·18	②	40	チャート	34	11	6	1.8	2a	5	4	4	菱形		147
12	SK1		25	チャート	26	14	6	2.3	1	4	5	2	三角		
13	SK1		1	チャート	(26)	12	8	3.3	2a	—	—	—	—	あり	163
14	SK2		31	チャート	30	10	5	1.8	1	5	5	3	菱形		168
15	SK2		32	チャート	25	9	4	0.8	1	3	4	3	菱形		
16	SK3		10	チャート	30	18	7	3.4	1	4	3	2	三角		
17	SK64		4	チャート	23	8	5	0.7	3a	4	4	3	三角		202
18	SX1		14	チャート	29	21	6	3.6	1	3	3	3	三角		
19	SX1		15	チャート	57	21	11	11	1	7	8	4	菱形		
20	x3	Ⅱ	32	チャート	32	21	5	3.5	1	6	5	2	四角		
21	z3	Ⅲ	134	チャート	(32)	14	7	2.3	1	(2)	3	2	三角	あり	
22	z3	Ⅲ	188	チャート	23	6	4	0.5	1	2	2	2	三角		
23	z3	Ⅲ	217	チャート	31	20	6	3.8	1	4	5	4	菱形		
24	z4	Ⅲ	280	チャート	21	17	3	1	1	3	4	3	菱形		
25	z6	Ⅱ	132	チャート	32	22	7	3.1	1	9	6	3	菱形		
26	z7	Ⅱ	4	チャート	34	23	7	4.8	1	3	5	3	三角		
27	A3	Ⅱ	108	チャート	25	13	6	1.8	1	5	6	4	丸形		
28	A4	Ⅲ	146	チャート	24	20	6	1.7	1	4	5	4	菱形		
29	A6	Ⅲ	157	チャート	36	23	9	5.1	1	4	5	3	菱形		265
30	A7	Ⅲ	64	チャート	24	16	3	0.8	1	5	6	2	三角		
31	A7	Ⅱ	278	チャート	21	13	4	0.9	1	3	3	1	四角		
32	A8	Ⅲ	91	チャート	17	10	4	0.5	1	2	3	2	四角		
33	A8	Ⅲ	194	チャート	18	13	4	0.8	1	3	3	2	三角		
34	A8	Ⅱ	304	チャート	31	15	5	3.3	1	5	6	4	三角		
35	B8	Ⅲ	110	チャート	21	14	5	1.5	1	5	4	3	三角		
36	C5	Ⅱ	2	チャート	30	17	5	2.2	1	3	5	3	三角		
37	C8	Ⅱ	75	チャート	23	10	5	1.2	1	2	3	3	三角		
38	C10	Ⅲ	3	チャート	31	20	6	4.7	1	4	5	4	五角		
39	C14	Ⅱ	6	チャート	28	22	6	3.5	1	12	10	5	三角		
40	D10	Ⅱ	121	チャート	22	18	4	1.5	1	3	3	2	三角		
41	D11	Ⅱ	81	チャート	25	23	8	4.5	1	7	8	4	菱形		
42	D13	Ⅱ	29	チャート	32	16	9	4.9	1	5	7	4	三角		
43	Cトレンチ	Ⅰ	53	チャート	23	11	4	1.2	1	3	4	3	三角		
44	x2	Ⅲ	13	チャート	21	14	4	0.8	2a	6	5	2	菱形		
45	x3	Ⅱ	17	チャート	30	16	6	3.5	2a	5	7	5	菱形		
46	y4	Ⅲ	35	チャート	46	14	6	3.8	2a	11	6	4	三角		
47	z4	Ⅲ	5	チャート	24	7	3	0.8	2a	4	4	3	菱形		
48	z4	Ⅲ	121	チャート	29	8	3	1.1	2a	2	3	3	三角		

石錐計測・観察表(2)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量	形態	尖頭部(mm) 長さ	幅	厚さ	断面形	折損	報告書番号
49	z4	Ⅲ	183	チャート	(20)	8	4	0.8	2a	—	—	—	—		
50	z6	Ⅲ	51	チャート	25	10	3	1.1	2a	6	5	3	菱形		
51	A4	Ⅲ	31	チャート	(23)	(7)	(5)	0.8	2a	4	5	3	菱形	あり	
52	A4	Ⅲ	100	下呂石	26	12	7	1.3	2a	5	4	4	菱形		266
53	A5	Ⅲ	48	チャート	22	10	5	1.2	2a	4	4	3	菱形		
54	A6	Ⅲ	47	チャート	43	12	9	4	2a	7	4	5	三角		
55	A6	Ⅱ	230	チャート	38	16	7	4.1	2a	13	8	6	菱形		
56	A6	Ⅱ	231	チャート	(45)	16	8	6.7	2a	—	—	—	—	あり	
57	A7	Ⅲ	12	チャート	36	14	6	3.1	2a	4	4	4	三角		
58	A7	Ⅱ	217	チャート	18	7	3	0.5	2a	2	2	1	菱形		
59	A9	Ⅲ	42	チャート	23	10	3	0.7	2a	3	2	2	菱形		
60	A9	Ⅲ	63	チャート	35	13	4	1.4	2a	4	5	2	菱形		
61	B6	Ⅲ	20	チャート	36	13	6	2.9	2a	12	7	4	三角		
62	B6	Ⅲ	24	チャート	20	10	6	1.3	2a	6	6	3	丸形		
63	B7	Ⅲ	29	チャート	29	10	6	1.6	2a	12	7	4	三角		
64	B7	Ⅲ	99	チャート	(21)	10	3	1	2a	—	—	—	—	あり	
65	B7	Ⅱ	114	チャート	27	11	5	1.7	2a	6	6	3	三角		
66	B7	Ⅱ	115	チャート	(29)	22	6	3.1	2a	(5)	6	3	菱形	あり	
67	B8	Ⅲ	191	チャート	26	8	4	0.9	2a	3	3	2	菱形		
68	B9	Ⅲ	124	チャート	22	8	5	1	2a	3	3	3	三角		
69	B9	Ⅲ	202	チャート	30	12	6	1.9	2a	5	4	4	三角		
70	B10	Ⅲ	34	チャート	33	16	3	2.1	2a	6	5	3	菱形		
71	B12	Ⅱ	34	サヌカイト	29	8	5	1.2	2a	3	4	3	菱形		
72	C7	Ⅱ	96	チャート	29	12	6	2.4	2a	3	3	3	菱形		
73	C7	Ⅱ	98	チャート	18	10	4	0.8	2a	3	4	3	菱形		
74	C8	Ⅱ	47	チャート	29	9	3	1.1	2a	3	3	7	三角		
75	C8	Ⅱ	86	チャート	25	12	7	1.8	2a	3	5	4	三角		
76	C9	Ⅲ	94	チャート	20	9	3	0.5	2a	5	3	3	三角		
77	D8	Ⅲ	14	チャート	35	15	6	4.2	2a	3	7	6	台形		
78	D10	Ⅲ	25	チャート	(22)	11	6	1.5	2a	—	—	—	—	あり	
79	D10	Ⅲ	37	チャート	(31)	18	7	2.9	2a	(5)	5	4	菱形	あり	
80	D10	Ⅱ	99	チャート	22	9	3	0.7	2a	6	5	2	三角		
81	D13	Ⅲ	12	チャート	35	14	5	2.5	2a	6	6	3	菱形		
82	E11	Ⅲ	82	チャート	28	13	5	1.8	2a	5	4	4	菱形		
83	Cトレンチ	Ⅰ	39	チャート	25	15	6	2.1	2a	4	5	3	三角		
84	z4	Ⅲ	343	チャート	(33)	12	6	1.8	2b	—	—	—	三角	あり	267
										3	4	2	三角		
85	A3	Ⅱ	94	チャート	30	12	4	1.5	2b	5	6	2	菱形		
										5	5	3	菱形		
86	A5	Ⅱ	96	チャート	(27)	11	6	2.1	2b	—	—	—	—	あり	
										4	4	3	丸形		
87	B5	Ⅲ	125	チャート	23	12	5	1.3	2b	2	3	2	菱形		
										4	4	3	菱形		
88	B8	Ⅱ	163	チャート	(42)	13	8	3.9	2b	—	—	—	菱形	あり	
										6	6	4	菱形		
89	D12	Ⅱ	21	チャート	(25)	9	7	1.6	2b	3	4	5	四角	あり	
										(5)	4	4	菱形		
90	E11	Ⅱ	107	チャート	36	13	7	3.2	2b	2	3	3	三角		
										8	7	6	三角		
91	E11	Ⅱ	136	チャート	30	9	5	1.4	2b	3	3	2	菱形		
										3	4	2	菱形		
92	z4	Ⅲ	314	サヌカイト	42	8	5	1.2	3a	4	3	2	菱形		268
93	E11	Ⅲ	3	チャート	17	7	3	0.5	3a	3	3	2	菱形		
94	z4	Ⅱ	397	チャート	(29)	7	3	0.7	3b	—	—	—	—	あり	
										3	3	2	菱形		
95	A4	Ⅲ	50	サヌカイト	(32)	7	3	1.1	3b	—	—	—	—	あり	
										2	3	2	菱形		
96	A4	Ⅱ	220	チャート	19	4	2	0.3	3b	3	3	2	三角		
										5	3	3	三角		
97	A6	Ⅱ	229	チャート	18	7	5	0.7	3b	2	3	3	菱形		
										2	3	3	菱形		
98	A10	Ⅲ	15	チャート	(27)	6	3	0.5	3b	4	4	3	菱形	あり	269
										(4)	3	2	菱形		

第11表　石匙計測・観察表

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	形態	折損	備考	報告書番号
1	SB13	①	1	チャート	(32)	(30)	7	4.7	2	あり		89
2	SB16	h12	81	チャート	42	46	12	23.9	2			127
3	E11	Ⅲ	60	サヌカイト	60	26	6	9.6	1			271
4	D11	Ⅲ	35	サヌカイト	42	50	9	16.3	2			270
5	z3	Ⅲ	63	チャート	(35)	(33)	(9)	6.2	—	あり		

第12表　掻器計測・観察表

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量	形態	折損	備考	報告書番号
1	SB13	①	2	チャート	24	18	5	2.1	1			90
2	SB14	SK150	61	チャート	37	32	9	14.4	1			104
3	SB14	SK143	77	チャート	46	21	8	8.3	1			105
4	SK2		30	チャート	28	33	12	10.6	1			169
5	SK2		39	チャート	30	19	8	3.2	2			
6	SK30		1	チャート	53	42	15	23	1			209
7	SK50		17	チャート	33	28	11	9.7	2			
8	Pit147		71	チャート	41	27	14	15.8	2			
9	Pit150		108	チャート	50	36	16	29.6	2			208
10	y2	Ⅲ	20	チャート	31	23	12	10	1			
11	y2	Ⅲ	33	チャート	26	19	9	4.5	1			
12	z4	Ⅲ	376	チャート	20	13	4	1.2	1			
13	z5	Ⅲ	16	チャート	36	18	10	6.9	1			
14	A4	Ⅲ	87	チャート	30	32	9	9.5	1			
15	A5	Ⅲ	17	チャート	26	14	5	1.8	1			
16	A6	Ⅲ	179	チャート	36	23	19	14.5	1			
17	A8	Ⅲ	255	チャート	63	28	17	24.6	1			
18	A10	Ⅲ	12	チャート	27	38	9	8.5	1			
19	B5	Ⅲ	111	チャート	30	33	7	7.2	1			272
20	B7	Ⅲ	84	チャート	24	32	9	7.1	1			
21	B9	Ⅱ	187	チャート	24	16	6	2.4	1			
22	B10	Ⅲ	107	チャート	44	33	17	20.4	1			
23	C7	Ⅱ	106	チャート	23	21	6	3	1			
24	C9	Ⅱ	35	チャート	34	35	11	11.7	1			
25	C11	Ⅱ	80	チャート	43	27	13	12.2	1			
26	D12	Ⅲ	15	チャート	18	19	9	2.3	1			
27	E11	Ⅲ	14	チャート	27	38	9	10.2	1			
28	E11	Ⅲ	62	チャート	37	59	15	52.6	1			
29	E14	Ⅲ	30	チャート	24	35	10	8.7	1			
30	E14	Ⅲ	43	チャート	32	25	13	10.2	1			
31	E15	Ⅱ	31	チャート	31	35	11	10.5	1			
32	E15	Ⅱ	33	チャート	29	24	6	4.9	1			
33	E15	Ⅱ	49	チャート	29	24	9	6.9	1			
34	Cトレンチ	Ⅰ	18	チャート	53	48	15	32.5	1			
35	y3	Ⅲ	84	チャート	23	25	6	5.2	2			
36	y3	Ⅲ	102	チャート	22	23	7	3.5	2			273
37	A4	Ⅲ	159	チャート	13	17	4	0.8	2			

第13表　削器計測・観察表(1)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	形態	折損	備考	報告書番号
1	SB10	床直	17	チャート	22	18	3	1.4	1			23
2	SB10	床直	24	チャート	22	14	4	1	1			24
3	SB11	①	23	チャート	16	10	3	0.3	2			
4	SB12	①	81	チャート	28	12	4	1.2	1			
5	SB13	①	5	チャート	54	34	11	23.2	2			91
6	SB14	SK143	78	チャート	26	23	5	2.8	1			101
7	SB14		105	チャート	29	14	4	2.5	1			
8	SB14	②	39	チャート	22	24	3	1.6	2		ノッチ	102
9	SB14	②	41	チャート	23	22	5	3.3	2			103
10	SB16	①	25	チャート	61	14	6	8.5	1			
11	SB16	②	52	チャート	34	19	4	3.7	2			130
12	SB16	SK101	56	チャート	80	42	10	30.9	2			129
13	SB16	②	100	チャート	38	25	10	8.7	2			128
14	SB17・18	①	14	チャート	19	17	4	2.2	2	あり		
15	SB17・18	床直	22	チャート	26	21	3	1.5	2			148
16	SB17・18	②	53	チャート	31	26	8	5.8	2			149

削器計測・観察表(2)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	形態	折損	備考	報告書番号
17	SK19		74	チャート	18	14	7	1.9	2	あり		
18	SK32		20	チャート	23	26	8	4.5	2			
19	SK34		17	チャート	53	30	10	15.2	2			
20	SK37		64	チャート	28	26	15	11.1	2	あり		205
21	SK46		66	チャート	24	19	9	4.2	2			
22	SK60		5	チャート	47	38	15	24.8	2			206
23	SK64		3	チャート	45	34	6	10.5	2			
24	SK221		117	チャート	28	18	8	4.5	1			203
25	SZ3		1	チャート	66	20	15	12.5	2			204
26	x3	Ⅱ	23	チャート	66	60	22	58.2	1			
27	x3	Ⅱ	37	チャート	27	21	18	3.4	1			
28	y3	Ⅲ	33	チャート	37	21	11	7.6	1			
29	y3	Ⅲ	64	サヌカイト	71	42	11	33.3	1	あり		
30	z2	Ⅲ	5	安山岩	53	37	5	11.2	1		ノッチ	
31	z3	Ⅲ	171	サヌカイト	28	20	9	4.7	1			
32	z4	Ⅲ	69	チャート	51	48	14	34.4	1			
33	z4	Ⅲ	293	チャート	20	14	6	0.8	1	あり		
34	z4	Ⅱ	394	チャート	55	72	21	78.3	1			
35	z5	Ⅱ	144	チャート	19	24	5	2.5	1			
36	A3	Ⅲ	17	チャート	33	28	8	5.2	1		ノッチ	
37	A3	Ⅲ	34	チャート	61	48	10	30.6	1			
38	A3	Ⅲ	80	チャート	53	39	11	13.1	1			
39	A4	Ⅲ	25	チャート	24	32	6	3.7	1			
40	A5	Ⅲ	3	チャート	31	21	6	4.3	1			
41	A6	Ⅲ	42	黒曜石	29	9	5	1.2	1			275
42	A6	Ⅲ	92	チャート	33	32	7	7.2	1			
43	A6	Ⅲ	133	チャート	27	34	8	9.3	1			
44	A8	Ⅲ	138	チャート	29	24	5	4.4	1			
45	A8	Ⅲ	217	チャート	53	33	13	18.9	1			
46	A8	Ⅱ	301	チャート	41	32	11	14.7	1			
47	A9	Ⅱ	108	チャート	40	37	15	16.7	1			
48	A9	Ⅱ	136	チャート	23	24	7	3.5	1			
49	B5	Ⅲ	33	チャート	21	22	8	4.1	1			
50	B7	Ⅱ	107	チャート	26	34	9	8.7	1			
51	B7	Ⅱ	121	チャート	19	33	5	2.6	1		ノッチ	
52	B8	Ⅲ	21	チャート	26	16	5	2	1			
53	C8	Ⅱ	46	チャート	33	23	7	4	1		ノッチ	
54	C11	Ⅱ	46	チャート	35	22	6	5.3	1			
55	D14	Ⅲ	15	チャート	33	25	7	7.2	1			
56	D14	Ⅱ	31	チャート	25	28	5	3.8	1		ノッチ	
57	E14	Ⅲ	29	チャート	50	40	13	27	1			
58	Aトレンチ	①	18	チャート	48	29	9	11	1			
59	Aトレンチ	②	62	チャート	25	15	4	1.7	1		ノッチ	
60	Aトレンチ	②	96	チャート	27	24	6	4.2	1			
61	Dトレンチ		23	チャート	22	23	8	3.3	1		ノッチ	
62	x3	Ⅱ	52	チャート	26	19	8	3.1	2			
63	x4	Ⅱ	7	チャート	25	13	4	0.1	2		ラウンド	
64	y2	Ⅲ	17	サヌカイト	72	62	11	48.7	2		ノッチ	276
65	y3	Ⅲ	10	チャート	46	31	9	13.3	2			
66	z4	Ⅲ	92	チャート	63	30	8	15.6	2			
67	z4	Ⅲ	132	チャート	32	22	8	4.9	2			
68	z4	Ⅲ	173	チャート	26	24	13	8.6	2			
69	z4	Ⅲ	177	チャート	16	21	3	0.8	2			
70	z4	Ⅲ	272	チャート	31	18	7	2.8	2			
71	z5	Ⅲ	32	チャート	23	26	8	3.8	2			
72	z5	Ⅲ	67	チャート	33	23	7	5.4	2			
73	z5	Ⅲ	85	チャート	24	30	7	5.5	2			
74	z5	Ⅲ	110	チャート	24	17	8	3.1	2			
75	z6	Ⅲ	54	チャート	28	24	8	3.5	2			
76	z6	Ⅱ	133	チャート	42	53	9	16.9	2			
77	z6	Ⅱ	141	チャート	24	21	7	4.7	2			
78	A3	Ⅱ	96	チャート	30	14	5	2.4	2			
79	A4	Ⅲ	26	チャート	32	22	5	4.3	2			
80	A4	Ⅲ	59	チャート	17	13	3	1.1	2	あり	ラウンド	
81	A4	Ⅲ	122	チャート	19	18	5	1.6	2			

削器計測・観察表(3)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	形態	折損	備考	報告書番号
82	A5	Ⅲ	19	チャート	17	16	6	1.6	2	あり		
83	A5	Ⅲ	32	チャート	24	19	5	3.3	2		ラウンド	
84	A5	Ⅲ	57	チャート	65	58	11	37.2	2			
85	A6	Ⅲ	86	チャート	29	16	7	3.6	2			
86	A6	Ⅱ	233	チャート	24	19	5	2.5	2			
87	A7	Ⅲ	171	チャート	33	26	8	7.1	2			
88	A7	Ⅱ	221	チャート	18	21	4	4.8	2			
89	A8	Ⅲ	71	チャート	25	30	8	6.9	2			
90	A8	Ⅲ	256	チャート	32	30	7	7.1	2			
91	A9	Ⅲ	31	チャート	29	21	9	5	2			
92	A9	Ⅲ	75	チャート	26	20	6	2.8	2			
93	A10	Ⅲ	14	チャート	40	37	8	11.2	2			
94	B5	Ⅲ	148	チャート	20	24	6	2.5	2			
95	B6	Ⅲ	57	チャート	39	31	12	12.1	2			
96	B6	Ⅲ	118	チャート	32	25	8	6.9	2			
97	B7	Ⅲ	8	チャート	25	25	8	7	2			
98	B7	Ⅲ	56	チャート	53	52	12	22.6	2			274
99	B7	Ⅱ	126	チャート	26	22	9	6.9	2			
100	B7	Ⅱ	127	チャート	40	25	7	7.5	2			
101	B7	Ⅱ	130	チャート	22	18	6	3	2			
102	B8	Ⅱ	128	チャート	26	31	7	6.3	2			
103	B8	Ⅱ	129	チャート	28	22	8	4.7	2			
104	B9	Ⅲ	62	チャート	26	19	7	3.4	2			
105	C9	Ⅲ	22	チャート	70	47	21	70.1	2			
106	C9	Ⅱ	46	チャート	20	16	9	2	2			
107	C10	Ⅲ	12	チャート	27	29	9	6.3	2			
108	C12	Ⅱ	3	チャート	31	24	9	5.7	2			
109	D8	Ⅱ	43	チャート	17	16	2	0.7	2			
110	D9	Ⅲ	24	チャート	36	36	18	26.5	2			
111	D9	Ⅱ	36	チャート	22	18	7	2.6	2			
112	D10	Ⅱ	100	チャート	41	19	7	4.2	2			
113	D10	Ⅱ	103	チャート	22	18	6	2.6	2			
114	D11	Ⅲ	49	チャート	43	35	9	12	2			
115	E12	Ⅲ	6	チャート	26	14	8	2.5	2			
116	E13	Ⅲ	32	チャート	35	22	7	4.5	2			
117	E14	Ⅲ	38	チャート	47	37	11	21.3	2		ラウンド	
118	E15	Ⅱ	40	チャート	23	20	6	3	2			
119	Aトレンチ	②	55	チャート	42	51	13	26.7	2			
120	Aトレンチ	②	108	チャート	60	25	11	14.5	2			
121	Cトレンチ		52	チャート	51	30	15	29.1	2			
122	Dトレンチ		8	チャート	27	23	8	4.8	2			

第14表 ピエス・エスキーユ計測・観察表(1)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	形態	折損	備考	報告書番号
1	SB10	床直	9	チャート	25	17	11	4.8	1			25
2	SB14	②	51	チャート	24	19	12	4.8	1			106
3	SB14	SK157	64	チャート	29	24	10	6.8	1			107
4	SK1		32	チャート	20	17	6	2.2	1			
5	SK2	①	12	チャート	14	11	4	0.6	1			
6	y3	Ⅲ	12	チャート	39	29	17	15.4	1			
7	z3	Ⅲ	245	チャート	37	29	12	11.9	1			
8	A4	Ⅲ	54	チャート	28	27	19	8.1	1			
9	A5	Ⅱ	91	チャート	15	15	5	1.2	1			
10	A7	Ⅲ	10	チャート	24	20	9	4	1			
11	A8	Ⅲ	64	チャート	27	16	5	3	1			
12	A8	Ⅲ	81	チャート	30	23	11	7.5	1			
13	A8	Ⅲ	151	チャート	21	16	5	2	1			
14	A9	Ⅲ	57	チャート	20	18	9	2.7	1			
15	A9	Ⅲ	58	チャート	25	18	6	3.1	1			
16	A9	Ⅲ	86	チャート	24	19	8	5	1			278
17	B14	Ⅱ	3	チャート	41	40	14	26.8	1			
18	C5	Ⅱ	1	チャート	27	14	7	3	1			
19	C8	Ⅲ	5	チャート	18	18	7	2.6	1			
20	Aトレンチ	①	82	チャート	27	15	8	3.6	1			

ピエス・エスキーユ計測・観察表(2)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	形態	折損	備考	報告書番号
21	Cトレンチ		7	チャート	20	18	5	2.2	1			
22	Dトレンチ		21	チャート	29	26	10	9.2	1			
23	A10	Ⅱ	40	チャート	29	47	20	19.4	2			
24	B8	Ⅱ	178	チャート	19	36	7	4.7	2			
25	B10	Ⅱ	177	チャート	24	31	7	5.6	2			
26	E11	Ⅲ	39	チャート	23	27	9	6.5	2			279
27	E15	Ⅱ	55	チャート	23	47	13	10.6	2			
28	y3	Ⅲ	11	チャート	22	27	7	4.4	3			
29	A3	Ⅲ	33	チャート	13	19	4	1.1	3			
30	A8	Ⅲ	33	チャート	29	19	7	5	3			
31	A8	Ⅲ	187	チャート	30	20	11	7.1	3			277
32	B7	Ⅲ	85	チャート	27	19	7	4.5	3			

第15表 ヘラ形石器計測表

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	折損	備考	報告書番号
1	SB9		28	チャート	30	24	8	5.2			5
2	SB9		29	チャート	25	23	9	6.9			
3	SB12	①	63	チャート	46	30	11	17.6			51
4	SB12	床直	134	チャート	25	17	5	3			50
5	SB17・18	②	49	チャート	53	34	10	18.8			150
6	Pit141		85	チャート	38	26	10	6.7			207
7	x4	Ⅱ	6	チャート	55	35	10	20.6			
8	z2	Ⅲ	7	チャート	29	24	9	7			
9	z3	Ⅲ	145	チャート	32	24	6	5.6			
10	z4	Ⅲ	9	チャート	35	34	5	6.8			
11	z4	Ⅲ	301	チャート	20	25	8	3.4			
12	z5	Ⅲ	26	チャート	27	24	10	5.9			
13	z6	Ⅱ	139	チャート	22	25	9	6.1			
14	z8	Ⅱ	2	チャート	17	10	5	1			
15	A3	Ⅲ	35	チャート	41	41	17	38.8			
16	A3	Ⅲ	71	チャート	31	38	8	9.4			
17	A4	Ⅲ	55	チャート	35	14	8	6.1			
18	A4	Ⅲ	128	チャート	22	24	4	2.7			
19	A4	Ⅱ	221	チャート	33	21	10	6.4			
20	A4	Ⅱ	226	チャート	31	26	8	6.8			
21	A4	Ⅱ	236	チャート	19	14	6	1.8			
22	A6	Ⅲ	10	チャート	23	21	5	2.7			
23	A6	Ⅲ	32	チャート	38	26	14	19.6			
24	A6	Ⅱ	189	チャート	23	5	6	3.4			
25	A6	Ⅱ	200	チャート	29	13	6	2.9			
26	A6	Ⅱ	210	チャート	25	14	4	1.7			
27	A8	Ⅱ	323	チャート	38	28	9	10.8			
28	A9	Ⅲ	13	チャート	37	24	12	14.7			
29	A9	Ⅲ	54	チャート	31	30	8	10.5			
30	A10	Ⅲ	11	チャート	38	31	12	10.4			
31	A10	Ⅱ	26	チャート	24	14	15	1.9			
32	B7	Ⅲ	69	チャート	38	29	18	22.1	SB11直下		
33	B7	Ⅱ	128	チャート	21	20	10	5.6			
34	D12	Ⅱ	30	チャート	34	17	9	6.5			
35	E11	Ⅲ	34	チャート	31	18	8	4.8			
36	E11	Ⅲ	61	チャート	33	26	9	7.8			
37	E11	Ⅲ	101	チャート	38	37	6	11			280
38	E11	Ⅱ	109	チャート	37	20	20	18.1			
39	E11	Ⅱ	113	チャート	37	29	10	11			
40	E14	Ⅲ	33	チャート	24	19	5	2.3			

第16表 打製石斧計測・観察表(1)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	形態	折損	備考	報告書番号
1	SB9	床直	20	安山岩	110	71	29	222.9	1			16
2	SB9	a1	49	安山岩	76	49	16	51.9	1			
3	SB9	床直	21	ホルンフェルス	103	50	22	135.9	3			17
4	SB9	床直	47	安山岩	136	64	27	242.7	3			18
5	SB12	①	9	安山岩	92	47	17	115.6	1			82
6	SB12	①	52	砂岩	(96)	(52)	(17)	86.6	3	a		

打製石斧計測・観察表(2)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量(g)	形態	折損	備考	報告書番号
7	SK1		12	安山岩	(56)	(47)	(25)	100.3	1	d		
8	SK21		12	安山岩	76	48	5	18	3			236
9	SK134		78	安山岩	141	53	33	230.5	3			235
10	SX1		23	砂岩	(105)	(69)	(19)	147.9	–	b		234
11	y3	Ⅲ	2	ホルンフェルス	(92)	(48)	(17)	125.9	1	a		
12	y3	Ⅲ	7	安山岩	111	55	17	177.2	1			
13	z3	Ⅲ	4	安山岩	91	43	20	109.3	1			
14	z3	Ⅲ	65	ホルンフェルス	114	56	16	176.2	1			
15	z3	Ⅲ	66	安山岩	99	54	16	129.8	1			
16	z3	Ⅲ	101	安山岩	98	53	15	113.3	1			313
17	z3	Ⅲ	156	ホルンフェルス	(93)	(49)	(23)	170.7	1	c		
18	z3	Ⅱ	261	流紋岩	115	61	14	140.4	1			
19	z3	Ⅱ	262	ホルンフェルス	101	52	12	106.1	1			
20	z4	Ⅲ	72	安山岩	92	48	16	91.8	1			
21	z4	Ⅲ	89	ホルンフェルス	97	54	16	133.4	1			
22	z4	Ⅲ	192	安山岩	200	50	16	232.8	1			
23	z4	Ⅲ	194	安山岩	96	46	14	84.3	1			
24	z4	Ⅲ	363	安山岩	118	53	14	131.5	1			
25	z4	Ⅲ	364	安山岩	98	45	10	82.6	1			
26	z4	Ⅲ	365	安山岩	86	43	10	50	1			
27	z5	Ⅱ	139	安山岩	93	49	22	147.3	1			
28	A3	Ⅱ	88	砂岩	(104)	(59)	(29)	299.9	1	b		
29	A3	Ⅱ	90	安山岩	124	41	15	100.2	1			
30	A4	Ⅲ	6	安山岩	(60)	(35)	(7)	21.3	1	b		
31	A5	Ⅲ	25	安山岩	(99)	(43)	(13)	91.9	1	b		
32	A6	Ⅲ	82	安山岩	59	35	9	22.7	1			
33	B5	Ⅲ	78	安山岩	(84)	(54)	(18)	99.6	1	a		
34	B6	Ⅲ	51	安山岩	99	39	16	91	1			
35	B8	Ⅱ	121	安山岩	(98)	(50)	(12)	78.1	1	b		
36	B11	Ⅲ	1	安山岩	89	50	17	98.3	1			
37	D9	–	87	安山岩	108	50	20	145.4	1			
38	C11	Ⅱ	79	安山岩	98	49	18	110.4	1			
39	C14	Ⅱ	1	安山岩	91	45	9	64.5	1			
40	D10	Ⅱ	107	安山岩	(118)	(82)	(17)	107.8	1	b		
41	E13	Ⅲ	3	ホルンフェルス	(55)	(37)	(12)	39.4	1	a		
42	y3	Ⅲ	104	砂岩	135	61	32	249.5	2			
43	y4	Ⅲ	60	砂岩	(87)	(80)	(16)	124.7	2	b		
44	A6	Ⅲ	138	安山岩	86	67	18	112.1	2			314
45	B8	Ⅱ	122	安山岩	80	53	14	70.4	2			
46	B11	Ⅱ	76	安山岩	101	73	23	172.8	2			
47	x3	Ⅱ	13	安山岩	125	36	9	55.4	3			
48	z3	Ⅲ	11	安山岩	119	60	22	173.3	3			
49	z3	Ⅲ	60	ホルンフェルス	(75)	(58)	(13)	78.5	3	a		
50	z3	Ⅲ	87	安山岩	112	53	20	141.4	3			
51	z3	Ⅲ	102	安山岩	(95)	(65)	(19)	82.5	3	d		
52	z3	Ⅲ	221	安山岩	92	45	13	72.7	3			
53	z4	Ⅲ	54	砂岩	147	63	26	346.6	3			
54	z4	Ⅲ	195	安山岩	(85)	(52)	(11)	62	3	a		
55	z4	Ⅲ	259	安山岩	115	49	19	132.3	3			
56	z4	Ⅲ	362	安山岩	137	46	16	138.6	3			315
57	z4	Ⅲ	366	安山岩	(81)	(45)	(12)	54	3	a		
58	z6	Ⅲ	64	安山岩	138	59	20	189.1	3			
59	z6	Ⅲ	65	ホルンフェルス	117	55	17	130.5	3			
60	A3	Ⅱ	89	安山岩	114	67	21	146.9	3			
61	A3	Ⅱ	91	安山岩	(93)	(41)	(13)	75.2	3	a		
62	A4	Ⅲ	12	砂岩	(87)	(52)	(21)	88.9	3	a		
63	A4	Ⅱ	205	安山岩	84	50	16	77.4	3			
64	A5	Ⅲ	30	ホルンフェルス	70	40	14	48.5	3			
65	A7	Ⅲ	103	安山岩	84	50	10	46	3			
66	A8	Ⅲ	100	安山岩	80	39	13	56.5	3			
67	A8	Ⅲ	289	安山岩	96	59	9	71.8	3			
68	A10	Ⅱ	20	安山岩	82	51	19	83.2	3			
69	B4	Ⅲ	7	砂岩	(80)	(58)	(23)	144.3	3	b	SB9直下	
70	B6	Ⅱ	152	安山岩	146	69	22	232.8	3			
71	B7	Ⅲ	76	安山岩	(83)	(40)	(18)	71.7	3	c		

打製石斧計測・観察表(3)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量(g)	形態	折損	備考	報告書番号
72	B8	Ⅱ	147	砂岩	108	59	26	185.8	3			
73	B8	Ⅱ	156	ホルンフェルス	(85)	(50)	(11)	80.1	3	a		
74	C8	Ⅲ	34	安山岩	90	50	14	77	3			
75	C8	Ⅱ	76	安山岩	(109)	(53)	(20)	144.9	3	a		
76	C11	Ⅱ	84	安山岩	(88)	(50)	(16)	93.7	3	b		
77	C11	Ⅱ	85	安山岩	79	41	13	36.2	3			
78	D9	Ⅲ	1	安山岩	91	44	17	98.2	3			
79	D10	–	139	安山岩	90	47	13	70	3			
80	D12	Ⅲ	1	安山岩	93	42	18	97.7	3			
81	旧トレンチ		47	砂岩	97	55	18	111.5	3			
82	旧トレンチ		48	安山岩	(85)	(43)	(16)	81.6	3	a		
83	A3	Ⅲ	2	安山岩	(54)	(55)	(11)	57.1	–	b		
84	A4	Ⅲ	81	ホルンフェルス	(59)	(48)	(11)	39.8	–	b		
85	A4	Ⅱ	217	安山岩	(99)	(53)	(21)	145.2	–	d		
86	A5	Ⅱ	92	砂岩	(81)	(50)	(16)	76.6	–	a		
87	B4	Ⅲ	14	安山岩	(54)	(64)	(19)	80	–	b	SB9直下	
88	B6	Ⅲ	101	ホルンフェルス	(75)	(47)	(9)	49.6	–	d		
89	B9	Ⅲ	50	安山岩	(88)	(52)	(24)	112.9	–	b		
90	C16	Ⅱ	6	安山岩	(123)	(55)	27	364.6	–	b		
91	E11	Ⅱ	103	砂岩	(97)	(77)	(27)	331.3	–	b		
92	E13	Ⅲ	6	安山岩	(76)	(54)	(19)	84.6	–	d		
93	E15	Ⅲ	4	砂岩	(88)	(61)	(21)	163.5	–	b		
94	y3	Ⅲ	3	安山岩	(64)	(46)	(14)	64.3	–	d		
95	y3	Ⅱ	141	安山岩	(51)	(33)	(9)	17.2	–	b		
96	z3	Ⅲ	3	安山岩	(104)	(61)	(19)	168.6	–	b		
97	z3	Ⅲ	39	安山岩	(46)	(36)	(20)	41.3	–	d		
98	z3	Ⅲ	103	ホルンフェルス	(85)	(55)	(12)	62	–	b		
99	z3	Ⅲ	116	安山岩	(60)	(51)	(12)	55.3	–	b		
100	z3	Ⅱ	263	安山岩	(70)	(60)	(17)	114.2	–	b		
101	z4	Ⅲ	37	安山岩	(115)	(34)	(11)	52.3	–	縦割		
102	z4	Ⅲ	247	安山岩	(53)	(46)	(11)	27.2	–	a		
103	z4	Ⅱ	295	安山岩	(57)	(55)	(10)	34.8	–	b		
104	z5	Ⅲ	102	安山岩	(87)	(54)	(14)	90.5	–	b		
105	Aトレンチ	①	43	ホルンフェルス	(94)	(21)	(10)	32.7	–	縦割		

第17表　磨製石斧計測・観察表

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量(g)	形態	折損	備考	報告書番号
1	SB12	①	170	砂岩	36	18	6	5.4	2			83
2	SB14	②	37	片岩	(25)	(33)	(8)	4.5	破片	e		
3	SB16	SK101	57	片岩	(50)	(46)	(28)	38.2	破片	e	①	
4	SB17・18	SK196	59	片岩	76	47	18	123.1	3			159
5	SK50		4	片岩	71	41	21	97.2	3		基部にツブレ	233
6	SK54		2	片岩	(37)	(18)	(4)	2.8	破片	e		
7	A6	Ⅲ	122	片岩	37	17	5	5.4	2			315
8	A9	Ⅲ	4	片岩	(29)	(8)	(4)	1.8	2	b		
9	C7	Ⅲ	73	片岩	(41)	(9)	(6)	4	2	b		317
10	y3	Ⅱ	118	安山岩	(49)	(40)	(22)	54.4	3	b		
11	z3	Ⅲ	115	片岩	(43)	(48)	(20)	68.6	3	b		
12	z3	Ⅲ	192	安山岩	(109)	(56)	(24)	257.2	3	a		
13	A3	Ⅲ	28	安山岩	(50)	(44)	(23)	94.5	3	b		
14	A3	Ⅱ	87	安山岩	(56)	(55)	(22)	153	3	b		318
15	A4	Ⅲ	44	片岩	82	48	23	155.9	3		基部にツブレ	319
16	A6	Ⅲ	2	安山岩	(88)	(51)	(28)	213.9	3	a		
17	B4	Ⅲ	8	砂岩	65	40	17	63.5	3		基部にツブレ	320
18	B11	Ⅲ	22	砂岩	(88)	(58)	(27)	217.2	3	d		
19	B11	Ⅱ	67	安山岩	81	42	22	117.6	3		基部にツブレ	322
20	B11	Ⅱ	75	安山岩	(45)	(40)	(19)	53.3	3	b		
21	D14	Ⅲ	2	砂岩	(82)	(60)	(27)	198	3	b		
22	A8トレンチ	①	71	安山岩	(102)	(42)	(28)	206.1	3	a		
23	旧トレンチ		87	片岩	156	60	26	396.8	3	半面	片面のみ研磨	321
24	y3	Ⅱ	140	ホルンフェルス	70	38	16	65.9	未製品		片面のみ研磨	
25	A10	Ⅱ	60	蛇紋岩	45	27	14	29.2	未製品			
26	z6	Ⅲ	88	片岩	(47)	(33)	(14)	23.6	破片	e		
27	A9	Ⅲ	72	片岩	(18)	(10)	(6)	1.1	破片	e		

第18表　石核計測表

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	備考	報告書 番号
1	SB12	①	105	チャート	36	52	24	51.1		56
2	SB14	②	33	チャート	29	39	24	22.7		110
3	SB14	②	111	チャート	37	56	20	40.6		111
4	SB16	④	103	チャート	60	50	41	163.8		132
5	B5	Ⅲ	139	チャート	35	41	12	29.7		282
6	B7	Ⅲ	12	チャート	35	45	19	36.5		283
7	B9	Ⅲ	159	砂岩	37	92	81	345.5		285
8	Aトレンチ	①	44	サヌカイト	26	119	60	190.4		284

第19表　二次加工のある剥片計測表

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	備考	報告書 番号
1	SB9	床直	24	チャート	31	24	7	4.1		6
2	SB11	床直	8	チャート	21	11	6	1.4	炉付近	34
3	SK229		81	チャート	25	27	7	4.9		210

第20表　使用痕のある剥片計測表

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	備考	報告書 番号
1	SB9	床直	66	チャート	35	40	13	13.5		7
2	SB12	②	121	チャート	38	19	7	3.7		52
3	SB14	SK158	70	チャート	41	29	9	12.1		109
4	SB14	SK143	81	チャート	41	15	5	3.2		108
5	SB16	②	101	チャート	27	44	8	7.3		131
6	SK1		7	チャート	40	26	10	8		164
7	SK66		89	チャート	41	27	8	7.5		211

第21表　剥片類計測表

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	備考	報告書 番号
1	SB12	①	107	サヌカイト	71	57	11	38.1		54
2	SB12	床直	111	砂岩	57	56	15	38.5		55
3	x3	Ⅱ	15	砂岩	74	75	20	96.1		287
4	z3	Ⅲ	194	砂岩	66	79	18	61.9		288
5	Aトレンチ	②	105	砂岩	98	104	23	296.1		286

第22表　未製品計測表

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	備考	報告書 番号
1	SB12	床直	131	チャート	20	25	7	3.4	両面調整	53
2	z2	Ⅲ	37	チャート	27	19	10	5.7		281

第23表　打欠石錘計測・観察表(1)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	帯状痕跡	折損	備考	報告書 番号
1	SB9	②	46	砂岩	50	42	20	59.5				14
2	SB9	a4	63	砂岩	35	27	8	12.2				15
3	SB10	床直	8	砂岩	57	46	23	81.9				29
4	SB11	床直	14	砂岩	(75)	(47)	(17)	80.3		あり		
5	SB11	床直	15	砂岩	43	35	13	25.8				37
6	SB11	床直	16	ホルンフェルス	38	(36)	(8)	13.4		あり		
7	SB11	①	18	砂岩	48	45	18	54.1				38
8	SB12	①	41	砂岩	63	40	(14)	47.8		あり		
9	SB12	①	43	砂岩	51	36	13	27.5			一部はがれ	
10	SB12	①	44	砂岩	55	36	11	29.7	両面			75
11	SB12	①	45	砂岩	50	26	12	20.8	両面		一部はがれ	
12	SB12	①	52	ホルンフェルス	50	32	16	34.2			一部はがれ	
13	SB12	①	53	砂岩	(40)	(20)	(8)	8.1		あり		
14	SB12	①	78	砂岩	43	38	14	30.2				80
15	SB12	①	91	砂岩	50	33	(10)	18.5	片面	あり		
16	SB12	①	97	砂岩	64	35	(17)	57.2		あり		
17	SB12	床直	113	泥岩	36	36	11	16.2				81
18	SB12	①	115	砂岩	61	42	19	67				77
19	SB12	床直	135	安山岩	64	48	14	73.2				78
20	SB12	床直	136	砂岩	58	32	14	35.3	両面			76
21	SB12	d5	143	泥岩	64	38	14	50.1				79
22	SB13	①	8	泥岩	34	30	11	15.2				93

打欠石錘計測・観察表(2)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	帯状痕跡	折損	備考	報告書 番号
23	SB14	①	3	砂岩	42	33	14	27.3				
24	SB14	f7	13	砂岩	59	36	16	50.9	両面			114
25	SB14	SK158	17	砂岩	60	33	16	43.9				115
26	SB14	②	50	砂岩	57	43	15	55.7	両面			116
27	SB14	SK142	52	砂岩	53	35	15	39.6	両面			117
28	SB14	SK148	89	砂岩	61	44	18	63.4				118
29	SB14	SK156	125	砂岩	42	26	12	15.6			一部はがれ	
30	SB16	①	3	砂岩	55	46	14	43.8				139
31	SB16	①	4	砂岩	45	29	12	21.6				
32	SB16	①	22	ホルンフェルス	355	23	(7)	7.4	片面	あり		
33	SB17・18	①	35	砂岩	42	27	11	17.7				
34	SB17・18		61	砂岩	48	35	17	38.3				157
35	SB17・18	SK196	71	れき岩	(35)	(35)	(13)	17.5		あり		
36	SB17・18	k16	77	砂岩	46	33	13	28				158
37	SK1		3	砂岩	78	33	18	80.4				165
38	SK2		11	砂岩	61	40	10	22.6				
39	SK2		16	砂岩	39	31	11	18.6				
40	SK2	①	25	砂岩	44	38	18	42.9	両面			
41	SK2	①	26	砂岩	41	26	11	17.7				173
42	SK2	①	27	砂岩	38	28	10	13.8				
43	SK3		35	ホルンフェルス	41	27	9	13.8	両面			
44	SK50		11	砂岩	53	25	11	23.6				
45	SK50		13	砂岩	32	23	10	9.4			被熱	228
46	SK57		54	砂岩	53	36	19	45.7				230
47	SK123		79	砂岩	44	28	11	18.6				
48	SK130		79	安山岩	33	30	11	16.4				229
49	SK133		77	ホルンフェルス	45	39	16	34.2				
50	SK170		111	砂岩	44	20	9	11.7	両面			
51	SK207	①	8	砂岩	44	31	10	19.4				192
52	SK207	①	9	砂岩	36	28	11	16.2	両面			193
53	SK207	①	10	砂岩	44	24	5	9.2	片面	あり		
54	SK207	②	24	砂岩	49	29	15	28.4				194
55	SK207	②	26	ホルンフェルス	41	29	10	15.8				
56	SK207	②	27	砂岩	42	32	6	11.5	両面			195
57	SX1		11	砂岩	57	46	18	71.1				231
58	SX1		21	砂岩	42	28	14	26.3				
59	SZ5		10	砂岩	51	33	13	33.5				232
60	Pit1		119	砂岩	64	50	16	63.4				227
61	x3	Ⅲ	2	砂岩	50	38	20	55.5				
62	x3	Ⅱ	8	ホルンフェルス	41	31	14	27.2	片面		一部はがれ	
63	x4	Ⅱ	3	泥岩	37	31	9	15.6				
64	y2	Ⅲ	16	ホルンフェルス	50	37	10	29.8				
65	y3	Ⅲ	37	砂岩	49	27	19	30.4				
66	y3	Ⅲ	69	ホルンフェルス	59	41	17	57.3				
67	y3	Ⅲ	79	砂岩	54	34	16	41.6				
68	y3	Ⅲ	100	ホルンフェルス	71	36	18	75				
69	y3	Ⅲ	101	ホルンフェルス	66	43	14	68.7				
70	y4	Ⅲ	32	砂岩	52	36	13	32.1	片面			
71	y4	Ⅲ	39	砂岩	61	37	16	46			タール付着	
72	y4	Ⅲ	41	砂岩	65	45	14	59.1				
73	y4	Ⅲ	56	安山岩	(60)	(34)	15	39		あり		
74	y4	Ⅲ	62	ホルンフェルス	45	36	13	28				
75	y4	Ⅲ	63	砂岩	50	29	9	18.7				
76	y4	Ⅲ	64	砂岩	42	35	11	26.3				307
77	z3	Ⅲ	61	砂岩	(69)	(52)	20	97.8		あり		
78	z3	Ⅲ	62	砂岩	36	26	(6)	7.9		あり		
79	z3	Ⅲ	69	ホルンフェルス	54	40	10	30.8				
80	z3	Ⅲ	104	砂岩	95	42	18	128.7	両面			
81	z3	Ⅲ	117	安山岩	78	44	15	73.2				
82	z3	Ⅲ	159	安山岩	44	33	(15)	23.7		あり		
83	z3	Ⅲ	199	砂岩	48	40	(13)	36.4		あり		
84	z3	Ⅲ	201	砂岩	(37)	(33)	(14)	18.6	–	あり		
85	z3	Ⅲ	211	砂岩	54	22	11	21	片面			
86	z3	Ⅲ	229	砂岩	51	50	17	63.1				
87	z4	Ⅲ	38	砂岩	49	34	16	37.2				

打欠石錘計測・観察表(3)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	帯状痕跡	折損	備考	報告書番号
88	z4	III	42	砂岩	61	49	15	70.5				
89	z4	III	43	安山岩	48	34	15	55.5				
90	z4	III	44	ホルンフェルス	45	36	16	36.6	片面			
91	z4	III	45	砂岩	48	26	12	22.5				
92	z4	III	104	安山岩	95	67	32	290.7				
93	z4	III	203	砂岩	62	44	18	68.9				
94	z4	III	204	ホルンフェルス	45	37	(18)	32.3		あり		
95	z4	III	205	ホルンフェルス	48	26	14	24.8	片面			
96	z4	III	206	砂岩	50	32	13	28	片面			
97	z4	III	239	砂岩	47	26	13	22.8	片面			
98	z4	III	265	砂岩	(37)	(33)	(12)	11.2	—	あり		
99	z5	III	10	砂岩	55	42	17	49.3	片面			
100	z5	III	21	砂岩	50	21	14	19.3				
101	z5	III	42	砂岩	50	35	15	39.8	片面			
102	z5	III	103	砂岩	74	49	24	108				
103	z5	III	105	砂岩	42	32	12	24.8				
104	z5	III	127	砂岩	45	29	10	18.3				
105	z5	III	128	砂岩	(50)	27	17	30.2	片面	あり		
106	z5	III	138	砂岩	47	41	13	29.9			一部はがれ	
107	z6	III	5	砂岩	85	58	24	157.2				
108	z6	III	6	砂岩	51	29	11	27	片面			
109	z6	III	23	砂岩	44	33	12	19.8				
110	z6	III	62	砂岩	81	47	17	92.4				
111	z6	III	66	砂岩	54	45	16	62.9	片面		被熱	
112	z6	III	95	砂岩	41	35	15	31.5				
113	z6	III	96	砂岩	45	35	12	22.3				
114	z6	III	97	砂岩	(51)	(36)	(21)	51	片面	あり		
115	z6	III	106	砂岩	52	40	15	47.6				
116	z6	III	123	砂岩	39	34	18	45.9	片面		被熱	
117	z6	II	131	砂岩	52	32	14	39.6				
118	z7	II	6	安山岩	52	50	20	71				
119	z7	II	7	砂岩	45	27	10	17.1				
120	z7	II	10	砂岩	33	24	10	10.2			一部はがれ	
121	A3	III	11	閃緑岩	65	37	16	70.7				
122	A3	III	77	砂岩	75	55	20	11				
123	A3	III	78	砂岩	60	38	18	57.4				
124	A4	III	15	砂岩	50	36	13	26.1				
125	A4	III	139	砂岩	56	35	10	30.2				
126	A4	III	165	砂岩	(39)	26	12	17.4		あり		
127	A4	III	186	砂岩	50	44	18	49.7	片面		SB9直下	
128	A4	II	214	閃緑岩	53	51	16	136.9	両面			
129	A5	III	46	砂岩	63	45	20	73.7				
130	A5	III	55	砂岩	42	31	11	19.2				
131	A5	III	78	砂岩	86	65	20	156.4	両面			
132	A5	II	85	砂岩	42	24	14	21.5				
133	A6	III	98	砂岩	40	33	15	27.5				
134	A6	III	99	砂岩	35	24	14	16				
135	A6	III	100	砂岩	38	27	10	16.5	両面			
136	A6	III	140	砂岩	37	23	13	15.1				
137	A6	III	152	砂岩	49	28	13	28.8				
138	A6	III	166	砂岩	45	29	11	20.6	片面			
139	A6	III	167	凝灰岩	(31)	(43)	(14)	22.3		あり		
140	A6	III	178	砂岩	(40)	23	11	14.7		あり		
141	A7	III	93	泥岩	(42)	35	(12)	19.8		あり		
142	A7	III	104	砂岩	104	55	31	274				
143	A7	III	105	砂岩	74	30	15	45.8	両面			
144	A7	III	106	ホルンフェルス	49	44	(10)	28.5	片面	あり		
145	A7	III	107	ホルンフェルス	(61)	(34)	(15)	32.2		あり		
146	A7	III	128	砂岩	37	23	6	7.1				308
147	A7	III	133	砂岩	56	39	13	41.1				
148	A7	III	134	砂岩	51	36	16	40.4	両面			
149	A7	III	189	ホルンフェルス	(41)	26	9	15.8				
150	A8	III	68	砂岩	62	42	(16)	59.1		あり		
151	A8	III	75	泥岩	52	29	15	31.7				
152	A8	III	103	砂岩	41	29	19	30.4	両面			

打欠石錘計測・観察表(4)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	帯状痕跡	折損	備考	報告書番号
153	A8	III	104	砂岩	52	37	11	32.7				
154	A8	III	177	安山岩	100	70	40	394.6				312
155	A8	III	211	砂岩	64	33	20	56.9				
156	A8	III	232	砂岩	47	31	10	20.5				
157	A8	III	254	砂岩	56	37	17	39.6				
158	A8	III	263	泥岩	(48)	30	14	24.9		あり		
159	A8	II	291	砂岩	53	30	13	332				
160	A9	III	8	砂岩	50	29	10	19.5				
161	A9	III	12	砂岩	49	33	14	35.2				309
162	A9	III	20	安山岩	50	33	14	34.7				
163	A9	III	21	砂岩	41	31	9	15.4				
164	A9	III	34	ホルンフェルス	58	38	17	47.2				
165	A9	III	49	ホルンフェルス	50	24	(12)	23		あり		
166	A9	III	69	砂岩	41	33	12	24.5				
167	A9	III	70	砂岩	(43)	26	12	20.7		あり		
168	A9	III	71	泥岩	36	35	9	14.7				
169	A9	III	79	泥岩	40	35	14	27.7				
170	A9	III	97	砂岩	58	48	13	44.3				
171	A9	II	101	砂岩	39	28	(12)	16.6	片面	あり		
172	A9	II	102	砂岩	56	29	9	23.9				
173	A9	II	119	ホルンフェルス	55	41	13	43.7				
174	A9	II	137	砂岩	(37)	41	10	21.3	片面	あり		
175	A10	III	2	砂岩	55	31	11	27.5				
176	A10	III	18	ホルンフェルス	55	28	(17)	32.5	片面	あり		
177	A10	II	21	砂岩	61	28	14	33.5				
178	A10	II	37	砂岩	70	40	17	65.6				
179	A10	II	61	砂岩	44	31	13	24.9				
180	A10	II	62	ホルンフェルス	56	36	16	47.9				
181	A11	II	4	安山岩	67	53	10	59.6				
182	A11	II	5	砂岩	66	31	9	51.2				
183	A12	II	1	砂岩	44	42	20	49.2				
184	B4	III	28	ホルンフェルス	40	26	11	14.9	両面			
185	B6	III	54	砂岩	50	30	14	24.6				
186	B6	III	67	砂岩	37	24	14	19.1				
187	B6	III	87	砂岩	42	40	14	29.6				
188	B7	III	42	砂岩	51	41	14	38.5				
189	B7	III	46	砂岩	47	33	14	29.6				
190	B8	III	15	砂岩	55	50	24	93.2				
191	B8	III	48	砂岩	49	39	16	60.3				
192	B8	III	49	砂岩	42	27	12	17.5				
193	B8	III	64	砂岩	49	34	18	58.1				
194	B8	III	79	砂岩	47	42	11	31.2				
195	B9	III	2	砂岩	53	(32)	(17)	38.8	片面	あり		
196	B9	III	65	砂岩	67	43	20	85.4			被熱	310
197	B9	III	66	砂岩	62	39	12	49.9				
198	B9	III	74	砂岩	52	35	15	37.2			一部はがれ	
199	B9	III	78	砂岩	49	35	15	35.9				
200	B9	III	79	砂岩	52	38	11	35.4				
201	B9	III	86	砂岩	52	38	16	41.9				
202	B9	III	87	砂岩	49	39	11	30.8	片面			
203	B9	III	98	砂岩	(45)	43	13	36.2		あり		
204	B9	III	109	砂岩	77	57	22	130.7				
205	B9	III	119	ホルンフェルス	39	38	13	29.3				
206	B9	III	147	砂岩	63	48	20	71.2	両面		一部はがれ	
207	B9	III	148	ホルンフェルス	56	38	(14)	41		あり		
208	B9	III	149	泥岩	47	35	17	40.4				
209	B9	III	160	砂岩	44	35	(16)	28.1		あり		
210	B9	III	161	砂岩	40	(32)	(10)	17.1		あり		
211	B10	III	8	砂岩	56	39	15	49.4				
212	B10	III	17	砂岩	(43)	32	18	38		あり		
213	B10	III	31	砂岩	42	30	15	26.9	両面			
214	B10	III	53	ホルンフェルス	50	29	16	29.3	片面			
215	B10	III	62	砂岩	75	35	(9)	31.7		あり		
216	B10	III	79	砂岩	48	43	12	33	片面			
217	B10	III	81	ホルンフェルス	50	28	11	20.5	片面			

打欠石錘計測・観察表(5)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	帯状痕跡	折損	備考	報告書番号
218	B10	Ⅲ	103	砂岩	43	40	15	34.7				
219	B10	Ⅲ	112	砂岩	37	21	19	9.6				
220	B10	Ⅱ	161	砂岩	45	38	11	27.5				
221	B11	Ⅲ	27	砂岩	67	62	16	88.3				
222	B11	Ⅲ	33	砂岩	51	30	10	23.6				
223	B11	Ⅲ	48	砂岩	47	28	14	25.8				
224	B11	Ⅲ	55	砂岩	51	37	16	40.1				
225	B11	Ⅱ	59	砂岩	48	31	(13)	27.7		あり		
226	B11	Ⅱ	78	ホルンフェルス	50	40	15	38.8				
227	B12	Ⅲ	2	砂岩	53	35	15	38.7				
228	B12	Ⅱ	6	砂岩	50	37	16	44.5	両面			
229	B12	Ⅱ	7	砂岩	51	31	14	35.3				
230	B12	Ⅱ	8	砂岩	43	28	9	14.6				
231	B12	Ⅱ	9	砂岩	41	27	12	18.3	片面			
232	B12	Ⅱ	17	砂岩	113	64	28	314.4				
233	B12	Ⅱ	18	砂岩	51	30	10	23.8	両面			
234	B12	Ⅱ	21	砂岩	48	30	12	25.6	両面			
235	B15	Ⅱ	1	砂岩	42	32	10	17.9	両面			
236	B16		3	砂岩	50	40	16	43				
237	C7	Ⅲ	34	砂岩	54	34	16	42.3			一部はがれ	
238	C8	Ⅲ	12	ホルンフェルス	54	(47)	(18)	44.5		あり		
239	C8	Ⅲ	16	ホルンフェルス	56	34	17	40.7				
240	C8	Ⅱ	44	砂岩	67	27	14	36.3				
241	C9	Ⅲ	29	砂岩	42	25	10	16.1	両面			
242	C10	Ⅲ	10	砂岩	63	59	23	120.2	両面			
243	C10	Ⅱ	48	砂岩	43	22	12	14.4				
244	C11	Ⅲ	3	砂岩	42	34	17	32.8	片面			
245	C11	Ⅱ	65	砂岩	55	30	13	30				
246	C11	Ⅱ	86	砂岩	58	44	16	52.9				
247	C11	Ⅲ	95	泥岩	43	38	(18)	17.3		あり		
248	C12	Ⅱ	13	砂岩	35	23	11	10				
249	C12	Ⅱ	15	砂岩	52	33	12	30.2				
250	C14	Ⅱ	15	れき岩	47	38	15	34.3				
251	C16	Ⅱ	15	砂岩	77	40	15	69.5				
252	D9	Ⅲ	21	砂岩	63	39	14	46.2				
253	D9	Ⅲ	22	砂岩	68	25	14	36.5				
254	D9	Ⅲ	23	砂岩	39	21	8	10.2			打欠わずか	
255	D10	Ⅲ	33	砂岩	56	53	17	78.5				
256	D10	Ⅲ	34	泥岩	53	36	14	37.1			一部はがれ	
257	D10	Ⅲ	35	砂岩	47	34	8	19.5				
258	D10	Ⅲ	55	砂岩	60	39	16	53.5				
259	D10	Ⅲ	66	砂岩	45	32	12	22.3	片面			
260	D11	Ⅲ	33	砂岩	48	29	14	27.3				
261	D11	Ⅲ	34	砂岩	42	30	10	20.8				
262	D11	Ⅲ	48	砂岩	49	43	(9)	27.4	片面	あり		
263	D11	Ⅱ	72	砂岩	40	28	15	22.1				
264	D11	Ⅱ	91	砂岩	61	35	17	49.9				
265	D11	Ⅱ	92	砂岩	48	38	16	35.7			打欠わずか	
266	D11	Ⅱ	100	砂岩	45	38	14	31.3				
267	D12	Ⅲ	9	閃緑岩	48	35	14	30.7				
268	D13	Ⅲ	1	砂岩	61	47	14	49.5				
269	D13	Ⅲ	5	砂岩	58	50	21	82	両面			311
270	D13	Ⅲ	11	砂岩	37	28	13	18.3	片面			
271	D14	Ⅲ	3	安山岩	44	37	17	380.2				
272	D14	Ⅲ	4	砂岩	36	29	15	20.6				
273	D14	Ⅲ	13	砂岩	57	32	16	41.9	両面			
274	D14	Ⅲ	17	砂岩	46	35	12	24.2				
275	D15	Ⅱ	5	砂岩	51	26	9	17.2	片面			
276	D15	Ⅱ	18	砂岩	48	38	14	39.5				
277	D16	Ⅱ	7	砂岩	49	32	17	40.4				
278	E10	Ⅲ	1	砂岩	41	32	13	23.7				
279	E11	Ⅲ	28	砂岩	63	44	18	73.9				
280	E11	Ⅲ	29	砂岩	36	27	17	21.1				
281	E11	Ⅲ	55	砂岩	46	34	11	25.1				
282	E11	Ⅲ	72	砂岩	39	28	15	18.3				

打欠石錘計測・観察表(6)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	帯状痕跡	折損	備考	報告書番号
283	E11	Ⅲ	81	ホルンフェルス	34	26	(8)	10.7		あり	タール付着	
284	E11	Ⅲ	88	砂岩	42	31	12	21				
285	E11	Ⅲ	92	れき岩	42	39	12	27.1				
286	E12	Ⅲ	23	砂岩	68	48	20	102.8				
287	E13	Ⅲ	10	閃緑岩	51	40	18	62.9				
288	E13	Ⅲ	11	ホルンフェルス	43	38	14	30.4				
289	E13	Ⅲ	19	砂岩	54	49	15	55.1				
290	E14	Ⅲ	4	砂岩	81	48	23	127.8			一部はがれ	
291	E14	Ⅲ	5	砂岩	43	36	10	20.4				
292	E14	Ⅲ	25	閃緑岩	43	35	16	29.8				
293	E14	Ⅲ	26	安山岩	51	39	21	59				
294	E14	Ⅲ	28	れき岩	(43)	38	14	27.8		あり		
295	E15	Ⅲ	11	砂岩	62	38	20	60.8				
296	E15	Ⅲ	12	砂岩	56	43	16	57				
297	E15	Ⅲ	13	砂岩	44	33	13	24.9				
298	E15	Ⅲ	14	砂岩	65	41	27	89.4				
299	E15	Ⅲ	18	安山岩	49	42	22	60.3	片面			
300	E15	Ⅱ	27	砂岩	35	28	10	13.4				
301	E15	Ⅱ	46	安山岩	60	52	24	100.6				
302	E15	Ⅱ	48	砂岩	46	(27)	(12)	21.4		あり		
303	E16	Ⅱ	7	砂岩	59	31	14	38				
304	Aトレンチ	①	9	砂岩	37	25	9	12				
305	Aトレンチ	②	51	砂岩	53	46	19	65.8				
306	Aトレンチ		116	砂岩	58	46	14	47.8				
307	Bトレンチ		12	ホルンフェルス	49	33	15	29.7				
308	Bトレンチ		13	ホルンフェルス	84	51	14	85.4				
309	Bトレンチ		14	砂岩	52	42	15	49.2				
310	Bトレンチ		49	砂岩	52	34	15	35.2				
311	Bトレンチ		51	砂岩	42	38	12	23.1	両面			
312	Cトレンチ		15	砂岩	44	34	12	28.8				
313	Cトレンチ		27	砂岩	51	35	14	39.6	両面			
314	Cトレンチ		50	砂岩	53	33	17	47.9				
315	Dトレンチ		16	砂岩	50	31	11	26				

第24表 切目石錘計測・観察表(1)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	帯状痕跡	折損	備考	報告書番号
1	SB9	a29	74	砂岩	49	45	16	41.6		あり		
2	SB9	①	4	泥岩	53	44	28	88.2			一部はがれ	
3	SB9	床直	27	れき岩	56	38	20	49				8
4	SB9	②	32	砂岩	52	25	10	17.3				
5	SB9	②	36	砂岩	55	36	18	52.5				
6	SB9	②	41	砂岩	41	24	11	17.8	両面			13
7	SB9	a2	50	砂岩	71	50	(22)	100.2	両面	あり		12
8	SB9	a19	55	砂岩	65	40	13	60.1				9
9	SB9	a5	64	砂岩	60	40	18	52.5			被熱	10
10	SB9	①	70	泥岩	69	49	20	90			炉内	11
11	SB10	床直	5	ホルンフェルス	49	37	14	37.9				26
12	SB10	床直	6	泥岩	40	28	19	29.6				27
13	SB10	床直	7	泥岩	52	33	17	41.3				28
14	SB10	床直	37	砂岩	(41)	(40)	(14)	42.1		あり		
15	SB11	床直	5	砂岩	35	28	9	13.1	両面			35
16	SB11	①	19	砂岩	(48)	28	9	19.9		あり		36
17	SB12	①	10	砂岩	56	45	17	61.3				57
18	SB12	①	25	ホルンフェルス	42	34	16	33				58
19	SB12	①	26	ホルンフェルス	47	28	14	25.1				
20	SB12	①	42	砂岩	62	36	12	38.1	片面			
21	SB12	①	46	砂岩	46	26	14	25.3				59
22	SB12	①	47	砂岩	57	35	11	26.3	片面			
23	SB12	①	54	砂岩	43	(26)	(13)	20.2		あり		
24	SB12	①	59	砂岩	38	24	13	17.2	両面		炭付着	74
25	SB12	①	60	砂岩	(31)	(41)	(13)	19		あり		
26	SB12	①	61	砂岩	(31)	(22)	(5)	5		あり		
27	SB12	①	76	砂岩	50	26	13	23.7				60
28	SB12	①	77	ホルンフェルス	40	(24)	14	16.2		あり		

切目石錘計測・観察表(2)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	帯状痕跡	折損	備考	報告書番号
29	SB12	①	82	砂岩	64	46	17	70.5				61
30	SB12	①	89	砂岩	65	22	12	28.9	片面		一部はがれ	
31	SB12	①	90	砂岩	54	(21)	11	18.9		あり		
32	SB12	①	92	砂岩	36	28	10	14.5				62
33	SB12	①	98	泥岩	46	28	11	22.1	片面			73
34	SB12	②	104	砂岩	46	38	14	32.4				63
35	SB12	②	110	砂岩	40	28	14	22.4				64
36	SB12	床直	112	泥岩	59	33	13	39				65
37	SB12	②	119	れき岩	37	30	12	16.5				66
38	SB12	②	120	砂岩	34	19	14	12.8				67
39	SB12	床直	137	砂岩	62	42	9	33.8				68
40	SB12	床直	138	泥岩	67	35	14	54.9				69
41	SB12	床直	152	砂岩	62	34	11	43				70
42	SB12	床直	153	砂岩	55	25	10	24				71
43	SB12	①	154	砂岩	(28)	26	(13)	11.1		あり	焼土	72
44	SB13		15	砂岩	49	28	11	23.7	両面			92
45	SB14	①	23	ホルンフェルス	(50)	(35)	(14)	31		あり		
46	SB14	②	60	ホルンフェルス	37	30	10	14.5				112
47	SB14	SK148	90	砂岩	(56)	(49)	(8)	25.2		あり		
48	SB14	SK148	93	ホルンフェルス	(45)	(33)	(9)	16.5		あり		
49	SB14	SK142	118	砂岩	60	39	15	49.3			一部はがれ	113
50	SB16	①	5	砂岩	41	30	11	20				
51	SB16	①	21	砂岩	45	21	13	18	両面			134
52	SB16	②	43	砂岩	46	26	17	30.3	両面		被熱	135
53	SB16	②	44	砂岩	47	30	11	20.6				136
54	SB16	SK92	66	ホルンフェルス	93	33	16	72.2	両面			137
55	SB16	SK92	67	凝灰岩	66	39	17	65.8				138
56	SB16	SK92	68	砂岩	46	30	11	24.8				
57	SB17・18	①	7	砂岩	35	25	11	13.7			被熱	155
58	SB17・18		8	砂岩	34	25	11	12.7				154
59	SB17・18		9	砂岩	35	26	11	13.8				
60	SB17・18		15	ホルンフェルス	46	34	12	28.7				
61	SB17・18		26	砂岩	47	40	13	38.3				152
62	SB17・18		27	砂岩	44	29	13	22.6			一部はがれ	
63	SB17・18	②	39	砂岩	41	24	8	12				156
64	SB17・18	床直	57	砂岩	50	33	15	34.9			炉付近	153
65	SB17・18	SK196	70	れき岩	59	37	14	40			一部はがれ	151
66	SK1		4	砂岩	48	(36)	15	31.4		あり		
67	SK1		33	砂岩	(45)	(27)	(16)	23.9		あり		
68	SK2		3	砂岩	53	36	14	39.4	片面			170
69	SK2		15	砂岩	43	28	10	19.6				
70	SK2		17	砂岩	42	32	10	17.6				
71	SK2		18	砂岩	36	28	11	14.2				
72	SK2		23	砂岩	57	25	18	36	両面			171
73	SK2		24	砂岩	40	27	10	15.9				
74	SK2		29	片岩	43	29	10	18.9			一部はがれ	
75	SK2		36	砂岩	50	19	10	13.9	両面			172
76	SK16		73	泥岩	65	31	22	66.6				216
77	SK21		1	砂岩	63	45	19	78.5				217
78	SK21		7	泥岩	48	23	11	18.4				
79	SK21		18	砂岩	49	23	10	18.7				
80	SK32		19	砂岩	52	47	22	74.8				218
81	SK34		118	砂岩	32	29	12	17.2			二対の切目	219
82	SK49		46	泥岩	35	24	11	13.1	片面			220
83	SK50		10	れき岩	48	41	13	36.2				
84	SK50		3	砂岩	81	39	14	68.8				
85	SK51		1	砂岩	58	(30)	(12)	31.5		あり		
86	SK60		1	砂岩	37	19	11	11.4	両面			221
87	SK60		2	泥岩	50	43	12	52.4				222
88	SK66		87	泥岩	38	33	15	27.3				223
89	SK74		38	泥岩	35	30	13	20.4				
90	SK172		112	砂岩	52	32	16	35.4	両面			
91	SK206		115	砂岩	(47)	(25)	(13)	18.5		あり		
92	SK207	①	1	砂岩	40	29	15	23.3				175
93	SK207	①	3	砂岩	35	26	8	11				177

切目石錘計測・観察表(3)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	帯状痕跡	折損	備考	報告書番号
94	SK207	①	4	泥岩	43	21	10	11.2	両面			178
95	SK207	①	5	砂岩	40	30	12	19.7				179
96	SK207	②	12	砂岩	50	35	9	25				180
97	SK207	②	13	砂岩	45	32	11	21.9				181
98	SK207	②	14	砂岩	43	20	9	11.9	両面			182
99	SK207	②	15	ホルンフェルス	48	21	14	18.3	両面			183
100	SK207	②	16	砂岩	46	35	17	37.9				184
101	SK207	②	17	安山岩	41	27	10	14.7				185
102	SK207	②	18	安山岩	36	30	13	20.7				186
103	SK207	②	19	砂岩	(33)	(21)	(14)	13.8		あり		
104	SK207	②	20	れき岩	44	30	10	18.9				187
105	SK207	②	21	砂岩	39	31	10	15.2	両面			188
106	SK207	②	22	砂岩	43	27	14	22.9	両面			189
107	SK207	②	23	泥岩	48	31	16	34.7			一部はがれ	
108	SK207	②	25	砂岩	38	28	9	10.9				190
109	SK207	②	28	砂岩	40	33	(9)	13.4		あり		
110	SK207	②	32	れき岩	65	39	20	64.2		あり		191
111	SK207	①	2	ホルンフェルス	38	29	8	14.2	両面			176
112	Pit2		120	砂岩	49	(30)	12	25.6		あり		
113	Pit2		121	砂岩	44	35	9	20.8				213
114	Pit24		10	砂岩	54	34	17	42.6	片面			
115	Pit31		12	れき岩	63	47	25	99.6				
116	Pit39		6	砂岩	(46)	(39)	(17)	43.4		あり		
117	Pit56		22	ホルンフェルス	71	42	19	75.4			一部はがれ	
118	Pit85		43	砂岩	(31)	(30)	5	6.7		あり		
119	Pit88		29	砂岩	74	34	26	96.2				214
120	Pit93		50	安山岩	43	28	18	33.2	片面			
121	Pit94		52	ホルンフェルス	48	33	23	49.2				215
122	Pit140		100	砂岩	41	30	12	22.1				
123	Pit147		70	砂岩	40	28	16	24.8	両面			
124	SX1		4	泥岩	38	30	8	12.7	片面		一部はがれ	
125	SX1		9	砂岩	50	36	13	31.7				
126	SX1		10	安山岩	35	28	9	13.5				224
127	SX1		12	砂岩	46	35	11	22.5			被熱・一部はがれ	
128	SZ5		6	砂岩	50	38	29	73.4	両面			225
129	SZ5		9	れき岩	46	32	13	28	両面			226
130	SZ5		11	ホルンフェルス	54	33	15	40.5			一部はがれ	
131	SZ5		12	砂岩	(31)	(27)	(11)	9.1		あり		
132	x2	III	1	砂岩	56	42	33	98.7				
133	x2	III	2	砂岩	(40)	(38)	(18)	33.2		あり		
134	x2	III	3	泥岩	41	35	20	38.4				
135	x2	III	4	砂岩	44	30	12	21.2				
136	x3	III	1	ホルンフェルス	(31)	(37)	(12)	13.2		あり		
137	x3	II	18	砂岩	66	46	19	79.2				
138	x3	II	20	砂岩	(43)	(36)	(22)	37.1		あり		
139	x3	II	21	砂岩	44	38	11	25.7			一部はがれ	
140	x3	II	47	ホルンフェルス	62	44	17	67.7				
141	x3	II	48	砂岩	47	36	17	41				
142	x3	II	49	砂岩	44	29	15	25.9				
143	x3	II	50	砂岩	(43)	(17)	(7)	11.8	片面	あり		
144	x3	II	51	ホルンフェルス	(53)	(32)	(15)	29.4		あり		
145	x3	II	58	砂岩	45	32	17	33.5	両面		溝が全周	289
146	x3	II	59	砂岩	(56)	(32)	(15)	28.4		あり		
147	x4	II	2	砂岩	44	38	12	29.5				
148	y2	III	4	砂岩	48	25	15	25.8	片面			
149	y2	III	5	ホルンフェルス	(49)	(32)	(14)	27.4		あり		
150	y2	III	14	砂岩	46	30	14	26.3				
151	y2	III	15	ホルンフェルス	(66)	(31)	(15)	38	両面	あり		
152	y2	III	10	砂岩	34	31	18	24.1				
153	y3	III	8	泥岩	34	34	16	26.2				
154	y3	III	25	閃緑岩	43	23	13	18.9	両面			
155	y3	III	26	砂岩	38	23	10	13	両面			
156	y3	III	38	砂岩	48	27	14	26.1				
157	y3	III	39	砂岩	(65)	(31)	(11)	31.1	片面	あり		
158	y3	III	40	砂岩	(41)	(24)	(15)	23.8	片面	あり		

切目石錘計測・観察表(4)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	帯状板緑	折損	備考	報告書番号
159	y3	III	41	砂岩	(37)	(25)	(16)	18.6		あり		
160	y3	III	42	砂岩	(21)	(25)	(12)	8.4		あり		
161	y3	III	62	砂岩	(43)	(37)	(13)	31.9		あり		
162	y3	III	66	ホルンフェルス	53	23	(11)	19.7		あり		
163	y3	III	67	安山岩	48	39	13	32.5				
164	y3	III	68	閃緑岩	41	23	9	13.2	両面			
165	y3	III	70	砂岩	(40)	(25)	(9)	10.5		あり		
166	y3	III	80	砂岩	53	35	17	45.7				
167	y3	III	81	砂岩	58	(32)	31	28.7		あり		
168	y3	III	82	砂岩	34	27	10	13.9				
169	y3	III	92	砂岩	50	32	17	37.5	両面			
170	y3	III	93	砂岩	56	33	14	29.9				
171	y3	III	94	砂岩	48	28	12	22.3				
172	y3	III	95	ホルンフェルス	41	34	11	19.5			一部はがれ	
173	y3	III	96	砂岩	34	17	10	8.7				
174	y3	III	105	砂岩	46	24	9	14				
175	y3	III	115	砂岩	42	44	10	13.7				
176	y3	II	127	ホルンフェルス	76	33	21	80.1	両面			
177	y3	II	128	れき岩	42	37	16	33.5			一部はがれ	
178	y3	II	142	砂岩	75	29	27	91.7	両面			
179	y3	II	143	砂岩	60	43	21	75.1				
180	y3	II	144	砂岩	(42)	(33)	(17)	29.4	片面	あり		
181	y3	II	152	安山岩	63	53	23	100.9				
182	y3	II	153	砂岩	(53)	(25)	(12)	21.8		あり		
183	y3	II	159	砂岩	48	33	17	39.3				
184	y4	III	2	輝灰岩	47	40	21	58.3				
185	y4	III	3	砂岩	54	37	22	56.2				
186	y4	III	4	砂岩	35	23	14	16.1	両面			
187	y4	III	5	砂岩	(48)	(32)	(20)	28		あり		
188	y4	III	6	ホルンフェルス	(32)	(26)	(24)	23.6		あり		
189	y4	III	17	砂岩	51	39	25	64.4	片面			
190	y4	III	18	輝灰岩	40	29	15	23.7				
191	y4	III	26	れき岩	42	33	16	26.7				
192	y4	III	27	砂岩	50	(32)	(10)	24.6		あり		
193	y4	III	33	ホルンフェルス	(43)	(30)	(12)	18.1		あり		
194	y4	III	34	砂岩	51	25	12	21.5				
195	y4	III	57	砂岩	(34)	(29)	(13)	16.1		あり		
196	y4	III	65	砂岩	35	27	14	18.9				
197	y4	III	66	砂岩	(34)	30	(10)	15.2		あり		
198	y4	II	74	砂岩	77	34	17	64.1				
199	y4	II	75	泥岩	(38)	(29)	(12)	14		あり		
200	z2	III	27	砂岩	71	29	15	48				
201	z2	III	28	砂岩	(50)	(32)	(10)	19.2		あり		
202	z2	III	83	砂岩	74	35	22	77	片面			
203	z2	III	84	ホルンフェルス	59	(44)	20	72.8		あり		
204	z2	III	85	ひん岩	65	38	13	51.7				
205	z2	III	86	泥岩	62	47	20	80.1			被熱	290
206	z2	III	87	ホルンフェルス	48	38	12	29	両面			
207	z2	III	88	砂岩	(40)	26	(15)	20		あり		
208	z2	III	89	ホルンフェルス	(41)	(24)	(9)	9.3		あり		
209	z3	III	12	砂岩	52	31	20	66				
210	z3	III	13	ホルンフェルス	49	32	(15)	29.7		あり		
211	z3	III	14	砂岩	46	34	17	34.7	片面			
212	z3	III	15	安山岩	50	32	19	44.5	両面			
213	z3	III	16	砂岩	54	27	(11)	23.2		あり		
214	z3	III	17	砂岩	(37)	(39)	(17)	28.9		あり		
215	z3	III	18	安山岩	(32)	(31)	(16)	24.6	片面	あり		
216	z3	III	40	安山岩	51	48	24	74.9				
217	z3	III	41	ホルンフェルス	(54)	(36)	(10)	26	片面	あり		
218	z3	III	42	砂岩	(52)	(18)	(12)	19.4		あり		
219	z3	III	70	砂岩	(44)	(29)	(20)	40.4		あり		
220	z3	III	71	泥岩	(52)	(42)	22	65.3		あり		
221	z3	III	118	砂岩	59	45	24	87.6				
222	z3	III	119	安山岩	60	52	16	68.3				
223	z3	III	120	砂岩	55	25	15	28.8				

切目石錘計測・観察表(5)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	帯状板緑	折損	備考	報告書番号
224	z3	III	121	砂岩	39	25	16	23.9				
225	z3	III	122	砂岩	(62)	59	21	111.4		あり		
226	z3	III	141	ホルンフェルス	56	41	20	61.6				
227	z3	III	157	ホルンフェルス	57	39	19	61.6				
228	z3	III	158	砂岩	(37)	(41)	(12)	26.1		あり		
229	z3	III	160	砂岩	(42)	(19)	(12)	9.9		あり		
230	z3	III	162	砂岩	(41)	(26)	(11)	15.3		あり		
231	z3	III	196	砂岩	57	36	21	62.9	片面			
232	z3	III	197	安山岩	44	36	19	38				
233	z3	III	198	砂岩	(39)	(17)	(12)	8		あり		
234	z3	III	209	砂岩	54	(32)	(9)	23.9		あり		
235	z3	III	210	砂岩	35	22	11	12.1				
236	z3	III	212	砂岩	39	29	11	18.3	両面			
237	z3	III	223	砂岩	50	39	18	65.2				
238	z3	III	225	れき岩	52	32	18	36.8				
239	z3	III	230	砂岩	56	29	14	31.6			片面に擦痕	291
240	z3	III	231	ホルンフェルス	50	36	16	41.9				
241	z3	III	232	れき岩	57	41	18	56.6			一部はがれ	
242	z3	III	233	ホルンフェルス	38	(24)	(12)	18.3		あり		
243	z3	II	264	砂岩	57	31	20	48.5	両面		被熱	
244	z4	III	23	れき岩	43	27	25	41.7			切目多数	292
245	z4	III	39	砂岩	45	33	15	32				
246	z4	III	55	安山岩	58	34	15	37.6	片面			
247	z4	III	56	砂岩	48	37	12	28.4			切目＋打欠	293
248	z4	III	73	れき岩	53	42	20	55.4	両面		一部はがれ	
249	z4	III	74	砂岩	54	34	21	58.2				
250	z4	III	90	泥岩	69	42	15	68.6	片面			
251	z4	III	91	砂岩	36	33	14	35.5				
252	z4	III	95	ホルンフェルス	(54)	(35)	(8)	25.1		あり		
253	z4	III	98	ホルンフェルス	60	38	18	57.8				
254	z4	III	105	ホルンフェルス	53	39	24	65.4	片面			
255	z4	III	106	砂岩	50	42	18	52.9			側面に面取り	294
256	z4	III	107	ホルンフェルス	64	38	19	63	両面			
257	z4	III	108	砂岩	45	34	18	36.2				
258	z4	III	109	砂岩	52	29	16	30.3				
259	z4	III	110	砂岩	49	22	12	20.3				
260	z4	III	111	ホルンフェルス	41	28	17	28.6				
261	z4	III	112	れき岩	50	(36)	(19)	42.6		あり		
262	z4	III	113	砂岩	68	24	(15)	20.5		あり		
263	z4	III	114	ホルンフェルス	(39)	(37)	(16)	22.6		あり		
264	z4	III	115	砂岩	(30)	(25)	(7)	5.8		あり		
265	z4	III	116	ホルンフェルス	(30)	(25)	(10)	6.5		あり		
266	z4	III	167	砂岩	52	27	15	31.1				
267	z4	III	197	ホルンフェルス	(67)	(25)	(21)	45		あり		
268	z4	III	198	砂岩	48	32	15	33.5				
269	z4	III	199	砂岩	44	38	29	60.7	片面			
270	z4	III	200	砂岩	43	32	12	21.1			一部はがれ	
271	z4	III	201	砂岩	50	(31)	10	25.1		あり		
272	z4	III	207	砂岩	45	32	23	32.4			摩滅激しい	295
273	z4	III	224	砂岩	(36)	(22)	(10)	6		あり		
274	z4	III	237	ホルンフェルス	46	33	25	68.6			縁が全周	296
275	z4	III	288	砂岩	46	44	28	72.4				
276	z4	III	289	砂岩	44	29	23	38.4	両面			
277	z4	III	290	ホルンフェルス	45	26	10	18.1				
278	z4	III	291	砂岩	(44)	(36)	(15)	21.6		あり		
279	z4	III	292	砂岩	42	19	11	12.7	両面			
280	z4	III	313	砂岩	55	(42)	(19)	53.5		あり		
281	z4	III	340	砂岩	46	24	16	24.5	両面			
282	z4	III	341	砂岩	48	28	10	19.1	両面			
283	z4	III	367	砂岩	71	37	27	100.7	両面			
284	z4	III	368	砂岩	48	30	13	23.9				
285	z4	III	369	れき岩	42	24	11	18.1	両面			
286	z4	III	378	砂岩	50	27	14	26.3				
287	z4	III	379	安山岩	44	34	14	31.8				
288	z4	II	386	砂岩	(47)	(31)	(16)	24.9		あり	切目＋打欠	

切目石錘計測・観察表(6)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	帯状痕跡	折損	備考	報告書番号
289	z4	II	396	砂岩	47	37	18	47.6	両面			
290	z5	III	4	ホルンフェルス	61	42	17	65.8				
291	z5	III	5	砂岩	60	39	20	67.3				
292	z5	III	11	砂岩	46	35	17	38.1				
293	z5	III	22	砂岩	56	43	14	50.7	両面			
294	z5	III	23	砂岩	48	33	18	36.2	片面			
295	z5	III	34	安山岩	39	32	16	24.8	片面			
296	z5	III	43	砂岩	49	36	18	47.3				
297	z5	III	58	ホルンフェルス	55	20	14	21	両面			
298	z5	III	59	砂岩	(39)	(26)	16	25.2	両面	あり		
299	z5	III	93	砂岩	42	29	11	18.9	両面		一部はがれ	
300	z5	III	94	安山岩	(39)	23	14	16.8		あり		
301	z5	III	104	砂岩	40	36	12	23.7			一部はがれ	
302	z5	III	130	ホルンフェルス	41	32	17	31.4				
303	z5	III	131	砂岩	43	29	14	21.4	片面		一部はがれ	
304	z6	III	7	砂岩	56	21	13	23.2				
305	z6	III	8	砂岩	47	29	9	20.7	両面			
306	z6	III	9	ホルンフェルス	(37)	35	12	20.2	片面	あり		
307	z6	III	24	砂岩	32	18	8	7.4				
308	z6	III	52	砂岩	37	27	7	10.7				
309	z6	III	63	砂岩	49	33	15	33.3			凹みあり	299
310	z6	III	67	砂岩	65	41	20	74.8	両面			
311	z6	III	68	れき岩	36	25	16	18.9				
312	z6	III	98	砂岩	47	38	18	43.3				
313	z6	III	99	ホルンフェルス	57	32	23	69.2	両面			
314	z6	III	100	砂岩	(41)	(29)	(7)	13.6		あり		
315	z6	III	108	砂岩	47	29	15	32.1				
316	z6	III	110	砂岩	(42)	(22)	(10)	13.3		あり		
317	z6	III	111	砂岩	37	34	11	19.8			一部はがれ	
318	z6	III	112	砂岩	(42)	(26)	(13)	21.9				
319	z6	III	113	ホルンフェルス	(46)	(34)	(14)	22.4		あり		
320	z6	III	114	ホルンフェルス	(29)	(26)	(15)	13.5		あり		
321	z6	III	119	砂岩	57	37	18	53.8	片面			
322	z6	III	120	ホルンフェルス	47	39	17	42.1				
323	z6	III	121	ホルンフェルス	44	25	10	18.6				
324	z6	II	129	砂岩	50	29	14	28.7	両面			
325	z7	III	1	砂岩	64	27	14	34.7				
326	z7	III	2	砂岩	(34)	(26)	(7)	6.5		あり		
327	z7	II	3	砂岩	45	29	11	22.5				
328	z7	II	8	砂岩	42	27	16	23.1	両面		一部はがれ	
329	z7	II	9	砂岩	(38)	(28)	(9)	13		あり		
330	z8	II	3	砂岩	32	20	14	9.2				
331	A3	III	8	安山岩	55	44	29	98.6				
332	A3	III	9	ホルンフェルス	54	22	10	19.4	片面			
333	A3	III	19	凝灰岩	64	26	16	39.2				
334	A3	III	65	砂岩	47	36	21	48.2				
335	A3	III	79	砂岩	58	23	13	28.3			一部はがれ	
336	A3	II	93	砂岩	(35)	(26)	(11)	13.2		あり		
337	A3	II	111	ホルンフェルス	65	(44)	23	90.3		あり		
338	A3	II	112	ホルンフェルス	61	22	11	21.3				
339	A4	III	13	砂岩	56	39	19	56.1				
340	A4	III	14	ホルンフェルス	53	24	14	24				
341	A4	III	46	砂岩	69	38	22	83.3				
342	A4	III	47	砂岩	(44)	33	17	33		あり		
343	A4	III	48	砂岩	44	44	18	57.6				
344	A4	III	49	安山岩	33	(26)	18	21.7		あり		
345	A4	III	63	ホルンフェルス	48	28	(16)	28.6		あり		
346	A4	III	69	砂岩	61	43	17	63.4				
347	A4	III	70	砂岩	46	40	20	49.3		あり		
348	A4	III	71	砂岩	58	(34)	20	45.9		あり		
349	A4	III	72	砂岩	58	28	12	33.7				
350	A4	III	73	砂岩	40	19	14	14.7			一部はがれ	
351	A4	III	74	ホルンフェルス	(44)	(27)	(13)	18.1		あり		
352	A4	III	75	砂岩	(40)	26	(7)	17.2		あり		
353	A4	III	76	砂岩	39	18	9	10.9				

切目石錘計測・観察表(7)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	帯状痕跡	折損	備考	報告書番号
354	A4	III	104	砂岩	70	41	16	69.3				
355	A4	III	148	ホルンフェルス	49	(29)	(13)	25.3		あり		
356	A4	III	151	ホルンフェルス	67	(43)	(13)	54.1		あり		
357	A4	III	164	ホルンフェルス	65	22	12	25.1				
358	A4	III	184	砂岩	52	37	12	37.9	両面		SB9直下	
359	A4	III	185	ホルンフェルス	50	40	20	48			SB9直下	
360	A4	III	187	砂岩	40	22	13	16.2				
361	A4	III	192	安山岩	71	52	24	105.9				
362	A4	II	206	砂岩	64	(11)	(13)	15.6		あり		
363	A4	II	215	砂岩	45	34	11	24.2				
364	A4	II	216	砂岩	(60)	38	22	67.2	片面	あり		
365	A5	III	2	砂岩	64	39	24	82.8				
366	A5	III	26	砂岩	42	32	11	23.8				
367	A5	III	39	砂岩	60	43	23	77.3			一部はがれ	
368	A5	III	47	泥岩	(33)	(20)	(6)	4.6		あり		
369	A5	III	56	砂岩	49	37	22	61.8				
370	A5	II	93	砂岩	47	28	14	24.8	片面			
371	A5	II	94	砂岩	42	31	10	18.1				
372	A6	III	3	砂岩	45	25	15	24.4				
373	A6	III	4	砂岩	40	21	11	13.1				
374	A6	III	31	砂岩	(45)	(23)	12	17		あり		
375	A6	III	65	砂岩	(29)	27	9	10.5		あり		
376	A6	III	70	砂岩	43	25	9	13.4				
377	A6	III	94	砂岩	52	34	9	25.7			被熱	300
378	A6	III	95	ホルンフェルス	47	26	(8)	15		あり		
379	A6	III	96	砂岩	48	30	12	25.2	片面			
380	A6	III	97	砂岩	38	26	9	13.2				
381	A6	III	110	砂岩	54	39	17	51.5				
382	A6	III	111	砂岩	53	30	9	19.9				
383	A6	III	112	砂岩	42	28	8	15.6				
384	A6	III	113	凝灰岩	42	23	10	13.4				
385	A6	III	114	砂岩	(36)	(21)	(9)	7.6		あり		
386	A6	III	124	れき岩	46	34	18	36.6				
387	A6	III	129	砂岩	49	22	12	18.1	片面			
388	A6	III	130	凝灰岩	(35)	26	12	13.6	片面	あり		
389	A6	III	139	砂岩	36	21	12	12.7			切目は片方のみ	
390	A6	III	150	砂岩	(39)	27	12	15.8	片面	あり		
391	A6	III	151	砂岩	(27)	26	(13)	15.2		あり		
392	A6	III	163	ホルンフェルス	58	42	20	66.2				
393	A6	III	164	砂岩	48	27	19	32.1				
394	A6	III	165	砂岩	43	22	11	16				
395	A6	III	186	れき岩	62	33	17	46.7			一部はがれ	
396	A6	II	223	砂岩	54	48	17	57.5	片面			
397	A6	II	224	ホルンフェルス	55	31	14	35.1	片面		切目＋打欠	
398	A6	II	225	ホルンフェルス	41	31	16	27.5				
399	A6	II	226	砂岩	38	26	6	9.5				
400	A6	II	227	砂岩	(42)	31	17	29.8		あり		
401	A6	II	228	ホルンフェルス	39	(22)	(13)	12.1		あり		
402	A7	III	5	砂岩	33	25	11	11.9				
403	A7	III	21	砂岩	60	33	11	33.5				
404	A7	III	84	砂岩	39	22	13	14.7				
405	A7	III	88	砂岩	57	40	16	51.8			一部はがれ	
406	A7	III	91	砂岩	(73)	30	17	50.9		あり		
407	A7	III	92	砂岩	44	32	14	29.4				
408	A7	III	108	砂岩	50	32	16	39.1				
409	A7	III	135	れき岩	(63)	(40)	20	70.1		あり		
410	A7	III	166	ホルンフェルス	(44)	28	8	14.6	片面	あり		
411	A7	III	167	ホルンフェルス	(26)	26	9	8.4		あり		
412	A7	III	170	砂岩	46	22	9	15	片面		一部はがれ	
413	A7	III	175	砂岩	40	27	14	20.3	両面			
414	A7	III	176	砂岩	35	28	12	14.3				
415	A7	III	190	砂岩	46	39	9	27.7				
416	A7	III	191	砂岩	51	30	16	31.4				
417	A7	II	220	砂岩	37	27	9	12.8			被熱	
418	A7	II	235	砂岩	38	22	12	12.9	片面			

切目石錘計測・観察表(8)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	帯状痕跡	折損	備考	報告書番号
419	A7	II	236	ホルンフェルス	(55)	43	16	59		あり		
420	A7	II	276	ホルンフェルス	40	27	14	19.9				
421	A7	II	277	泥岩	45	(24)	(7)	13.1		あり		
422	A7	II	287	れき岩	63	(41)	(18)	59.7		あり		
423	A8	III	2	安山岩	42	27	12	17.1	片面			
424	A8	III	3	ホルンフェルス	37	25	14	19				
425	A8	III	66	砂岩	56	45	12	44			一部はがれ	
426	A8	III	67	砂岩	56	14	20	59.1				
427	A8	III	69	砂岩	(70)	53	26	138.1		あり		
428	A8	III	74	砂岩	54	46	25	81.9			磨面あり	301
429	A8	III	101	ホルンフェルス	57	26	11	25	片面			
430	A8	III	102	砂岩	(25)	(23)	10	8.8		あり		
431	A8	III	105	砂岩	51	21	15	24.8	両面			
432	A8	III	178	砂岩	44	24	12	16.9	両面		被熱	
433	A8	III	179	ホルンフェルス	42	21	13	16				
434	A8	III	180	砂岩	42	33	11	20				
435	A8	III	201	泥岩	53	33	16	37.8				
436	A8	III	202	砂岩	34	28	9	13				
437	A8	III	206	砂岩	54	37	(16)	44.7	片面	あり		
438	A8	III	207	砂岩	39	36	14	24.9				
439	A8	III	252	砂岩	41	32	11	21.5				
440	A8	III	253	砂岩	31	24	10	11.2				
441	A8	III	259	ホルンフェルス	(41)	29	11	19.7	両面	あり		
442	A8	III	280	砂岩	(58)	41	15	50.6		あり		
443	A8	III	281	砂岩	56	31	11	26.1			被熱	
444	A8	III	286	砂岩	39	32	11	18.8				
445	A8	II	292	砂岩	60	37	13	42.1			被熱	
446	A8	II	293	砂岩	50	31	17	43.8				
447	A8	II	319	ホルンフェルス	(22)	(36)	(14)	16		あり		
448	A8	II	339	砂岩	48	30	17	34.9	片面	あり		
449	A9	III	7	砂岩	42	26	12	18.2	片面			
450	A9	III	15	砂岩	(17)	(27)	(9)	5		あり		
451	A9	III	19	砂岩	58	32	10	28.7			一部はがれ	
452	A9	III	30	砂岩	35	33	(12)	18.5		あり		
453	A9	III	40	砂岩	40	37	(12)	20.8		あり		
454	A9	III	51	砂岩	49	38	19	46.2				
455	A9	III	52	安山岩	46	25	9	16.8	両面			
456	A9	III	53	砂岩	53	30	11	26.3				
457	A9	III	64	砂岩	44	26	15	26.8				
458	A9	III	67	ホルンフェルス	39	27	11	17.7				
459	A9	III	68	安山岩	37	17	11	9.6	片面			
460	A9	III	78	砂岩	50	22	12	21.4				
461	A9	III	83	砂岩	44	30	12	27.1				
462	A9	III	96	砂岩	40	30	9	15.5				
463	A9	II	103	砂岩	42	28	23	39.1				
464	A9	II	104	れき岩	(44)	(24)	(20)	25.3		あり		
465	A9	II	105	砂岩	48	(29)	(6)	10		あり		
466	A9	II	106	砂岩	(29)	(23)	(6)	5.2		あり		
467	A9	II	120	砂岩	52	46	18	59.1				
468	A9	II	124	砂岩	51	28	9	19.7				
469	A9	II	125	砂岩	44	31	9	18.7				
470	A9	II	128	泥岩	50	34	10	21.3	片面			
471	A9	II	138	泥岩	55	32	12	28.6				
472	A9	II	139	砂岩	41	30	8	13.6				
473	A10	III	1	ホルンフェルス	50	26	13	24	両面			
474	A10	III	7	ホルンフェルス	47	37	14	34.1				
475	A10	III	9	砂岩	44	31	13	20.7				
476	A10	III	13	砂岩	37	27	12	16.7	片面			
477	A10	III	17	砂岩	38	28	15	19.3				
478	A10	II	22	砂岩	(40)	(36)	(21)	28.4		あり		
479	A10	II	38	砂岩	49	(30)	(15)	33.6		あり		
480	A10	II	46	砂岩	42	23	11	16.3	両面			
481	A10	II	47	ホルンフェルス	42	22	13	17.7				
482	A10	II	63	ホルンフェルス	43	37	13	28.4			一部はがれ	
483	A10	II	77	砂岩	(33)	(36)	(13)	16.2		あり		

切目石錘計測表(9)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	帯状痕跡	折損	備考	報告書番号
484	A11	II	6	砂岩	20	43	21	60.2				
485	A11	II	7	ホルンフェルス	51	30	12	26.8				
486	A11	II	8	砂岩	54	25	14	24.6	片面			
487	A11	II	9	砂岩	46	30	17	36.8				
488	A11	II	10	砂岩	46	30	11	23.1				
489	A11	II	11	砂岩	48	29	9	18.3				
490	A11	II	12	ホルンフェルス	42	28	12	19.4				
491	A11	II	13	砂岩	43	31	10	20.3				
492	A11	II	16	砂岩	38	28	11	15.2				
493	A11	II	17	ホルンフェルス	53	24	13	24.3	片面			
494	A11	II	18	砂岩	(46)	29	9	17.5		あり		
495	A11	II	21	流紋岩	54	31	(11)	24.9		あり		
496	A11	II	22	砂岩	43	32	(15)	23.2	片面	あり		
497	A11	II	23	砂岩	37	30	(11)	16.3		あり		
498	A11	II	24	砂岩	36	23	11	11.8				
499	A11	II	26	砂岩	43	34	16	27.2				
500	A12	II	2	砂岩	53	27	14	28				
501	A12	II	3	安山岩	52	28	10	21.3				
502	A12	II	4	砂岩	44	35	13	24.7				
503	A12	II	6	砂岩	40	29	14	22.3				
504	B4	III	10	砂岩	39	36	23	47.6			SB9直下	
505	B4	III	11	砂岩	(47)	33	17	36.4	片面	あり	SB9直下	
506	B4	III	12	砂岩	40	24	11	14	両面		SB9直下	
507	B4	III	27	砂岩	72	41	17	68.1				
508	B5	III	21	砂岩	(40)	28	(18)	24.9		あり		
509	B5	III	22	砂岩	70	(42)	(26)	16	—	あり		
510	B5	III	47	砂岩	(49)	(21)	(12)	16.1	—	あり		
511	B5	III	80	安山岩	64	56	22	87.2				
512	B5	III	81	安山岩	51	40	16	49.8				
513	B5	III	82	砂岩	(51)	39	18	49.6		あり		
514	B5	III	105	砂岩	(52)	(35)	(16)	27.1	—	あり		
515	B5	III	128	砂岩	44	(30)	(15)	23		あり		
516	B6	III	52	安山岩	57	47	20	81.7				
517	B6	III	53	砂岩	51	34	18	45				
518	B6	III	66	砂岩	80	38	15	74.4				
519	B6	III	77	砂岩	60	28	16	33.9		あり		
520	B6	III	78	砂岩	50	22	11	18.8	両面			
521	B6	III	88	砂岩	40	26	10	14.2				
522	B6	III	89	ホルンフェルス	(31)	(30)	(7)	7.9	—	あり		
523	B6	III	102	砂岩	63	40	20	70.5	片面			
524	B6	III	115	砂岩	43	29	12	22.1				
525	B6	III	116	砂岩	(47)	24	14	23.9	片面	あり		
526	B6	III	117	砂岩	(32)	(27)	8	8		あり		
527	B6	II	136	砂岩	50	27	13	23.2	両面			
528	B6	II	137	ホルンフェルス	(47)	32	12	25.2		あり		
529	B6	II	138	砂岩	(39)	(26)	(10)	11.2	—	あり		
530	B6	III	157	砂岩	(41)	(30)	(18)	22		あり		
531	B6	III	161	砂岩	48	(29)	14	29.7		あり		
532	B7	III	1	砂岩	42	21	11	16.3				
533	B7	III	30	砂岩	50	24	13	23.8	両面			
534	B7	III	45	安山岩	(73)	52	33	189.8	片面	あり		
535	B7	III	47	砂岩	49	31	16	30		あり		
536	B7	III	48	砂岩	40	27	13	17.7	片面			
537	B7	III	49	砂岩	40	26	10	14.1				
538	B7	III	50	砂岩	38	(20)	(9)	8.2		あり		
539	B7	III	61	砂岩	41	26	9	18.1				
540	B7	III	64	砂岩	40	31	12	19.5				
541	B7	III	65	ホルンフェルス	44	34	7	13.5				
542	B7	III	67	砂岩	46	28	12	21.7			SB11直下	
543	B7	II	106	砂岩	61	35	13	35.5				
544	B7	II	124	砂岩	51	37	16	36.6				
545	B7	II	153	砂岩	62	22	17	32.3				
546	B7	II	172	砂岩	54	29	20	49.5	片面			
547	B8	III	3	砂岩	53	29	13	29.4				
548	B8	III	8	ホルンフェルス	48	38	22	52.2		あり		

切目石鏃計測・観察表(10)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	茎状痕跡	折損	備考	報告書番号
549	B8	Ⅲ	9	砂岩	44	18	14	15.7	両面			
550	B8	Ⅲ	10	砂岩	(47)	27	17	26.5		あり		
551	B8	Ⅲ	34	砂岩	52	28	9	18				
552	B8	Ⅲ	35	砂岩	(59)	38	23	64.2		あり		
553	B8	Ⅲ	50	れき岩	72	36	21	79.5				
554	B8	Ⅲ	51	砂岩	44	31	13	24.9	両面			
555	B8	Ⅲ	80	砂岩	53	17	14	20	両面			
556	B8	Ⅲ	102	砂岩	51	38	19	52.4				
557	B8	Ⅲ	103	砂岩	38	22	9	11.5				
558	B8	Ⅲ	104	れき岩	35	27	11	13.4				
559	B8	Ⅱ	123	れき岩	77	31	22	64.2				
560	B8	Ⅱ	124	砂岩	56	42	17	64.7	片面			
561	B8	Ⅱ	170	砂岩	(51)	30	11	25.4		あり		
562	B8	Ⅱ	175	砂岩	51	28	14	28.5				
563	B8	Ⅱ	176	砂岩	41	28	(10)	14.3		あり		
564	B8	Ⅱ	177	砂岩	36	22	12	12.9				
565	B8	Ⅱ	186	砂岩	66	39	13	44.7				
566	B8	Ⅱ	187	砂岩	57	35	20	51.7			一部はがれ	
567	B9	Ⅲ	10	砂岩	46	31	14	29.8	両面			
568	B9	Ⅲ	14	安山岩	40	30	17	35.3				
569	B9	Ⅲ	23	砂岩	76	44	15	82				
570	B9	Ⅲ	24	砂岩	48	38	18	49				
571	B9	Ⅲ	25	砂岩	44	27	16	28.4				
572	B9	Ⅲ	26	砂岩	40	30	14	25.5				
573	B9	Ⅲ	46	砂岩	48	25	9	17.7				
574	B9	Ⅲ	77	砂岩	(37)	22	9	9.6				
575	B9	Ⅲ	88	砂岩	42	30	10	18.6				
576	B9	Ⅲ	90	砂岩	31	26	10	8.7				
577	B9	Ⅲ	91	砂岩	(26)	(29)	14	14		あり		
578	B9	Ⅲ	97	泥岩	42	37	13	29.4				
579	B9	Ⅲ	111	砂岩	(45)	32	14	27.9	両面	あり		
580	B9	Ⅲ	114	れき岩	62	33	14	50.7			一部はがれ	
581	B9	Ⅲ	115	砂岩	58	46	16	54				
582	B9	Ⅲ	116	れき岩	57	25	14	28.2				
583	D9	Ⅲ	117	砂岩	44	23	11	16.8	片面		切目＋打欠	303
584	B9	Ⅲ	118	凝緑岩	39	28	13	20.2				
585	B9	Ⅲ	141	砂岩	47	31	14	29.9				
586	B9	Ⅲ	142	砂岩	49	33	11	23.9				
587	B9	Ⅲ	162	砂岩	51	45	13	44.2				
588	B9	Ⅲ	163	砂岩	40	28	16	26.5				
589	B9	Ⅲ	169	砂岩	(32)	(15)	(11)	7.2		あり		
590	B9	Ⅱ	186	ホルンフェルス	(29)	(31)	(11)	13.2		あり		
591	B9	Ⅱ	193	砂岩	(45)	(33)	(16)	24.4		あり		
592	B9	Ⅲ	200	砂岩	(35)	26	11	16.4		あり		
593	B10	Ⅲ	1	砂岩	(34)	(30)	(14)	15.5		あり		
594	B10	Ⅲ	18	砂岩	42	32	12	22.3	両面			
595	B10	Ⅲ	19	砂岩	37	26	15	18.6	片面			
596	B10	Ⅲ	32	砂岩	34	22	6	8.7				
597	B10	Ⅲ	54	砂岩	38	27	12	16.9				
598	B10	Ⅲ	63	砂岩	43	27	14	21.2				
599	B10	Ⅲ	64	砂岩	44	30	13	24.6				
600	B10	Ⅲ	65	砂岩	50	24	10	18.3	片面			
601	B10	Ⅲ	68	ひん岩	46	32	14	35				
602	B10	Ⅲ	72	泥岩	50	36	13	35.4				
603	B10	Ⅲ	74	れき岩	(61)	37	19	51.2		あり		
604	B10	Ⅲ	75	砂岩	35	28	(9)	9.5		あり		
605	B10	Ⅲ	80	砂岩	50	35	16	35.5				
606	B10	Ⅲ	88	砂岩	49	31	14	29.8	片面			
607	B10	Ⅲ	96	砂岩	52	29	15	29.5			切目わずか	
608	B10	Ⅲ	97	ホルンフェルス	51	34	14	32.2			一部はがれ	
609	B10	Ⅲ	98	泥岩	(30)	(26)	(9)	9.8		あり		
610	B10	Ⅲ	104	砂岩	40	27	15	19.7	片面			
611	B10	Ⅲ	105	泥岩	39	30	(14)	18.8		あり		
612	B10	Ⅲ	113	砂岩	35	29	12	18.3				
613	B10	Ⅱ	124	砂岩	45	35	12	41.5				

切目石鏃計測・観察表(11)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	茎状痕跡	折損	備考	報告書番号
614	B10	Ⅱ	125	砂岩	47	25	9	17.9				
615	B10	Ⅱ	126	砂岩	45	33	13	25.5			一部はがれ	
616	B10	Ⅱ	137	安山岩	(37)	25	11	16		あり		
617	B10	Ⅱ	162	ホルンフェルス	51	(25)	12	21.5		あり		
618	B11	Ⅲ	9	砂岩	61	29	22	50.3			一部はがれ	
619	B11	Ⅲ	28	砂岩	36	18	12	11.3	両面			
620	B11	Ⅲ	29	砂岩	57	(30)	(15)	30	両面	あり		
621	B11	Ⅲ	30	砂岩	54	(26)	11	23.6	片面	あり		
622	B11	Ⅲ	34	ホルンフェルス	(36)	(22)	(12)	11.4		あり		
623	B11	Ⅲ	40	砂岩	58	35	11	18.7				
624	B11	Ⅲ	41	砂岩	(37)	32	12	15.1		あり		
625	B11	Ⅲ	44	砂岩	56	26	12	24.5				
626	B11	Ⅲ	45	砂岩	43	28	11	19.9				
627	B11	Ⅲ	52	れき岩	35	(28)	12	14.4		あり		
628	B11	Ⅱ	60	砂岩	49	35	30	73.8				
629	B11	Ⅱ	69	砂岩	49	30	24	45.2				
630	B11	Ⅱ	73	ホルンフェルス	53	39	17	47.9				
631	B11	Ⅱ	74	砂岩	52	35	13	37.4				
632	B11	Ⅱ	83	ホルンフェルス	57	40	21	65.9				
633	B11	Ⅱ	84	砂岩	42	31	14	22.2				
634	B11	Ⅱ	87	ホルンフェルス	(33)	31	(11)	15.3		あり		
635	B12	Ⅱ	10	砂岩	44	28	14	26.5				
636	B12	Ⅱ	14	砂岩	51	28	17	33.6			一部はがれ	
637	B12	Ⅱ	22	砂岩	36	21	16	15.1	両面		側面に面取り	302
638	B12	Ⅱ	25	砂岩	79	25	14	42				
639	C7	Ⅲ	8	砂岩	(44)	27	10	16.5		あり		
640	C7	Ⅲ	91	砂岩	50	34	19	43.1				
641	C7	Ⅱ	103	砂岩	55	35	18	53				
642	C7	Ⅱ	104	砂岩	58	33	21	55.2				
643	C7	Ⅲ	160	砂岩	36	25	8	9.6				
644	C7	Ⅱ	161	砂岩	37	26	12	17.1				
645	C8	Ⅲ	2	ホルンフェルス	55	29	9	23.3	片面		一部はがれ	
646	C8	Ⅲ	3	れき岩	(48)	(28)	15	20.6		あり		
647	C8	Ⅲ	17	砂岩	48	29	12	22.7				
648	C8	Ⅲ	18	砂岩	(36)	(31)	(14)	18.1	片面	あり		
649	C8	Ⅲ	24	砂岩	44	39	12	26.2				
650	C8	Ⅲ	25	砂岩	43	28	(16)	23.6	両面	あり		
651	C8	Ⅱ	45	砂岩	41	30	16	24.5				
652	C8	Ⅱ	77	砂岩	53	27	11	23.5	両面			
653	C8	Ⅲ	106	砂岩	37	(25)	(12)	13.1		あり		
654	C9	Ⅲ	1	砂岩	54	45	20	64.3				
655	C9	Ⅲ	2	砂岩	42	30	13	21.4				
656	C9	Ⅲ	3	砂岩	40	13	10	18.1				
657	C9	Ⅲ	21	砂岩	58	41	15	54.5				
658	C9	Ⅲ	23	砂岩	37	(24)	(8)	8.6		あり		
659	C9	Ⅱ	31	ホルンフェルス	(52)	22	12	17.4		あり		
660	C10	Ⅲ	11	砂岩	50	40	18	45.5				
661	C10	Ⅲ	16	砂岩	29	25	14	9		あり		
662	C10	Ⅲ	18	ホルンフェルス	46	24	12	19	両面			
663	C10	Ⅱ	36	泥岩	44	(32)	12	21.8		あり		
664	C10	Ⅱ	65	泥岩	55	36	16	43	両面			
665	C11	Ⅲ	1	砂岩	38	28	11	16.1				
666	C11	Ⅲ	2	砂岩	(38)	22	8	9.3		あり		
667	C11	Ⅲ	5	砂岩	35	25	13	15.5				
668	C11	Ⅲ	18	砂岩	55	33	18	41.2				
669	C11	Ⅲ	21	砂岩	47	37	15	39.6				
670	C11	Ⅲ	34	砂岩	48	27	14	25.5			切目＋打欠	297
671	C11	Ⅲ	38	砂岩	37	30	10	13.9			切目＋打欠	298
672	C11	Ⅲ	38	砂岩	50	29	12	26.9	片面			
673	C11	Ⅱ	42	砂岩	60	31	18	41.1	両面			
674	C11	Ⅱ	43	砂岩	44	36	12	27.8				
675	C11	Ⅱ	44	砂岩	39	21	11	11.3	両面			
676	C11	Ⅱ	45	砂岩	33	20	9	8.3				
677	C11	Ⅱ	66	砂岩	62	(38)	20	70.4		あり		
678	C11	Ⅱ	69	砂岩	44	28	9	19.1			一部はがれ	

切目石錘計測表(12)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	帯状痕跡	折損	備考	報告書番号
679	C11	Ⅱ	77	ホルンフェルス	47	22	11	15.2				
680	C11	Ⅱ	87	砂岩	73	25	13	40.6				
681	C12	Ⅱ	1	砂岩	51	31	15	33	両面		一部はがれ	
682	C13	Ⅲ	1	泥岩	45	28	17	27.1				
683	C13	Ⅱ	2	れき岩	(56)	35	20	52.6		あり		
684	C14	Ⅱ	2	砂岩	39	33	15	29.1	片面			
685	C14	Ⅱ	16	砂岩	39	22	9	11.9	片面			
686	C14	Ⅱ	17	砂岩	(53)	(32)	(14)	30.6	両面	あり		
687	C15	Ⅱ	1	砂岩	35	27	19	21.9	両面			
688	C15	Ⅱ	2	砂岩	(30)	38	16	23.9		あり		
689	C15	Ⅱ	5	砂岩	39	28	10	14.6				
690	C16	Ⅱ	1	砂岩	47	32	17	34.4				
691	D7	Ⅲ	7	ホルンフェルス	4	29	13	25.6	片面			
692	D8	Ⅲ	13	砂岩	(58)	31	(18)	41		あり		
693	D8	Ⅱ	42	砂岩	47	24	13	20.2	片面			
694	D9	Ⅲ	18	砂岩	35	25	10	10.9	片面			
695	D9	Ⅱ	34	砂岩	48	31	12	28.1	両面			
696	D9	Ⅱ	76	砂岩	60	31	19	45.1	両面			
697	D9	－	86	砂岩	49	29	12	23				
698	D10	Ⅲ	11	砂岩	43	38	15	36				
699	D10	Ⅲ	12	ホルンフェルス	39	27	14	19.3				
700	D10	Ⅲ	13	泥岩	46	26	8	12.4				
701	D10	Ⅲ	20	砂岩	52	40	19	54.2				
702	D10	Ⅲ	21	砂岩	45	28	16	29.5				
703	D10	Ⅲ	36	砂岩	42	23	7	9.3				
704	D10	Ⅲ	70	安山岩	51	28	21	47	両面			
705	D10	Ⅲ	71	砂岩	(19)	(23)	(10)	4.4		あり		
706	D10	Ⅲ	89	砂岩	(47)	31	14	25.5		あり		
707	D10	Ⅲ	91	砂岩	77	54	23	139				
708	D10	Ⅱ	127	砂岩	54	36	12	36.6			一部はがれ	
709	D10	－	141	砂岩	48	28	15	33	片面			
710	D11	Ⅲ	1	砂岩	67	(28)	(19)	53.4				
711	D11	Ⅲ	2	砂岩	(44)	(28)	(13)	20		あり		
712	D11	Ⅲ	7	砂岩	34	31	16	20.5				
713	D11	Ⅲ	16	ホルンフェルス	(56)	(31)	(11)	20.2		あり		
714	D11	Ⅲ	43	泥岩	40	37	16	31.4	両面			
715	D11	Ⅱ	86	砂岩	39	33	12	24.2				
716	D12	Ⅲ	2	砂岩	48	30	18	32.7	両面			
717	D12	Ⅲ	12	ホルンフェルス	51	31	10	20.2	片面			
718	D12	Ⅲ	14	砂岩	51	36	15	42.5				
719	D13	Ⅲ	15	砂岩	46	23	16	25.3	両面			
720	D13	Ⅲ	16	砂岩	(50)	27	13	20		あり		
721	D13	Ⅲ	17	泥岩	33	22	8	7.7				
722	D13	Ⅱ	20	安山岩	41	28	15	24.8	両面			
723	D14	Ⅲ	5	砂岩	60	28	19	46.9			切目わずか	
724	D14	Ⅲ	14	砂岩	47	30	11	21.9				
725	D14	Ⅱ	19	砂岩	39	27	13	18				
726	D14	Ⅱ	33	ホルンフェルス	57	35	17	44.3				
727	D14	Ⅱ	36	砂岩	44	28	11	21.4				
728	D15	Ⅱ	8	砂岩	56	51	23	88.4				
729	D15	Ⅱ	9	砂岩	49	38	19	55.8				
730	D15	Ⅱ	19	安山岩	44	30	(13)	18.5		あり		
731	D16	Ⅱ	3	砂岩	49	38	16	38.8				
732	D16	Ⅱ	8	砂岩	51	33	9	22.6	片面			
733	D16	Ⅱ	9	砂岩	(45)	29	(11)	18.1		あり		
734	E11	Ⅲ	10	閃緑岩	38	34	12	21.8				
735	E11	Ⅲ	11	泥岩	30	15	7	5.4			切目わずか	304
736	E11	Ⅲ	19	砂岩	32	28	16	18.9				
737	E11	Ⅲ	30	砂岩	40	33	14	24.2				
738	E11	Ⅲ	36	砂岩	62	32	16	46.3			打欠あり	
739	E11	Ⅲ	37	れき岩	47	31	14	26				
740	E11	Ⅲ	38	砂岩	41	29	13	21.6	片面			
741	E11	Ⅲ	50	砂岩	44	30	16	26.3				
742	E11	Ⅲ	51	ホルンフェルス	54	(32)	11	28.3		あり		
743	E11	Ⅲ	52	砂岩	33	(28)	(9)	11.1		あり		

切目石錘計測・観察表(13)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	帯状痕跡	折損	備考	報告書番号
744	E11	Ⅲ	56	砂岩	54	41	13	45.6	片面			
745	E11	Ⅲ	58	砂岩	43	35	9	21.6				
746	E11	Ⅲ	59	砂岩	48	29	13	26.1			打欠あり	
747	E11	Ⅲ	73	砂岩	45	27	12	24				
748	E11	Ⅲ	74	砂岩	47	27	13	25.9				
749	E11	Ⅲ	75	砂岩	40	29	11	17.3				
750	E11	Ⅲ	76	砂岩	41	31	12	20.5				
751	E11	Ⅲ	77	砂岩	44	28	13	20.6	両面			
752	E11	Ⅲ	78	ホルンフェルス	42	27	12	21.5	両面			
753	E11	Ⅲ	79	砂岩	36	28	11	15.3	両面			
754	E11	Ⅲ	80	安山岩	38	30	12	17.3			一部はがれ	
755	E11	Ⅲ	89	砂岩	46	30	15	28.2				
756	E11	Ⅲ	93	砂岩	51	27	12	24.8	片面		一部はがれ	
757	E11	Ⅱ	105	砂岩	52	37	14	34.1	両面		一部はがれ	
758	E11	Ⅱ	137	砂岩	42	30	9	18.2				
759	E11	Ⅱ	138	砂岩	45	(20)	(15)	24.3		あり		
760	E11	Ⅱ	140	砂岩	32	22	9	8.5			打欠あり	
761	E12	Ⅲ	33	砂岩	40	24	13	15.8				
762	E13	Ⅲ	1	砂岩	41	(22)	(15)	19.2		あり		
763	E13	Ⅲ	20	泥岩	35	28	10	12.3			一部はがれ	
764	E14	Ⅲ	6	砂岩	45	25	10	17.6	両面			
765	E14	Ⅲ	7	ホルンフェルス	(30)	(23)	(14)	8.9		あり		
766	E14	Ⅲ	22	砂岩	54	29	19	38.5	片面			
767	E14	Ⅲ	23	安山岩	34	31	22	26.5			一部はがれ	
768	E14	Ⅲ	24	砂岩	39	18	8	9.2				
769	E14	Ⅲ	37	砂岩	47	37	8	21.5				
770	E15	Ⅲ	16	砂岩	45	34	10	21.2				
771	E15	Ⅲ	17	砂岩	48	34	13	29.2				
772	E15	Ⅱ	47	砂岩	44	39	20	49	片面			
773	E16	Ⅱ	8	砂岩	(36)	23	7	7.6		あり		
774	Aトレンチ	①	8	砂岩	58	44	11	41.4				
775	Aトレンチ	①	10	砂岩	44	34	12	25.5	両面			
776	Aトレンチ	①	11	砂岩	47	33	16	33.1				
777	Aトレンチ	①	12	砂岩	(50)	31	13	29.4		あり		
778	Aトレンチ	①	13	砂岩	(33)	(29)	(22)	22.4		あり		
779	Aトレンチ	①	14	砂岩	(35)	(27)	11	13.7		あり	片面に切目2つ	
780	Aトレンチ	②	52	れき岩	43	32	20	34.6				
781	Aトレンチ	②	53	砂岩	51	34	13	31.8				
782	Aトレンチ	②	54	砂岩	40	(35)	24	43		あり		
783	Aトレンチ	①	73	砂岩	64	47	41	181.2			切目わずか	306
784	Aトレンチ	①	74	安山岩	52	44	13	46.5	両面			
785	Aトレンチ	①	75	砂岩	45	36	21	44.2	両面			
786	Aトレンチ	①	76	ホルンフェルス	42	22	17	23.2	両面		一部はがれ	
787	Aトレンチ	②	88	砂岩	70	29	11	33.2	片面			
788	Aトレンチ	②	89	れき岩	58	32	16	39.1				
789	Aトレンチ	②	90	砂岩	(43)	(29)	(12)	15.9		あり		
790	Aトレンチ	②	106	砂岩	45	28	12	23.1	片面			
791	Aトレンチ		117	砂岩	60	(32)	(19)	38.4		あり		
792	Bトレンチ		1	砂岩	50	28	12	24.1				
793	Bトレンチ		2	砂岩	(29)	(36)	(8)	12.3	両面	あり		
794	Bトレンチ		15	ホルンフェルス	56	37	10	34.6				
795	Bトレンチ		16	砂岩	61	18	18	28.4	片面			
796	Bトレンチ		27	ホルンフェルス	75	54	24	109.1	片面		一部はがれ	
797	Bトレンチ		36	砂岩	36	29	8	13	片面			
798	Bトレンチ		44	ホルンフェルス	59	(46)	(16)	49.4		あり		
799	Bトレンチ		50	砂岩	46	38	13	32.2				
800	Bトレンチ		52	砂岩	79	30	16	53.2				
801	Bトレンチ		53	砂岩	57	37	(11)	31.3		あり		
802	Bトレンチ		54	砂岩	42	24	13	19.3	両面			
803	Bトレンチ		55	れき岩	41	28	14	21.1				
804	Bトレンチ		56	砂岩	52	31	11	29.2				
805	Cトレンチ		5	砂岩	45	35	7	16.4				
806	Cトレンチ		6	砂岩	39	29	14	22.7				
807	Cトレンチ		16	砂岩	52	45	23	69.5				
808	Cトレンチ		28	砂岩	49	(47)	14	41.8		あり		

切目石錘計測・観察表(14)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	帯状痕跡	折損	備考	報告書番号
809	Cトレンチ		29	安山岩	57	30	19	52.3				
810	Cトレンチ		30	砂岩	(51)	(39)	(24)	73.4	片面	あり		305
811	Cトレンチ		51	れき岩	69	32	20	59.5	片面			
812	排土		8	砂岩	40	24	16	21.3				

第25表 磨石・凹石・叩石・敲石計測・観察表(1)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	凹石の分類 表	裏	敲き痕跡	敲痕の数	磨石の分類 a	b	c	d	e	f	分類	備考	報告書番号
1	SB9	a6	65	安山岩	121	57	41	459	IIc			○1									19
2	SB10	床直	32	安山岩	119	93	84	1400					2	2	2	2		2	2a2f		30
3	SB10	床直	33	砂岩	99	59	29	256					3	3					3a		31
4	SB11	①	21	安山岩	96	93	97	1209					1						1a		39
5	SB12	①	40	砂岩	112	76	48	587	IIb				2						2a		86
6	SB12	①	51	砂岩	169	61	41	518	Id						2'				2c		84
7	SB12	①	58	砂岩	68	69	33	221					2	2					2a		
8	SB12	①	96	安山岩	115	88	45	669	Ib	Ia			2	2					2a		
9	SB12	床直	151	砂岩	86	63	32	253	IIc					2					2a		85
10	SB14	SK142	119	砂岩	119	70	59	746	Ia				2	2					2a		120
11	SB16	①	2	安山岩	100	87	31	422	IIb			○1									140
12	SB16	②	41	砂岩	79	83	56	472	IIb	Ia											141
13	SB17·18	床直	7	安山岩	107	86	72	1039	Id												162
14	SB17·18	床直	18	砂岩	87	66	43	336					2	2					2a		161
15	SB17·18	②	41	砂岩	89	83	39	420	IIa	IIa											160
16	SK1		18	砂岩	107	47	42	325	IIa	Ia											
17	SK1		35	砂岩	82	71	67	586			○										166
18	SK2		2	砂岩	92	80	38	422					2	2					2a		174
19	SK201		116	砂岩	120	110	72	1284	IIIa	IIIa											238
20	Pit147		68	砂岩	107	100	60	795	IIIc	Ia											239
21	Pit147		69	砂岩	106	90	50	768					2			1			1c2a		237
22	SZ5		8	砂岩	59	53	41	170					2	2					2a		
23	x3	II	11	安山岩	66	54	45	210				○1	2	2					2a		
24	x4	II	1	安山岩	75	70	43	293					2'	2					2a2b		
25	y2	III	1	砂岩	(115)	(72)	(26)	256					2						2a	折損	
26	y2	III	2	安山岩	96	87	41	437					2						2a		
27	y2	III	12	砂岩	110	104	34	552	Ia	Ia			2	1					1a2a		
28	y2	III	13	砂岩	(99)	71	51	536	IIId				2'	2					2a2b	折損	
29	y3	III	1	砂岩	98	72	36	376					2						2a		
30	y3	III	30	砂岩	79	67	36	255	Ib						2'				2b		
31	y3	III	63	砂岩	114	84	44	565					2'						2b		
32	y3	III	75	閃緑岩	144	90	61	1187					2	2					2a		
33	y3	III	77	砂岩	121	52	40	356	Id				2		2				2a2c	c面にIb回み	
34	y3	III	91	砂岩	57	32	30	82.1	Ia					1					1a		
35	y3	II	138	砂岩	87	89	38	431	IIa	Ia								1	1−		
36	y3	II	139	安山岩	(82)	(44)	(29)	136	II?	Ia										折損	
37	z2	III	2	砂岩	117	104	45	733	Ib				2'						2b		
38	z2	III	3	砂岩	104	60	45	356	IIc												
39	z2	III	26	砂岩	(107)	(84)	(35)	412	IIa											折損	
40	z3	III	2	砂岩	103	69	56	552	Ic	Ic					2				2c		
41	z3	III	36	砂岩	92	72	58	565					3		3		3		3a3c		
42	z3	III	37	砂岩	53	46	31	97.4					2'						2b		
43	z3	III	55	閃緑岩	124	114	63	1340					2	2'				2	2a2b		
44	z3	III	56	砂岩	113	52	36	364					2	2	2	2	2		2a2f	被熱	
45	z3	III	57	安山岩	81	73	48	452	Ia	Ia		○1	2						2a		330
46	z3	III	58	安山岩	109	46	31	230	Ib												
47	z3	III	67	安山岩	(81)	(52)	35	190	Ia	Ia										折損	
48	z3	III	68	凝灰岩	115	147	28	241	Ib												
49	z3	III	99	砂岩	157	54	45	474	Ic												
50	z3	III	110	砂岩	153	118	144	1188					2'	2'					2b		
51	z3	III	111	砂岩	124	100	63	1051	Ic				2						2a		
52	z3	III	112	砂岩	96	76	55	540					2'						2b		
53	z3	III	113	砂岩	86	80	38	380	Ia												
54	z3	III	202	砂岩	66	66	48	270	Ia						2'				2b		
55	z3	III	228	閃緑岩	68	64	52	295	Ia	Ia			2						2a		
56	z4	III	22	砂岩	105	74	64	723	IIIc	Ia				2	2	2		2	2a2f		
57	z4	III	36	安山岩	102	93	63	912					2	2					2a		
58	z4	III	50	安山岩	79	63	45	344					2	2					2a		

磨石・凹石・叩石・敲石計測表(2)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	凹石の分類 表	裏	敲き痕跡	敲痕の数	磨石の分類 a	b	c	d	e	f	分類	備考	報告書番号
59	z4	III	52	砂岩	57	49	32	120				○2	2'						2b		
60	z4	III	189	砂岩	101	95	58	734	Ia			○1	2'						2b		
61	z4	III	190	砂岩	(142)	(88)	(40)	688					2	2					2a	被熱・折損	
62	z4	III	246	砂岩	77	68	57	384	IIa	Ia											
63	z4	III	258	安山岩	116	104	33	669	Ia	Ic			2	2					2a		
64	z5	III	3	安山岩	86	68	45	353	IIc	Ia										被熱・炭付着	
65	z5	III	71	砂岩	73	70	61	411				○2									
66	z5	III	72	砂岩	65	60	57	301					2		1				1c2a		
67	z5	III	100	れき岩	115	86	51	69	Ic	Ic											
68	z5	III	101	砂岩	95	80	46	491	Ia				2	2					2a		
69	z6	III	22	砂岩	103	84	63	728	Ic	Ia	○									e面に敲打痕	
70	z6	II	150	砂岩	(71)	(52)	(22)	142				○1								折損	
71	A3	III	1	砂岩	97	81	47	513	IId	IId	○									側縁部に敲打痕	327
72	A3	III	29	砂岩	111	92	59	779	IIc	Ia					3				3c		
73	A3	III	30	安山岩	92	88	51	715					1	3				1	1a3a		328
74	A3	II	92	砂岩	103	68	46	409	Ia				2						2a		
75	A4	III	10	砂岩	116	54	52	470				○2	2'						2b		
76	A4	III	45	砂岩	155	43	32	350	Ib	Ib										棒状	
77	A4	III	79	砂岩	66	62	36	202					2						2a		
78	A4	III	83	砂岩	156	41	33	407	IIc												
79	A4	III	84	砂岩	138	49	37	380	Ib			○1			2	2			2c		325
80	A4	III	103	安山岩	102	39	27	174	Ib	Ib											
81	A5	III	24	安山岩	88	72	33	345	IIc	IIc											
82	A6	III	33	閃緑岩	90	72	52	519	IIIb												
83	A6	III	34	安山岩	(87)	78	55	492	Ia	Ia		○1								側面に叩打痕	折損
84	A6	III	41	砂岩	111	98	42	640	Ia	Ia			2	2					2a		
85	A6	III	93	砂岩	101	83	43	442	IIa	IIc			2'	2'					2b		
86	A6	III	128	安山岩	65	61	61	332					2	2	2	2	2	2	2d	被熱	
87	A7	III	102	安山岩	90	64	48	422	IIIa	Ia		○1									
88	A7	III	131	安山岩	108	98	52	864	Ic	Ic			2						2a		
89	A7	III	132	砂岩	(57)	(58)	(43)	222					1						1b	折損	
90	A7		199	安山岩	88	80	38	435	Ia	Ia			2	2					2a		
91	A7		200	安山岩	81	66	27	239	Ib	Ib											
92	A8	III	1	砂岩	91	72	41	369	IIa	Ia			2	2					2a		
93	A8	III	73	砂岩	66	65	49	313					2	2					2a		
94	A8	III	99	砂岩	77	31	25	89.3				○2									
95	A8	III	174	砂岩	84	77	47	446					2	2					2a		
96	A8	III	200	砂岩	113	94	48	705	IIb	Ia			2'	2'					2b		
97	A8	III	210	砂岩	93	82	44	426					2	2					2a		
98	A8	III	282	砂岩	112	74	65	797	IId	IId			2	2	2	2	2	2	2d	C面に回みあり	331
99	A8	II	318	安山岩	122	104	61	1111					2						2a		
100	A9	III	1	砂岩	63	52	49	216				○2									
101	A9	III	5	砂岩	98	67	43	379	IIb					2					2a		
102	A9	III	6	閃緑岩	92	55	47	359	IIa												
103	A9	III	17	砂岩	(83)	(60)	(28)	186					1						1a	折損	
104	A9	III	38	安山岩	126	90	63	1054					2	2					2a		
105	A9	III	76	砂岩	(84)	(90)	(29)	328	Ib											被熱・折損	
106	A10	III	4	砂岩	106	83	56	641					2						2a		
107	A10	II	19	ひん岩	110	94	55	830	Ib				2	2'					2a2b		
108	A11	II	1	安山岩	(116)	(61)	(45)	443	IIc	Id		○1		2'	2				2b2c	折損	
109	A11	II	2	安山岩	72	71	47	319	Ia	Ia											
110	A11	II	3	砂岩	99	42	24	130				○1									
111	B4	III	4	砂岩	101	83	47	591				○1	2	2	2	2	2		2a2f	SB9直下	
112	B4	III	5	砂岩	93	70	25	245					3	3					3a	SB9直下	
113	B4	III	6	砂岩	(106)	(76)	(37)	406	Ib			○1								SB9直下	
114	B5	III	74	砂岩	110	53	44	408					2	2	2	2	2	2	2d		
115	B5	III	75	安山岩	94	44	27	177					2	2					2a		
116	B5	III	77	安山岩	78	46	49	282	IIIb							1			1c		
117	B5	III	106	砂岩	(92)	(54)	(40)	274					2						2a		
118	B5	III	110	砂岩	108	71	67	719		Ia		○2	2			2			2c	c面にも回み	333
119	B6	III	16	砂岩	(162)	(81)	(42)	1000				○1	2	2		2			2a2c	折損	
120	B6	III	17	砂岩	64	51	39	179				○3	1						1a		
121	B6	III	105	安山岩	122	99	54	1127	IIIa	IIIa			2	2	1	1			1c2a		
122	B7	III	44	砂岩	155	67	37	516	Id	Id											
123	B7	II	122	砂岩	102	84	50	579	IIIa												

磨石・凹石・叩石・敲石計測・観察表(3)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	凹石の分類 表	裏	敲き痕跡	敲痕の数	磨石の分類 a	b	c	d	e	f	分類	備考	報告書番号
124	B7	Ⅱ	123	安山岩	87	81	57	382	Ⅰa	Ⅰa											
125	B7	Ⅱ	164	砂岩	66	48	24	107	Ⅱa	Ⅱa			1	1					1a		
126	B8	Ⅲ	1	砂岩	78	78	47	396	Ⅰb			○1			1				1c		329
127	B8	Ⅲ	31	安山岩	82	75	43	413	Ⅰb				2						2a		
128	B8	Ⅲ	32	砂岩	84	72	74	558					1			2′			1a2c		
129	B8	Ⅲ	33	砂岩	138	50	56	370	Ⅱc	Ⅱb											
130	B8	Ⅱ	120	砂岩	105	92	35	548	Ⅰa	Ⅰa			1	1					1a		
131	B8	Ⅱ	155	砂岩	89	72	46	403	Ⅱc					2′					2b		
132	B9	Ⅲ	18	砂岩	118	99	69	1096	Ⅰa	Ⅰa	○		2′	2′					2b	c側面に敲打痕	332
133	B9	Ⅲ	19	安山岩	99	91	47	670	Ⅰa	Ⅰa		○1									
134	B9	Ⅲ	20	砂岩	108	70	44	474				○1	1	2′					1a2b		
135	B9	Ⅲ	21	砂岩	84	74	57	462	Ⅰa				2						2a		
136	B9	Ⅲ	39	砂岩	125	43	38	267	Ⅰb												
137	B9	Ⅲ	58	安山岩	81	79	38	325					2	2′					2a2b		
138	B9	Ⅲ	63	砂岩	99	51	35	255	Ⅱd	Ⅰb											
139	B9	Ⅲ	64	砂岩	72	64	41	253					2′						2b		
140	B9	Ⅲ	83	安山岩	152	120	84	1589					2	2					2a		
141	B9	Ⅲ	84	砂岩	79	61	49	330	Ⅱd				3						3a		
142	B9	Ⅲ	106	砂岩	138	61	35	430	Ⅰc	Ⅰd		○1									
143	B9	Ⅲ	108	砂岩	57	48	35	142					2	2					2a		
144	B9	Ⅲ	113	砂岩	65	65	35	198	Ⅰa	Ⅰa											
145	B9	Ⅲ	125	安山岩	92	78	59	613					2	2′					2a2b		
146	B9	Ⅲ	146	砂岩	(120)	(90)	(45)	673				○1	2						2a	折損	
147	B9	Ⅲ	168	安山岩	(72)	(67)	(34)	238					1						1a	折損	
148	B10	Ⅲ	33	安山岩	101	85	49	569	Ⅰa	Ⅰa			2						2a		
149	B10	Ⅲ	39	砂岩	(110)	(65)	(52)	380				○1	2	1					1a2a	折損	
150	B10	Ⅲ	51	砂岩	108	82	65	793	Ⅰd				2						2a		
151	B10	Ⅲ	52	砂岩	50	47	26	77.6					2						2a		
152	B10	Ⅲ	67	安山岩	104	73	49	465					3						3a		325
153	B10	Ⅱ	122	砂岩	132	94	47	719	Ⅰd	Ⅲd			2						2a		
154	B10	Ⅱ	123	砂岩	118	75	48	672	Ⅱa			○1		3					3a		
155	B11	Ⅲ	25	砂岩	(132)	(68)	(62)	1053	Ⅱb					1		1	1	1	1a1f	折損	
156	B11	Ⅲ	26	砂岩	83	74	50	407	Ⅱa	Ⅰa											
157	B11	Ⅱ	77	砂岩	167	59	30	438			○										324
158	B12	Ⅱ	20	砂岩	(72)	(66)	(40)	237	Ⅰa	Ⅰa		○1								折損	
159	B13	Ⅱ	1	安山岩	122	98	42	778	Ⅰa				2						2a		
160	B16		1	砂岩	78	67	31	209					3						3a		
161	C7	Ⅲ	31	砂岩	93	58	44	319	Ⅱc	Ⅰc											
162	C7	Ⅲ	32	砂岩	56	51	50	194					2′	2′					2b2c		
163	C7	Ⅲ	33	砂岩	71	66	56	362					2	2	2	2	2	2	2d		
164	C8	Ⅲ	11	軽石	(80)	39	(30)	230					2	2′					2a2b	折損	
165	C8	Ⅱ	102	砂岩	90	70	45	378					2	2′					2a2b		
166	C9	Ⅲ	18	砂岩	92	63	55	414	Ⅱb	Ⅰa											
167	C10	Ⅲ	1	安山岩	82	76	55	518	Ⅰa	Ⅰa											
168	C11	Ⅲ	25	安山岩	98	78	62	670					2′	1	1′				1c2b		
169	C12	Ⅱ	7	安山岩	127	112	35	854					2	2					2a		
170	C12	Ⅱ	11	砂岩	71	68	52	391					1		1				1a1c		
171	C15	Ⅱ	4	砂岩	(91)	(74)	(40)	385				○1	2′	2′					2b	折損	
172	C16	Ⅱ	2	砂岩	68	62	49	174	Ⅱa	Ⅱa			1	1					1a		
173	C16	Ⅱ	12	砂岩	112	100	43	682			○		1						1a		
174	D7	Ⅲ	5	安山岩	104	87	33	437					3						3a		
175	D8	Ⅲ	9	砂岩	94	80	45	489	Ⅱc	Ⅱc			2′	1					1a2b		
176	D9	Ⅱ	78	砂岩	(89)	(70)	(68)	576	Ⅱb	Ⅰb		○2								折損	
177	D10	Ⅲ	19	安山岩	107	94	67	989	Ⅰa	Ⅰb			2	2					2a		
178	D10	Ⅲ	29	安山岩	114	103	76	1296					2	2					2a		
179	D10	Ⅲ	30	砂岩	94	76	51	428	Ⅱc	Ⅱa											
180	D10	Ⅱ	106	砂岩	125	83	64	1005	Ⅲd	Ⅰc		○1	2′		1				1c2a		
181	D11	Ⅱ	105	砂岩	75	69	39	266	Ⅱa	Ⅱa											
182	D12	Ⅱ	27	安山岩	141	84	27	358					2		2				2a2c		
183	D12	Ⅱ	28	砂岩	57	52	20	84.9					2	2					2a	炭化物付着	
184	D13	Ⅲ	4	砂岩	96	71	42	417	Ⅱa	Ⅰa			1	1					1a		
185	D14	Ⅲ	8	安山岩	105	57	34	296					2′	2					2b2c		
186	D14	Ⅱ	32	安山岩	63	51	54	218					1						1a		
187	D15	Ⅱ	1	砂岩	134	73	62	799				○2	2′	2					2a2b		
188	D15	Ⅱ	6	砂岩	132	62	44	548	Ⅰb	Ⅰb											

磨石・凹石・叩石・敲石計測表(4)

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	凹石の分類 表	裏	敲き痕跡	敲痕の数	磨石の分類 a	b	c	d	e	f	分類	備考	報告書番号
189	D15	Ⅱ	7	安山岩	123	70	54	618					2						2a		
190	D15	Ⅱ	15	砂岩	(90)	(61)	(28)	310					2	2					2a	折損	
191	E11	Ⅲ	35	安山岩	123	100	52	1040					2′	2′					2b		
192	E11	Ⅱ	102	砂岩	88	62	43	327	Ⅱa	Ⅱa											
193	E12	Ⅲ	9	閃緑岩	87	79	70	691	Ⅲa					2					2a		
194	E12	Ⅲ	21	砂岩	111	63	32	334	Ⅰb	Ⅰc			2	2					2a		
195	E12	Ⅲ	38	砂岩	74	71	54	377					1						1a		
196	E13	Ⅲ	5	砂岩	(77)	(66)	(15)	87.5	Ⅰ?											破片?	
197	E13	Ⅲ	31	安山岩	120	101	44	835					2	2					2a		
198	E13	Ⅱ	40	砂岩	(60)	(71)	(47)	273					2	2	2	2			2a2c	折損	
199	E14	Ⅲ	1	砂岩	101	49	36	244	Ⅰd	Ⅰb		○2									
200	E14	Ⅲ	2	砂岩	82	72	29	198	Ⅱa	Ⅱa											
201	E14	Ⅲ	3	砂岩	60	53	44	185					1						1a		
202	E14	Ⅲ	20	砂岩	120	83	52	735	Ⅰa	Ⅰa											
203	E15	Ⅲ	1	砂岩	126	82	46	619	Ⅰd	Ⅰa			2′	2′					2b		
204	E15	Ⅲ	2	砂岩	(83)	(78)	(29)	322	Ⅰa	Ⅰa										折損	
205	E15	Ⅲ	3	砂岩	128	61	46	503	Ⅱb				2′			1			1c2b		
206	E15	Ⅲ	8	砂岩	98	78	38	446	Ⅰb												
207	E15	Ⅲ	9	砂岩	85	74	33	361					1						1a		
208	E15	Ⅲ	10	砂岩	62	58	37	224					3	3	1	1			1c3a		
209	E15	Ⅱ	42	砂岩	116	60	54	514	Ⅰc	Ⅰb											
210	E15	Ⅱ	43	砂岩	88	55	60	373	Ⅰc											胴部を巡る凹み	
211	E15	Ⅱ	45	砂岩	89	81	46	455					1						1a		
212	E15	Ⅲ	7	砂岩	(88)	(60)	(53)	424	Ⅱb											折損	
213	E16	Ⅱ	1	閃緑岩	88	79	49	504	Ⅲa												
214	A14ンチ	①	1	砂岩	121	87	38	696	Ⅱd	Ⅱd						3		3	3c		
215	A14ンチ	①	6	砂岩	(104)	83	55	660	Ⅲa	Ⅲa										折損	
216	A14ンチ	①	7	砂岩	78	64	47	310					2	2	2	2	2	2	2d		
217	A14ンチ	②	48	安山岩	89	94	91	1141	Ⅲb	Ⅲb			2	2	2	2		2	2d		
218	A14ンチ	②	49	安山岩	83	75	39	347	Ⅰa	Ⅰa			2	2					2a		
219	A14ンチ	①	72	砂岩	122	98	62	1085	Ⅱb	Ⅱc			2′			2	2		2b2f		
220	A14ンチ		115	砂岩	78	63	44	317	Ⅱa	Ⅱa		○1									
221	B14ンチ		6	砂岩	133	59	43	428	Ⅱd	Ⅱd					2′				2c		
222	B14ンチ		7	砂岩	120	57	38	464				○1									
223	B14ンチ		9	砂岩	115	99	46	834	Ⅰd				2	2					2a		
224	B14ンチ		10	安山岩	76	70	41	320					2						2a		
225	B14ンチ		11	安山岩	60	58	50	237					2						2a		
226	B14ンチ		24	安山岩	135	65	53	742					3	1	1	1			1c3a		
227	B14ンチ		25	砂岩	98	78	(29)	261	Ⅳa												
228	B14ンチ	Ⅱ	35	砂岩	103	67	64	637	Ⅲb	Ⅰb						1			1c		
229	B14ンチ		45	安山岩	95	72	32	346	Ⅱa	Ⅱa											
230	C14ンチ		1	砂岩	85	(61)	(64)	501				○1	2′						2b		
231	C14ンチ	Ⅰ	8	砂岩	90	94	60	722	Ⅱc	Ⅱc		○1									
232	C14ンチ	Ⅰ	25	安山岩	126	77	76	1385					3	1		1			1a2e3a	被熱・折損	
233	C14ンチ	Ⅰ	26	礫岩	(106)	94	45	655	Ⅰa												
234	C14ンチ	Ⅰ	47	安山岩	87	81	66	704					3						3a	凹面の磨面	
235	C14ンチ	Ⅰ	49	安山岩	(95)	(54)	(44)	349	Ⅰb											折損	
236	D14ンチ		5	安山岩	90	65	60	494					2′						2b		
237	D14ンチ		6	安山岩	(55)	(68)	(64)	357	Ⅰe											折損	
238	排土		7	砂岩	44	43	40	103					2′						2b		

a・b　：　表裏
c・d　：　長軸側面
e・f　：　短軸側面

表裏面の決定は、片面だけに凹み、磨面がある場合はその面をaとした。
両面ある場合は任意で決定した。

第133図　磨石、凹石、敲石、叩石類の観察面の位置

第26表　石皿計測・観察表

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	折損	備考	報告書番号
1	SB12	埋土	4	安山岩	278	325	77	9400		被熱	87
2	y4	III	1	砂岩	266	318	90	11180		両面に機能面	345
3	z2	III	81	砂岩	156	145	46	1454			
4	z3	III	1	安山岩	258	241	78	6790			
5	z4	III	1	砂岩	347	271	68	9410			
6	z4	III	2	砂岩	282	228	72	7440			
7	z4	III	3	閃緑岩	373	381	119	20400			344
8	z5	III	1	閃緑岩	345	253	82	12000			
9	z5	III	2	安山岩	223	168	53	3494			
10	A7	III	1	砂岩	345	272	74	10990			
11	A7	III	2	安山岩	270	238	65	5527			
12	A7	III	3	砂岩	349	399	95	17290			346
13	B6	III	1	安山岩	(317)	(207)	(111)	7730	あり		347

第27表　砥石計測表

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	備考	報告書番号
1	SB14	f13	91	シルト	81	35	13	35.9		119
2	A4	III	34	安山岩	(65)	(29)	(20)	35.3	破片	
3	A9	III	39	安山岩	83	43	30	144.2		
4	C10	II	66	シルト	(32)	(29)	(5)	5.5	破片	
5	D11	III	15	安山岩	106	39	17	95.2		323
6	Bトレンチ	II	26	安山岩	134	32	33	168.1		

第28表　石棒計測・観察表

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	折損	備考	報告書番号
1	z2	III	98	片岩	(184)	29	29	246.2	あり	被熱	334
2	z3	III	38	緑色片岩	(45)	19	19	33	あり		337
3	A4	III	170	硬質頁岩	(71)	(24)	(13)	21.8	あり	線刻	335
4	E11	III	2	緑色片岩	(79)	26	(20)	68.8	あり		336

第29表　石刀計測表

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	折損	備考	報告書番号
1	A4	III	3	ホルンフェルス	(39)	(25)	(8)	11.5	あり	破片	338

第30表　鉤形石製品計測表

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	備考	報告書番号
1	z6	III	4	サヌカイト	54	47	9	12.9		342

第31表　円盤状石製品計測表

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	備考	報告書番号
1	SZ5		23	砂岩	56	52	14	58.4		212

第32表　石製品類計測表

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	折損	備考	報告書番号
1	SB16	SK101	58	砂岩	(37)	8	7	2.8	あり	(1)	133
2	z5	III	57	不明 凡例(6)	(69)	31	20	71.4	あり	穿孔	339
3	A4	III	68	砂岩	44	30	7	16		接合・未製品	341
4	E11	II	104	砂岩	65	47	12	59.2		穿孔	340

第33表　異形石器計測表

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	備考	報告書番号
1	B7	III	75	チャート	31	22	6	3.2		343

第34表　粗製礫器計測表

No.	出土区	層位	番号	石材	大きさ(mm) 長さ	幅	厚さ	質量 (g)	備考	報告書番号
1	C11	III	41	砂岩	280	128	40	1986		348

石器計測・観察表　凡例

1．石器の分類・表記等、基本的には前回の報告書『戸入村平遺跡』第6節石器類(1994千藤)をもとにした。よって、点数が0のものについても、『戸入村平遺跡』と比較する意味でも、分類はそのまま生かした。

2．折損などにより完形でない場合の法量については（　）により示した。
石錘について、表面がはがれているものの、長さ・幅・厚さに影響のないものは、備考欄に「一部はがれ」と表示した。

3．長さ・幅・厚さについては、表示した数字全てが有効数字である。

4．摩耗の有無については、肉眼観察によるものである。

5．石材鑑定は、坂東・青木が行った。

6．339の石材は、翡翠に類似していたが、重量71.4g、体積27.5cmで、比重2.60となるため、不明とした。

第5章　古代以降の出土遺物

第1節　土器・陶磁器類

本遺跡出土の古代以降の土器・陶磁器は中世1,055点、近世2,011点、合計3,066点を数える。時期的には13世紀前半～19世紀前半に属する遺物が連続してみられ、最も多く出土したものは18世紀後半以降に属する瀬戸美濃産の陶磁器類であった。以下、図示した遺物の概要を説明したい。

501～508は中国磁器であり、503と508が白磁、他は青磁である。505は底部内面に双魚文を貼り付けた青磁の洗と思われ、508は高台接地面に4ヶ所の抉りを有する白磁の皿である。

509は土師器皿であり、口縁部内外面に煤が付着していることから灯明皿として使用されていたと思われる。なお、本遺跡からは土師器皿はこの1点のみの出土であった。

510～528は古瀬戸である。これらの時期は513、518～520が中期前半、528が後期前半、他が後期後半に属し、全体的には後期後半に該当する遺物が圧倒的に多いといえる。511は体部外面下方に錆化粧が施されている天目茶碗で、2次的に被熱し釉薬がただれている。518は有耳壺であり、肩部外面に櫛による5条の沈線が施されている。耳部は粘土板を貼り付けたもので、その上面には3条の沈線がみられる。520は有耳壺の高台部であるが、高台内面が摩滅しているため何かに転用していた可能性が指摘できる。528は柄付片口であり、体部内面に板状工具による横ナデの痕跡がみられ、体部外面下方に横方向のケズリが施されている。

529～534は大窯である。531は小杯であり、内面に褐色を呈する有機物が付着している。

535は備前の大皿の可能性が高い。胎土は硬く焼き締まり、口縁部は内折し端部は鋭く尖る。また器面は暗茶褐色を呈し、内面には自然釉が降灰している。

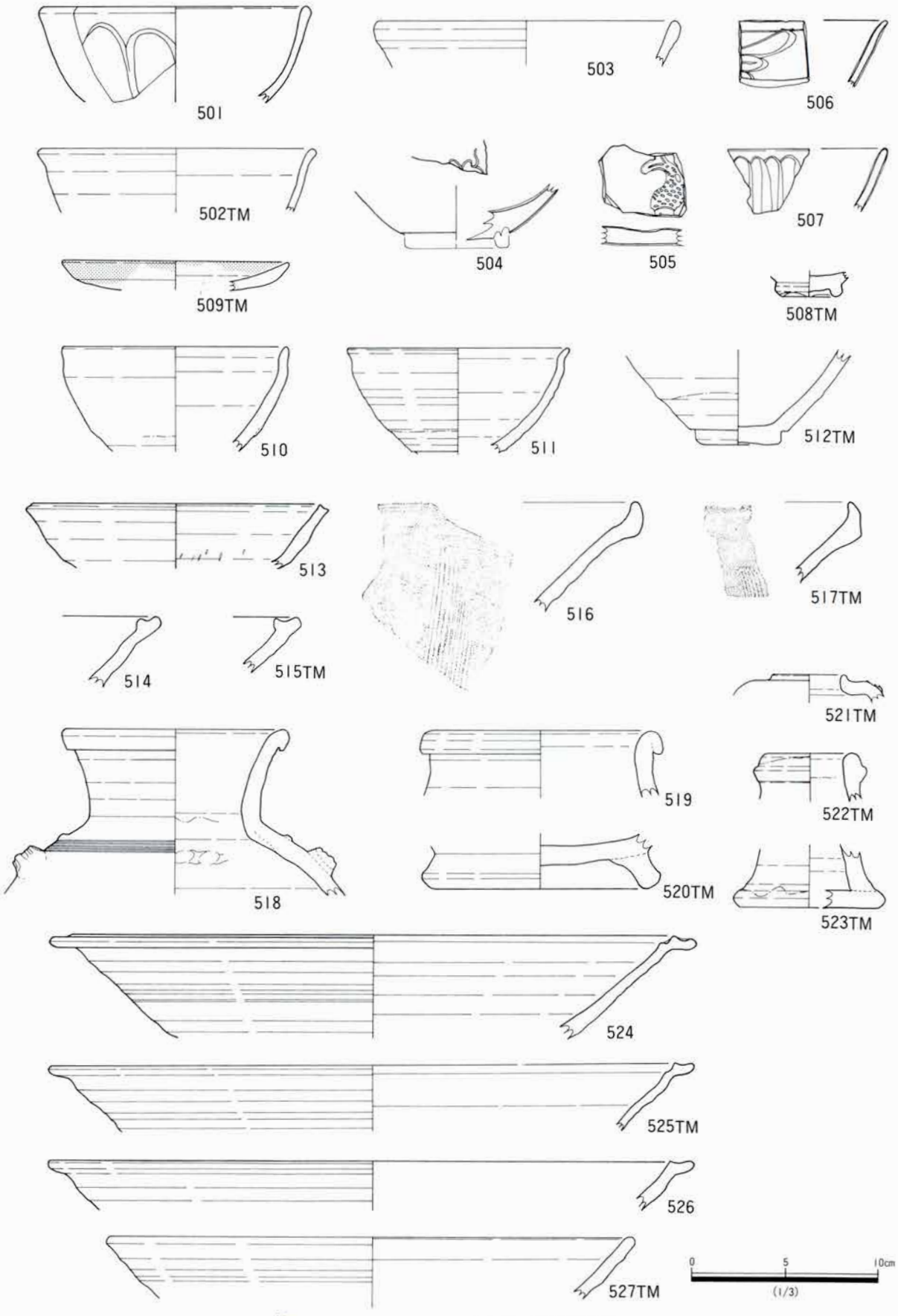
536～548は越前であり、536～544は擂鉢、545～548は壺である。越前の大半は16世紀代に属するが、口縁端部に沈線を有する538のみが14世紀後半頃に属する。なお、537、541～543の体部外面下方には紐起こしの痕跡がみられ、544は擂目が交差している。

549は瀬戸産の有耳壺でないことから、美濃須衛産の有耳壺と想定した。

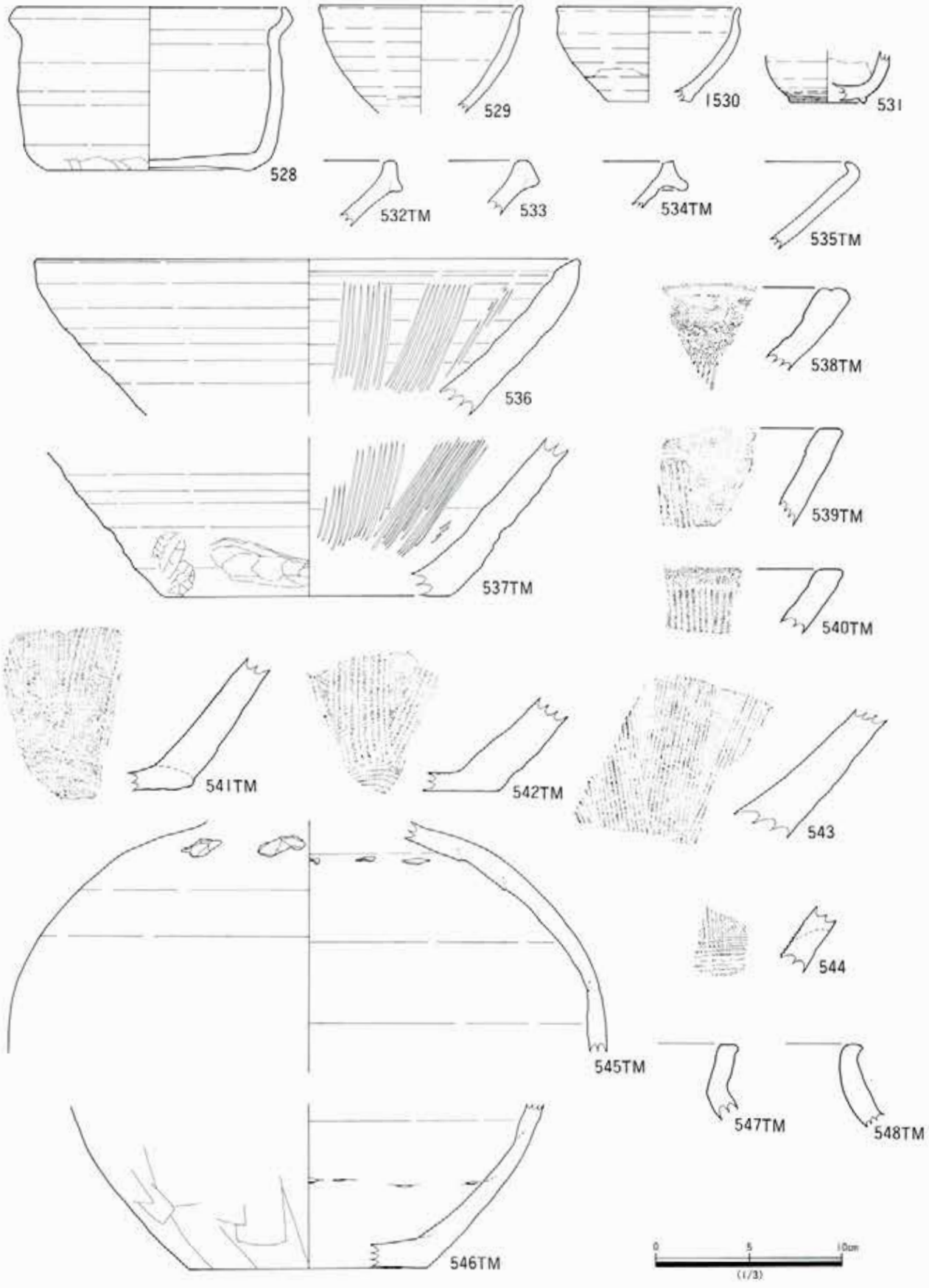
550～552、554～560、562～564は常滑であり、553は常滑か越前かの識別が不可能であったため瓷器系とし、561は信楽の可能性が考えられる。常滑産の器種はいずれも甕ないし壺であり、時期的には13世紀後半～16世紀前半に属する。また、561は胎土中に長石粒をわずかに含み、口縁形態は断面「N」字を意識していると思われる。

565～603は近世の土器・陶磁器であり、その産地は大半が瀬戸美濃であるが579と580が肥前、597が唐津、599と600が産地不明、602が土製品である。近世陶磁器のうち出土量が目立つ器種は、底部内面に鉄絵による文様を描いた皿であり、昭和63年度～平成元年度の調査でも比較的多く出土している。また、599、600は同一個体の擂鉢であり、擂目は比較的密に施され、全面に黒色を呈する釉薬が刷毛塗りされている。なお603は瀉瓶であり、把手部は欠落している。

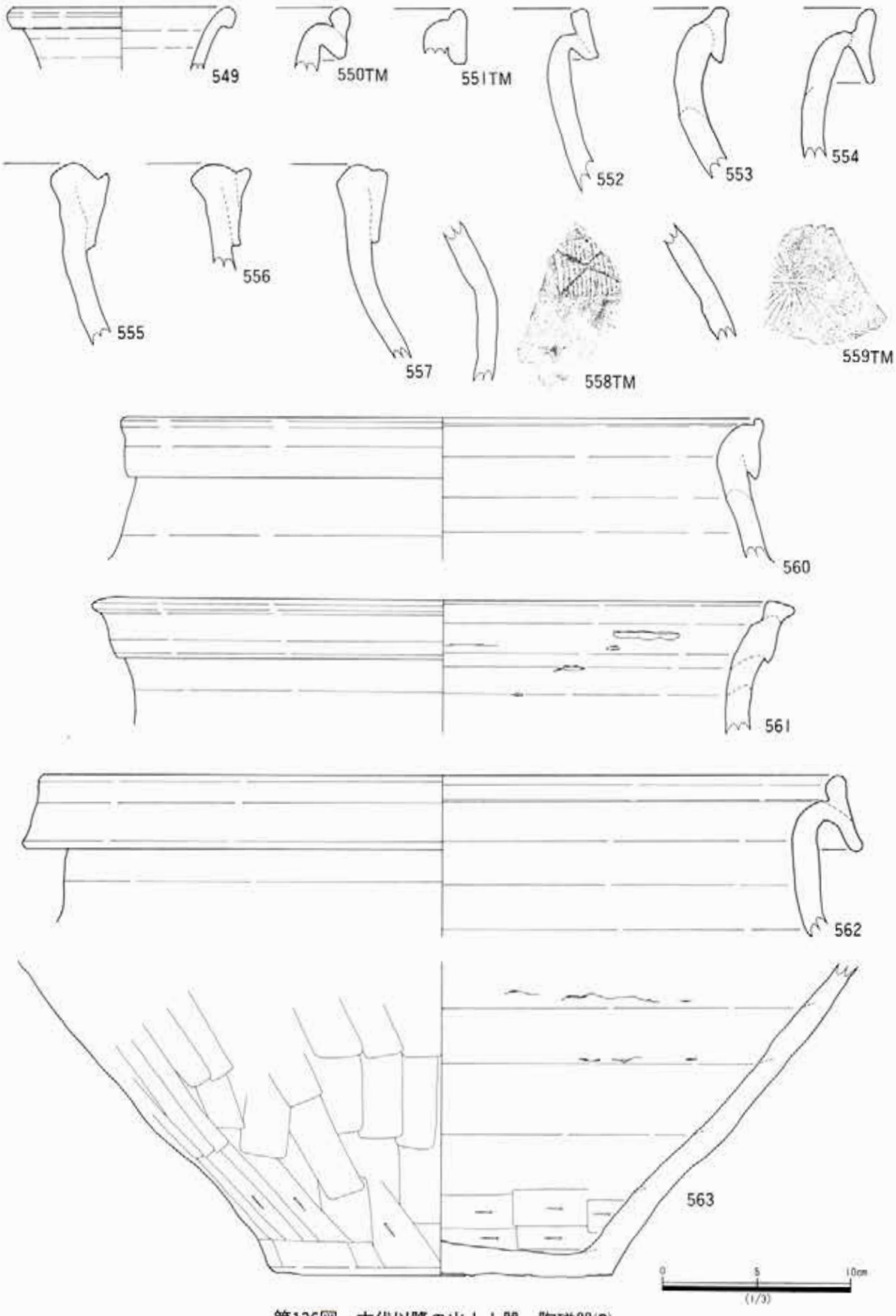
604～619は加工円盤であり、大半は碗・皿類の底部を打ち欠いて作成されているが、616のみ越前擂鉢の体部破片を転用している。



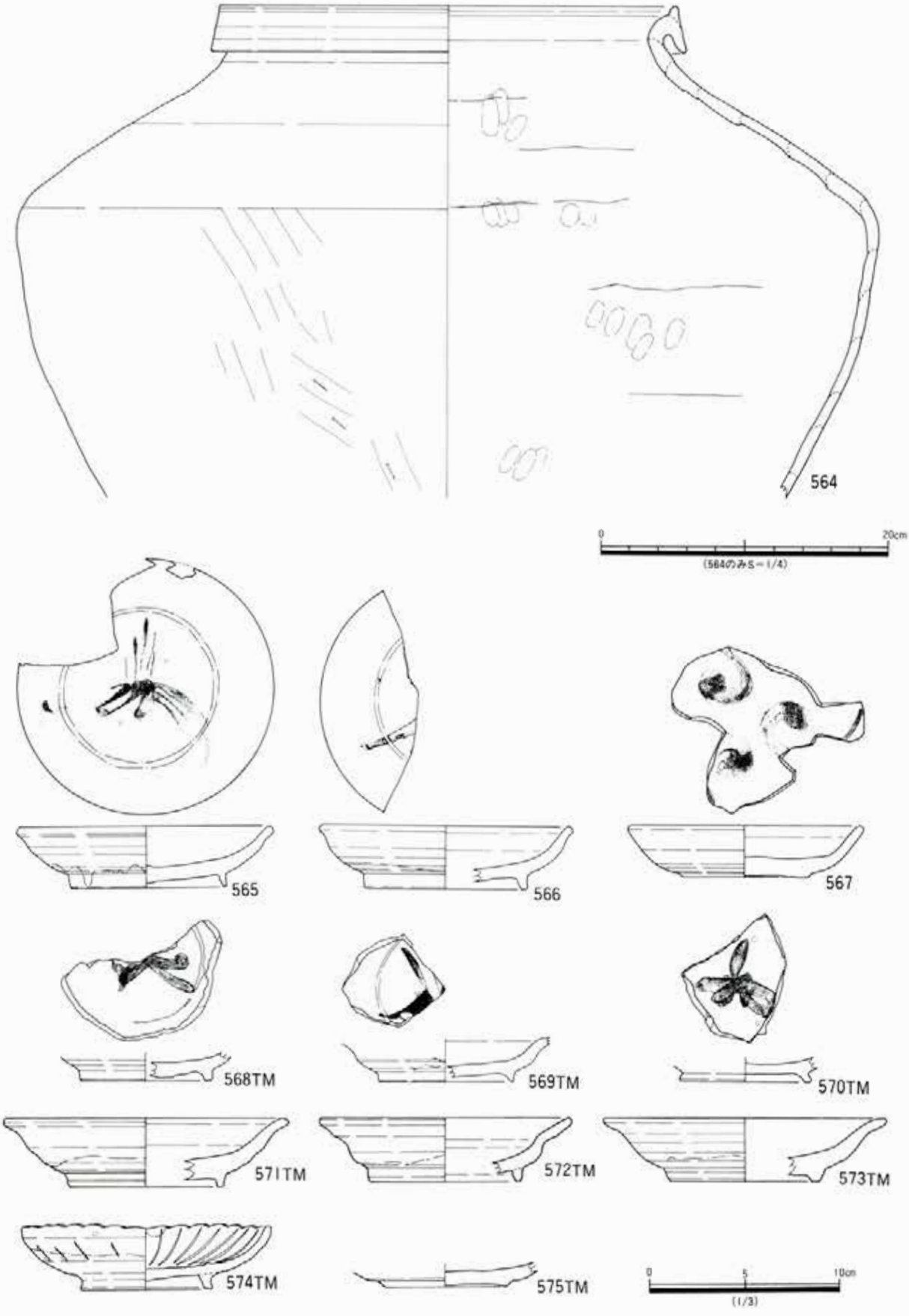
第134図　古代以降の出土土器・陶磁器(1)



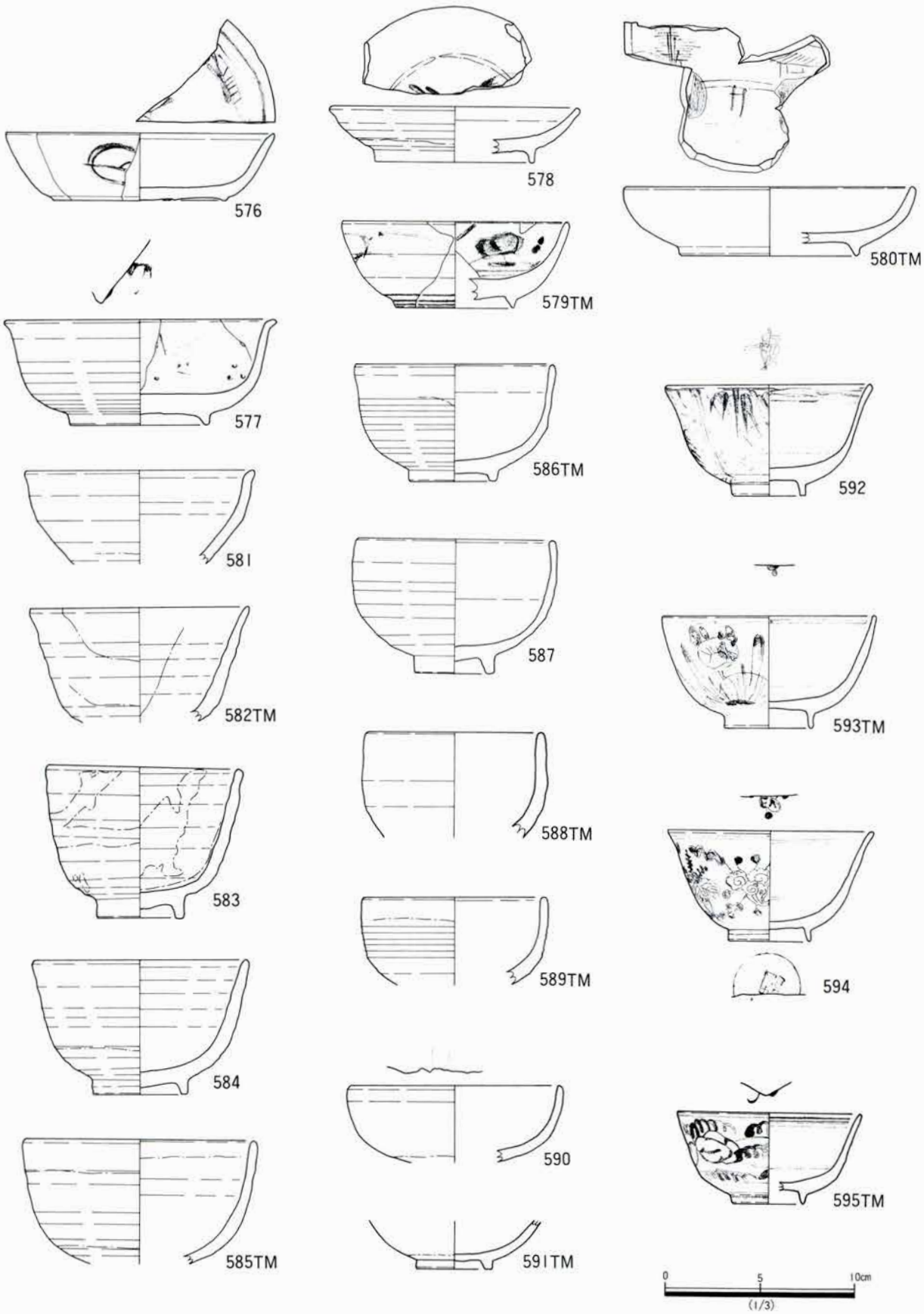
第135図　古代以降の出土土器・陶磁器(2)



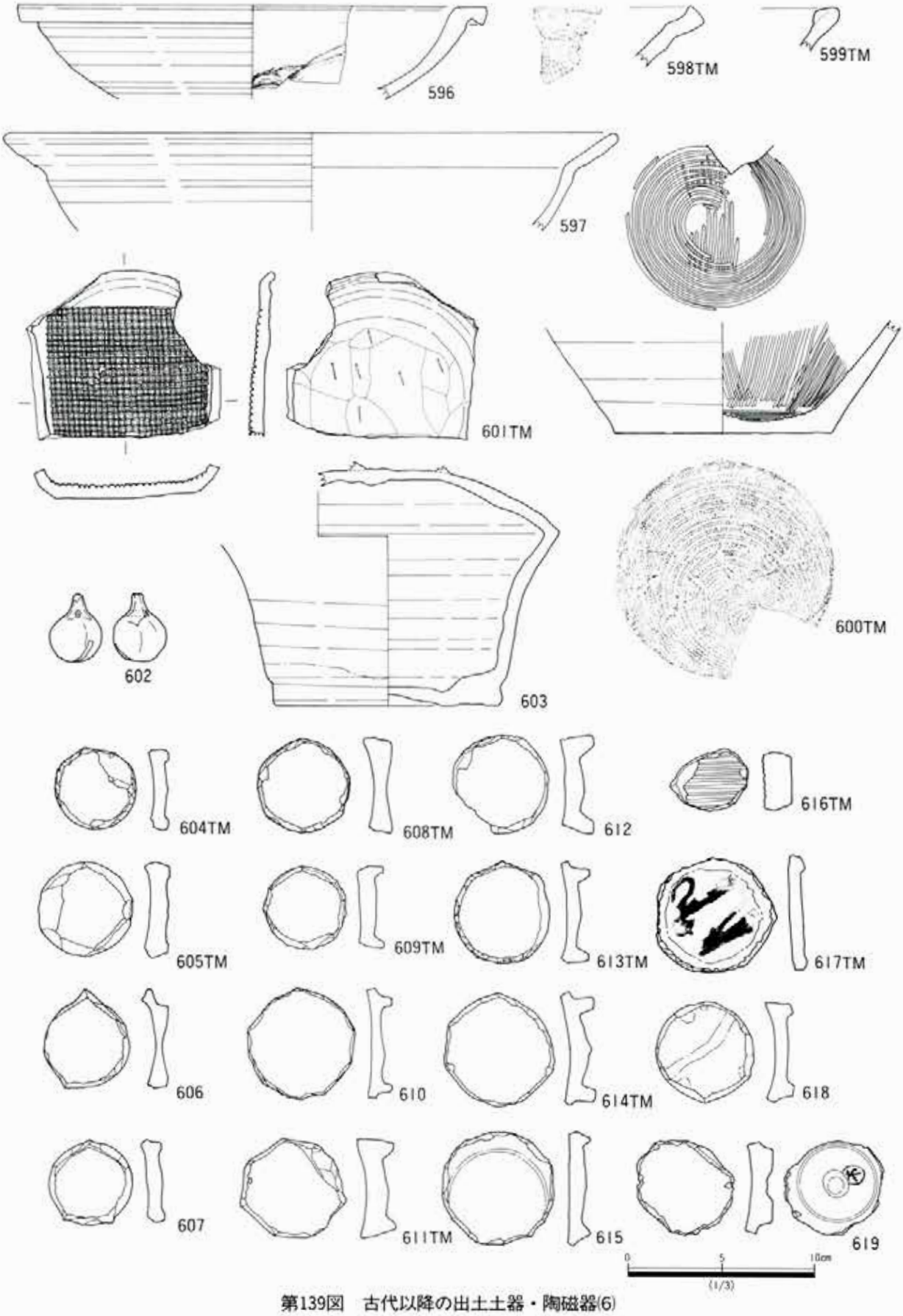
第136図　古代以降の出土土器・陶磁器(3)



第137図　古代以降の出土土器・陶磁器(4)



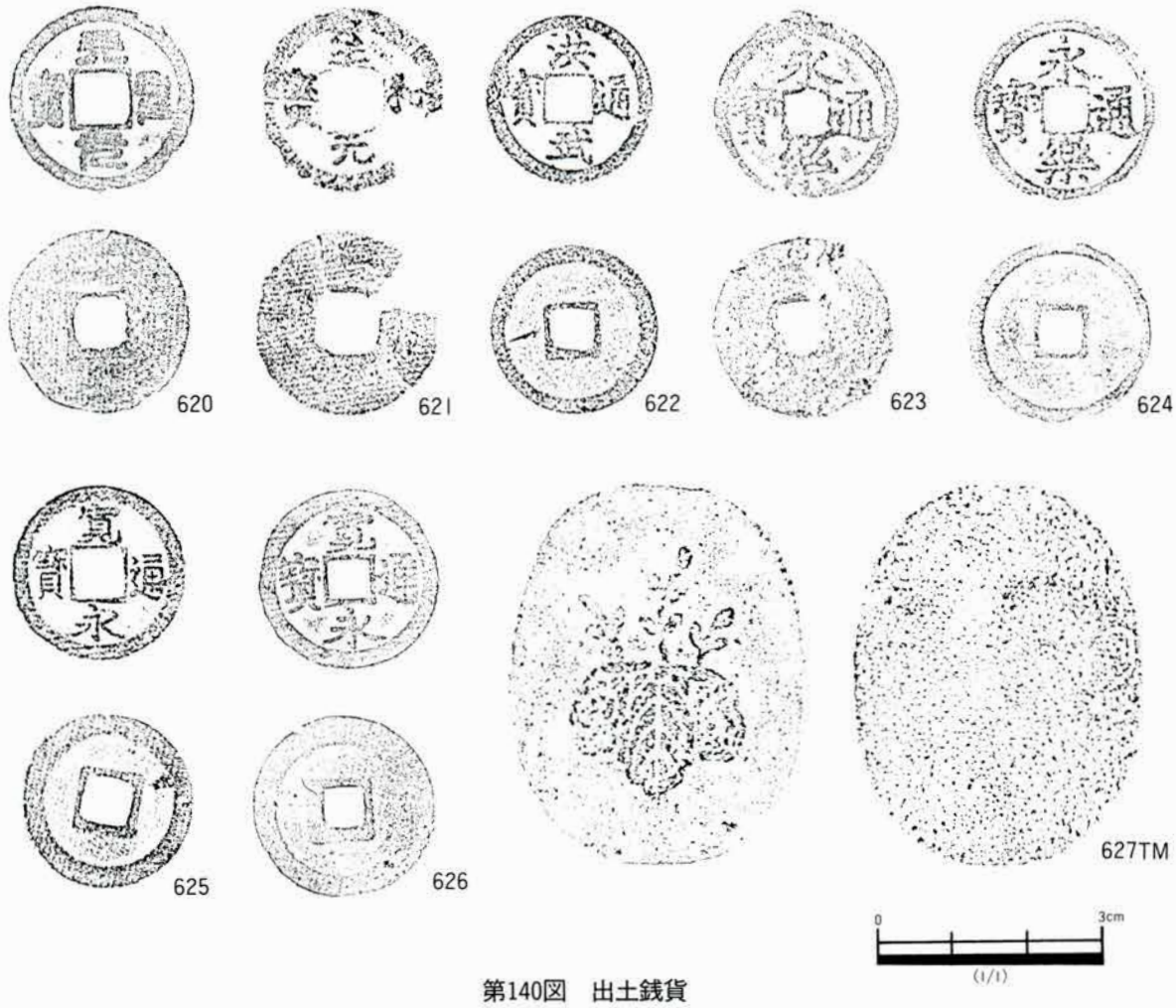
第138図　古代以降の出土土器・陶磁器(5)



第139図　古代以降の出土土器・陶磁器(6)

第2節　銭貨

今回の調査で出土した銭貨は天聖元寶1、至和元寶1、洪武通寶1、永楽通寶2、寛永通寶3、銭種不明3、破損銭2、合計13枚であった。このうち、623の永楽通寶の下には別の銭貨（銭種不明）が錆でくっついている。



第140図　出土銭貨

第35表　土器・陶磁器観察表(1)

報告書番号	位置	層位	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	整形・調整	胎土	焼成	色調	備考	挿図番号	図版番号
501	Cトレ		青磁碗	(17.0)			体部内外面回転ナデ	密、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	灰オリーブ色(5Y6/2)	全面施釉、体部外面に蓮弁文	134	66
502TM	H12	Ⅱb	青磁端反碗	(14.8)			体部内外面回転ナデ	密、径1mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	緑灰色(10GY6/1)	全面施釉	〃	〃
503	A4	Ⅱb	白磁碗	(16.4)			口縁部内外面回転ナデ	密、礫含まない	良好	灰白色(7.5Y8/1)	全面に施釉	〃	〃
504	C12	Ⅱb	青磁碗				体部内外面回転ナデ	密、径1mm以下の石英をわずかに含む	良好	灰色(7.5Y6/1)	底部外面を除き施釉、底部内面中央にスタンプ押印	〃	〃
505	Bトレ	Ⅱb	青磁皿				体部内面回転ナデ	密、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	灰白色(N7/1)	全面施釉、底部内面に魚文	〃	65
506	Bトレ	Ⅱb	青磁碗				口縁部内外面回転ナデ	密、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	灰白色(N7/1)	全面施釉、体部内面に片切彫による花文	〃	66
507	B12	Ⅱb	青磁碗				体部内外面回転ナデ	密、礫含まない	良好	灰白色(N7/1)	全面施釉、体部外面に丸彫りによる蓮弁文	〃	〃
508TM	I5	Ⅰ	白磁碗		3.0		体部内面回転ナデ、体部外面～底部外面回転ヘラ削り	やや粗、径2mm以下の長石をわずかに含む	普通	灰白色(10YR8/2)	内面に施釉	〃	〃
509TM	I3	A	土師器皿	(12.0)			体部外面上方～内面横ナデ、底部外面調整不明	密、径1mm以下の長石、石英を幾つか含む	普通	灰白色(10YR8/2)	口縁部内外面に煤付着	〃	〃
510	B12	Ⅱb	古瀬戸天目茶碗	(12.0)			体部外面下方回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径1mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	浅黄橙色(7.5YR8/3)	底部外面周辺を除き鉄釉、後Ⅳ期(古)	〃	〃
511	D10	Ⅱb	古瀬戸天目茶碗	(11.8)		5.6	体部外面下方回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径1mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	明褐灰色(7.5YR7/2)	底部外面下方を除き鉄釉、二次的に被熱、後Ⅳ期(新)	〃	65
512TM	G4	Ⅲ	古瀬戸天目茶碗		4.5		体部外面下方回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径1mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	明褐灰色(7.5YR7/2)	底部外面周辺を除き鉄釉、後Ⅲ期	〃	66
513	B6	Ⅱb	古瀬戸卸皿	(17.0)			体部内外面回転ナデ	密、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	浅黄色(2.5Y7/4)	全面に灰釉、中Ⅰ・Ⅱ期	〃	〃
514	B5	Ⅱb	古瀬戸擂鉢				体部内外面回転ナデ	密、礫含まない	良好	橙色(5YR6/6)	全面に錆釉、後Ⅳ期(古)	〃	67
515TM	I7	Ⅲ	古瀬戸擂鉢				口縁部内外面回転ナデ	密、径1mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	褐灰色(10YR6/1)	全面に錆釉、後Ⅳ期(古)	〃	〃
516TM	F11	Ⅲ	古瀬戸擂鉢				体部内外面回転ナデ	やや粗、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	灰黄褐色(10YR5/2)	全面に錆釉、擂目1単位10条、原体幅2.5cm、後Ⅳ期(新)	〃	〃

土器・陶磁器観察表(2)

報告書番号	位置	層位	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	整形・調整	胎土	焼成	色調	備考	挿図番号	図版番号
517TM	G12	II	古瀬戸擂鉢				口縁部内外面回転ナデ	密、径2mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	灰黄色(2.5Y7/2)	全面に錆釉、後IV期(新)	134	67
518	C10	IIb	古瀬戸有耳壺	(12.0)			頸部内外面～体部外面回転ナデ、体部内面指頭列痕	密、径2mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	灰白色(5Y7/2)	頸部内面～体部外面に灰釉、肩部外面に沈線5条、中I・II期	〃	65
519	D14	IIb	古瀬戸有耳壺	(12.4)			口頸部内外面回転ナデ	密、径1mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	黄灰色(2.5Y6/1)	全面に灰釉、中I・II期	〃	67
520TM	P7	I	古瀬戸有耳壺		(11.0)		底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径1mm以下の長石を幾つか含む	良好	灰白色(5Y7/1)	高台外面に灰釉、中I・II期	〃	〃
521TM	H12	III	古瀬戸水注	(3.9)			体部内外面回転ナデ	密、礫含まない	良好	にぶい黄褐色(10YR5/3)	全面に鉄釉、耳欠損、後IV期	〃	〃
522TM	Q7	I	古瀬戸梅壺	(6.0)			口縁部内外面回転ナデ	密、径2mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	浅黄色(2.5Y7/3)	口縁端部を除き灰釉、後III～IV期	〃	〃
523TM	F9	III	古瀬戸花瓶		(8.0)		底部外面回転糸切り、他は回転ナデ	密、径2mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	灰白色(2.5Y8/2)	体部外面に灰釉、後IV期(古)	〃	〃
524	C11	IIb	古瀬戸折縁深皿	(24.4)			体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径2mm以下の長石をわずかに含む	良好	浅黄色(2.5Y7/3)	全面に灰釉、後III期	〃	〃
525TM	G12	III	古瀬戸折縁深皿	(34.2)			体部外面下方回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	灰色(7.5Y6/1)	全面に灰釉、後III期	〃	〃
526	B12	IIb	古瀬戸折縁深皿	(34.4)			体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	やや粗、径2mm以下の長石をわずかに含む	普通	灰黄色(2.5Y7/2)	全面に灰釉、後IV期(古)	〃	〃
527TM	L11	杭下	古瀬戸直縁大皿	(28.0)			口縁部内外面回転ナデ	密、径1mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	灰黄褐色(10YR5/2)	全面に灰釉、後IV期(古)	〃	〃
528	C12	IIb	古瀬戸柄付片口	(14.0)	(13.2)	8.7	底部外面回転糸切り、体部外面下方回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	にぶい黄橙色(10YR7/2)	底部外面を除き灰釉、後I期	135	65
529	C9	IIb	大窯天目茶碗	(11.0)			体部外面下方回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径2mm以下の長石をわずかに含む	良好	にぶい橙色(7.5YR6/3)	体部外面下方を除き鉄釉、大窯第1段階	〃	67
530	C9	IIb	大窯天目茶碗	(9.8)			体部外面下方回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径1mm以下の石英をわずかに含む	良好	橙色(7.5YR6/6)	体部外面下方を除き鉄釉、大窯第3段階	〃	〃
531	C9	IIb	大窯小杯		(2.0)		体部内外面回転ナデ	密、径1mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	にぶい赤褐色(5YR5/4)	体部内外面上方に灰釉、大窯第4段階	〃	〃
532TM	I9	II	大窯擂鉢				口縁部内外面回転ナデ	密、径1mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	にぶい橙色(7.5YR6/4)	全面に錆釉、大窯第3段階	〃	〃

土器・陶磁器観察表(3)

報告書番号	位置	層位	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	整形・調整	胎土	焼成	色調	備考	挿図番号	図版番号
533	C12	IIb	大窯擂鉢				口縁部内外面回転ナデ	密、径1mm以下の赤色酸化土粒を幾つか含む	良好	にぶい橙色(7.5YR6/4)	全面に錆釉、大窯第4段階	135	67
534TM	F10	III	大窯擂鉢				口縁部内外面回転ナデ	密、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	にぶい黄橙色(10YR7/2)	口縁端部を除き錆釉、大窯第4段階	〃	〃
535TM	L19	II	備前？擂鉢	(24.0)			体部内外面回転ナデ	密、径4mm以下の長石をわずかに含む	良好	灰褐色(5YR5/2)	体部内面に自然釉降灰、16C後半	〃	〃
536	C10	IIb	越前擂鉢	(29.4)			体部内外面回転ナデ	粗、径3mm以下の長石を幾つか含む	普通	にぶい黄橙色(10YR7/2)	擂目1単位9条、原体幅2.8cm、口縁部外面に煤付着、16C後半	〃	68
537TM	H7	I	越前擂鉢		(15.2)		体部内外面回転ナデ、底部外面調整不明	粗、径3mm以下の長石を、わずかに含む	普通	淡黄色(2.5Y8/3)	擂目1単位13条、原体幅3.7cm、体部外面は被熱による剥離が著しい	〃	〃
538TM	H7	I	越前擂鉢				口縁部内外面回転ナデ	やや粗、径2mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	灰白色(10YR8/1)	体部外面煤付着、14C後半	〃	〃
539TM	H3	II	越前擂鉢				口縁部内外面回転ナデ	やや粗、径3mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	にぶい赤褐色(2.5YR5/4)	口縁部内面に1条の沈線、16C代	〃	〃
540TM	I6	アゼ	越前擂鉢				体部外面回転ナデ	やや粗、径2mm以下の長石、石英を幾つか含む	普通	灰黄褐色(10YR5/2)	体部内外面に自然釉降灰、16C代	〃	〃
541TM	13トレ	I	越前擂鉢				底部外面調整不明、体部外面回転ナデ	粗、径3mm以下の長石、石英を多く含む	普通	にぶい黄橙色(10YR7/3)	体部内面平滑、擂目、1単位9条、原体幅2.6cm	〃	〃
542TM	L5	III	越前擂鉢				底部外面調整不明、体部外面回転ナデ	やや粗、径2mm以下の長石、石英、赤色酸化土粒をわずかに含む	良好	橙色(7.5YR7/6)	擂目1単位10条、原体幅3.3cm	〃	〃
543	C11	IIb	越前擂鉢				体部内外面回転ナデ	やや粗、径2mm以下の長石、石英、雲母を幾つか含む	良好	明褐灰色(7.5YR7/2)	擂目1単位13条、原体幅3.0cm	〃	〃
544	D11	III	越前擂鉢				体部外面回転ナデ	やや粗、径2mm以下の長石をわずかに含む	普通	灰黄褐色(101YR5/2)	体部内面に横方向の擂目あり	〃	〃
545TM	I10	III	越前壺				体部外面上方回転ナデ、下方調整不明、体部内面横ナデ	密、径2mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	褐灰色(10YR4/1)	耳欠損	〃	66
546TM	I10	III	越前壺		(12.6)		底部外面に布目？体部外面縦方向のヘラケズリ、体部内面横～斜め方向のナデ	やや粗、径1mm以下の長石、赤色酸化土粒をわずかに含む	普通	褐灰色(10YR5/1)		〃	67
547TM	I5	アゼ	越前？壺				口縁部内外面回転ナデ	やや粗、径2mm以下の長石、石英、雲母をわずかに含む	良好	褐灰色(7.5YR5/1)	全面に鉄釉？	〃	〃
548TM	I10	III	越前壺				口頸部内外面回転ナデ	やや粗、径2mm以下の長石をわずかに含む	普通	黄灰色(2.5Y5/1)	16C代	〃	〃

土器・陶磁器観察表(4)

報告書番号	位置	層位	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	整形・調整	胎土	焼成	色調	備考	挿図番号	図版番号
549	B 9	Ⅱb	美濃須衛？有耳壺	(12.0)			口頸部内外面回転ナデ	やや粗、径5mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	灰白色(2.5Y7/1)		136	67
550TM	7Aトレ	Ⅰ	常滑甕				口縁部内外面回転ナデ	密、径1mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	灰黄色(2.5Y7/2)	口縁部内外面に自然釉降灰、6a型式	〃	68
551TM	G 4	Ⅰ	常滑甕				口縁部内外面回転ナデ	やや粗、径1mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	灰黄褐色(10YR5/2)	6a型式	〃	〃
552	C12	Ⅱb	常滑甕				口頸部内外面回転ナデ	やや粗、径5mm以下の長石を幾つか含む	良好	黄灰色(2.5Y4/1)	口縁部～頸部外面自然釉降灰、6a型式	〃	〃
553	B12	Ⅱb	瓷器系甕				口頸部内外面回転ナデ、体部内面指圧	やや粗、径7mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	にぶい褐色(7.5YR5/3)		〃	〃
554	D12	Ⅱb	常滑甕				口頸部内外面回転ナデ	やや粗、径2mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	褐灰色(7.5YR5/1)	口縁部内面～口頸部外面自然釉降灰、6b型式	〃	〃
555	B12	Ⅱb	常滑甕				口縁部内外面回転ナデ、頸部内面指圧後回転ナデ	やや粗、径4mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	灰黄褐色(10YR4/2)	10型式	〃	〃
556	D14	Ⅱb	常滑甕				口縁部内外面回転ナデ	やや粗、径2mm以下の長石、石英、雲母を多く含む	良好	褐灰色(5YR4/1)	11型式	〃	〃
557	C 9	Ⅰ	常滑甕				口縁部内外面回転ナデ、頸部内面指圧	やや粗、径3mm以下の長石を多く含む	良好	褐灰色(10YR4/1)	口縁部～体部外面に自然釉降灰、10型式	〃	〃
558TM	H12	Ⅰ	常滑甕				体部内外面回転ナデ	やや粗、径2mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	黄灰色(2.5Y6/1)	体部外面に押印文、自然釉降灰、6a型式	〃	〃
559TM	L17	Ⅲ	常滑甕				体部内面指圧後回転ナデ	やや粗、径2mm以下の長石、石英、雲母、赤色酸化土粒を幾つか含む	良好	褐灰色(7.5YR5/1)	体部外面に押印文、自然釉降灰、6a～6b型式	〃	〃
560	C 9	Ⅰ	常滑甕				口頸部内外面回転ナデ、頸部内面下方指圧後回転ナデ	やや粗、径2mm以下の長石、石英、雲母、赤色酸化土粒を幾つか含む	良好	褐灰色(7.5YR4/1)	口縁部内面に自然釉降灰、6b型式	〃	〃
561	C 9	Ⅰ	信楽？甕	(37.0)			口頸部内外面回転ナデ、頸部内面下方指圧後回転ナデ	やや粗、径3mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	灰黄褐色(10YR5/2)	頸部内面に黒色有機物付着	〃	〃
562	C11	Ⅱb	常滑甕	(42.0)			口頸部内外面回転ナデ	やや粗、径2mm以下の長石、石英、雲母を多く含む	良好	褐灰色(7.5YR6/1)	口縁部～頸部外面に自然釉降灰、7型式	〃	〃
563	C12	Ⅱb	常滑甕		18.2		体部内面下方回転ナデ、横方向のヘラケズリ、体部外面下方縦方向のケズリ	やや粗、径4mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	褐灰色(7.5YR4/1)	底部内面のみにぶい黄橙色を呈する、6b～7形式	〃	66
564	C11	Ⅱb	常滑甕	(40.2)			体部外面下方縦方向の板ナデ、外面上方～口縁部内外面横ナデ、体部内面指頭列痕	やや粗、径5mm以下の長石、石英を多く含む	良好	黒褐色(10YR3/2)	全面二次的に被熱、7型式	137	〃

土器・陶磁器観察表(5)

報告書番号	位置	層位	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	整形・調整	胎土	焼成	色調	備考	挿図番号	図版番号
565	C12	IIb	瀬戸美濃鉄絵皿	13.4	8.1	3.2	体部外面下方～底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	やや粗、径3mm以下の石英を幾つか含む	良好	灰黄色(2.5Y6/2)	底部外面周辺を除き灰釉、底部内面に蘭竹文、ピン痕あり、H12グリッドと接合	137	65
566	C12	IIb	瀬戸美濃鉄絵皿	(7.1)	(8.6)		体部外面下方～底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径2mm以下の長石、石英、赤色酸化土粒をわずかに含む	良好	灰白色(2.5Y8/2)	体部外面下方を除き灰釉、底部内面に蘭竹文	〃	〃
567TM	B?	?	瀬戸美濃鉄絵皿	(12.3)	(6.6)	2.7	体部外面下方～底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	やや粗、径2mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	灰黄色(2.5Y7/2)	底部外面を除き灰釉、底部内面に鉄釉、ピン痕	〃	〃
568TM	H7	I	瀬戸美濃鉄絵皿		(6.9)		体部外面下方～底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	やや粗、径2mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	灰白色(10YR8/2)	底部内面に筒竹文、灰釉	〃	69
569TM	G12	II	瀬戸美濃鉄絵皿		(3.5)		体部外面下方～底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	淡黄色(2.5Y8/3)	体部内面灰釉、底部内面に蘭竹文	〃	〃
570TM	I6	アゼ	瀬戸美濃鉄絵皿		(6.8)		底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	やや粗、径1mm以下の長石、赤色酸化土粒をわずかに含む	良好	淡黄色(2.5Y8/3)	底部外面を除き灰釉、底部内面に筒竹文、ピン痕あり	〃	〃
571TM	L7	I	瀬戸美濃輪花皿	(15.0)	(8.0)	3.6	体部外面下方回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径2mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	暗赤灰色(10R4/1)	体部外面下方～底部外面、底部内面周縁を除き灰釉、二次的に被熱	〃	〃
572TM	I5	III	瀬戸美濃端反皿	(13.4)	(8.0)	3.4	底部外面周辺回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	にぶい黄橙色(10YR7/3)	底部外面周辺を除き灰釉	〃	〃
573TM	L7	III	瀬戸美濃輪花皿	(14.7)	(8.0)	3.3	体部外面下方～底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	やや粗、径2mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	暗灰黄色(2.5Y5/2)	体部外面下方～底部外面と底部内面周縁を除き灰釉	〃	〃
574	B8	IIb	瀬戸美濃菊皿	(6.6)	(3.4)	3.6	体部外面下方回転ナデ	やや粗、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	淡黄色(2.5Y8/3)	体部外面上方～内面に灰釉、口縁部に緑釉流し掛け	〃	65
575TM	K12	III	瀬戸美濃志野丸皿		(6.4)		体部外面下方～底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	灰白色(2.5Y8/1)	全面に長石釉、底部内外面にピン痕	138	69
576	C9	IIb	瀬戸美濃染付皿	(14.0)		3.5	体部外面下方～底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	やや粗、径2mm以下の長石をわずかに含む	良好	明褐灰色(7.5YR7/1)	体部内面に海浜風景	〃	〃
577	C8	IIb	瀬戸美濃染付皿	(14.3)	7.3	5.5	体部外面下方～底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径2mm以下の長石をわずかに含む	良好	にぶい黄橙色(10YR7/3)	底部内面に水草	〃	65
578	C12	IIb	瀬戸美濃鉄絵皿	13.2	(8.4)	2.9	体部外面下方～底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	やや粗、径2mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	灰白色(2.5Y8/1)	体部外面下方～底部外面を除き灰釉、底部内面に蘭竹文	〃	〃
579TM	G4	I	肥前染付皿	(11.8)	(6.3)	4.5	体部内外面回転ナデ	密、径1mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	灰白色(N8/1)	体部外面に唐草	〃	69
580TM	J12	I	肥前染付皿	(15.2)	(9.4)	3.6	体部内外面回転ナデ	密、礫含まない	良好	灰白色(10Y8/1)	体部内面に海浜風景、口縁部内面に1条の沈線	138	65

土器・陶磁器観察表(6)

報告書番号	位置	層位	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	整形・調整	胎土	焼成	色調	備考	挿図番号	図版番号
581	Bトレ	IIb	瀬戸美濃天目茶碗	(12.0)			体部外面下方回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	にぶい黄橙色(10YR7/3)	底部外面周辺を除き鉄釉	〃	69
582TM	Q13	II	瀬戸美濃丸碗	(11.4)			体部内外面回転ナデ	密、径1mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	浅黄橙色(10YR8/3)	体部内外面灰釉流し	〃	〃
583	D12	IIb	瀬戸美濃丸碗	(9.9)	4.5	5.9	体部外面下方回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	灰白色(10YR7/1)	高台内面を除き鉄釉、灰釉流し掛け	〃	66
584	D11	IIb	瀬戸美濃丸碗	(11.0)	4.9	7.0	体部外面下方回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径3mm以下の長石をわずかに含む	良好	灰白色(2.5Y8/2)	底部外面周辺を除き鉄釉	〃	65
585TM	K5	アゼ	瀬戸美濃丸碗	(12.0)			体部外面下方回転ヘラ削り、他は回転ナデ	やや粗、径1mm以下の石英をわずかに含む	良好	にぶい黄橙色(10YR6/3)	体部外面下方を除き飴釉、口縁部周辺うのふ釉	〃	69
586TM	Q17トレ	II	瀬戸美濃丸碗	(10.4)	(4.6)	6.5	体部外面下方～底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径1mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	浅黄橙色(7.5YR8/3)	口縁部外面～体部内面灰釉、他は鉄釉、高台接地面露胎	〃	65
587	B12	IIb	瀬戸美濃丸碗	(10.2)	(3.8)	6.9	体部外面下方回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	オリーブ褐色(2.5Y4/4)	高台畳付を除き飴釉	〃	〃
588TM	I10	III	瀬戸美濃丸碗	(9.5)			体部内外面回転ナデ	密、径2mm以下の長石をわずかに含む	良好	にぶい黄橙色(10YR6/3)	全面に灰釉	〃	69
589TM	H5	I	瀬戸美濃丸碗	(9.6)			体部内外面回転ナデ	密、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	灰白色(2.5Y8/1)	体部外面鉄釉、他は灰釉、体部外面に5条の沈線	〃	〃
590	C8	IIb	瀬戸美濃染付丸碗	(11.4)			体部外面下方回転ヘラ削り、他は回転ナデ	やや粗、径2mm以下の長石をわずかに含む	普通	灰黄色(2.5Y7/2)	底部内面に呉須による文様あり、体部外面下方を除き灰釉	〃	〃
591TM	G10	III	瀬戸美濃丸碗				底部～体部外面下方回転ヘラ削り	密、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	浅黄橙色(7.5YR8/3)	底部外面周辺を除き灰釉	〃	〃
592	C9	IIb	瀬戸美濃染付丸碗	(10.6)	(3.8)	5.7	体部内外面回転ナデ	密、径1mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	灰白色(7.5Y8/1)	体部外面に竹？口縁部内面に雲文、底部内面に寿字	〃	65
593TM	G6	II	瀬戸美濃染付丸碗	(11.2)	(4.1)	5.8	体部内外面回転ナデ	密、礫含まない	良好	灰白色(7.5Y8/1)	文様:体部内面いちはつ、口縁内面一重圏線、見込み花文	〃	66
594	B10	IIb	瀬戸美濃染付丸碗	10.7	4.3	5.8	体部内外面回転ナデ	密、礫含まない	良好	灰白色(10YR8/2)	体部外面に草花文、口縁部内面に二重圏線、底部外面に方形枠に変形字	〃	〃
595TM	F6	I	瀬戸美濃染付丸碗	(9.6)	(3.8)	4.8	体部内外面回転ナデ	密、礫含まない	良好	灰白色(N8/1)	体部外面に花文、口縁部内面に三重圏線	138	66

土器・陶磁器観察表(7)

報告書番号	位置	層位	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	整形・調整	胎土	焼成	色調	備考	挿図番号	図版番号
596	C 9	I	瀬戸美濃染付鉢	(25.2)			体部外面下方回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径2mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	淡黄色(2.5Y8/3)	体部外面下方を除き灰釉、体部内面の文様は不明	139	69
597	B 1 2	II b	唐津鉢	(33.0)			体部外面下方回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径3mm以下の長石をわずかに含む	良好	黄灰色(2.5Y4/1)	体部外面下方を除き施釉、体部内面に白化粧	〃	〃
598TM	K 1 3	I	瀬戸美濃擂鉢				口縁部内外面回転ナデ	密、径2mm以下の長石をわずかに含む	良好	灰白色(2.5Y8/2)	全面に錆釉	〃	〃
599TM	F 1 0	II	不明擂鉢				口縁部内外面回転ナデ	やや粗、径1mm以下の石英を多く含む	良好	褐灰色(10YR4/1)	全面に鉄釉？	〃	〃
600TM	F 1 1 トレ	III	不明擂鉢				底部外面回転糸切り、体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径1mm以下の長石、石英、赤色酸化土粒をわずかに含む	良好	灰黄褐色(10YR6/2)	全面に鉄釉？	〃	65
601TM	Q 7 トレ	I	瀬戸美濃卸皿				底部外面一方向のケズリ、他は回転ナデ	密、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	にぶい橙色(7.5YR6/4)	全面に錆釉	〃	66
602	F 1 1 トレ	III	土鈴				器面の調整不明	密、径1mm以下の長石、雲母をわずかに含む	普通	灰白色(10YR8/1)	内部に鈴あり、体部下方に黒色有機物付着	〃	〃
603	B トレ	II b	瀬戸美濃浸瓶		12.3	13.0	体部外面～底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ	密、径3mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	灰白色(7.5Y7/1)	底部外面を除き灰釉、注口部欠損	〃	〃
604TM	F 1 1 トレ	II	加工円盤		4.0		長軸4.3cm、短軸4.3cm	密、径1mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	にぶい橙色(7.5YR6/4)	天目茶碗の底部を転用	〃	69
605TM	G 1 6 トレ	II	加工円盤				長軸5.1cm、短軸5.1cm	密、径2mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	黄灰色(10YR6/2)	天目茶碗の底部を転用	〃	〃
606	C 1 2	II b	加工円盤				長軸5.3cm、短軸4.6cm	やや粗、径5mm以下の長石をわずかに含む	良好	にぶい黄橙色(10YR7/2)	天目茶碗の底部を転用	〃	〃
607	D 9	II b	加工円盤				長軸4.6cm、短軸4.4cm	やや粗、径3mm以下の長石をわずかに含む	良好	にぶい黄橙色(10YR7/3)	天目茶碗の底部を転用	〃	〃
608TM	G 6	I	加工円盤				長軸5.1cm、短軸4.9cm	密、径1mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	にぶい褐色(7.5YR6/3)	天目茶碗の底部を転用	〃	〃
609TM	SK 1 7 2		加工円盤				長軸4.4cm、短軸4.4cm	密、径1mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	灰白色(5Y7/1)	灰釉丸碗の底部を転用	〃	〃
610	E 1 4	II b	加工円盤				長軸6.0cm、短軸5.7cm	密、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	灰白色(10Y7/1)	灰釉丸碗の底部を転用	〃	〃
611TM	N 1 1	II	加工円盤				長軸5.6cm、短軸5.4cm	密、径1mm以下の長石、石英を幾つか含む	良好	褐灰色(10YR5/1)	飴釉丸碗の底部を転用	139	69

土器・陶磁器観察表(8)

報告書番号	位置	層位	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	整形・調整	胎土	焼成	色調	備考	挿図番号	図版番号
612	D10	IIb	加工円盤				長軸5.2cm、短軸5.1cm	密、径2mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	灰黄色(2.5Y7/2)	灰釉丸碗の底部を転用	〃	〃
613TM	L7	II	加工円盤				長軸5.6cm、短軸5.1cm	密、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	にぶい黄橙色(10YR6/3)	飴釉丸碗の底部を転用	〃	〃
614TM	E5トレ	III	加工円盤				長軸6.1cm、短軸5.9cm	密、礫含まない	良好	灰白色(2.5Y8/1)	飴釉丸碗の底部を転用	〃	〃
615	C9	IIb	加工円盤				長軸6.1cm、短軸6.0cm	密、径2mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	灰白色(5Y7/2)	瀬戸美濃皿類の底部を転用	〃	〃
616TM	L19	II	加工円盤				長軸4.2cm、短軸3.4cm	密、径2mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	黄灰色(2.5Y6/1)	越前擂鉢の体部を転用	〃	〃
617TM	H10	III	加工円盤				長軸6.4cm、短軸6.1cm	密、径2mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	灰黄褐色(10YR6/2)	内禿皿の底部を転用、底部内面に墨書き？	〃	〃
618	C16	IIb	加工円盤				長軸5.4cm、短軸5.1cm	密、径1mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	にぶい黄橙色(10YR7/2)	鉄釉丸碗(灰釉流し)の底部を転用	〃	〃
619	C9	IIb	加工円盤				長軸5.2cm、短軸5.1cm	密、径1mm以下の長石、石英をわずかに含む	良好	灰黄褐色(10YR6/2)	鉄釉丸碗の底部を転用、底部外面に刻文	〃	〃

第36表　銭貨観察表

620	C11	IIb	銭貨				天聖元寶	直径2.4cm				140	〃
621	D12	III	銭貨				至和元寶	直径2.4cm				〃	〃
622	C11	IIb	銭貨				洪武通寶	直径2.2cm				〃	〃
623	C10	IIb	銭貨				永楽通寶	直径2.4cm			2枚重なっている	〃	〃
624	B14	IIb	銭貨				永楽通寶	直径2.4cm				〃	〃
625	C9	IIb	銭貨				寛永通寶	直径2.3cm				〃	〃
626	C9	IIb	銭貨				寛永通寶	直径2.4cm				〃	〃
627TM	？	？	銭貨					長軸5.0cm、短軸3.9cm				〃	〃

第6章　自然科学分析

第1節　土器塗布赤色顔料の蛍光X線分析

藤根　久（パレオ・ラボ）

1．はじめに

戸入村平遺跡IIにおいて、赤色物が外側表面に塗布された縄文時代中期後半の土器が出土した。ここでは、これら土器（第142図、1832、1833）外側表面の赤色顔料について、含まれる元素を蛍光X線分析によって定性的に調べ、赤色顔料の同定を行った。

2．試料と方法

試料は、赤色顔料が塗布された縄文中期後半の土器2試料である。測定試料は、セロハン粘着テープを貼りつけ、赤色顔料を剥離して採取した試料である。

分析装置は、セイコー電子工業㈱製のエネルギー分散型蛍光X線分析計ＳＥＡ-2001Ｌ、X線発生部の管球はロジウム（Rh）ターゲット、ベリリウム（Be）窓、X線検出器はSi（Li）半導体検出器である。測定条件は、測定時間300秒、照射径10㎜、電流63μm、電圧50kV、試料室内は真空である。

3．分析結果

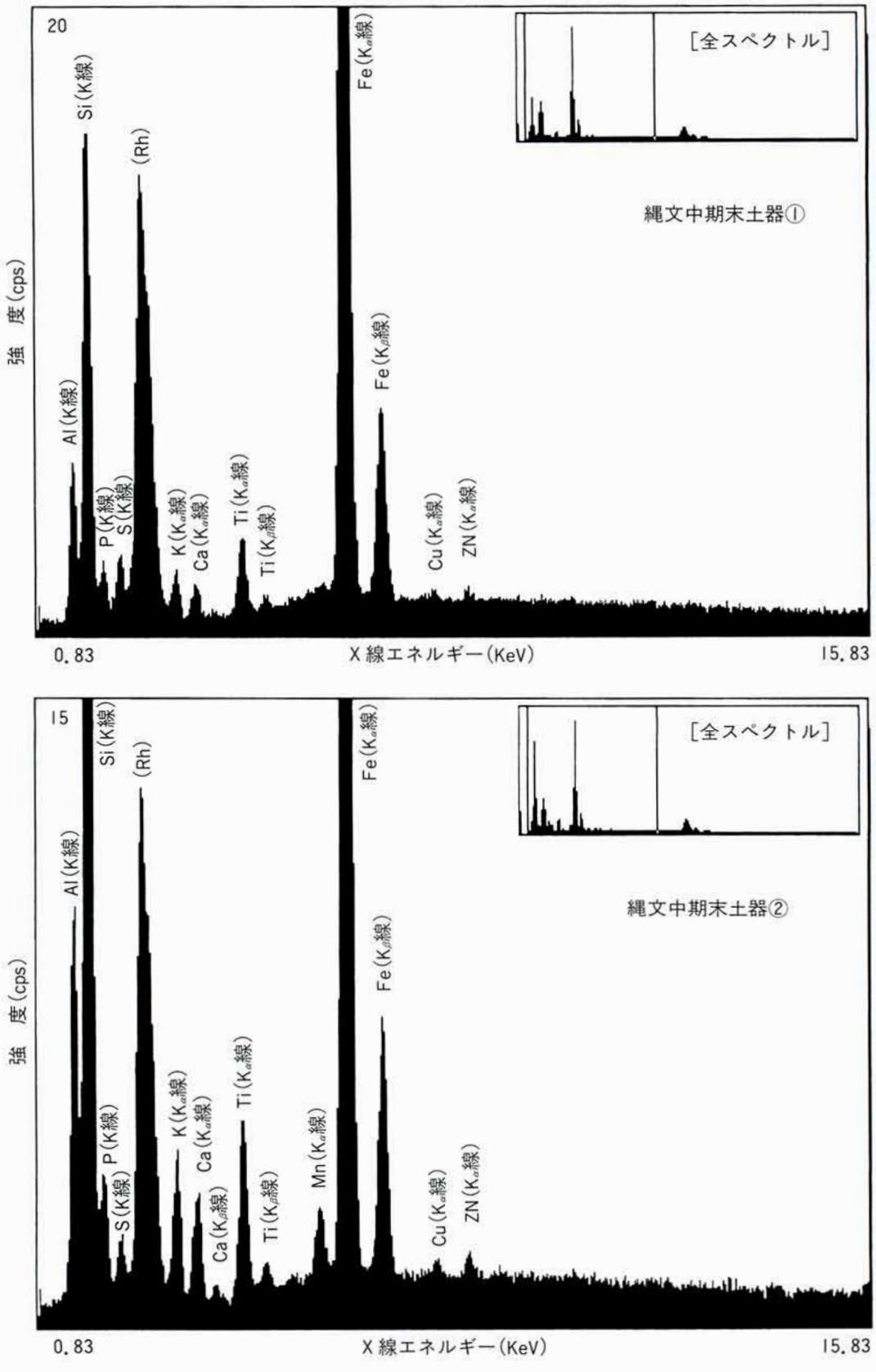
土器外側表面の赤色顔料は、いずれも鉄（Fe）の2本のピークが高率で検出された（図版1）。なお、他にケイ素（Si）やアルミニウム（Al）、カリウム（K）、カルシウム（Ca）、チタン（Ti）、マンガン（Mn）が検出された。また、低率ながら、リン（P）、イオウ（S）なども検出された。なお、ロジウム（Rh）のピークはX線発生部の管球に由来するものであり、赤色物に含まれる元素とは関係がない。なお、同様の方法で1098、1184、1188、1305、1407、1536、1539、1542、1549、1550の10個体を調べたところ、いずれもベンガラであった。

4．考察

土器外側表面に塗布された赤色物は、いずれの土器も全体に塗布されていること、蛍光X線分析により鉄（Fe）が効率に検出されたことから、赤色顔料としてのベンガラである。

一般的に、赤色顔料として水銀朱（HgS）、ベンガラ（Fe_2O_3）などが知られている（市毛、1984）。ベンガラ（Fe_2O_3）は赤色の由来となる主成分元素がFe（鉄）であるものを言う。古代においては、鉄分に富んだ土壌（例えば褐鉄鉱など）を焼いて作られたと考えられている（山崎、1987）。また、天然の赤鉄鉱などの鉄鉱石を採取して製造した可能性も考えられる。なお、最近の研究では、縄文時代や弥生時代の赤色漆に用いられた赤色顔料中に珪藻化石が見られることから、水成環境下で生成した酸化鉄であることも分かってきた（岡田、1997）。

なお、揖斐川上流に所在する塚遺跡では、縄文中期末鍔付壺型土器や縄文後期前葉浅鉢の外側において水銀朱からなる赤色顔料が検出され、当時赤色顔料として水銀朱が利用されていたことが分かっている（菱田、1998）。

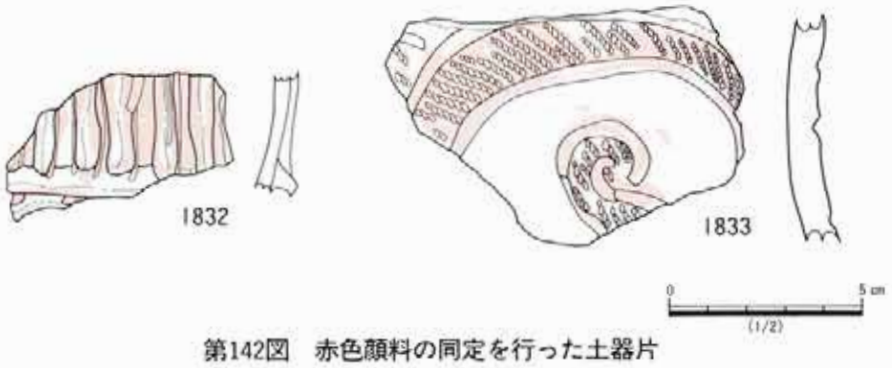


［元素記号］

Al;アルミニウム、Si;ケイ素、S;イオウ、K;カリウム、Ca;カルシウム、Ti;チタン、Mn;マンガン、Fe;鉄、Cu;銅、Zn;亜鉛、(Rh);ロジウム(X線管球ターゲットから)

第141図　各土器外側表面に塗布された赤色顔料の蛍光X線スペクトル図

（引用文献）
市毛　勲(1984)「増補朱の考古学」第２版、考古学選書12、雄山閣出版、P.324。
岡田文男(1997)「パイプ状ベンガラ粒子の復元」日本文化財科学会、第14回大会研究発表要旨集、P.38-P.39。
菱田　量(1998)「塚遺跡」岐阜県文化財保護センター調査報告書、第27集、P.147-P.152。
山崎一雄(1987)「古文化財の科学」、思文閣出版、P.352。



第142図　赤色顔料の同定を行った土器片

第２節　放射性炭素年代測定

山形秀樹（パレオ・ラボ）

１．放射性炭素年代測定について

試料は、アルカリ・酸処理を施して不純物を除去し、炭化処理をした後リチウムと混合して反応管内に入れ、真空ポンプで引きながら800℃まで加熱して炭化リチウム（カーバイド）を生成後、加水分解によりアセチレンを生成した。

測定は、約一ヶ月放置した後、生成したアセチレンを比例計数管（400cc）を用いて、β-線を計数して年代値を算出した。その結果は下記に示す。

なお、年代値の算出には14Cの半減期としてLibbyの半減期5,570年を使用した。また、付記した年代誤差は、計数値の標準偏差σに基づいて算出し、標準偏差（One sigma）に相当する年代である。試料のβ-線計数率と自然計数率との差が２σ以下の時は、３σに相当する年代を下限の年代値として表示し、試料のβ-線計数率と現在の標準炭素（Modern standard carbon）の計数率との差が２σ以下の時は、Modernと表示し、14C（Sample）/14C（Modern）の値を付記し、14C（Sample）/14C（Modern）＜１であれば、yrBPの値を付記する。

暦年代の補正は、大気中の14C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された14C年代値(yrBP)に対し、過去の宇宙線強度の変動による大気中の14C濃度の変動および半減期の違い（14Cの半減期5,730±30年）を補正して、より正確な年代を求めるものであり、具体的には年代既知の樹木年輪14C年代の詳細な測定値を用いて補正曲線を作成し、これを用いて暦年代を算出する。補正暦年代の算出にCALIB3.0{Stuiver and Reimer、1993：IBM-PC用：Reference(Stuiver & Pearson、1993)}を使用した。なお、交点年代値は14C年代値に相当する補正曲線上の年代値であり、１σ年代幅は14C年代誤差に相当する補正曲線上の年代範囲を示す。年代を検討する場合は、68%の確率で１σ年代幅に示すいずれかの年代になる。暦年代の補正は約一万年前からＡＤ1,950年までが有効であり、該当しないものについては補正暦年代を＊＊＊またはModernと表示する。また、ＡＤ1,955＊はModernを

意味する。

第37表　放射性炭素年代測定結果

測定No.	試　料	14C年代値	補正暦年代
PLD-468	炭化材（カエデ属） SB14石組み遺構付近	1,110±80yrBP （AD840年）	交点年代値　AD970年 1σ年代幅　AD880to1,010

住居跡SB14は、出土土器では縄文時代中期末～後期初めと予想されているが、出土する炭化材の放射性炭素年代値は新しい年代値として算出された。放射性炭素年代測定は、炭化材など物の年代値を示すため、後の時代の炭化材が混入した可能性が高い。

（引用文献）

Stuiver,M. and Reimer,P.J.(1993)Extended14C database and revised CALIB3.0 14C Age Calibration Program.

第3節　戸入村平遺跡II出土炭化材の樹種同定

植田弥生（パレオ・ラボ）

1．はじめに

本遺跡は揖斐郡の徳山ダム水没地内に分布する遺跡で、揖斐川上流の支流である西谷川の段丘上に位置する。ここでは、住居跡2軒（SB16とSB17）の炉下から出土した燃料材と推測される炭化材2試料と、住居跡（SB14）の石組み遺構付近から出土し、その産状から建築材と推定される炭化材1試料の樹種同定結果を報告する。これらの住居跡は考古遺物から縄文時代中期後半と比定されている。

近接地点の戸入村平遺跡では縄文時代中期の住居跡や土坑などから出土した炭化材と炭化種実の樹種が報告されており（藤根・吉川、1994）、また西谷川の更に上流に位置するいんべ遺跡では縄文時代初期末～前期の焼礫集積遺構の炭化材樹種が同定されている（植田、2000）。揖斐川本流沿いの上原遺跡（藤根・吉川、1998）・山手宮前遺跡（植田、1997）・塚遺跡（植田、1998）・上開田村平遺跡（藤根・吉川、植田・藤根、1999）においても縄文時代の焼礫集積遺構・住居跡・土坑などから出土した炭化材樹種調査の報告例がある。このように当地区では縄文時代にどのような樹種を利用して生活していたのか、当時の遺跡周辺の森林（古植生）と樹種利用との関係などを理解するための資料蓄積がなされつつある。本遺跡の資料は3資料と少ないが、地区全体の様相を明らかにして行く一助となるものである。

2．炭化材樹種同定の方法

炭化材の3方向の破断面（横断面・接線断面・放射断面）の組織を走査電子顕微鏡で観察し行った。作成した3断面の試料を直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗り、充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子㈱製、JSM-T100型）で観察と写真撮影を行った。

３．結果

住居跡炉下から出土した燃料材と推定されるＳＢ17の試料はマツ属複維管束亜属であり、ＳＢ16の試料はクリであった。

ＳＢ14の石組み遺構付近から出土した建築材と推定される複数の炭化材破片は、すべてカエデ属であった。この炭化材破片の一部は接合するものもあり、ほとんどの破片の横断面は径が１～2.5cmで、丸木に近い形状もあり、数えられた年輪数は最多で約40年輪数であった。なお、この試料については放射性炭素年代測定がなされている（別報参照）。

以下に同定の根拠とした材組織観察結果を記載する。

１）マツ属複維管束亜属　Pinus subgen. Diploxylon　マツ科　図版70　１ａ.-１ｃ.（ＳＢ17）

垂直と水平の樹脂道がある針葉樹材。早材から晩材への移行はゆるやかで晩材部の量は多く、垂直樹脂道は主に晩材部に多い。分野壁孔は窓状である。放射仮道管が放射組織の上下端または中間部分に介在してあり、放射仮道管内壁の肥厚の有無と形状は炭化材のため不明瞭であるが有縁壁孔対の部分に突起や角張った肥厚が見られたことから、マツ属複維管束亜属のアカマツまたはクロマツであることが判る。

マツ属複維管束亜属は暖帯から温帯下部に生育し、アカマツは人間活動との関係が深く二次林の主要樹で過去には現在ほど広く分布していなかった。クロマツは海岸部に多く分布する。

２）クリ　Castanea crenata Sieb. et Zucc.　ブナ科　図版70　２ａ.-２ｃ.（ＳＢ16）

年輪の始めに中型の管孔が密接に配列し除々に径を減じ、晩材部では非常に小型の管孔が火炎状に配列し、接線状柔組織が顕著な環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性、道管との壁孔は交互状・柵状でその孔口は大きい。

クリは北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。

３）カエデ属　Acer　カエデ科　図版70　３ａ.-３ｃ.（ＳＢ14）

小型の管孔が単独または２～３個が放射方向に複合して散在し、年輪界は不明瞭、帯状柔組織が顕著な散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔に細いらせん肥厚がある。放射組織は同性、単列と約10細胞幅の幅広のものが多く、道管との壁孔は交互状または対列状に整然と配列しその孔口はやや大きい。

カエデ属は日本全土の暖帯から温帯の山地や谷間に生育する落葉広葉樹林の主要構成樹で、約26種と多くの変種が知られている。

第38表　戸入村平遺跡Ⅱ出土炭化材の樹種同定結果

遺構	時期	樹種	用途	形状
ＳＢ17炉下焼土	縄文時代中期後半	マツ属複維管束亜属	燃料材	放射径0.8cm破片
ＳＢ16炉下	縄文時代中期後半	クリ	燃料材	放射径2.0cm破片
ＳＢ14石組み遺構付近	縄文時代中期後半 14Ｃ測定（ＰＬＤ-468）	カエデ属	建築材	推定直径3.0cm、約40年輪数あり

4．まとめ

本遺跡からは燃料材としてマツ属複維管束亜属とクリが、建築材としてカエデ属が検出された。

本遺跡に隣接する戸入村平遺跡においても縄文時代中期の住居跡4軒と3個のピットそして土坑8基から出土した合計21試料の炭化材同定結果が報告されている（藤根・吉川、1994）。その結果は、クリが圧倒的に多く、ブナ属・ケヤキ・カエデ属・オニグルミ・スギ・コナラ節・ハンノキ節・カバノキ属が少数であった。クリは、本遺跡の住居跡（ＳＢ16）の炉下から出土し、戸入村平遺跡においても住居炉跡や土器敷炉？から検出されていることから、燃料材として利用頻度の高かった樹種であったと考えられる。

本遺跡の（ＳＢ17）炉下焼土から出土したマツ属複維管束亜属は、徳山地区内の縄文時代の遺構からは今までに報告されていない樹種である。マツ属複維管束亜属（アカマツとクロマツが属する）は痩せ地で開けた陽光地に生育し、中世または近世以降になって急速に分布拡大したことが知られている樹種で、縄文時代は分布域が現在ほど広くなかった。徳山地区は旧石器時代から人々の生活の場であったことから、森林の一部を伐採し集落を形成した空間地にマツ属複維管束亜属が生育していたと考えられるが、マツ属複維管束亜属は新しい時代の標徴的な樹種であることも考量しておく必要があろう。

本遺跡の（ＳＢ14）石組み遺構付近出土の建築材と推定されたカエデ属の放射性炭素年代測定値は予想値よりかなり新しい1110±80yrBPであり、後世の炭化材が混入した可能性が指摘された。戸入村平遺跡の住居跡からはケヤキやクリと共にカエデ属が検出されている（藤根・吉川、1994）。本遺跡のカエデ属は新しい年代値であったが、本遺跡でも縄文時代中期にカエデ属が使われていた可能性は充分考えられる。揖斐川本流域の塚遺跡では、縄文時代中期末の住居跡（ＳＢ２）からサクラ属とブナ属が、縄文時代後期前葉の住居跡（ＳＢ４）からはクリとナナカマド属が検出されている（植田、1998）。まだ事例は少ないが、当地区では住居跡からこのように複数種類の落葉広葉樹材が検出されており、クリを含めた様々な樹種が建築材に使用されていた可能性がある。今後も時期の確定できる資料の蓄積がなされ、徳山地区の時代ごとの木材利用の様相が明らかにされる事が期待される。

（引用文献）

藤根　久・吉川純子（1994）戸入村平遺跡出土炭化材の樹種同定および炭化材種実同定、P.314-P.318、図版60-64、「戸入村平遺跡」、財団法人岐阜県文化財保護センター。

藤根　久・吉川純子（1998）上原遺跡出土炭化材樹種同定および種実同定、P.275-P.278、図版166-168、「上原遺跡」、財団法人岐阜県文化財保護センター。

藤根　久・吉川純子（1999）上開田村平遺跡出土炭化材の樹種同定および炭化材種実同定、「上開田村平遺跡」、財団法人岐阜県文化財保護センター。

植田弥生・藤根　久（1999）上開田村平遺跡ＳＩ３出土炭化材の樹種同定および放射性炭素年代測定、「上開田村平遺跡」、財団法人岐阜県文化財保護センター。

植田弥生（1997）炭化材の樹種同定、P.206 - P.214、図版63 - 70、「山手宮前遺跡」、財団法人岐阜県文化財保護センター。

植田弥生（1998）塚遺跡から出土した炭化材の樹種同定について、P.153-P.155、図版115-117「塚遺跡」、財団法人岐阜県文化財保護センター。

吉川純子・藤根　久（1995）岡前遺跡出土の炭化種子および炭化材、P.136-P.137、図版49-50、財団法人岐阜県文化財保護センター。

植田弥生・藤根　久・山形秀樹（2000）いんべ遺跡出土炭化材の樹種同定および放射性炭素年代測定「いんべ遺跡」財団法人岐阜県文化財保護センター

第7章　まとめと考察

戸入村平遺跡は、第一次調査が昭和63年度と平成元年度に行われ、縄文時代中期の住居跡8軒とともに数多くの土器の出土をみた。そして、平成10年度の村道を含む北側の部分の発掘調査により、遺跡の全貌が明らかになった。全体においての出土遺物の総点数は210,576点であるが、そのうち縄文土器片が199,514点、石器が18,333点であった。また、遺構としては縄文時代の住居跡18軒、竪穴状遺構1、埋設土器、土器棺墓、埋甕合わせて19基、配石土坑1基、土坑・ピット類1,960基が検出された。ここでは、平成10年度の調査の成果とともに、前回の調査も含めた戸入村平遺跡全体についてまとめ、考察することにしたい。

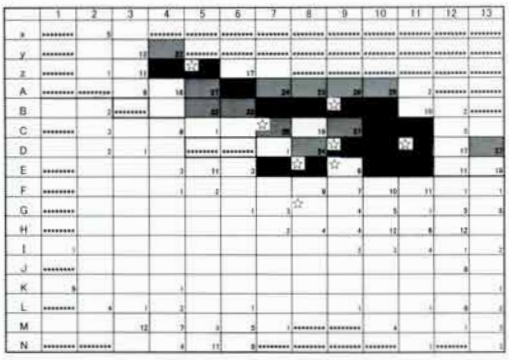
第1節　縄文時代の遺構について

戸入村平遺跡全体における縄文時代の遺構は、中期の住居跡18軒、後期の竪穴状遺構1、中期の埋甕・埋設土器5基、後期の埋設土器・土器棺墓5基、晩期の土器棺墓7基、時期不明2基である。おおまかにみると、中期の遺構は遺跡全体の北側半分を中心として遺物は全体に広がり、後期の遺構は、遺跡の北西部から中央部にかけて多い。また、晩期の遺構として土器棺墓が中央部を西北西から東南東にかけて一列にならび、南側半分に遺物は集中する。

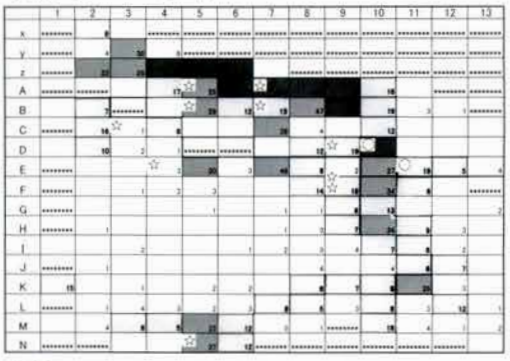
住居跡は、すべて中期の中葉から末にかけてのものである。中葉から後葉にかけての8軒は、第3号（船元II期）－第8号、第17号、第14号（船元III期）－第7号、第13号、第15号（船元IV期）－第12号（里木II期）である。また、後葉から末にかけての10軒は、明確に時期を示すことは難しいが、第5号－第4号－第1号、第10号第11号－第2号、第18号－第9号の順に構築されたものと考えられ、それらと同時期のものとして第6号と第16号が考えられる。いずれにしても、同時に存在したのは2～3軒であり、ムラと言えるような組織だったものはなかったのであろう。また、本遺跡の住居跡において、そのほとんどは住居内に多くのピットが錯綜しており、何度も建て替えられたことが予想される。第13号住居跡を例にとるならば、炉跡以外にも焼土や炉石抜き取り痕がみられたり、周溝の内側に沿って浅く細い周溝跡がみられたりなど、建て替えは明らかである。このように、長い年月の間に消長を繰り返しつつ、その中で住居は何度も建て替えられたり、新たに営まれたりしたものと考えられる。

さて、『戸入村平遺跡』(1994武藤編）の第7章のまとめで、検出された遺構の分布として「住居跡は発掘区の北区に集中する傾向があり、一方、土坑・ピットの配置も調査区中央部の西半分ではやや疎で、その空白部を取り囲むように馬蹄形に濃密に分布する傾向がみられ、住居跡の分布域と重なっているようである。」と書かれている。これは、遺物の分布からも明らかであり、今回の調査を加えると北部にやや遺構は密集するものの、その内容は、ほぼ正しいことが明らかになった。この事実は、縄文時代中期の戸入においては、南向きの日当たりのいい段丘面で、川に向かって2～3軒の住居を営み、長い年月を経てみると住居域は馬蹄形になっていたと言えそうである。第143図は、本遺跡の中期中葉～後葉、中期後葉～末、後期、晩期の遺物の分布図である。これを見ると、中期中葉～後葉は、中央部から北部山際にかけて多く出土しており、遺物の最も多い中期後葉～末は、西部の少ない

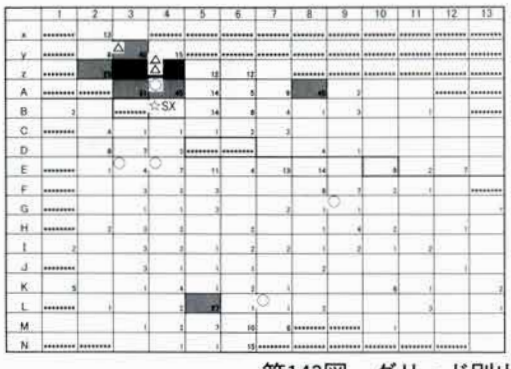
中期（C 1～C 6）



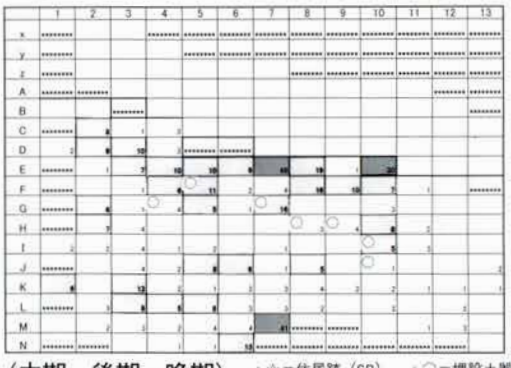
中期（C 7～C11）



後期



晩期

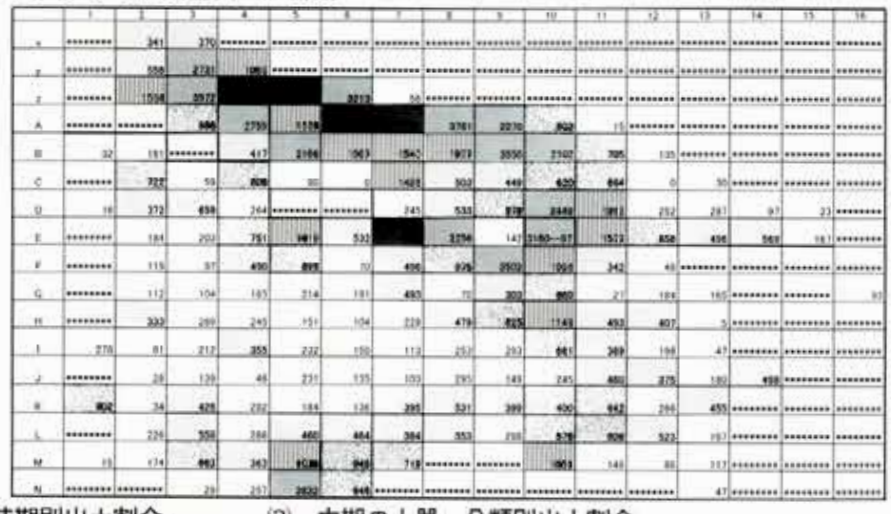


第143図　グリッド別出土土器数（中期・後期・晩期）　・☆＝住居跡（SB）　・○＝埋設土器・土器棺墓（SZ）　・△＝土坑（SK）　・☆SX＝竪穴状遺構（SX）

所を除いて、馬蹄形に分布している。後期は北西部から中央部にかけて多く、晩期は南半分に分散して出土している。これから考えると、はっきり馬蹄形に分布するのは、中期後葉～末の時期であることが予想される。逆に、遺物の少ない方に眼を向けてみるとどうであろう。第144図(1)を見ると、色の塗られていない箇所は縄文時代中期～晩期を通じて遺物の出土が少ないとともに、土坑・ピット等の遺構も目立って少ないエリアである。つまり、この区域は戸入村平の集落にとって、特別なエリアであったということはいえそうである。中期中葉～末にかけての時期は、この特別なエリアを避けて長い年月にわたり住居を建てた結果、馬蹄形に並ぶようにみえる。後期・晩期においては住居区が変化してくると思われるが、やはりこのエリアを避けるように遺構は存在している。

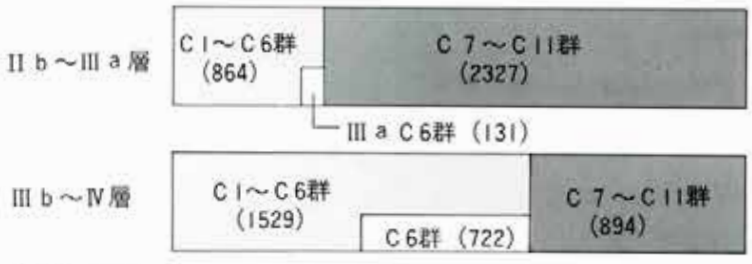
本遺跡で、もう1つ特徴的だったのは、中期の土器の出土パターンである。前回報告書にあるように、そのほとんどが吹上パターンで説明がつく。土器が大きい個体で集中して出土するのは、その多くが、住居跡の覆土中であることから、住居が廃絶された後、その場所にできた窪地に土器が廃棄されたと考えられる。ただ、住居跡の覆土中より出土した土器は、他の箇所から出土した土器片に比べて大きく、割れ口も摩耗が少なく、復原できたものが多いことなどから、廃棄されたまま長い間雨ざらしになっていたとは考えにくい。つまり、廃棄された後何らかの自然条件によりすぐに埋まってしまったか、それとも廃棄した後、早い時期に意識的に土で覆った可能性がある。例えば、第12号住居跡においては、埋甕・床面直上から出土した大きい個体の土器はC 6群（里木II）の土器がほとんどで、覆土から出土した土器はC 9 ～C10群の土器が多かった。この両者の土器出土状況からは、明らかな相違がみられた。C 6群の土器が、この住居が営まれていた時期の土器であり、そして一時期を置いた後廃棄されたものが、覆土から出土したC 9 ～C10群の土器であると考えられる。覆土の土器で復原できたものは5個体あるが、3個体はほぼ完形にちかく、なかには器壁が薄いものもあったが

(1)　グリッド別全出土土器数



(2)　土器の時期別出土割合

(3)　中期の土器・分類別出土割合



第144図　グリッド別出土土器数・時期別出土割合

残りはよかった。また第13号住居跡では、住居跡上部にSK２の土器集中区があり、その下にはほとんど土器の出土しない層があり、やがて住居の床面となる。この場合は、住居廃絶直後には一定期間何もされず、放置されていたと考えられる。

今回の調査による後期の遺構は、調査区西部を中心として検出された。竪穴状遺構（ＳＸ１）、立石をともなう土坑（ＳＫ50、ＳＫ51、ＳＫ102）、後期の土器が集中して出土した土坑（ＳＫ１）埋設土器（ＳＺ04）が、それである。立石をともなう２基の土坑の周辺部には埋設土器と７基の土坑がめぐっており、また、両側から眼窩状に窪んだ立石があるなど、墓地をともなうエリアである可能性が高い。そして、それに接する竪穴状遺構は、後期初頭のものと考えられるが、住居として炉がなく、柱穴も不明確で他の遺構との関連も明確にはできなかった。ただ、今までの徳山地区の発掘調査において、このような後期の遺構の事例は少なく、貴重な資料である。

第２節　縄文時代の土器について

縄文土器片は全体で199,514点出土しており、判別できるもの9,906点（前回調査の出土土器片については、報告されたものだけを含めた）のうちＣ１群～Ｃ６群のものが35.7%、Ｃ７～Ｃ11群のものが44.9%、後期のもの14.2%、晩期のもの5.1%で、それ以外で早期・前期のものが少量出土した。以下、この稿については、今回の調査で出土した土器を中心として述べていくことにする。

早期・前期のものは、ほとんどが前回調査で出土したものであるが、全部含めても十数点が出土したにすぎなかった。川を挟んだ対岸に早・前期を中心とした小の原遺跡があるので、それとの関連が

考えられる。

中期については、土器群を大きく2時期に分けた。前回報告書では、C1～C5群が中期中葉、C6群～C11群が中期後葉というように、2時期に分けられているが、今回の調査における土器の出土状況を考えると、戸入村平遺跡におけるC6群は、前者のグループに入れて考えた方が理解がしやすい。つまり、今回の調査において、第12号住居跡の里木II式期の位置は一考を要するものの、大きく分けると、IIIb層～IV層上面を中心として遺構・遺物ともに多く出土したC1群～C6群の土器、IIb層～IIIa層を中心として出土したC7～C11群の土器というように分けられる。例えば、第144図(3)を見れば明らかな通り、IIb層～IIIa層においては、出土した中期の土器のうち72.9%までが、C7～C11群の土器であり、IIIb層～IV層上面においては、63.1%がC1群～C6群の土器である。またC6群だけに限ってみれば、IIIa層とIIIb層で比較すると、IIIb層はC6群の出土土器全体の84.6%を占めている。よって、ここでは中期中葉・後葉という表現を避け、〈C1群～C6群〉〈C7～C11群〉と大きく2時期に分けて考察を進めていくことにする。

C1群～C6群の土器の多くは、IIIb層～IV層上面付近で多く出土した。遺構にからむものとしては、第17号住居跡の炉付近には船元III式、第13号・第15号住居跡は床面に船元IV式、第12号住居跡は埋甕と床面に里木II式の土器が出土した。これらにより、住居の時期が明確になるとともに、いずれも大きな個体で出土しており、今後の貴重な資料である。また、C2群の土器も特徴的である。貼り付け隆帯を基調とした土器であるが、戸入村平遺跡とともに上原（あげはら）遺跡でも多く出土している。その土器の多くには赤色顔料でかなり濃厚に着色してあり、他の土器とは違う特別な土器であったことが予想される。

C7～C11群の土器は、IIb層～IIIa層において多く出土した。第10号、第11号、第12号住居跡の覆土からは、十数点の土器が完形に近く復原できた。この頃の土器は、文様が縦横に走り口縁部の突起が上部に伸びるものが増えるなど、戸入の土器文化が栄えた時期と考えられる。なかでも、1050、1075、1074、1199、1156と続く土器群は、前回の調査で出土した1589（1994、武藤編）とともに、まわりの文化を吸収して創り上げた戸入ならではのものといえる。

他地域から流入した可能性の高いものは、1400と1484の完形に近い2個体がある。これらは、本遺跡で他に似た土器片は出土していない。1400は、北屋敷式の土器であるが、本遺跡で出土した他の北屋敷式の土器片とも異なり、口縁部から器壁が薄いにもかかわらず完形に近いもので残った。1484は、大杉谷式の土器であるが、胎土が非常に赤く、徳山の土を使ったとは考えにくい。また、これと同じ胎土の土器は、第18号住居跡の炉内部に敷かれたもの以外にないことも、この土器の重要性を際だたせている。

今回の調査で出土した後期の土器は、後期前半のものが中心であった。それも、調査区西部に集中し、他からはほとんど出土しなかった。

第143図にある遺跡全体の土器分布からみてみると、中期のC1群～C6群は中央部から北部にかけて広がり、C7～C11群の土器は、北部の住居跡と重なる部分に集中するものの、中西部を除く全域から出土している。そして、後期は北西部から中央部に偏り、晩期は個体数も減り、南部に分散して出土する。（坂東　肇）

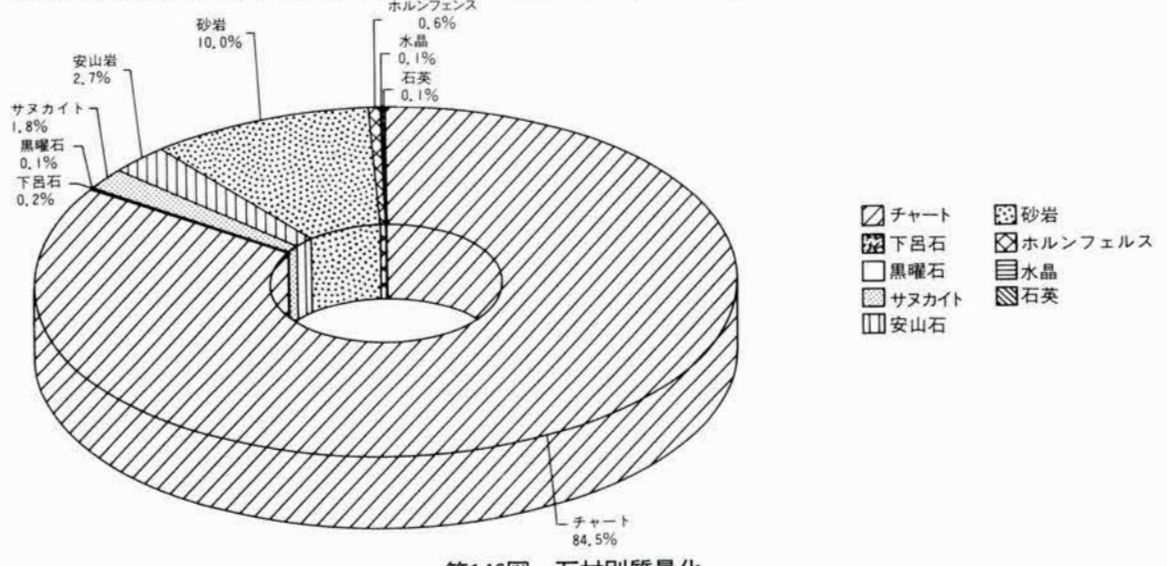
第145図　戸入村平遺跡　遺構配置図（全）

第3節　石器群について

昭和63年度並びに平成元年度の調査において11,384点の石器類が出土しており、今回の調査で出土した6,949点と合わせて、戸入村平遺跡では18,333点の石器類が出土したことになる。出土している器種の内訳、点数による石器組成について、際だった相違点は見られないため、縄文時代中期～後期における戸入村平遺跡の石器組成を考える上での資料が整えられたものと考える。また、それぞれの器種における形態に基づく分類については、戸入村平遺跡報告書において詳細な検討が加えられており、今回の調査結果によってその補完がなされたものと考えたい。

ここでは石器に使用されている石材の面からまとめる。徳山地域の縄文時代の遺跡で出土する石器に使用されている石材については、在地で産し入手が容易であったと考えられるチャートが大半を占めることが以前から指摘されている。この点を具体的に示すために、今回の調査で出土した石器群のうち、打製石器類（石鏃・石錐・石匙・掻器・削器等）並びに石核・二次加工のある剥片・使用痕のある剥片・剥片類合わせて5,422点について、使用されている石材別の質量比を第146図にまとめた。

質量の合計34,198.4gのうち、チャートは84.5%を占めている。石鏃や石錐をはじめ、どの器種にもまんべんなく使用されているだけでなく、石核や剥片類といった石器製作に関わる遺物も多く出土している。同じく在地で産する砂岩や安山岩については、凹石・磨石類や石錘に多く使用されており、打製石器の素材としてはほとんど使用されていない。ここに含まれるものは、打製石斧等の製作に伴う剥片類が大半だと思われるが、砂岩の石核や剥片の用途については、今後の検討を要する。一方、搬入された石材として、わずかではあるがサヌカイト・下呂石・黒曜石がみられる。当遺跡のサヌカイトは奈良県二上山産のものが、黒曜石は長野県霧ヶ峰産のものが主流であるとの科学分析による推定がなされている（1994、藁科）。おそらく交易によるものと思われる搬入経路については興味深いものがあるが、中でもサヌカイトは、石鏃・石錐・石匙・削器といった主要器種に使用されているだけでなく、石核や石器素材になり得る大きさの剥片も出土していることから、我々が考える以上に当時の人々によって必要とされていたものと思われる。また今回の調査では、黒曜石の製品が出土



第146図　石材別質量化

している点も注目される。下呂石については、木曽川の川原から円礫を採取してきたものか、岐阜県下呂町湯ヶ峰の露頭よりもたらされたものなのか興味深い。（青木健太郎）

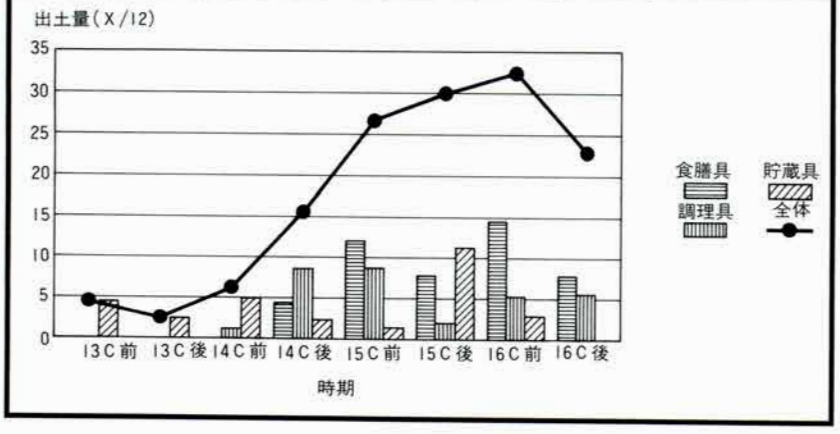
第4節　中世の出土遺物について

本節では今回の調査と昭和63年度～平成元年度の調査から出土した本遺跡の中世の土器・陶磁器について若干の検討を行いたい。なお、個体数の算出では口縁部計測法を用い、12分の0.3以下の破片は0.3に切り上げ、12分の0.4以上の破片は小数点以下第1位まで計測した。また、年代観は既存の研究に従っており、中国磁器や土師器皿は時期の細分が困難であったので除外した。[1)]

表39は時期が50年単位で特定できる食膳具、調理具、貯蔵具の時期別の個体数（棒グラフ）と総個体数（折れ線グラフ）を示した。用途別の出土量では、食膳具は14世紀後半から16世紀後半まで比較的安定してみられ、15世紀前半～16世紀前半に属するものが最も多い。また、13世紀代の食膳具が皆無となっているが、白磁や青磁の碗が出土していることから、伝世を加味しないのであれば13世紀代の食膳具も存在することになるが、いずれにしろその数は極めて少ない。調理具は14世紀後半～16世紀後半まで一定量出土している。調理具のうち越前擂鉢は、同時期の資料であっても法量により口縁形態に差異がみられるとのことであるため、詳細な時期比定が不可能である。しかし、いずれも16世紀代に属することは間違いないため、16世紀の調理具の比率はもう少し増加すると思われる。一方、貯蔵具は13世紀前半～16世紀前半までわずかずつではあるが連続して出

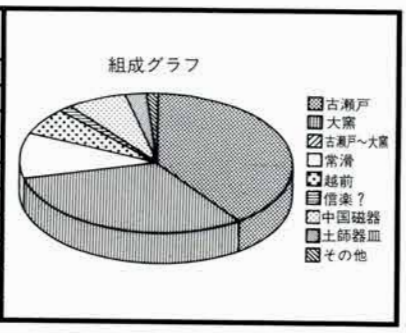
第39表　時期別出土量の推移（中世）

	13C前半	13C後半	14C前半	14C後半	15C前半	15C後半	16C前半	16C後半
食膳具	0	0	0	4.5	12.1	7.9	14.6	7.9
調理具	0	0	1.2	8.8	8.7	1.9	5.4	5.7
貯蔵具	4.6	2.5	5.1	2.3	1.4	11.2	2.9	0
全体	4.6	2.5	6.3	15.6	26.7	29.9	32.4	22.9



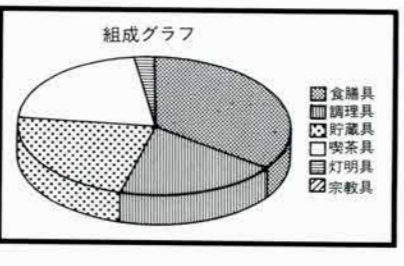
第40表　器種別組成（中世）

器種	口縁残存率 (X/12)	比率(%)	破片数 (接合前)
古瀬戸	66.4	39.4	162
大窯	53.5	31.7	119
古瀬戸～大窯	0	0	131
常滑	17.3	10.3	90
越前	10.7	6.3	57
信楽？	2.2	1.3	4
中国磁器	11.9	7.1	49
土師器皿	4.4	2.6	3
その他	2.3	1.4	440
合計	168.7	100.1	1055



第41表　用途別組成（中世）

用途	口縁残存率 (X/12)	比率(%)	破片数 (接合前)
食膳具	58.9	34.9	85
調理具	32.3	19.1	119
貯蔵具	38.2	22.6	598
喫茶具	34.9	20.7	248
灯明具	4.4	2.6	3
宗教具	0	0	2
合計	168.7	99.9	1055



土している。こうしてみると、食膳具と調理具は14世紀後半以降の出土量が多いのに対し、貯蔵具のみが13世紀前半から連続して出土している結果となった。また、全体の出土量でも食膳具と調理具の出土量の変化傾向と同様に、14世紀後半以後に属する遺物がやや多く15世紀前半～16世紀前半に属する遺物が最も多い。これらから、本遺跡内では14世紀後半以後に陶磁器の供給が増加したといえる。なお、13世紀代の遺物のうち中国磁器を除いて貯蔵具のみが出土しているという事実の理由について、①近隣の集落で伝世していた貯蔵具を14世紀代に移転した、②13世紀代は食膳具、調理具を陶磁器以外のもの（木器、石器、鉄器）で代用していた、などが想定できる。

次に器種別組成（第40表）について考えたい。まず、本遺跡の出土遺物の特徴として山茶碗・小皿が皆無であったことが挙げられる。山茶碗・小皿は東海地方の中世集落を調査すると大半の遺跡で出土する。西濃地域においては中世後期になると山茶碗の流通量が激減することは既に指摘されているとおり[2]であるが、それでも同じ旧徳山の地にある上開田村平遺跡や塚遺跡などでは中世後期の山茶碗・小皿が出土していることから、同一地域内における山茶碗の需要の差が何に起因するのかは興味深い。一方、陶磁器の主体を占めているのは古瀬戸・大窯製品で全体の約70％となり、それらの中では天目茶碗の出土が目立つ。また、中国磁器は口縁残存率の比率では全体の7.1％、破片数全体の比率では4.6％であり、双魚文を有する青磁洗(5)や先の調査で出土した稜花皿などの存在は注目できる。なお、本遺跡では中世の煮炊具は出土しなかった。

次に用途別組成（第41表）について考えたい。第41表では６つの用途｛食膳具（碗・皿・杯など）、調理具（卸皿、卸目付大皿、折縁深皿、柄付片口、擂鉢など）、貯蔵具（壺・甕・瓶・水注など）、喫茶具（天目茶碗・祖母懐壺など）、灯明具（灯明皿）、宗教具（香炉・洗など）｝を設定し、それぞれの組成を図示した。最も多いものは食膳具で全体の34.9％であり、調理具、貯蔵具、喫茶具が20％前後でほぼ同じ比率となっている。一方、灯明具は土師器皿１点のみで、宗教具としたものは古瀬戸の香炉と中国磁器の洗のみであった。調理具のうち最も多い器種は擂鉢と卸皿であり、両者の比率は擂鉢：卸皿＝2.14：1.00である。また貯蔵具では甕が圧倒的に多く、甕の大半は常滑産である。喫茶具は全体に占める比率が20.7％と比較的高く、その理由として大窯期の天目茶碗の量が多いことが挙げられる。なお、古瀬戸の天目茶碗と平碗の比率は天目茶碗：平碗＝1.38：1.00で天目茶碗の方が若干多いが、出土破片数が接合前の数で天目茶碗17点、平碗５点と少ないことを留意すべきである。

なお、以上のことは出土遺物のみを対象としており、旧徳山村の中世遺物は平野部の中世集落から出土する遺物と比較すると単位面積あたりの出土量が極めて少ないことから、陶磁器以外の食器を使用していた可能性を常に念頭に置くべきである。今後は平野部との比較から木製食器などの現在まで遺存していない容器の推定使用量などを想定できるとよいと思われる。（小野木　学）

1）口縁部計測法および各土器の時期設定は以下の文献に従った。また、古瀬戸・大窯は藤澤良祐氏、常滑は中野晴久氏、越前は南洋一郎氏に遺物を実見していただき、御教示をいただいた。
宇野隆夫(1992)「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集。
藤澤良祐(1997)「中世瀬戸窯の動態」『瀬戸市埋蔵文化財センター　研究紀要』第５輯。
藤澤良祐(1986)「瀬戸大窯発掘調査報告書」『瀬戸市歴史民俗資料館　研究紀要Ⅴ』。
中野晴久(1994)「赤羽・中野「生産地における編年について」」『全国シンポジウム「中世常滑焼をおって資料集」』日本福祉大学知多半島総合研究所。
2）鈴木元他「第10節　Ⅲ期の土器」『曽根八千町遺跡』大垣市教育委員会。など

第8章　小谷戸遺跡

第1節　基本層序

本遺跡は、揖斐川支流の西谷川の南、山の緩斜面に位置する。

第一地点は、398m付近でかつて水田に利用されており、東西20m、南北50mを測る。第二地点は、380～385m付近で畑に利用されており、東西40m、南北50mを測る。第一地点はほぼ水平であるが、第二地点はゆるやかな斜面となっている。

調査に伴い、第一地点では東西に2本、南北に1本トレンチを入れ、第二地点では井桁状に東西に2本、南北に3本トレンチを入れ、土層断面を記録した。全体的に安定して同じ様相を示しており、基本的に上層より1層表土・耕作土、II層黒褐色土層、III層黄褐色粘質土・黄褐色砂礫層（流水による堆積物層・地山）に分けられる。

第一、第二地点の土層断面図より代表的な部分を図示した。（第148図）

これにより、それぞれの地点の土層について述べることにする。

〈第一地点〉

Ⅰa層　表土及び水田耕作土がこれにあたる。厚さ10～15cm程度である。

IIa層　黒褐色土層で、縄文時代早期から中期にかけての遺物の包含層である。厚さ15～20cm程度である。

IIb層　黒褐色土層で、角礫や黄褐色土が部分的に混入している。

IIIa′層　水田耕作に伴う敷土で、発掘範囲の北西側1/3あまりにみられる。IIIa層とほぼ同質で、粘質の黄褐色土である。厚さ10～70cm程度である。西部ほど深い。

IIIa層　黄褐色粘質土・黄褐色砂礫層で、部分的に流水による粘質の堆積物がみられ、その他は地山の砂礫層である。

〈第二地点〉

Ⅰb層　表土及び畑作土がこれにあたる。厚さ15～20cm程度である。

IIa層　黒褐色土層で、縄文時代早期から中期にかけての遺物の包含層である。中心部は30～50cmとやや厚いが、南部1/3は、厚さは15～20cm程度である。集石遺構を検出したのは、一番厚い中央部である。

IIIa層　黄褐色粘質土・黄褐色砂礫層で、部分的に流水による粘質の堆積物がみられ、その他は地山の砂礫層である。

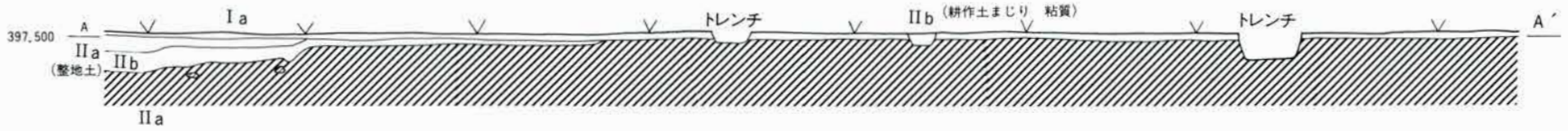
IIIb層　黄褐色砂礫層で、黄褐色土と10～20cm前後の大きな角礫からなる。

第2節　遺構

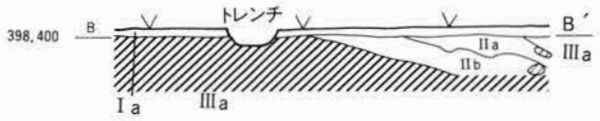
本遺跡の第一地点では、遺物包含層と思われる黒褐色土層が薄く、トレンチ調査と中央部の調査区（T31グリッド付近・5×7m）全体でも、わずかな遺物（土器片6点、フレイク6点）が出土した

第147図　小谷戸遺跡　トレンチ等位置図

第1地点
（長軸トレンチ　東壁）　S＝1/200

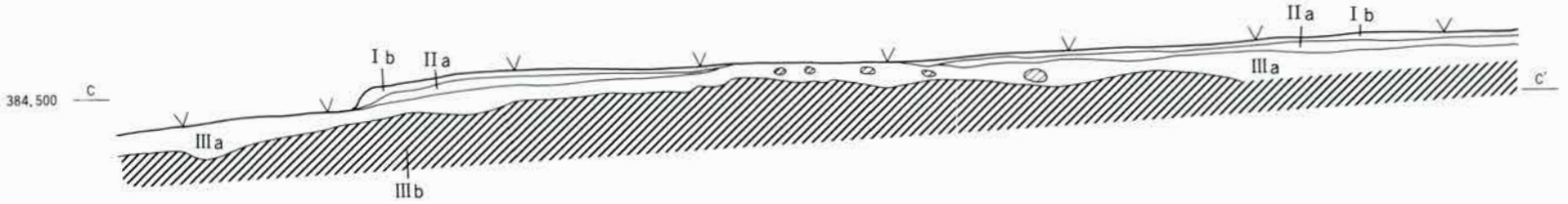


（短軸　南トレンチ　南壁）

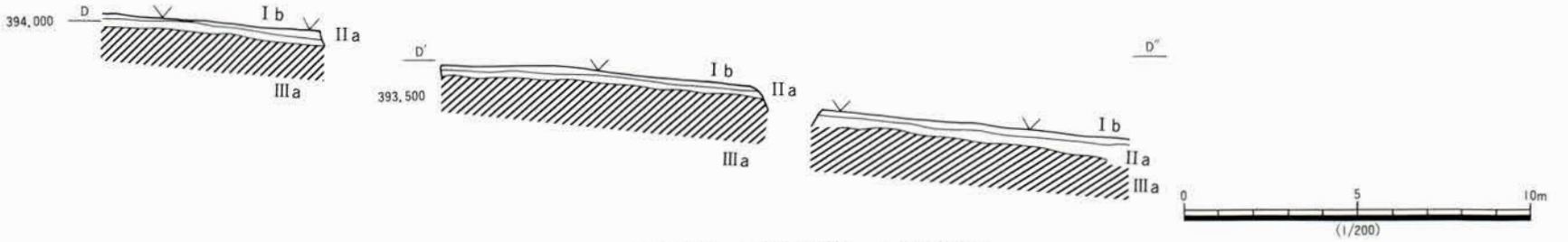


Ⅰa 表土（水田耕作土、粘質）（10YR　2/2）
Ⅰb 表土（畑土）（7.5YR　2/2）
Ⅱa 黒褐色土（7.5YR　2/1）
Ⅱb 黒褐色土（7.5YR　3/1）
Ⅲa 地山黄褐色土（7.5YR　5/8）
Ⅲb 地山黄褐色土角礫まじり（7.5YR　5/8）

第2地点
（東部　長軸トレンチ　東壁）



（南部　東西トレンチ　南壁）



第148図　小谷戸遺跡　土層断面図

のみであった。第二地点では、中央部の黒褐色土層の最も厚い箇所で集石遺構が１基検出された。なお、第二地点はトレンチ調査とともに、集石遺構を中心とする黒褐色土層の厚い10m四方の区域を全面調査したが、その他、ピットや土抗等は検出されなかった。

集石遺構（第149図、図版６）

第二地点のＩ～Ｊ－８グリッドに位置する。II層(黒褐色土層)の下部より検出された。東西70cm、南北80cmの楕円形のプランを呈する。III層の地山直上にあり、掘り込みはわずかに認められる。この集石の周辺５m四方は第二地点の中でも特に黒土層が深く、厚さ50cmにも達していた。集石は、直径５～15cm大の川原石約120個からなり、そのうち約100個は明瞭に火をうけた痕跡があることから、炉跡であろうと考えられる。

集石中には直径0.5mm程度の炭化物が随所にみられたが、焼土はみられず、土器片は検出されなかった。集石の周辺部のＩ～Ｊ－８グリッドを中心に、十数片の縄文土器が検出された。そのほとんどは、山形や楕円の押型文の土器片や繊維痕のみられるものであった。これらのことから、早期の押型文土器を伴う段階のものと想定できる。

第３節　縄文土器

本遺跡の包含層からは、縄文時代の早期と中期の土器が第一地点より37点、第二地点より59点の合計96点が出土している。ほとんどの土器は１～２cm程度の小片で、摩耗のはげしいものが目立ち、時期の判別も難しい。従って、以下では個体が３cm程度のものを中心として報告する。なお分類は、戸入村平遺跡IIの分類（本報告書Ｐ.52～54）に準じた。

〈縄文時代早期の土器〉

Ｓ１群土器（第150図、1820～1822、図版64）

押型文のみられる土器で、山形の押型文を施すものと、楕円の押型文を施すものとがある。1820は口縁部に横位の山形の押型文を施すもので、口縁部はやや外反する。胎土には、細かい砂粒が混じり、焼成は良好でかたい。1821も山形の押型文を施しており、外面に炭化物が付着している。1822は外面にポジティブな楕円文を施しているが、一部は摩耗している。口縁部に近いと予想されるところは、外反しており、内面の外反部分には、かすかに条痕の痕がみられる。

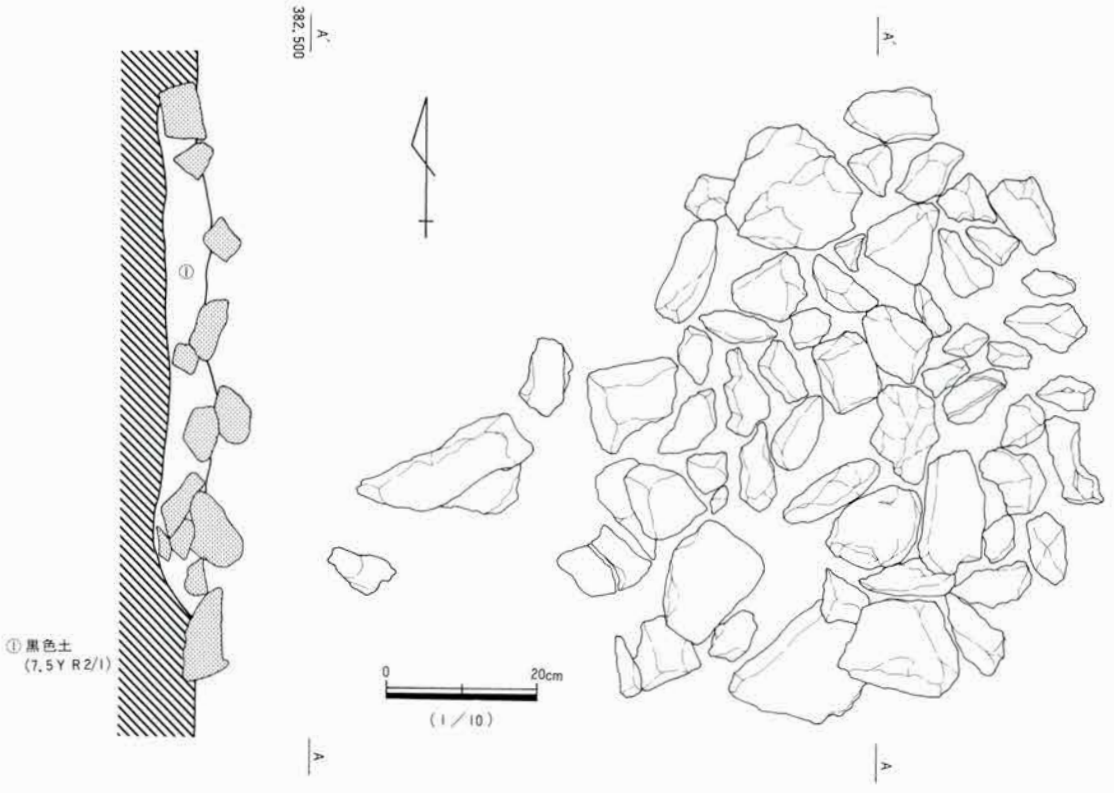
Ｓ２群土器（第150図、1823～1825、図版64）

1823は、表面に炭化物が付着しており、幅0.5mmの深めで細い沈線の間に、棒状の工具による浅い沈線が施されている。1824は、胎土は黒褐色で横位に隆帯とも思える高まりがみられ、その上部にはかすかながら、幅２mm程度の浅い沈線がみられる。1825は無文で、内外ともに炭化物が付着している。いずれも表面あるいは裏面に、繊維痕がみられた。

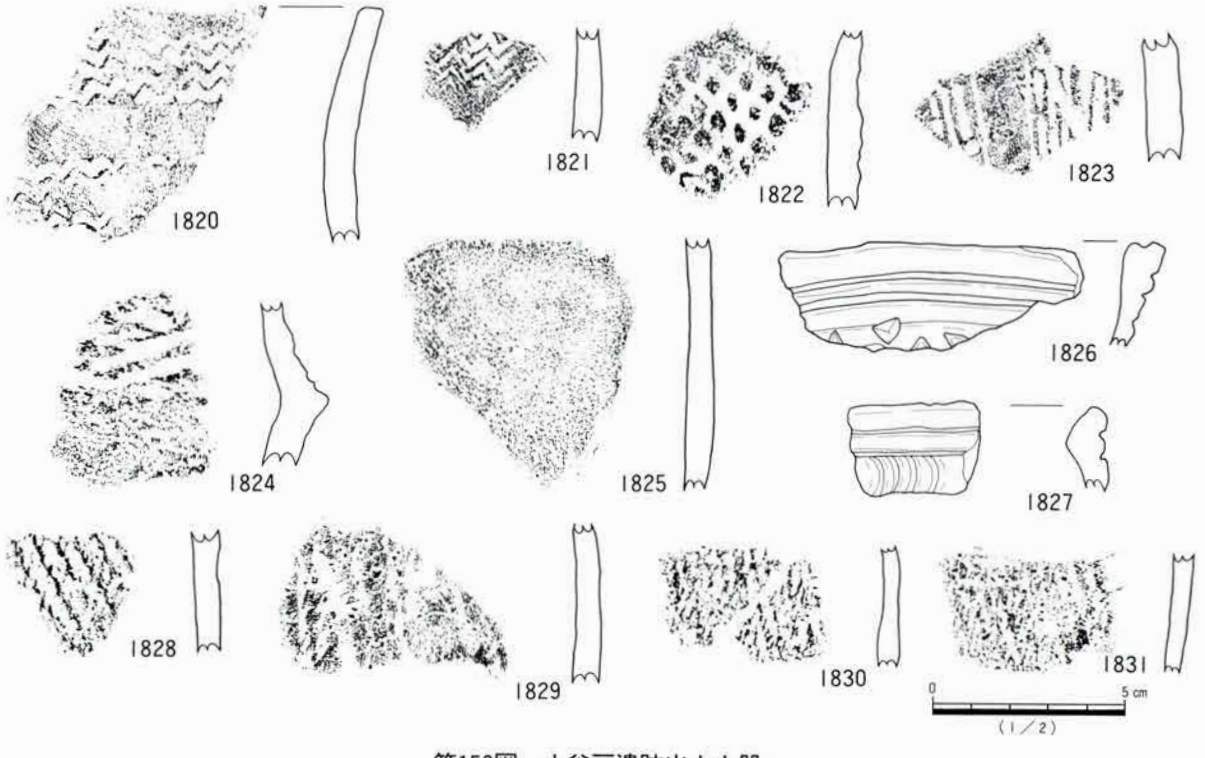
〈縄文時代中期の土器〉

Ｃ３群土器（第150図、1826、1827、図版64）

半截竹管状工具による半隆起線を主文様とするもので、1826、1827はともにＣ類である。1826は口縁部外面に半截竹管による平行沈線を施し、その下部に三角形の陰刻が見られる。また、口縁部上面



第149図　小谷戸遺跡集石遺構



第150図　小谷戸遺跡出土土器

にも沈線を施している。摩耗はしておらず、文様ははっきりしている。1827は口縁部外面に半截竹管の平行沈線がみられ、外反している。また、明瞭とはいえないが、下部には太めの半截竹管状工具による押し引きがみられる。これら2個体は、平成6年度の試掘により、第一地点のＴＰ2から出土し

たものである。この第一地点の上部には、上原（うえはら）遺跡があることなどから、この遺跡との関連が考えられる。

C14群土器（第150図、1828～1831、　図版64）

いずれも、縄文を施された胴部片である。1828は、表面に炭化物が多く付着しているものの、はっきりした縄文が認められる。1829は、地文に縄文を施し、幅3㎜ほどの沈線が1本見られる。しかし、摩耗がはげしく、ともに部分的にかすかに認められる程度である。1830、1831ともに器壁が薄く、表面には細い針状の縄文が施してある。胎土には1㎜ほどの砂粒が多く混入しており、裏面は、水で洗われたように砂粒が浮き出ている。

第4節　石　器

今回の調査において、第1地点、第2地点それぞれの包含層より計90点の石器類が出土した。また平成6年度の試掘調査の際に、テストピットより24点の石器類が出土している。あわせて114点になる。明確な遺構に伴う出土ではなく、各石器の時期的な限定はできなかった。以下に器種ごとに説明する。

石鏃（349～351）3点出土した。石材はすべてチャートである。349は縦割れに折損している。背・腹面ともに側縁部よりわずかに調整が施されている。抉り部は腹面側より調整されている。350は片脚部を折損している。二次調整は、まず背面側を仕上げて後腹面側の調整を行っている。351は調整途中に折損によって放棄された未製品として捉えた。側縁部に両面より調整が加えられている。

石錐（352）1点出土した。石材はチャートである。352は剥片の全体を整形して尖頭部を作り出しているが、片側辺を折損している。機能部には使用によるものと思われる摩耗が認められる。

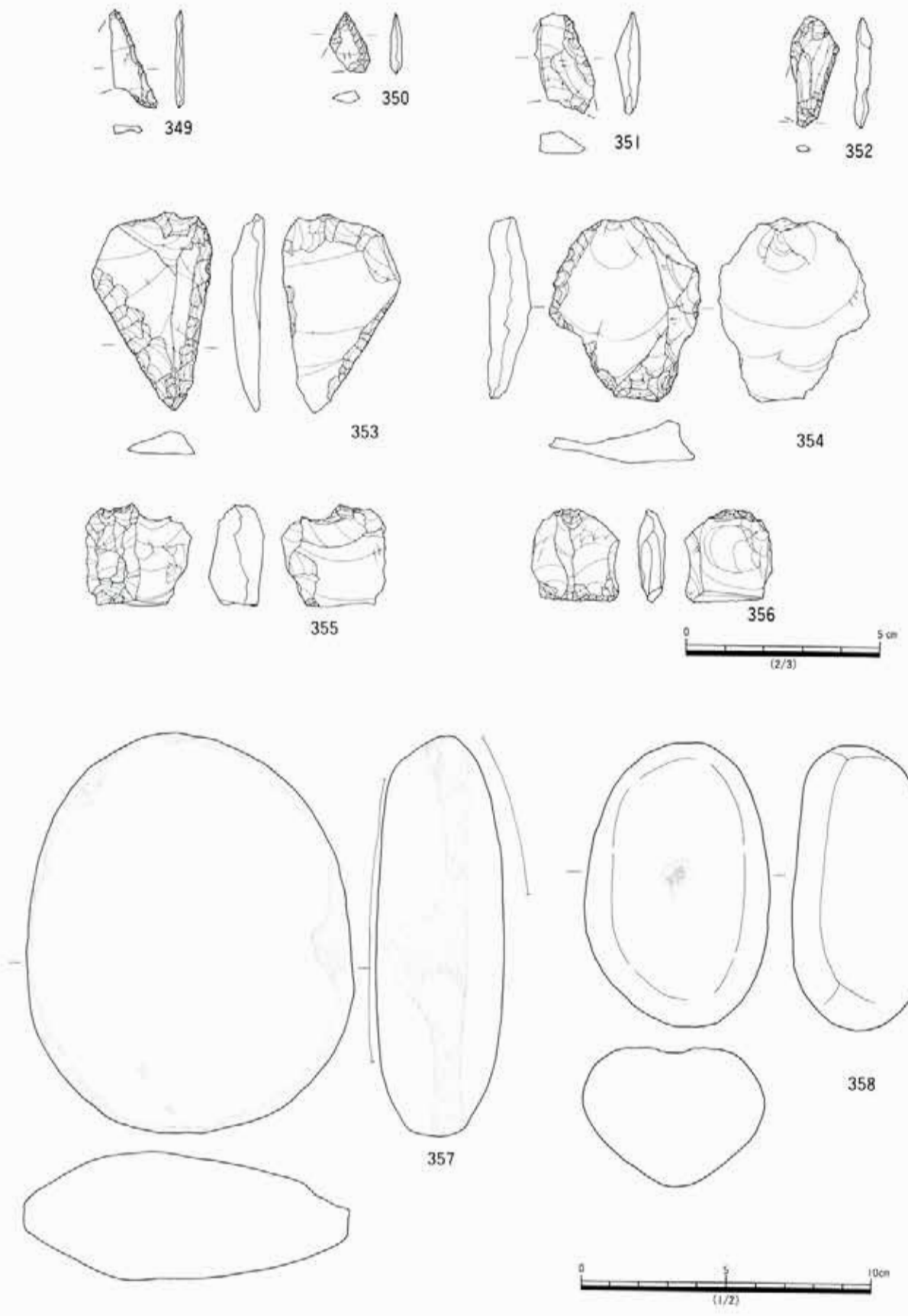
スクレイパー類（353、354）剥片の縁辺部に刃部を作出している石器をスクレイパー類として一括した。5点出土した。石材はすべてチャートである。2点図示した。353は縦長剥片を素材としており、腹面側に主要剥離面を広く残しているが、打点やバルブは二次調整によって失われている。刃部は2ヶ所作出されている。二次調整は主に背面側より加えられている。正面右側縁は急角度に刃部が調整されており、掻器的である。他方正面左側縁の刃部角は緩く削器的である。354は縦長剥片を素材としている。腹面側は主要剥離面をほぼそのまま残しており、打点もみられる。背面側からの調整によって削器的な刃部が1ヶ所作り出されている。

ピエス・エスキーユ（355、356）向かい合った二辺ないしは四辺の縁辺部に、階段状の剥離痕やつぶれが認められる石器をピエス・エスキーユとした。3点出土した。石材はすべてチャートである。2点図示した。355、356はともに正方形の平面形を呈し、一対の剥離痕がみられる。

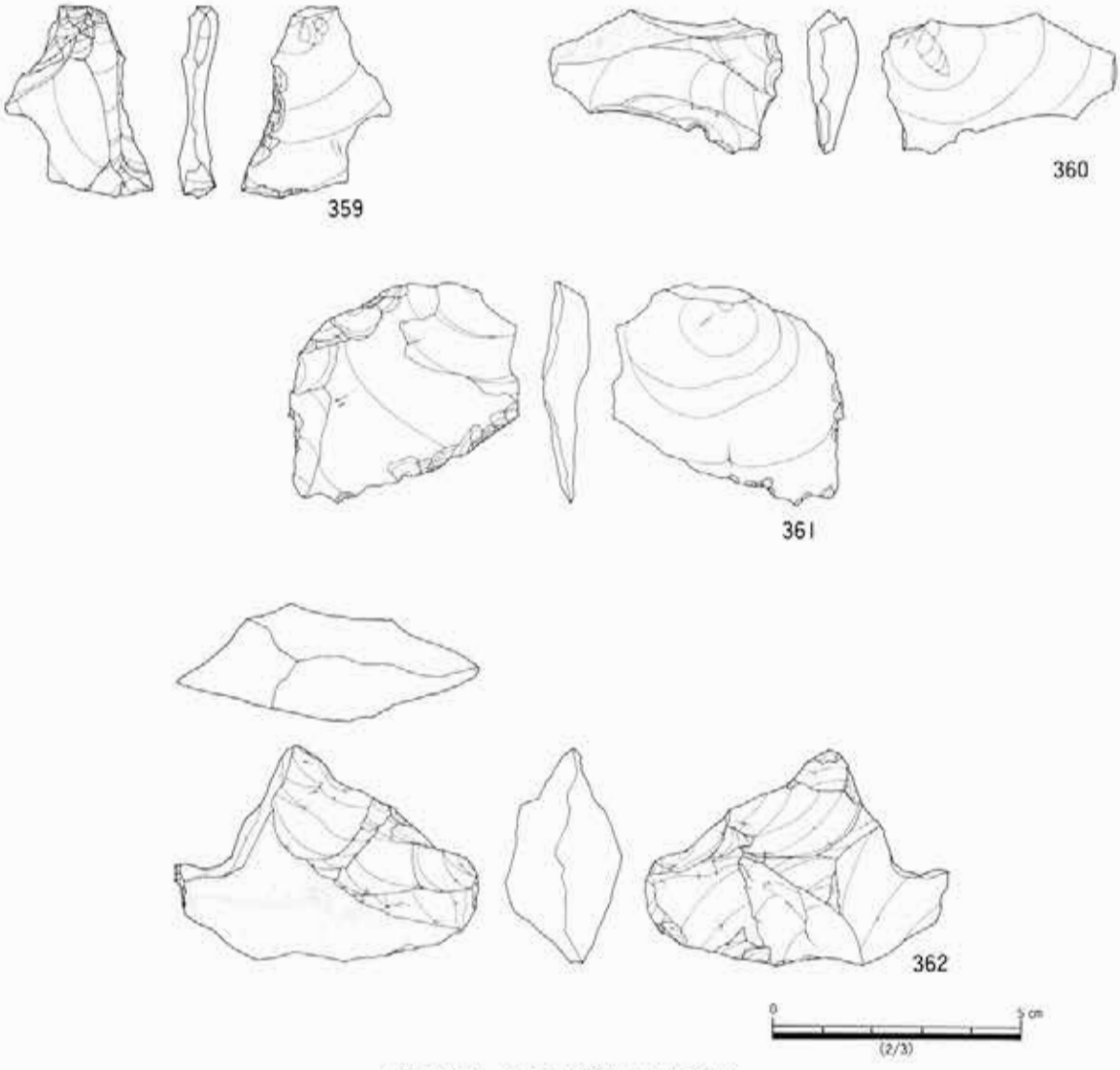
磨石類（357、358）4点出土した。石材は安山岩3点、砂岩1点である。2点図示した。357は扁平な円礫を利用しており、側縁部全周に帯状の敲打痕が認められる。また表裏両面に磨面もみられる。358は細長い楕円礫を利用しており、片面に磨面とともに浅いすり鉢状の凹みが1ヶ所ある。

二次加工のある剥片（ＲＦ）（359、360）10点出土した。石材はすべてチャートである。2点図示した。359は縦長剥片の側縁部に連続する細かい剥離痕が認められる。360は横長剥片に大きめの調整が施されている。

使用痕のある剥片（ＵＦ）（361）7点出土した。石材はすべてチャートである。1点図示した。361は打面、打点を残す縦長剥片の末端部に微細な剥離痕が連続している。



第151図　小谷戸遺跡出土石器(1)



第152図　小谷戸遺跡出土石器(2)

石核（362）２点出土した。石材はすべてチャートである。１点図示した。362は分割礫を素材としている。表裏両面のそれぞれの面を打面とし、反対側の面を作業面として剥離作業を行っている。

剥片・砕片　あわせて78点出土した。石材はチャート75点、泥岩２点、サヌカイト１点である。

第５節　小谷戸遺跡のまとめ

小谷戸遺跡では、第二地点の中央部付近で集石遺構１基が検出された。その他調査区内で、この集石遺構以外の遺構は検出されなかった。

出土遺物は、第一地点は土器37点、石器２点、第二地点は土器59点、石器32点と面積の割には遺物はごくわずかであった。第二地点の集石遺構の周辺部で出土した土器の多くには押型文や繊維痕等、早期の土器の特徴がみられ、集石遺構も早期のものと考えられる。

これらの状況からみて、この付近で長期にわたって生活をしていたとは考えにくく、縄文時代早期において一時的な、あるいは季節による宿営地として機能した場所と考えられる。

第42表　小谷戸遺跡出土縄文土器観察表

NO	グリッド		層位	器種	遺存度	外面調整	内面調整	胎土	焼成	色調(表)	色調(裏)	備考	番号
1	TP1①	敷土上	I	深鉢	胴部片	縄文RL	ナデ	1㎜大の砂粒多い	普通	7.5YR4/1	10YR7/4	試掘資料	1828
2	(T32)	(第一)	I	〃	〃	縄文	ナデか	1㎜大の砂粒多い	もろい	7.5YR6/6	7.5YR4/1	〃	
3	〃	〃	I	〃	〃	縄文	ナデか	1㎜大の砂粒多い	もろい	7.5YR6/6	7.5YR6/6	〃	
4	〃	〃	I	〃	〃	不明	ナデ	細かな砂粒多く含む	もろい	7.5YR7/6	7.5YR5/3	〃	
5	〃	〃	I	〃	底部片	ナデ	ナデか	細かな砂粒多い	普通	7.5YR6/8	7.5YR5/4	〃	
6	〃	〃	I	〃	〃	ナデ	ナデか	細かな砂粒多い	普通	7.5YR6/8	7.5YR5/4	〃	
7	〃	〃	I	〃	胴部片	不明	ナデか	0.5mmの砂粒多い	もろい	7.5YR4/2	7.5YR5/2	〃	
8	〃	〃	I	〃	〃	不明	ナデか	細かな砂粒多い	もろい	7.5YR5/6	7.5YR4/3	〃	
9	〃	〃	I	〃	〃	不明	ナデか	細かな砂粒多い	もろい	7.5YR5/6	7.5YR4/3	〃	
10	TP1②	下15cm内	II	〃	底部片？	ナデ	ナデ	1～2㎜の砂粒含む	普通	7.5YR6/6	7.5YR4/1	〃	
11	〃	〃	II	〃	胴部片	ナデ	ナデ	1㎜大の砂粒含む	普通	7.5YR6/6	7.5YR4/1	〃	
12	TP1③	下20cm下	II	〃	〃	ナデ	ナデ	1㎜大の砂粒多い	もろい	7.5YR5/6	7.5YR5/6	〃	
13	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	1㎜大の砂粒多い	もろい	7.5YR5/6	7.5YR5/6	〃	
14	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	1㎜大の砂粒多い	もろい	7.5YR5/6	7.5YR5/4	〃	
15	TP2	敷土下	II	〃	口縁部片	半截竹管による沈線		0.5㎜の砂粒多い	良好	5YR6/6	7.5YR6/6	〃	1826
16	(P33)	(第一)	II	〃	〃	〃	ナデ	0.5㎜の砂粒多い	普通	7.5YR5/4	7.5YR6/6	〃	1827
17	〃	〃	II	〃	〃	〃	ナデ	0.5㎜の砂粒多い	普通	7.5YR4/6	7.5YR5/6	〃	
18	〃	〃	II	〃	〃	〃	ナデ	0.5㎜の砂粒多い	普通	7.5YR4/6	7.5YR5/8	〃	
19	〃	〃	II	〃	〃	〃	ナデ	0.5㎜の砂粒多い	普通	7.5YR5/6	7.5YR5/6	〃	
20	〃	〃	II	〃	〃	〃	ナデ	0.5㎜の砂粒多い	普通	7.5YR6/6	7.5YR5/6	〃	
21	〃	〃	II	〃	〃	〃	ナデ	0.5㎜の砂粒多い	普通	7.5YR5/6	7.5YR5/4	〃	
22	〃	〃	II	〃	胴部片	縄文	ナデ	0.5㎜の砂粒含む	もろい	7.5YR4/4	7.5YR5/2	〃	
23	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	0.5㎜の砂粒含む	良好	7.5YR5/6	7.5YR5/3	内面に炭化物	
24	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	0.5㎜の砂粒含む	普通	7.5YR4/6	7.5YR6/6	試掘資料	
25	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	0.5㎜の砂粒含む	普通	7.5YR4/6	7.5YR6/6	内面に炭化物	
26	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かな砂粒含む	普通	7.5YR6/6	7.5YR4/6	内面に炭化物	
27	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かな砂粒含む	普通	7.5YR6/6	7.5YR8/4	試掘資料	
28	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かな砂粒多い	普通	7.5YR6/8	7.5YR4/6	〃	
29	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かな砂粒多い	普通	7.5YR6/8	7.5YR5/8	内面に炭化物	
30	〃	〃	II	〃	〃	不明	不明	1㎜の砂粒含む	もろい	7.5YR6/6	7.5YR5/6	試掘資料	
31	〃	〃	II	〃	〃	不明	不明	1㎜の砂粒含む	もろい	7.5YR4/6	7.5YR4/6	〃	
32	TP7	敷土下	II	〃	〃	縄文	ナデ？	1㎜の砂粒多い	もろい	7.5YR4/6	7.5YR4/6	2個体接合	1830
33	(J9)	(第二)	II	〃	〃	ナデ	ナデ	1㎜の砂粒含む	普通	7.5YR6/2	7.5YR7/3	試掘資料	
34	〃	〃	II	〃	〃	不明	ナデ	0.5㎜の砂粒多い	もろい	7.5YR4/6	7.5YR4/2	〃	
35	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒あるが密	良好	7.5YR5/4	7.5YR6/4		
36	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒あるが密	良好	7.5YR5/6	7.5YR6/4	35～38は同一	
37	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒あるが密	良好	7.5YR5/6	7.5YR6/4	〃	
38	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒あるが密	良好	7.5YR5/6	7.5YR6/4	〃	
39	T31	第一	II	〃	不明	ナデ	ナデ	細かい砂粒あるが密	良好	7.5YR6/6	7.5YR4/6	第一地点中央部	
40	〃	〃	II	〃	〃	不明	不明	0.5㎜の砂粒多い	もろい	7.5YR4/6	7.5YR4/6	〃	
41	〃	〃	II	〃	〃	不明	ナデ	0.5㎜の砂粒含む	もろい	7.5YR6/6	7.5YR6/4	〃	
42	〃	〃	II	〃	〃	不明	不明	細かい砂粒あるが密	良好	7.5YR7/3	7.5YR7/4	〃	
43	〃	〃	II	〃	〃	不明	不明	0.5㎜の砂粒多い	もろい	7.5YR5/4	7.5YR4/4	〃	
44	〃	〃	II	〃	〃	不明	不明	0.5㎜の砂粒多い	もろい	7.5YR4/4	7.5YR4/4	〃	
45	J7	第二	II	〃	胴部片	ナデ	ナデ	細かい砂粒あるが密	良好	7.5YR5/3	7.5YR3/3		
46	I8	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	1㎜の砂粒を含む	もろい	7.5YR3/1	7.5YR3/1		
47	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒を含む	普通	7.5YR6/8	7.5YR3/1		
48	〃	〃	II	〃	〃	縄文	ナデ	1㎜の砂粒が多い	良好	7.5YR5/4	7.5YR4/1	2個体接合	1829
49	I9	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	1㎜の砂粒が多い	もろい	7.5YR4/1	7.5YR4/2		
50	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	1㎜の砂粒が多い	もろい	7.5YR7/6	7.5YR5/6		
51	J8	第二	II	〃	〃	押型文	ナデ	細かい砂粒多く密	良好	7.5YR4/2	7.5YR5/4	7×6㎝	1820
52	〃	〃	II	〃	〃	押型文	条線	細かな砂粒多い	普通	7.5YR5/6	7.5YR7/3		1822
53	〃	〃	II	〃	〃	押型文	ナデ	0.5㎜の砂粒多い	普通	7.5YR4/2	7.5YR7/6		1821
54	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かな砂粒多い	普通	7.5YR4/4	7.5YR5/6		
55	〃	〃	II	〃	口縁部？	沈線	ナデ	1～2㎜の砂粒含む	普通	7.5YR3/1	7.5YR4/1		1824
56	〃	〃	II	〃	底部片	ナデ	ナデ	1～2㎜の砂粒含む	普通	7.5YR3/1	7.5YR4/1	55と同一個体か？	
57	〃	〃	II	〃	胴部片	ナデ	ナデ	0.5㎜の砂粒多い	普通	7.5YR5/2	7.5YR4/2		
58	〃	〃	II	〃	〃	ナデか	ナデ	0.5㎜の砂粒多い	普通	7.5YR4/3	7.5YR4/3		
59	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	1㎜の砂粒多い	普通	7.5YR5/6	7.5YR4/3		
60	〃	〃	II	〃	〃	不明	不明	細かな砂粒多い	もろい	7.5YR3/1	7.5YR4/3		
61	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かな砂粒多い	もろい	7.5YR8/3	7.5YR5/4		
62	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	普通	7.5YR5/4	7.5YR3/1		
63	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	良好	7.5YR6/6	7.5YR3/3		
64	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	0.5㎜の砂粒多い	普通	7.5YR6/8	7.5YR5/6		
65	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かい砂粒多く密	良好	7.5YR4/3	7.5YR3/3		
66	J8	第二	II	深鉢	不明	不明	不明	細かな砂粒を含む	普通	7.5YR6/4	7.5YR7/3	小片	
67	〃	〃	II	〃	不明	不明	不明	細かな砂粒を含む	普通	7.5YR5/6	7.5YR5/4	〃	
68	〃	〃	II	〃	不明	不明	不明	細かな砂粒を含む	もろい	7.5YR3/3	7.5YR3/2	〃	
69	〃	〃	II	〃	不明	不明	不明	細かな砂粒を含む	もろい	7.5YR2/2	7.5YR4/2	〃	
70	J8	第二	II	〃	胴部片	沈線	ナデ	0.5㎜の砂粒を含む	普通	7.5YR4/2	7.5YR6/3	繊維痕	1823
71	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	0.5㎜の砂粒を含む	普通	7.5YR6/3	7.5YR4/2	繊維痕	
72	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	0.5㎜の砂粒を含む	普通	7.5YR6/6	7.5YR4/2	繊維痕	
73	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かな砂粒が多く密	良好	7.5YR5/4	7.5YR3/3		
74	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	1㎜の砂粒を含む	普通	7.5YR5/4	7.5YR3/1		
75	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	0.5㎜の砂粒を含む	普通	7.5YR4/2	7.5YR6/3		
76	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かな砂粒が多い	普通	7.5YR6/6	7.5YR4/3		
77	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かな砂粒が多く密	良好	7.5YR5/4	7.5YR4/6		
78	〃	〃	II	〃	不明	不明	不明	細かな砂粒が多く密	良好	7.5YR5/4	7.5YR4/3	小片	
79	〃	〃	II	〃	不明	ナデ	ナデ	細かな砂粒が多く密	良好	7.5YR5/6	7.5YR4/2	〃	
80	〃	〃	II	〃	不明	不明	ナデ	0.5㎜の砂粒を含む	普通	7.5YR4/2	7.5YR3/1	〃	
81	〃	〃	II	〃	不明	不明	不明	0.5㎜の砂粒を含む	普通	7.5YR7/6	7.5YR5/3	〃	
82	〃	〃	II	〃	不明	不明	不明	0.5㎜の砂粒を含む	普通	7.5YR5/3	7.5YR7/3	〃	
83	J9	TP7北隣	II	〃	胴部片	ナデ	ナデ	0.5㎜の砂粒が多い	普通	7.5YR5/3	7.5YR5/4	7×6	1825
84	〃	TP7付近	II	〃	〃	ナデ	ナデ	1㎜の砂粒が多い	普通	7.5YR6/6	7.5YR5/2		
85	〃	〃	II	〃	〃	浅い沈線	ナデ	細かな砂粒多い	普通	7.5YR6/6	7.5YR4/3		
86	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かな砂粒多く密	良好	7.5YR5/4	7.5YR6/4		
87	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	1㎜の砂粒が多い	普通	7.5YR7/2	7.5YR8/3		
88	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かな砂粒多く密	良好	7.5YR5/6	7.5YR4/3		
89	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かな砂粒多い	普通	7.5YR5/6	7.5YR7/2		
90	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	1㎜の砂粒を含む	普通	7.5YR4/3	7.5YR4/3		
91	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かな砂粒多く密	良好	7.5YR4/3	7.5YR5/6		
92	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かな砂粒多く密	良好	7.5YR4/3	7.5YR4/3		
93	〃	〃	II	〃	〃	ナデ	ナデ	細かな砂粒を含む	普通	7.5YR5/4	7.5YR4/4	小片	
94	〃	〃	II	〃	〃	不明	不明	細かな砂粒を含む	普通	7.5YR8/2	7.5YR7/1	〃	
95	〃	〃	II	〃	不明	不明	不明	0.5㎜の砂粒を含む	もろい	7.5YR8/2	7.5YR7/2	〃	
96	〃	〃	II	〃	胴部片	縄文	ナデ	1㎜の砂粒が多い	普通	7.5YR4/6	7.5YR4/3		1831

第43表　小谷戸遺跡出土石器計測表

No.	器種	遺物番号	出土区	層位	石材	mm 長さ	幅	法量 厚さ	g 重量	実測番号
1	石鏃	61	J8	II	チャート	26	12	2	0.5	349
2	石鏃	86	S30	II	チャート	15	11	3	0.5	350
3	石鏃	4	I8	II	チャート	26	15	6	2.3	351
4	石鏃	72	J8	II	チャート	29	12	4	1.5	352
5	スクレイパー類	1	I8	II	チャート	52	31	8	12.9	353
6	スクレイパー類	114	I8	II	チャート	46	39	11	15.2	354
7	スクレイパー類	28	I9	II	チャート	42	41	11	14.1	
8	スクレイパー類	58	J8	II	チャート	77	44	23	72.4	
9	スクレイパー類	76	J8	II	チャート	81	57	18	84.3	
10	スクレイパー類	112	TP10	—	チャート	27	27	12	6.2	
11	ピエス・エスキーユ	78	J8	II	チャート	38	32	21	24.7	
12	ピエス・エスキーユ	89	J10	II	チャート	25	27	14	11.3	355
13	ピエス・エスキーユ	100	TP7	50cm下	安山岩	24	23	7	5	356
14	扁・敲石	62	J8	II	安山岩	137	113	45	1135	357
15	扁石	63	J8	II	砂岩	77	69	33	227.1	
16	扁石	87	J9	II	安山岩	53	49	32	105.5	
17	扁・凹石	88	J10	II	チャート	88	64	49	396.9	358
18	R F	7	I8	II	チャート	16	25	4	1.7	
19	R F	27	I9	II	チャート	39	30	8	6.2	359
20	R F	59	J8	II	チャート	72	25	12	22.2	
21	R F	64	J8	II	チャート	18	25	5	1.6	
22	R F	90	TP1	—	チャート	24	12	7	1.8	
23	R F	93	TP6	50cm下	チャート	29	47	10	11.1	360
24	R F	92	TP2	50cm下	チャート	39	32	18	19.5	
25	R F	99	TP7	50cm下	チャート	28	26	7	3.2	
26	R F	103	TP7	50cm下	チャート	25	13	4	0.1	
27	R F	109	TP9	—	チャート	23	13	2	0.8	
28	U F	8	I8	II	チャート	22	30	4	3.3	
29	U F	45	J8	II	チャート	57	50	18	52.9	
30	U F	46	J8	II	チャート	31	47	10	14.7	
31	U F	47	J8	II	チャート	36	28	16	12.3	
32	U F	60	J8	II	チャート	45	47	9	13.8	361
33	U F	66	J8	II	チャート	36	24	9	6.1	
34	U F	67	J8	II	チャート	32	19	6	4.2	

土器観察表・石器計測表　凡例

1．土器観察表・石器計測表について、基本的には戸入村平遺跡のものと同様とした。

2．土器については、1㎝以下の小片に至るまで、すべての土器片をあげた。

3．土器観察表の「焼成」において、**もろい**というのは、摩擦がはげしいためもろくなっており、焼成の推定ができないものをあげた。

4．石器の層位の「深さ50cm」は、集石遺構の検出面とほぼ同じレベルである。

引用・参考文献（五十音順）

浅井町役場企画広報課（1998）『醍醐遺跡』

泉拓良（1988）「船元・里木式土器様式」「咲畑・醍醐式土器様式」『縄文土器大観３　中期II』

和泉村教育委員会（1978）『後野遺跡』

磯部幸男・久永春男他（1960）『咲畑貝塚』

伊吹町教育委員会（1998）『起し又遺跡発掘調査報告書II』

大野市教育委員会（1985）『右近次郎遺跡II』

各務原市教育委員会（1973）『炉畑遺跡発掘調査報告書』

春日井恒（1996）「東海地方縄文中期における中富式土器群の問題」『美濃の考古学』創刊号

勝山市教育委員会（1982）『三室遺跡調査概要』

狩野睦（1988）「串田新・大杉谷式土器様式」『縄文土器大観３　中期II』

木下哲夫（1985）「大杉谷式小考」『古代探叢』II早稲田大学出版部

岐阜県（1972）『岐阜県史　通史編原始』

岐阜県教育委員会（1984）『揖斐川上流域徳山ダム・杉原ダム水没地区埋蔵文化財分布調査報告書』

岐阜県教育委員会（1989）『はいづめ遺跡』

岐阜県教育委員会（1991）『小の原遺跡・戸入障子暮遺跡』

㈶岐阜県文化財保護センター（1993）『追分遺跡・下開田村平遺跡』

㈶岐阜県文化財保護センター（1994）『戸入村平遺跡』

㈶岐阜県文化財保護センター（1994）『長吉遺跡・普賢寺跡』

㈶岐阜県文化財保護センター（1995）『西乙原遺跡・勝更白山神社周辺遺跡』

㈶岐阜県文化財保護センター（1997）『小関御祭田遺跡』

㈶岐阜県文化財保護センター（1997）『山手宮前遺跡』

㈶岐阜県文化財保護センター（1998）『塚遺跡』

㈶岐阜県文化財保護センター（1999）『上開田村平遺跡』

㈶岐阜県文化財保護センター（1999）『上原遺跡Ⅰ』

京都大学文学部博物館（1991）『先史時代の北白川』

小島俊彰（1988）「上山田・天神山式土器様式」『縄文土器大観３　中期II』

小林謙一（1996）「竪穴住居跡のライフサイクルからみた住居廃絶時の状況」『すまいの考古学』山梨県考古学協会

小林謙一（1999）「いわゆる「火災住居」跡の調査と解釈」（考古学ジャーナル７月号）

小林達雄・小川忠博（1988）『縄文土器大観３　中期II』

小林達雄（1994）『縄文土器の研究』

小林達雄（1999）『縄文人の文化力』

佐々木嘉直（1988）「岩手県内出土の石製円盤・土製円盤について」『紀要Ⅷ』㈶岩手県文化振興事業団・埋蔵文化財センター

佐原真（1981）「特論一縄文施文法入門」『縄文土器大成３　後期』

塩尻市教育委員会（1987）『平出遺跡』
鈴木保彦・山本暉久（1988）「加曽利E式土器様式」『縄文土器大観３　中期II』
瀬口眞司（1996）「大津市粟津湖底遺跡出土の鐘」『紀要』第９号㈶滋賀県文化財保護協会
玉田芳英（1988）「中津・福田KII式土器様式」『縄文土器大観４　後期・晩期・続縄文』
第５回東海考古学フォーラム・静岡県考古学シンポジウム（1997）『縄文時代中期前半の東海系土器群』
知多古文化研究会編（1997）『南知多町の考古資料』
徳山村史編集委員会（1973）『徳山村史』
戸沢充則編（1994）『縄文時代研究事典』
中津川市教育委員会（1979）『中村遺跡　第１～２次発掘調査報告書』
長野県（1983）『長野県史』（考古資料編主要遺跡中・南信）
長野県教育委員会（1972）『47長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』下伊那群高森町地内２
間壁忠彦・間壁葭子（1971）「里木貝塚」『倉敷考古館研究集報』第７号
福井県教育委員会（1977）『上平吹遺跡』
袋井市教育委員会（1984）『長者平遺跡』
古川町教育委員会（1993）『中野山越遺跡発掘調査報告書』
間壁忠彦（1988）「船元・里木式土器様式」『縄文土器大観３　中期II』
増子康真（1978）「縄文中期後半土器の編年一東海地方西部地域一」『古代人』34
増子康真（1998）「東海地方西部地域の縄文中期後半土器編年再考」『古代人』59
南久和（1997）「葉脈状文」『古代』第103号　早稲田大学考古学会
渡辺誠（1984）『縄文時代の漁業』

図　　版

戸入村平遺跡Ⅱ全景（北上空より）

戸入村平遺跡II調査前風景（東より）

作業風景（東西より）

第９号住居跡全景（南東より）

第９号住居跡・石囲炉（南より）

第10号住居跡・炉付近（南より）

第10号住居跡・石囲炉（南東より）

第10号住居跡内土器集中区（ＳＫ③）（北東より）

第10号住居跡内土器集中区（ＳＫ④）（南西より）

図版 2

第11号住居跡北半分（南より）

第11号住居跡・石囲炉（南西より）

第11号住居跡南部土器集中区（ＳＫ⑧）（南より）

第11号住居跡北西部土器集中区（ＳＫ⑥）（南東より）

第12号住居跡全景（北より）

第12号住居跡北部土器集中区（ＳＫ①）（東より）

第12号住居跡・埋甕（西より）

第12号住居跡東部土器集中区（ＳＫ②）（南より）

ＳＫ１（東より）

ＳＫ２（南より）

第13号住居跡全景（北より）

第13号住居跡・石囲炉（西より）

第14号住居跡（南より）

第14号住居跡・石組み遺構（西より）

第15号住居跡（北より）

第15号住居跡・土器集中区（西より）

図版 4

第16号住居跡（南より）

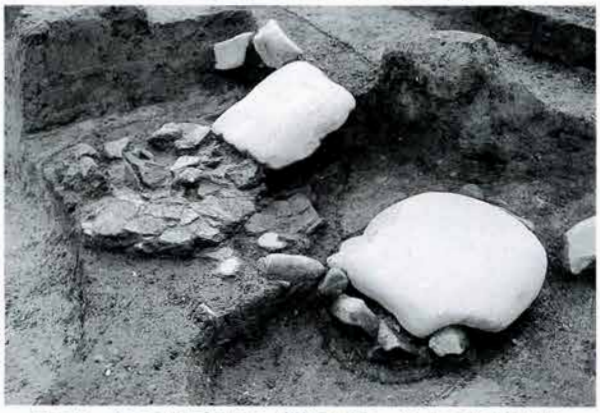
第16号住居跡・石囲炉（西より）

第17号・第18号住居跡付近（南より）

第17号住居跡・埋甕（南より）

第17号住居跡・炉付近（北より）

第18号住居跡・石囲炉（東より）



第17号・第18号住居跡付近土器集中区A（SK199）（東より）

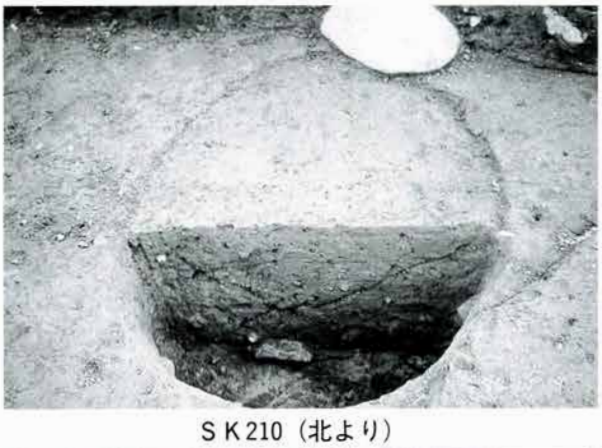
第17号・第18号住居跡付近土器集中区B（K25）（南より）

竪穴状遺構（S×1）(北上空より)

SK200（北より）

SK207（南より）

SK 3（南より）



SK210（北より）

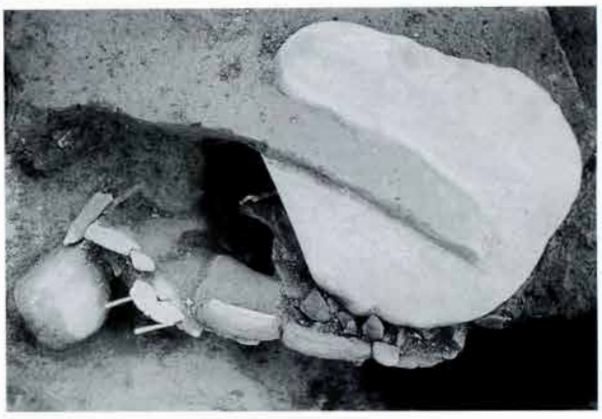
SK156（東より）

SK50（北より）

SK51（南より）

図版 6

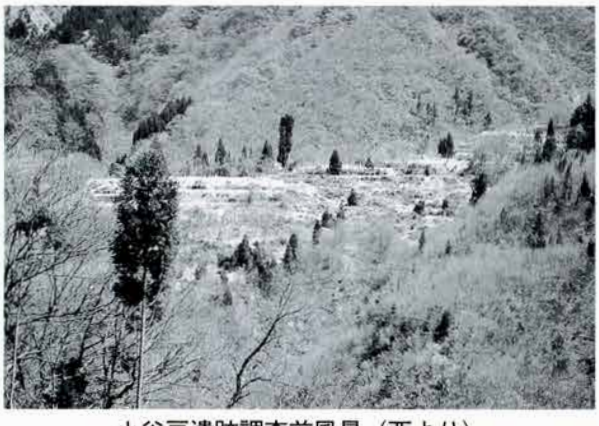
埋設土器（SZ03）（西より）



埋設土器（SZ05）

埋設土器（SZ04）（西より）

SZ04付近の立石（北より）



小谷戸遺跡調査前風景（西より）

小谷戸遺跡・第一地点（南東より）

小谷戸遺跡・集石遺構（北より）

小谷戸遺跡・第二地点（南より）

1050
（上部より）

1050

1061

1077

1038

1090

1073

1092

第10号・第11号・第12号住居跡出土土器

図版 8

1074
（上部より）

1140

1156

1074

1145

1199

1155

1098

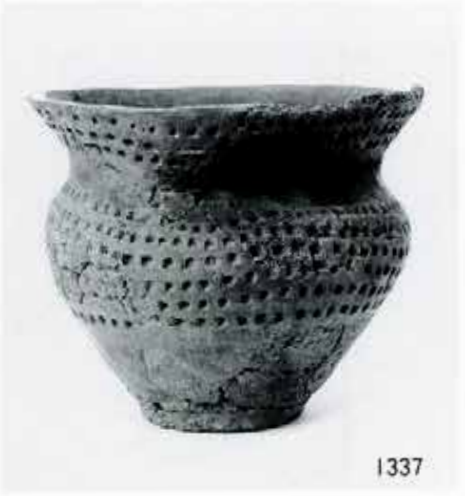
1280

1138

1282

1281

第11号・第12号・第14号・第15号住居跡出土土器


1337

1336

1275

1400

1398

1397

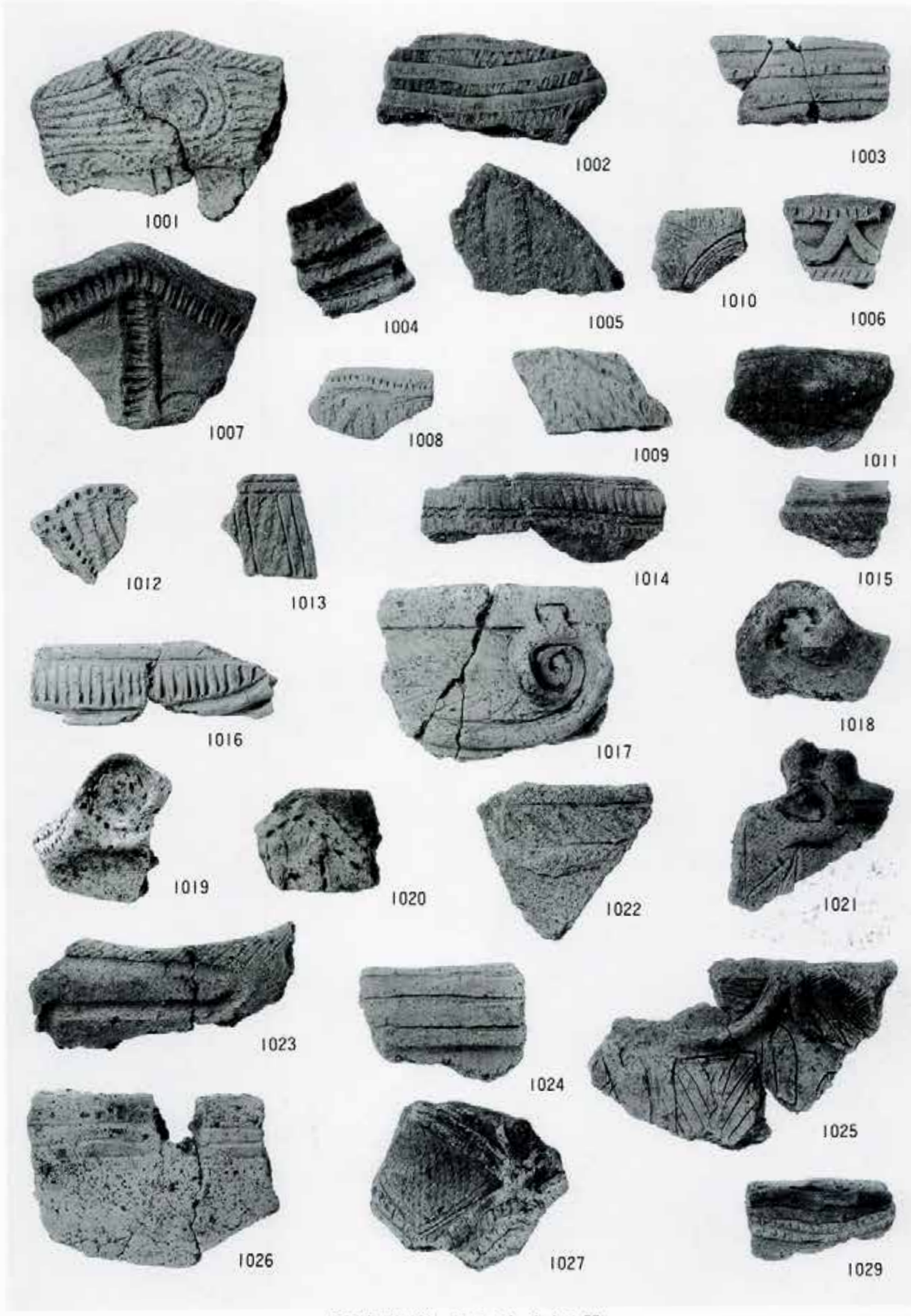
1399

1483

第17号・第18号住居跡・SZ04出土土器

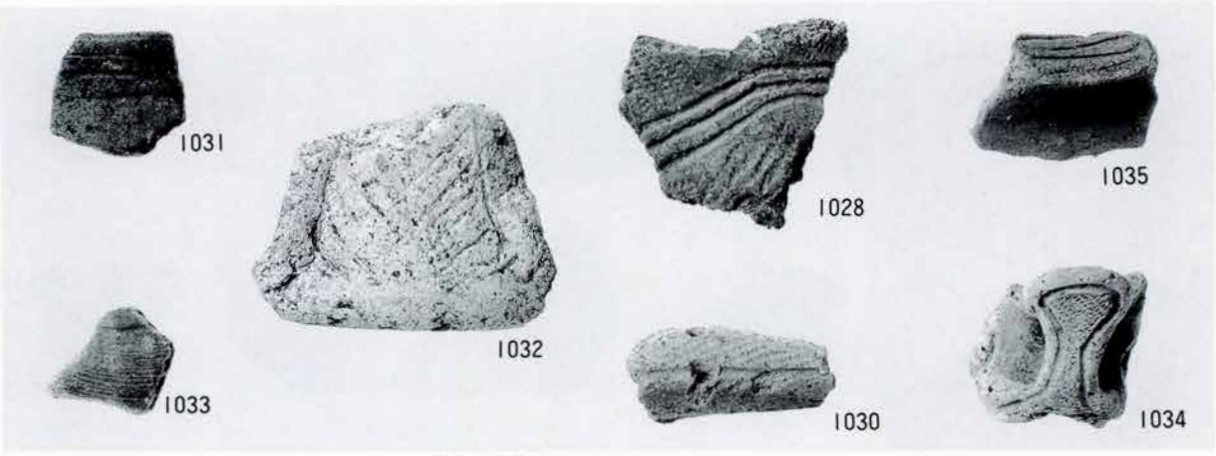
図版10

SZ03、SZ04、SZ05出土土器・底部

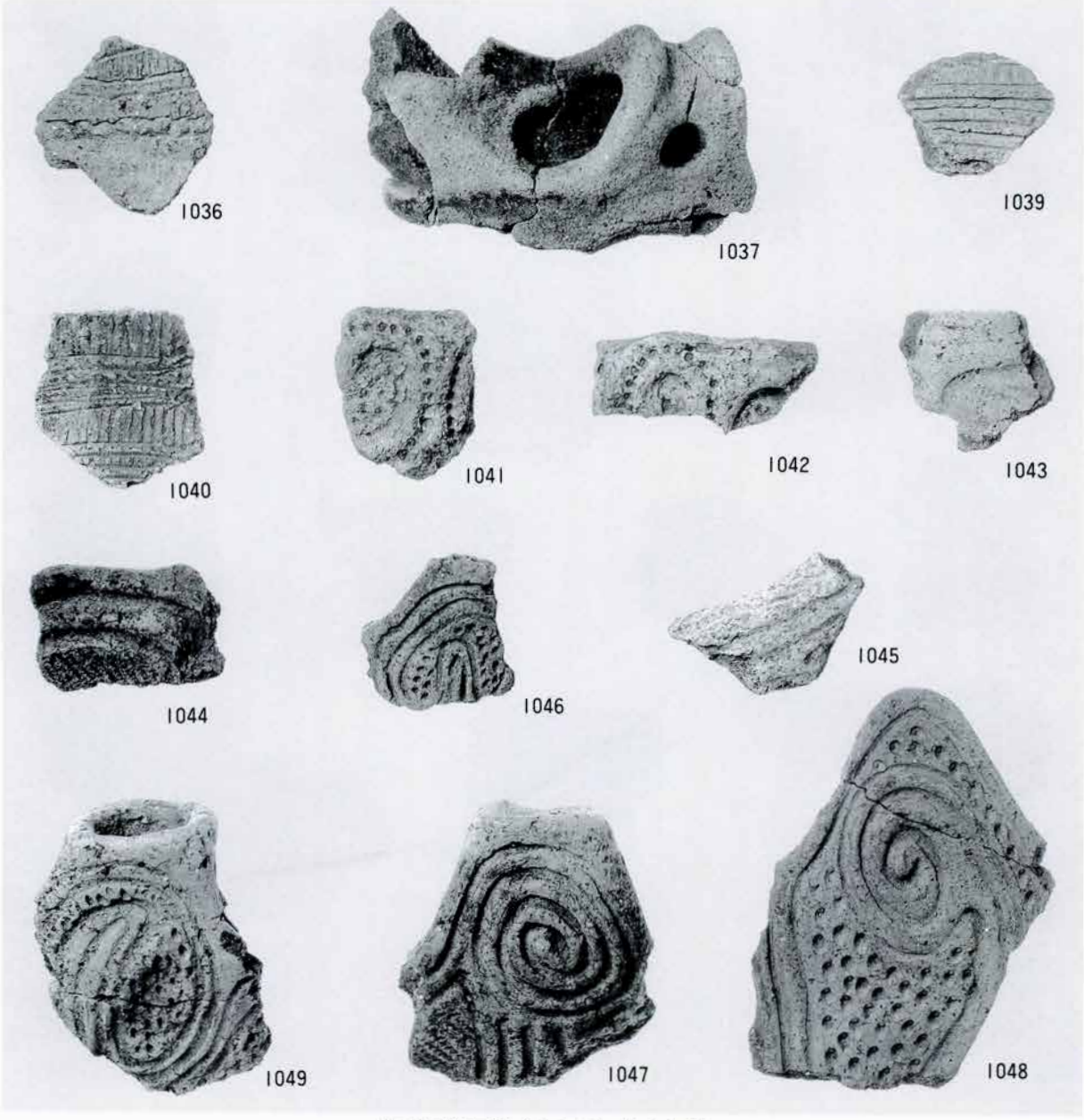


第９号住居跡（ＳＢ９）出土土器

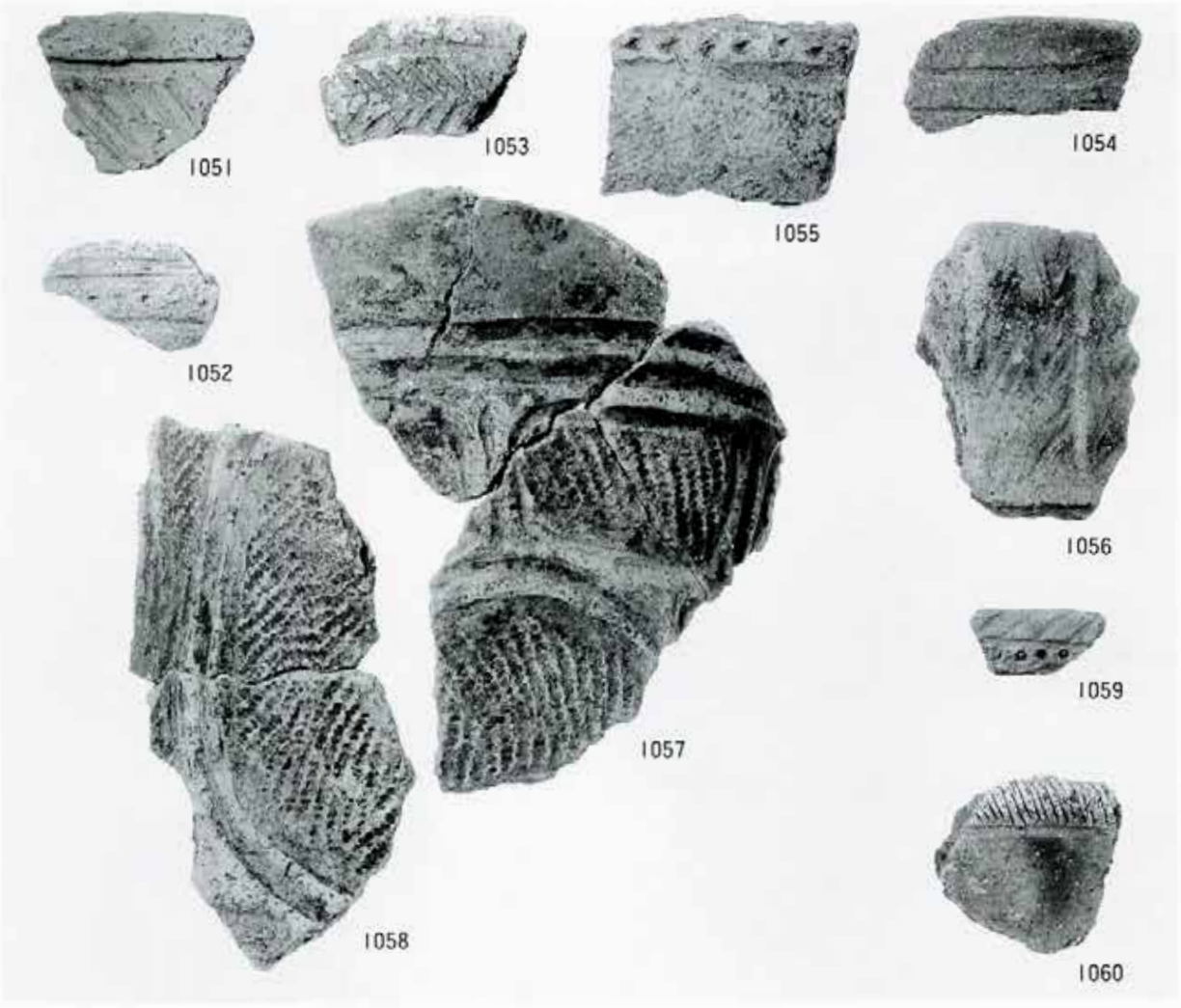
図版12



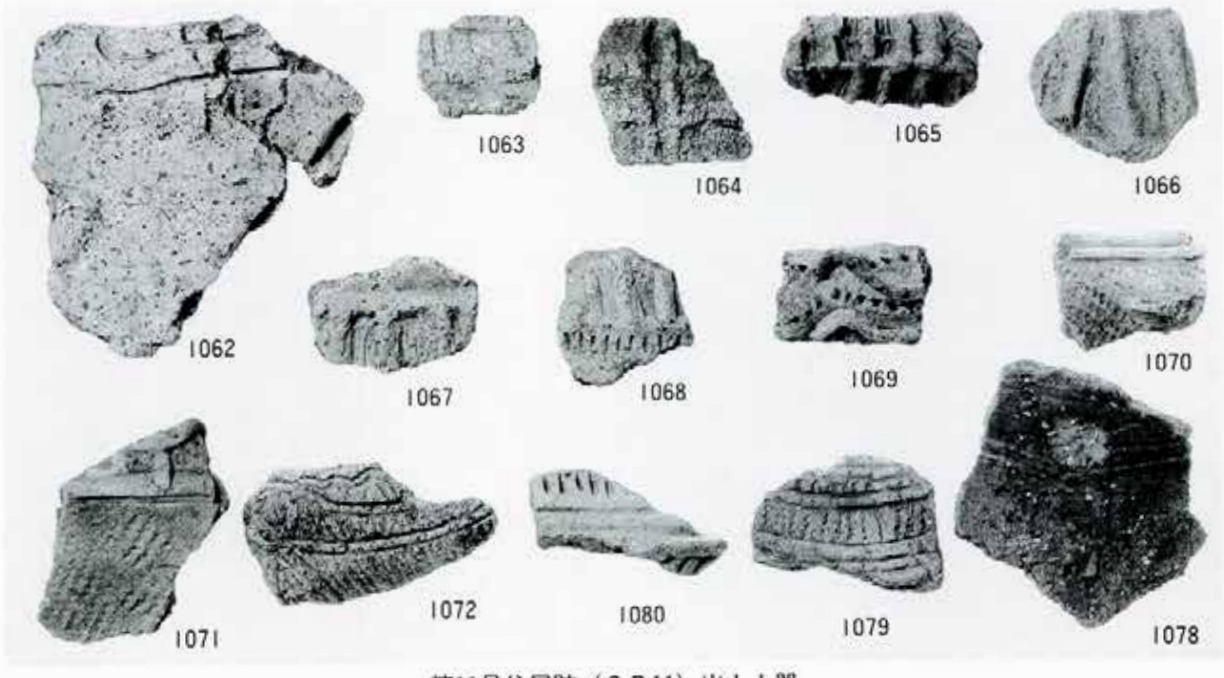
第9号住居跡（ＳＢ９）出土土器



第10号住居跡（ＳＢ10）出土土器

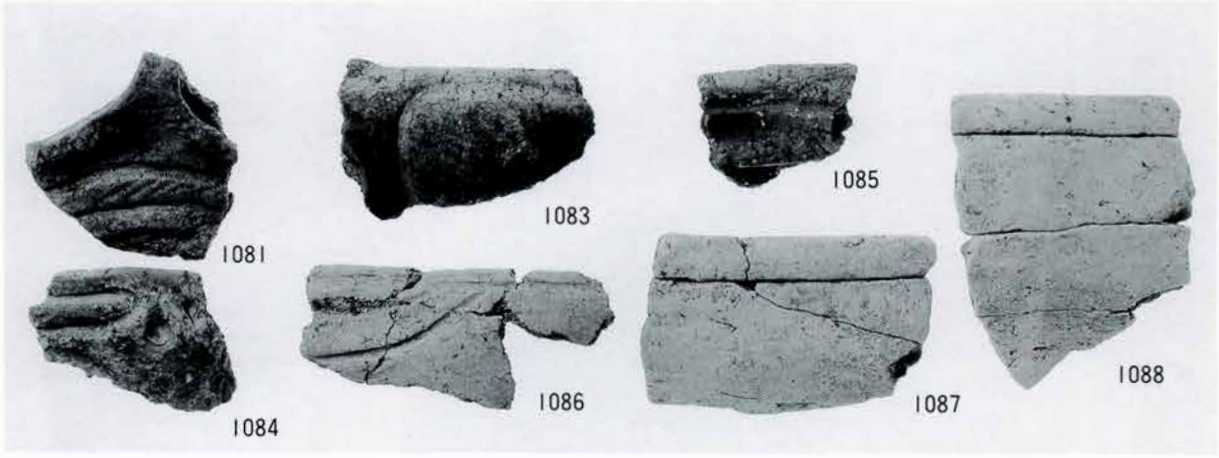


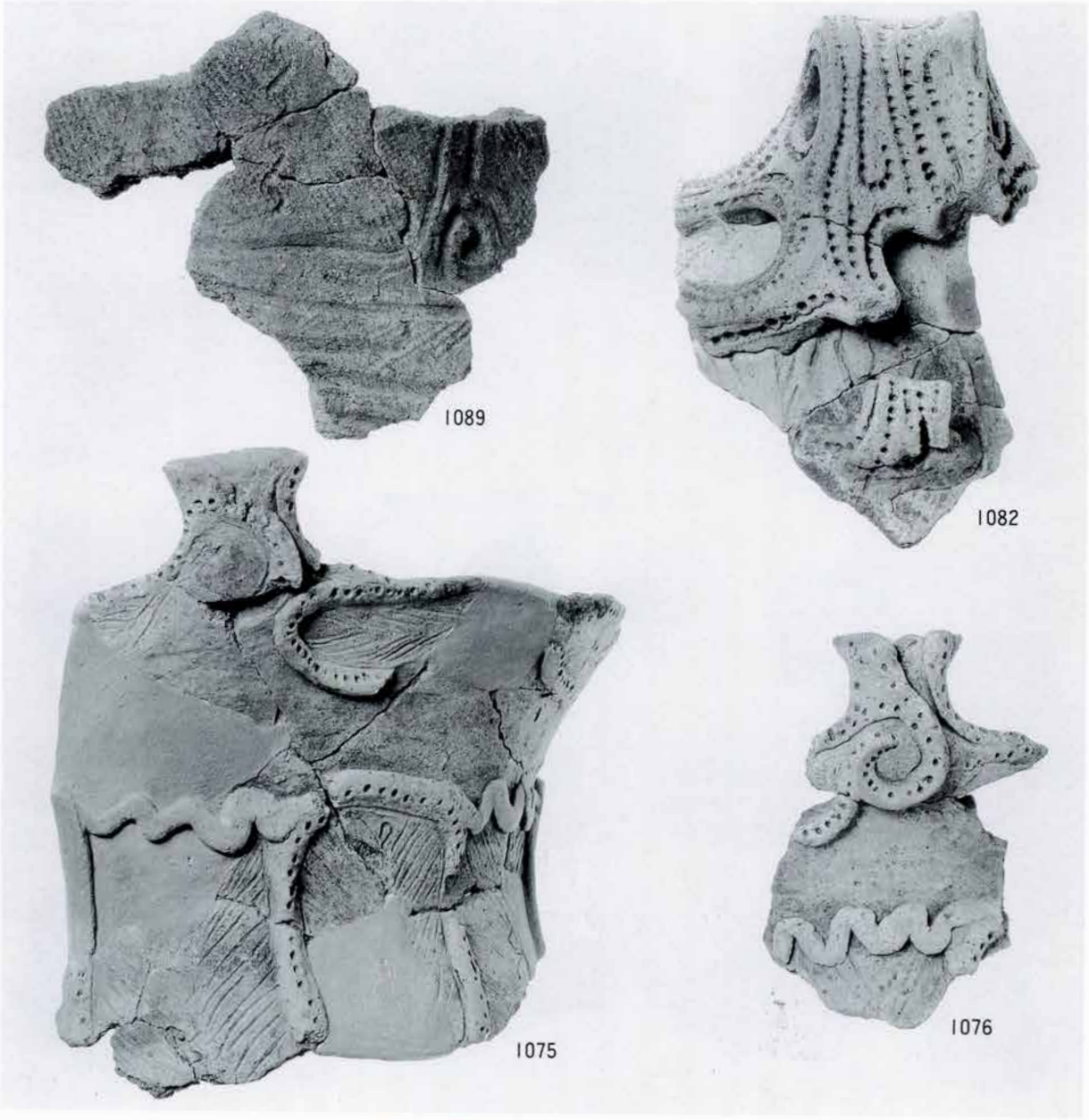
第10号住居跡（ＳＢ10）出土土器



第11号住居跡（ＳＢ11）出土土器

図版14





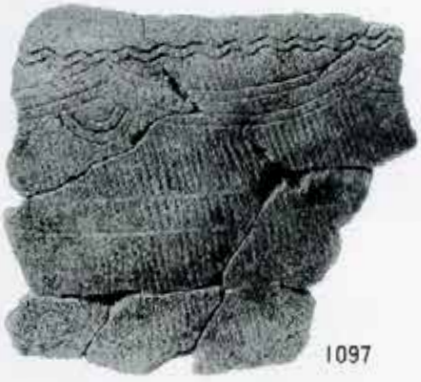
第11号住居跡（ＳＢ11）出土土器

1093

1094

1096

1095

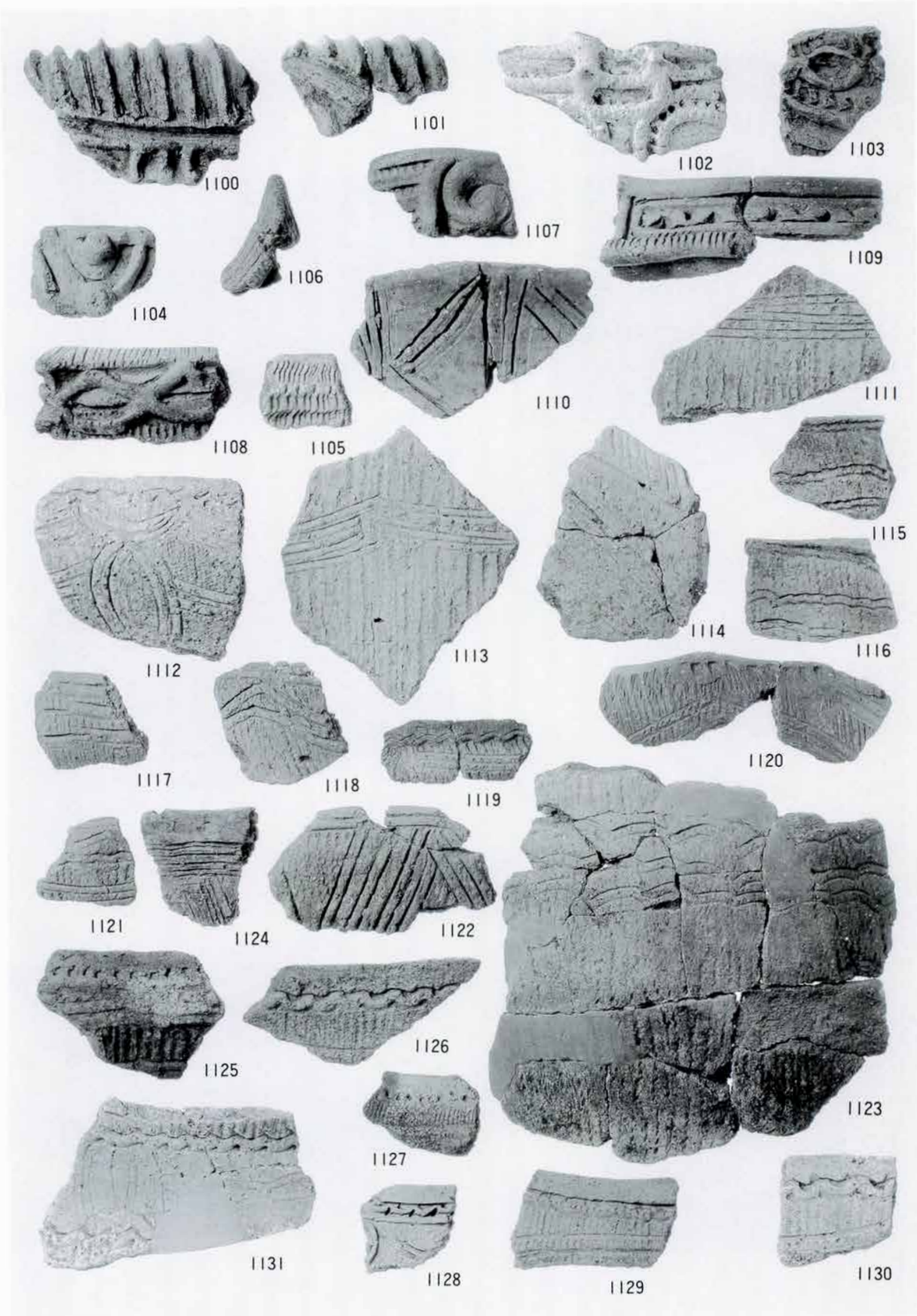


1097

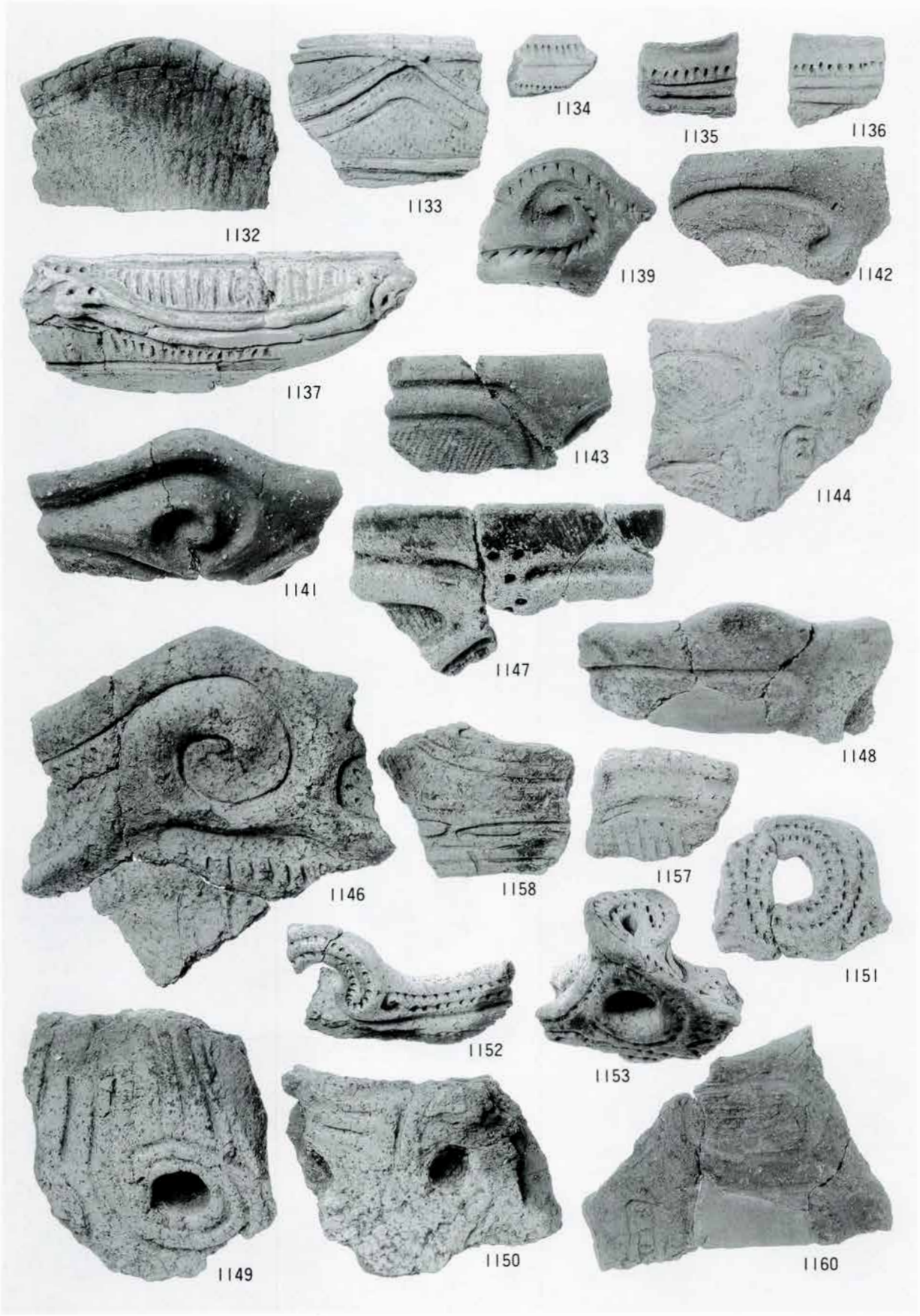
1099

第12号住居跡（ＳＢ12）床面出土土器

図版16

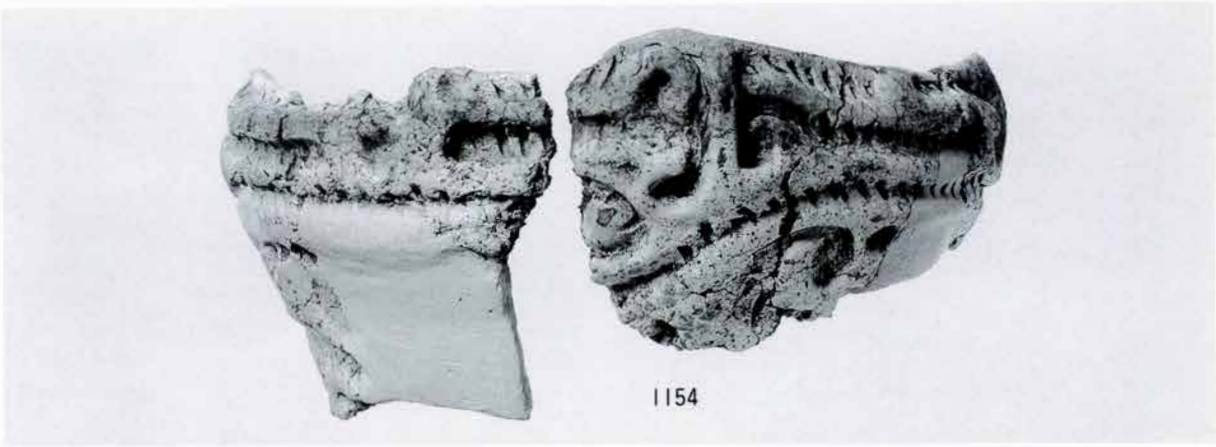


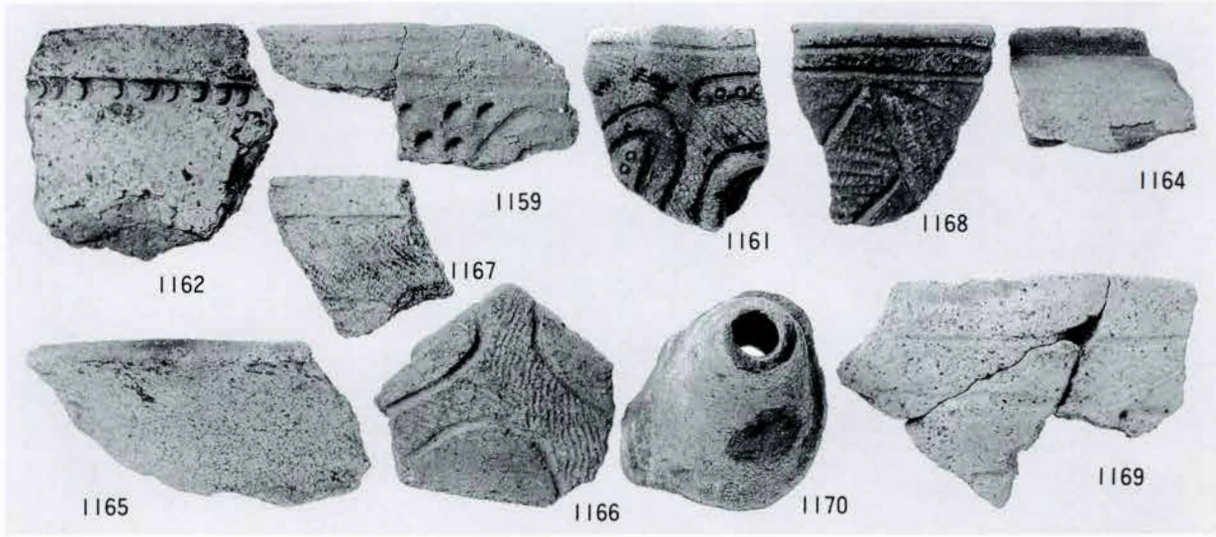
第12号住居跡（ＳＢ12）出土土器(2)



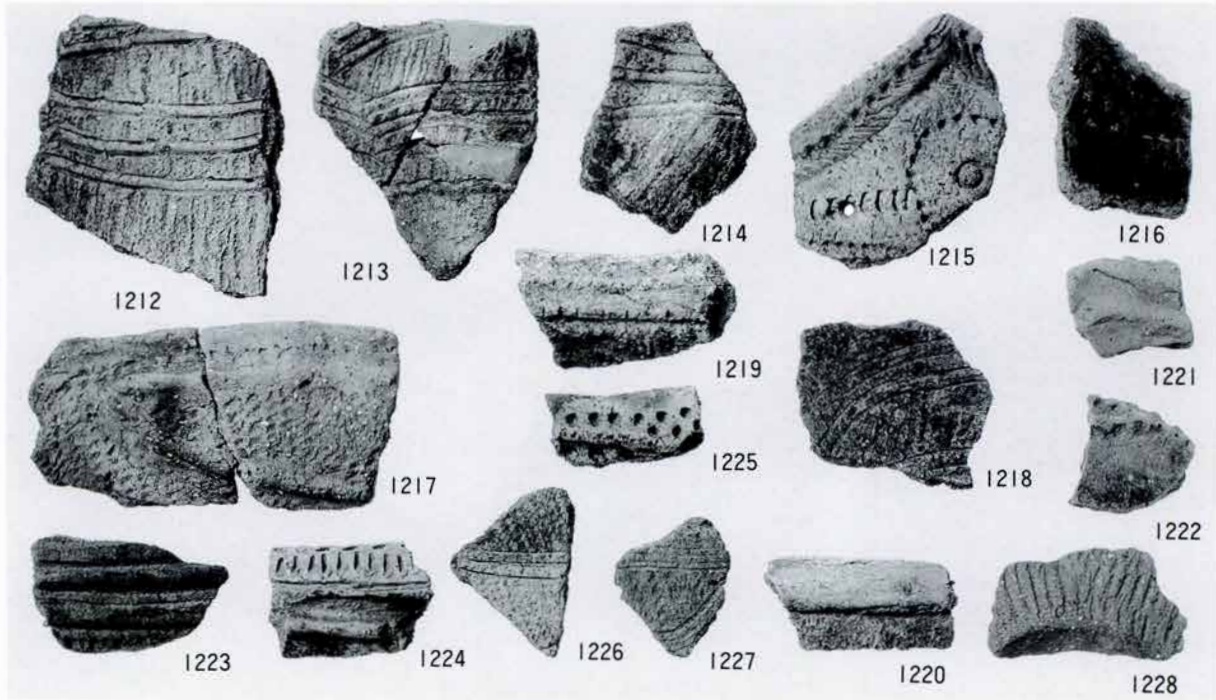
第12号住居跡（ＳＢ12）出土土器(3)

図版18



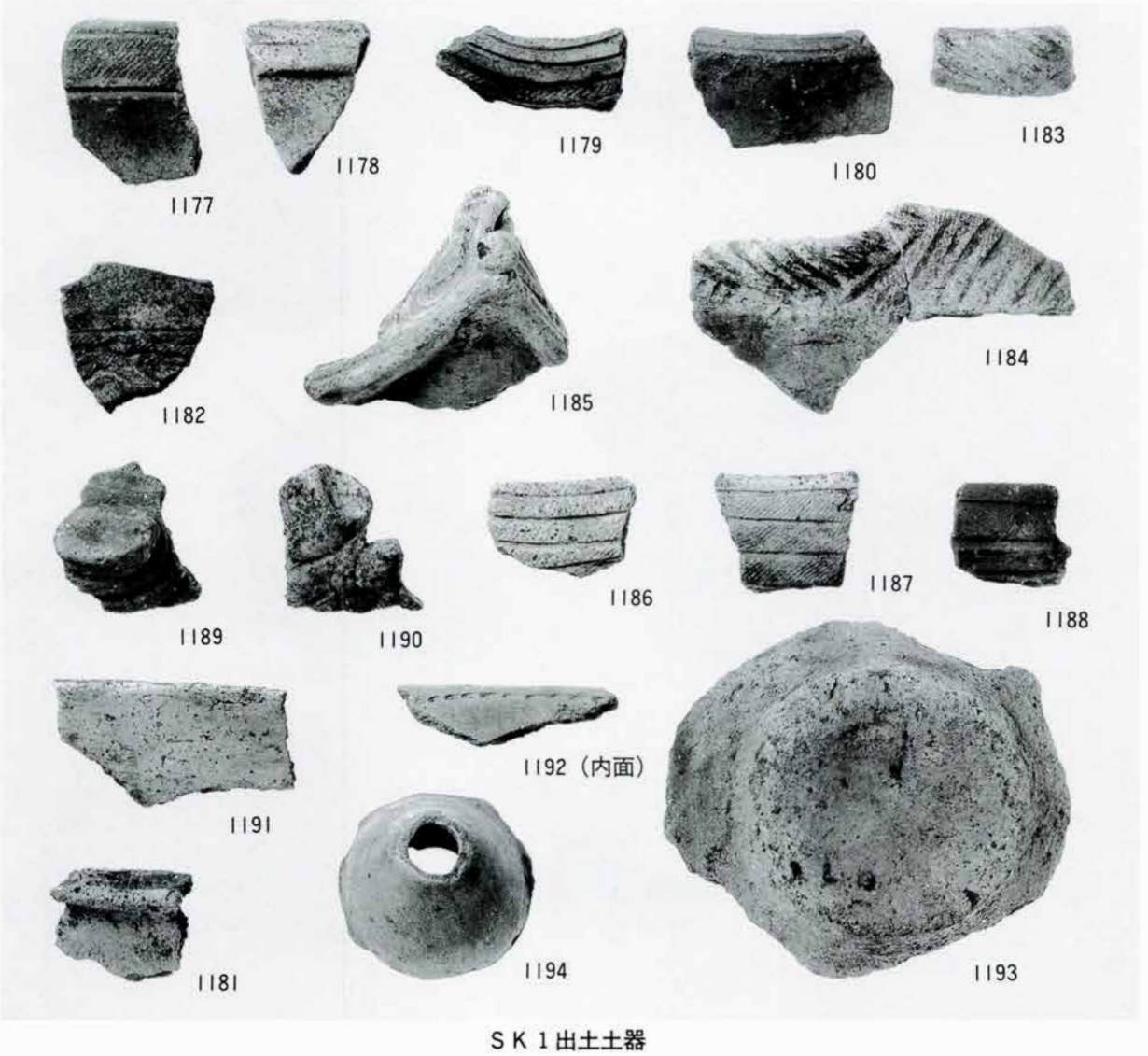


第12号住居跡（ＳＢ12）出土土器



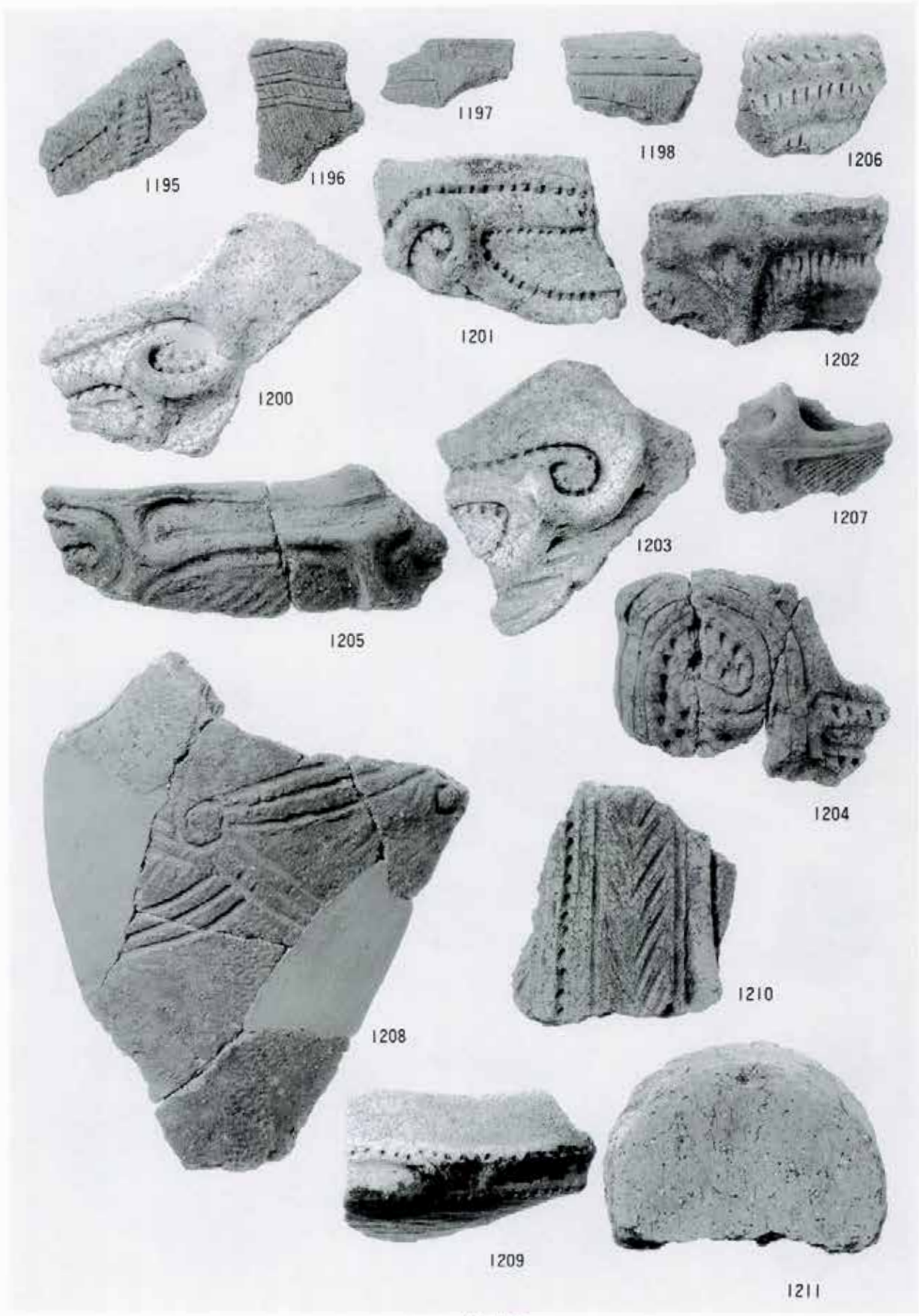
第13号住居跡（ＳＢ13）出土土器

ピット１・２出土土器

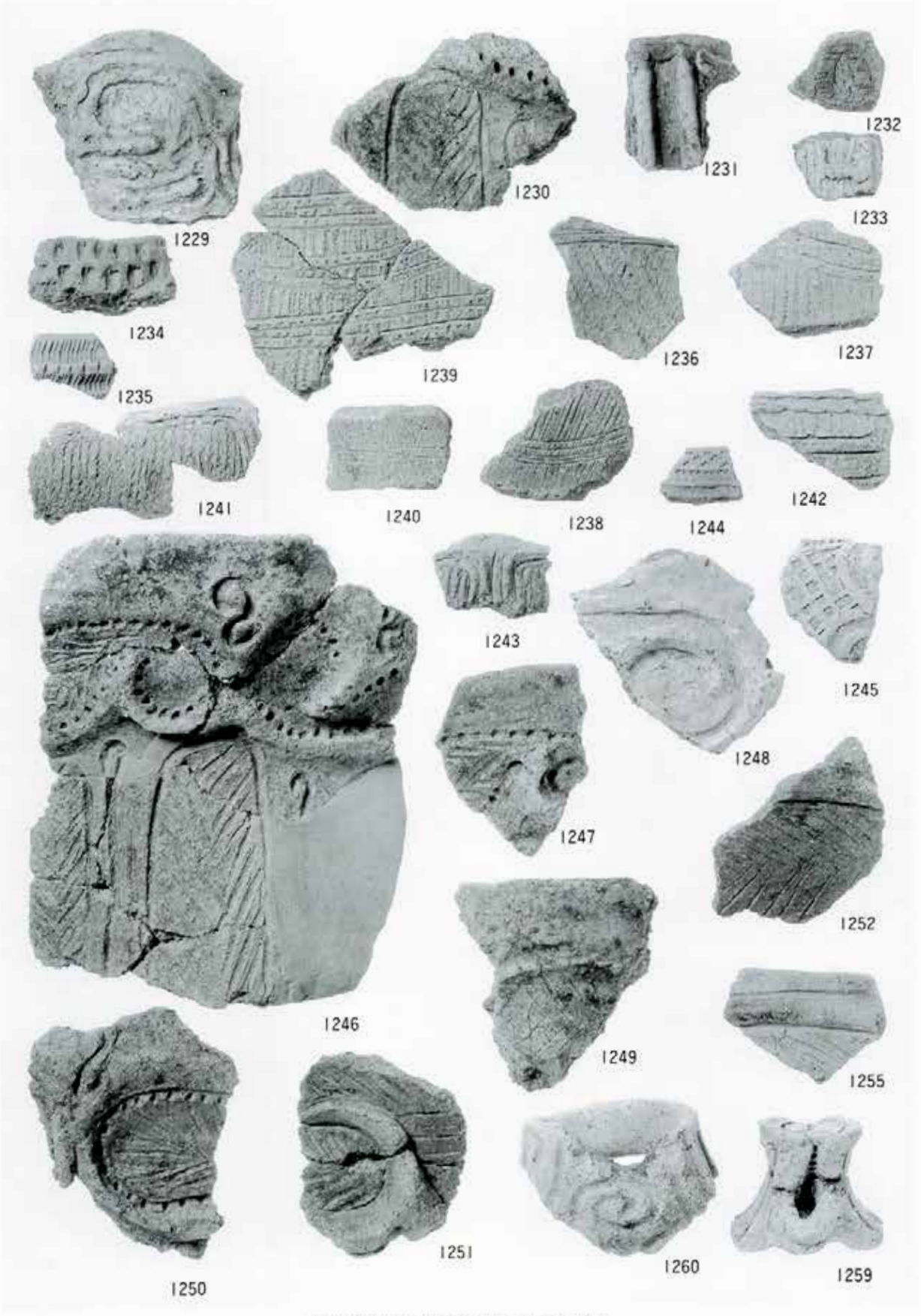


ＳＫ１出土土器

図版20

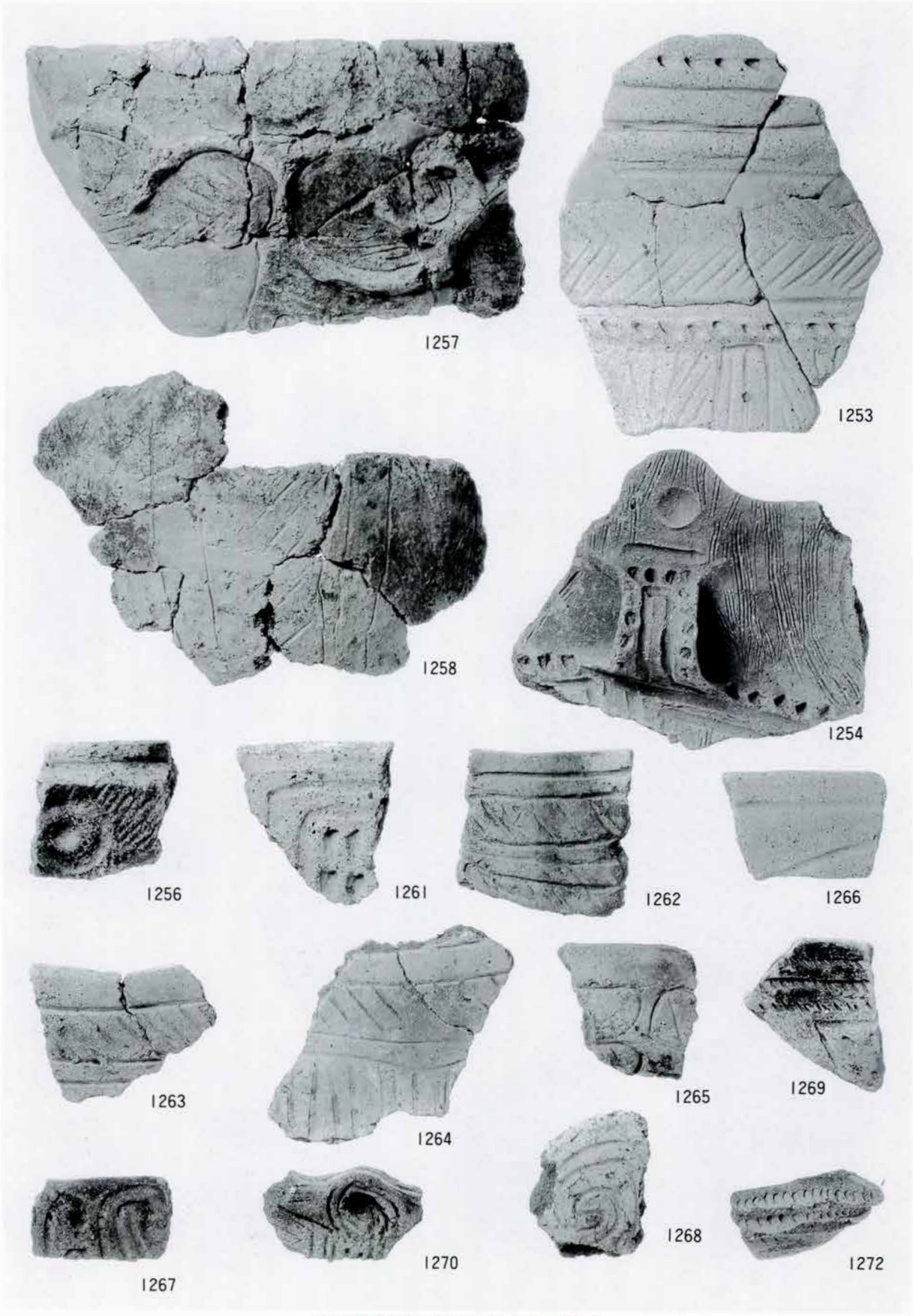


ＳＫ２出土土器

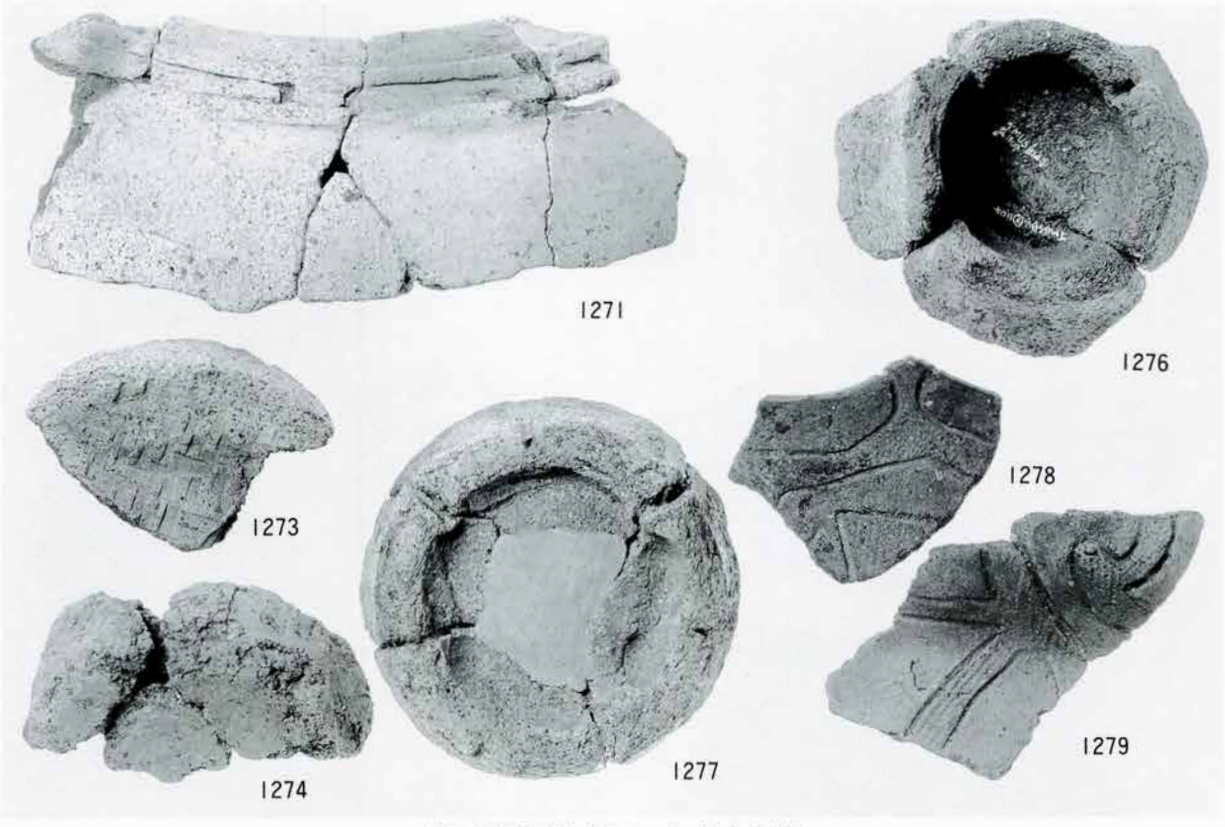


第14号住居跡（ＳＢ14）出土土器(1)

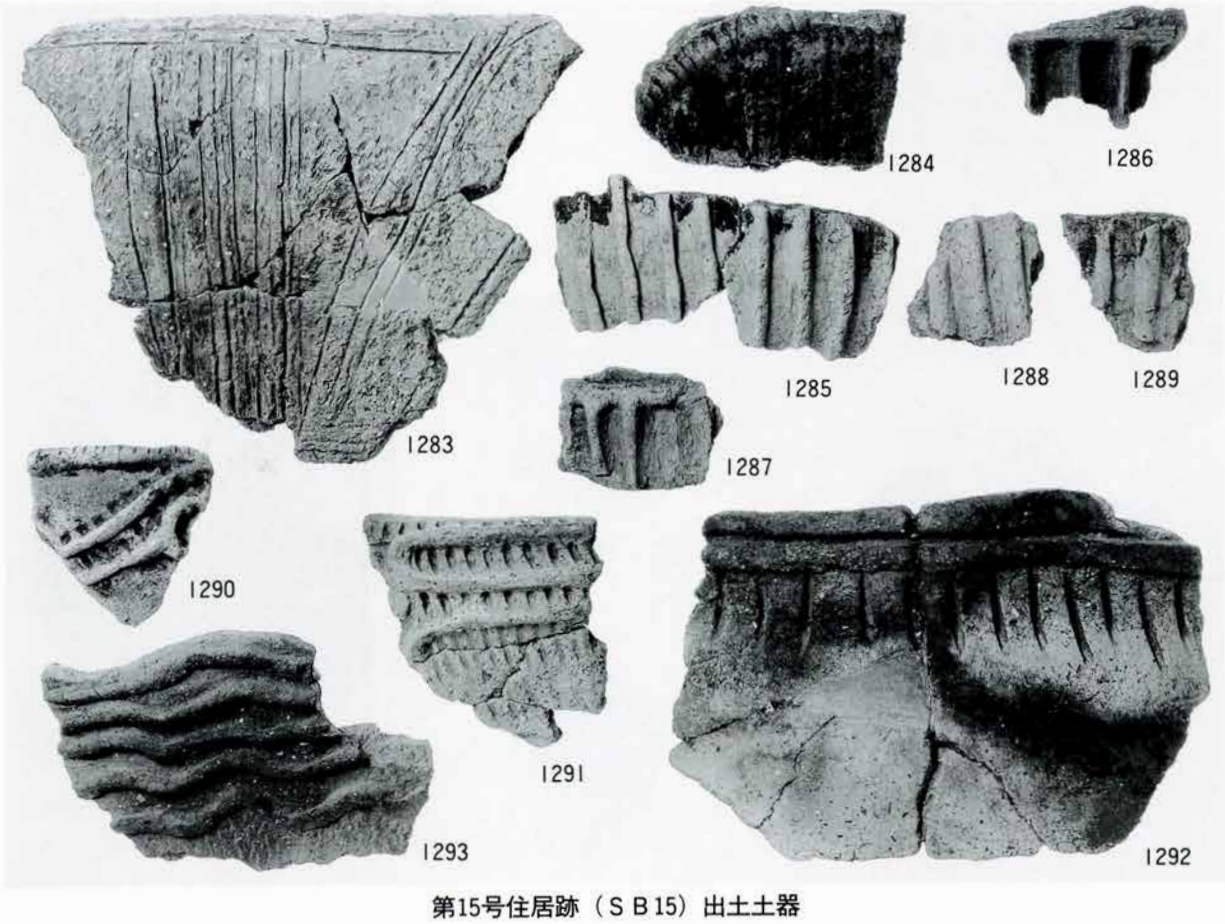
図版22



第14号住居跡（ＳＢ14）出土土器(2)

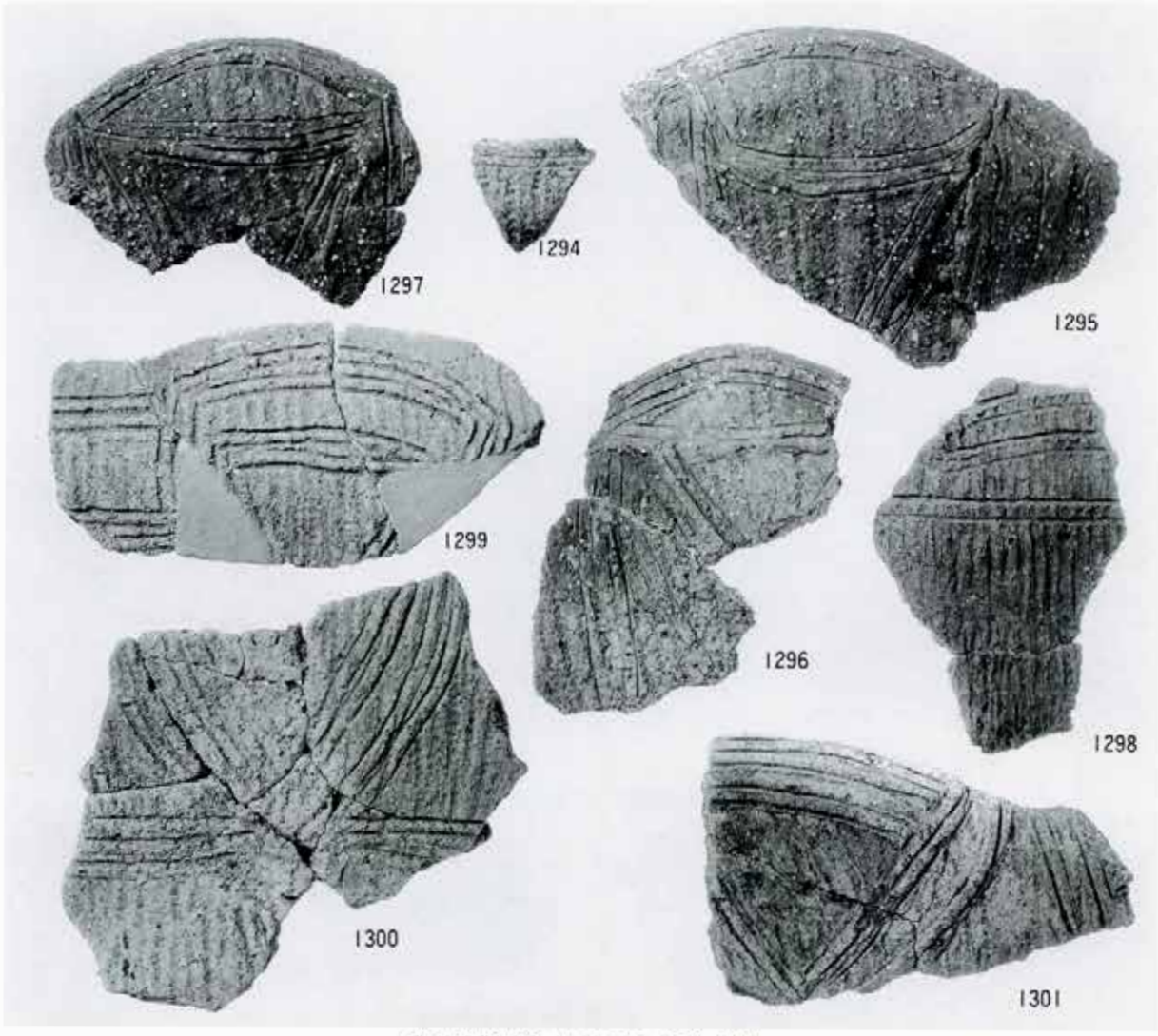


第14号住居跡（ＳＢ14）出土土器

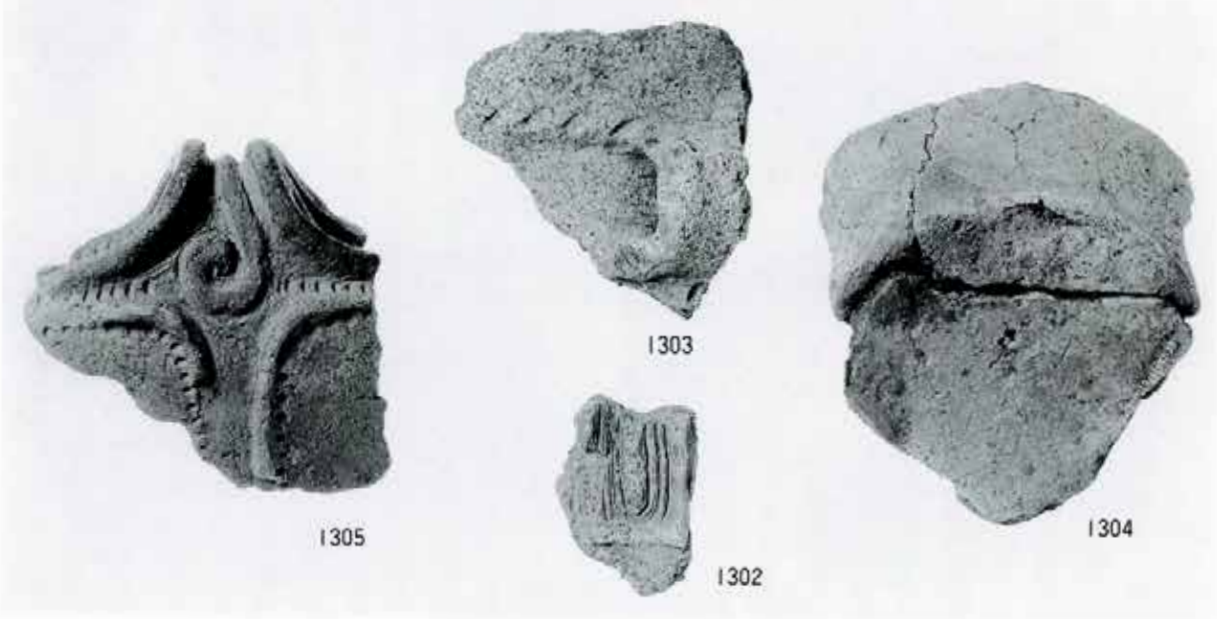


第15号住居跡（ＳＢ15）出土土器

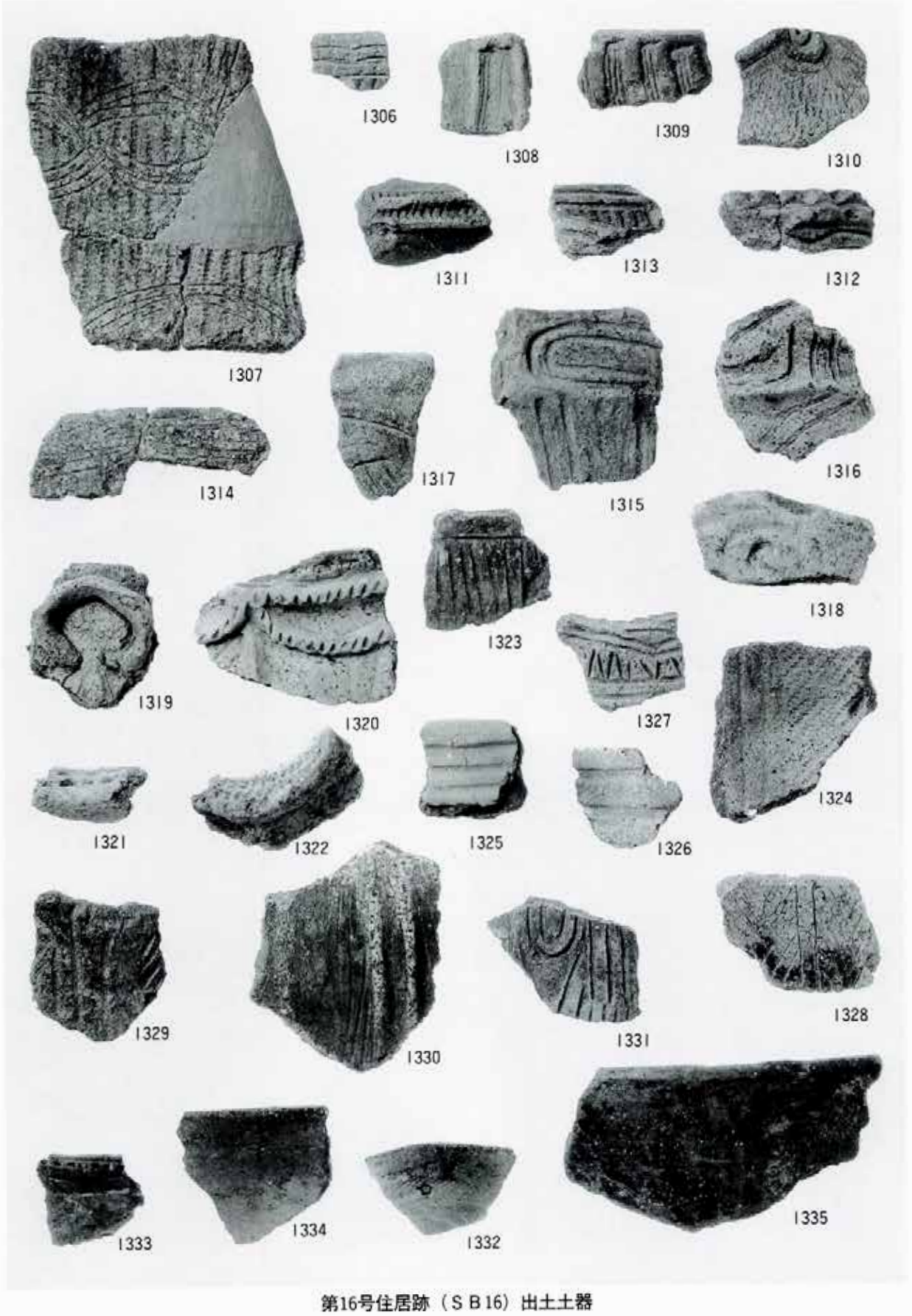
図版24



第15号住居跡（ＳＢ15）出土土器

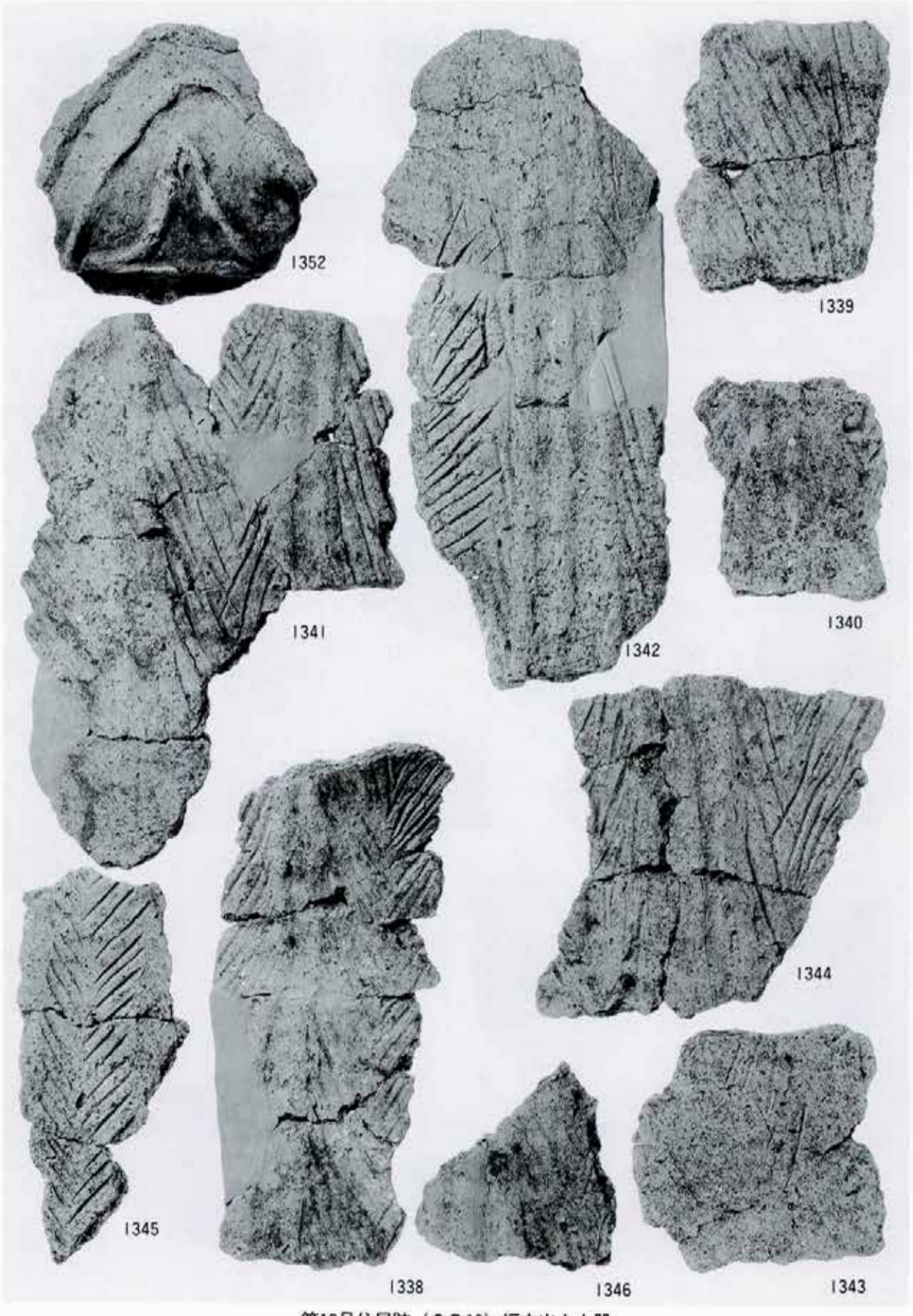


第16号住居跡（ＳＢ16）出土土器

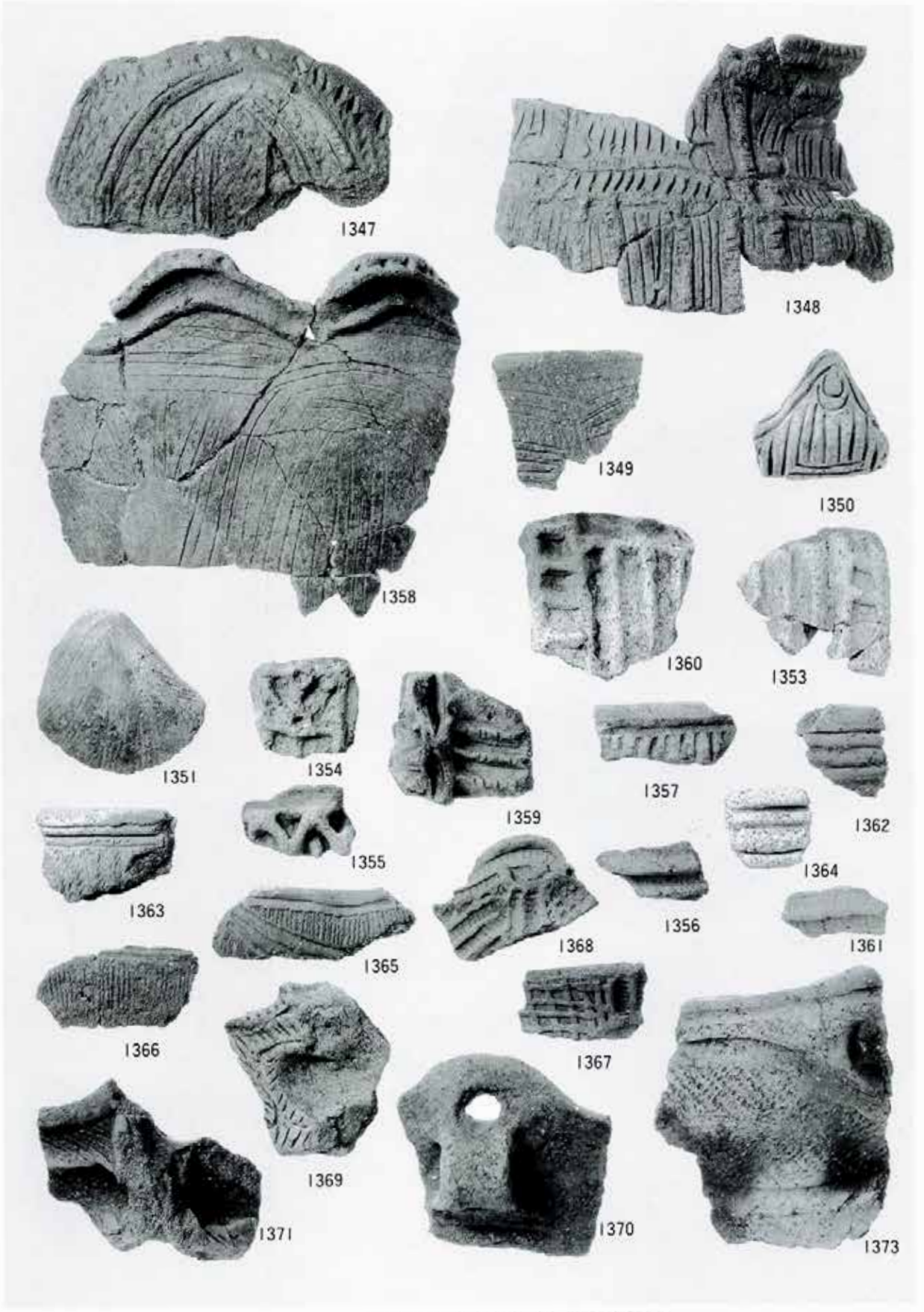


第16号住居跡（ＳＢ16）出土土器

図版26

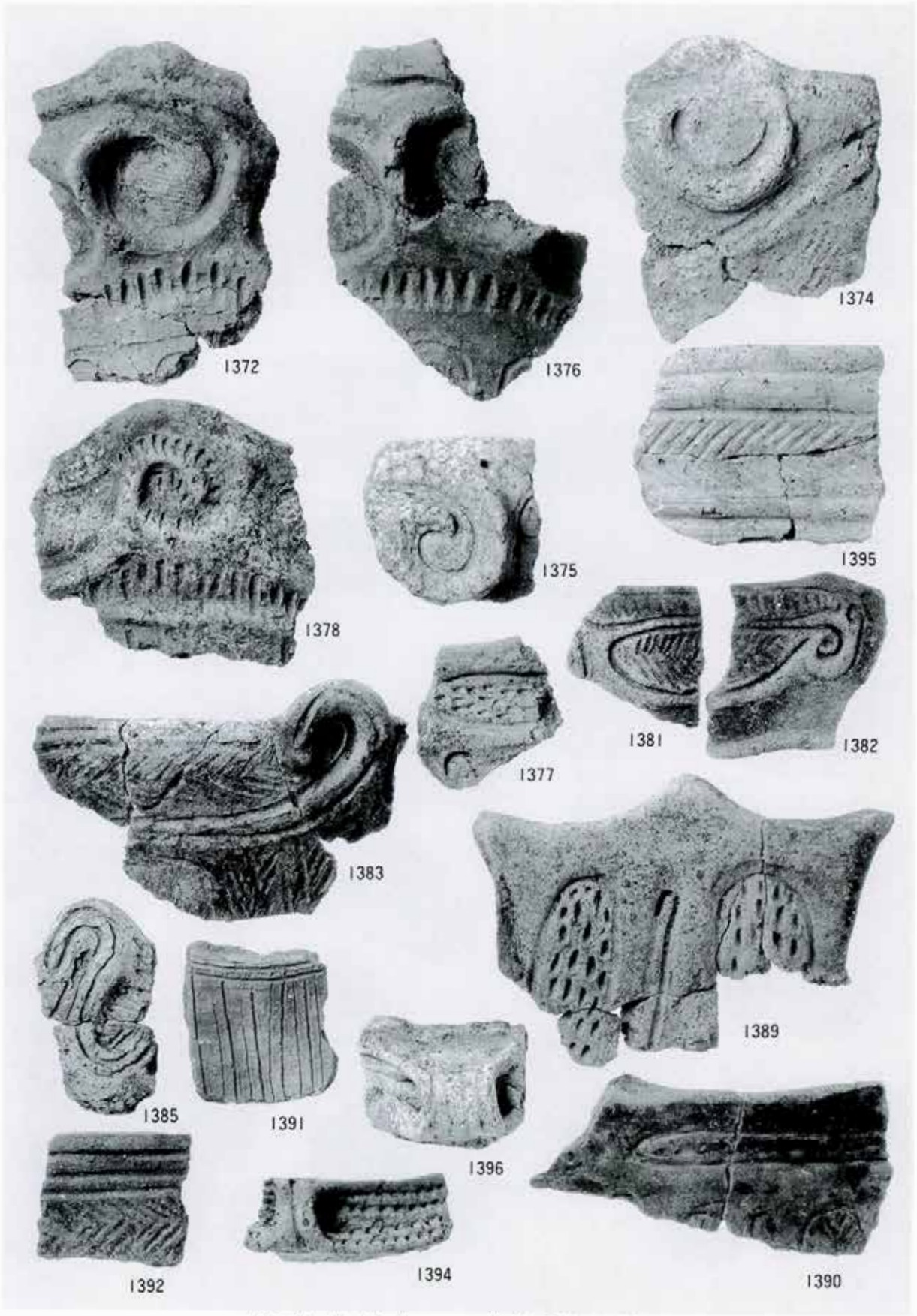


第18号住居跡（ＳＢ18）炉内出土土器

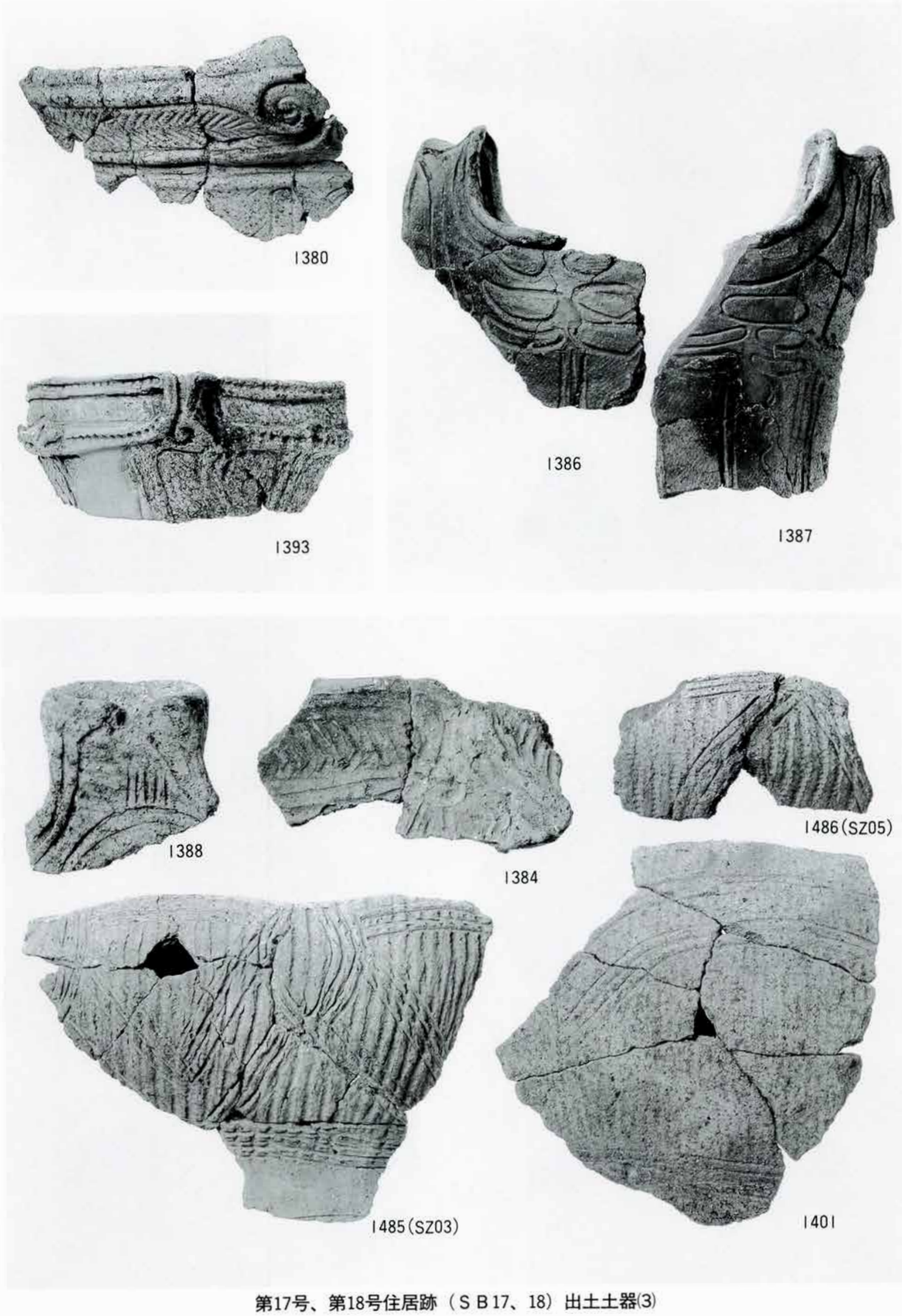


第17号、第18号住居跡（ＳＢ17、18）出土土器(1)

図版28

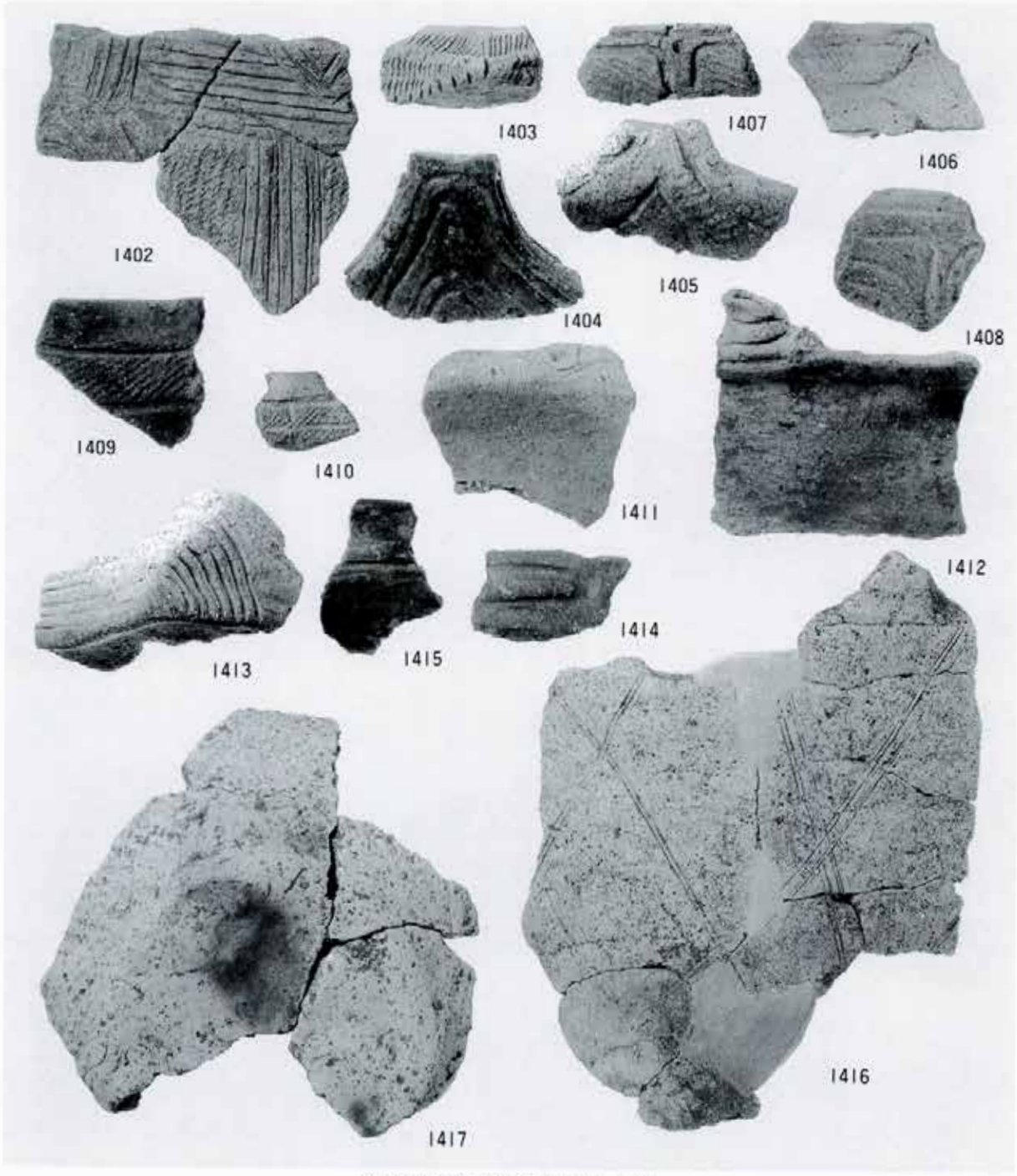


第17号、第18号（ＳＢ17、18）住居跡出土土器(2)



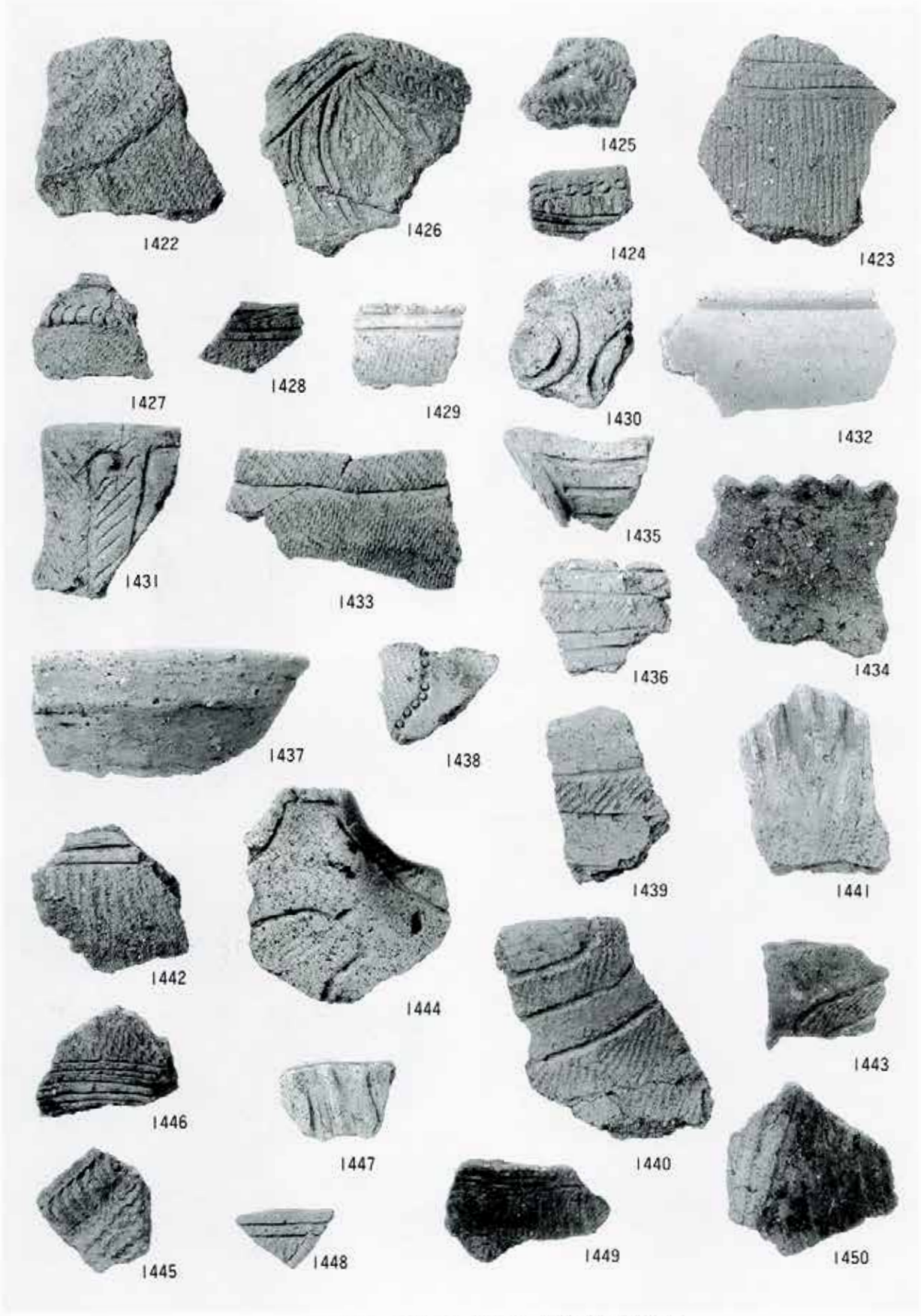
第17号、第18号住居跡（ＳＢ17、18）出土土器(3)

図版30



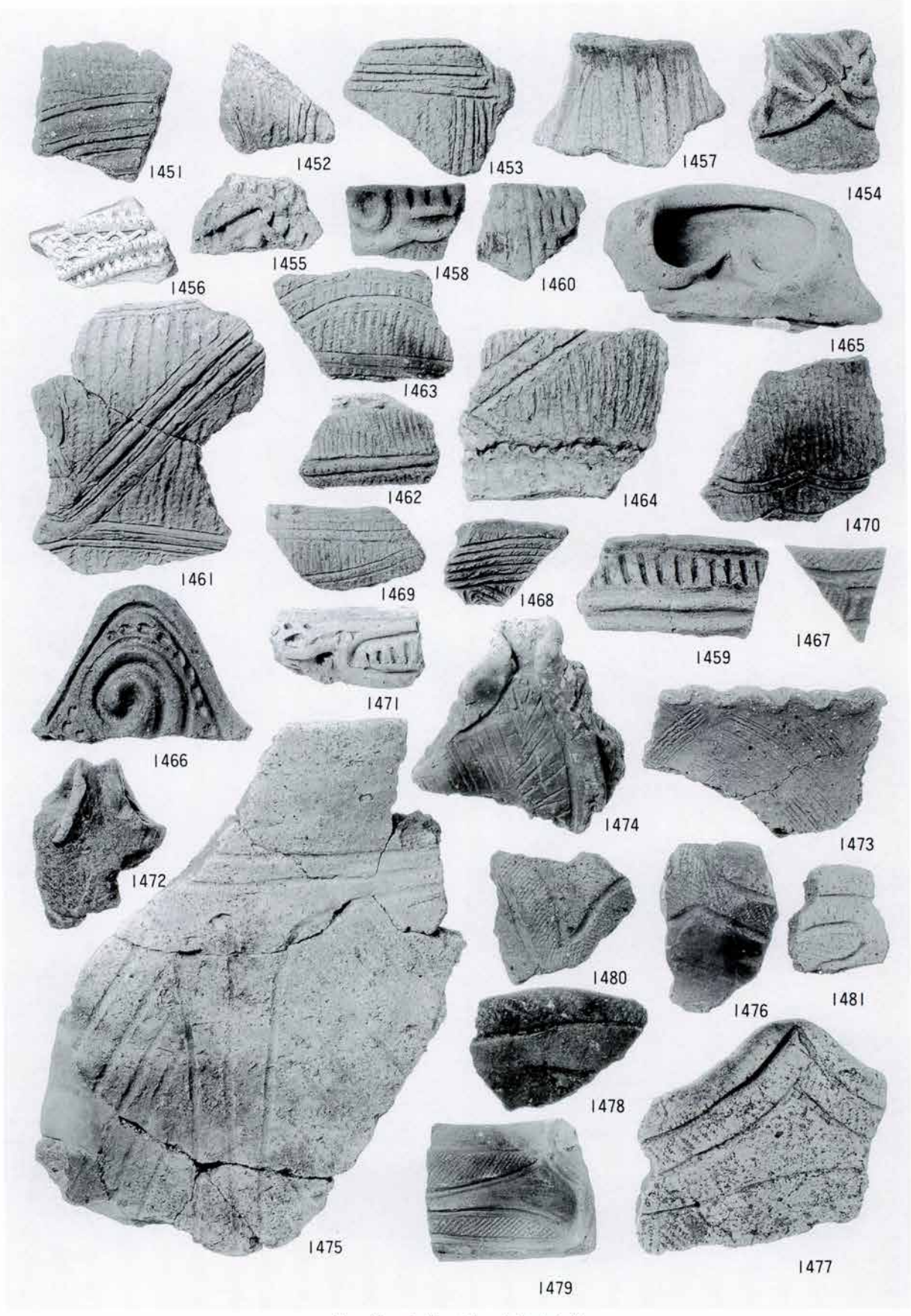
竪穴状遺構（ＳＸ１）出土土器

ＳＫ200出土土器

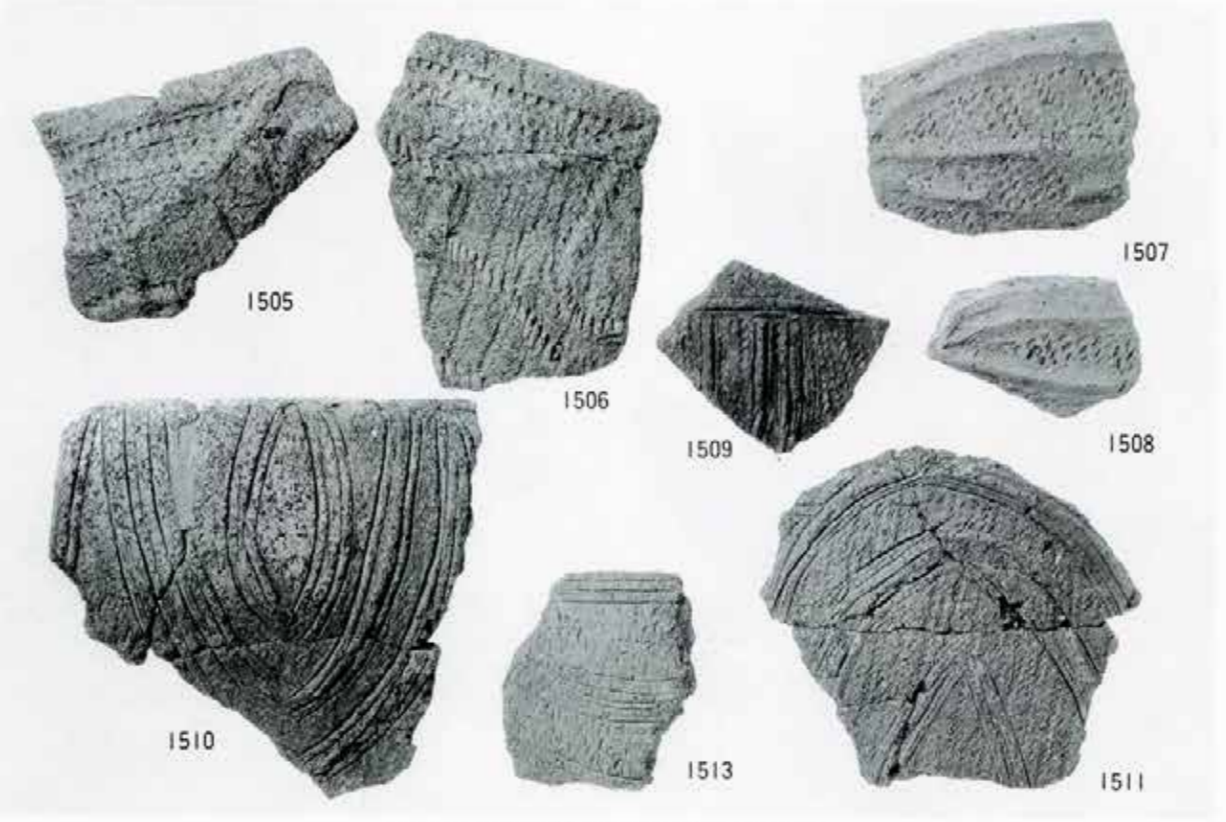


SK207、SK3、SK50、SK51、SK156出土土器

図版32

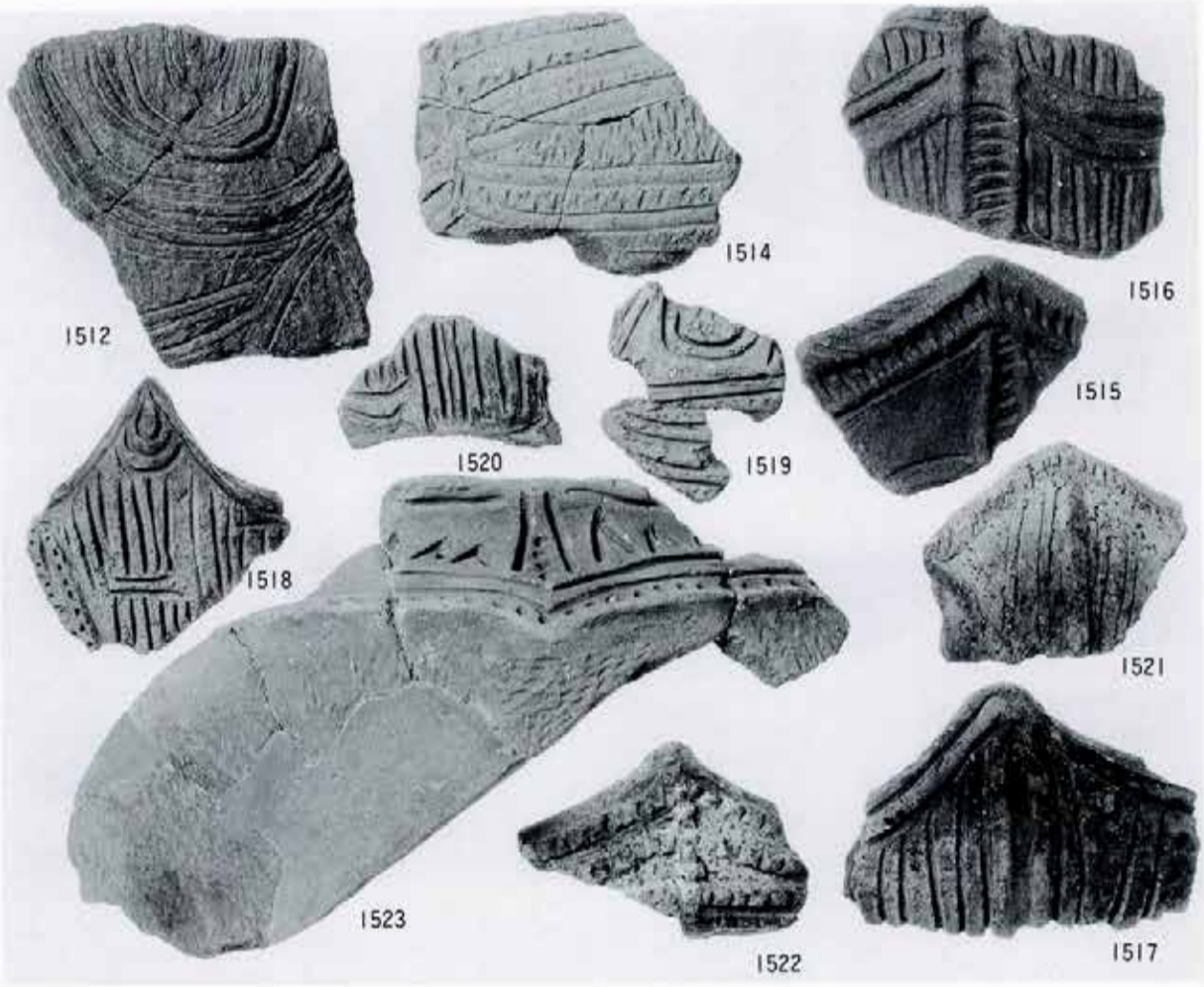


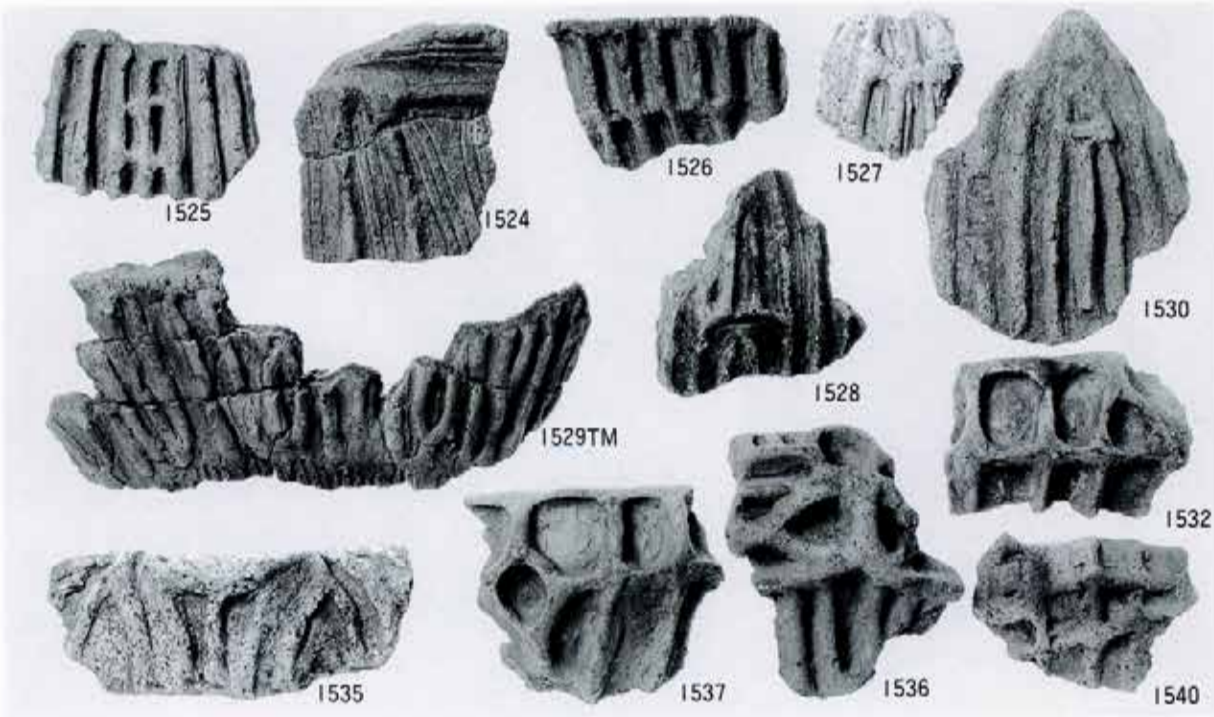
その他の土坑・ピット出土土器



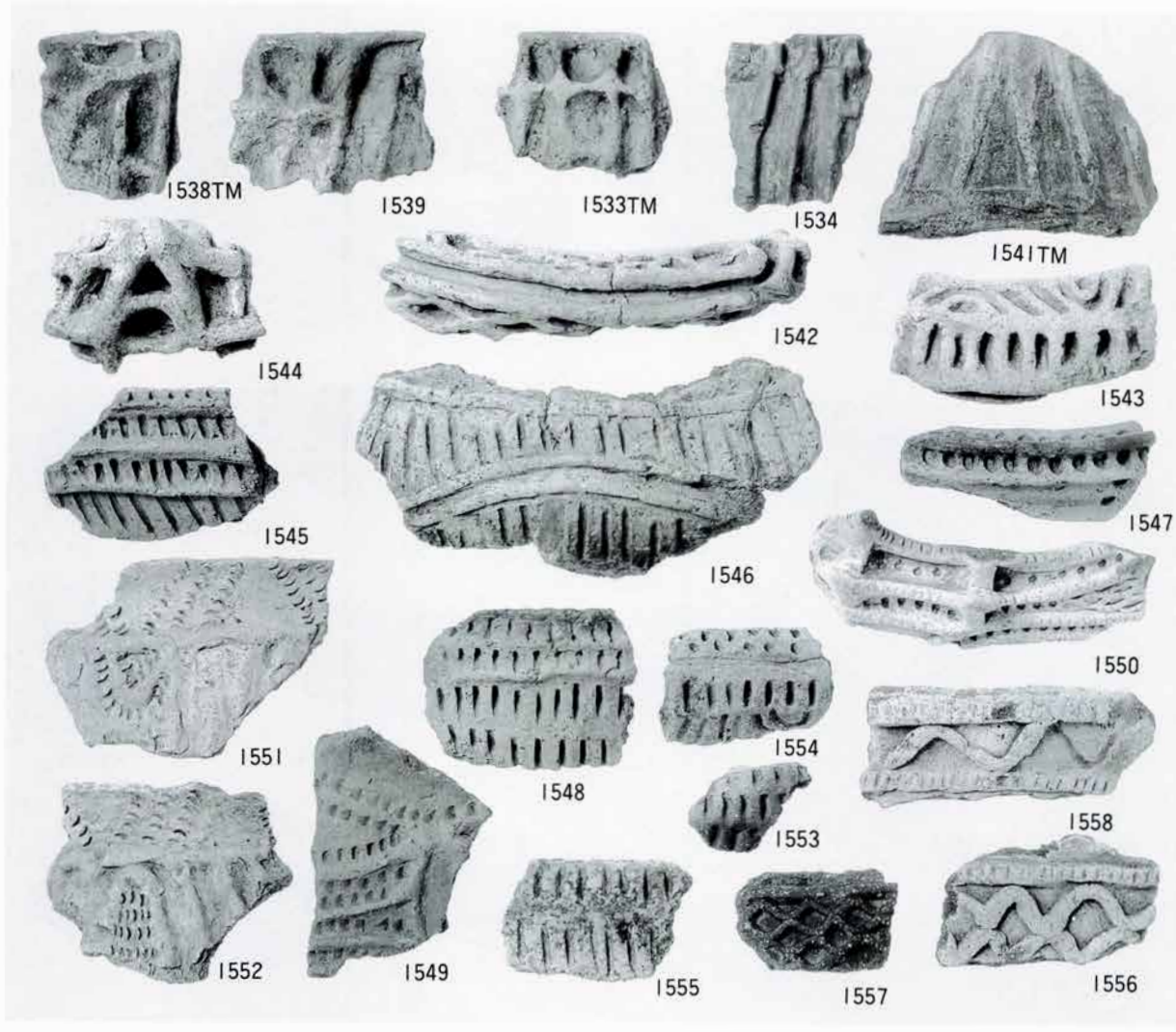
遺構外出土土器(1)早期・前期・C 1 群

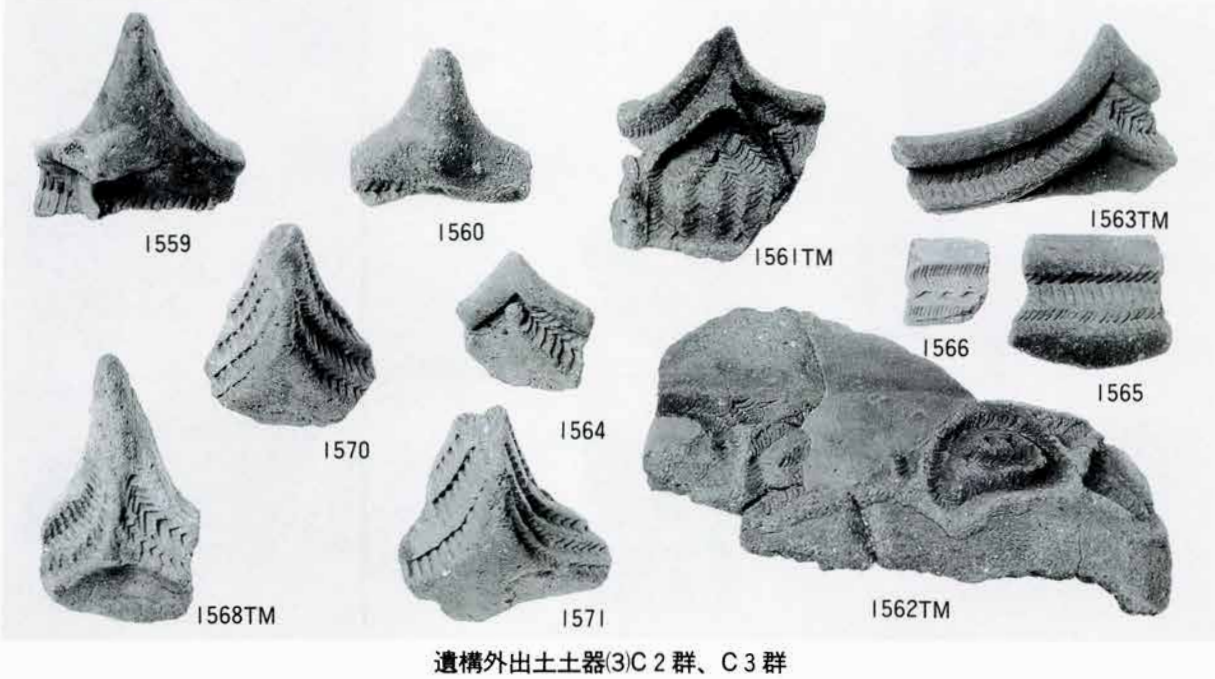
図版34





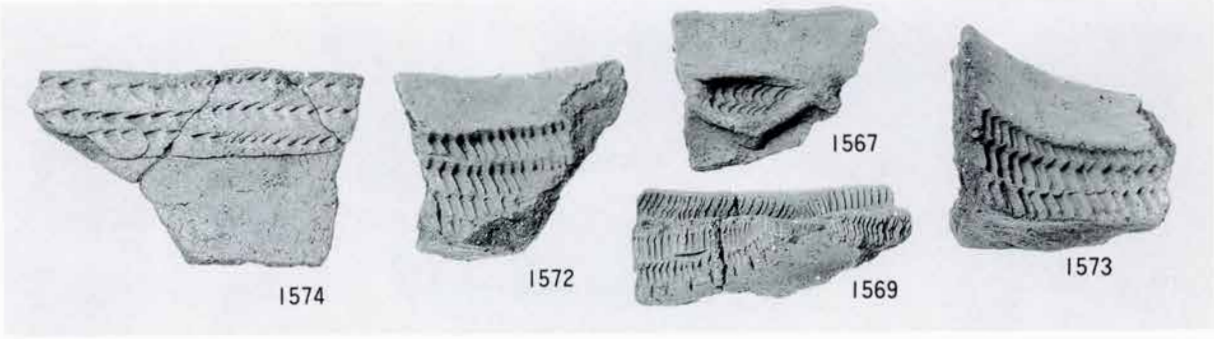
遺構外出土土器(2)C 1群、C 2群

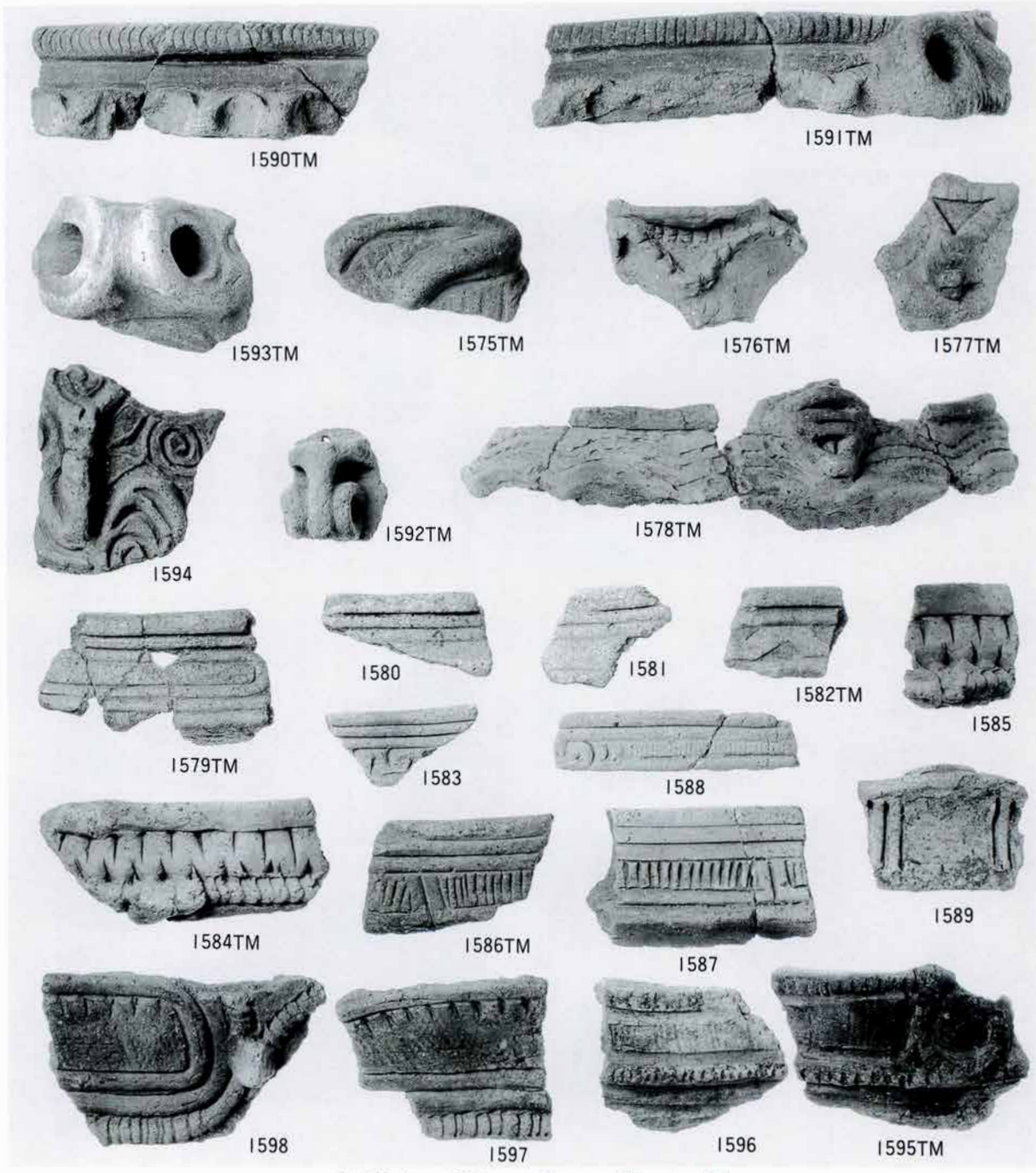




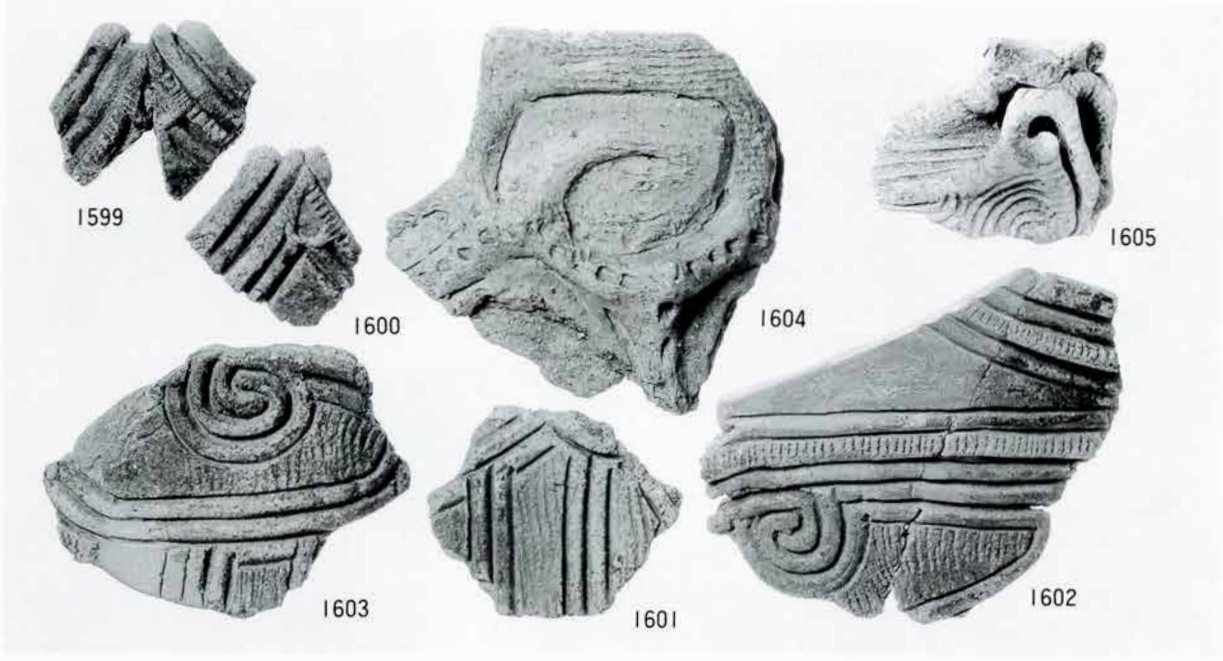
遺構外出土土器(3)C 2 群、C 3 群

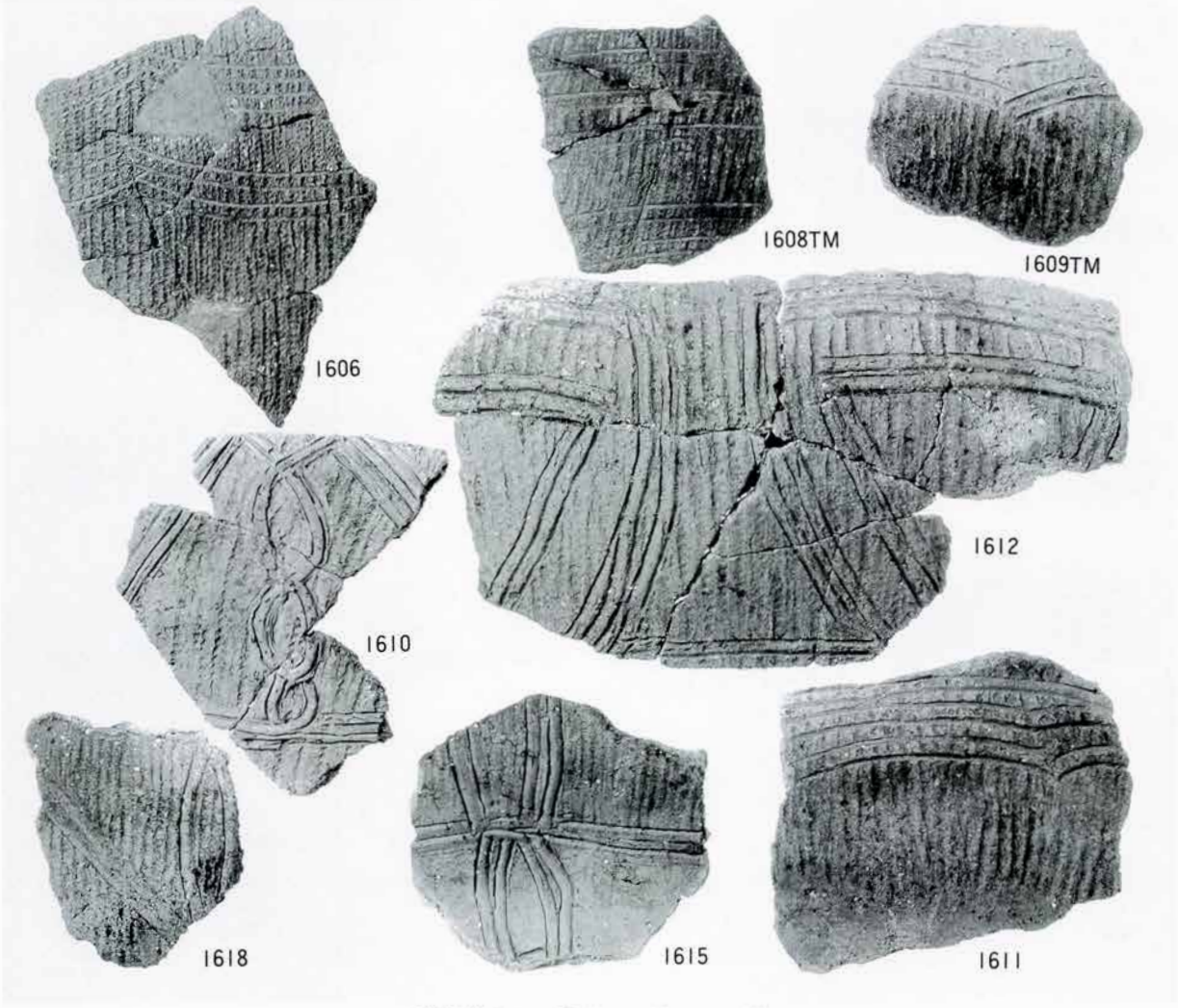
図版36





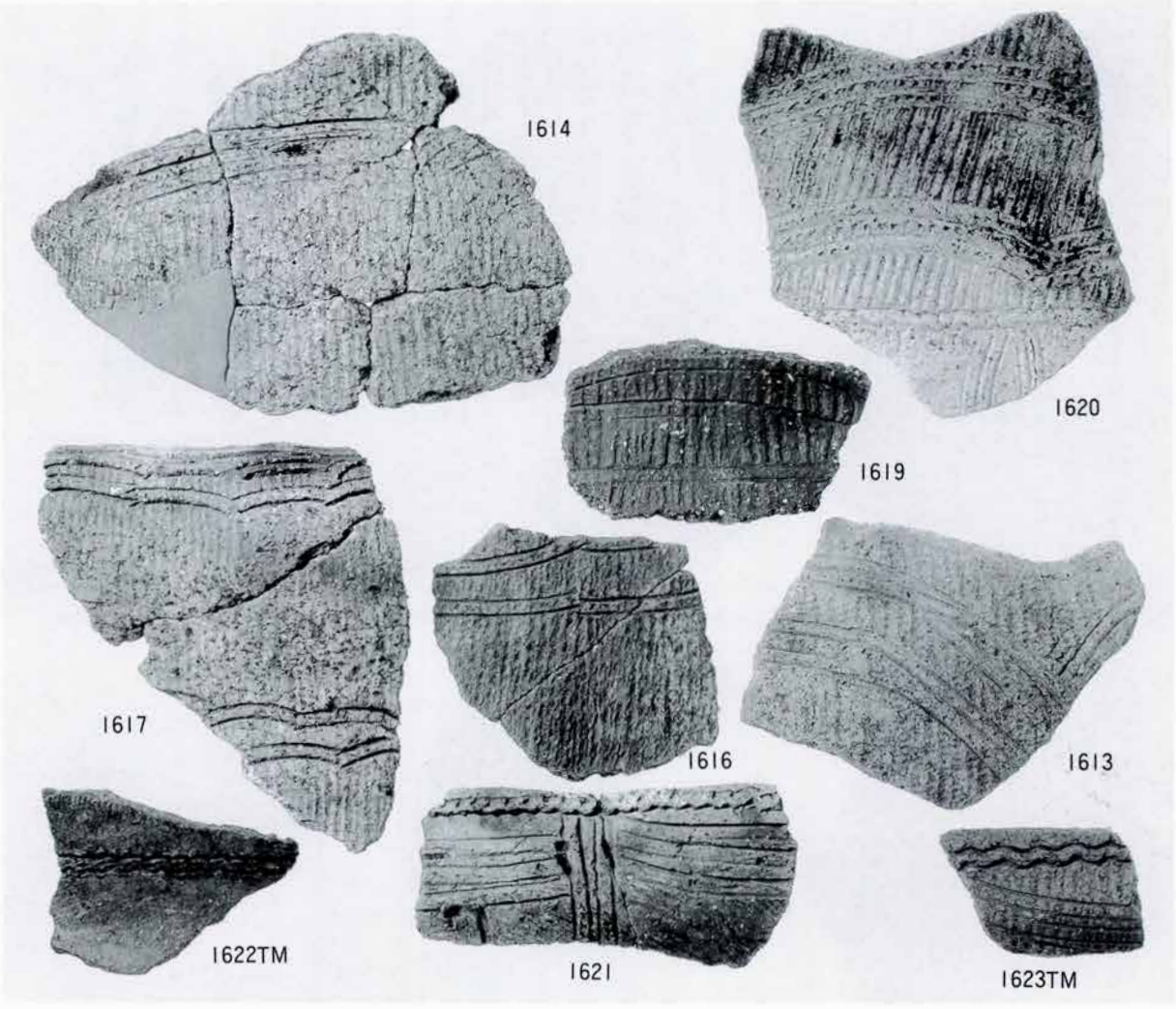
遺構外出土土器(4)C 3群、C 4群、C 5群



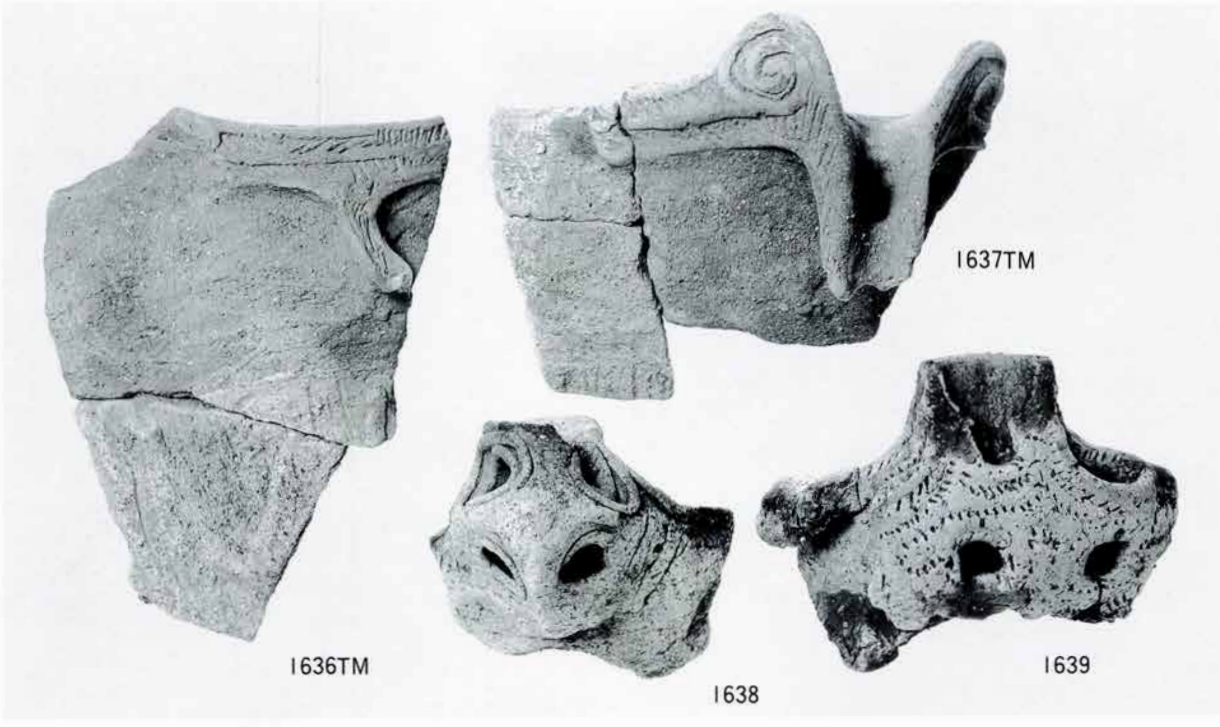


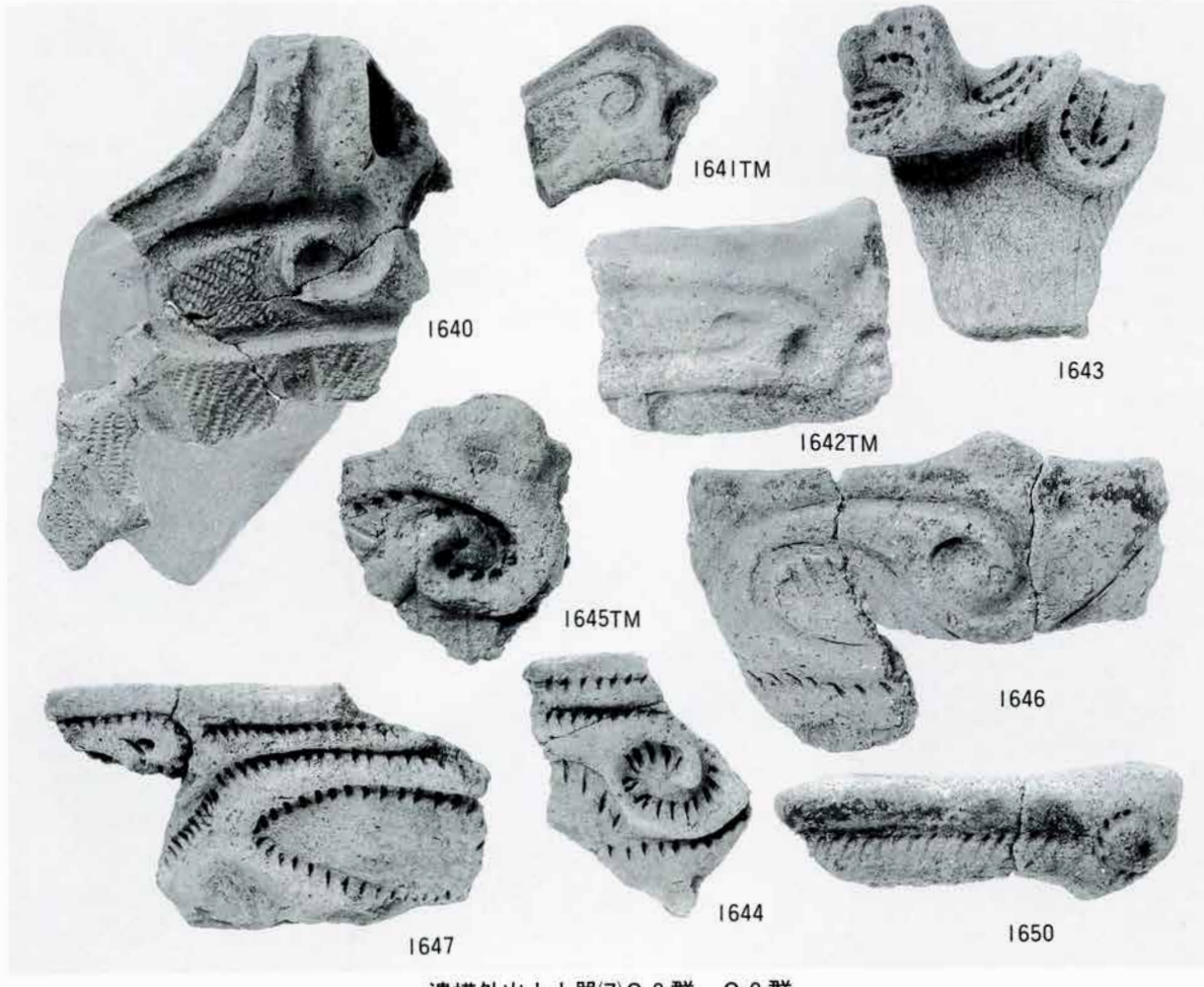
遺構外出土土器(5)C 5群、C 6群

図版38



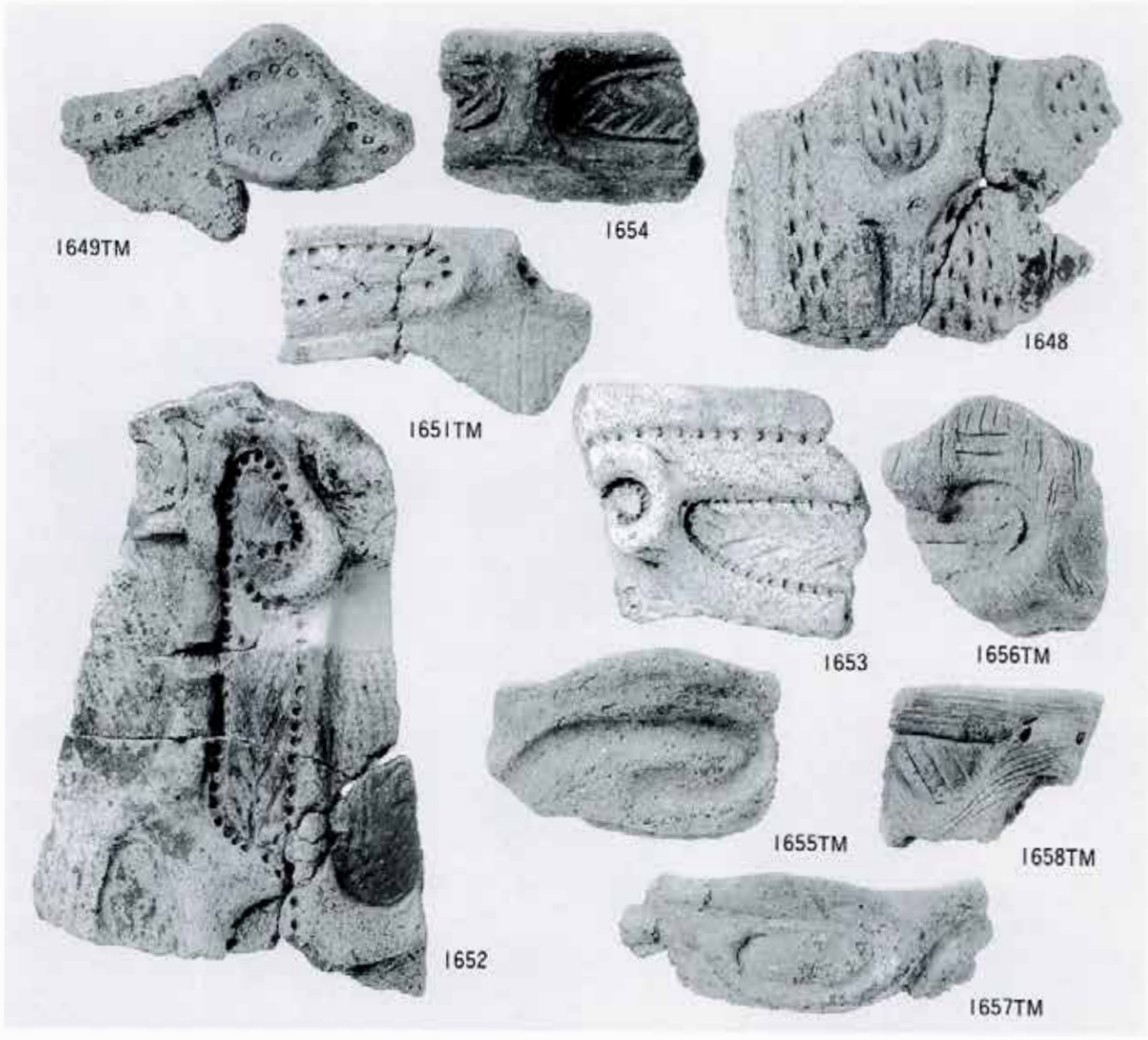
遺構外出土土器(6)C 6群、C 7群

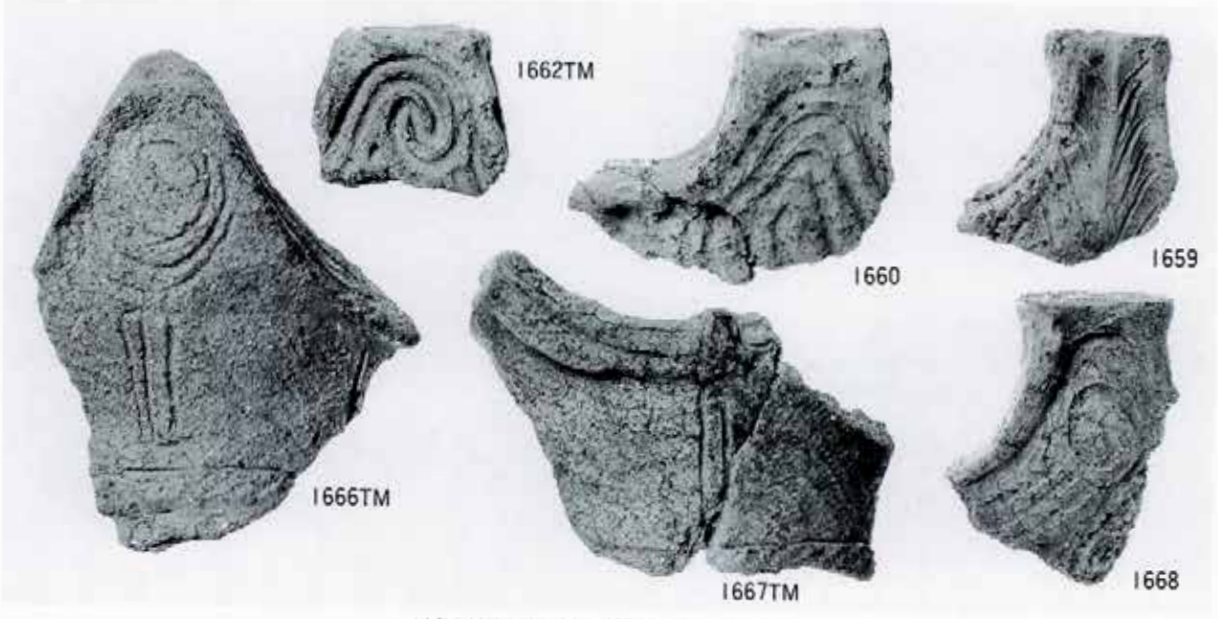




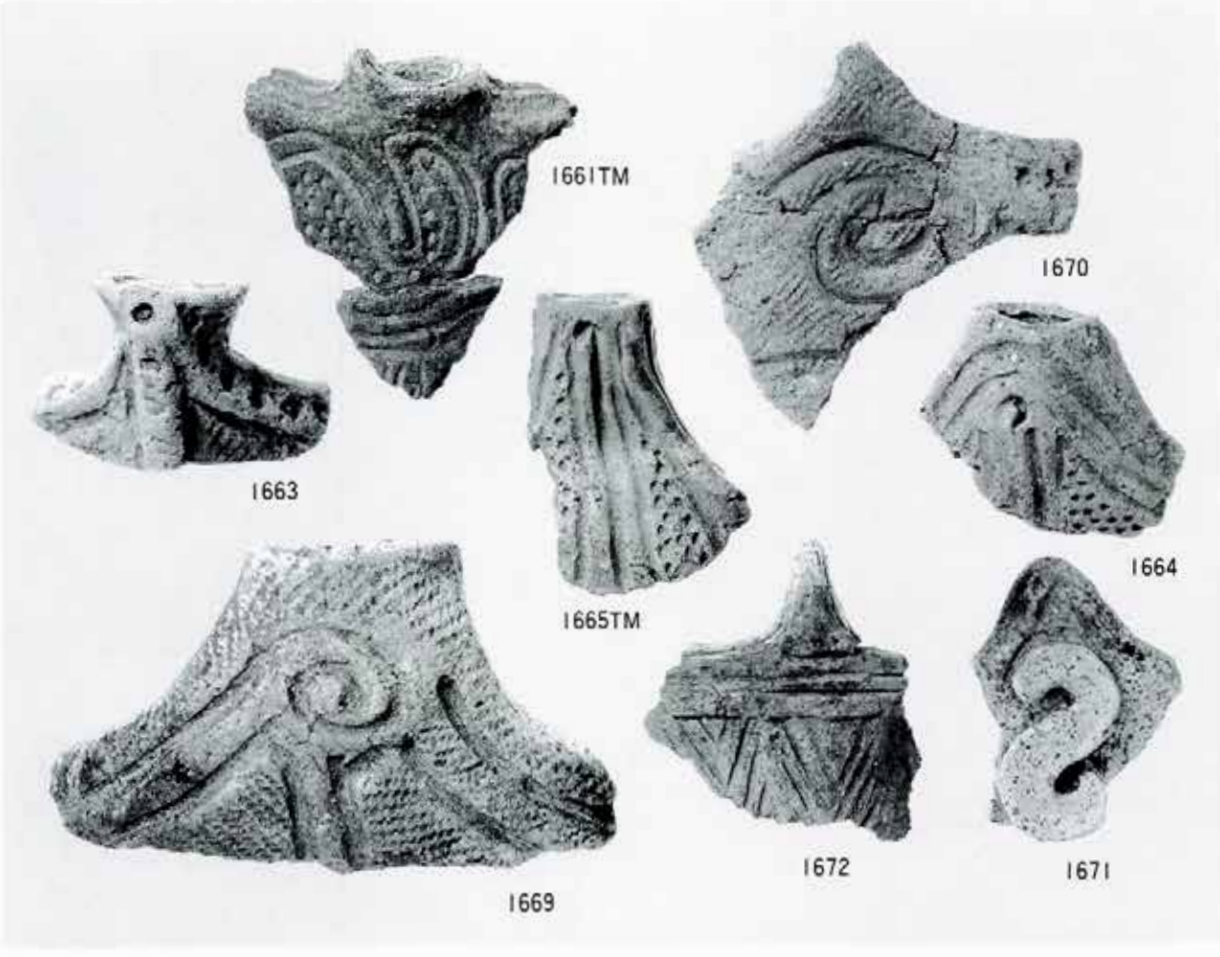
遺構外出土土器(7)C 8群、C 9群

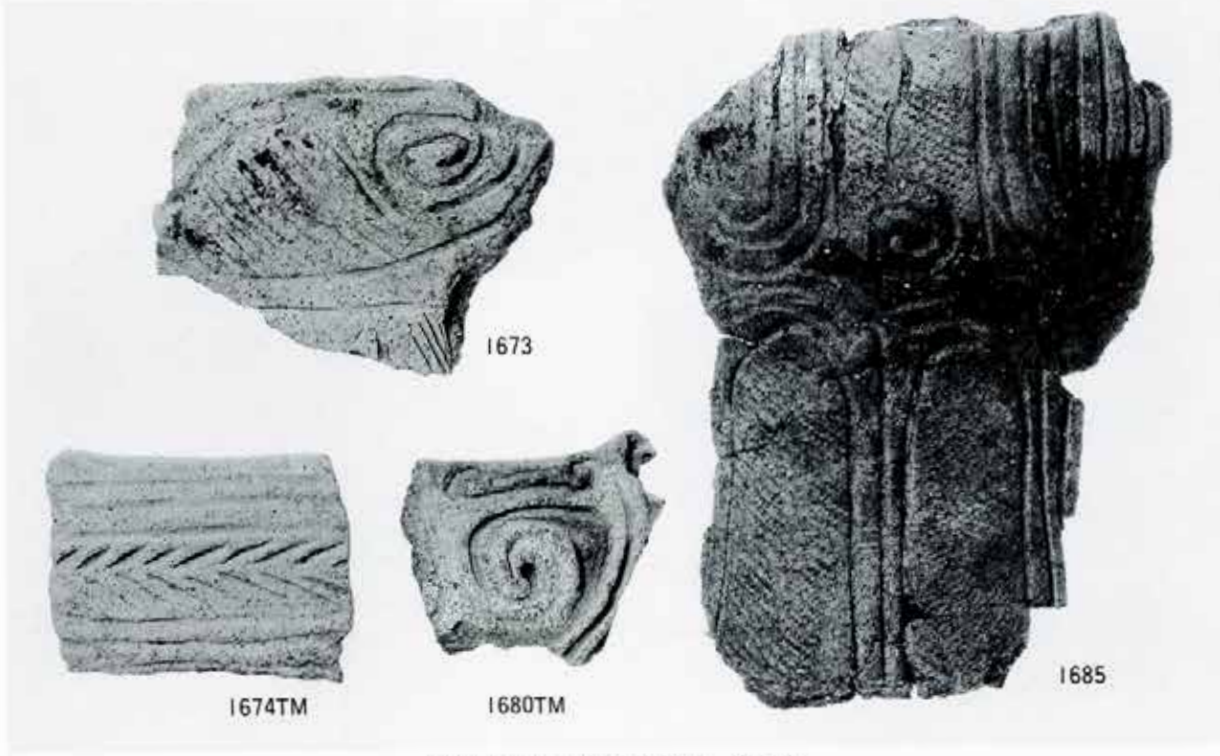
図版40





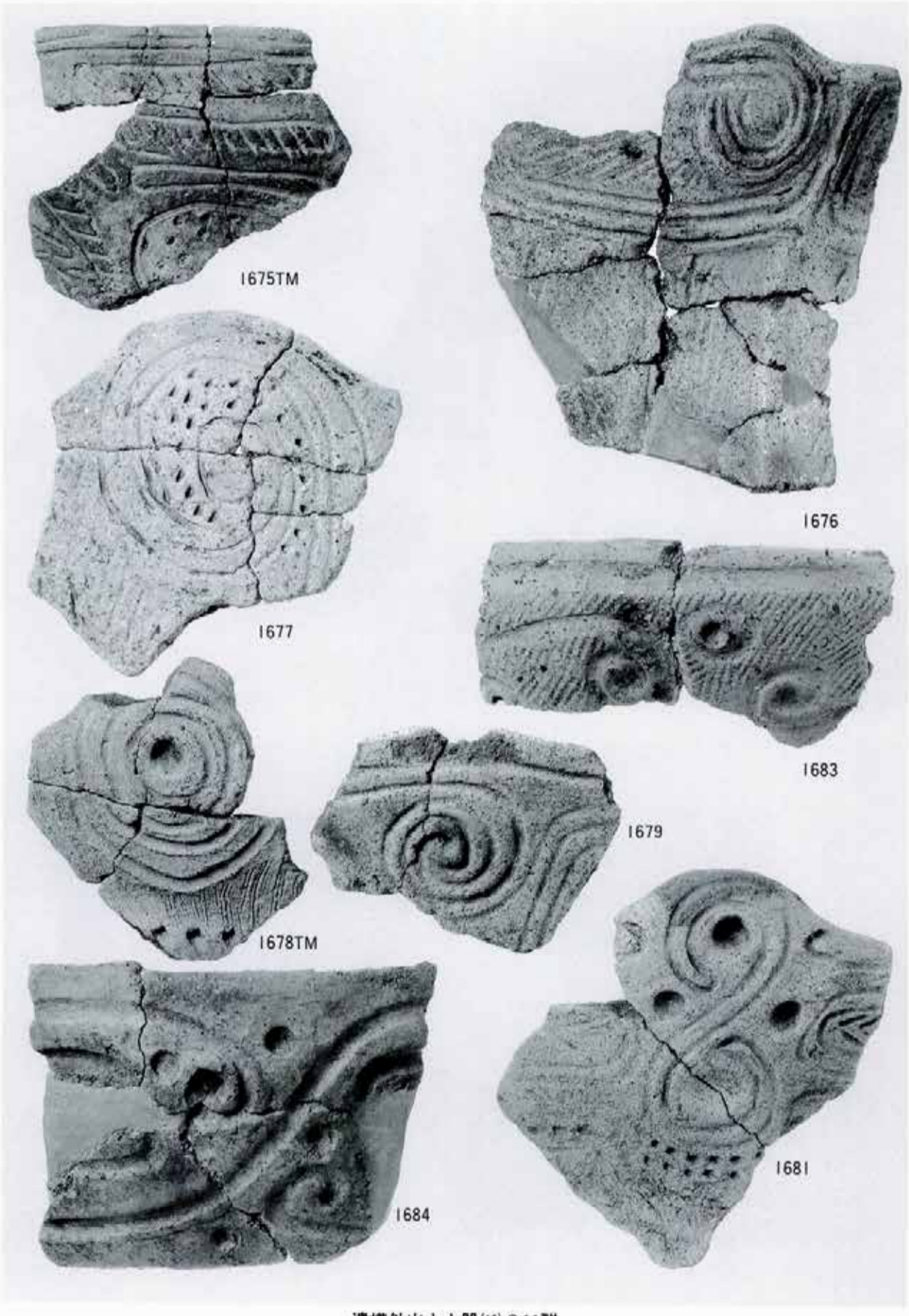
遺構外出土土器(8)C 9群、C10群



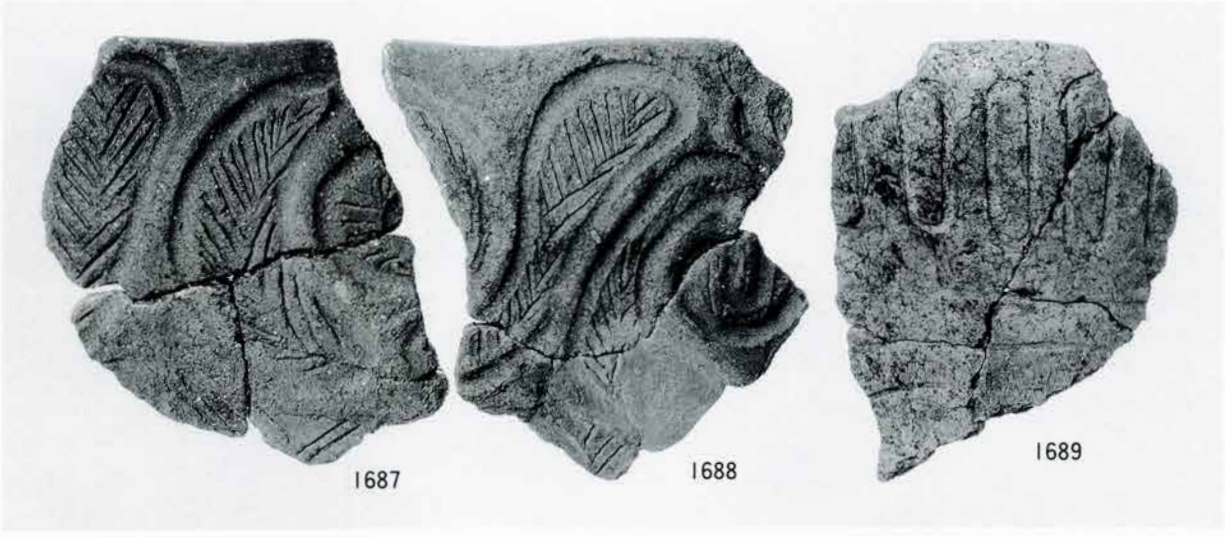


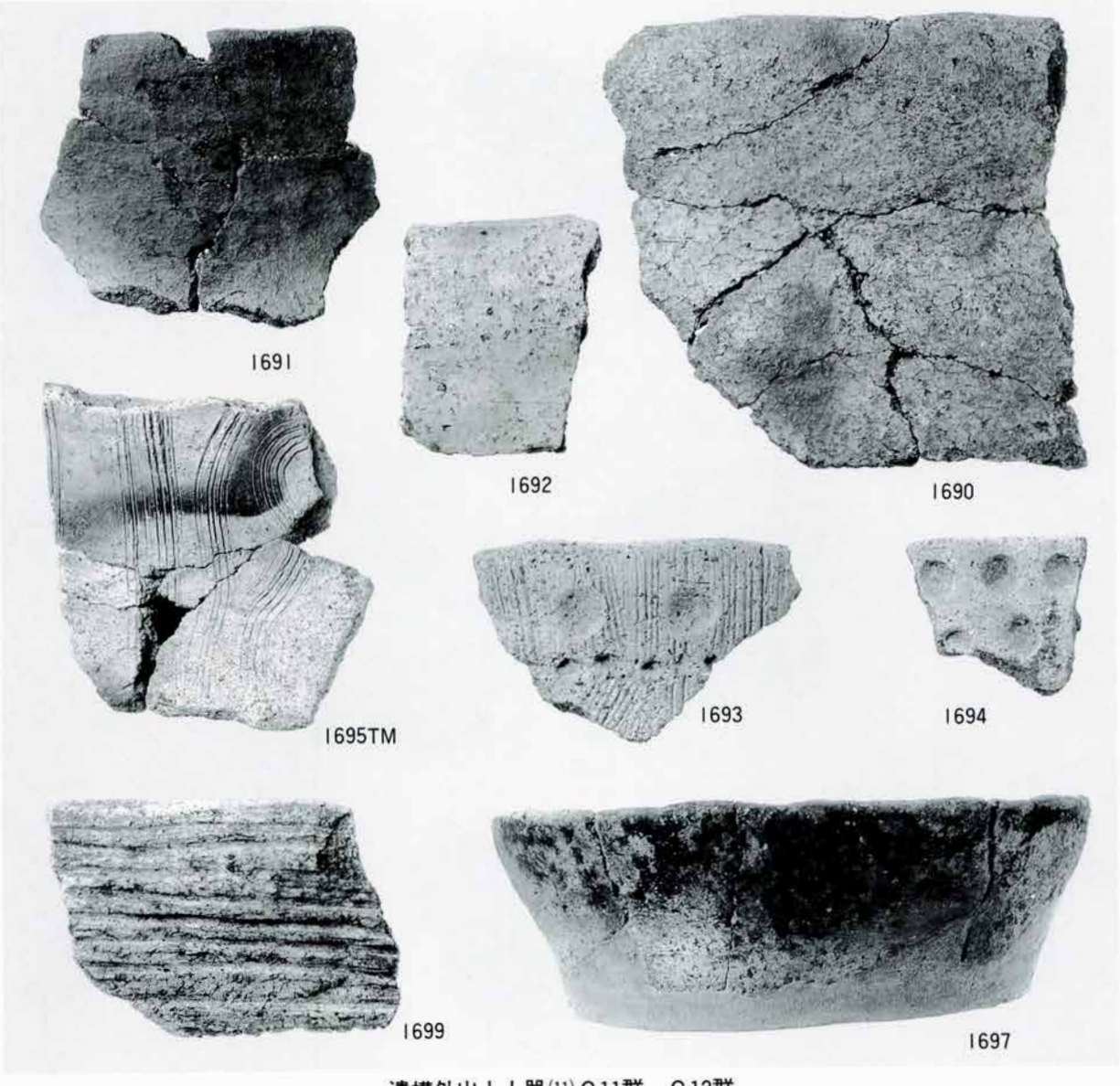
遺構外出土土器(9)C10群、C11群

図版42



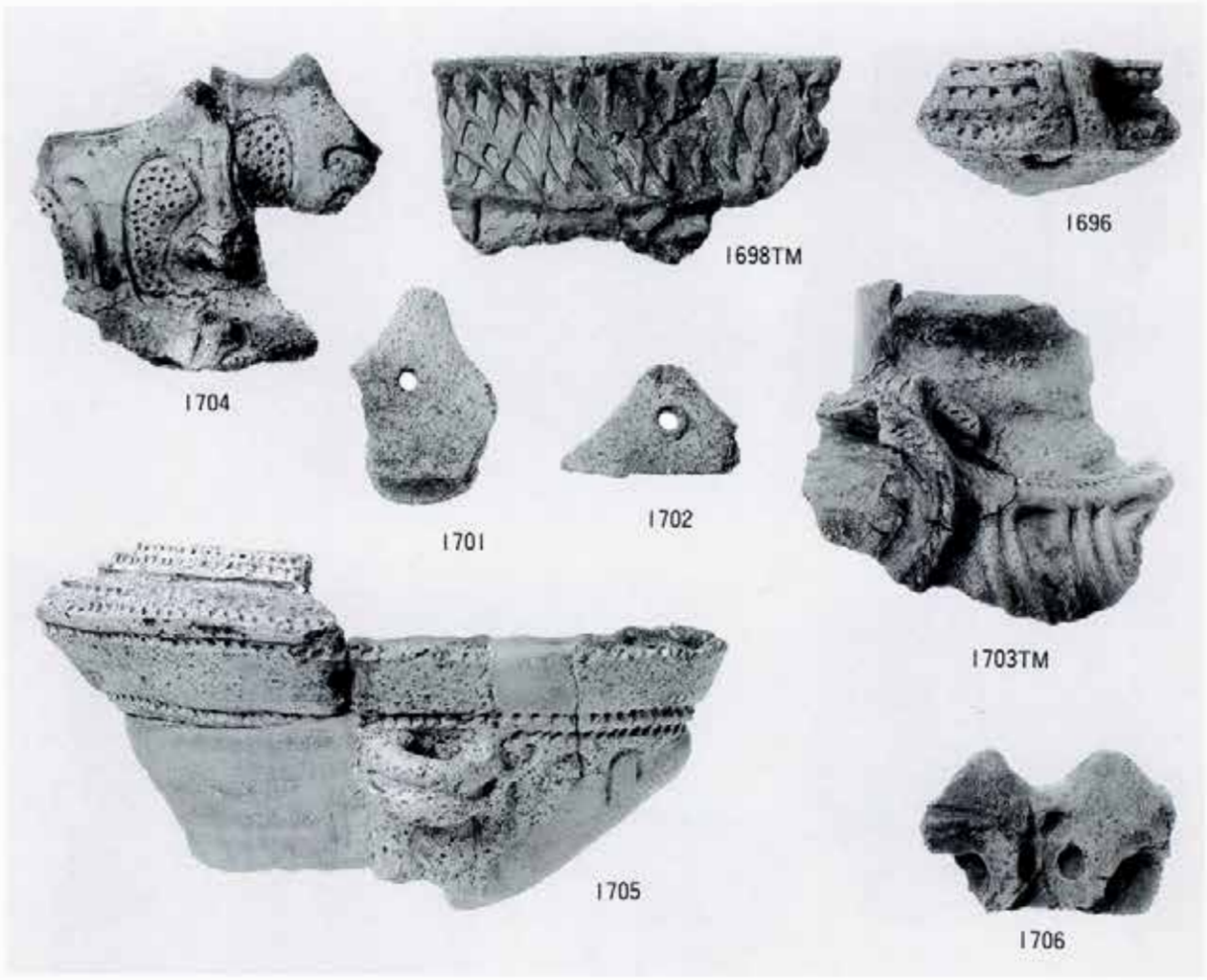
遺構外出土土器(10) C 11群

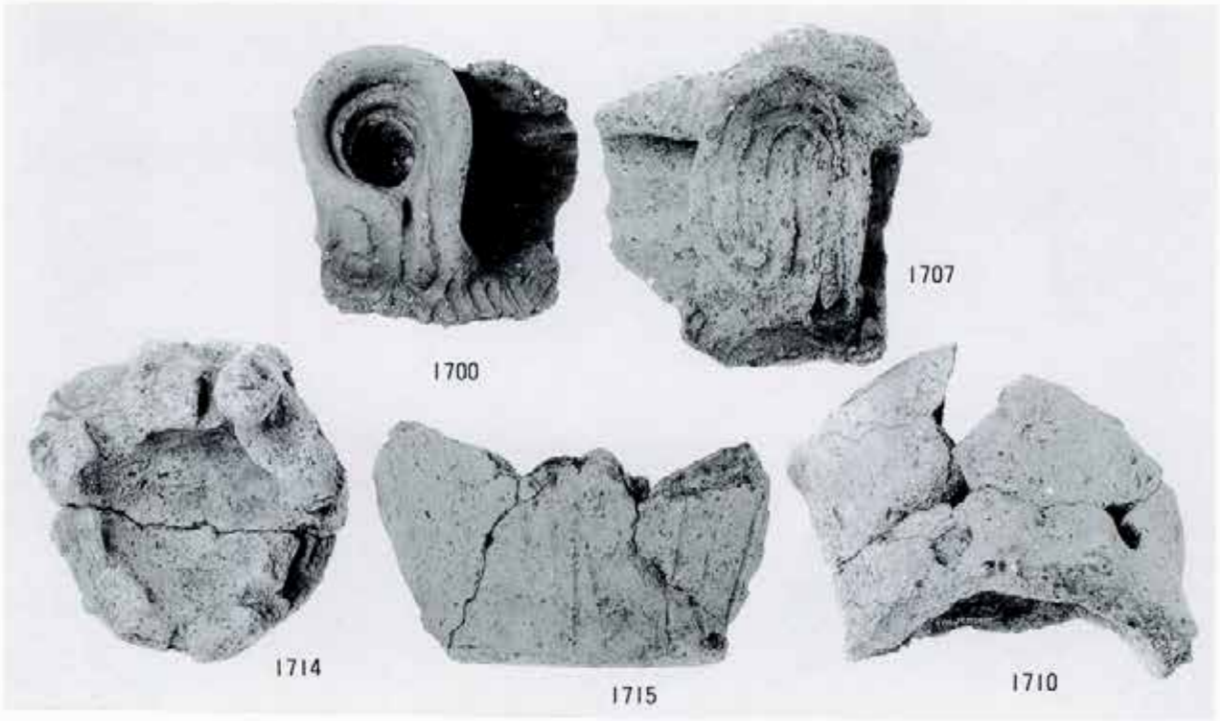




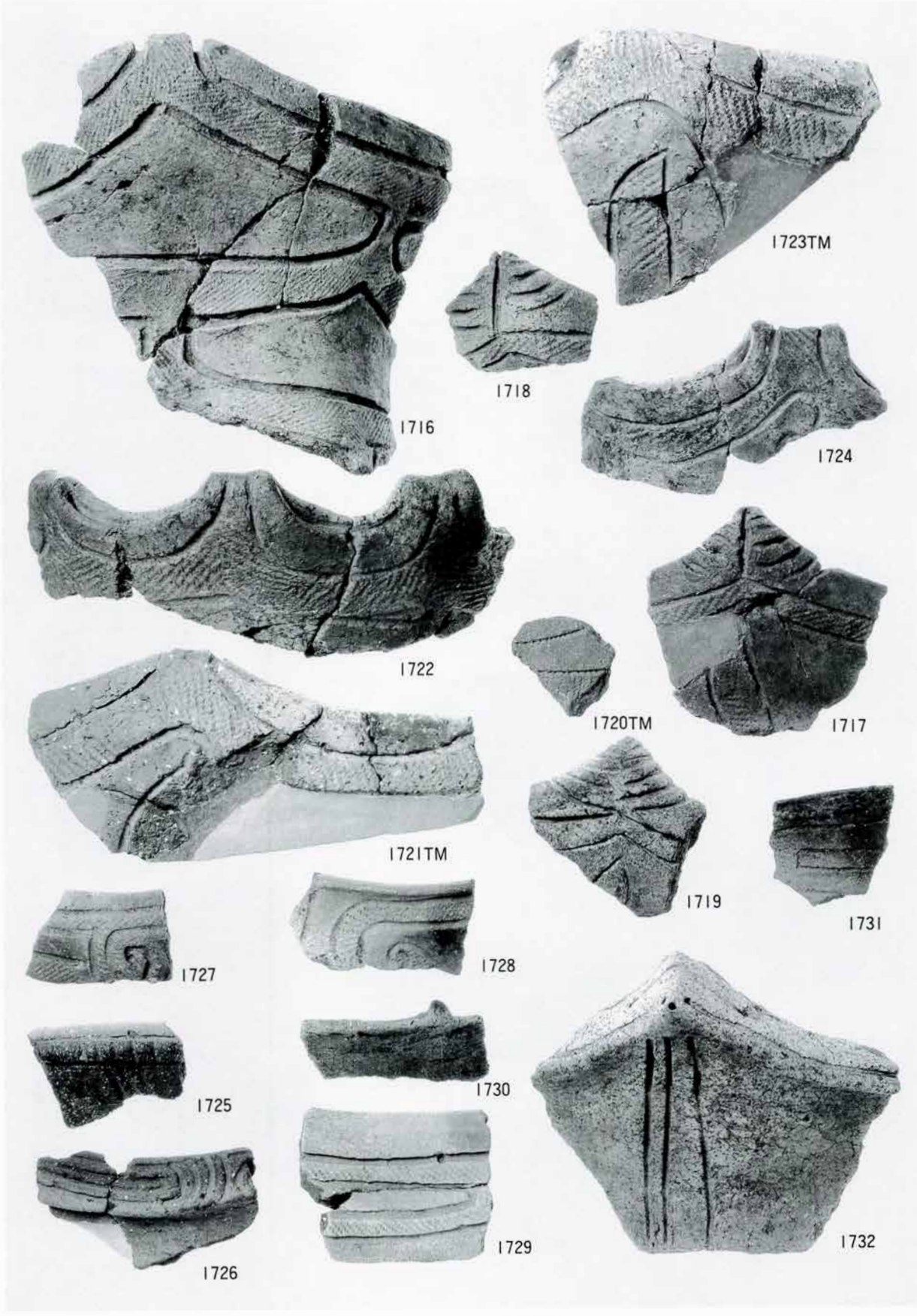
遺構外出土土器(11) C 11群、 C 12群

図版44



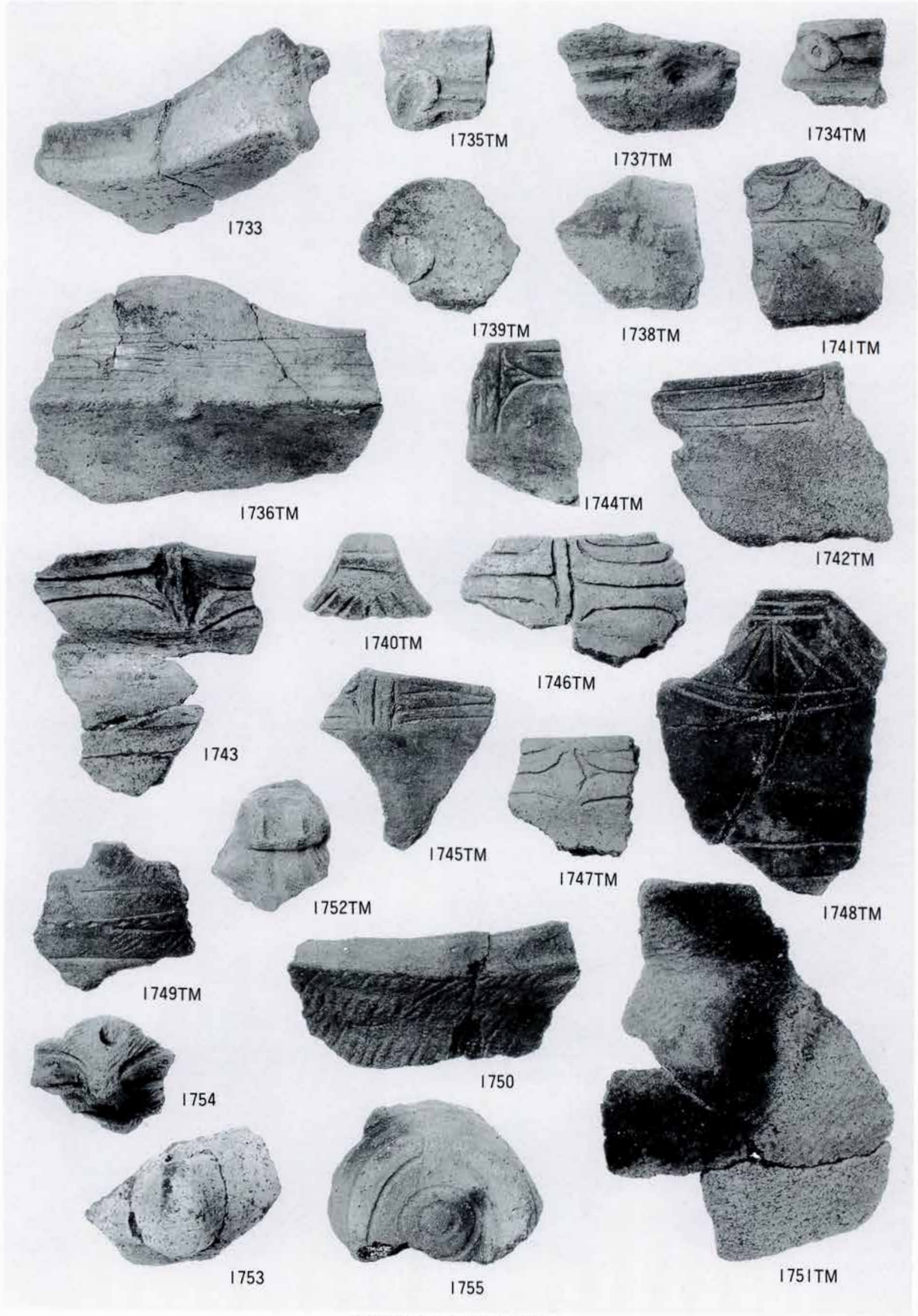


遺構外出土土器(12) C13群、C14群

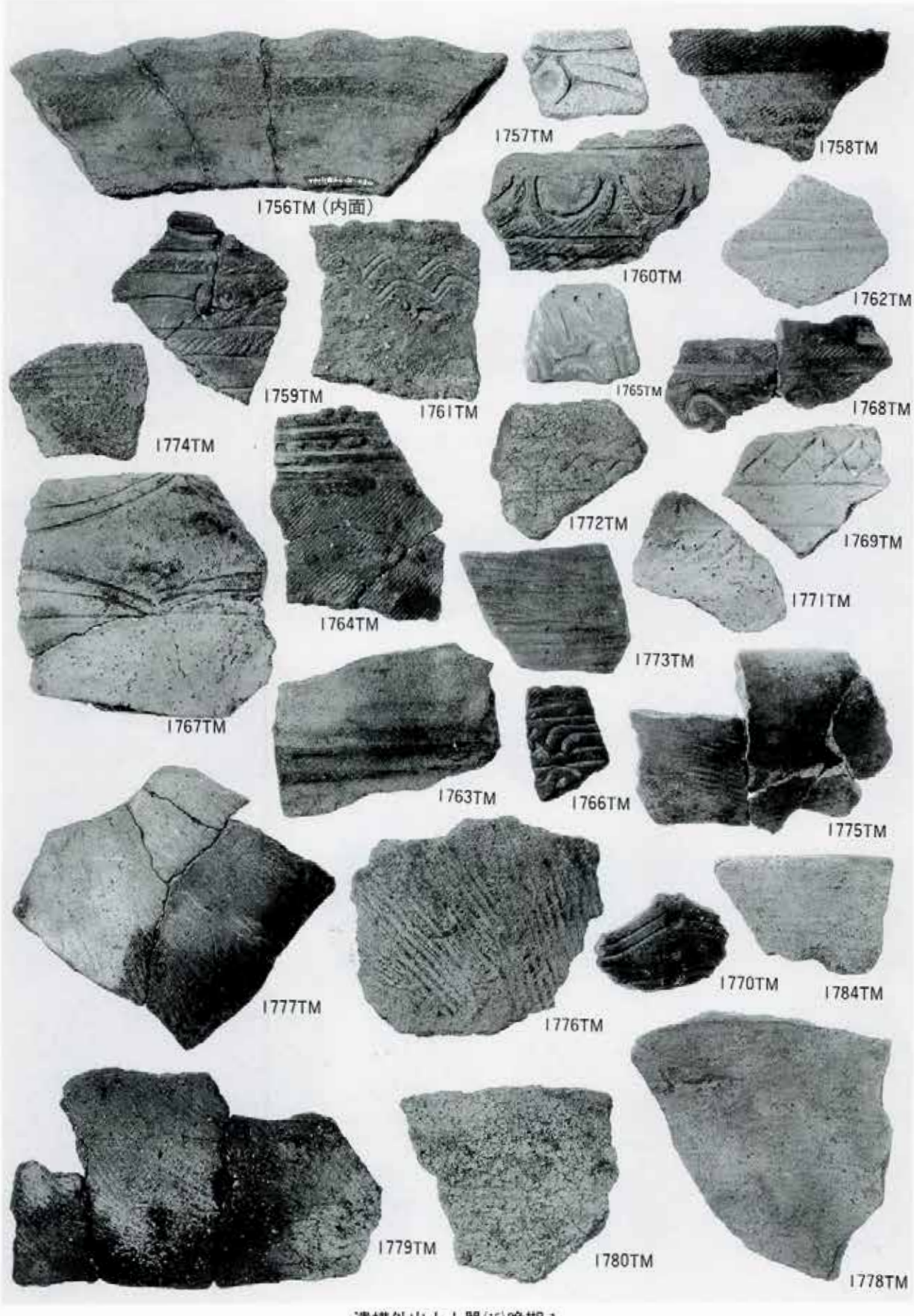


遺構外出土土器(13)後期1

図版46

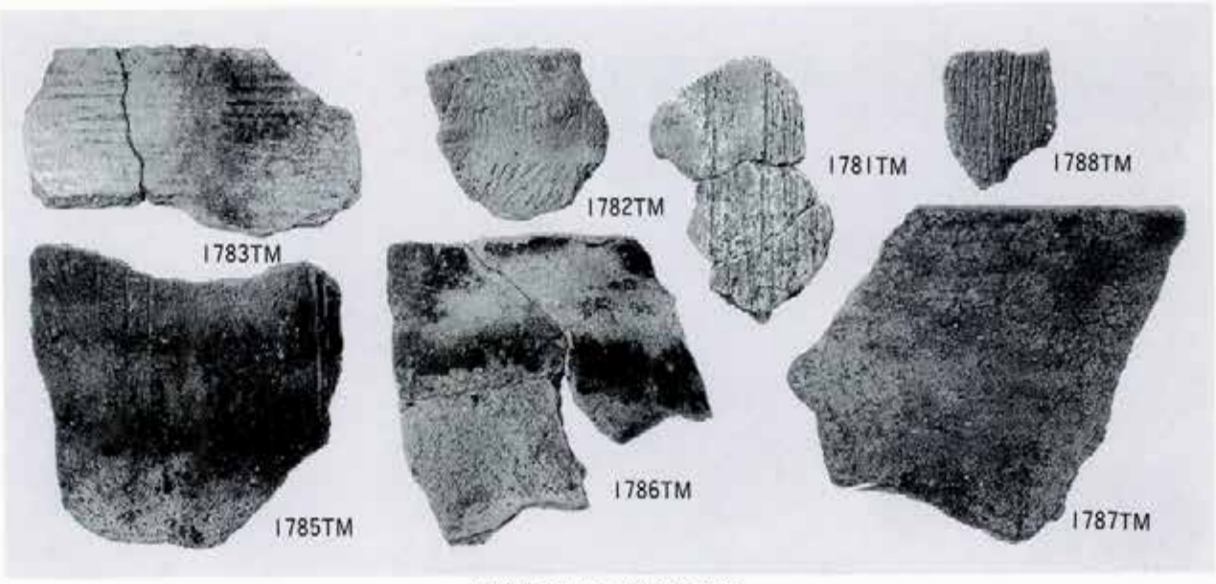


遺構外出土土器(14)後期2

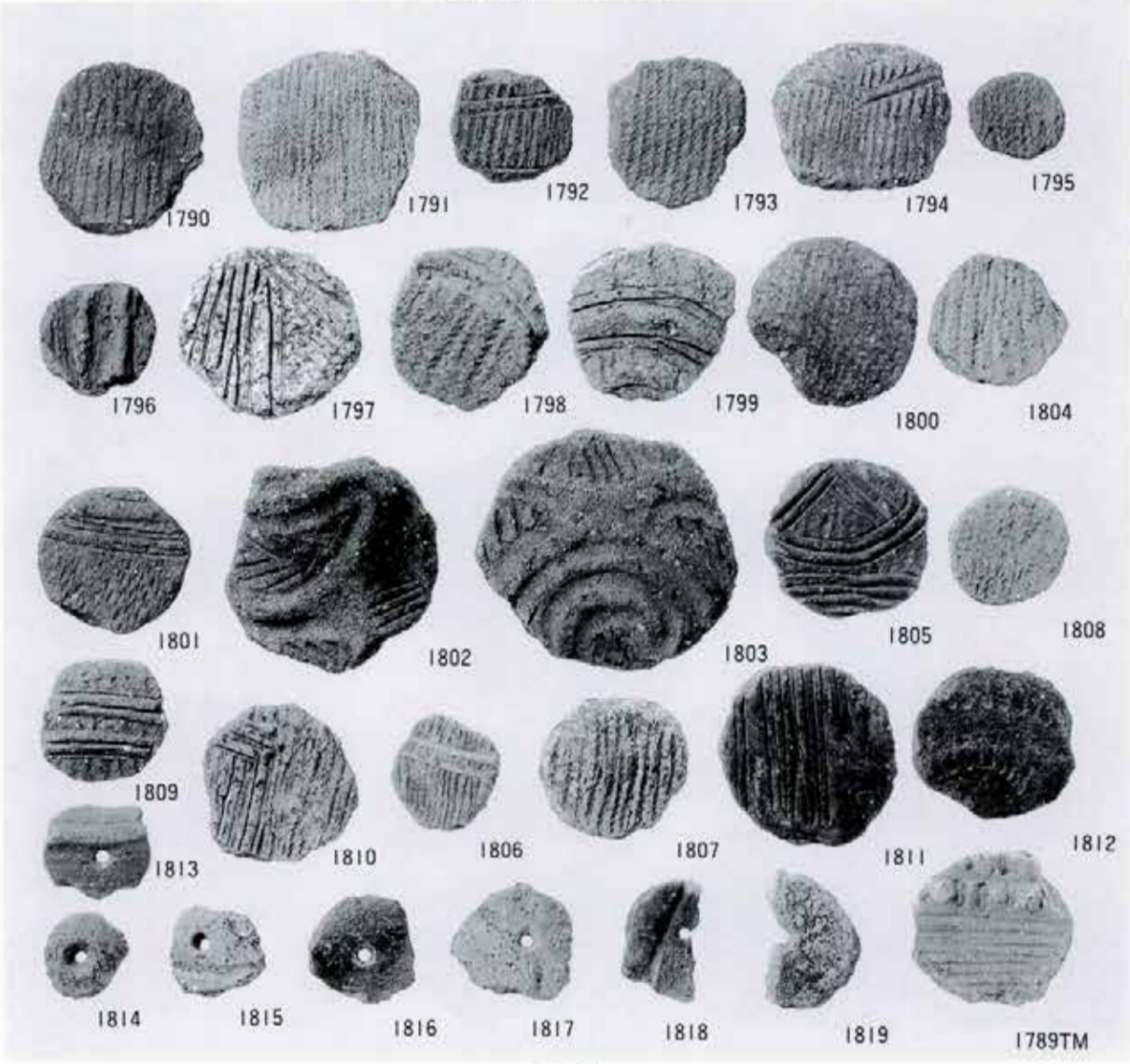


遺構外出土土器(15)晩期1

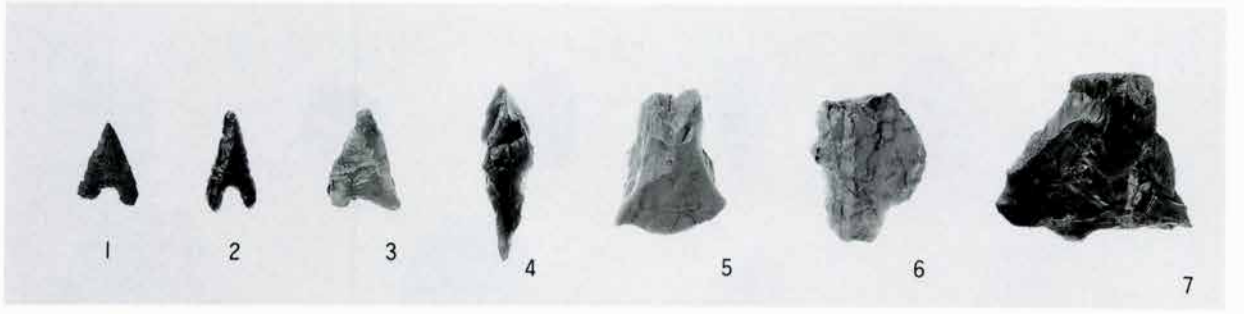
図版48

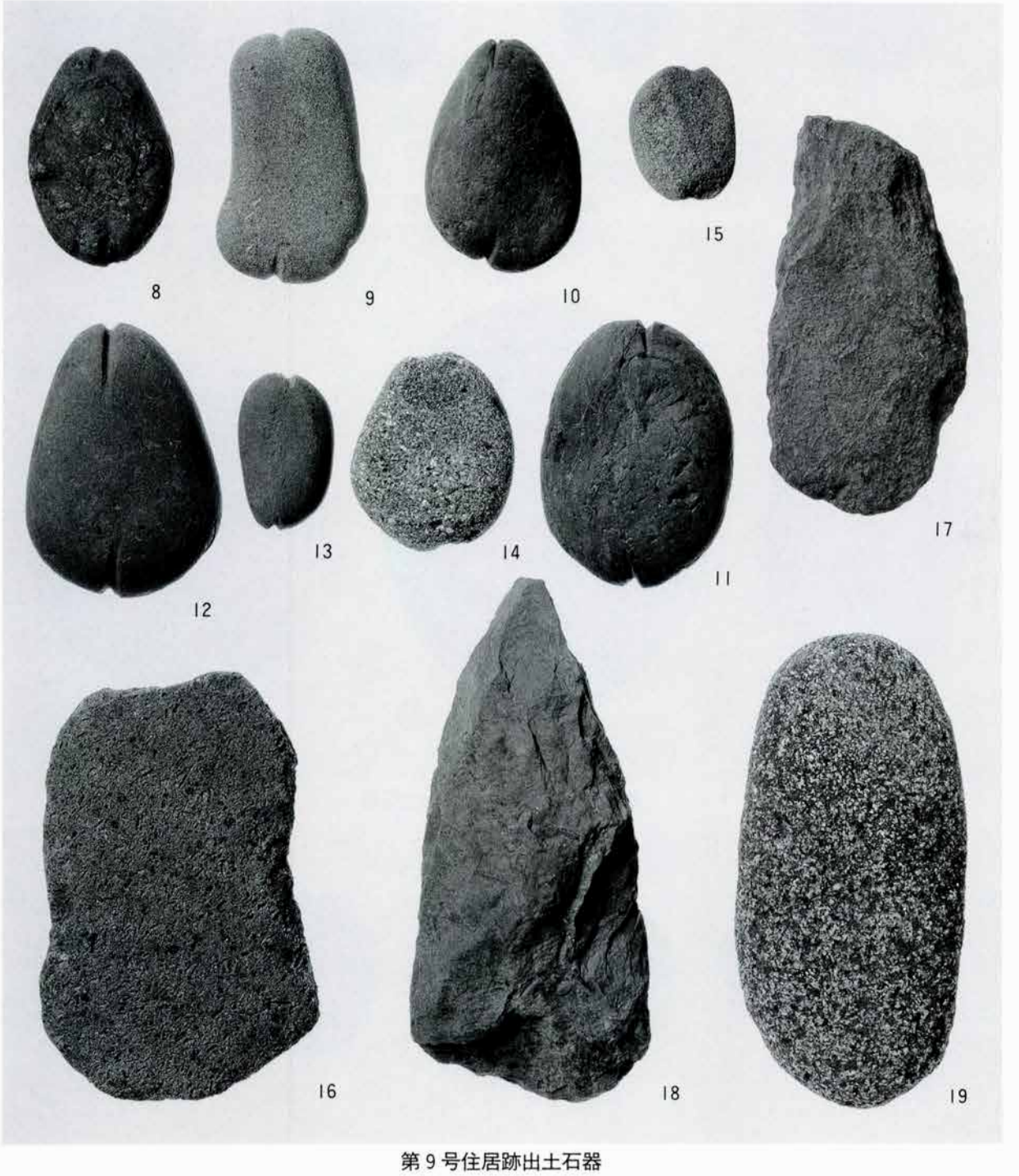


遺構外出土土器(16)晩期2



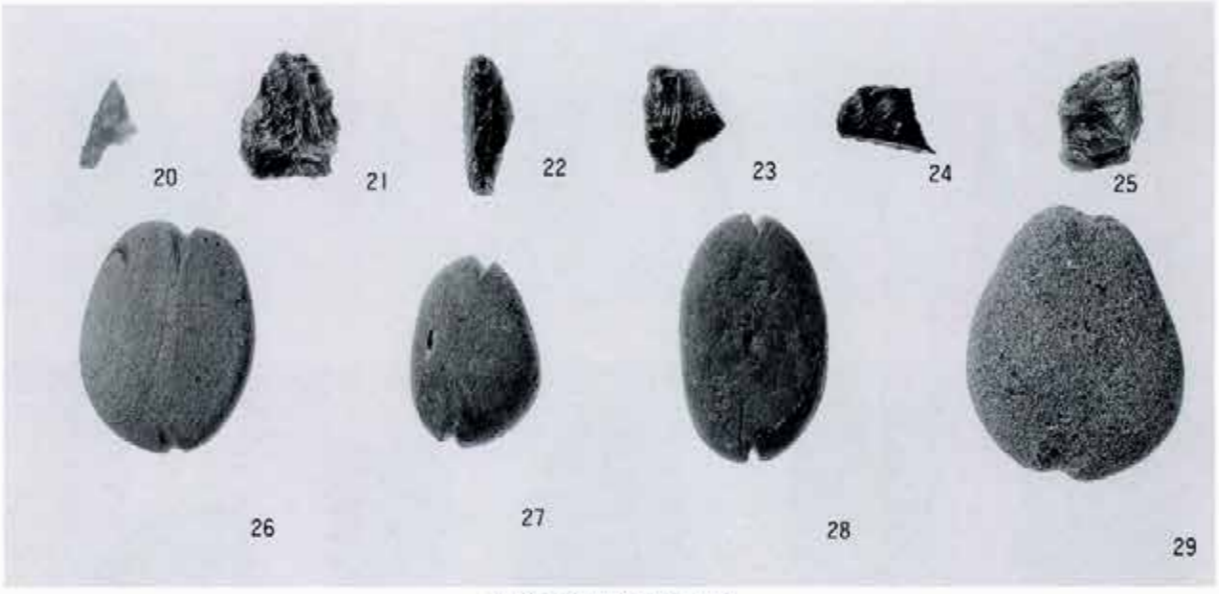
土製品



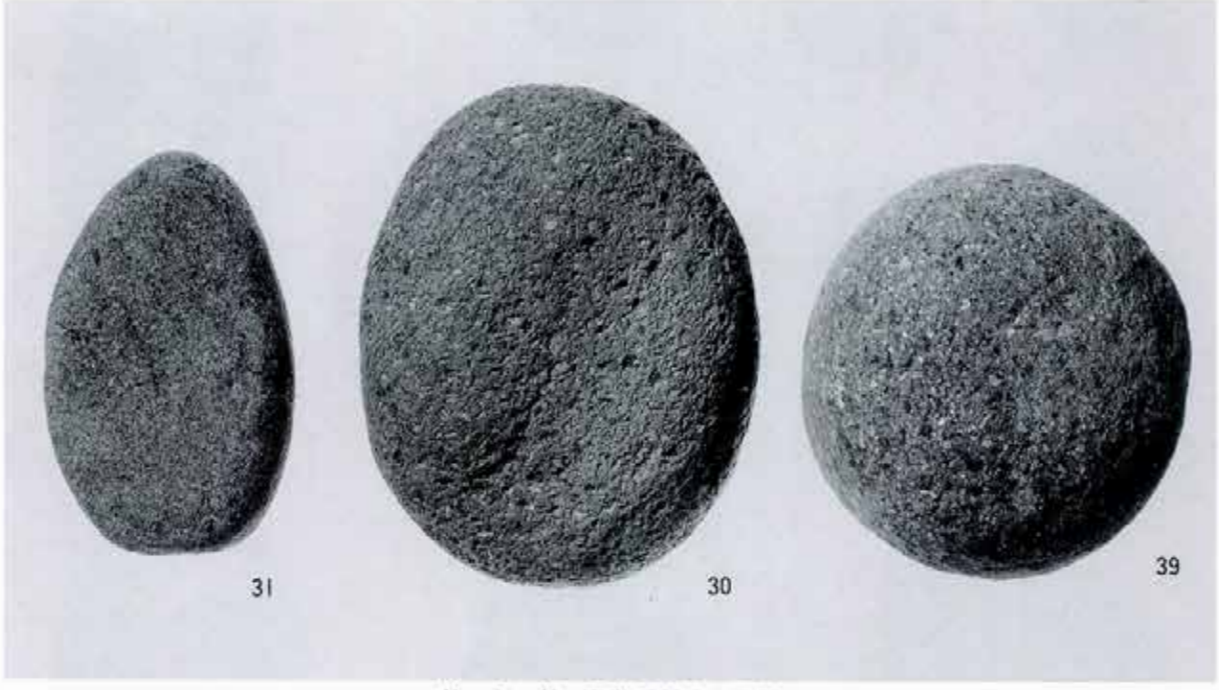


第 9 号住居跡出土石器

図版50

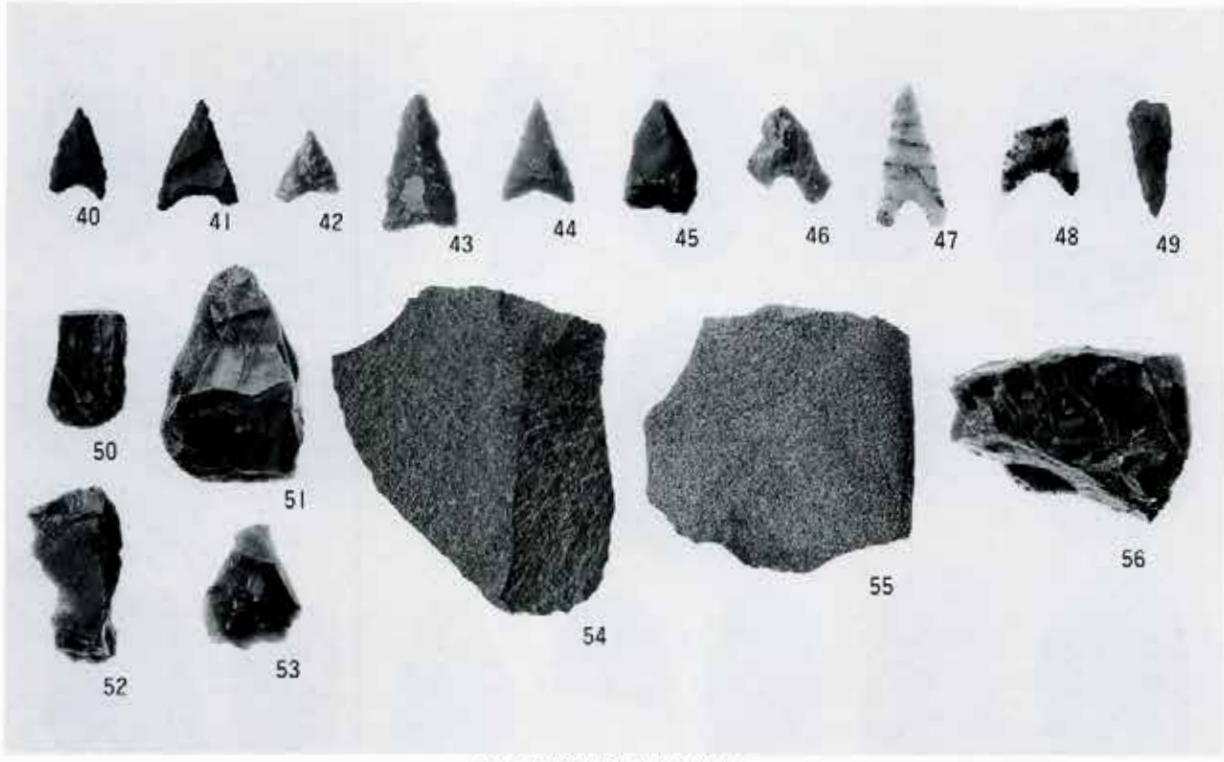


第10号住居跡出土石器



第10号・第11号住居跡出土石器

第11号住居跡出土石器

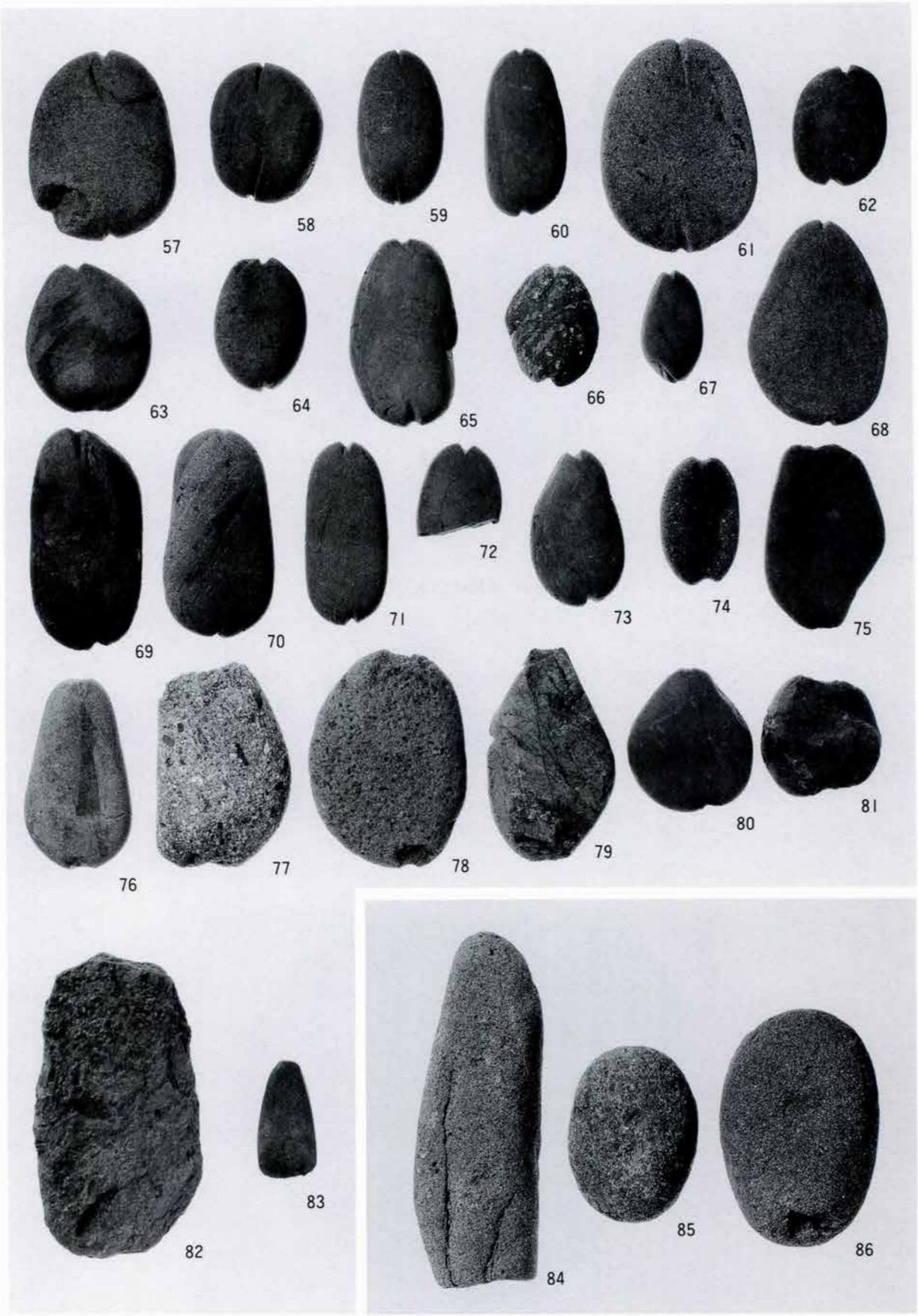


第12号住居跡出土石器(1)

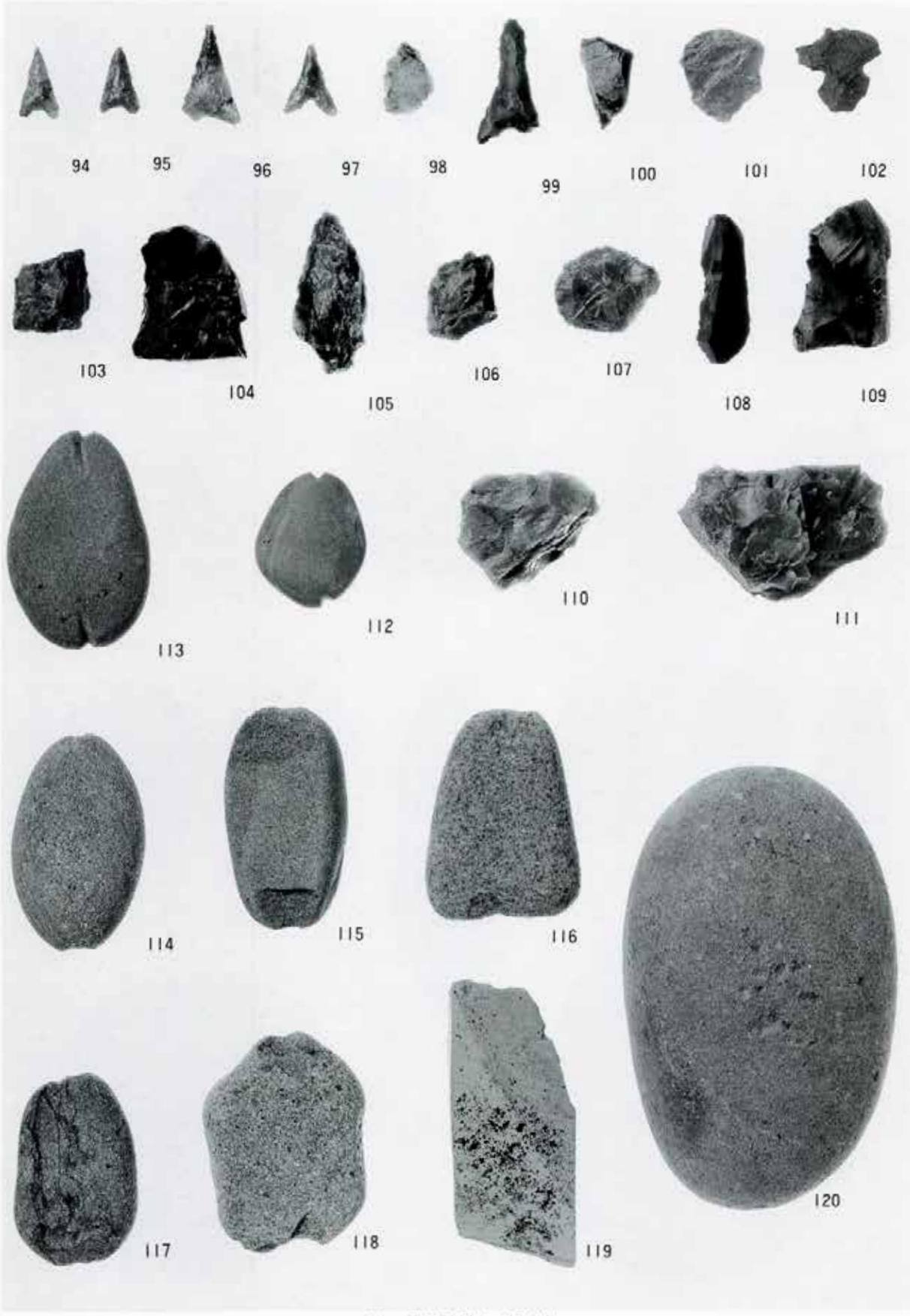
第13号住居跡出土石器

第12号住居跡出土石器(2)

図版52

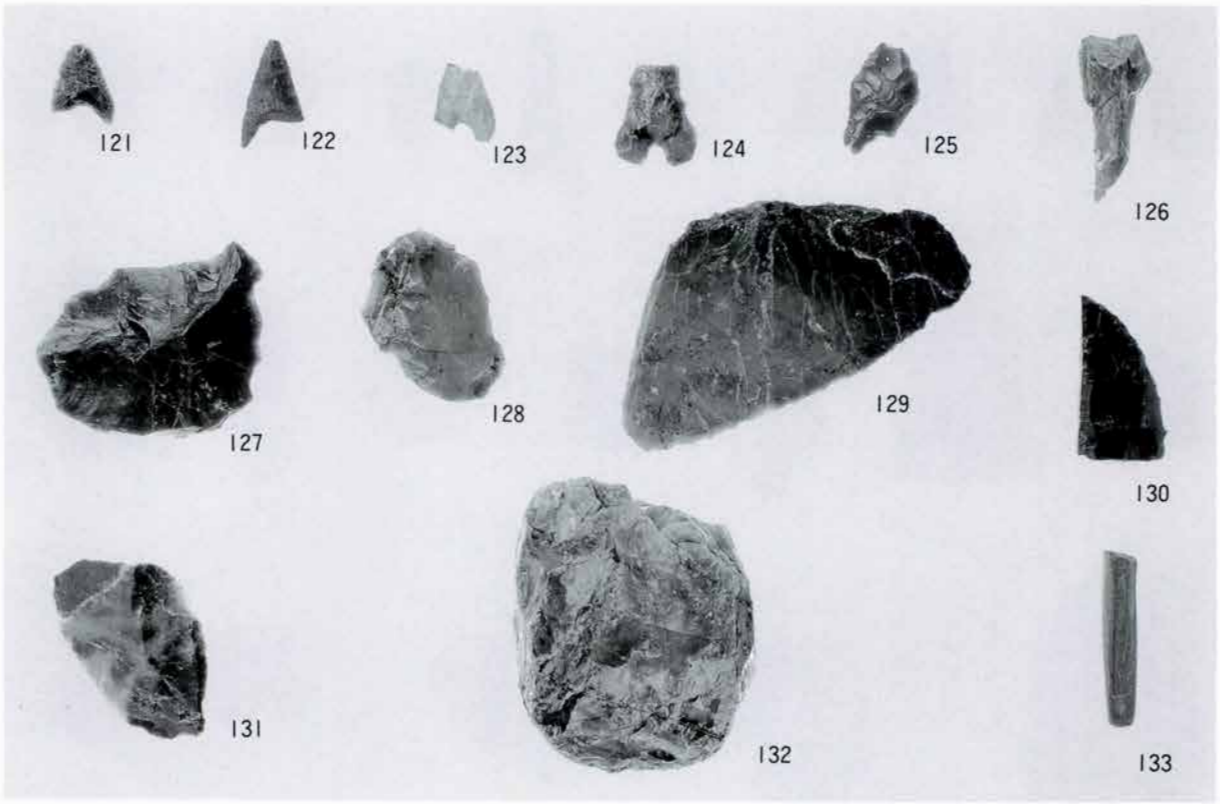


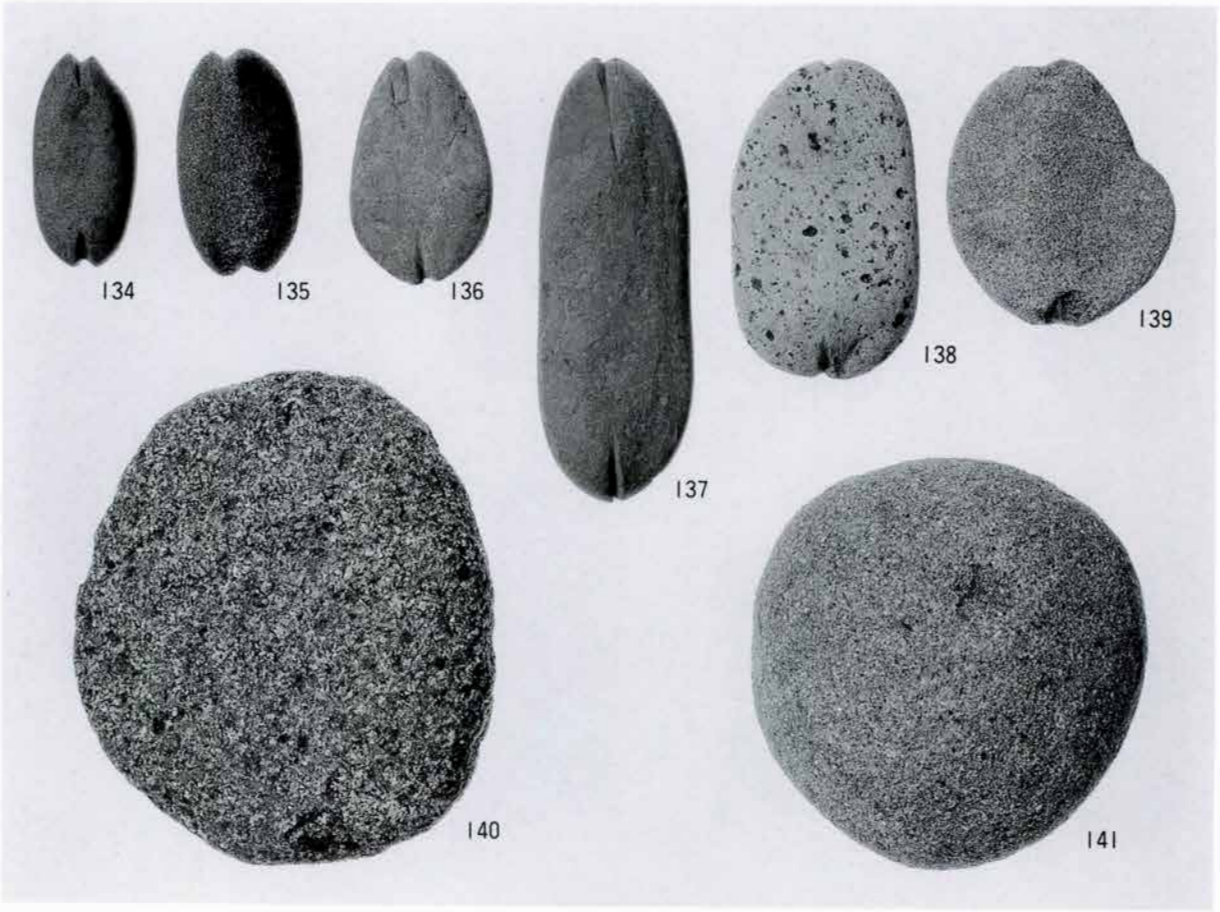
第12号住居跡出土石器(3)



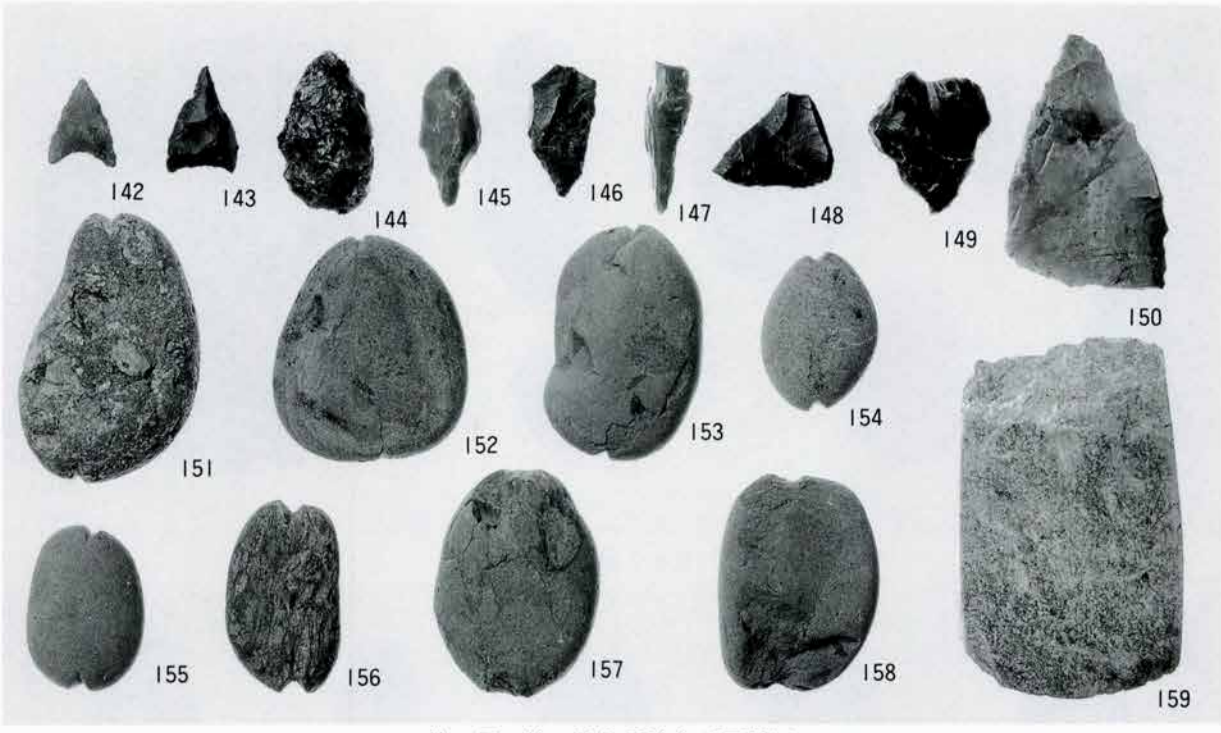
第14号住居跡出土石器

図版54





第16号住居跡出土石器

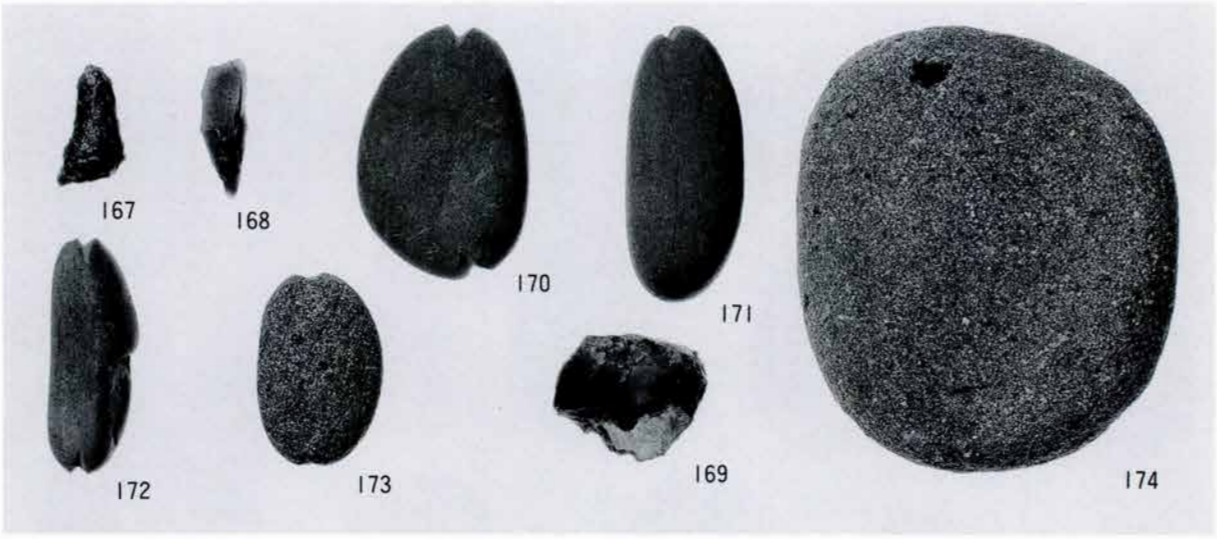


第17号、第18号住居跡出土石器(1)

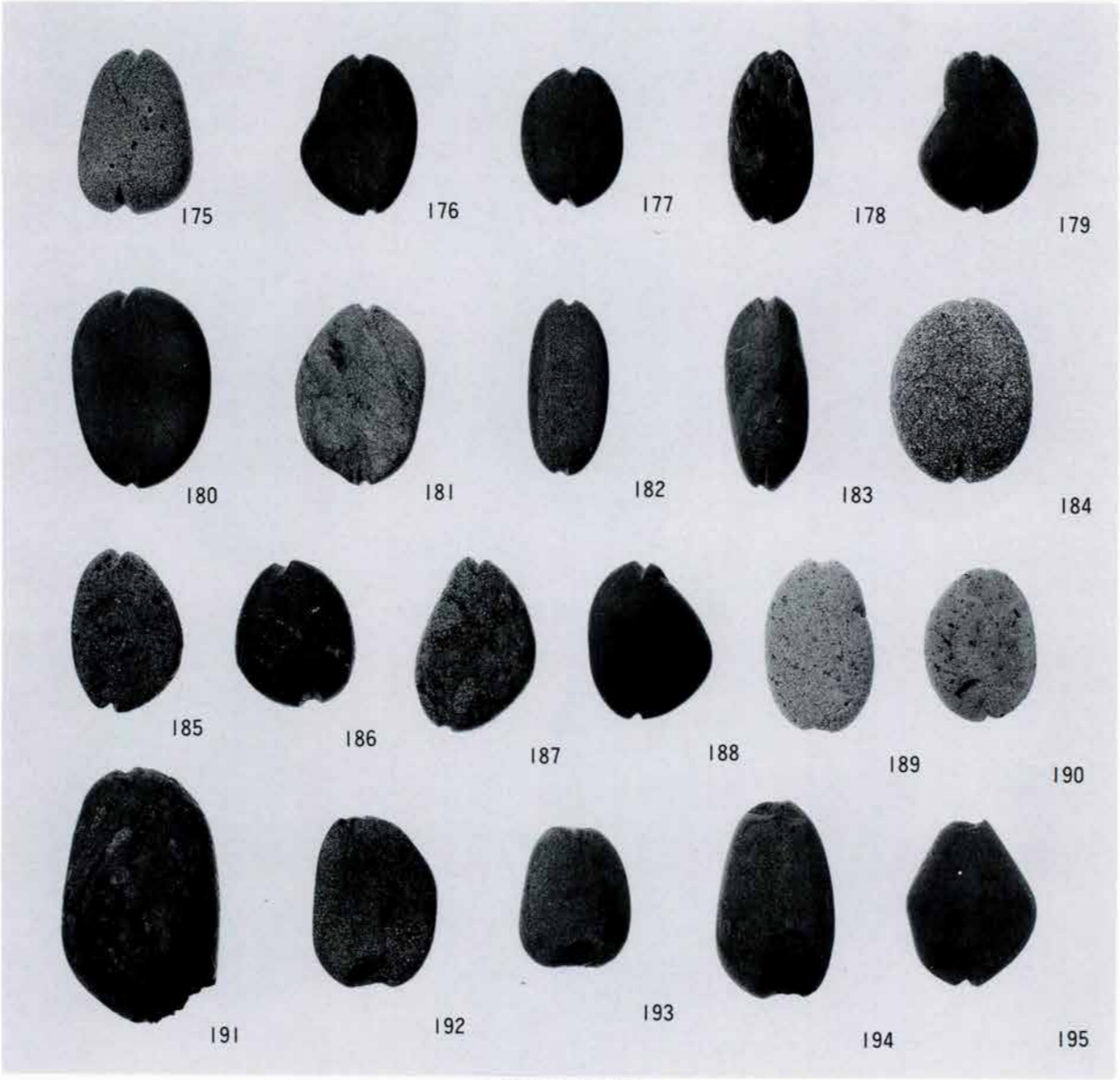
第17号、第18号住居跡出土石器(2)

ＳＫ１出土石器

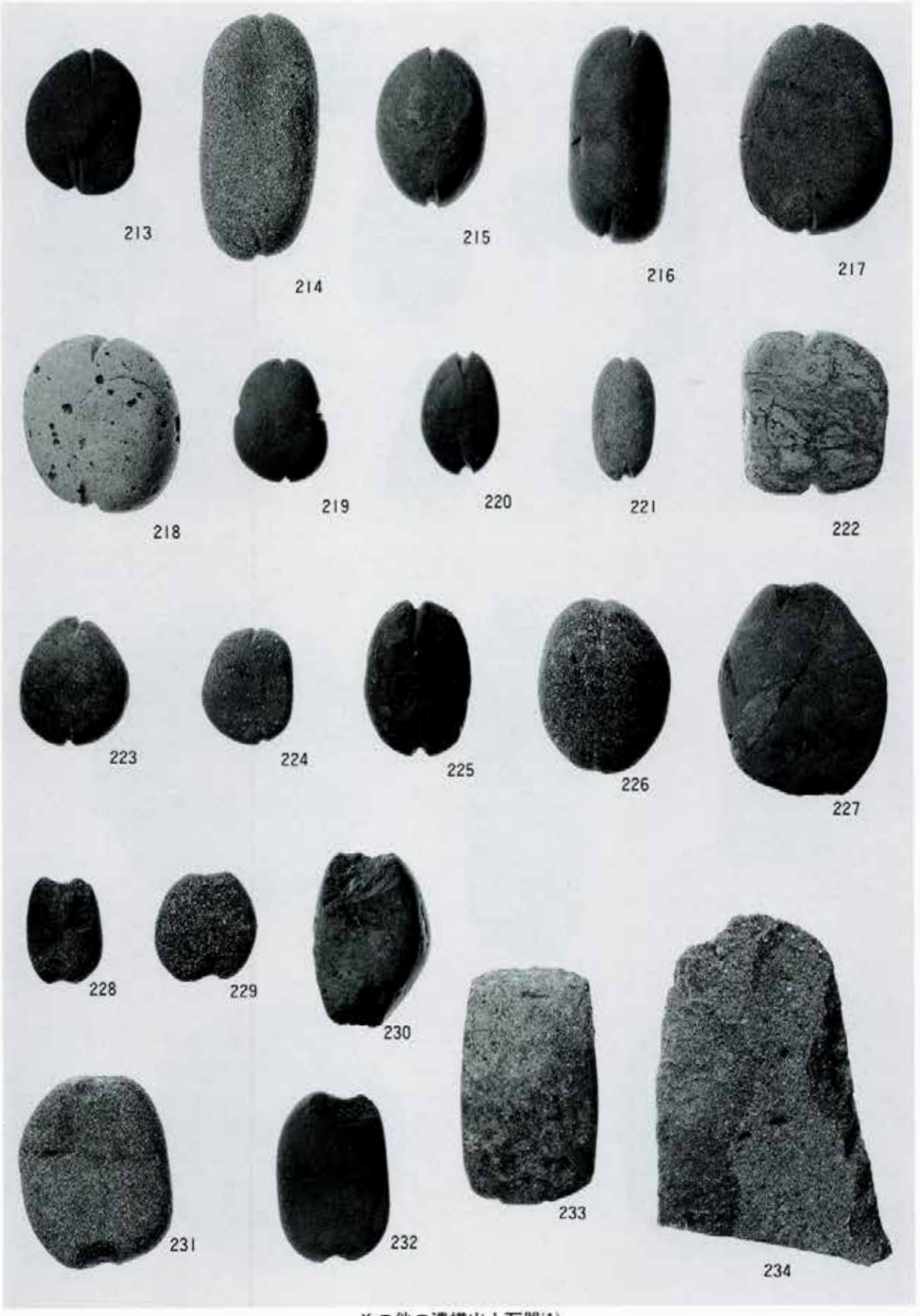
図版56



ＳＫ２出土石器

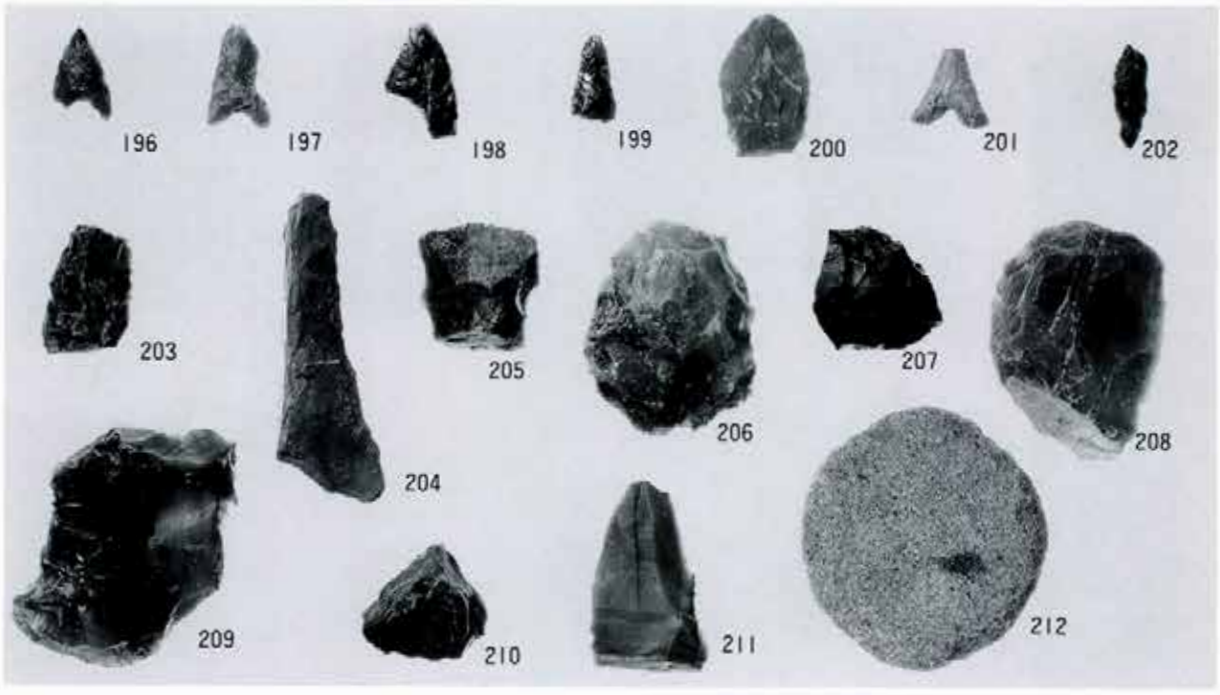


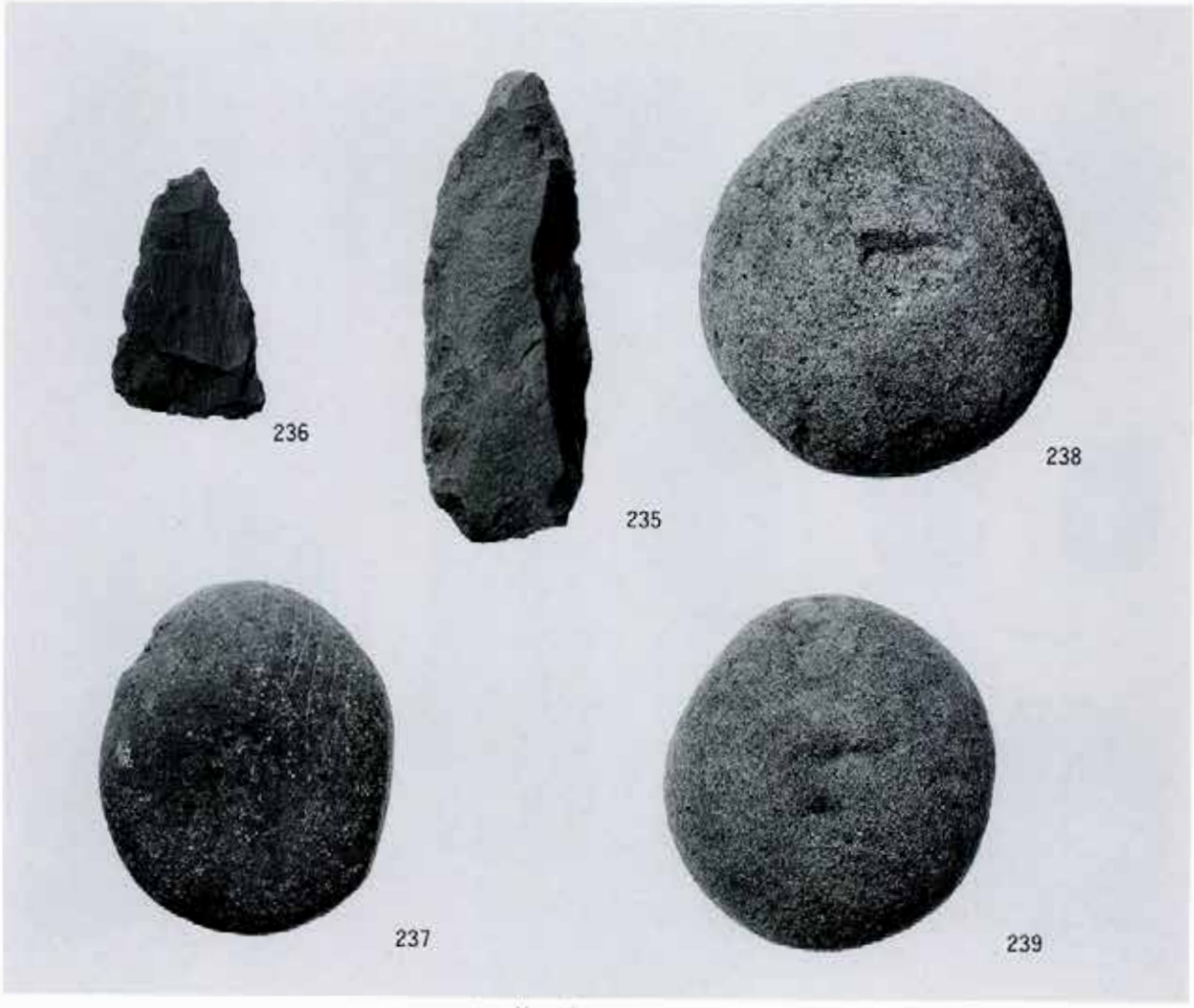
ＳＫ207出土石器



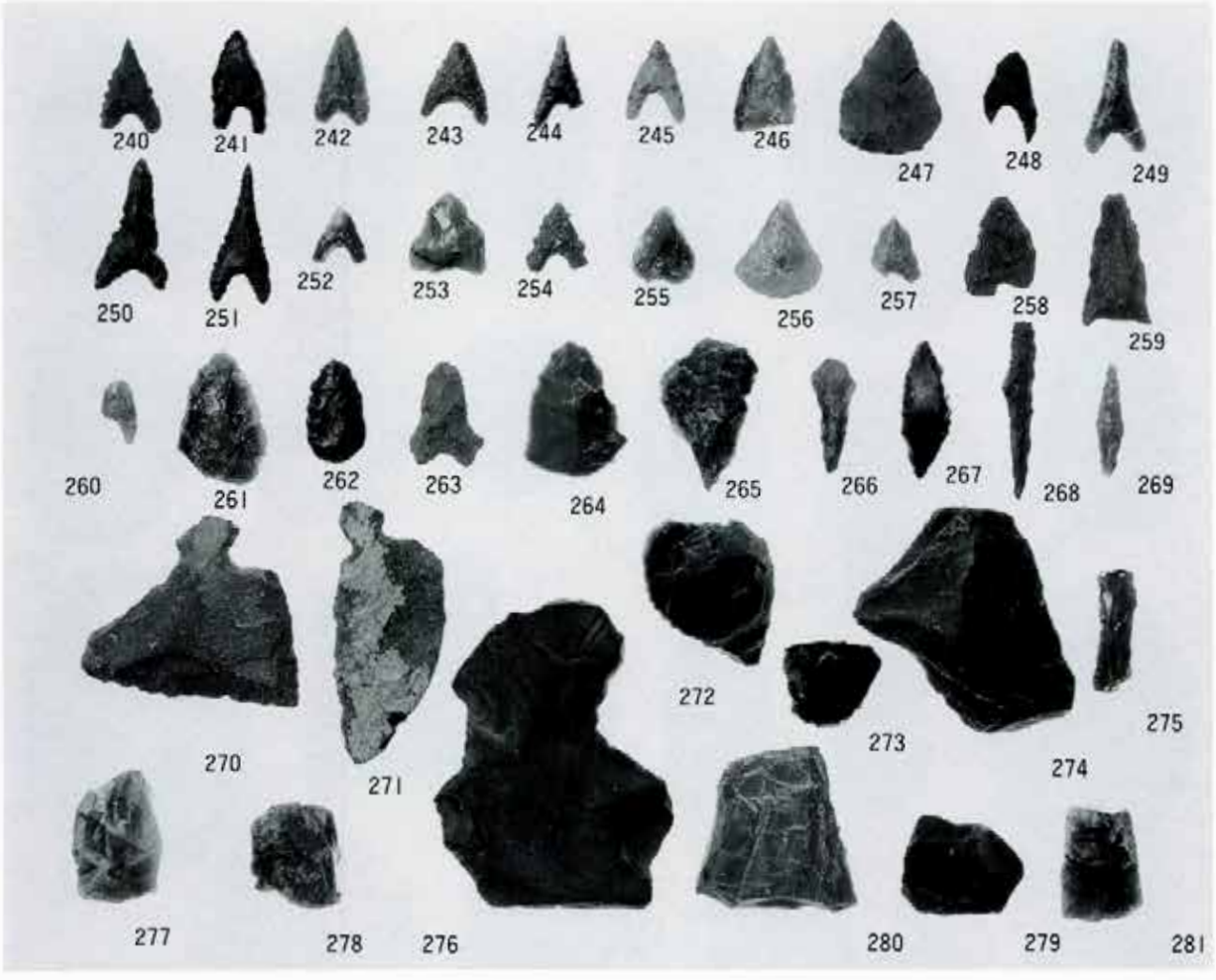
その他の遺構出土石器(1)

図版58





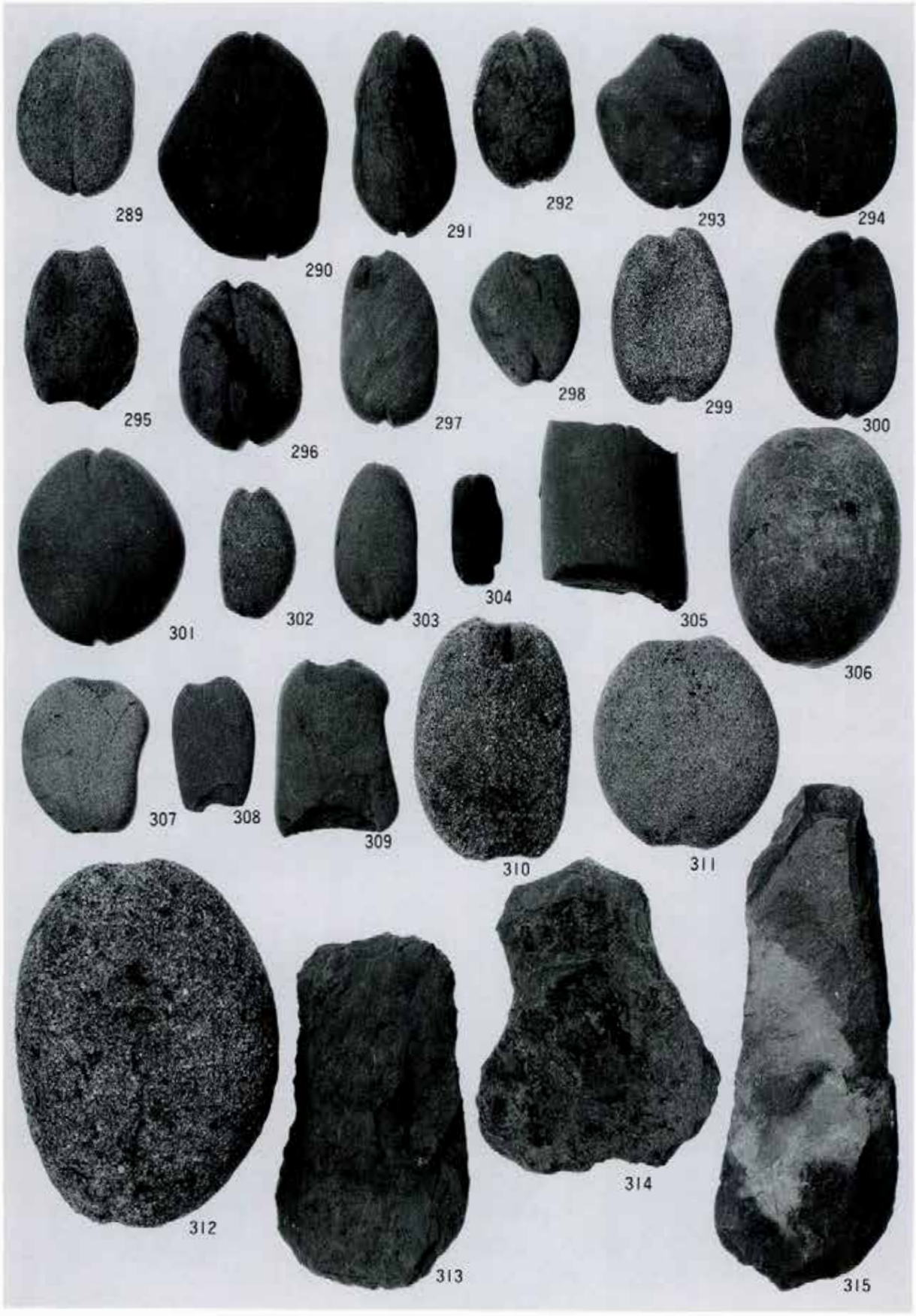
その他の遺構出土石器(2)


240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
280
279
281

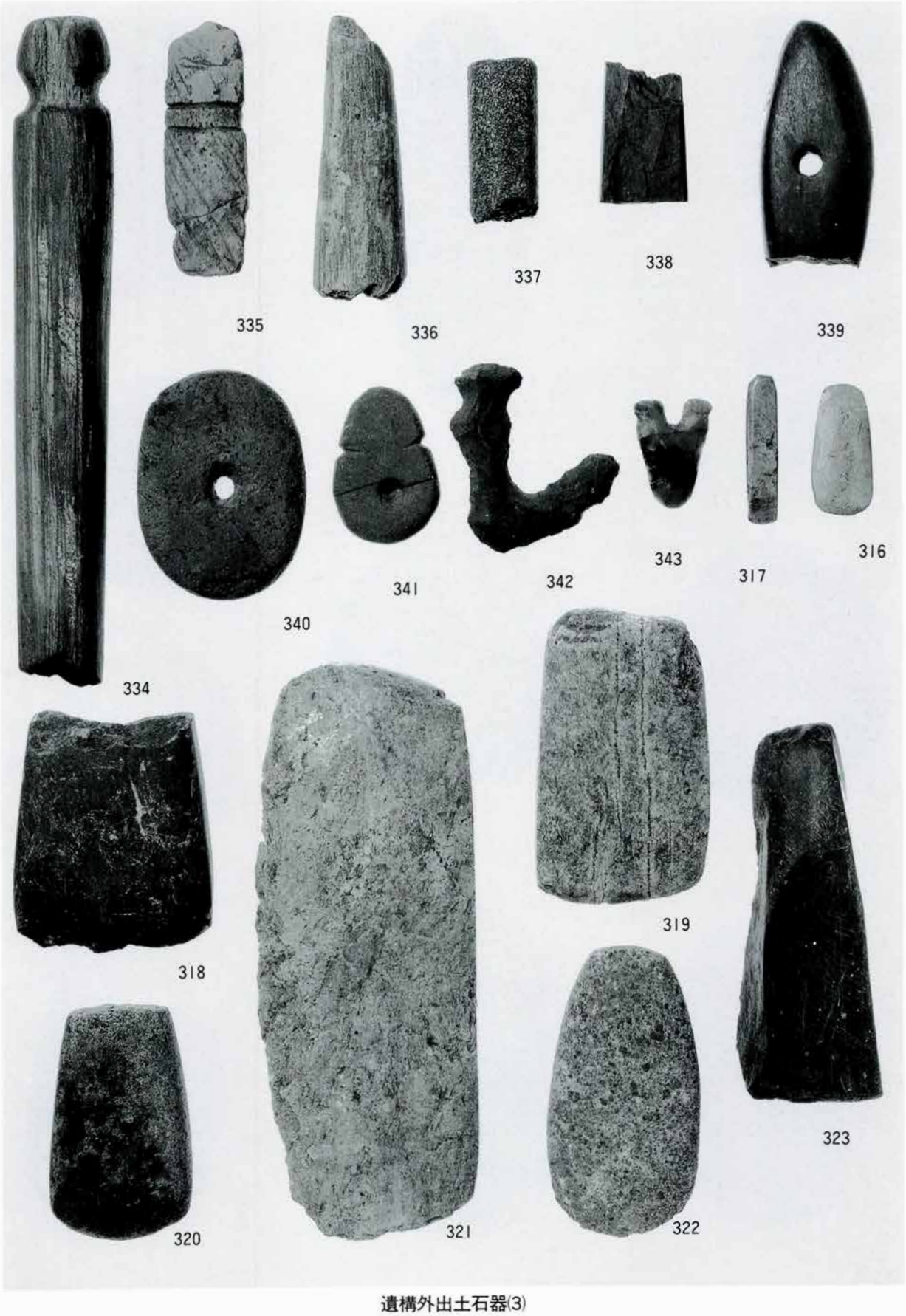
282
283
284
285
286
287
288

遺構外出土石器(1)

図版60

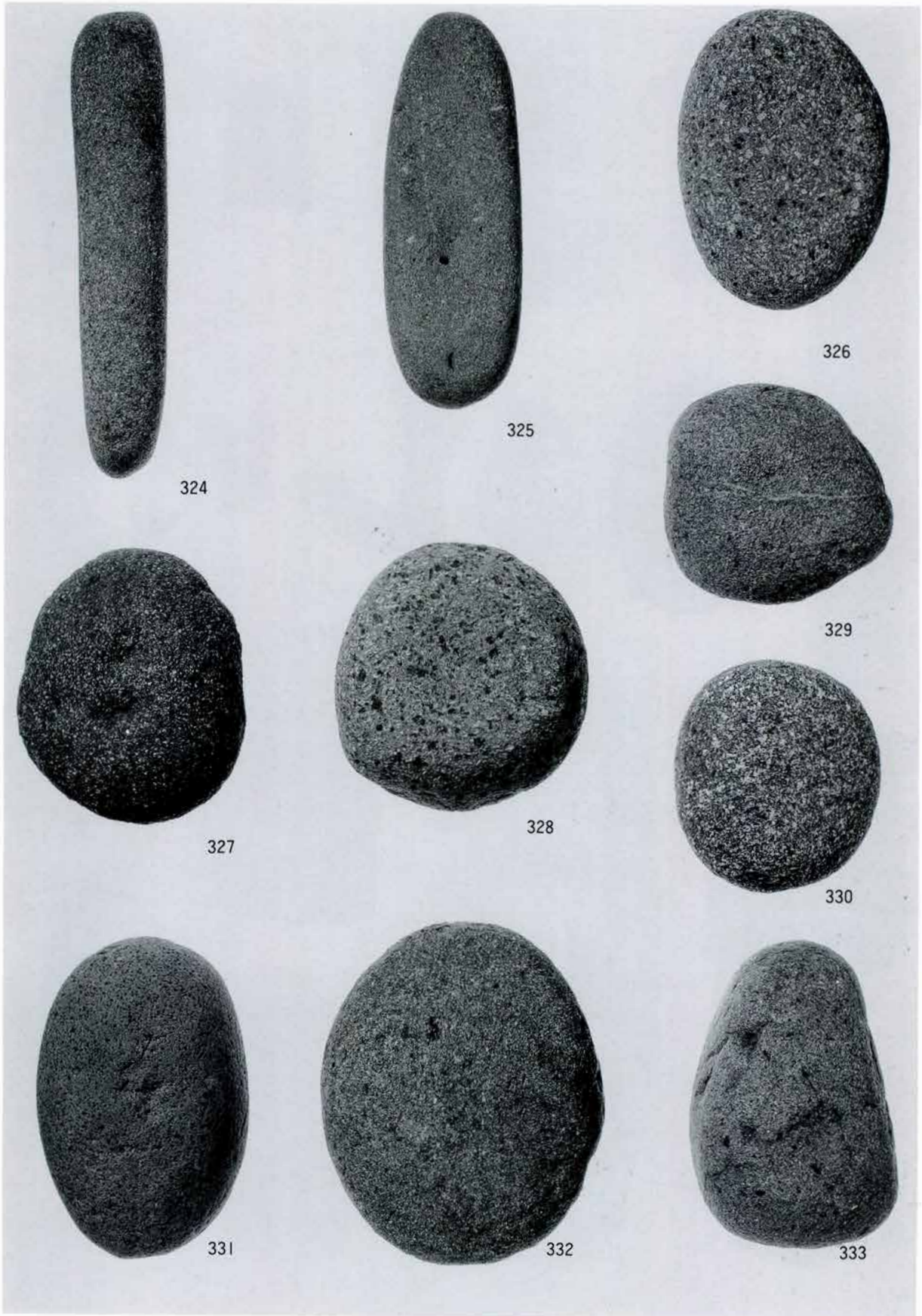


遺構外出土石器(2)


335
336
337
338
339
340
341
342
343
317
316
334
318
319
321
323
320
322

遺構外出土石器(3)

図版62

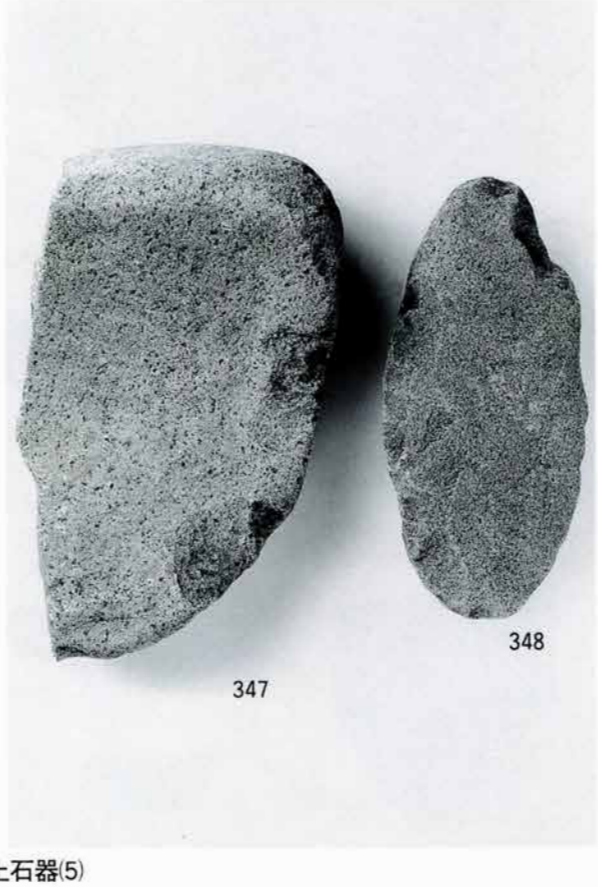


遺構外出土石器(4)

344

345

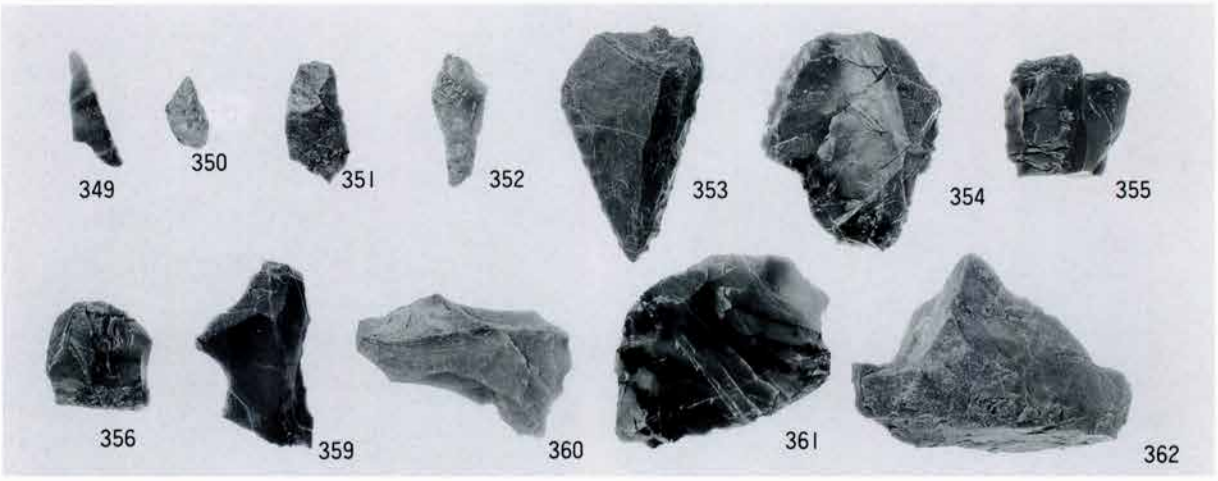
346

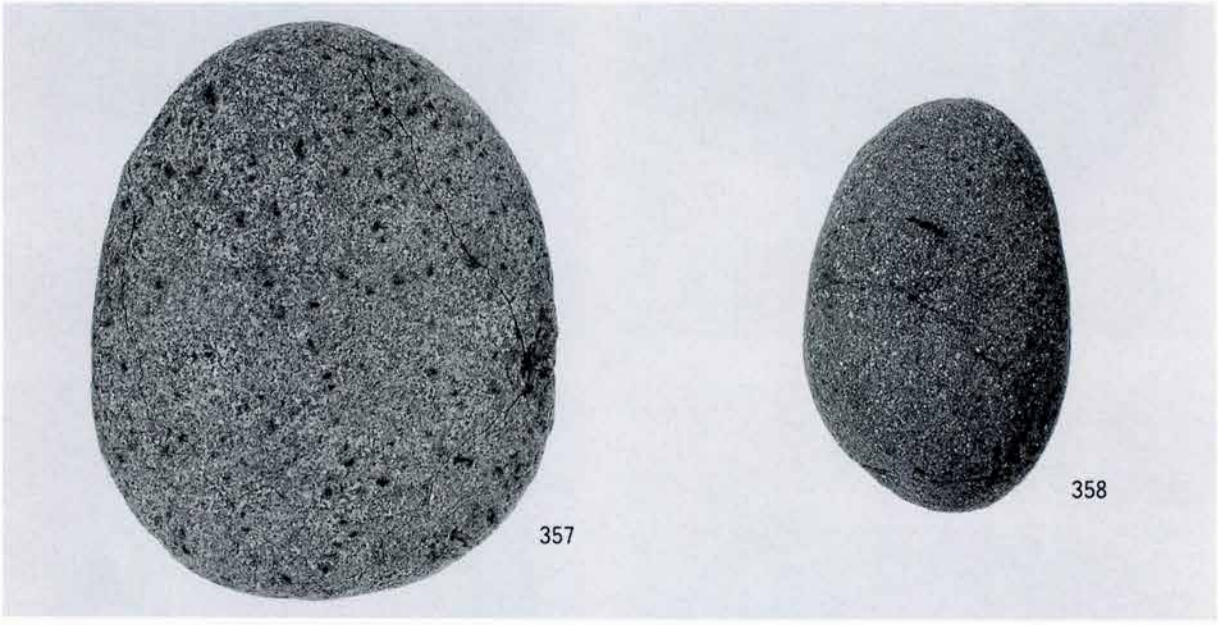

347

348

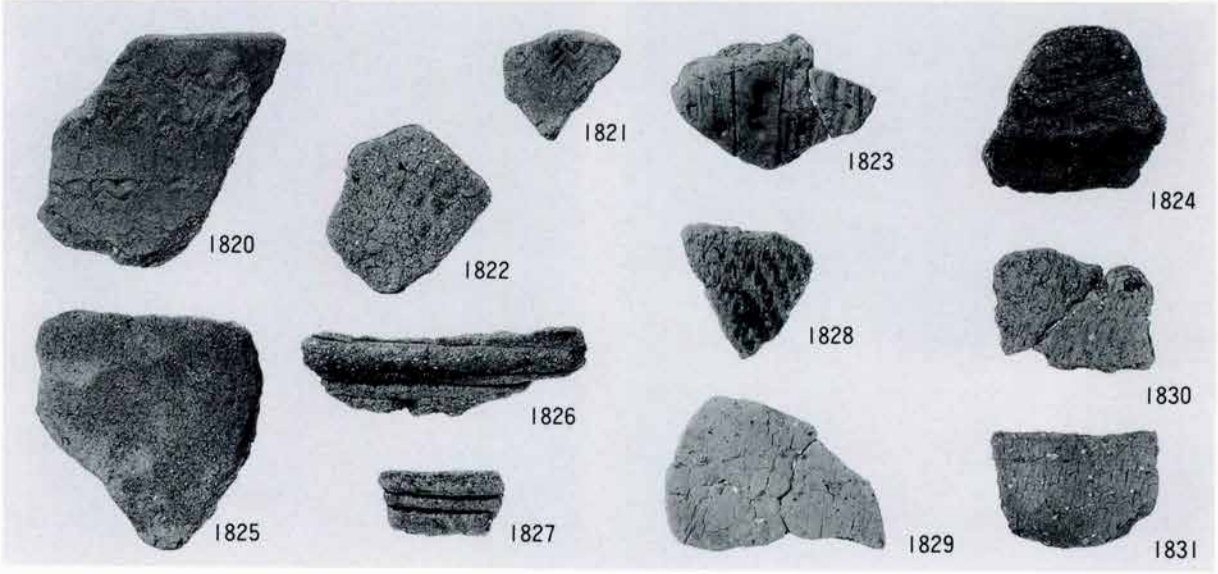
遺構外出土石器(5)

図版64





小谷戸遺跡出土石器



小谷戸遺跡出土土器

505

566

584

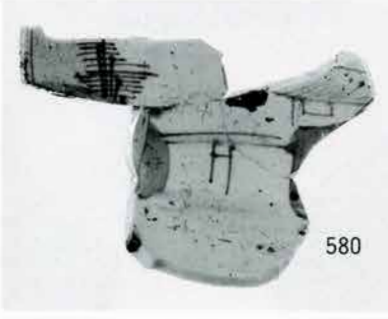
511

574TM

586TM

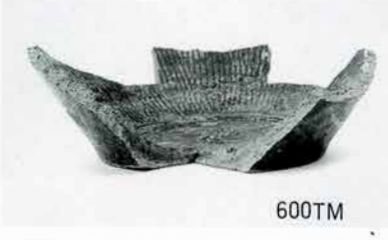
577

518

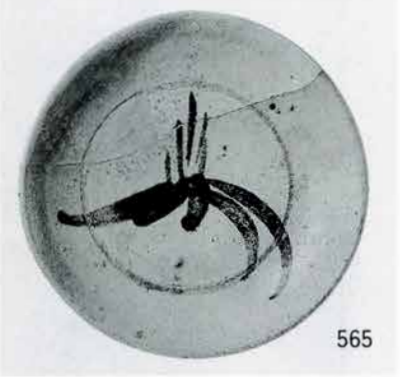

580

587

578


600TM

592


565

567

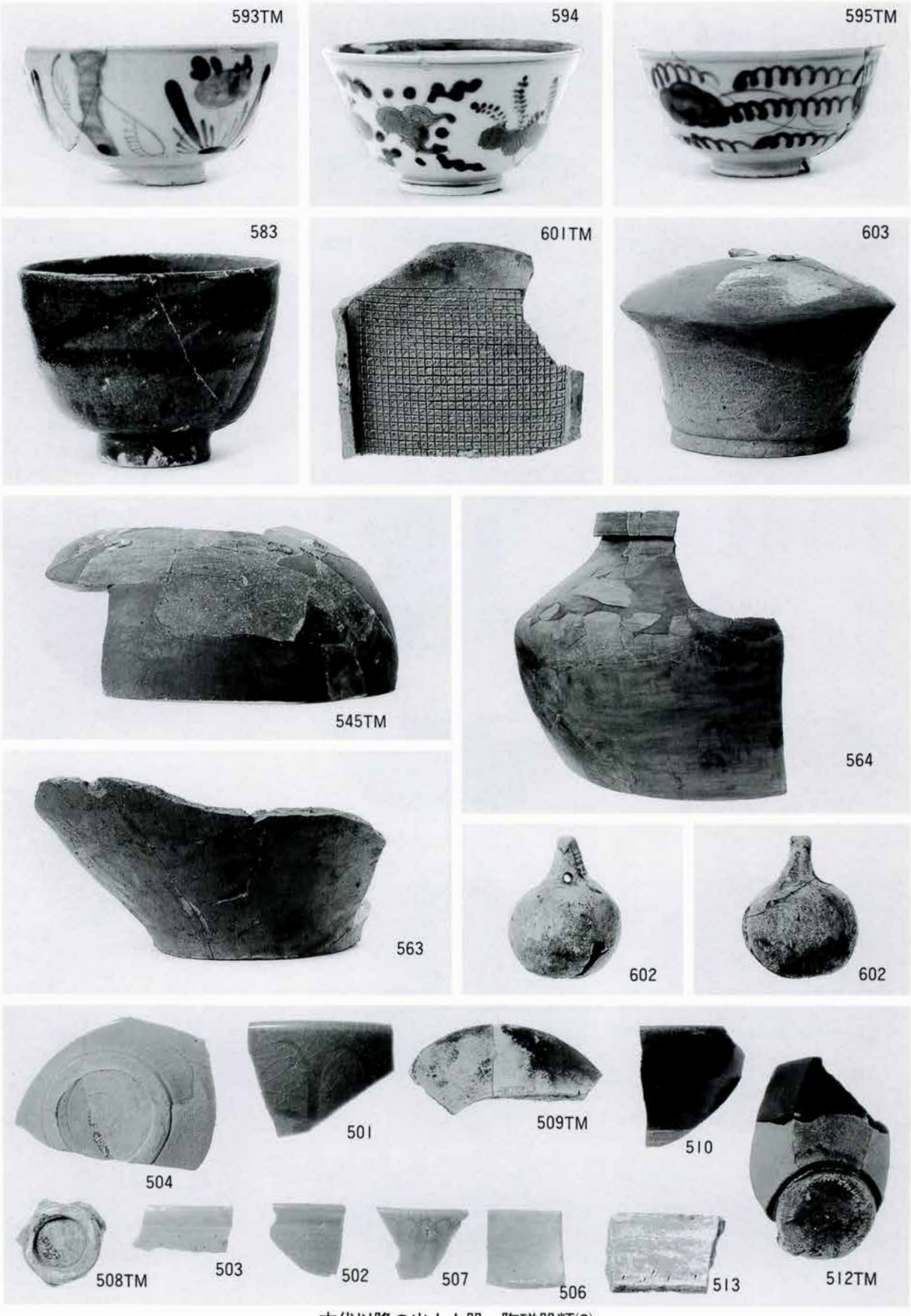
528

565

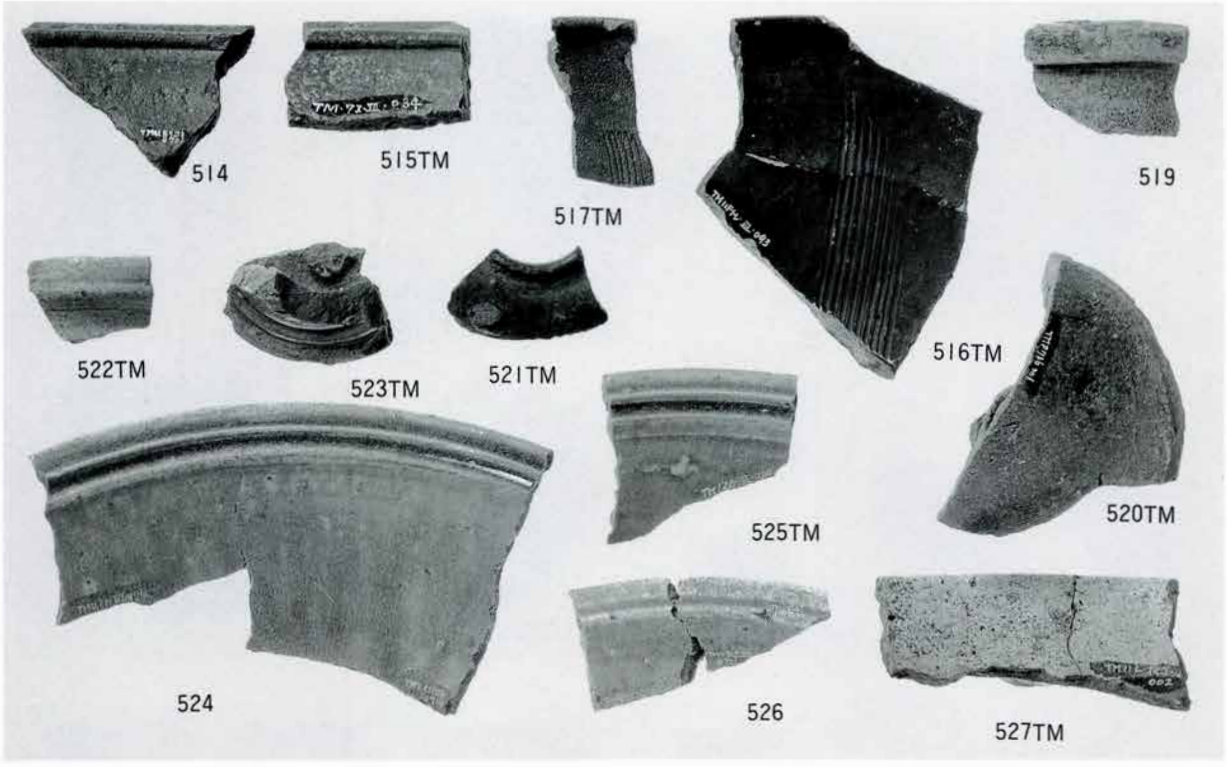
567

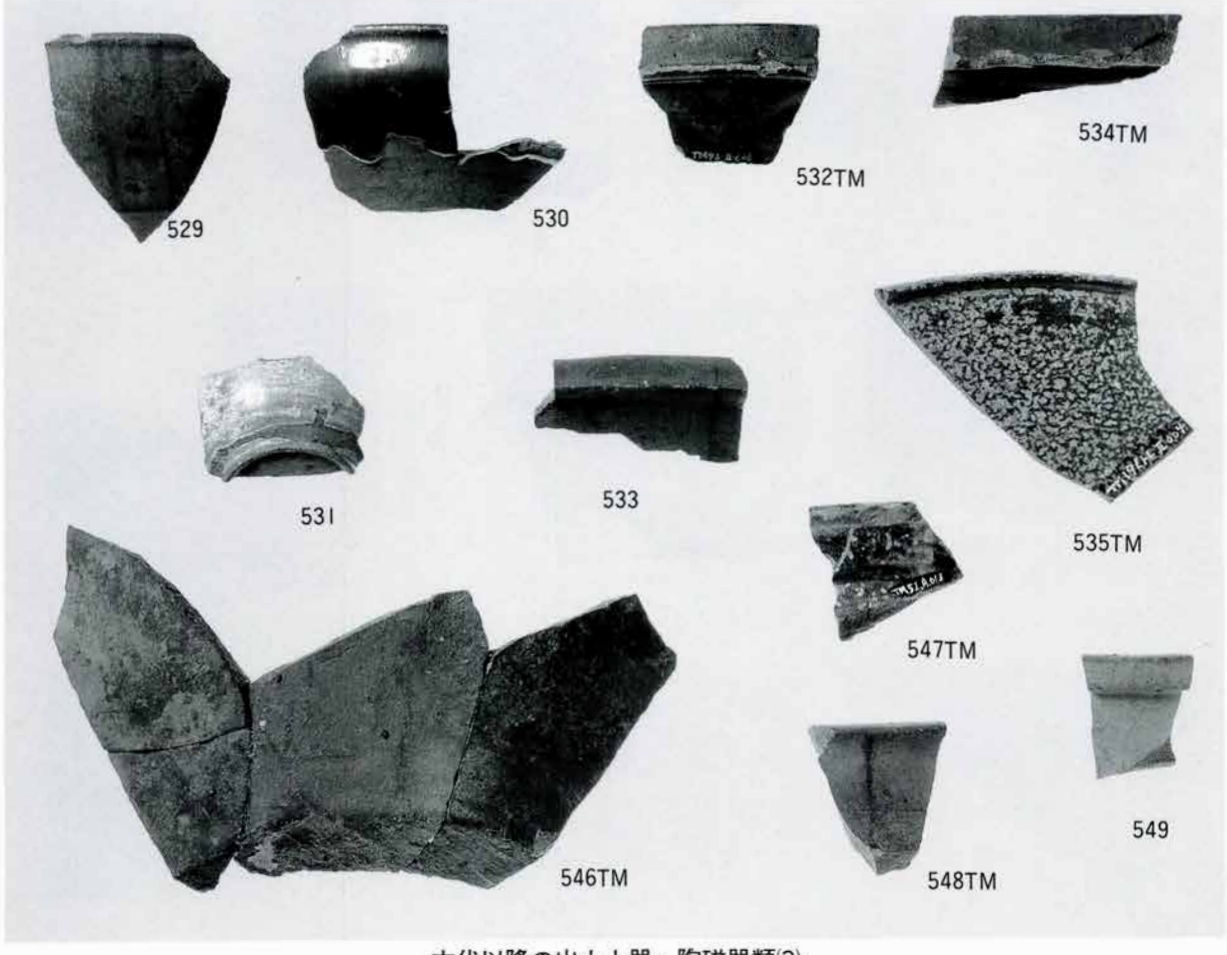
古代以降の出土土器・陶磁器類(1)

図版66



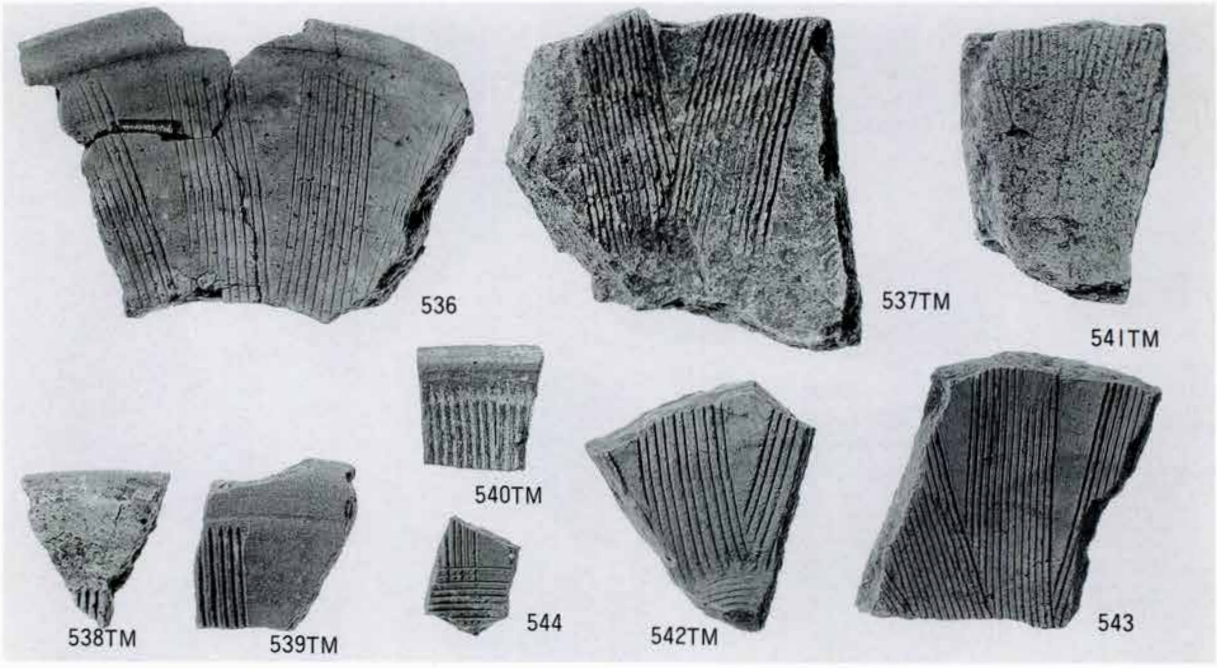
古代以降の出土土器・陶磁器類(2)

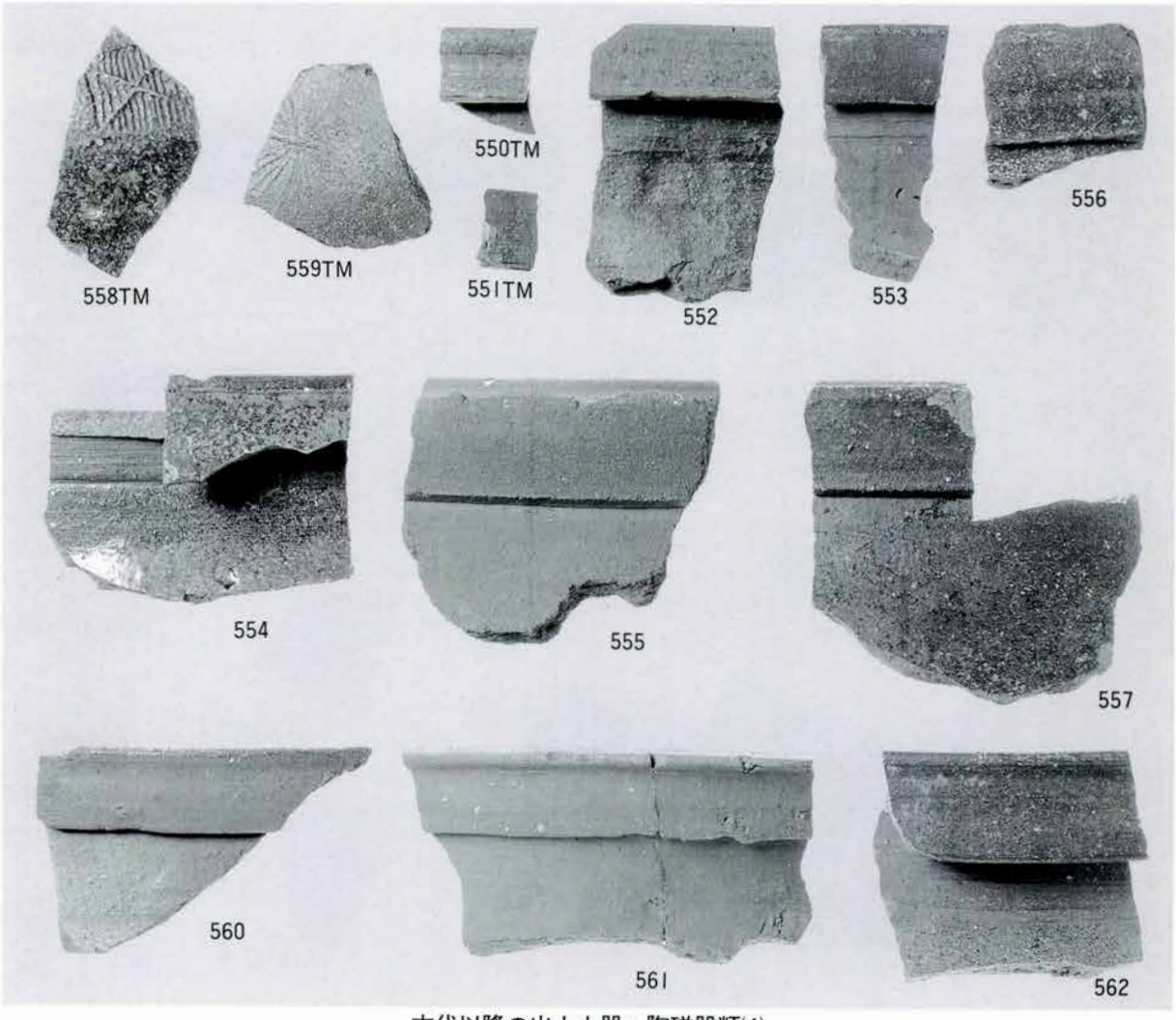




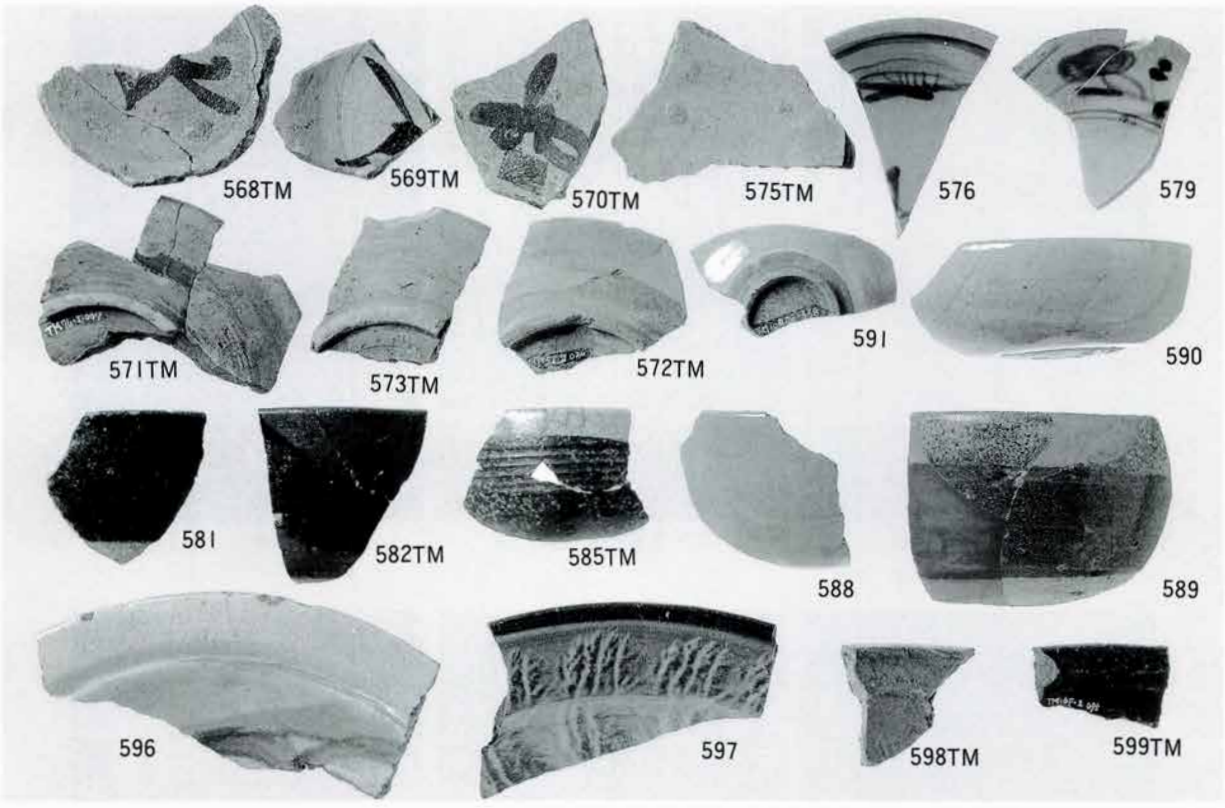
古代以降の出土土器・陶磁器類(3)

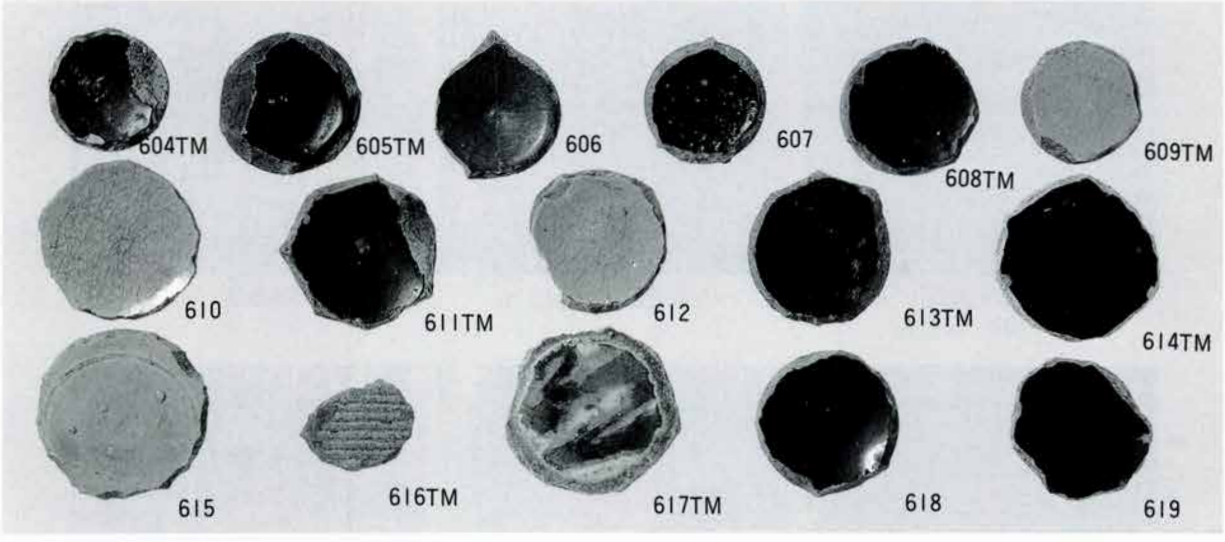
図版68

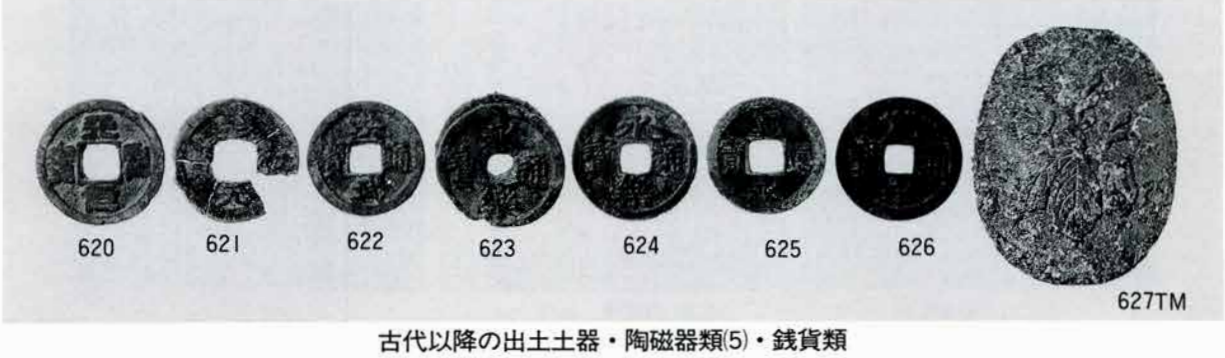




古代以降の出土土器・陶磁器類(4)

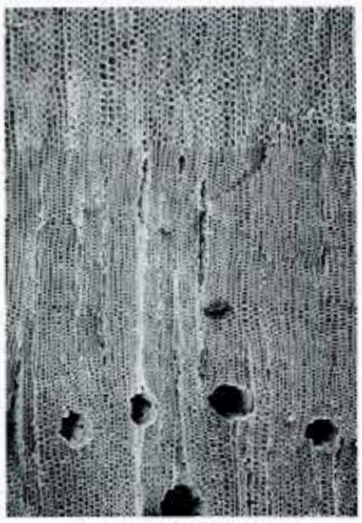






古代以降の出土土器・陶磁器類(5)・銭貨類

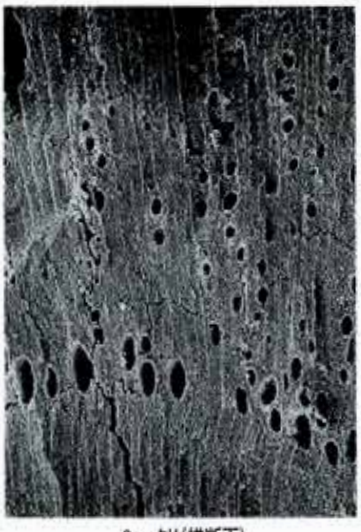
図版70



1a. マツ属維管束亜属(横断面)
SB07 bar:0.5mm

1b. 同(接線断面) bar:0.1mm

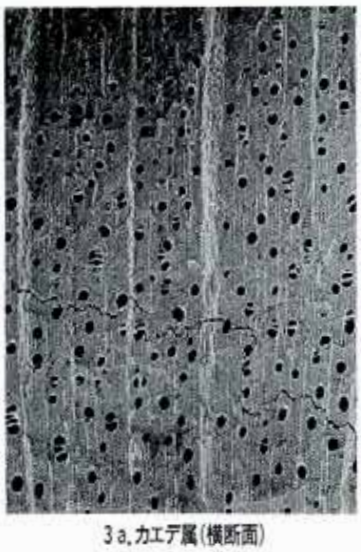
1c. 同(放射断面) bar:0.05mm



2a. クリ(横断面)
SB16 bar:0.5mm

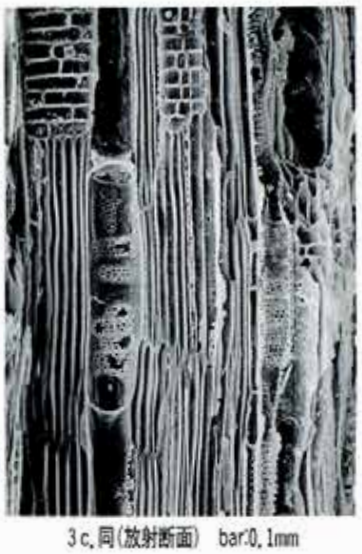
2b. 同(接線断面) bar:0.1mm

2c. 同(放射断面) bar:0.1mm



3a. カエデ属(横断面)
SB14 bar:0.5mm

3b. 同(接線断面) bar:0.1mm



3c. 同(放射断面) bar:0.1mm

戸入村平遺跡II出土炭化材樹種

報告書抄録

ふりがな	とにゅうむらだいらいせきII
書名	戸入村平遺跡 II
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書
シリーズ番号	第64集
編著者名	坂東　肇、青木健太郎、小野木　学、藤根　久、山形秀樹、植田弥生
編集機関	財団法人　岐阜県文化財保護センター
所在地	〒502－0003　岐阜県岐阜市三田洞東1丁目26番地の1　TEL　058－237－8550
発行年月日	西暦　2000年　12月　25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間 調査面積	調査原因
とにゅうむらだいら 戸入村平 いせき 遺跡	ぎふけんいびぐん 岐阜県揖斐郡 ふじはしむらおおあざ 藤橋村大字 とにゅうあざむらのうち 戸入字村ノ内2	21407	06372	35° 40′ 42″	136° 26′ 32″	19980601 ～ 19981130 1,500m²	徳山ダム建設事業に伴う
こたんどいせき 小谷戸遺跡	ぎふけんいびぐん 岐阜県揖斐郡 ふじはしむらおおあざ 藤橋村大字 とにゅうあざこたんど 戸入字小谷戸	21407	08720	35° 40′ 42″	136° 26′ 45″	19980601 ～ 19980630 2,344m²	徳山ダム建設事業に伴う

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
戸入村平遺跡	集落	縄文時代 中期 後期 晩期 室町～ 江戸時代	住居跡　10軒 竪穴状遺構1 埋甕・埋設土器 5基 ピット・土坑 529基	縄文土器 106,915点 石器 6,949点 その他 806点 合計 114,670点	・縄文時代中期の住居跡が、前回調査と合わせて18軒となり、全体像が解明された。 ・中期後半の多くの土器が完形に近い形で復原された。
小谷戸遺跡	散布地	縄文時代 早期 中期	集石遺構　1基	縄文土器 96点 石器　90点 合計　186点	・縄文時代早期の集石遺構が検出された。

岐阜県文化財保護センター調査報告書　第64集

戸入村平遺跡 II
小谷戸遺跡

2000年12月25日

編集・発行　財団法人　岐阜県文化財保護センター

岐阜県岐阜市三田洞東１－26－１

印　　刷　サンメッセ株式会社